文部科学省認可通信教育

ひとに学び ひとに生かす
神戸親和女子大学

2022 学習の手引き

テキスト履修科目編

KOBE SHINWA WOMEN'S UNIVERSITY

ひとに学び ひとに生かす
神戸親和女子大学
KOBE SHINWA WOMEN'S UNIVERSITY
通信教育部

『学習の手引き 2022 』の「テキスト履修科目編」と「スクーリング履修科目編」の分冊について

『学習の手引き』は、「テキスト履修科目編」と「スクーリング履修科目編」に分冊しています。分冊にあたり、下記内容について注意してください。

❶. テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞〔例：児童教育学科専門教育科目群「体育」、福祉臨床学科専門教育科目群「人体の構造と機能及び疾病」など〕については、テキスト履修科目分とスクーリング履修科目分をそれぞれ冊子を分けて掲載しています。レポート作成・提出、科目修了試験受験、スクーリング受講の際には、該当の『学習の手引き』を必ず確認してください。

❷. 実習科目については、「テキスト履修科目編」に掲載しています。ただし、スクーリング履修科目である「教育実習事前・事後指導（初等）」「特別支援学校教育実習事前事後指導」「保育実習指導ＩＡ（保育所）」「保育実習指導Ⅱ（保育所）」「保育実習指導ＩＢ（施設）」「相談援助実習指導Ⅱ」は、「スクーリング履修科目編」に掲載していますので注意してください。

＜10月入学生への「学習の手引き」配付について＞

10月入学生には、『学習の手引き2022 テキスト履修科目編』（レポート課題有効期限：2022年10月～2023年10月レポート提出受付期間。詳しくは、『親和通信』にて連絡。）を2022年９月（予定）に配付します。2022年４月～2023年２月開講のスクーリング履修科目については、『学習の手引き2022　スクーリング履修科目編』掲載の内容となります。なお、2023年４月～2024年２月開講分の『学習の手引き2023 スクーリング履修科目編』は2023年３月（予定）に配付します。

テキスト購入の際は、「テキスト購入について」（はじめにXII）を確認してください。

レポート作成時および提出時のチェックポイント

◆レポート作成・提出の際は、次のチェックポイントに注意してください。

レポート作成時

【＜共通＞自筆の場合、ワープロソフト使用の場合】

□ 最新の「学習の手引き テキスト履修科目編」掲載分の課題に対して作成した。
□ 2,000 字程度＜自筆の場合は、本学所定レポート用紙 5 枚程度＞で作成した。（※担当教員から指定がある場合は従う。）
□ レポート本文には、枚数がわかるようにページ番号を記入した。
□ 基本的な原稿用紙の使い方（段落の初めは 1 字下げるなど）で作成し、段落は適切にとった。
□ 句読点（「、」「。」）を適切に打った。
□ 常体（「だ・である調」）で作成した。
□ 誤字や脱字がないことを確認した。
□ 引用文がある場合は、「　」でくくり、そのあとに注番号を打ち、引用文出典（著者名、『書名』、出版社名、出版年、引用ページ）を明示した。（※担当教員から指定がある場合は従う。）

＜自筆の場合＞
レポート用紙下欄に引用文出典（著者名、『書名』、出版社名、出版年、引用ページ）を明示した。

＜ワープロソフト使用の場合＞
文末（最終ページ）に引用文出典（著者名、『書名』、出版社名、出版年、引用ページ）を明示した。

□ 参考文献がある場合（引用ではなく）は、文末（最終ページ）に著者名、『書名』、出版社名、出版年を挙げた。（※担当教員から指定がある場合は従う。）

【自筆の場合】

□ レポート用紙はタテ型で横書きにした。（※担当教員から指定がある場合は従う。）
□ 黒インクのボールペンまたはペンで記入した。（※消せるボールペン使用不可。）
□ 他人が読むことを意識して丁寧に記入した。

【ワープロソフト使用の場合】

□ 指定様式（用紙、用紙サイズ、書字方向、フォント、文字サイズ、文字数、1 行の文字数、1 ページの行数、余白（上、下、左、右）、ヘッダー、フッター）のとおりに作成した。

レポート提出時　【＜共通＞自筆の場合、ワープロソフト使用の場合】

□ レポート表紙は黒インクのボールペン又はペンで記入（※消せるボールペン使用不可。）し、報告課題評価票は鉛筆で記入した。
□ 報告課題評価票、レポート表紙、レポート本文の科目名や課題番号はすべて間違いない（不一致が無い）ことを確認した。
□ 上から、報告課題評価票、レポート表紙、レポート本文の順にホッチキス留め（3 か所）した。
□ 再提出の場合は、レポート表紙に「作成にあたって前回より注意した点」を記入し、不合格となったレポートを添付（クリップ等でまとめる）した。（※再提出分も最新の「学習の手引き テキスト履修科目編」掲載分の課題に対して記入する。）

目　　次

はじめに…… 2

Ⅰ 『学習の手引き テキスト履修科目編』について

Ⅱ レポート作成について

Ⅲ レポート作成時・提出時の注意

Ⅳ 不合格となった場合のレポート再提出

Ⅴ 科目修了試験の受験資格・単位修得について

Ⅵ レポートの提出受付期間と科目修了試験受験申請について

Ⅶ 2021年度科目修了試験について

Ⅷ 気象警報等発表時などの科目修了試験の取り扱いについて

Ⅸ 科目修了試験解答について

Ⅹ レポート課題の有効期限について<正科生・課程正科生が継続履修する場合>

Ⅺ カリキュラム改正に伴う開講科目名の変更および科目の読み替えについて

Ⅻ テキスト購入について

ⅩⅢ 参考文献について

ⅩⅣ 学習における不正な行為、不適切な学習態度に対する懲戒処分等について

ⅩⅤ 単位数と必要な学習時間について

ⅩⅥ テキスト履修科目 学習の流れ

ⅩⅦ カリキュラムマップ

科目別索引（五十音順）…… 22

共通教育科目群…… 25

児童教育学科専門教育科目群…… 73

福祉臨床学科専門教育科目群…… 273

幼稚園教諭・保育士特例制度科目…… 357

・様式

「音楽」「子どもと音楽表現」用五線紙

テキスト購入FAX（郵送）申込書

はじめに

Ⅰ『学習の手引き テキスト履修科目編』について

『学習の手引き テキスト履修科目編』には、テキスト履修科目を共通教育科目群、児童教育学科専門教育科目群、福祉臨床学科専門教育科目群、特例制度（幼稚園教諭免許状取得）、特例制度（保育士資格取得）に分け、科目コード順に掲載しています。

テキスト履修科目は、科目ごとに設定されたすべて（単位数分）のレポート課題についてレポートを作成・提出・合格し、その科目の科目修了試験に合格することにより単位を修得することができます。なお、**当該科目の最終評価は、科目修了試験の結果（成績）での評価となります。（※レポート評価は、最終評価には影響しません。）**科目修了試験を受験するには、申請が必要です。申請方法等については、『学生要覧』、『親和通信』で確認してください。

本冊子には、テキスト、科目の目的、到達目標、学習テーマ、ワープロソフト使用の可否、レポート課題、課題の留意点、レポートの評価基準、科目修了試験「答案」作成の留意点、科目修了試験の評価基準、参考文献等を記載しています。テキストを熟読し、内容を十分理解するとともに、レポート課題の趣旨をよく理解したうえで、課題の留意点やレポートの評価基準等を参考に、レポート作成に取り組むようにしてください。

Ⅱ レポート作成について（1単位につき1課題・1課題につき2,000字程度<ワープロソフト使用または自筆>）

課題レポートの作成・提出は、通信教育の根幹となる学習方法です。テキストや参考文献等を熟読しながら、課題に対してレポートを作成します。作成したレポートは、本学通信教育部事務室宛に本学所定のレポート提出用封筒で送付し、担当教員による添削指導および評価を受けます。

テキストによる学習の状況を課題レポートの提出により担当教員に報告し、担当教員からその内容を評価・添削され、その後の学習の進め方などをアドバイスされることにより、科目修了試験に向けて学習を深めていくことになります。

テキストの学習を進めてレポートを作成していくうえで、学習内容について理解できない時は、**「質問票」**（『親和通信』巻末様式）に必要事項を記入して通信教育部事務室にFAX送信または郵送してください。1週間程度で担当教員が回答します。質問は学習内容に関する事柄で、科目名、テキスト等掲載ページや内容を記入して、質問の意図が明確になるようにしてください。

以下、本学通信教育部のレポートに要求されていることを説明します。

1．レポート作成の基本

レポートは、テキストや参考文献等を読んで学んだことを課題について作成し、担当教員に報告するものです。まずは当該科目の課題（本冊子掲載）を理解したうえで、テキストの内容を自分のことばで要約して、課題の趣旨に沿って自分で考え（考察し）て論理的にまとめることが必要になります。自分が理解したことを第三者にも不足なく伝わるようにまとめることが、何よりも大切になります。

テキストを丸写ししたり、書き直したり、十分にテキストを読まずに、ただ自分の実体験や感想をまとめただけのレポートでは、合格評価を得ることはできません。レポートは、自分の主観を述べるものでも、感想文でもなく、課題に対して体系立てて論述しなければなりません。このことは、学習の成果をまとめるレポートとしては、必要最低限のことになります。大切なことは、**テキストの内容を理解**したうえで、自分なりに考察などを加えることです。

テキストや参考文献等を読むことによって得た知識や考え方などを通して、自分の考えをまとめ、第三者に伝わるように論理的で説得力のある文章で表現することが、レポート作成の基本となります。

本学では、**1単位につき1課題・1課題につき2,000字程度<ワープロソフト使用または自筆（ペン書き）[自筆の場合は、本学所定レポート用紙5枚程度]>で作成**します。（※ワープロソフト使用の可否については、本冊子で担当教員が指定。）

なお、**通信教育部事務室に届いたレポートが下記に該当する場合は、受付せずに返送**します。

- 極端な文字数不足のレポート
- レポート課題に関して白紙に等しいとみなされる（課題に対して記述していないなど）レポート
- [ワープロソフト使用の場合] 指定された様式で作成されていないレポート

2．作成の手順

①下書きをする

レポートを作成する際には、テキストを読んだ際に大切だと感じた箇所に下線を引いたり、ノートやカードにポイントになる箇所を書き写したりして、それらを基にどのようなことをどういう順序でレポートにするのかを考えてみてください。そして、考えがまとまってきたら、**下書き**をするようにしてください。下書きをする方が、最終的には効率良くレポートが作成できることになります。

②レポートの構成

レポートでは、「序論－本論－結論」の構成が一般的となります。

「序論」では、これからレポートで述べようとすることを書きます。

「本論」は、課題に対する解答やその理由を述べていくレポートの中心部分となります。

「結論」では、全体をまとめたり、このレポート課題を通じてわかったことや今後の課題などをまとめます。

また、レポート作成の際に引用（他人の文章、他人の説や事例などを自分の文章の中に引いて説明に用いること。）する場合は、**必ず引用であることが分かるように**該当箇所を**「　」でくくり**、出典（著者名・書名・出版社名、出版年、引用ページ等）を明示してください。**引用について明示されていない場合は、剽窃・盗用**となります。

レポートの書き方の注意事項

（1）文体

すべて「である」調とする。（「です」「ます」調は用いない。）

（2）段落

行頭１マス空けて記入する。５～６行に1回段落をとる。（1ページにつき4つぐらいの段落をとる。）

（3）疑問符、感嘆符、句点、読点

文末に疑問符（？）や感嘆符（！）をつける場合、その後は、１マス空けて文章を続ける。

また、句点(。)、読点(、)は、１文字扱いとする。

（4）引用

引用文は必ず「　」でくくり、そのあとに注番号を打ち、引用文出典を明示する。

（脚注例）

○本文中

「ところで今日の社会福祉の動向は、少子・高齢社会、緊縮財政のもとで利用者の負担が年々増加している」（1）

○出典明示［ワープロソフト使用の場合は、文末（最終ページ）に明示。自筆の場合は、レポート用紙下欄に明示。］

注（1）親和通男『○○○入門』　△△社　2009年　60ページ

なお、要約の場合は「　」でくくらない。文末に引用文と同様に注番号を打ち、要約であることを明記する。

○要約文献明示［ワープロソフト使用の場合は、文末（最終ページ）に明示。自筆の場合は、レポート用紙下欄に明示。※要約の場合は　参照　と入れるところが引用と異なる。］

（2）参照　著者名、『書名』、出版社名、出版年、ページ数。

（5）参考文献

文末（最終ページ）に参考文献をまとめて挙げる。

＜注意：剽窃・盗用について＞

次のような場合が、**剽窃・盗用**になります。

○第三者が作成した文章や資料・データ等について、出典を明示せずにそのまま用いたり、前後の関係や語句を一部変えただけで自分が作成したレポートとして提出すること。

○第三者が作成したレポート等を入手（友人・知人から借りる、インターネットで公開されているものを写すなど）し、自分が作成したレポートとして提出すること。または、第三者が作成したレポートの前後関係や語句を一部変えただけで自分が作成したレポートとして提出すること。

＜注意：レポート作成について＞

レポート作成の際には、課題の趣旨に関係のない**個人的な事情（例：不合格になったら…。）や成績等について配慮を求めるような内容は、一切記入しないでください。また、レポートに手紙を添えるなど、レポート以外のものを同封することもしないでください。**

Ⅲ レポート作成時・提出時の注意

1．レポートの課題と文字数について

各科目のレポート課題は、本冊子の「レポート課題」欄に掲載していますので、「課題の留意点」、「レポートの評価基準」などをよく読んでからレポート作成に取り掛かってください。**レポートは、1課題（1単位分）2,000字程度でまとめてください。**（科目によっては、作成にあたっての指示がある場合があります。「課題の留意点」等で確認してください。）

レポート課題は、科目の単位数に応じて課題数が決められています。例えば、2単位の科目は2つの課題レポートを作成、提出しなければなりません。

また、レポートの提出要領を定めていますので、後述の要領に従って提出してください。

2．レポート作成について

ワープロソフト使用が認められた場合のレポート作成

本冊子で担当教員の指示のある科目については、ワープロソフト（Word等）での作成によるプリントアウト分の提出を認めます。

担当教員がワープロソフト（Word等）での作成によるプリントアウト分の提出を認める場合は、『ワープロソフト使用可』と記載があります。（※『ワープロソフト使用可』の場合は、ワープロソフト（Word等）での作成、本人自筆での作成のどちらも可能となります。『ワープロソフト使用不可』の場合は、本人自筆による作成（本学所定レポート用紙使用・ペン書き）のみとなります。）

なお、ワープロソフト（Word等）での作成の場合のレポート様式については、**【下表】**のとおり指定します。必ず指定された様式で作成してください。

指定された様式で作成されていない場合、または『ワープロソフト使用不可』の課題をワープロソフトでの作成によるプリントアウト分で提出した場合は、レポート受付をせずに返送しますので注意してください。

用紙・用紙サイズ		A4（市販のコピー用紙・縦型・片面のみ使用） **（※両面印刷不可・裏紙の使用不可）**	
書字方向		横書き	
フォント		明朝体	
文字サイズ		10.5ポイント	
文字数		2,000字程度 ※図表を中心とする課題の場合は、A4用紙5枚程度とする。	
1行の文字数		40文字	レポート様式の設定方法（パソコンの「Word」を使用）については、『学生要覧』（第1章　Ⅳ）を参照してください。
1ページの行数		30行	
余白	上	25mm	
	下	25mm	
	左	30mm	
	右	30mm	
ヘッダー		10mm	
フッター		10mm　※ページ番号を付ける。	
引用文献、参考文献記載箇所		文末（最終ページ）に記載（文末脚注）	

※「報告課題評価票」と「レポート表紙」については、本人自筆による作成及びホッチキス留めが必要です。

また、レポート提出時には所定の「レポート提出用封筒」を使用してください。

自筆でのレポート作成

本冊子で担当教員が『ワープロソフト使用不可』と指定した場合は、本人自筆による作成のみとなります。
自筆でのレポート作成の場合は、次の要領で作成してください。

①筆記具について

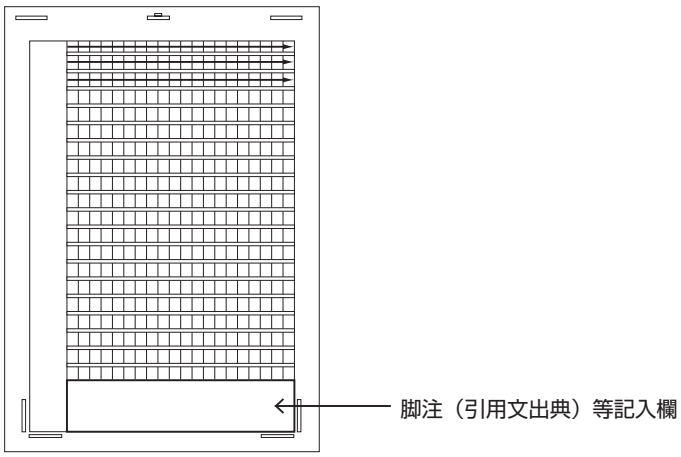
レポート記述は、**黒インクペンまたは黒ボールペンを使用のうえ、本人自筆**に限ります。
＜※消せるボールペン・鉛筆使用不可＞

②レポート用紙について

レポート用紙は、本学所定用紙（400字詰／タテ型横書き）を使用してください。本学所定のレポート用紙は、コピー使用不可です。

③レポート本体の様式

本学所定レポート用紙
（400字詰／タテ型横書き）



◎本学所定のレポート用紙、報告課題評価票、レポート表紙、レポート提出用封筒を購入する場合は、所定の申込用紙（『親和通信』巻末様式）で通信教育部事務室へ郵便で申し込んでください。
（金額については、下表参照。）

種　類		金額（円）	申込方法	備　考
3種セット	レポート用紙（30枚） 報告課題評価票（6枚） レポート表紙（6枚）	250	所定申込書に必要分の手数料（切手、郵便小為替または現金＜現金を郵送する場合は現金書留を利用＞）を添えて申込（返信用封筒不要） ※郵送の場合は、いずれもお釣りをお返しできません。また、通信教育部事務室での授受の場合でも現金以外はお釣りをお返しできません。お釣りがないように注意してください。	通信教育部事務室窓口でも購入可能
2種セット	報告課題評価票（6枚） レポート表紙（6枚）	150		
レポート用紙（30枚/１セット）		150		
レポート提出用封筒（6枚/１セット）		150		
報告課題評価票（6枚/１セット）		150		
レポート表紙（6枚/ １セット）		50		

3．レポート表紙について

完成したレポートには、課題ごとに**本学所定の「レポート表紙」**を作成して付けてください。「レポート表紙」の記述は、**黒インクペンまたは黒ボールペンを使用のうえ、本人自筆**に限ります。＜※消せるボールペン・鉛筆使用不可＞）

右図の項目「提出年度」（課題を掲載している『学習の手引き テキスト履修科目編』の年度、本冊子掲載課題については“2022”と記入）、「入学時期」（4月又は10月）、「科目名」、「第○課題」、「単位数」、「課題（提出する課題の全文）」、及び「学籍番号（科目等履修生番号）」、「氏名」、**再提出の場合**は前回より改善した点などを記入し、後述する「報告課題評価票」とあわせてレポート本文にホッチキスで留めてください。（※レポート再提出についての要領は、p.9参照。）

「レポート表紙」は、本学所定用紙を使用してください。本学所定の「レポート表紙」を購入する場合は、所定の申込用紙（『親和通信』巻末様式）で通信教育部事務室へ郵便で申し込んでください。また、「親和deネット」からダウンロード可、コピー可です。下記の＜「レポート表紙」について＞も参照してください。

＜「レポート表紙」について＞

「レポート表紙」は、1セット（6枚）50円で購入できます。また、「報告課題評価票」や「レポート用紙」とセットで購入（2種または3種セット）することもできます。

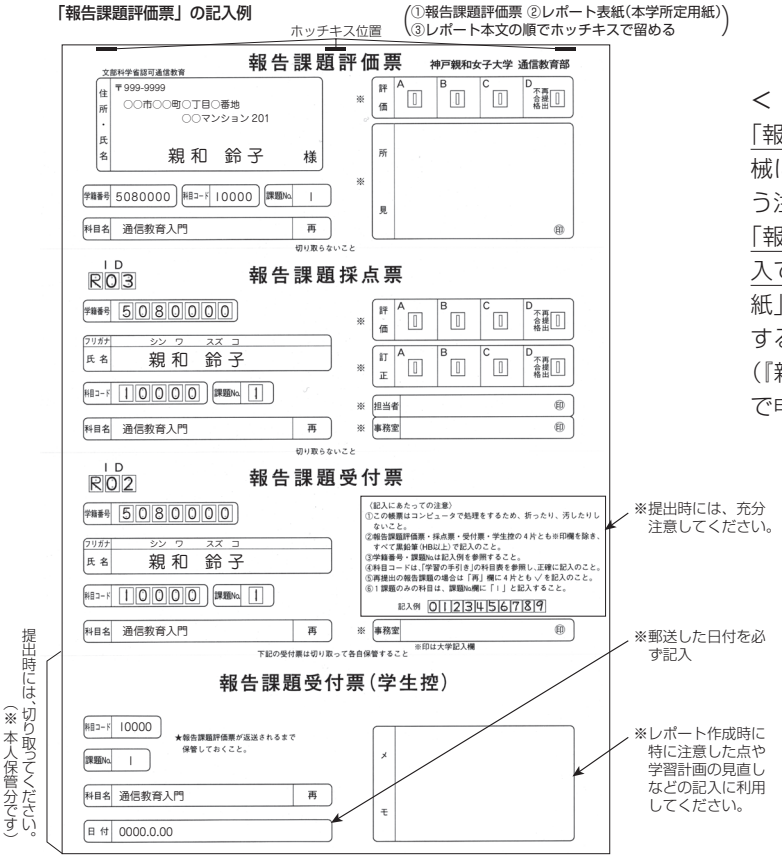


※再提出の場合は、「☑再提出」とし、「作成にあたって前回より注意した点」を必ず記入。また、不合格になったレポートを必ず添付。なお、添付する際は、新規提出分の後に返却された状態の不合格レポートをホッチキスやクリップ等でまとめてください。

4．報告課題評価票（コンピュータ用紙）について

課題ごとに作成したレポート本文と「レポート表紙」の上には、さらに**「報告課題評価票」**に必要事項を正確に記入し、付けてください。

「報告課題評価票」は、「報告課題評価票」「報告課題採点票」「報告課題受付票」「報告課題受付票（学生控）」が連票になっています。**「報告課題評価票」記入については、本人自筆で鉛筆を使用**してください。科目コードは本冊子を参照（科目名の前の5桁の数字）のうえ、正しく記入してください。



＜「報告課題評価票」について＞

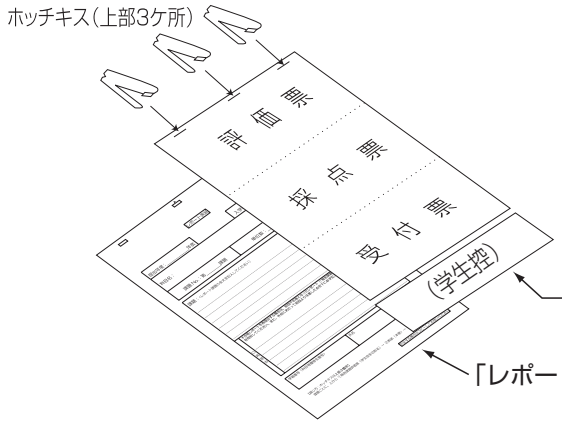
「報告課題評価票」は、コピー使用不可です。直接機械にかけるため、折り曲げたり、汚したりしないよう注意してください。

「報告課題評価票」は、1セット（6枚）150円で購入できます。また、「レポート表紙」や「レポート用紙」とセットで購入（2種セットまたは3種セット）することもできます。購入の際は、所定の申込用紙（『親和通信』巻末様式）で通信教育部事務室へ郵便で申し込んでください。

5．レポートの郵送（提出）方法について

レポートを郵送（提出）する際には、下図のとおり「報告課題評価票」→「レポート表紙」（本学所定用紙）→「レポート本文」の順に**科目ごと、課題ごと**にホッチキス留め（上部3ケ所）し、本学所定のレポート提出用封筒を使用して郵送（提出）してください。

①「報告課題評価票」の向き



※「報告課題評価票」「レポート表紙」の下に、科目ごと、課題ごとに「レポート本文」を付けてホッチキス留めしてください。
※「報告課題評価票」に記入した「科目名」や「課題 NO.」と提出する「レポート本文」の内容が合っているかを必ず確認してください。

＜提出上の注意事項＞

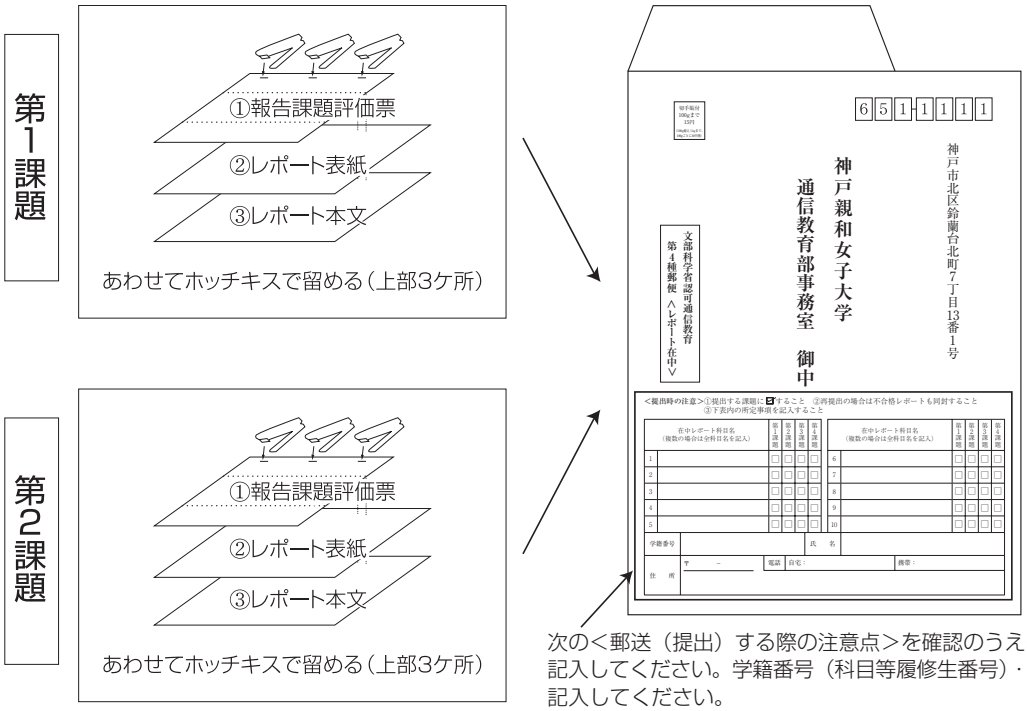
レポートは、次の要領で提出してください。

1）**科目ごと、課題ごとに**「報告課題評価票」に必要事項を正確に記入し、付けてください。
2）**科目ごと、課題ごとに**「レポート表紙」（本学所定用紙）に必要事項を記入し、付けてください。
3）**科目ごと、課題ごとに、**上から①「報告課題評価票」→②「レポート表紙」（本学所定用紙）→③「レポート本文」の順にホッチキスで留めてください。
4）**「報告課題受付票」（学生控）**は、郵送した日付やメモ書きなどを記入し、必ず切り取って本人の控としてレポートが返却されるまで保管してください。

以上の提出条件を満たしていない場合は、受付せずに返送しますので提出したことにはなりません。返送されたレポートは、翌月以降のレポート提出受付期間内に提出要領に則して、あらためて提出しなければなりません。

②**提出の基本様式**（下図は複数課題をまとめて提出する場合です。封入する課題数に制限はありませんが、上の＜**提出上の注意事項**＞を順守して提出してください。）

●「レポート提出用封筒」の様式（表面記入欄）について



次の＜郵送（提出）する際の注意点＞を確認のうえ、必要事項をもれなく記入してください。学籍番号（科目等履修生番号）・氏名・住所なども必ず記入してください。

＜郵送（提出）する際の注意点＞

1）**レポート以外の手紙や文書を同封しないでください。**
2）レポート提出用封筒（表面記入欄）には、提出するレポートのすべての「科目名」とその課題に☑を記入してください。
3）レポート提出時には、**スクーリング申請票や科目修了試験受験申請票などは、同封しない**でください。（同封についての指示がある場合を除く。）
4）ホッチキス（上部3ケ所）は**科目ごと、課題ごと**に留めてください。
5）返信用封筒は必要ありません。
6）郵便料金については、次の第4種郵便料金表を参照してください。

【第4種郵便物の料金表（2021年12月末現在）】
100gまで15円。100gを超えるものは100g超過ごとに10円を加算してください。

重　量	料　金
100gまで	15円
200gまで	25円
300gまで	35円

重　量	料　金
400gまで	45円
⋮	⋮
1kgまで	105円

6．レポートの返却について

レポートの添削・採点および返却には、日数を要します。返却日の目安は、**提出期限締切後、約1ヵ月半（提出月の翌月末頃）**になります。2月および8月に提出したレポートについては、翌々月の上旬の返却となります。（詳しくは、『親和通信』でお知らせします。）ただし、担当教員の添削等の関係（提出レポートが多いなどの理由）で返却が遅れる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

7．下書き（コピー）の保管について

添削・評価済レポートが返却されるまで、提出したレポートの下書きまたはコピーを必ず保管しておいてください。

8．資料・図表など添付する場合について

資料や図表は本文の文字数には算入できませんが、本冊子で担当教員から指示がある場合は、その指示に従ってください。

9．「質問票」の利用について

テキスト学習を進めてレポートを作成していくうえで、学習内容について理解できない時は、**「質問票」**（『親和通信』巻末様式）に必要事項を記入して通信教育部事務室にFAX送信または郵送してください。1週間程度で担当教員が回答します。質問は学習内容に関する事柄で、科目名、テキスト等掲載ページや内容を記入して、質問の意図が明確になるようにしてください。

＜注意：「質問票」の記入について＞

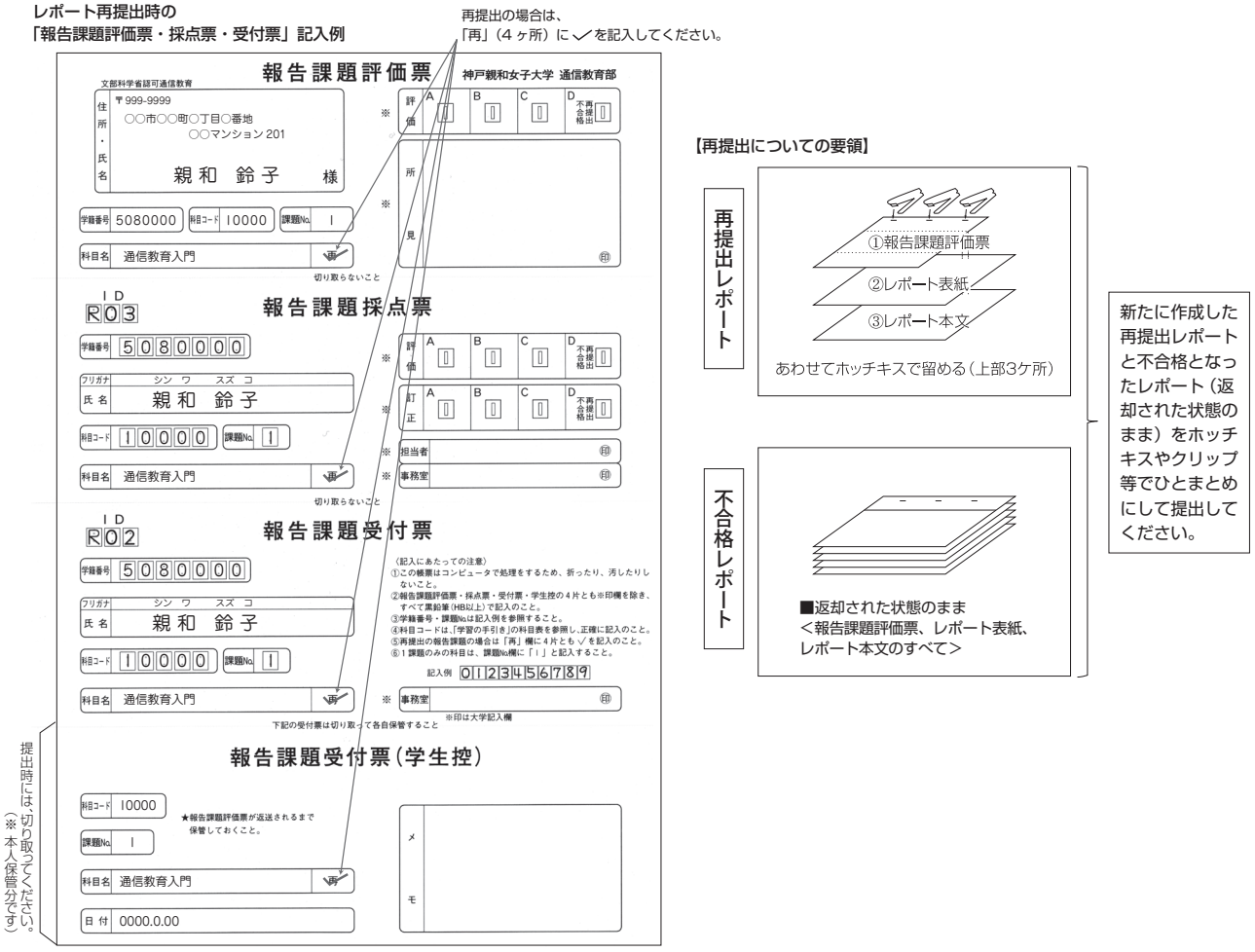
「質問票」には、**個人的な事情（例：不合格になったら…。）や成績等について配慮を求めるような内容は、一切記入しないでください。**

Ⅳ 不合格となった場合のレポート再提出

返却されたレポート（添削・評価済分）の評価が「D」（不合格）の場合、担当教員の所見、添削内容に従って、再度レポートを作成・提出し、合格しなければなりません。

1．再提出時の注意事項

再提出する場合は、不合格になったレポート（「報告課題評価票」が付いた状態）を添付（クリップ等でまとめる）し、再提出分「レポート表紙」の再提出欄に「✓」を記入し、「作成にあたって前回より注意した点（担当教員からの添削指導内容に従って、どのような点に注意して今回再提出分を作成したか）」を簡潔に記入してください。また、「報告課題評価票」の「再」欄に「✓」を記入し、その他は前述のレポート提出の要領に従ってください。（※不合格レポート（報告課題評価票が付いた状態）が添付（クリップ等でまとめる）されていない場合は、受付せずに返送します。返送されたレポートは、翌月以降のレポート提出受付期間内に提出要領に則して、あらためて再提出する必要があります。）



2．再提出レポート課題の有効期限

再提出が必要になったレポート課題の有効期限（「X.レポート課題の有効期限について」 参照）が切れた場合、再提出の際は、新しい課題での作成・提出となります。なお、課題が変わった場合でも、不合格になったレポートは必ず添付してください。

Ⅴ 科目修了試験の受験資格・単位修得について

テキスト履修科目の単位修得のためには、その科目のすべて（単位数分）の課題レポートと科目修了試験の両方が合格しなければなりません。科目修了試験を受験するには、受験申請期間以前のレポート提出受付期間に受験希望科目のすべて（単位数分）の課題レポートを提出している必要があります。

レポートが不合格になった場合は、科目修了試験が合格でも単位修得はできません。当該科目のすべて（単位数分）のレポートが合格するまで単位修得はできません。

なお、レポートの合格実績は、在学（在籍）期間中のみ有効です。

※卒業判定・実習受講資格判定や単位認定処理を受けるためには、当該科目のすべて（単位数分）の課題レポートと科目修了試験について、本学が定める**最終期限**までに、いずれも合格しなければなりません。**最終期限**については、『親和通信』でお知らせします。

Ⅵ レポートの提出受付期間と科目修了試験受験申請について

レポート提出については、提出受付期間を指定**【毎月1日～5日**<最終日消印有効>ただし、5日が土・日・祝の場合は、翌平日の消印有効**】**しています。**必ず、提出受付期間内に提出**してください。

郵便局の消印が提出受付期間外の場合、または提出受付期間外に**「通信教育部生専用ポスト」**（本学正門守衛室前）に投函された場合は、受け取らずに返送します（提出したことにはなりません）。返送されたレポートは、翌月以降の提出受付期間内に提出要領に即してあらためて提出しなければなりません。

なお、**科目修了試験を受験するには、受験希望試験日の受験申請期間までに、受験希望科目のすべて（単位数分）の課題レポートをレポート提出受付期間内に提出（本学受付済）して受験資格を得た後、指定申請期間内に受験申請する必要があります。**

レポート提出と科目修了試験受験（申請）は、密接に関係していますので、充分注意して学習計画を立てるようにしてください。[科目修了試験実施月の前月までのレポート提出受付期間に当該科目のすべて（単位数分）の課題レポートを提出してから、科目修了試験受験申請期間内に受験申請をする必要があります。（場合によっては、前々月までにレポート提出および受験申請をする必要があります。）]

科目修了試験受験申請方法については、『学生要覧』（第1章）を参照してください。

科目修了試験日程、当該試験日の受験資格を得るためのレポート提出受付最終期間、受験申請期間等については、『親和通信』でお知らせします。

※本学正門守衛室前の「通信教育部生専用ポスト」に提出する場合の注意事項

①郵送提出と同様に**レポート提出用封筒**に入れ、封をのりづけして、投函してください。（切手貼付不要）

②午前9時から午後5時までに投函されたものを当日（含む提出受付期間最終日）の提出分とします。

Ⅶ 2022年度科目修了試験について

本冊子の掲載内容から出題される科目修了試験は次のとおりです（2023年4月・5月は未定）。ただし、日程・試験会場に変更が生じることもありますので、あらかじめご了承ください。変更が生じた場合は、『親和通信』でお知らせします。学習年間計画を立てて、レポート提出・科目修了試験に臨んでください。（※下表の「試験日」が本学規定（気象警報等発表時など）により延期となった場合の予備日については『親和通信』でお知らせします。）

<table>
<tr><th></th><th>試験日</th><th>左欄「試験日」の
受験資格を得るための
レポート提出受付最終期間</th><th colspan="2">会　場</th><th>＜4月入学生＞
出題について</th><th>＜10月入学生＞
出題について</th></tr>
<tr><td>4月</td><td>4月10日</td><td>2/1 ～ 2/7</td><td>本学</td><td>—</td><td rowspan="2">『学習の手引き2021』
の掲載内容からの出題</td><td rowspan="5">『学習の手引き2021』
の掲載内容からの出題</td></tr>
<tr><td rowspan="2">5月</td><td>5月 8日</td><td>3/1 ～ 3/7</td><td>本学</td><td>—</td></tr>
<tr><td>5月22日</td><td>4/1 ～ 4/5</td><td>本学</td><td>—</td><td rowspan="11">『学習の手引き2022』
の掲載内容からの出題</td></tr>
<tr><td>6月</td><td>6月12日</td><td>5/1 ～ 5/6</td><td>本学</td><td>—</td></tr>
<tr><td>7月</td><td>7月 3日</td><td>6/1 ～ 6/6</td><td>本学</td><td>—</td></tr>
<tr><td>8月</td><td>8月14日</td><td>7/1 ～ 7/5</td><td>本学</td><td>大阪</td></tr>
<tr><td>9月</td><td colspan="3">—</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">10月</td><td>10月 9日</td><td>8/1 ～ 8/5</td><td>本学</td><td>—</td><td rowspan="6">『学習の手引き2022』
の掲載内容からの出題</td></tr>
<tr><td>10月23日</td><td>9/1 ～ 9/5</td><td>本学</td><td>—</td></tr>
<tr><td>11月</td><td>11月20日</td><td>10/1 ～ 10/5</td><td>本学</td><td>大阪</td></tr>
<tr><td>12月</td><td>12月18日</td><td>11/1 ～ 11/7</td><td>本学</td><td>—</td></tr>
<tr><td>1月</td><td>1月 8日</td><td>12/1 ～ 12/5</td><td>本学</td><td>岡山</td></tr>
<tr><td>2月</td><td>2月12日</td><td>1/1 ～ 1/5</td><td>本学</td><td>岡山</td></tr>
<tr><td>3月</td><td colspan="3">—</td><td></td></tr>
</table>

◎**レポート提出受付期間は、毎月1日～5日**（最終日消印有効※ただし、5日が土・日・祝の場合は、翌平日の消印有効）

Ⅷ 気象警報等発表時などの科目修了試験の取り扱いについて

「気象警報等発表時」または「災害等による交通機関途絶の場合」の科目修了試験の取り扱いについては、別に定めます。詳しくは、『学生要覧』（第7章）を参照してください。

Ⅸ 科目修了試験解答について

試験中は、テキスト、参考書、辞書等の参照は認められません。

科目修了試験解答用紙は、B4サイズで両面使用可です。片面には、約900字記入することができます。

科目修了試験解答の際には、設題の趣旨に関係のない**個人的な事情（例：不合格になったら…。）や成績等について配慮を求めるような内容は、一切記入しないでください。**

Ⅹ レポート課題の有効期限について<正科生・課程正科生が継続履修する場合>

本冊子掲載分のレポート課題には、**有効期限**があります。次のとおり4月入学生・10月入学生で異なりますので注意してください。有効期限を過ぎた課題で提出されたレポートは**無効**になります。なお、**レポート課題の有効期限と、卒業・修了・各実習判定を受けるためのレポート提出最終期限は異なります。各最終期限については、『親和通信』で確認してください。**

【4月入学生の場合】

①本冊子掲載分のレポート課題の有効期限は、2023年4月レポート提出受付期間までです。

②不合格になったレポートを2023年5月以降のレポート提出受付期間に再提出する場合は、『学習の手引き2023 テキスト履修科目編』（4月入学生には2023年3月配付予定）掲載のレポート課題によって提出することになります。

③すべて（単位数分）の課題をレポート課題の有効期限内に提出・合格できなかった場合の取り扱いは、次のとおりとなります。

（例）4課題の内3課題までは提出・合格、あと1課題が未提出または不合格で2023年4月のレポート提出受付期間までに提出できない場合

→未提出または不合格レポートは、『学習の手引き2023 テキスト履修科目編』掲載分のレポート課題によって2023年5月以降のレポート提出受付期間に提出。

なお、本冊子によりレポートを提出した科目の科目修了試験を2023年4月以降に受験する場合の本冊子掲載内容から出題される科目修了試験については、『親和通信』でお知らせしますのであらためて確認してください。

【10月入学生の場合】

①『学習の手引き2022　テキスト履修科目編』（10月入学生には2022年9月配付予定）掲載分のレポート課題の有効期限は、2023年10月のレポート提出受付期間までです。

②不合格になったレポートを2023年11月以降のレポート提出受付期間に再提出する場合は、『学習の手引き2023 テキスト履修科目編』（10月入学生には2023年9月配付予定）掲載のレポート課題によって提出することになります。

③すべて（単位数分）の課題をレポート課題の有効期限内に提出・合格できなかった場合の取り扱いは、次のとおりとなります。

（例）4課題の内3課題までは提出・合格、あと1課題が未提出または不合格で2023年10月のレポート提出期間までに提出できない場合

→未提出または不合格レポートは、『学習の手引き2023 テキスト履修科目編』掲載分のレポート課題によって2023年11月以降のレポート提出期間に提出。

なお、本冊子によりレポートを提出した科目の科目修了試験を2023年10月以降に受験する場合の本冊子掲載内容から出題される科目修了試験については、『親和通信』であらためて確認してください。

テキスト履修科目は、課題だけでなくテキストも変わる場合があります。本冊子記載のテキストを購入した場合は、レポート課題の有効期限内に当該科目のすべて（単位数分）の課題レポートを提出・合格、科目修了試験受験・合格して、単位を修得するようにしてください。

XI カリキュラム改正に伴う開講科目名の変更および科目の読み替えについて

カリキュラム改正が行われた場合、指定年度から新しい科目名での開講となります。科目の読み替え、レポート提出時・科目修了試験受験時の留意事項については、次のとおりです。これから履修する場合や継続履修科目の場合は、注意してください。対象科目については、科目別索引（p.21）の<注意：カリキュラム改正について>、『学生要覧』を参照してください。

①テキスト履修科目

カリキュラム改正後の新しい科目名でのレポート提出・合格と科目修了試験受験・合格によりカリキュラム改正前の旧科目の合格（単位修得）とします。（科目修了試験については、受験申請時は自身の入学時（旧科目）の科目名・科目コードによる申請となります。）

合格していないレポート課題については、カリキュラム改正後の新科目名分の課題で作成・提出してください。

なお、すでに合格したカリキュラム改正前の旧科目のレポートは、有効です。あらためて新科目のレポートを提出する必要はありません。

（例）　カリキュラム改正前（旧科目）の第１課題が合格していない場合

→カリキュラム改正後の新科目の第１課題

カリキュラム改正前（旧科目）の第２課題が合格していない場合

→カリキュラム改正後の新科目の第２課題

②スクーリング履修科目

カリキュラム改正後の新科目名で開講するスクーリングを受講・合格することにより、カリキュラム改正前の旧科目の合格（単位修得）とします。

③テキスト・スクーリング履修科目<併用科目>

上記の①と②の両方が合格することにより、カリキュラム改正前の旧科目の合格（単位修得）とします。（単位を分割して修得することはできません。）

Ⅻ テキスト購入について

テキストは、各自で必要分を実費購入することになります。テキストを購入する際は、それぞれの科目について本冊子のテキスト欄記載分を購入してください。テキストについては、2022年1月現在のものになっており、期中に新版が発行される場合がありますので、購入の際には**新版を購入**するようにしてください。

本学大学生協への注文の際は、本冊子巻末の「テキスト購入FAX(郵送)申込書」を使用のうえ、**直接本学大学生協に注文**してください。※用紙が不足する場合は、各自でコピーを取って使用してください。また、「親和deネット」の「お知らせ」からダウンロード（プリントアウト）することもできます。

本学大学生協ではWebによる購入もできます。Webで購入する場合は、下記の本学大学生協URLから「Honya Club.com」を利用してください。（一般書店・ネット通販での購入など購入方法は他にもありますが、本学大学生協のみでの取り扱いとなるテキストもありますので注意してください。）

※ほとんどが専門書のため、本学大学生協や一般書店等に在庫がなく、取り寄せとなります。取り寄せには日数（2週間程度）がかかることがありますので、購入に際しては、日程に余裕をもってください。

●テキスト購入に関する問い合わせ先●

〒651-1111　兵庫県神戸市北区鈴蘭台北町7丁目13番1号　学生会館地下1階

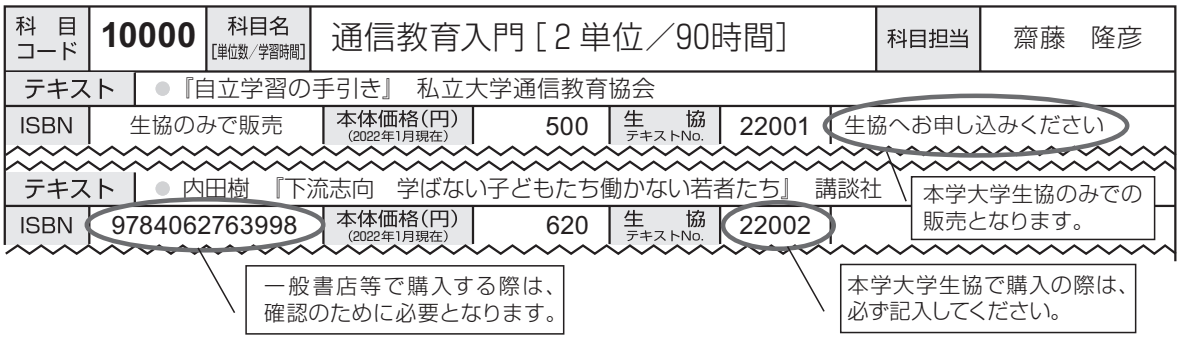
神戸親和女子大学生協　書籍部（担当：木村）　URL. http://www.hanshin.coop/shinwa/

TEL.078-595-0303　FAX.078-595-0565

<テキストの購入は計画的に>

まず、自身で卒業・修了までの学習計画を立て、その中で本学年の学習計画をさらに練り、本学年にレポート提出、科目修了試験受験する科目のテキストだけを購入されることをお勧めします。こうした方が、無理なく学習を進めることができると思われます。なお、**次学年以降、テキストが変更になることもあります**ので、注意してください。

（例）



XIII 参考文献について

本学図書館に蔵書がありますが、科目修了試験前などは貸出中のことが多く、予約待ちになることをあらかじめご了承ください。本学図書館利用については、『学生要覧』を参照してください。

XIV 学習における不正な行為、不適切な学習態度に対する懲戒処分等について

本学通信教育部学生及び科目等履修生の学習（テキスト履修・スクーリング履修）における下記の不正な行為、不適切な学習態度には、本学では、**懲戒処分、厳重注意や履修登録の取り消し**といった厳しい態度で臨みます。

真摯な態度で学習に取り組んでください。

<注意：レポート作成時の不正な行為、不適切な学習態度について>

レポート作成時の次のような行為などは、不正な行為、不適切な学習態度となります。

- 第三者が作成したレポート本文等を流用して作成したと推定されるレポートを提出する行為。
- 自身のレポートを第三者に貸す行為、ＳＮＳやインターネット等でレポートの内容を公開・提供する行為。
- 第三者の文章、表現等の出典を明記せず用いる行為。
- 本人が作成していないレポート本文、又は報告課題評価票、又はレポート表紙を提出する行為。

など

＜注意：科目修了試験受験時の不正な行為、不適切な学習態度について＞

科目修了試験受験時の次のような行為などは、不正な行為、不適切な学習態度となります。
・他人の答案を見る行為、他人に答案を見せる行為、もしくは答案用紙を交換する行為。
・カンニングペーパーの所持、受験許可証・学生証等や机上・手掌等への書き込み、又はこれに類する行為。
・スマートフォン（携帯電話・PHS を含む）、モバイルパソコン、タブレット端末等の通信機器、携帯音楽プレイヤー等の携帯型録音再生機器等を身に付けていたり、指示された以外の場所や状態で保管している行為。
・試験問題を受験許可証・学生証等や机上・手掌等に書き込む行為。
・本学教職員からの指示、注意に従わない行為。
・SNS やインターネットなどを利用して試験問題を書き込む行為。
・他の受験者への迷惑になる言動。
など

神戸親和女子大学学生懲戒規程<抜粋（『学生要覧』に全文掲載）>

（懲戒の対象となる行為）
第4条　懲戒の対象とする行為は、次の各号に掲げるものとする。
（4）　通信教育部におけるレポート、科目修了試験、スクーリング試験における不正行為
（9）　その他学生の本分に反する行為
2　前項各号につき、別に規程が定められている場合、その規程にしたがう。
（懲戒の種類）
第5条　学則及び通信教育部規程に定める懲戒の種類は、次のとおりとする。
（1）　退学は、学生としての身分を剥奪するものとする。
（2）　停学は、一定期間、学生の教育課程の履修及び課外活動等を停止するものとする。
（3）　譴責は、学生の行った行為の責任を確認し、その将来を、書面をもって戒めるものとする。

神戸親和女子大学通信教育部学生および科目等履修生の学習（テキスト履修・スクーリング履修）における不正行為に対する取扱要項<抜粋（『学生要覧』に全文掲載）>

（処分の対象となる不正行為）
第4条　不正行為の種類は、次の各号のとおりとする。
（1）　科目修了試験時及びスクーリング試験時にカンニングペーパー、机上・手掌等への書き込み、又はこれに類するものを用いて答案を作成する行為。
（2）　科目修了試験時及びスクーリング試験時に他人の答案を見る行為、他人に答案を見せる行為、若しくは答案用紙を交換する行為。インターネット等を利用した同様の行為(含む公開・提供する行為)。
（3）　第三者が作成したレポート本文等を流用して作成したと推定されるレポートを提出する行為、及びインターネット等でレポートを公開・提供する行為。
（4）　第三者の文章、表現等の出典を明記せず用いる行為。
（5）　本人が作成していないレポート本文、又は報告課題評価票、又はレポート表紙を提出する行為。ただし、「学習の手引き」で自筆でのレポート作成が指定されているが、事故、病気等で自筆が困難な状態にある場合は、レポートを提出する以前に、医師の診断書を添えて通信教育部長に文書で願い出ることにより、代理の者による清書を認めることがある。
（7）　科目修了試験における代理受験、スクーリングにおける代理受講。
（8）　その他、前各号の一つに類すると認められる行為。
（履修の取扱い）
第5条　不正行為を為した学生及び不正行為に関与した学生の履修の取り扱いについては、次の各号とする。
（1）　レポートで不正行為があった場合は、**不正行為のあった当該月、前月、翌月の３か月に提出があったすべての科目の履修を無効とする。**無効となった科目は、定められた時期に再度履修登録を行い、翌学年での履修となる。
（2）　**科目修了試験で不正行為があった場合は、不正行為のあった当該月、前月の2か月に受験したすべての科目の履修を無効とする。**無効となった科目は、定められた時期に再度履修登録を行い、翌学年での履修となる。

XV 単位数と必要な学習時間について

文部科学省が定める大学通信教育設置基準により、本学通信教育部では単位制としています。「単位」とは、科目を修了するために必要な学習量（時間数）となります。

本学通信教育部では、すべての授業科目に対して、学習時間数に応じて単位数を設定し、45時間の学習時間をもって１単位と定めています。

テキスト履修科目では、当該科目を修了するためには、**①『学習の手引き テキスト履修科目編』の掲載内容を充分理解する、②テキストや参考文献等を精読する、図書館等で調べものをする、③レポートを下書きする、推敲（加筆修正）する、仕上げる、④返却されたレポートの添削内容やコメントを読み込んで復習する、⑤科目修了試験に向けて学習を深める、⑥その他『学習の手引き テキスト履修科目編』で担当教員から指示のある事項**など、自主的な学習時間が必要となります。

学習時間については、各自のライフスタイルや学習状況等に応じて積極的に確保するよう努めてください。

なお、テキスト履修科目の単位数と学習時間数については、下表のとおりとなります。

単位数	必要な学習時間
1単位	45 時間
2単位	90 時間

単位数	必要な学習時間
3単位	135 時間
4単位	180 時間

XVI テキスト履修科目 学習の流れ

＊テキスト学習・レポート作成＊

『学習の手引き テキスト履修科目編』で科目ごとに指定されているテキストを各自で購入（本学大学生協・書店等）します。＜テキストは１科目1,000円～3,000円程度＞

『学習の手引き テキスト履修科目編』記載の課題に対してテキストから学んだことをもとに各レポートを作成します。

科目の単位数に応じてレポートの課題数が決められています。

【１単位につき１課題。１課題につき2,000字程度（自筆の場合は、本学所定レポート用紙５枚程度＜ペン書き＞）作成。】

＊レポート提出＊

作成したレポートを指定期間【毎月１日～５日＜最終日消印有効※ただし、５日が土・日・祝の場合は、翌平日の消印有効＞】に提出。

学習計画を立ててテキスト学習、レポート作成に取り組んでください。

＊レポート添削・評価＊

担当教員が提出レポート（本学受付済）の添削・評価を行います。添削・評価後のレポートの返却は、提出月の翌月末になります。（ただし、科目によっては、提出レポート数が多いなどの理由で返却が遅れる場合があります。）

＊レポート合格＊

提出レポートの評価が不合格の場合は、担当教員からの添削内容やコメントをもとに学習し直し、合格をめざしてレポートを再提出します。

不合格の場合は再提出

＊科目修了試験受験申請＊

受験希望科目のすべて（単位数分）の課題レポートを提出（本学受付済）することにより受験資格を得ることができます。『親和通信』で試験日ごとに定める受験申請期間を確認のうえ、受験資格がある受験希望科目を指定申請期間内に申請します。

＊科目修了試験受験＊

受験許可を受けた科目を受験。受験には受験許可証が必要です。

試験は記述式です。テキストの内容を理解し、問題に対して的確に自分の言葉で答案を作成することがポイントです。

【科目修了試験受験許可証発送日については、『親和通信』でお知らせします。】

＊科目修了試験合格＊

試験結果が不合格の場合は、テキスト全体をしっかりと読み込んで理解を深め、合格をめざして再受験します。（再試験料1科目1回受験につき2,000円。）

不合格の場合は再受験

＊単位修得＊

科目ごとのすべて（単位数分）の課題レポート合格と科目修了試験合格により、その科目の単位を修得できます。

【テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞は、テキスト履修分とスクーリング履修分の両方の合格により単位修得となります。（単位を分割して修得することはできません。）】

XVII カリキュラムマップ

「カリキュラムマップ」とは、科目区分の下に科目を構成し、科目区分間、科目間の関係性や配当年次等を記し、科目と修得できる知識・能力との対応関係等を示したもので、科目に係る体系性・有機的連携を確保するためのものです。

学科のディプロマ・ポリシーに基づいて、各科目の学習によって『修得できる力』を表記していますので、確認のうえ学習を進めてください。

1．児童教育学科　カリキュラムマップ

		授業科目名（※【 】はカリキュラム改正により、入学時科目名から科目名を変更して開講。）	単位数 テキスト履修	単位数 スクーリング履修	配当年次	学習によって『修得できる力』 実践力 使命感・責任感	実践力 互助的精神（人間愛）	実践力 教育・保育の実践力	専門性 専門的知識	専門性 専門的技能	専門性 主体的な思考力・判断力	専門性 創造的な表現力	共生力 関係性 豊かな社会性	共生力 関係性 人間関係形成力	共生力 関係性 他者との協働性	共生力 社会貢献 国際的な視野	共生力 社会貢献 地域社会に貢献する力
共通教育科目群	ベイシック・スキル	通信教育入門	2		1	○			○	○	○	○					
		日本語表現	2		1				○	○	○	○	○	○	○		
		英語コミュニケーションⅠ		1	1				○	○	○	○	○	○	○	○	○
		英語コミュニケーションⅡ		1	1				○	○	○	○	○	○	○	○	○
		英語	2		1				○	○	○					○	
		基礎体育学		1	1				○	○	○		○	○	○		
		健康行動学	2 or 2		1	○			○	○	○						
		情報基礎	2		1				○		○						
	コモン・センス	日本国憲法	2 or 2		1				○		○					○	
		文学	4		1	○	○		○		○		○	○	○	○	
		心理学	4		1	○	○		○		○		○	○	○	○	
		哲学	4		1	○	○		○		○		○	○	○	○	
		経済学	4		1				○		○					○	
		法学	4		1				○		○					○	
		社会学	4		1				○		○					○	
		地理学	4		1	○			○	○	○					○	○
		文化人類学	4		1	○	○		○		○		○	○	○	○	○
		数学	4		1				○	○	○						
		生物学	4		1				○	○	○					○	
		栄養学	4		1				○	○	○			○			
	総合学習	多文化社会	2 or 2		2	○	○		○		○		○	○	○	○	○
		情報と社会	2 or 2		2				○	○	○						
		国際理解教育論	2 or 2		2		○	○	○		○		○		○	○	
		環境教育論	2 or 2		2	○	○	○	○	○	○		○			○	○
専門教育科目群	基本科目	教育原理	2 or 2		1	○	○		○		○		○	○	○	○	○
		教育心理学	2		1				○		○						
		教育哲学	2		3	○	○		○		○		○			○	
		人権教育【2018年度以前:人権教育の研究】	2		3	○		○	○		○		○	○			○
	演習科目	児童教育学演習Ⅰ		2	3			○	○	○	○	○	○	○	○		
		児童教育学演習Ⅱ		2	4			○	○	○	○	○	○	○	○		
	基幹科目・発展科目	国語	2		2		○		○		○	○		○			
		算数	2		2			○	○	○		○			○		
		生活	2		2	○		○	○		○		○	○			○
		社会	2		2			○	○		○		○			○	○
		理科		2	2				○	○	○					○	
		家庭	2		2				○	○	○				○		
		外国語（英語）＜2019年度以降入学生対象＞	2		2	○		○	○	○	○	○		○		○	
		体育	1	1	1	○		○	○	○	○	○	○	○	○		
		音楽	1	1	1			○	○	○	○	○			○		
		美術	1	1	1		○	○	○	○	○	○					
		子どもと健康＜2020年度1年次入学生・2022年度3年次編入学生対象＞	1	1	1				○	○			○				
		子どもと人間関係＜2020年度1年次入学生・2022年度3年次編入学生対象＞	1	1	1				○	○				○			
		子どもと環境＜2020年度1年次入学生・2022年度3年次編入学生対象＞	1	1	1				○	○			○				
		子どもと言葉＜2020年度1年次入学生・2022年度3年次編入学生対象＞	1	1	1				○	○				○			
		子どもと音楽表現＜2020年度1年次入学生・2022年度3年次編入学生対象＞	1	1	2				○	○					○		
		子どもと造形表現＜2020年度1年次入学生・2022年度3年次編入学生対象＞	1	1	2				○	○					○		
		子どもと身体表現＜2020年度1年次入学生・2022年度3年次編入学生対象＞	1	1	2				○	○					○		
		児童心理学	2		2			○	○	○				○	○		
		幼児心理学	2		2			○	○	○	○						
		学習心理学	2		3				○		○						
		健康心理学	2		3				○		○						
		教育臨床心理学	4		3	○		○			○			○	○		
		発達心理学	2		2			○	○		○						

		授業科目名（※【 】はカリキュラム改正により、入学時科目名から科目名を変更して開講。）	単位数 テキスト履修	単位数 スクーリング履修	配当年次	学習によって『修得できる力』 実践力 使命感・責任感	実践力 互助的精神（人間愛）	実践力 教育・保育の実践力	専門性 専門的知識	専門性 専門的技能	専門性 主体的な思考力・判断力	専門性 創造的な表現力	共生力 関係性 豊かな社会性	共生力 関係性 人間関係形成力	共生力 関係性 他者との協働性	共生力 社会貢献 国際的な視野	共生力 社会貢献 地域社会に貢献する力
専門教育科目群	基幹科目・発展科目	子ども家庭支援の心理学<2019年度以降入学生対象>	2		1	○	○	○	○	○	○				○		○
		子どもの理解と援助【2018年度以前：保育の心理学】		1	1			○	○		○		○	○			
		社会心理学	2		2		○		○	○	○			○	○		○
		青年心理学	2		2		○		○	○	○			○	○		
		家族心理学	2		2		○		○	○	○			○	○		○
		教職論	2		1	○	○	○	○	○	○				○	○	○
		外国語活動教育論	2		1			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		幼児教育原理	2		1	○	○		○		○		○	○	○	○	○
		初等教育原理	2		2	○	○		○		○		○	○	○	○	○
		教育法規	2		3	○			○	○	○		○				
		教育制度	2		3	○			○	○	○		○	○			○
		教育社会学	2		3				○		○					○	○
		教育方法論	2		3			○	○	○	○						
		特別支援教育入門（初等）<2019年度以降入学生対象>		1	2	○		○	○								
		教育課程論（初等）	2		3	○	○		○		○		○			○	
		幼児教育課程論	2		2	○		○	○	○							○
		道徳教育の指導法（初等）【2018年度以前：道徳教育の研究（初等）】	2		3	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○
		総合的な学習の時間の指導法（初等）<2019年度以降入学生対象>	2		2	○		○	○	○	○		○		○	○	○
		特別活動の指導法（初等）【2018年度以前：特別活動の研究（初等）】	2		3	○		○		○	○		○	○	○		○
		子ども家庭福祉Ⅰ【2020年度以前：児童福祉論Ⅰ】	2		3	○	○	○	○	○	○				○		○
		子ども家庭福祉Ⅱ【2020年度以前：児童福祉論Ⅱ】	2		3	○	○	○	○	○	○				○		○
		保育者論	2		1	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○
		保育原理	2		1	○	○		○		○		○			○	○
		社会的養護Ⅰ【2019年度以前：養護原理】	2		2	○	○	○	○	○	○		○	○			○
		子どもの保健【2020年度以前：子どもの保健Ⅰ】	4【2】		3			○	○	○	○						○
		子どもの健康と安全【2020年度以前：子どもの保健Ⅱ】		1	3			○	○	○	○						○
		子どもの食と栄養	1	1	3			○	○	○	○						○
		教職実践演習（幼・小）		2	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		保育実践演習【2023年度以降：保育・教職実践演習（幼）】		2	4	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
		教科教育法・国語	2		2※	○		○	○	○	○	○		○			
		教科教育法・社会	2		2※	○		○	○	○	○	○	○			○	○
		教科教育法・算数	2		2※	○		○	○	○	○	○			○		
		教科教育法・理科		2	3			○	○	○	○						
		教科教育法・生活	2		2※	○		○	○	○	○	○	○	○			○
		教科教育法・音楽		2	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		教科教育法・図画工作		2	3	○		○	○	○	○	○					
		教科教育法・家庭	2		2※			○	○	○	○				○		
		教科教育法・体育		2	3	○		○	○	○	○				○		
		教科教育法・外国語（英語）<2019年度以降入学生対象>	1	1	2	○		○	○	○	○	○		○		○	
		保育内容（健康）【2017年度以前：保育内容の研究・健康】	1	1	2	○		○	○	○			○			○	
		保育内容（人間関係）【2017年度以前：保育内容の研究・人間関係】	1	1	2		○	○	○		○		○	○	○		
		保育内容（環境）【2017年度以前：保育内容の研究・環境】	1	1	2		○	○	○	○	○						
		保育内容（言葉）【2017年度以前：保育内容の研究・言葉】	2		2	○	○		○	○		○	○				○
		保育内容（表現）【2017年度以前：保育内容の研究・表現】		2	2			○	○	○	○	○	○	○	○		
		保育内容（表現技術A）【2017年度以前：保育内容の研究・表現技術A】		2	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		保育内容（表現技術B）【2017年度以前：保育内容の研究・表現技術B】		2	2	○	○	○	○	○	○	○			○		

		授業科目名（※【 】はカリキュラム改正により、入学時科目名から科目名を変更して開講。）	単位数 テキスト履修	単位数 スクーリング履修	配当年次	学習によって『修得できる力』 実践力 使命感・責任感	実践力 互助的精神（人間愛）	実践力 教育・保育の実践力	専門性 専門的知識	専門性 専門的技能	専門性 主体的な思考力・判断力	専門性 創造的な表現力	共生力 関係性 豊かな社会性	共生力 関係性 人間関係形成力	共生力 関係性 他者との協働性	共生力 社会貢献 国際的な視野	共生力 社会貢献 地域社会に貢献する力
専門教育科目群	基幹科目・発展科目	保育内容（総論）【2019年度以前：保育内容の研究・総論】	2		4	○	○	○	○	○							
		教育方法・ICT活用論（初等）【2021年度以前：教育方法・技術論（初等）】	2		2【3】			○	○	○	○				○		
		生徒・進路指導論（初等）	2		3	○	○		○		○		○			○	○
		教育相談（初等）	2		3			○		○	○			○	○		
		幼児理解	2		3		○	○	○		○			○			
		社会福祉論	2		3	○	○	○	○	○	○				○		○
		相談援助		1	3	○	○	○	○	○	○			○			○
		子育て支援【2020年度以前：保育相談支援】		1	3	○	○	○	○	○	○			○			○
		子ども家庭支援論【2020年度以前：家族援助論】	2		3		○	○	○	○	○				○		○
		乳児保育Ⅰ	1	1	2	○			○	○							
		乳児保育演習		1	2	○			○	○							
		乳児保育論【2019年度以前：乳児保育Ⅱ】	2		1【2】	○			○	○	○				○		○
		障害児保育論Ⅰ	1	1	3			○	○	○	○				○		○
		障害児保育論Ⅱ	2		3			○	○	○	○				○		○
		社会的養護Ⅱ【2019年度以前：養護内容】	1	1	2	○	○	○	○	○	○		○	○			○
		子どもと人権	2		2	○		○	○		○			○	○		○
		現代保育論	2		4			○	○		○		○				○
		西洋教育史	2		3				○		○		○			○	
		日本教育史	2		4				○		○		○				
		社会福祉援助総論	2		3	○	○	○	○	○	○						○
		子育て相談・支援の理論と実際	2		4	○	○	○	○	○	○				○		○
		児童教育学特殊講義Ⅰ		2	3			○	○	○	○	○	○	○	○		
		児童教育学特殊講義Ⅱ		2	4			○	○	○	○	○	○	○	○		
		教育実習事前・事後指導（初等）		1	4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
		教育実習（初等）	実習4		4	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
		保育実習ⅠA（保育所）	実習2		3	○	○	○	○	○	○				○		○
		保育実習指導ⅠA（保育所）		1	3	○	○	○	○	○	○				○		○
		保育実習ⅠB（施設）	実習2		4	○	○	○	○	○	○				○		○
		保育実習指導ⅠB（施設）		1	4	○	○	○	○	○	○				○		○
		保育実習Ⅱ（保育所）	実習2		3	○	○	○	○	○	○				○		○
		保育実習指導Ⅱ（保育所）		1	3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
		特別支援教育基礎理論	1	1	1	○			○								
		知的障害児の心理A	1		1			○	○	○					○		
		知的障害児の心理B		1	2			○	○	○					○		
		知的障害児の生理・病理	2		1			○	○	○					○		
		肢体不自由児の心理・生理・病理A	1		1			○	○	○					○		
		肢体不自由児の心理・生理・病理B		1	2			○	○	○					○		
		病弱児の心理・生理・病理A	1		1			○	○	○					○		
		病弱児の心理・生理・病理B		1	2			○	○	○					○		
		知的障害児教育論ⅠA	1		1	○	○	○	○	○					○		
		知的障害児教育論ⅠB		1	2	○	○	○	○	○					○		
		知的障害児教育論Ⅱ	2		1	○	○	○	○	○	○	○		○	○		
		肢体不自由児教育論A	1		1	○			○								
		肢体不自由児教育論B		1	2	○			○								
		病弱児教育論	2		1	○			○						○		
		視覚障害児の心理・生理・病理		1	1			○	○	○					○		
		聴覚障害児の心理・生理・病理	1		1			○	○	○					○		
		視覚障害児教育指導法		1	2	○	○	○	○	○	○	○		○	○		
		聴覚障害児教育指導法	1		2	○	○	○	○	○	○	○		○	○		
		発達障害児教育論A	1		1	○	○	○	○	○					○		
		発達障害児教育論B		1	2	○		○	○	○	○	○			○		
		特別支援学校教育実習事前事後指導		1	4	○		○	○	○		○			○		
		特別支援学校教育実習	実習2		4	○		○	○	○		○	○		○		
		ボランティア論	1	1	2	○	○				○	○			○	○	○
		時事問題からみる社会福祉	1	1	2				○		○		○				○
		公衆衛生論		2	3				○	○	○						○

※「教科教育法・国語」「教科教育法・社会」「教科教育法・算数」「教科教育法・生活」「教科教育法・家庭」の配当年次については、2019年度以降入学生から「2年」に変更となります。

2. 福祉臨床学科　カリキュラムマップ

		授業科目名	単位数 テキスト履修	単位数 スクーリング履修	配当年次	学習によって『修得できる力』 価値・原理 対象者理解	価値・原理 倫理観・人権尊重	価値・原理 福祉の知識と技能	専門性 社会情勢の把握	専門性 対人援助の技術	専門性 プレゼンテーション力	社会への参画 コミュニケーションスキル	社会への参画 社会活動への貢献	社会への参画 社会人基礎力
共通教育科目群	ベイシック・スキル	通信教育入門	2		1									○
		日本語表現	2		1							○		○
		英語コミュニケーションⅠ		1	1							○		○
		英語コミュニケーションⅡ		1	1							○		○
		英語	2		1							○		○
		基礎体育学		1	1									○
		健康行動学	2 or 2		1			○						
		情報基礎	2		1			○						○
	コモン・センス	日本国憲法	2 or 2		1		○							○
		文学	4		1									○
		心理学	4		1	○								○
		哲学	4		1	○	○							○
		経済学	4		1				○					○
		法学	4		1			○						○
		社会学	4		1				○					○
		地理学	4		1				○					○
		文化人類学	4		1				○					○
		数学	4		1									○
		生物学	4		1									○
		栄養学	4		1									○
	総合学習	多文化社会	2 or 2		2			○						○
		情報と社会	2 or 2		2									○
		国際理解教育論	2 or 2		2									○
		環境教育論	2 or 2		2				○					○
専門教育科目群	基本科目	社会福祉概論	4		1	○	○		○					
		社会保障論	4		2				○					○
		児童福祉論	4		2	○	○	○						
		障害者福祉論	4		2	○	○	○						
		老人福祉論	4		2	○	○	○	○					
		地域福祉論	2		3	○			○				○	
		人体の構造と機能及び疾病	1	1	3	○		○						
		公的扶助論	2		3	○	○		○					
	演習科目	社会福祉学演習Ⅰ		2	3		○	○		○	○		○	○
		社会福祉学演習Ⅱ		2	4		○	○		○	○		○	○
	基幹科目・発展科目	福祉レクリエーション論	2		1	○				○			○	
		福祉コミュニケーション論	2		1	○				○			○	
		社会福祉援助技術論Ⅰ	2	2	2	○	○	○		○				
		社会福祉援助技術論Ⅱ	4		2	○	○	○		○				
		福祉行財政と福祉計画	2		2			○	○					○
		福祉サービスの組織と経営	2		2			○	○					○
		社会調査の基礎	2		3				○					○
		保健医療サービス	2		3	○		○						
		介護概論	2		3	○	○	○		○				
		相談援助演習Ⅰ	2		2					○				
		相談援助演習Ⅱ		4	2					○	○			
		相談援助実習	実習4		3	○	○	○		○	○			○
		相談援助実習指導Ⅰ	1		3	○	○	○		○				○
		相談援助実習指導Ⅱ		3	3	○	○	○		○	○			○
		障害児保育論Ⅰ	1	1	3	○	○	○						
		障害児保育論Ⅱ	2		3	○	○	○						
		ボランティア論	1	1	2	○							○	

		授業科目名	単位数 テキスト履修	単位数 スクーリング履修	配当年次	学習によって『修得できる力』 価値・原理 対象者理解	価値・原理 倫理観・人権尊重	価値・原理 福祉の知識と技能	専門性 社会情勢の把握	専門性 対人援助の技術	専門性 プレゼンテーション力	社会への参画 コミュニケーションスキル	社会への参画 社会活動への貢献	社会への参画 社会人基礎力
専門教育科目群	基幹科目・発展科目	福祉と人権	2		2		○	○						
		時事問題からみる社会福祉	1	1	2				○					○
		子育てと社会	2		2				○					○
		子どもと人権	2		2	○	○							
		発達心理学	2		2	○		○						
		社会心理学	2		2	○		○						
		家族心理学	2		2	○		○						
		青年心理学	2		2	○		○						
		家族援助論	2		3	○	○							○
		就労支援サービス		1	3				○					○
		公衆衛生論		2	3			○	○					
		権利擁護と成年後見制度	2		4	○	○						○	
		更生保護制度		1	4	○	○						○	
		社会福祉学特殊講義Ⅰ		2	3			○	○					
		社会福祉学特殊講義Ⅱ		2	4			○	○					
		社会福祉学特殊講義Ⅲ		2	4			○	○					
		社会福祉学特殊講義Ⅳ		2	4			○	○					
		社会福祉学特殊講義A（福祉と女性）	2		2			○	○					
		社会福祉学特殊講義B（福祉と歴史）	2		2			○	○					
		社会福祉学特殊講義C（福祉とボランティア）	2		3			○	○					
		社会福祉学特殊講義D（福祉と国際社会）	2		4			○	○					
		医療福祉論	2		2	○		○						
		海外の福祉	1	1	2			○	○					
		生涯スポーツ学習論	2		2			○					○	
		子どもの食と栄養	2		3	○		○						
		子どもの保健	2		3	○		○						
		養護児童援助論	2		3	○	○	○						
		スポーツ生理学	2		2	○		○						
		スポーツ栄養学	2		2	○		○						
		スポーツ心理学	2		2	○		○						
		体力測定評価	1	1	2	○		○					○	
		スポーツ社会学	2		2	○		○						
		健康運動実践	1	1	3	○		○					○	
		スポーツ健康福祉特論	2		4	○		○					○	
		生涯スポーツ実技演習	1	1	4	○		○					○	

科目別索引

五十音順

＜注意：カリキュラム改正について＞

本学ではカリキュラム改正を行いました。このため、入学年度・入学学年により、カリキュラムが異なります。『学生要覧』の入学年度・入学学年・コース別の科目表を必ず確認してください。

なお、Ⓐ欄のカリキュラム改正前科目については、Ⓑ欄の2022年度開講科目として開講しますので、本冊子ではⒷ欄の科目コード・科目名で掲載しています。

Ⓐ カリキュラム改正前科目		Ⓑ 2022年度開講科目	
科目コード	科目名	科目コード	科目名
20004	人権教育の研究	20153	人権教育
20035	道徳教育の研究（初等）	20154	道徳教育の指導法（初等）
20036	特別活動の研究（初等）	20155	特別活動の指導法（初等）
20037	児童福祉論Ⅰ	20163	子ども家庭福祉Ⅰ
20038	児童福祉論Ⅱ	20168	子ども家庭福祉Ⅱ
20041	養護原理	20160	社会的養護Ⅰ
20069	家族援助論	20164	子ども家庭支援論
20071	乳児保育Ⅱ	20159	乳児保育論
20074	養護内容	20162	社会的養護Ⅱ
20123	保育内容の研究・健康	20146	保育内容（健康）
20124	保育内容の研究・人間関係	20147	保育内容（人間関係）
20125	保育内容の研究・環境	20148	保育内容（環境）
20126	保育内容の研究・言葉	20149	保育内容（言葉）
20141	保育内容の研究・総論	20156	保育内容（総論）
20133	教育方法・技術論（初等）	20181	教育方法・ICT活用論（初等）

［イ］

医療福祉論…… 341

［エ］

英語…… 31
栄養学…… 62

［オ］

音楽…… 191

［カ］

海外の福祉…… 343
介護概論…… 296
外国語（英語）【◆2】 …… 246
外国語活動教育論【◆1】…… 199
学習心理学…… 100
家族援助論［福祉臨床学科］…… 318
家族心理学［児童教育学科］…… 112
家族心理学［福祉臨床学科］…… 314
家庭…… 90
環境教育論…… 71

［キ］

教育課程論（初等）…… 128
教育原理…… 74
教育実習（初等）〔小学校〕…… 212
教育実習（初等）〔幼稚園〕…… 212
教育社会学…… 124
教育社会学【特例制度】 …… 360
教育心理学…… 76
教育制度【◆1】…… 122
教育相談（初等）…… 144
教育哲学…… 78
教育法規…… 120
教育方法・ICT活用論（初等） …… 269
教育方法論…… 126
教育方法・技術特論（初等）【特例制度】 …… 366
教育臨床心理学…… 104
教科教育法・外国語（英語）【◆2】 …… 248
教科教育法・家庭…… 142
教科教育法・国語…… 133
教科教育法・算数…… 137
教科教育法・社会…… 135
教科教育法・生活…… 140
教職論…… 114
教職論【特例制度】 …… 358

[ケ]
経済学…… 45
健康行動学…… 33
健康心理学…… 102
現代保育論…… 158
権利擁護と成年後見制度…… 333

[コ]
公的扶助論…… 286
国語…… 80
国際理解教育論…… 69
子育て相談・支援の理論と実際…… 166
子育てと社会…… 306
子ども家庭支援特論【特例制度】…… 377
子ども家庭支援の心理学【◆2】…… 231
子ども家庭支援論…… 240
子ども家庭福祉Ⅰ…… 238
子ども家庭福祉Ⅱ…… 244
子どもと音楽表現【◆3】…… 260
子どもと環境【◆3】…… 256
子どもと健康【◆3】…… 252
子どもと言葉【◆3】…… 258
子どもと人権[児童教育学科]…… 156
子どもと人権[福祉臨床学科]…… 308
子どもと身体表現【◆3】…… 268
子どもと造形表現【◆3】…… 266
子どもと人間関係【◆3】…… 254
子どもの食と栄養[児童教育学科]…… 207
子どもの食と栄養[福祉臨床学科]…… 347
子どもの食と栄養特論【特例制度】…… 375
子どもの保健[児童教育床学科]【◆2】…… 242
子どもの保健[福祉臨床学科]…… 350
子どもの保健Ⅰ[児童教育学科]【◆1】…… 205
子どもの保健特論【特例制度】…… 373

[サ]
算数…… 83

[シ]
時事問題からみる社会福祉[児童教育学科]…… 190
時事問題からみる社会福祉[福祉臨床学科]…… 305
肢体不自由児教育論A【特支】…… 180
肢体不自由児の心理・生理・病理A【特支】…… 174
児童心理学…… 96
児童福祉論…… 278
社会…… 87
社会学…… 49
社会心理学[児童教育学科]…… 108
社会心理学[福祉臨床学科]…… 312
社会調査の基礎…… 326
社会的養護Ⅰ…… 235
社会的養護Ⅱ…… 237
社会福祉援助技術論Ⅰ…… 292
社会福祉援助技術論Ⅱ…… 294
社会福祉援助総論…… 164
社会福祉概論…… 274
社会福祉学特殊講義A(福祉と女性)…… 335
社会福祉学特殊講義B(福祉と歴史)…… 337
社会福祉学特殊講義C(福祉とボランティア)…… 354
社会福祉学特殊講義D(福祉と国際社会)…… 339
社会福祉論…… 148
社会保障論…… 276
障害児保育論Ⅰ[児童教育学科]…… 152
障害児保育論Ⅰ[福祉臨床学科]…… 298
障害児保育論Ⅱ[児童教育学科]…… 154
障害児保育論Ⅱ[福祉臨床学科]…… 300
障害者福祉論…… 280
生涯スポーツ学習論…… 345
情報基礎…… 35
情報と社会…… 67
初等教育原理…… 118
人権教育…… 223
人体の構造と機能及び疾病…… 320
心理学…… 41

[ス]
数学…… 56

[セ]
生活…… 85
生徒・進路指導論(初等)…… 209
青年心理学[児童教育学科]…… 110
青年心理学[福祉臨床学科]…… 316
生物学…… 60
西洋教育史…… 160

[ソ]
総合的な学習の時間の指導法(初等)【◆2】…… 250
相談援助演習Ⅰ…… 330
相談援助実習【別記参照】…… 332
相談援助実習指導Ⅰ…… 332

[タ]
体育[分野・児童体育]…… 94
体育[分野・幼児体育]…… 92
多文化社会…… 65

[チ]
地域福祉論…… 284
知的障害児教育論ⅠA【特支】…… 176
知的障害児教育論Ⅱ【特支】…… 178
知的障害児の心理A【特支】…… 171
知的障害児の生理・病理【特支】…… 172
聴覚障害児教育指導法【特支】…… 185
聴覚障害児の心理・生理・病理【特支】…… 184
地理学…… 52

［ツ］
通信教育入門…… 26

［テ］
哲学…… 43

［ト］
道徳教育の指導法(初等)…… 225
特別活動の指導法(初等)…… 227
特別支援学校教育実習【特支】…… 188
特別支援教育基礎理論【特支】…… 169

［ニ］
日本教育史…… 162
日本国憲法…… 37
日本語表現…… 29
乳児保育Ⅰ【◆1】…… 150
乳児保育特論【特例制度】…… 379
乳児保育論…… 233

［ハ］
発達障害児教育論A【特支】…… 186
発達心理学[児童教育学科]…… 106
発達心理学[福祉臨床学科]…… 310

［ヒ］
美術…… 197
病弱児教育論【特支】…… 182
病弱児の心理・生理・病理A【特支】…… 175

［フ］
福祉行財政と福祉計画…… 322
福祉コミュニケーション論…… 290
福祉サービスの組織と経営…… 324
福祉と人権…… 303
福祉と養護【特例制度】…… 371
福祉レクリエーション論…… 288
文学…… 39
文化人類学…… 54

［ホ］
保育原理…… 203
保育実習ⅠA(保育所)…… 211
保育実習ⅠB(施設)…… 213
保育実習Ⅱ(保育所)…… 168
保育者論…… 201
保育内容（環境）…… 219
保育内容（健康）…… 214
保育内容（言葉）…… 221
保育内容（総論）…… 229
保育内容（人間関係）…… 217
保育内容の研究・特別総論【特例制度】…… 364
法学…… 47
保健医療サービス…… 328
ボランティア論[児童教育学科]…… 189
ボランティア論[福祉臨床学科]…… 302

［ヨ］
養護児童援助論…… 352
幼児教育課程特論【特例制度】…… 362
幼児教育課程論…… 130
幼児教育原理…… 116
幼児心理学…… 98
幼児理解…… 146
幼児理解特論【特例制度】…… 369

［ロ］
老人福祉論…… 282

科目名に【◆1】～【◆3】及び【特支】【特例制度】とあるのは次のとおりです。

【◆1】児童教育学科2011年度～2018年度入学生対象科目
【◆2】児童教育学科2019年度以降入学生対象科目
【◆3】児童教育学科2020年度以降1年次入学生・2022年度3年次編入学生対象科目
【特支】「特別支援学校教諭1種免許状取得課程」履修者対象科目＜1年次入学時履修許可者のみ＞
【特例制度】認定こども園法改正に伴う特例制度により、幼稚園教諭免許状および保育士資格の取得を希望する科目等履修生対象科目

別 記

相談援助実習を2022年度に行う予定の方は、2021年度の指定期限までに**「実習希望届」を提出**し、**「相談援助実習ガイダンス」に必ず出席**しなければなりません。「相談援助実習ガイダンス」の詳細は、『親和通信』でお知らせします。

共 通 教 育 科 目 群

科目コード	10000	科目名[単位数／学習時間]	通信教育入門［2単位／90時間］	科目担当	齋藤　隆彦
テキスト	●『自立学習の手引き』 私立大学通信教育協会				
ISBN	生協のみで販売	本体価格(円)(2022年1月現在)	510	生協テキストNo.	22001	生協へお申し込みください
テキスト	●内田樹 『下流志向 学ばない子どもたち働かない若者たち』 講談社				
ISBN	9784062763998	本体価格(円)(2022年1月現在)	620	生協テキストNo.	22002	
実務経験のある教員による科目	中学校教諭（教科「国語科」）				

科目の目的

「通信教育入門」が卒業要件になっている人は、他の科目に先立って、最初に取り組んでください。テキスト履修がどのようなものであるか、その学習方法とレポート作成の実際について、基本的な知識と理解を得るためである。「科目の目的」は、専攻分野の課題研究ではなく、一般的に、レポートを書く基本を練習することである。テキスト『自立学習の手引き』の副題に「読む・書く・問う」とあるように、これらを意識的に行うことが自立的な学びの第一歩となる。レポート作成が自身の成長につながるように。まずは、この科目にしっかり取り組もう。

テキスト『下流志向』は内田樹の「学び」観が書かれている。「目の前の状況」と「先行研究の知見」それらを組み合わせて考察する内田自身の論の展開など、「思考力」を高めるために参考にしてほしい。大学での学びのスタートとして、内容だけでなく、その書き方（考えの組み立て方）にも注目してほしい。

到達目標

テキスト『自立学習の手引き』をよく読み、基本的な知識を身につける。その上で、次のようにして課題レポートを書く準備をする。これらの材料はそのまま、レポートの「第2課題」作成のための資料となる。①新聞等から下記のようなテーマを見つけ出し、そのテーマに関する記事、文献、資料データをできるだけ多く集める。文献等リストをつくり、実物やそのコピーの入手可能なものと困難なものとを区別する。②入手できたものを年代順（年月日順）にならべ、論点を整理する。5点以上集めたい。「論点」は「テーマ」よりもっと小さく絞り込む。取材源は新聞雑誌、書物、ネット情報（責任の所在の明確なもの）など。（書きやすいテーマの例：地球温暖化対策、防災・減災、人口問題、18歳成人論、iPS細胞、LGBT、世界遺産、Netflixの成功、若者と選挙、コロナ禍経済対策、オンライン授業の可能性、男女共同参画社会、地域産業振興、などなど。レポートのタイトル・論点はもっと小さくする。「各課題の留意点」必読。）

学習テーマ

1	①テキスト『自立学習の手引き』を通読する。【以下の例示は、これを4回に分けて読む場合。】
2	序章、第1章「読む」。【自立学習＝テキスト履修の基本「読む」の方法を理解する。】
3	第2章「書く」の73頁まで。【レポート作成＝「書く」ことの重要な意義を学ぶ。】
4	第2章「書く」の73頁から。【「書く」の実際を学び、「書く」スキルをみがく。】
5	第3章「問う」、終章。【「学ぶ」と「考える」「問う」との両輪の関係を認識する。】
6	②テキスト『下流志向』を読む。（まずは「試し読み」をした後、ここでは10回に分けて「分析読み」をするとして。約20頁ずつ示す。）「まえがき」、第1章「新しいタイプの日本人の出現」～「世界そのものが穴だらけ」【子どもたち（学生を含む）の状況と「学力低下」の関係を読み取り、興味ある学びのエピソードやデータをメモする。】
7	第1章「オレ様化する子どもたち」～「クレーマーの増加」【「学力低下」と「オレ様化する子どもたち」、「等価交換」がどうつながるのか、読み取り、興味ある学びのエピソードをメモする。】
8	第1章「学びと時間」～「未来を売り払う子どもたち」【「学び」とはどのようなものだと筆者は述べているか。「時間」「母語」「自分探し」などのエピソードと主張のつながり方を読み取る。】
9	第2章「パイプラインの亀裂」～「自己決定・自己責任論」【「リスク社会」と「自己責任」の関係など、重要な点や疑問点をメモする。「なぜ？」を考える。】
10	第2章「貧しさの知恵」～「学力低下は『努力の成果』」【「消費行動」の原理で「労働の承認」を考える、とはどういうことか。さまざまな引用例など、その使い方にも注目しメモする。】
11	第3章「自己決定の詐術」～「労働はオーバーアチーブ」【「自己決定フェティシズム」から「日本型ニート」の成り立ちへ筆者の論を読みとり、「労働主体」と「消費主体」の違いをまとめる。】
12	第3章「交換と贈与」～「工場としての学校」【少し抽象的な話が続くところもあるが、挙げられる具体例やここまでの理解をもとに内田の「学び」観を理解する。一つの軸から「学び」や「労働」「市場」について論ぜられている。その広げ方も学ぶことができる。】
13	第4章「アメリカン･モデルの終焉」～「高速化する社会活動」【第4章は「質疑応答」という形で行われている。質問の立て方や答え方を学ぶ機会としてほしい。また、第1～3章のまとめや解説としてもよめるので、内田の論について、要点をまとめてみる。】
14	第4章「師弟関係の条件」～「クレーマー化する親」【第4章は「質疑応答」という形で行われている。質問の立て方や答え方を学ぶ機会としてほしい。また、第1～3章のまとめや解説としてもよめるので、内田の論について、要点をまとめてみる。】
15	第4章「文化資本と階層化」～「身体性の教育」【第4章は「質疑応答」という形で行われている。質問の立て方や答え方を学ぶ機会としてほしい。また、第1～3章のまとめや解説としてもよめるので、内田の論について、要点をまとめてみる。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第 1 課題

次の 2 つの文章。用紙を連続させて（1 課題として）1 冊に綴じる（計2,000字程度）。
①テキスト『自立学習の手引き』をよく読み、理解する。そこから、あなたの「レポート作成」の実際とを重ね、「テキスト履修の学び」をどう進めるのか述べる（400字程度）。
②テキスト『下流志向』を読み、そこで「学び」とはどのようなものだと論じられているかをエピソードや主張を引用しながら述べる。その際、あなた自身の経験や考えともつなぐこと（1,600字程度）。
引用文献情報をはっきり示すこと。

第 2 課題

「到達目標」で集めた材料に基づいて、論点を明確にして論述する。自分でテーマを選び、レポートを書く練習である。2,000字程度。論点をできるだけ小さく設定し、必ずタイトルをつけること。あなたの意見をただ述べるのではなく、集めた資料を基に述べること。
この課題を読み違えないように。さまざまな内容の「集めた資料」を並べるだけではいけない。一つのテーマについて集めた資料を組み合わせて、序論・本論・結論と引用文献情報の構成がはっきりしたレポートを書くこと。
引用文献情報をはっきり示すこと。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

レポートの作成にあたっては、常時、テキスト『自立学習の手引き』を参照すること。自筆の場合は、本学所定のレポート用紙（タテ型）に、ペン書きで横書きする（ワープロソフト使用の場合も横書き）。ページ番号をつける。段落をつくり、小見出しをつけるとよい。ワープロソフト使用の場合も、テキスト『自立学習の手引き』の原稿の書き方に準じて書くこと。本冊子「はじめに」の「Ⅲ　レポート作成・提出時の注意」をよく読むこと。
テキスト『下流志向』については、論点が広がらないように気をつける。自分の「学び」の問題意識と著者の主張とを関連づけて書くとよい。原文の長い引用はしない。時には疑問や批判を書いてもよい。
ただし、テキスト『下流志向』については、最低でも全部読んだ上でレポートにかかること。ごく一部の内容や、使われていることばだけにこだわり、持論をふくらませるレポートにならないように。文献をきちんと読み、その内容をつかむ、という意識をもって臨むこと。
テキスト『下流志向』の中で引用された論文等を引用する際は、できれば原著にあたること。レポートの信頼性が高まる。やむを得ず引用する場合は（「孫引き」などと呼ばれ、信頼感は落ちる。）、「内田は○○について、次のように紹介している……」といった形で自身が文献を読んでいないことも伝わるように書くこと。
ぜひ、この課題で「レポート」の書き方の基本を身につけてほしい。

第 2 課題の留意点

レポートの作成にあたっては、常時、テキスト『自立学習の手引き』を参照すること。自筆の場合は、本学所定のレポート用紙（タテ型）に、ペン書きで横書きする（ワープロソフト使用の場合も横書き）。ページ番号をつける。段落をつくり、小見出しをつけるとよい。ワープロソフト使用の場合も、テキスト『自立学習の手引き』の原稿の書き方に準じて書くこと。本冊子「はじめに」の「Ⅲ　レポート作成・提出時の注意」をよく読むこと。
「到達目標」の例のように、問題点が明らかで、意見が分かれているようなテーマ・論題が取り組みやすいであろう。1 冊の書物のような大きな論題や、教科書のような解説の類は不適当。共通教育科目であるから、福祉や児童教育等の専攻分野以外のテーマを選ぶ。タイトルで小さく絞り込むこと。結論の如何よりも、テキスト『自立学習の手引き』の「読む」「書く」「問う」が十分に実践されているかどうかを、評価のポイントとする。ここでは、あなたの意見をただ述べるのではなく、資料を基に述べる練習として、引用を的確に、その書き方の習得を心がけること。
「到達目標」の例はお勧めである。他のテーマを選ぶ場合は、成功するテーマかどうかをよく調査する。興味があるというだけでは失敗する。論点を小さく絞り、対立意見をつき合わせ、議論・考察し、客観的意見を述べることが出来るかどうか。テキスト『自立学習の手引き』の78頁の「論評型」をめざす。（過去の失敗レポートの例：概説と統計資料、感想のみのもの、自分の意見が記されていないもの、他の科目の課題内容を流用したもの等）

レポートの評価基準

2 冊のテキストを正確に読み取り、その実践がきちんとあらわれていること。たとえば、原稿用紙の使い方、改行・段落、引用の仕方などは、レポート作成の基本である。自分の意見だけで引用が活用されていないものも、引用のみ多く、自分の意見が乏しいものもいずれもよくない（何かの資料～ネットの「まとめ」など～をまるごとうつしてもあなたのレポートとして成立しない）。
第 2 課題は、よく調べ、深く考察し、自分の意見・主張が客観的に記されていることが必要である。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

2 つのレポート課題の内容に即した出題、2 問。「読む・書く・問う」の内容をよく理解し、返却されたレポートをふまえ（不十分であった点は返却後の学習を追加しておく）、たくさん書くこと。
※添削・評価済みレポートは提出期限の締切約 1 ヵ月半後（提出月の翌月末頃）に返却。ただし、2 月と 8 月に提出したレポートについては、翌々月の上旬に返却。

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨に沿って要点をおさえ、具体例をあげ、ある程度の分量を、読みやすい文字で書くこと。

参考文献

内田樹の書籍などさらに読むことでテキスト『下流志向』の考え方がわかりやすくなる。(例：内田樹『街場の教育論』ミシマ社、内田樹『街場の大学論』角川文庫、など)

また、テキスト『下流志向』で引用されている文献を実際に読んでみることで「引用の仕方」なども学べる。このような読み方はテキスト『自立学習の手引き』の「読む」に書かれている。

本科目の課題を通して、「自立学習」の基礎力をつけてください。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」のⅫ)を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10001	科目名[単位数/学習時間]	日本語表現［2単位／90時間］	科目担当	小林　勇
テキスト	●松尾芭蕉　『覚えておきたい芭蕉の名句200』　角川書店				
ISBN	9784044004705	本体価格(円)(2022年1月現在)	680	生協テキストNo.	22003

科目の目的

日本語による表現の粋といえば、五七五のわずか十七音で森羅万象を表現できる俳句が先ず挙げられよう。無論俳句の表現に通じたところで、直ちにレポートを書く上での参考にはならないが、日本語でこれだけ豊かな表現が出来るということを感得してもらいたい。この科目では「句調はずんば舌頭に千転せよ」と表現を追求した芭蕉の名句を鑑賞し、その表現の巧みさを自ら発見してもらいたい。また上手下手は問わないが、自分でも作句してみることで、表現の工夫を体感してもらう。

到達目標

テキストに取り上げられている句を順に読み、それぞれの句について自分が「表現が巧みだ」と感じたところをノートに取っていく。200句なので、15回に分けると、一回平均13、4句になる。テキストには簡単な句意と説明だけで、いわゆる評釈になっていないので、受講者自身の鑑賞力を発揮しやすいと思う。どこが巧みなのかわからないときは「わからない」で良い。ただし100句につき任意の3句についてレポートを書いてもらうので、自分の力だけでは難しいと感じたときは「凡例」にあるようなものを始め、参考文献を見て良いが、レポートでは必ず何に書かれていた考えかを明記すること。また一つのものを鵜呑みにせず、自分の考えを重視するように。

また俳句の表現というと、切れ字や体言止めなどに目が行きがちかも知れないが、芭蕉も「発句は取り合はせ物と知るべし」と述べているように、言葉と言葉の出会いが重要である点に留意すること。

学習テーマ

1	8ページの最初の句から13、4句につき、「到達目標」に書いた作業をする。参考文献にあった意見は、何に書かれていたかもメモしておく（Webページの場合も同様）。
2	「1」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。なお、テキストは作句の年代順に並んでいるので、年代による変化などにも気付いたらメモすると良い（レポートや科目修了試験では問わない）。
3	「2」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
4	「3」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
5	「4」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
6	「5」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
7	「6」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
8	「7」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
9	「8」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
10	「9」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
11	「10」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
12	「11」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
13	「12」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
14	「13」の次の句から13、4句につき、前回と同様の作業をする。
15	「14」の次の句から最後の句につき、前回と同様の作業をする。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキストの前半100句（pp. 8 -110）の中から自分が表現の面で特に優れていると思った句を3句選び、その優れている点について論じる。更に提出日の季節に合った自作の句1句を添え、簡単に解説すること。

第2課題

テキストの後半100句（pp.111-213）の中から自分が表現の面で特に優れていると思った句を3句選び、その優れている点について論じる。更に提出日の季節に合った自作の句1句を添え、簡単に解説すること。

各課題共通の留意点

「表現が優れている」といってもそれを言葉で説明するのは難しいが、江戸時代の句は言葉の背後に古典のイメージがある場合も多いので、解説を参考に言葉の持つイメージを辞書で探ってみる、他の語に置き換えて感動が同じように伝わるか考えてみるといった点に留意すると良いだろう。なお、「科目修了試験について」を参照し、科目修了試験に出す予定の句についてはレポートで取り上げないこと。

レポートの評価基準

なるべく受講者の感性を尊重したいが、あまりに時代性を無視した、現代的に過ぎる解釈は書き直しを命じる。また科目の性質上、誤字・脱字・誤変換や、慣用表現の誤用、ねじれ表現などがあまりに多い場合にも書き直しを命じることがある。

自作の句については、担当者は俳人ではないので巧拙は問わないが、有季定型に限定する。季節は、立春から立夏の前日までを春とする伝統的な季感に従うこと。季語は歳時記に縛られなくても良いが、うっかり他季の語を勘違いして用いたり、同じ句の中に他季の語が混じったりしないよう、インターネットでも良いので歳時記を参照することを勧める。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

16ページ「芭蕉野分して」、50ページ「古池や」、80ページ「草臥れて」、90ページ「吹き飛ばす」、102ページ「夏草や」、105ページ「涼しさを」、113ページ「荒海や」、117ページ「あかあかと」、134ページ「薦を着て」、152ページ「梅若菜」、189ページ「春雨や」、210ページ「此の秋は」。

以上12句の中から 2 句出題し、表現の巧みさを中心とした鑑賞文を書いてもらう。

科目修了試験の評価基準

概ねは非常に有名な句なので、探せば評釈は山のようにあると思う。科目修了試験受験の前にそれらを参照しておくことはもちろん結構であるが、最終的に自分の鑑賞文となっていること。いろんな批評が混在して何が言いたいのかわからないような答案はもちろん不合格となる。試験会場には何も持ち込めないので、他人の考えを書くとき、誰の文章だったかわからなくなることもあると思うが、「誰の文章だったか忘れたが」というような形にして、他人の説であること自体は明記するように。

参考文献

テキストの「凡例」参照。『おくのほそ道』の注釈なども無数に存在する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10004	科目名[単位数/学習時間]	英語［2単位／90時間］	科目担当	平松　さやか
テキスト	●阿野幸一　上田倫史 『Journeys Communication for the Future　コミュニケーションのための総合英語』 朝日出版社				
ISBN	9784255156101	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,000	生協テキストNo.	22006

科目の目的

友情、ファッション、ボランティア活動、海外留学といった大学生にとって身近な話題を取り上げ、対話文と短めの読み物で構成されたテキストである。英語を知識として終わらせるだけでなく、リスニング部分（無料でダウンロード可）、英作文、さらに各自の意見を述べることで、活用出来るスキルとしての英語を強化することを目的としている。ここで扱う英文レベルは、英語検定準2級から2級程度、TOEIC TESTスコア300 ～ 450程度以上をターゲットとしている。

到達目標

テキストの英文読解、リスニング問題を通して社会事情に関心を寄せるだけでなく、critical thinking（批判的論理思考）を養うことも目標とする。テキストの各章の補助問題を解いていくと、受講生が自分自身の意見や考察を表明できるようになっていく。英文アカデミックライティング形式（結論先行方式）を段階的に習得していくことを目標としている。（第2課題参照）

学習テーマ

1	Lesson 1：Communication　現在形 【現在の自分のことを表現する幅を広げる。】
2	Lesson 2：Friendship　過去形 【過去のこと、思い出について説明する。】
3	Lesson 3：Health　未来形 【具体例を挙げて説明する方法を学ぶ。】
4	Lesson 4：Environment　助動詞 【事柄を論理的に説明する方法を学ぶ。】
5	Lesson 5：Fashion　不定詞・関係詞 【論理的な長い文章を書く。】
6	Lesson 6：Food　関係詞の非制限用法 【時間的な流れに沿って出来事を説明する方法を学ぶ。】
7	Lesson 7：Science & Technology　比較表現① 【文章を要約する。】
8	Lesson 8：Study Abroad　比較表現② 【要点を列挙する。】
9	Lesson 9：College Life in the U.S.　受け身、使役の表現 【手順を述べる。】
10	Lesson 10：Steve Jobs　仮定法 【パラグラフライティングの構造について学ぶ①】
11	Lesson 11：Volunteer Work　直接話法、間接話法 【パラグラフライティングの構造について学ぶ②】
12	Lesson 12：Internship　代名詞 【正式な手紙文について学ぶ。】
13	Lesson 13：Travel　言い換え、省略の方法 【比較・対照の文について学ぶ①】
14	Lesson 14：Culture　形容詞、副詞 【比較・対照の文について学ぶ②】
15	Lesson 15：An International World　副詞句、接続詞、前置詞 【原因と結果について述べる。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

Lesson 1 - 6 （7のみ省く）より任意で1つ、Lesson 8 -15 より任意で1つ、合計2つの Lesson を選び、各章の Warm-Up Question（短い英文で答える）、Keywords（各単語の訳出）、Conversation（話の内容を日本語で要約。一語一句訳出しない）を解答する。Useful Expression（各表現を個別に使い、各自で考えた短い対話文を作成）、Reading（段落ごとに日本語で要約文を作成すること。翻訳ソフトなどの使用が判明するような、全文訳のみの提出は受け付けない。）、Comprehension（表の空欄を埋める）、Answer the Questions, Let's Try（指示に従って短い英作文をおこなう）を解答する。

第2課題

第1課題で選んだ2つの Lesson でどちらか1つの Writing-Express Yourself を選び、Let's Try 部分（第1課題で登場した Let's Try とは別）について、英語 100 words 以上の英文で自らの考えをアカデミックライティング形式で述べる。

各課題の留意点

第1課題の留意点

選んだ Lesson ごとに解答を作成するとよい。（ワープロソフト使用可）自筆の場合は、英単語を本学所定のレポート用紙のマス目に合わせる必要は無く、文作成するとよい。改行は不要であるが、余白を作ってあれば担当教員が添削時にその部分にコメントやアドバイスを入れる。

第 2 課題の留意点

英語で論旨を述べる時は、academic writing（paragraph writing）の方式をとる。 paragraph とは「段落」のことで、 1 つの段落に 1 topic（最も主張したいテーマ）のみ扱うのがルールである。topicを冒頭で提示した上で、その後に topic を説明する具体的な理由を述べるという、日本語作文の「起承転結」とは正反対の展開方法である。理由や説明を入れるときは、First, Second, Next, などを文頭に置き文章を展開すると論理的で説得力のある文章が完成する（テキスト Lesson10,11参照）。以下paragraph 見本である。

Why Convenience Stores Succeed

The main reason for the success of convenience stores in recent years is that they are indeed convenient for every person in each generation. There are several factors that make them useful. One is their location. Unlike large supermarkets, convenience store chains focus on having a large number of small stores. So one city can have hundreds of them and most of the stores are in walking distance. The second reason is the selection of goods that are sold in these convenience stores. You are able to buy not only groceries but also vegetables, liquor, magazines and underwear. The third reason is the hours they keep. Most of the convenience stores open all through the year and are open late at night or all night. So you may go there without any worries about closed days nor the hour you shop. In conclusion, convenience stores location, business hours and their variety of items fit for today's people and they have made a great success in Japan.

（170 words ）

○書式フォーマット【ワープロソフト使用の場合】

Word文書をタイピングする場合の字体はTimes / Times New Romanを使用。文字サイズは12または13ポイントの半角とする。上下左右に 2 ㎝程度余白を取り、用紙（A4用紙）の中央にタイトル（題目）をつける。 1 行分下がって、 5 スペース分 indent して 1 行目を書き始める。

1 行ずつ改行はせずに、文章は余白分を残して端から端まで書くが、右側がきちんと揃わなくてもよい。ピリオドの後は 2 スペース空けて次の文を書くこと。英語の字数の数え方は 1 単語を 1 word とし、例えば I have a dream. であれば 4 words となる。日本語の作文のように空白のスペースや、ピリオド、コンマ、クォーテーションマーク、クエスチョンマークなどはカウントしない。上記はタイトルを含めて170語である。（字数は文章の終わり、右下に記載しておく。）

レポートの評価基準

第 1 課題について：各自選んだ 2 つの章の問題を写し間違いや不備もなく、正しく解答していること。和訳した部分のミスの数や、英単語や英文のつづり間違いがあまりに目立つ場合はマイナス評価の対象となる。未解答部分がある場合は再提出の対象となる。

第 2 課題について：academic writing の正式なフォーマットで文章を作成し、書式と構成を守って作成していることが前提となる。英語の語彙の高度さ、文法の複雑さなどでプラス評価にはせず、いかに各自の今持てる力で意見を述べることができているかを評価する。文章が 100 words の 8 割以下では内容不十分として不合格（再提出）の対象となる。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

試験範囲は Lesson 1 -15（ 7 のみ省く）と広範囲に渡るが、出題はランダムに選んだ 2 章分となる。つまり、「Reading」部分の内容理解、文法、語法、語彙力を問う大問が 2 つとなる。その章と関連する Answer the Questions からも出題される。ランダムに Grammar for Communication からも文法問題が出題されるのでテキストで扱った文法要素はよく復習しておくこと。

さらに、第 2 課題と類似した、自らの意見や考えを述べる問題もある。（与えられるトピックは選択制。）例年この部分の白紙解答の結果、点数が合格ラインに届かない場合もある。平易な語彙であってもミスを恐れず、何か具体的な事例や自分の意見をできる限り書いて提出すること。

科目修了試験の評価基準

英語の読解力、文法、語法、英作文などを出題した部分が約85点（小問の配点は異なるが、 1 つ 3 ～ 4 点が大半。）。また、各自の意見を述べる大問は約15点配点。英語のつづりや誤字脱字だけでは大きな減点にはならない。しかし、文章内での動詞の取り違えや活用ミス、前置詞選択が不適切な場合は減点につながる。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10007	科目名[単位数／学習時間]	健康行動学［2単位／90時間］	科目担当	平尾　剛
テキスト	●安部孝　琉子友男　『これからの健康とスポーツの科学　第5版』　講談社				
ISBN	9784065180952	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,400	生協テキストNo.	22007

科目の目的

わが国の平均寿命はここ数十年で飛躍的に伸び、世界でも有数の健康水準を誇る国となっている。しかし、豊かさがもたらす食べ過ぎや運動不足が引き起こす生活習慣病の増加や、それに伴う国民医療費の高騰など現代社会において多くの問題を抱えている。こうした現状で健康を維持・増進するには然るべき理論を理解し、実践方法を身につけることが必要となる。そこで本科目では、健康の問題を自分自身の生活を振り返ることから始め、今後の生活の中で健康を増進するための考え方を身につけるべく基本的な知識を学ぶことを目的とする。

到達目標

今日の情報化社会では健康に関する情報が溢れている。おもにデジタルメディアから届けられるたくさんの健康情報を、キャッチーなコピーに惑わされることなく正否の判断を下すために必要な知識を身につけること。商業ベースのまことしやかな情報に流されない知的体力をつけることが、一つ目の到達目標である。

二つ目は、運動実践への意欲と積極的な態度を身につけること。デジタルメディアの出現など様々な分野での「便利化」は、今も着実に進行中である。身体をそれほど使わなくてもすむ現代社会では、健康を維持するためには運動実践が必要不可欠である。そのためには、多くの人が抱えている「スポーツや体育への苦手意識」を払拭することも必要で、競技力を高めるための運動と、健康を維持・増進するためのそれとは根本的に異なる。この違いを理解することにより、運動実践への一歩を踏み出せるようになる。以上が本科目の到達目標である。

学習テーマ

1	健康を推進するための生活スタイルとは①【日本人は健康といえるのか？食生活・飲酒と喫煙＜テキスト pp. 1 - 9 ＞】
2	健康を推進するための生活スタイルとは②【休養のとりかた・健康を脅かすものから身を守る・環境と健康・日本人のライフスタイル＜テキスト pp. 7 -18 ＞】
3	運動習慣は生活習慣病を予防・改善し、寿命を延ばすことができるか？①【運動不足が生活習慣病を招く・三大死因とライフスタイル＜テキスト pp.19-20、pp.28-31 ＞】
4	運動習慣は生活習慣病を予防・改善し、寿命を延ばすことができるか？②【運動習慣と死亡率の関連性・健康づくりのための身体活動基準および運動指針＜テキスト pp.32-37 ＞】
5	肥満を改善するための方法【安静時エネルギー代謝を高める・運動と肥満の関係・食事と運動と肥満の関係＜テキスト pp.54-62 ＞】
6	いろいろな環境下で安全に運動を行う方法とは①【猛暑での運動（暑熱環境）＜テキスト pp.144-149 ＞】
7	いろいろな環境下で安全に運動を行う方法とは②【寒い環境での運動（寒冷環境）＜テキスト pp.152-155 ＞】
8	いろいろな環境下で安全に運動を行う方法とは③【山地などでの運動（高所環境）＜テキスト pp.156-159 ＞】
9	ストレスと運動①【運動はストレス解消に役立つか？なぜ運動はストレスに対して効果的なのか？＜テキスト pp.172-182 ＞】
10	ストレスと運動②【運動の負の側面・どのような生活をすればストレスに強くなれるのか？＜テキスト pp.183-188 ＞】
11	栄養とスポーツ①【五大栄養素の役割＜テキスト pp.189-192 ＞】
12	栄養とスポーツ②【エネルギーや栄養素の摂取量・バランスのよい食事＜テキスト pp.193-198 ＞】
13	高い持久力は何によって決まるのか？①【有酸素的なエネルギー供給機構・糖や脂肪の代謝＜テキスト pp.87-91 ＞】
14	高い持久力は何によって決まるのか？②【酸素摂取からみた持久力・エネルギー代謝からみた持久力＜テキスト pp.92-98 ＞】
15	加齢による筋萎縮に対する運動と栄養摂取の役割【加齢による筋萎縮と身体障害・高齢者における運動処方＜テキスト pp.127-128、pp.131-133 ＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

健康的な生活習慣を身につけるためにはどうすればよいか、心身および社会的な観点から説明しなさい。

第2課題

健康を維持するために適した運動の仕方と休養の取り方について説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

まず「生活習慣＝生きる」と捉えること。仕事や家庭を含めて日々の営みを生活習慣だとするならば、それは生き方そのものとなる。つまり病をつくる社会生活そのものの見直しが求められるわけである。この問題意識のもと、健康的な生活習慣を身につけるための方策を、身体、心、社会の観点から具体例を挙げて（エピソードを交えるなど）レポートする。

第 2 課題の留意点

一口に運動といっても様々である。行い方によっては効果も変わる。「健康の維持」を目的にした場合の適切な運動の仕方について、休養の取り方にも触れながら述べること。それから、多忙な日常生活においていかにして運動を行い、休養を取るための時間を捻出すればよいのかをレポートする。

レポートの評価基準

・テキストを精読の上で、参考文献などの情報を加味して課題について論述しているかどうか。
・論理的に述べられているかどうか。
・引用、注釈の仕方が正しいかどうか。
・適切に段落をつけているかどうか。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないかどうか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストで扱われているテーマから出題する。テキストをよく読んで理解を深めておくことが大切である。とくにレポート課題で提示した、生活習慣病や、運動の様々な効果についてよく理解しておくこと。また、設題の趣旨を正確に把握した上で、理論と実践を結びつけるべく経験的に学んだ内容を整理することも重要である。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに、自らの経験や自説のみを展開しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。

参考文献

・福岡伸一 『動的平衡　生命はなぜそこに宿るのか』 木楽舎
・岩田健太郎 『食べ物のことはからだに訊け！　健康情報にだまされるな』 筑摩書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10008	科目名[単位数/学習時間]	情報基礎［2単位／90時間］	科目担当	馬場　裕
テキスト	●大嶋淳俊 『情報リテラシーを超えて　情報活用学入門　情報化社会の「攻め方」・「守り方」』 学文社				
ISBN	9784762023118	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,300	生協テキストNo.	22008

科目の目的

「情報社会」にあって、情報の活用能力、科学的理解、情報社会に参画する態度について学ぶ。
パソコンやインターネットを用いた情報の活用のための基本的な知識・技能を前提とする。情報の科学的な理解では、簡単なディジタル技術の仕組みを学び、参画する態度では情報モラルの基本を学ぶ。

到達目標

・ほとんどは、高等学校教科「情報」の復習である。辞書や用語辞典などを参考にテキストをよく読み、自分にとっての情報の活用力を身につける。
・この分野の情報は、更新されることが多くある。テキストに書かれていない内容でも、テレビや新聞、Webページなどから、関連する項目についての情報を主体的に習得し、その内容理解に努めること。

学習テーマ

1	はじめに【学習のポイント：情報活用力の意義と目的を理解する。】＜レポート第1課題（1）＞
2	情報リテラシーについて【学習のポイント：情報リテラシーとはどのようなものか。】
3	情報化社会の進展【学習のポイント：現在の情報化社会を理解する。】＜テキストだけでなくWebも参照＞
4	情報の収集【学習のポイント：収集に関する留意点を理解する。】
5	インターネットのサービス【学習のポイント：インターネット上のサービスとはどのようなものか。】
6	情報化社会のルールとマナー【学習のポイント：個人情報・知的財産権に関する留意点を理解する。】
7	情報セキュリティ【学習のポイント：暗号化を理解し、セキュリティの重要性を理解する。】
8	ビジネスと情報化【学習のポイント：経済社会での情報活用を理解する。】
9	教育・安心・安全と情報化【学習のポイント：教育や医療・防災分野での情報活用を理解する。】
10	防災・災害対策と情報化【学習のポイント：災害時の情報活用から防災での活用方法を考える。】
11	クラウドやソーシャルメディア【学習のポイント：新しいICTの活用を理解する。】
12	メディアの理解【学習のポイント：ハードウェア・ソフトウェア・記録メディアの知識を得る。】
13	インターネットの仕組みを知る【学習のポイント：プロトコル・ドメイン名などの知識を得る。】
14	WWW、Webサイト【学習のポイント：Webの仕組みと使われるソフト等の知識を得る。】
15	未来のコンピューティング【学習のポイント：ソサエティ5.0、IoTなど新しい仕組みを知る。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

次の（1）、（2）の課題を「第1課題の留意点」の指示に従い両方とも作成すること。
（1）テキストの「はじめに」、「第1章」を読み、情報を活用することの重要性を自らの具体的事例をもとに1,000字程度にまとめよ。
（2）コンピュータウィルスとその対策について、どのようにすべきか1,000字程度で論述しなさい。

第2課題

次の（1）、（2）の課題を「第2課題の留意点」の指示に従い両方とも作成すること。
（1）暗号化の方法であるSSL認証と公開鍵暗号の方法を端的に説明し、それぞれの利点と欠点を1,000字程度で論述しなさい。
（2）①IoT（Internet of Things）、②日本政府の進めようとしているSociety 5.0、③GIGAスクールについて簡単に説明し、これらが進むことで私たちの生活にどのような利点や効果があるのか1,000字程度で論述しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

文献や新聞記事、Webの記事を参考にすることが望ましい。なお、引用した文献のコピーは必ず添付し、引用先をレポート内に明示すること。横書きとすること。ページ番号を必ず打つこと。
（1）テキストpp.i-v、およびpp. 2 -14参照。
（2）テキストpp.81-86、およびセキュリティソフト会社（例：トレンドマイクロ社、ノートン社など）の最新情報を確認すること。

第2課題の留意点

文献や新聞記事、Webの記事を参考にすることが望ましい。なお、引用した文献のコピーは必ず添付し、引用先をレポート内に明示すること。横書きとすること。ページ番号を必ず打つこと。
（1）テキストpp.89-92、およびWebページの情報を参考にすること。
（2）の課題に関しては、テキストにはあまり情報がないので、Webページや書籍などの情報を自分で検索し、課題を作成すること。

レポートの評価基準

・第 1 課題、および第 2 課題（ 1 ）については、テキスト等から学んだ内容をふまえて、的確に記入しているかを評価する。
・第 2 課題（ 2 ）については、情報を正確に検索できているかを含め、活用に対する考え方を評価する。
・次の 3 点を評価の基準とする。
①テキストを精読のうえ、参考文献などの情報を加味して論述できている。
②内容に一貫性があり、わかりやすい論述になっていること。
③英語なども正確に記載され、丁寧に作成できていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・通信ネットワーク、ハードウェア、ソフトウェア、情報社会に関するキーワードを調べておくこと。テキストの巻末にも用語一覧があるので確認すること。
・新聞やWebの記事から情報に関する最新のトピックを調べ、その内容を理解しておくこと。
・テキスト、レポート課題の全範囲から出題するので、テキストを熟読し、レポート内容の復習をしておくこと。
・用語については、テキスト記載以外の最新の情報の用語も出題される。
・レポート課題の周辺のトピックに関してもその出題の対象とする。

科目修了試験の評価基準

・キーワードの説明 4 題×15点、論述問題 1 題×40点の配点で採点する。
・キーワードについては、それぞれテキスト記載や辞書等に記載された内容で正しく理解されていること。満点でない場合は、内容によって部分点を加点する。
・論述については、理解したキーワードを用い、自分の考え方を取り入れて作成されたものであること。その際、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自説のみを記入しても評価しない。また、設題内容を正しく理解し、求めに応じた解答であるかも評価対象である。

参考文献

・文部科学省HP 『高等学校学習指導要領解説　情報編』

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10010	科目名[単位数/学習時間]	日本国憲法［2単位／90時間］	科目担当	小野　晃正
テキスト	●君塚正臣　『大学生のための憲法』　法律文化社				
ISBN	9784589039071	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,500	生協テキストNo.	22009

科目の目的

憲法は、専断的になりがちな公権力（立法・行政・司法）を分立させると同時に、国民主権の原理によりこれに制限ないし規制し、国民の基本的権利を広く保障しようとする国家の基礎法である。
憲法の条文の大半はこうした理由から公権力を名宛人とする。
日本国憲法は、国民主権・基本的人権の保障・平和主義を基本原理として掲げ、人権保障規定とそれを担保するための統治機構の規定から主に構成されている。
これらの規定の適用とその解釈について、国民と統治機構の間で争われる「基本的人権」及び「統治」をめぐる憲法問題について、理解力向上と思考力の涵養を図ることが本科目の目的である。

到達目標

テキストを読み込み、ときに、参考文献も参照しつつ、日本国憲法の諸規定をめぐる紛争はどのようなものなのかについて、具体的事例をイメージできるようになる。その上で、具体的事例から憲法上の争点を抽出し、この争点を解決するための理論（判例や学説）を理解する。さらに、これらを論理的にまとめ、自分なりの結論を提示する能力を身につける。
本科目はレポート課題および科目修了試験を通じて、こうした諸点の能力を向上させることを最終的な到達目標とする。

学習テーマ

1	近代的意味の憲法とは【学習のポイント：テキスト第1章を参照し、立憲主義の意義と目的を理解する。】
2	平和主義について【学習のポイント：テキスト第4章を参照し、憲法9条の解釈を理解する。】
3	人権の歴史について【学習のポイント：テキスト第5章を参照し、自由権と社会権の沿革を理解する。】
4	幸福追求権と法の下の平等について【学習のポイント：テキスト第6章を参照し、新しい人権と平等を理解する。】
5	精神的自由権について【学習のポイント：テキスト第7章を参照し、精神的自由権の内容を理解する。】
6	思想良心の自由・学問の自由について【学習のポイント：テキスト第7章を参照し、精神的自由権の内容理解を深める。】
7	信教の自由と政教分離について【学習のポイント：テキスト第7章を参照し、憲法20条の解釈を理解する。】
8	表現の自由について①【学習のポイント：テキスト第7章を参照し、表現の自由の意義と限界、規制方法を理解する。】
9	表現の自由について②【学習のポイント：テキスト第7章を参照し、集会･結社の自由、通信の秘密を理解する。】
10	経済的自由権について【学習のポイント：テキスト第8章を参照し、経済的自由権の重要性とその限界を理解する。】
11	人身の自由と適正手続の保障について【学習のポイント：テキスト第10章を参照し、適正手続の保障を理解する。】
12	社会権について【学習のポイント：テキスト第9章を参照し、社会権の展開を理解する。】
13	参政権と人権の享有主体について【学習のポイント：テキスト第5、11章を参照し、外国人の人権享有主体性を理解する。】
14	統治機構について【学習のポイント：テキスト第12、13、14、15、16、17章を参照し、わが国の統治機構の概要を理解する。】
15	違憲審査制について【学習のポイント：テキスト第15章を参照し、違憲審査の概要を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

社会権は自由権に遅れて誕生した人権である。なぜ社会権は自由権に遅れて登場したのか。自由権と社会権の内容をそれぞれ説明した上で、歴史的沿革をふまえて論述しなさい。

第2課題

日本国憲法は死刑制度の存在を前提としている憲法であるといえるか。関連する憲法の条文を検討し論じなさい。また、死刑制度に関する私見を述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・歴史的な流れ（沿革）がわかるように記述すること。
・テキストや参考文献の記述内容を理解したうえで、丸写しではなく内容を整理して記述すること。また、テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。

第2課題の留意点

・憲法の条文をしっかりと読み込むこと。死刑関連条文は憲法36条のみではない。
・テキストや参考文献の記述内容を理解したうえで、丸写しではなく内容を整理して記述すること。また、テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。

レポートの評価基準

・テキストを精読したうえで、情報を整理し、課題について正面から論述しているか。
・自らが理解した内容について、わかりやすい表現でまとめているか。
・問いに無関係な内容で字数を稼いでいないか。
・レポートを作成する際に参考にした文献は、必ず明示すること。インターネット上の記事は引用文献として認めない。参考文献のないレポートは、評価が低くなることに留意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

以下の 2 点に留意すること。
・問いに無関係な内容や個人的な体験談で字数を稼いでいないか。
・テキストの内容を理解しているか。

科目修了試験の評価基準

以下 2 点を成績評価の基準とする。
・設題に対して正面から答えているか（問いに無関係な内容で字数を稼いでいないか）。　50%
・テキストの内容を理解しているか。　50%

参考文献

・芦部信喜　『憲法　第 7 版』　岩波書店

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の XVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10011	科目名[単位数/学習時間]	文学［4単位／180時間］	科目担当	小林　勇
テキスト	●井原西鶴　谷脇理史　『新版　好色五人女』　角川学芸出版				
ISBN	9784044082017	本体価格(円)(2022年1月現在)	880	生協テキストNo.	22010

科目の目的

自由に愛し合うことが難しかった江戸時代、恋に生き、最後は悲劇的結末を迎えた五組の男女（最終話はハッピーエンド）を描いた井原西鶴の名作『好色五人女』を原文で読んでもらい、現代に通じる点、現代と異なる点などについて考えてほしい。特に一般には抑圧されていたというイメージの強い女性の主体的な生き方について考えてほしい。

到達目標

西鶴の文章は名文だが、高校で一通り古典を学んだ程度では難しく感じられると思う。テキストには注釈も現代語訳もついているので、それらを参照しながら、内容を理解できるようになってほしい。更に原文を味読できるようになれば完璧である。

また、江戸時代は、小説、漫画、映画、ドラマなどでなじみ深い時代かと思うが、それらは現代人にわかりやすいようアレンジされており、実像を知るのは案外難しい。注釈や現代語訳だけではわかりにくいところは、自ら積極的に調べる習慣を身につけてもらうことも目的とする。

学習テーマ

1	巻一を、二、三章程度まで注を参照しながら読む。理解が正しいかどうか現代語訳と対照させる。
2	巻一の残りの箇所について、前回と同様の作業をする。
3	巻一の中で興味を持った点、深く知りたいと思った点などについて書籍やネットを使って調べる。
4	巻二を、二、三章程度まで注を参照しながら読む。理解が正しいかどうか現代語訳と対照させる。
5	巻二の残りの箇所について、前回と同様の作業をする。
6	巻二の中で興味を持った点、深く知りたいと思った点などについて書籍やネットを使って調べる。
7	巻三を、二、三章程度まで注を参照しながら読む。理解が正しいかどうか現代語訳と対照させる。
8	巻三の残りの箇所について、前回と同様の作業をする。
9	巻三の中で興味を持った点、深く知りたいと思った点などについて書籍やネットを使って調べる。
10	巻四を、二、三章程度まで注を参照しながら読む。理解が正しいかどうか現代語訳と対照させる。
11	巻四の残りの箇所について、前回と同様の作業をする。
12	巻四の中で興味を持った点、深く知りたいと思った点などについて書籍やネットを使って調べる。
13	巻五を、二、三章程度まで注を参照しながら読む。理解が正しいかどうか現代語訳と対照させる。
14	巻五の残りの箇所について、前回と同様の作業をする。
15	科目修了試験に備えて十分な学習をする。

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

巻一「姿姫路清十郎物語」を読んだ感想を述べる。更に巻一の中からテーマを一つ設定し、それについて調べる。

第2課題

巻二「情けを入れし樽屋物語」を読んだ感想を述べる。更に巻二の中からテーマを一つ設定し、それについて調べる。

第3課題

巻三「中段に見る暦屋物語」を読んだ感想を述べる。更に巻三の中からテーマを一つ設定し、それについて調べる。

第4課題

巻四「恋草からげし八百屋物語」を読んだ感想を述べる。更に巻四の中からテーマを一つ設定し、それについて調べる。

各課題共通の留意点

感想はもちろんどんなものでもかまわないが、必ず原文を引用し、「……」とある部分についてどう感じたというように具体的に書くこと。またテーマとは、その作品中に見られる当時の風俗、習慣、制度などの中から、自分が興味を持ったものを取り上げて、それについて詳しく調べ、わかったことを書くこと。いうまでもないが、課題ごとに変更するように。

レポートの評価基準

感想は自由だが、原文を理解できているかどうかを問う意味がある。原文の引用がないものや、あまりにも内容とかけ離れたものは不合格とし、書き直してもらう。テーマレポートは、必ず複数の文献を見て、書籍の場合は著者・出版社・刊行年を、ウェブの場合はURLと参照日時を参考文献として明示すること。一つの文献だけを丸写ししているような場合は不合格（再提出）となる。

なお、テーマ設定も自由であるが、その話からどのような項目を選べばよいかは、下の「科目修了試験「答案」作成の留意点」を参考にすること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

レポート課題が第4課題までなので、巻五「恋の山源五兵衛物語」から出題する。この章を読んだ感想と、次のようなテーマを出題する。

「衆道」、「唐物屋（からものや）」、「江戸時代の婚姻制度」、「江戸時代の貨幣制度」、「江戸時代の盂蘭盆」、「江戸時代の三月三日の節句」

上記のような事柄について、調べて知識を持っておくこと。

科目修了試験の評価基準

感想については、確実に読んだことがわかる程度のもので構わない。テーマも事前に調べて記憶しておける範囲で書けばよいが、作品中のどの部分に関わっているかまで指摘してあれば、より高く評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10012	科目名[単位数/学習時間]	心理学［4単位／180時間］	科目担当	吉田　絵美
テキスト	●鹿取廣人　杉本敏夫　鳥居修晃　『心理学　第5版　補訂版』　東京大学出版会				
ISBN	9784130121170	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,400	生協テキストNo.	22011
実務経験のある教員による科目	公立学校スクールカウンセラー　心理判定員				

科目の目的

心理学の研究領域は、人間の性格や知的能力、知覚、感情、発達等、広範囲にわたっているが、人間のこころの仕組みや働きについて研究しているところが共通点として挙げられる。相談や教育等に携わるにあたり、その基礎となる人間の心とその仕組みに広く触れ理解しておくことは言うまでもない。実務にあたり駆使した人をより理解するために必要な心理学全般についての基本的な知識を教え、受講生に理解してもらうことを本科目の目的とした。

到達目標

心理学が「こころの科学」であることを正しく理解し、学術的な視点で心理学を修める。行動や発達、学習、記憶、感覚、知覚、思考、言語、動機づけ、情動、個人差、社会行動など、多岐にわたる領域での心の仕組みに関する諸理論を理解し、今を生きる人間の「何故」に興味関心を抱くことができるようになること。

学習テーマ

1	心理学の視点【学習のポイント：こころの科学としての心理学の成立を、研究例を通して学ぶ。】
2	行動の基本様式【学習のポイント：反射や本能行動からはじまり意識の成立過程についても探る。】
3	発達－遺伝と環境【学習のポイント：遺伝と環境による心と行動の発達的変化の仕組みを考える。】
4	学習・記憶①－条件づけ【学習のポイント：（無）意識の学習による行動の変化について学ぶ。】
5	学習・記憶②－記憶と脳【学習のポイント：記憶の仕組みと神経学的基礎について理解を深める。】
6	感覚・知覚①－分化と統合【学習のポイント：8系統の感覚とその測定方法について簡潔に学ぶ。】
7	感覚・知覚②－視・聴・触覚【学習のポイント：3領域を通して感覚知覚の機能とその本性を探る。】
8	思考・言語①－思考【学習のポイント：言語を用いた思考とその可能性を考える。】
9	思考・言語②－言語【学習のポイント：思考による言語の広がりと高次脳機能障害を学ぶ。】
10	動機づけ・情動【学習のポイント：食や性をはじめとした動機づけと基本的情動の働きを探る。】
11	個人差①－知能の発達【学習のポイント：知能の発達とその測定について理解を深める。】
12	個人差②－性格の発達【学習のポイント：類型・特性論に基づく測定、性格の発達と変容方法論を学ぶ。】
13	社会行動①－個人内【学習のポイント：基礎となる自己と帰属等の認知過程について理解を深める。】
14	社会行動②－対人・集団【学習のポイント：他者との交流に内在する要因とその影響を諸理論に学ぶ。】
15	心理学の歴史【学習のポイント：紀元前から現代に至るこころの探求の流れを把握する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

発達における遺伝と環境の要因とその影響について詳述せよ。

第2課題

行動の変化を引き起こす「学習」について詳述せよ。

第3課題

動機づけについて詳述せよ。

第4課題

性格について詳述せよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト3章を中心によく学習し、人の発達的変化とそれを規定する2つの要因についてまとめること。

第2課題の留意点

テキスト4章を中心によく学習し、条件づけや技能学習、社会的学習の仕組みを理解しながらまとめること。条件づけに関し独自の具体例を交えながら説明出来るとなお良い。

第3課題の留意点

テキスト7章を中心によく学習し、食と性の動機づけから達成と自己実現の動機づけまで幅広く言及しまとめること。

第 4 課題の留意点

テキスト 8 章を中心によく学習し、性格に関する特徴的な理論や性格形成機序と不適応状態の対処方法まで幅広く言及してまとめること。

レポートの評価基準

課題に対し、テキスト学習から得た知識をふまえ、自分なりの考えや表現で如何に的確に記述できているかについて評価する。具体的には以下の 4 点を評価基準とする。

・テキストを精読し、可能であれば他の情報も加味しつつ論述している。
・自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係など文章表現に留意してまとめている（文章表現の基礎の遵守）。
・他者に読ませることを意識して、箇条書きに過度に頼らず意味の通る一連の文章を構成し、かつ丁寧に作成している。
・本文は1,800字以上2,200字以下でまとめる。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを中心に学習を進め、心理学に関する理解を深める。特に、 4 章pp.80-92、 5 章pp.101-110、pp.125-130、 6 章pp.200-208、 8 章pp.235-244、 9 章pp.270-275の知識は確実に獲得しておくこと。一般論ではなく、テキストを学習することで得た学術的見地からの記述を求める。また、設題の趣旨を理解し、適切な文章及び論理構成を以て論述すること。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかを中心に評価する。
・テキストの内容をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10013	科目名[単位数／学習時間]	哲学［4単位／180時間］	科目担当	隈元　泰弘
テキスト	●ジェームズ・レイチェルズ　スチュアート・レイチェルズ『新版　現実をみつめる道徳哲学　安楽死・中絶・フェミニズム・ケア』晃洋書房				
ISBN	9784771027619	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,500	生協テキストNo.	22012

科目の目的

科学技術が著しく発達し、高度な交通手段・通信手段によってグローバル化が進む現代、私たちは、脳死やクローンなどの新しい問題から、宗教や差別などの古い問題に至るまで、これまでにないほど複雑な倫理的思考・判断を迫られている。こうした現実的な問題に対して、道徳哲学はどのように答えうるだろうか。道徳哲学上の様々な立場とそれぞれの長所・短所について、テキストの熟読を通じて学習する。

到達目標

テキストでは、道徳哲学の諸問題について、様々な立場や考え方が紹介・吟味される。それぞれの立場の特徴や長所・短所について、現代的な視点から理解を深め、自分自身の人生を生きるための指針へと昇華させることが目標である。

学習テーマ

1	テキスト第1章「道徳とはどんなものか」を学ぶ。【学習のポイント：道徳の定義・意味と道徳にかかわる現実問題を理解する。】
2	テキスト第2章「文化相対主義の挑戦」を学ぶ。【学習のポイント：文化相対主義の意義と教訓を理解する。】
3	テキスト第3章「倫理における主観主義」を学ぶ。【学習のポイント：倫理的主観主義の基本思想と倫理の否定について理解する。】
4	テキスト第4章「道徳は宗教に基づくか」を学ぶ。【学習のポイント：道徳と宗教との関係並びに神の命令理論について理解する。】
5	テキスト第5章「倫理的利己主義」を学ぶ。【学習のポイント：倫理的利己主義の擁護論と倫理的利己主義への批判について理解する。】
6	テキスト第6章「社会契約説」を学ぶ。【学習のポイント：社会契約説の長所と問題点を理解する。】
7	テキスト第7章「功利主義者のアプローチ」を学ぶ。【学習のポイント：倫理学の革命としての功利主義の意義を理解する。】
8	テキスト第8章「功利主義をめぐる論争」を学ぶ。【学習のポイント：古典的功利主義と新たな功利主義との意義と問題点を理解する。】
9	テキスト第9章「絶対的道徳規則はあるか」を学ぶ。【学習のポイント：定言命法の意義と規則同士の衝突の問題について理解する。】
10	テキスト第10章「カントと人格の尊重」を学ぶ。【学習のポイント：カントの中心思想と人格の尊重ということの本質を理解する。】
11	テキスト第11章「フェミニズムとケアの論理」第1節「男女間での倫理観の相違」を学ぶ。【学習のポイント：男女間の倫理観の相違の現状と本質、並びにその克服への道について理解する。】
12	テキスト第11章「フェミニズムとケアの倫理」第2節「道徳的判断にとっての意味」、第3節「倫理説にとっての意味」を学ぶ。【学習のポイント：ケアの倫理の本質と現代的意義を理解する。】
13	テキスト第12章「徳倫理」を学ぶ。【学習のポイント：様々な徳の様相と徳倫理の長所と短所を理解する。】
14	テキスト第13章「満足のゆく道徳説はどんなものか」を学ぶ。【学習のポイント：傲慢なき道徳と道徳的共同体の可能性について理解する。】
15	解説「レイチェルズの倫理説の統一」を学ぶ。【学習のポイント：レイチェルズの倫理説のねらいと長所並びに問題点を理解する。】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

「文化相対主義」とはどのような考え方か、また、その長所と短所はどこにあるか、テキストに即して説明せよ。

第2課題

「功利主義」とはどのような考え方か、また、その長所と短所はどこにあるか、テキストに即して説明せよ。

第3課題

「フェミニズムとケアの倫理」とはどのような考え方か、また、その長所と短所はどこにあるか、テキストに即して説明せよ。

第4課題

レイチェルズの主張する「満足のゆく道徳説」とはどのような考え方か、テキストに即して説明せよ。また、あなた自身はこの考え方をどう思うか、論述せよ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト第 2 章を参考にして論述すること。

第 2 課題の留意点

テキスト第 8 章を参考にして論述すること。

第 3 課題の留意点

テキスト第11章を参考にして論述すること。

第 4 課題の留意点

テキスト第13章を参考にして論述すること。

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容を踏まえて、自ら考え、自らの言葉で、いかに適切に記述できているかについて評価する。
・評価基準は次の 3 点である。
①テキストを精読して、キーワード・キーセンテンスを押さえつつ課題について論理的に記述している。
②十分な内容的理解に基づき、一文一文において主語－述語の関連に留意しつつ、かつ全体の整合性にも配慮してまとめている。
③文字の書き順やとめる・はらう・はねるといった基本を押さえつつ、人に読ませることを意識して丁寧に清書している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験では、テキストの中で言及される基本概念を 2 つ、それぞれ400～500字程度でテキストに即して説明することが求められる。出題範囲はテキストの全体で、出題されるのは下記の概念のいずれかである。どの概念が出題されても対応できるように、テキストを十分に学習しておくこと。

出題される概念：「文化相対主義」、「倫理的主観主義」、「倫理的利己主義」、「社会契約説」、「功利主義」、「フェミニズムとケアの倫理」、「徳倫理」、「満足のゆく道徳説」

科目修了試験の評価基準

テキストの記述内容と説明のために用いられる実例とを適切に把握して、テキストに即して論述できているかどうかを中心に評価する。テキストの内容を踏まえずに、自らの主観的な経験や考えを記入しても評価しない。指定された文字数の記述があることを前提とする。なお、テキストから離れて、哲学事典等の内容を丸暗記した記述では、合格しない。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10014	科目名[単位数/学習時間]	経済学［4単位／180時間］	科目担当	河村　朗
テキスト	●N・グレゴリー・マンキュー　足立英之『マンキュー入門経済学　第3版』東洋経済新報社				
ISBN	9784492315217	本体価格(円)(2022年1月現在)	3,200	生協テキストNo.	22013

科目の目的

経済学には2つのアプローチがある。ミクロ経済学とマクロ経済学である。ミクロ経済学では、個々の企業や家計が合理的な経済行動をしていく時に、市場経済がいかに重要な役割を果たしていくかを明らかにしていく。一方、マクロ経済学では、全体としての経済の動きを、GDP（国内総生産）、失業率、インフレ率、利子率などの経済変数を用いて明らかにしていく。

到達目標

・まず、経済学の基礎となる原理、経済学の論理的な考え方などについて学習した後、ミクロ経済学とマクロ経済学のそれぞれの領域に関する理論、さらに国際経済学に関する理論を学ぶ。
・ミクロ経済学の理論として、まず、需要・供給曲線を用いて消費や生産の基本について学習した後、市場経済のしくみについて学ぶ。また、市場の効率性、市場の失敗などについても学習する。
・マクロ経済学の理論として、まず、GDPなど基本的な用語を学んだ上で、生計費、経済成長、金融システム、総需要曲線と総供給曲線、開放マクロ経済学などを学習する。
・国際経済学の理論として、比較優位の原理、開放マクロ経済学を学習する。

学習テーマ

1	経済学入門①【学習のポイント：経済学の基本的な原理について理解する。＜テキスト第1章＞】
2	経済学入門②【学習のポイント：経済学的な考え方を理解する。＜テキスト第2章＞】
3	ミクロ経済学①【学習のポイント：ある財の需要量・供給量とその価格との間の関係について理解する。＜テキスト第4章pp.99-117＞】
4	ミクロ経済学②【学習のポイント：市場の均衡について理解する。＜テキスト第4章pp.117-134＞】
5	ミクロ経済学③【学習のポイント：政府による政策と弾力性について理解する。＜テキスト第5章＞】
6	ミクロ経済学④【学習のポイント：消費者余剰・生産者余剰と市場の効率性について理解する。＜テキスト第6章＞】
7	ミクロ経済学⑤【学習のポイント：市場の失敗と外部性について理解する。＜テキスト第7章＞】
8	マクロ経済学①【学習のポイント：国内総生産（GDP）について理解する。＜テキスト第8章＞】
9	マクロ経済学②【学習のポイント：物価指数について理解する。＜テキスト第9章＞】
10	マクロ経済学③【学習のポイント：経済成長と生産性について理解する。＜テキスト第10章＞】
11	マクロ経済学④【学習のポイント：失業問題について理解する。＜テキスト第10章付論＞】
12	マクロ経済学⑤【学習のポイント：金融的なシステムと貨幣の機能について理解する。＜テキスト第11章＞】
13	マクロ経済学⑥【学習のポイント：総需要曲線と総供給曲線について理解する。＜テキスト第12章＞】
14	国際経済学①【学習のポイント：比較優位と交易・貿易について理解する。＜テキスト第3章＞】
15	国際経済学②【学習のポイント：開放マクロ経済学の基礎理論について理解する。＜テキスト第13章＞】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

人々の意思決定に関する経済学の原理について説明しなさい。

第2課題

需要の価格弾力性、供給の価格弾力性について説明しなさい。

第3課題

消費者物価指数とGDPデフレーターの違いについて説明しなさい。

第4課題

貨幣の3つの機能について説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキストの第1章を読んで、人々の意思決定に関係する原理について、トレードオフ、機会費用、限界費用、インセンティブなどのキーワードを用いて説明することが重要である。

第2課題の留意点

テキストの第5章を参照して、需要の価格弾力性、供給の価格弾力性の定義やそれらの決まり方について説明するだけでなく、それらの計算の方法についても言及することが重要である。

第 3 課題の留意点

テキストの第 8 章、第 9 章を読んで、消費者物価指数とGDPデフレーターのそれぞれを定義したうえで、両者の違いが明確になるように説明することが重要である。

第 4 課題の留意点

テキストの第11章を参照して、貨幣について説明したうえ、その 3 つの機能について説明することが重要である。

レポートの評価基準

それぞれの課題に対してテキストで学習した内容をもとに、キーワードを用いて、いかに論理的な説明ができているかどうかに関して評価を行う。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト第 1 章～第 2 章の経済学の基礎的な内容について学習をしたうえで、ミクロ経済学の理論については、テキスト第 4 章～第 7 章を全て論理的に理解することが必要である。一方、マクロ経済学の理論については、テキスト第 8 章～第12章を全て論理的に理解することが必要である。また、国際経済学の理論については、テキスト第 3 章、第13章を全て論理的に理解することが必要である。

科目修了試験は、テキスト全般からの出題となる。そのため、レポート課題に関連する一部の箇所だけでなく、テキストの全ての章（第 1 章～第13章）を読んで論理的に理解したうえで受験すること。テキストの内容をベースに論理的に説明できているかどうかが重要なポイントとなる。

科目修了試験の評価基準

テキストの内容に沿って、キーワードを使用し論理的に記述されているかどうかについて主に評価する。本科目はテキストの全てのページが科目修了試験の範囲である。その内容を理解したうえで、受験すること。それをふまえないで、自説を記載しても評価しないので注意すること。

参考文献

・ポール・クルーグマン　ロビン・ウェルス 『クルーグマン　ミクロ経済学　第 2 版』 東洋経済新報社
・中谷巌 『入門マクロ経済学　第 6 版』 日本評論社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10015	科目名[単位数/学習時間]	法学［4単位／180時間］	科目担当	小野　晃正
テキスト	●大谷實　『エッセンシャル法学　第7版』　成文堂				
ISBN	9784792306403	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,900	生協テキストNo.	22014

科目の目的

法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための規則である。このような法の特色と目的を踏まえつつ、現実社会の中で生じている争いごとに、法がどのような役割を果たし、かつ、こうした紛争をいかに解決しているか、について理解することを主たる目標とする。

到達目標

レポート課題を通じて、様々な法領域に関する知識の修得に加えて、各法分野の根本にある共通の基本的な考え方や、各法分野固有の基本的原理の理解につとめることを到達目標とする。

学習テーマ

1	法の意義、法とは何か（法学概論）について【学習のポイント：テキストChapter 1 を参照し、他のルールと法の違いを理解したうえで、法の意義を学修する。】
2	立憲主義的憲法（憲法概論）について【学習のポイント：テキストChapter 4 を参照し、憲法における立憲主義を理解する。】
3	財産と法の関係（民法－財産法）について【学習のポイント：テキストChapter 11を参照し、債権と物権の違いを理解する。】
4	家族と法の関係（民法－家族法）について【学習のポイント：テキストChapter 13を参照し、婚約、婚姻および離婚や相続の制度とその法的効果を理解する。】
5	経済取引と法について【学習のポイント：テキストChapter 12を参照し、会社法の仕組みや消費者保護を理解する。】
6	犯罪と法①（刑事法－刑法総論）について【学習のポイント：テキストChapter 14を参照し、全ての犯罪に共通する「犯罪の成立要件」を理解する。】
7	犯罪と法②（刑事法－刑法各論）について【学習のポイント：テキストChapter 14を参照し、殺人の罪や傷害の罪など個別具体的な犯罪類型について理解する。】
8	刑事手続と法（刑事訴訟法）について【学習のポイント：テキストChapter 8 を参照し、憲法上に定められている刑事手続きの概要を理解する。】
9	労働と法（労働法）について【学習のポイント：テキストChapter 15を参照し、労働者保護の概要について理解する。】
10	事故と法（民法－不法行為法）について【学習のポイント：テキストChapter 16を参照し、不法行為法の仕組みについて理解する。】
11	社会保障と社会福祉（社会保障法）について【学習のポイント：テキストChapter 17を参照し、社会保障法制の概要について理解する。】
12	医療と法（医事法）について【学習のポイント：テキストChapter 18を参照し、医療訴訟、精神医学と法、安楽死と法について理解する。】
13	情報化社会と法（情報法）について【学習のポイント：テキストChapter 19を参照し、情報に関する法制度について理解する。】
14	国際社会と法（国際法）について【学習のポイント：テキストChapter 20を参照し、国際社会と法制度について理解する。】
15	総まとめ【学習のポイント：テキスト全体を復習し、法学の全容を理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

有責配偶者の離婚請求とはどのような内容の離婚請求であるかについてわかりやすく説明しなさい。また、最高裁は、有責配偶者の離婚請求についてどのような判断を示しているかについて説明しなさい。

第2課題

罪刑法定主義の定義を簡潔に述べたうえで、その派生原則をすべて説明しなさい。

第3課題

民間組織の株式会社はなぜ会社法で規制されなければならないのかについて、わかりやすく説明しなさい。

第4課題

犯罪の成立要件である構成要件該当性、違法性（阻却事由）および責任（阻却事由）の関係をわかりやすく説明しなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

・最高裁の判断内容に必ず言及すること。
・テキストや参考文献の記述内容を理解したうえで、丸写しではなく内容を整理して記述すること。また、テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。

第 2 課題の留意点

・派生原則のすべてに言及すること。
・テキストや参考文献の記述内容を理解したうえで、丸写しではなく内容を整理して記述すること。また、テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。

第 3 課題の留意点

・テキストや参考文献、あるいはネット記事をも参照したうえで、丸写しではなく内容を整理して記述すること。また、テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。

第 4 課題の留意点

・構成要件、違法性（阻却事由）および責任（阻却事由）をそれぞれ説明しつつ、その関係性をわかりやすく説明すること。
・テキストや参考文献の記述内容を理解したうえで、丸写しではなく内容を整理して記述すること。また、テキストや参考文献の引用箇所は、必ず文献名とページ数等を明示すること。

レポートの評価基準

以下の 4 点を評価基準とする。
・テキストを精読したうえで、参考文献などの情報を整理して課題について正面から論述しているか。
・自らが理解した内容について、わかりやすい表現でまとめているか。
・問いに無関係な内容で字数を稼いでいないか。
・ネット記事の丸写しは 0 点とする。なお、参考文献を必ず明示すること。参考文献を明示していないものは評価が低くなることに留意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験の出題の多くは、第 1 課題から第 4 課題の内容をふまえて出題する予定である。

科目修了試験の評価基準

以下 2 点を成績評価の基準とする。
・設題に対して正面から答えているか（問いに無関係な内容で字数を稼いでいないか）。　50%
・テキストの内容を理解しているか。　50%

参考文献

・西村健一郎　西井正弘　初宿正典　『判例法学』　有斐閣
　※各法学の基本原理を基本判例と結びつけて、わかりやすく具体的に解説している。
・池田真朗　『プレステップ法学』　弘文堂
　※ビジュアル的にわかりやすい。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10016	科目名[単位数／学習時間]	社会学［4単位／180時間］	科目担当	湊　邦生
テキスト	●筒井淳也　『社会を知るためには』　筑摩書房				
ISBN	9784480683823	本体価格(円)(2022年1月現在)	840	生協テキストNo.	22015

科目の目的

社会学は、われわれが暮らす社会の成り立ちや、社会が抱える問題の背景を理解し、社会のあるべき未来について考えるための学術的な営みである。テキストを基に、「社会を理解する」ということ、またそのための方法について学んでいく。テキスト学習を通じて、社会学的な視点や想像力を身に付けること、それらをもって自らが暮らす社会とその変化について、あらためて考え、理解を試みること、さらには社会の未来について考える上での手掛かりを得ることが、本科目を学ぶ目的となる。

到達目標

本科目は、受講者が自らの社会と向き合い理解することや、そのための手法について、社会学に基づいて学んでいくことにある。そのために、今年度の到達目標として以下を定める。

①テキストの著者による社会に対する見方を理解し、説明できる。
②他の学問との違いを手がかりに、社会学の特徴について理解する。
③「近代化」以降の社会の変化について、テキストで登場する研究者たちがどのように認識し、どのような立場をとったかについて理解し、説明できる。
④社会に対して向き合う際に心がけるべきことについて、テキストの著者の見解を理解し、説明できる。

これらの目標は、それぞれの番号のレポート課題と関わりが深くなっている。また、いずれの目標も、科目修了試験に向けて重要なポイントとなる。レポート課題作成の際には留意しておくこと。

学習テーマ

1	社会への見方を問い直す①「社会」という言葉【学習のポイント:「社会」という「当たり前」に使う言葉の多義性・あいまいさを認識する。】
2	社会への見方を問い直す②社会におけるつながりの「ゆるさ」【学習のポイント：社会における要素・要因間の関連の「ゆるさ」について理解する。】
3	社会への見方を問い直す③社会の「わからなさ」【学習のポイント：社会について「わかっていない」とはどういうことかを理解する。】
4	社会への見方を問い直す④社会の「わからなさ」の背景【学習のポイント：社会が「わかりにくい」ものになっていく背後にある3つの特徴について理解する。】
5	社会学はどのような学問なのか①【学習のポイント：社会学の特徴のひとつについて、隣接学問との対比から明確化する。】
6	社会学はどのような学問なのか②【学習のポイント：テキストにおける社会学の大きな2種類の区分と、それぞれの間の違いを理解する。】
7	社会を認識するということ【学習のポイント：テキストを基に、社会学における社会に対する認識について、哲学の近年の潮流や展開から学んでいく。】
8	社会を記述するということ①「記述」をめぐる問題【学習のポイント：社会科学における「記述」という概念と一般的な扱われ方について認識する。】
9	社会を記述するということ②「説明」をめぐる問題【学習のポイント：社会科学における「説明」と「記述」との相違・関係や「説明」の方法について理解する。】
10	社会を記述するということ③「記述」と「説明」【学習のポイント：テキストにおける実例による解説を踏まえた上で、社会についての「記述」と「説明」の関係について理解する。】
11	社会を記述するということ④社会学における理論【学習のポイント：社会について考える上での理論の重要性、社会学における理論の特徴を理解する。】
12	近代化と「予測できない」社会【学習のポイント：前近代から現代社会への変化と、そこから派生した問題について、テキストの説明を基に理解する。】
13	「予測できない」社会とどう関わるか①【学習のポイント：「わからない」社会の中で生きる上で、テキスト著者が示す一つ目の示唆を理解する。】
14	「予測できない」社会とどう関わるか②【学習のポイント：「わからない」社会の中で生きる上で、テキスト著者が示す二つ目の示唆を理解する。】
15	「予測できない」社会とどう関わるか③異なり得る社会【学習のポイント：テキストの記述を基に、社会の現実、さらには社会への理解の多様性と変化の可能性を学ぶ。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキスト第1章（pp.13-46）の内容から、著者が本書において「社会」をどのようなものだと述べているのか、またその理由として何が挙げられるのか、それぞれ説明しなさい。

第2課題

テキスト第2章（pp.49-74）を要約しなさい。

第 3 課題

テキスト第 5 章（pp.147-184）の内容から、「社会を記述する」とはどういうことか、説明しなさい。

第 4 課題

テキスト第 6 章（pp.185-215）の内容から、脱伝統化・脱宗教化がもたらした 2 つの問題、そしてそれらへの対処として著者が示した 2 つのアドバイスについて説明しなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

第 1 課題の範囲である第 1 章は、テキストを通じて展開される議論の出発点である。まず、「社会」という言葉は著者が述べる通りさまざまな文脈で使われ、統一した定義はできない。だからこそ、著者自身が本文において「社会」をどのようなものとして捉えているのか、なぜそう捉えているかを理解することが欠かせない。そのためには、テキスト全体を丁寧に読み通した上で、著者の論理を理解し、説明できるように組み立て直すことが必要となる。難しい場合、「学習テーマ」の 1 から 3 がヒントとなり得る。なお、課題はテキストの内容の理解を問うものであり、受講生の個人的意見を求めるものではないので、注意すること。

第 2 課題の留意点

第 2 課題で焦点を当てる第 2 章では、社会学がどのような学問であるかが主題となっている。これについて、著者は 2 つの主な特徴をあげており、これらを読み取れるかどうかが最大のポイントとなる。また、どちらの特徴も他の学問との差異や関連がカギとなるので、それらも押さえておこう。

なお、ここでは本文の要約を示すことが課題となっている。これまでに同様の課題を出した際には、本文にないイントロダクションや読後感を示す記述や、個人的な意見を混入するものが相次いだ。これらはいずれも本文内容をまとめるという要約の主旨に反するものであり、課題を無視したものとして減点の対象となるので、くれぐれも避けること。

第 3 課題の留意点

第 3 課題の対象範囲である第 5 章では社会を「記述」することがテーマとなっている。ただし端的にまとめて示している部分がないため、全文を通して説明に必要な要素を取り出し、論理的になるよう再構成する必要がある。決して簡単な課題ではないが、「記述」と「説明」との関連と対比を踏まえた上で、なぜ「説明」「分析」ではなく「記述」が重要となる（ことがある）のか、テキストを丹念に追っていくと、答えが見えてくるであろう。テキストにおける具体的事例に基づく解説も大いに参考になる。なお、ここでも第 1 課題と同じく、受講生の個人的意見を求めるものではない点に注意されたい。

第 4 課題の留意点

第 4 課題は、現代を生きるわれわれが直面する問題、そしてそれらへの対処について、著者の考えを理解して説明することを求めるものである。別の表現をすれば、近代化がもたらした「意図せざる結果」とは何か、その結果に向き合うためにわれわれがどうすれば良いかについて、テキスト著者の議論を理解することが必要となる。特に前者については、第 4 章を読んでおくことでより理解が容易になるものと考えられる。第 4 課題は単に試験対策や単位取得のための作業ではなく、この科目で学んだことをこれからの人生に活かすためにも重要な取り組みとなり得ることを、ぜひ理解していただきたい。

レポートの評価基準

評価は以下の 4 つの基準によって行う。

①課題に対応した内容になっているか。特に、課題とは無関係の記述が入り込んでいないか。
②テキストの内容に基づいた記述になっているか。特に、テキストから導き出せない議論、テキストと矛盾する内容がないか。
③論理構成は適切か。特に、論旨が一貫しているか、矛盾や意味の通らない記述がないか。
④原稿用紙の使い方に則して作成しているか。特に、誤字脱字・カッコ書きの扱いの誤り、話し言葉の混入、「です・ます」調の文章、文字数の極端な過不足（±10%超を目安とする）はないか。

なお、文体はテキストに関わらず「だ・である」調でまとめること。また、レポート作成の際には事前に下書きを作り、下書き完成後に一読してから修正し、仕上げることを推奨する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストのうち 4 つのレポート課題で指定した章から、ランダムに 1 問出題する。いずれの問題もレポート課題と直接関連するものであるため、レポート作成のための学習と、レポート返却後の復習を計画的に行っていくことが重要である。

レポートを返却する際には、所見欄に試験問題に関わるポイントを示すので、必ず確認すること。レポート課題終了後は、指定箇所、とりわけ各レポート課題について主に述べられている箇所を中心に、テキストを必ず読み直すこと。その際、テキストでの論理の展開を理解することと、レポート課題に関連する用語・概念の意味を必ず調べ、説明できるようにすることが重要である。

なお、これまでの試験では、的外れな記述、意味の通らない文言のつぎはぎ、さらには棄権（白紙）等といった答案が提出され、不合格になる例が相次いでいる。いずれもテキストを十分に読み込めておらず、内容を理解できていないことが原因と考えられる。そうならないためにも、課題終了後も決して気を抜かず、復習に努めること。

科目修了試験の評価基準

評価は以下の 4 つの基準によって行う。
①設題に対応した内容になっているか（設題とは無関係の記述が入り込んでいないか）。
②テキストの内容に基づいた記述になっているか（テキストから導き出せない議論、矛盾する内容がないか）。
③論理構成は適切か（論旨が一貫しているか、意味の通らない内容になっていないか）。
④答案用紙の使い方は適切か（誤字脱字・カッコ書き等の扱いの誤り、話し言葉の混入、「です・ます」調の文章はないか）。

以上の基準のうち、①から③が評価の中心となる。④については、特に目立つ場合に減点対象とする。ただし、長文の解答でも①から③に照らして不十分であれば合格点が得られない一方、短くとも十分な解答であれば合格点を得ることが可能である。

参考文献

・筒井淳也　前田泰樹　『社会学入門』　有斐閣
・岸雅彦　北田暁大　筒井淳也　稲葉振一郎　『社会学はどこから来てどこへ行くのか』　有斐閣

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10017	科目名［単位数／学習時間］	地理学［4単位／180時間］	科目担当	今井　良一
テキスト	●今井良一　『環境教育学と地理学の接点　増補改訂版』　ブイツーソリューション				
ISBN	生協のみで販売	本体価格（円）（2022年1月現在）	1,250	生協テキストNo.	22016
生協へお申し込みください					

科目の目的

環境問題は、私たちが早急に解決しなければならない問題である。地理学は自然と人文両方にまたがるほとんど唯一の学問分野であり、環境問題を理解するのに最も適している。したがって、地理学こそ環境問題の解決にむけて積極的に貢献しなければならない。本科目では、地球温暖化や人口問題、輸入食品の氾濫、水質汚染、放射能汚染などの諸問題が、私たちにいかなる影響をおよぼしているかを知るとともに、「環境問題の本質」を理解して、環境問題を解決する行動力を身につけることを目的とする。

到達目標

必ず次の点を念頭に考察すること。

①環境問題に限らず、多くの問題が社会的弱者や生理的弱者、特に子どもに深刻な被害をもたらすということに常に思いをはせる。②できるだけ多角的な視野からものごとをとらえる能力を養う（たとえば、地球温暖化の原因やその解決の方法を車のみに求めるという狭い視野ではなく、農業のあり方や私たちの食生活のあり方など、様々な視点から考えてみてほしい）。私たちの大量生産・大量消費・大量廃棄社会のあり方がいかに環境を悪化させているかをしっかりと認識する。③環境問題の理解と解決に対して、従来の地理学がいかに役立つかを知るとともに、その限界を知り、さらに今後の地理学のあり方について考える。

学習テーマ

1	ケッペンの気候区分について【世界にはどのような気候があるかを理解する。】
2	地球温暖化について【地球温暖化による被害としてどのようなものがあるか、また地球温暖化の原因となる様々な温室効果ガスの性質について理解する。】
3	地球温暖化対策について【家庭からの温室効果ガスの主要な発生源である車について理解するとともに、地球温暖化対策の難しさについて理解する。】
4	世界における穀物生産について【世界で、なぜ多数の飢餓人口が存在するのかを理解する。】
5	日本の食料事情について【なぜ日本では食料自給率が低いのかを理解する。】
6	日本による食料輸入の実態について【日本が食料を大量に輸入していることが、どのような被害をもたらしているかについて理解する。】
7	日本農業の実態について【農業の縮小によって何が失われるのかを理解する（農業の多面的機能について理解する）。】
8	国土保全の方法について【農（生産）と食（消費）の視点から、国土保全の方法について理解する。】
9	砂漠化について【砂漠化進行の深刻さとその理由について理解する。】
10	日本における水質の悪化について【水質汚染の深刻さとその理由について理解する。】
11	水質改善対策について【水質を改善するための生活のあり方について理解する。】
12	放射線について【放射線の種類や性質について理解する。】
13	放射線による人体への影響【人間はどれだけ放射線を浴びても大丈夫なのかについて理解する。】
14	原子力発電所誘致による影響について【日本における原子力発電所の立地条件とともに、原発を誘致することで、その地域の農漁業にどのような影響をおよぼすのかを理解する。】
15	内部被曝について【内部被曝の脅威とともに、放射線が子どもになぜ深刻な被害をもたらすのかを理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

様々な温室効果ガスの性質について詳しく説明せよ。

第2課題

日本で、原子力発電所が立地する自治体ではほぼ例外なく過疎化が進む理由について詳しく説明せよ。

第3課題

水を汚さないために、私たちが心がけるべきことについて詳しく説明せよ。

第4課題

安全・安心な食を手に入れるためになされるべきことについて詳しく説明せよ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

・温室効果ガスの性質については、テキストpp.26-28を参照のこと。
・温室効果ガスの排出源についても、自動車（テキストpp.33-34）、食生活のあり方（テキストpp.70-71）、水利用のあり方（テキストp.98）を念頭に記述すること（多角的に物事を見るということを念頭に）。

第 2 課題の留意点

・テキストpp.115-119を参照のこと。
・原発を再稼働させるべきか否かについて、必ず自分の意見を述べること。

第 3 課題の留意点

・なぜ水が汚れているのか（テキストpp.89-96を参照）。
・その結果、どのような対策が必要なのか（テキストpp.98-100）の順に記述するとわかりやすい。

第 4 課題の留意点

・テキストpp.76-82を参照のこと。
・「環境保全型農業」や「地産地消」、「農業の多面的機能」について必ず触れること。

レポートの評価基準

主に、次の点を基準に評価する。
・課題に対して、できるだけ具体的に、そして論理的に記述していること。
・文字数は1,800字以上2,000字以下とすること。
・「各課題の留意点」を踏まえて記述していること。
・引用文献を必ず明示すること。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「科目の目的」および「到達目標」をしっかり認識した上で、テキストをよく読む（特に、テキストのpp.18-28、pp.30-38、pp.47-82、pp.83-86、pp.89-100、pp.104-127を熟読のこと）とともに、特にレポート課題の内容について理解を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明できているか否かを中心に評価する。テキストの内容、「科目の目的」、「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに、自らの経験や自説を記述しても評価しない。もちろん、それらの事項を踏まえた上であれば、自説等を展開しても差し支えない。（むしろ望ましい。）
・設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていることと、解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。
・試験は論述問題 2 題（60点＋40点）の配点で採点する。前述のとおり、テキスト学習により得た基礎的なことを説明した上で、自分の考えを取り入れて作成された答案ほど高得点となる。

参考文献

・今井清一　今井良一 『環境教育論　現代社会と生活環境』 鳥影社
・江守正多 『地球温暖化はどれくらい「怖い」か？　温暖化リスクの全体像を探る』 技術評論社
・杉浦俊彦 『温暖化が進むと「農業」「食料」はどうなるのか？』 技術評論社
・鈴木宣弘　木下順子 『食料を読む』 日本経済新聞出版社
・池本廣希 『地産地消の経済学　生命系の世界からみた環境と経済』 新泉社
・生源寺眞一 『日本農業の真実』 筑摩書房
・中島紀一 『食べものと農業はおカネだけでは測れない』 コモンズ
・田代洋一 『反TPPの農業再建論』 筑波書房
・斎藤勝裕 『知っておきたい放射能の基礎知識』 ソフトバンククリエイティブ
・小出裕章　黒部信一 『原発・放射能　子どもが危ない』 文藝春秋
・河野直践 『食・農・環境の経済学』 七つ森書館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10018	科目名［単位数／学習時間］	文化人類学［4単位／180時間］	科目担当	未定（「親和通信」で連絡）
テキスト	●梅屋潔　シンジルト　『新版　文化人類学のレッスン　フィールドからの出発』　学陽書房				
ISBN	9784313340268	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	22017

科目の目的

文化人類学は、世界におよそ5,000と言われる諸民族の社会と文化を対象として、比較研究によってその多様性と共通性を明らかにすることを目的としてきた。本科目では、9つの国や地域での事例と研究を基に文化人類学の理論史をとおして、以下のテーマについて具体的に学ぶ。

1.文化と未来　2.フィールドワークと文化人類学　3.動物と人間　4.環境と生活
5.セクシュアリティとジェンダー　6.家族と親族　7.民族と国家　8.儀礼と分類　9.宗教と呪術
10.交換と経済　11.グローバル・イシューと周辺社会

到達目標

21世紀の現在、科学と通信技術の発展と普及は情報やニュース画像を容易く伝達し、人・もの・情報の大規模な移動もまた地域や国を越えて展開している。このようなグローバル化の結果、多くの地域で多民族・多文化状況が出現し、一方でボーダーレス（境界を越えること、越境）に普遍性を求める動きが進むとともに、他方では民族・人種・宗教・文化などをめぐって紛争が多発し、逆に民族差別や境界を強化するボーダーフル（宗教・人種・民族などの違いを強調すること）な状況も起きている。

文化の違いは国際関係を左右する重要な要素になったり、また、文化や社会構造の多様性が資源として認識され、観光開発や貧困解消政策に利用されたりもする。そのため、文化の体系的な比較研究と異文化理解は、現代社会を生きるうえで最も重要な課題になっている。本科目では、文化人類学の基礎理論を学び、現代の文化の問題についての理解をめざす。

学習テーマ

1	Lesson 1　文化と未来【学習のポイント：文化人類学とはどのような学問であるのかを大まかに理解する。】
2	Lesson 1　④から⑥まで【学習のポイント：自文化中心主義の意味をしっかりと理解する。】
3	Lesson 2　フィールドワークと文化人類学【学習のポイント：文化人類学の研究手法を理解する。】
4	Lesson 3　動物と人間【学習のポイント：霊長類とヒトの関わりを考え、理解する。】
5	Lesson 3　③から④まで【学習のポイント：霊長類とヒトの文化を学び、文化を広く理解する。】
6	Lesson 4　環境と生活【学習のポイント：文化の多様性を環境の視点から考え、理解する。】
7	Lesson 5　セクシュアリティとジェンダー【学習のポイント：日本語「性」の3つの用語で考える。】
8	Lesson 5　ライフステージにおけるジェンダー【学習のポイント：ケニアの事例を具体的に学び理解する。】
9	Lesson 6　家族と親族【学習のポイント：家族について考え、家族の形を理解する。】
10	Lesson 6　④から⑥まで【学習のポイント：世界のさまざまな家族と親族の形態を学び、理解する。】
11	Lesson 7　民族と国家【学習のポイント：集団意識はどのように生まれるのかを考え、理解する。】
12	Lesson 8　儀礼と分類【学習のポイント：人の一生が儀礼で区切られ、成り立っていることを理解する。】
13	Lesson 9　宗教と呪術【学習のポイント：日常生活における宗教から世界各地の宗教を学び、考える。】
14	Lesson10　交換と経済【学習のポイント：何を交換するのかという価値観から文化、社会と経済を考える。】
15	Lesson11　グローバル・イシューと周辺社会【学習のポイント：文化人類学を学ぶ意義を考える。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

科目名ともなっている「文化人類学」と、その研究手法であるフィールドワークとの関係について、歴史的経緯とともに説明しなさい。

第2課題

人類のつくりだした多様な出自集団について説明しなさい。

第3課題

「文化」について、これまで文化人類学のなかで述べられてきた理論を説明し、それに対しての自分の考えを述べよ。

第4課題

ジェンダーとはどういうものか説明し、最近の話題、あるいは自分自身の体験などをとおして、ジェンダーについての自分の考えを述べよ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

まず、テキストの Lesson 1 と Lesson 2 を熟読する。難しい語句に出会ったら、まずその語句の意味を調べる。そして、各 Lesson の後ろに載っている参考文献などにも目を通す。そうすることで、文化人類学がどのようにして誕生した学問であるのかがわかると思う。そして、その文化人類学において、フィールドワークがどのような考えのもとで生まれ、いかに大切であるかを理解する。

第 2 課題の留意点

近年は崩れてきたが、日本では伝統的に「家」という制度があった。その制度では、女性は結婚するときに実家を離れて夫の家に嫁ぎ、結婚後は夫の家の姓を名乗るのに対して、男性は、終生、父と同じ家の成員として過ごし、父と同じ姓を名乗ってきた。こうした仕組みは、父系的という言い方で表されることもあるが、世界には、日本では考えられないような親族構成を持ったさまざまな社会が存在する。特にテキストの Lesson 6 の「家族と親族」をよく読んで、多くの文化人類学的議論の的になった出自集団について考える。

第 3 課題の留意点

私たちは普段、自身の「文化」を意識せずに暮らしている。しかし、当たり前だと思って過ごす日常生活は、異文化圏に暮らす人びとから見た場合、不思議に映ったり変だと感じたりすることがある。つまり互いが育ってきた「文化」の違いは、多くの見方が存在していることを教えてくれる。テキスト全体にわたって、文化の言葉は多く出てくるので、ここで改めて「文化」について考える。特にテキストの Lesson 1 とLesson 11を中心に、「文化」がどのような状況にあるのか、事例とこれまでの研究に基づいて「文化」という言葉の歴史的背景などを学ぶ。

第 4 課題の留意点

日本語では「性」と一語で示される言葉が、英語ではセックス、ジェンダー、セクシュアリティと 3 つの用語で表される。特にジェンダーについては、男と女の違いについて生物学的な性差と社会文化的要素による性差というように、約60年前から議論が始まっている。まず、テキストを精読してジェンダーについて要約する。そのあとに、自身の体験、LGBTやパートナーシップの制度などについてもニュースや映像などをとおして、あなたがジェンダーについてどう感じて、どのように考えているのかを述べる。

レポートの評価基準

テキストの文章をそのまま写しても点数にはならない。テキストを基にして、わかりやすくまとめること。
次の 3 点を評価の基準とする。

- 課題の意図を理解して、論述している。
- 誤字脱字がなく、書き始めと内容が変わるときに段落を下げる、行を変えるなど、他人に読ませることを意識して丁寧に作成している。
- 自分の考えを必ず述べている。そして、自分の考えを相手が理解できるように記述している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読み返すこと。各単元のキーワードの意味を覚えるように努める。特に「(文化) 人類学の歴史・民族・文化・ジェンダー・宗教・グローバル化・家族・儀式」については、語句の意味のみならず、普段から新聞、ニュースといったメディアをとおして、世界の政治・経済・社会情勢に関心を向けて、自分の考えを持つように心がける。そして理解した範囲で、自分の言葉でもって、答案を書く努力をしてほしい。

答案は、テキストに書かれてあることを暗記して記述するだけではなく、設題に関連して自身の身近な友人や家族と話して考えたり感じたりしたこと、話題になっているニュース、あるいはこれまでに見た映像などを具体的な例として、答案を書くのもよい。テキストの内容と比較しながら考えると、答案としてまとめやすくなる。

科目修了試験の評価基準

設題の意図を正しく理解し、テキストの内容をふまえてキーワードや事例を用いて論述ができているかどうかを中心に評価する。

「科目の目的」、「到達目標」などに記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説だけを記入しても評価しない。文字数は800字以上あること。

参考文献

- 綾部恒雄　『文化人類学のフロンティア』　ミネルヴァ書房
- 太田好信　浜本満　『メイキング文化人類学』　世界思想社
- 綾部恒雄　『文化人類学20の理論』　弘文堂

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」(本冊子「はじめに」のXVIII) を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10019	科目名[単位数/学習時間]	数学［4単位／180時間］	科目担当	馬場　裕
テキスト	●岡本和夫　『新版　基礎数学　改訂版』　実教出版				
ISBN	9784407348873	本体価格(円)(2022年1月現在)	1,800	生協テキストNo.	22018

科目の目的

本科目は、大学文系の学生が最低でも身につけておくべき教養としての基礎数学を学習する。高校数学の学習が不十分な学生やずっと以前に数学を学習して再学習をしたい学生にも十分理解できる内容である。具体的には高校1年程度の数学で、「数と式、2次関数とグラフ」「方程式・不等式」「高次方程式・式と証明」「関数とグラフ」「指数関数・対数関数」「三角関数」「図形と方程式」「集合・場合の数・命題」である。

到達目標

1章　計算の規則を理解し、式の特徴をつかみ公式を利用して計算することを学ぶ。
2章　2次関数のグラフ、方程式や不等式について学ぶ。
3章　剰余の定理、因数定理について学ぶ。
4章　べき関数、分数関数、無理関数を理解し、簡単なグラフが描けるようにすること。
5章　指数関数、対数関数の基礎を学び簡単なグラフが描けるようにすること。
6章　三角関数の基礎を学習し、加法定理についても学ぶ。
7章　円や楕円の図形を方程式で表すことを学ぶ。
8章　場合の数、順列・組合せ・命題について理解する。

学習テーマ

1	整式の加法・減法・因数分解の手順を習得する。＜テキスト pp.8-19 ＞
2	整式の除法、分数式の計算、平方根の計算方法を習得する。＜テキスト pp.20-31 ＞
3	2次関数のグラフを描いて最大値、最小値を求めることを学習する。＜テキスト pp.34-46 ＞
4	2次方程式、2次不等式の解き方を学習する。＜テキスト pp.48-72 ＞
5	剰余の定理と因数定理について理解すること。＜テキスト pp.76-89 ＞
6	べき関数・分数関数について理解し、簡単なグラフが描けるようになること。＜テキスト pp.92-96 ＞
7	無理関数・逆関数について理解し、簡単なグラフが描けるようになること。＜テキスト pp.97-103 ＞
8	指数関数とは何かを理解し、簡単なグラフが描けるようになること。＜テキスト pp.106-115 ＞
9	対数関数とは何かを理解し、簡単なグラフが描けるようになること。＜テキスト pp.117-127 ＞
10	sin, cos, tan の三角関数の基本を理解すること。＜テキスト pp.132-147 ＞
11	三角関数のグラフが描けるようになること、また加法定理について理解する。＜テキスト pp.150-171 ＞
12	座標平面上の点と直線について学習する。＜テキスト pp.178-184 ＞
13	円、放物線、楕円の方程式の基礎を学習する。＜テキスト pp.190-205 ＞
14	集合と要素について学習する。ド・モルガンの法則を覚えること。＜テキスト pp.216-222 ＞
15	順列・組合せの基礎を学習する。命題の逆・裏・対偶についても学習する。＜テキスト pp.223-245 ＞

レポートについて　ワープロソフト使用可

自筆でレポートを作成する場合も、A4用紙の白紙を用いること。なお、計算、表、図（グラフなど）については鉛筆書きを認める。ワープロソフト使用、自筆のいずれの場合も答えのみの解答は認めない。解答のプロセス（途中の計算過程など）を詳しく述べること。（電卓は用いないこと、Excel などの表計算ソフトを用いることは認めない。）ページ番号をつけること。

第1課題（数と式）

（1）次の式を展開せよ。
① $(3x+y)^2$　② $(2x+y)(2x-y)$　③ $(2x+1)^3$　④ $(x-2y)^3$

（2）次の式を因数分解せよ。
① x^2-4x+4　② $9x^2-16$　③ x^3-27　④ $x^2-4x-21$

（3）次の値を求めよ。
① $|5-7|$　② $\sqrt{(1-\sqrt{5})^2}$

（4）次の計算をせよ。
① $(3+\sqrt{2})(5-2\sqrt{2})$　② $(\sqrt{3}+1)^3$

(5) 分母を有理化して式を計算せよ。

① $\dfrac{\sqrt{3}}{1-\sqrt{3}}$　　② $\dfrac{1}{1+\sqrt{2}-\sqrt{3}}$

(6) $X=\dfrac{1+\sqrt{3}}{1+\sqrt{2}}$　$Y=\dfrac{1-\sqrt{3}}{1-\sqrt{2}}$ のとき、次の値を求めよ。

① $X+Y$　　② XY

第 2 課題（2 次関数とグラフ、方程式と不等式）

(1) 次の二次関数の頂点の座標を求め、そのグラフを描け。

$y=-x^2+1$

(2) 次の二次関数のグラフを描いて最大値と最小値を求めよ。

$y=x^2-2x-3$　　$(-1 \leqq x \leqq 4)$

(3) 頂点が点 $(1,-1)$ で点 $(0,-4)$ を通る二次関数を求めよ。

(4) グラフが 3 点 $(-3, 4)(1, 0)(2,-6)$ を通るとき、その二次関数を求めよ。

(5) 解の公式を用いて次の 2 次方程式を解け。

① $x^2-7x+9=0$　　② $2x^2-3x-1=0$

(6) 二次方程式 $x^2-8x+7=0$ の二つの解を a, β とするとき、次の式の値を求めよ。

① $\dfrac{1}{a}+\dfrac{1}{\beta}$　　② $(a-\beta)^2$

第 3 課題（指数関数、対数関数、三角関数）

(1) 次の計算をせよ。

① 3^{-3}　　② 5^0

(2) 次の計算をせよ。

① $x^4 \times x^{-2} \div x$　　② $(x^3y^2)^3 \div x^2$

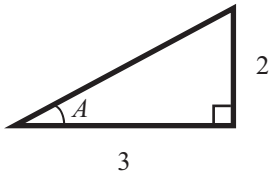
(3) 次の値を求めよ。

① $\sqrt[6]{64}$　　② $\sqrt[3]{3}\sqrt[3]{9}$　　③ $\log_2 16$

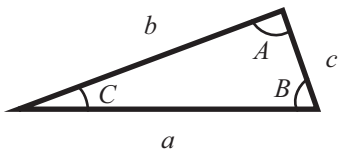
(4) 弧度法であらわされた次の角を度数法で表せ。

① $\dfrac{1}{3}\pi$　　② 2π

(5) 次の直角三角形において $\sin A$, $\cos A$, $\tan A$ の値を求めよ。



(6) 三角形ABCにおいて$a=5$, $b=2\sqrt{3}$, $\angle C=30°$のとき、c の長さを求めよ。



(7) 加法定理を用いて次の値を求めよ。

① $\cos 15°$　　② $\sin 75°$

第 4 課題（図形と方程式、集合、場合の数、命題）

（1）次の二点間の距離を求めよ。
$(2, 3), (4, 6)$

（2）次の直線の方程式を求めよ。
点 $(-1, 4)$ を通り、傾きが -3 の直線

（3）次の円の方程式を求めよ。
中心が点 $(2, 5)$、半径が 5 の円

（4）全体集合 $U = \{1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10\}$ の部分集合 A, B について
$A \cup \overline{B} = \{1, 2, 4, 5, 8, 10\}$
$\overline{A} \cap \overline{B} = \{2, 5, 10\}$
のとき次の集合を求めよ。
① $\overline{A \cup B}$　　② A

（5）順列の問題
①10人のマラソン選手から第一、第二、第三の 3 人の代表を選ぶとき、選び方の総数を求めよ。
② 1 から 5 までの 5 個の数字のすべての順列の総数を求めよ。

（6）組合せの問題
① 8 人の水泳選手から 2 人の代表を選ぶ組合せの数はいくらか。
② ${}_{10}\mathrm{C}_3$ の値を求めよ。

（7）次の命題の逆、裏、対偶を示せ。
$x > 4 \Longrightarrow y \leqq 0$

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

（1）テキストpp.8-13参照　式の展開
（2）テキストpp.14-19参照　因数分解
（3）テキストpp.28-30参照　絶対値と平方根
（4）テキストpp.29-30参照　平方根の計算
（5）テキストp.31参照　分母の有理化
（6）テキストp.31参照　例題 1

第 2 課題の留意点

（1）テキストpp.37-40参照　2 次関数のグラフ作成
（2）テキストpp.45-46参照　2 次関数の最大・最小
（3）テキストpp.43-44参照
（4）テキストpp.43-44参照
（5）テキストpp.48-49参照　解の公式
（6）テキストpp.56-57参照　2 次方程式の解と係数の関係

第 3 課題の留意点

（1）テキストpp.106-107参照
（2）テキストpp.106-107参照
（3）テキストpp.108-110参照
（4）テキストpp.150-151参照　弧度法と度数法
（5）テキストpp.132-133参照　三角関数
（6）テキストpp.144-145参照　余弦定理
（7）テキストpp.168-170参照　加法定理

第 4 課題の留意点

（1）テキストpp.182-183参照　2 点間の距離
（2）テキストpp.184-185参照
（3）テキストpp.190-191参照　円の方程式
（4）テキストpp.216-222参照　集合
（5）テキストpp.225-227参照　順列
（6）テキストpp.230-232参照　組合せ
（7）テキストpp.244-245参照　命題

レポートの評価基準

答えだけでなく途中のプロセスも書いておくこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・答えだけでなく解法のプロセスも書くこと。
・レポート課題を復習しておくこと。

科目修了試験の評価基準

各設題にきちんと解答できていること。答えだけでなくプロセスも含めて解答できているかがポイントとなる。

参考文献

高等学校数学教科書、参考書など

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10020	科目名［単位数／学習時間］	生物学［4単位／180時間］	科目担当	未定（「親和通信」で連絡）
テキスト	●桑村哲生 『生命の意味 進化生態からみた教養の生物学』 裳華房				
ISBN	9784785350482	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	22019

科目の目的

本科目のテーマは「生物の進化と適応」である。生物がさまざまな興味深い姿形になり、また振る舞いをする理由についての理解をめざす。地球上のあらゆる生物は、それぞれの生息環境や生活様式にうまく適応しながら生きている。この生物の適応現象は長い進化の歴史を経て生まれてきたものであり、その背景には何らかの合理的な理由が存在するはずである。このような進化生物学的な視点を習得することで、人間の行動や社会、文化などの適応的な意義についても考えられるようになってほしい。

到達目標

本科目では、以下の4項目について重点的に学習する。

①なぜ地球に生物がいるのか。
生命の定義と起源、異なる生物どうしの種間関係、大絶滅と地球環境の変化などについて理解する。

②なぜ生物は進化するのか。
遺伝子の構造と働き、自然淘汰による進化のしくみ、適応戦略論、種分化などについて理解する。

③なぜ性が必要になったのか。
無性生殖と有性生殖、性の起源、性決定様式、性比の理論、性差の進化などについて理解する。

④なぜ生物は利他的にふるまえるのか。
子の保護の進化、利他行動の進化、類人猿と人類の社会、遺伝子と文化などについて理解する。

学習テーマ

1	生物の定義とは【学習のポイント：生物と無生物の違いを理解する。＜テキストpp. 1 - 4 ＞】
2	生物の起源とは①【学習のポイント：原始地球と初期の生命について理解する。＜テキストpp. 5 -10＞】
3	生物の起源とは②【学習のポイント：遺伝子の構造と起源について理解する。＜テキストpp.35-44＞】
4	生物の歴史とは【学習のポイント：光合成生物の誕生や絶滅について理解する。＜テキストpp.11-34＞】
5	生物の進化とは①【学習のポイント：遺伝のしくみについて理解する。＜テキストpp.35-50＞】
6	生物の進化とは②【学習のポイント：突然変異と自然選択について理解する。＜テキストpp.51-58＞】
7	生物の進化とは③【学習のポイント：適応度について理解する。＜テキストpp.59-66＞】
8	生物の進化とは④【学習のポイント：最適戦略と種分化について理解する。＜テキストpp.67-83＞】
9	生物の性とは①【学習のポイント：性と生殖について理解する。＜テキストpp.85-95＞】
10	生物の性とは②【学習のポイント：性の起源について理解する。＜テキストpp.96-102＞】
11	生物の性とは③【学習のポイント：性決定と性比について理解する。＜テキストpp.103-113＞】
12	生物の性とは④【学習のポイント：性差の進化について理解する。＜テキストpp.114-121＞】
13	生物の社会とは①【学習のポイント：子の保護の進化について理解する。＜テキストpp.123-131＞】
14	生物の社会とは②【学習のポイント：利他行動の進化について理解する。＜テキストpp.132-145＞】
15	生物の社会とは③【学習のポイント：人類の社会について理解する。＜テキストpp.146-164＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

生態系を構成する生物どうしの種間関係について、具体例をあげて説明せよ。

第2課題

自然選択（自然淘汰）による生物の進化のしくみについて、具体例をあげて説明せよ。

第3課題

性（雄と雌）はなぜ存在するのか、その起源とメリットについて説明せよ。また、性決定様式にはどのようなタイプがあるのか、具体例をあげて説明せよ。

第4課題

ミツバチの働きバチは、なぜ自分では子を残さないで女王や弟妹の世話をするのか。血縁選択説に基づいて、この利他行動の進化のしくみについて説明せよ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

種間関係の主なタイプを 3 つあげ、それぞれの種間関係について個別に記述すること。具体例はテキストで紹介されているものにこだわらず、自分でも積極的に探してみること。

課題内容について身近な人に問われたときに、「どのように説明したら伝わるのか」を考えながら学習すると、より理解が深まりレポートとしてもまとめやすくなるはずである（第 2 課題～第 4 課題についても同様）。

第 2 課題の留意点

まず、進化の定義について簡潔に述べ、次に、自然選択により進化が起こるプロセスについて「遺伝子の突然変異」と「適応度」の観点から記述すること。テキストで紹介されているオオシモフリエダシャクの体色変化を具体例として用いてもよいが、その際、テキストの抜粋にならないようにできるだけ自分の言葉に直して説明すること。

第 3 課題の留意点

前半は、「無性生殖のデメリット」「有性生殖のメリット」「同形配偶子から異形配偶子への進化」について考えること。後半は、「遺伝的に性が決まる場合」と「環境条件で性が決まる場合」について記述すること。具体例はテキストで紹介されているものにこだわらず、自分でも積極的に探してみること。

第 4 課題の留意点

まず、ミツバチの社会について簡潔に述べよ。次に、働きバチが母親の繁殖の手助けに専念する理由について、「血縁度」と「包括適応度」の観点から記述すること。その際、できるだけテキストの抜粋にならないように自分の言葉に直した説明を心がけること。

レポートの評価基準

以下の 3 点を評価基準とする。

- 「各課題の留意点」の内容を含み、課題に対して情報の過不足なく的確に論述している。
- 単にテキストを抜粋するのではなく、自分の考えや表現にもとづいて記述している。
- 参考文献やインターネット等から引用をする際には、脚注などで出典を明示している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全般が出題範囲である。レポート課題の復習をまずは怠らず、テキスト巻末の「各章の復習問題」についてもよく学習しておくこと。特に、個体の利益や適応度を中心にした考え（自然選択、性選択、血縁選択）は正しく理解しておくこと。

答案の作成に際しては、具体的な例をあげながら、論理的な説明を心がけること。

科目修了試験の評価基準

設題内容を正しく理解した上で論理的に記述できているかどうかを中心に評価する。文字数は特に定めないが、解答内容に過不足がないように注意すること。

参考文献

- 長谷川眞理子　『進化とはなんだろうか』　岩波書店
- カール・ジンマー　ダグラス・J・エムレン　『カラー図解　進化の教科書　第 1 ～ 3 巻』　講談社

その他、テキストの巻末にも多数紹介されている

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10021	科目名[単位数/学習時間]	栄養学［4単位／180時間］	科目担当	廣田　有加里
テキスト	●中村丁次 『楽しくわかる栄養学』 羊土社				
ISBN	9784758108997	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,600	生協テキストNo.	22020
実務経験のある教員による科目	管理栄養士（企業、福祉、医療分野での健康管理業務）				

科目の目的

近年、私たちを取り巻く生活環境、社会環境の変化とともに食事の内容が大きく変化してきている。このような状況の中で、栄養情報が氾濫し、「何をどのように食べるか」といった健康や食生活に関する情報の取捨選択能力が求められている。心身の成長・発達が急速に進む乳幼児期の栄養状態は、その後の肥満や生活習慣病などと関連があることが報告されていることから、一人ひとりが自らの健康を守る意識と行動を抜きにしては効果的な健康づくりは望めない。自分の健康を自身で守るためのツールとして栄養の知識を習得する。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・健康づくりの時代に、一人ひとりが自分の健康を自身で守るためのツールとしての知識を身につけることにより、積極的に取り組む努力をすることができる。
・各栄養素の構造と機能、消化と吸収のメカニズム、エネルギー代謝、栄養状態の評価、人体の構造と生理機能などの概要を説明できる。
・ライフステージの特定の時期に重要となる栄養素について考え、自らの生活習慣に生かすことができる。
・健康栄養情報を正しく認識し、健康に役立てることができる。

学習テーマ

1	人体の構成成分と保健、医療、福祉と栄養素の関連性について【学習のポイント:栄養と人体の関係および保健、医療、福祉における栄養の役割を学び、健康に生活するための知識を身につける。】
2	五大栄養素の種類と働きについて【学習のポイント：五大栄養素の種類と働きについて理解し、欠乏症や過剰症について理解する。】
3	食欲中枢とその調節の役割および栄養素の消化・吸収・排泄について【学習のポイント：食欲と口から摂取した栄養素がどのように消化管内で分解され、消化・吸収・排泄のメカニズムを理解する。】
4	栄養素の代謝について①【学習のポイント：たんぱく質および脂質の代謝のしくみについて理解し、体内でどのように変化し、どのような役割をなしているかを理解する。】
5	栄養素の代謝について②【学習のポイント:炭水化物、ビタミンおよびミネラルの代謝のしくみについて理解し、体内での変化や役割を理解する。】
6	人体のエネルギー代謝のしくみと食品の摂取方法について【学習のポイント：食物から摂取したエネルギーを体内でどのように利用されるかを理解する。】
7	妊娠期、授乳期および発育期の生理的特徴と栄養管理について【学習のポイント：妊娠期、授乳期および乳幼児期の身体的な変化を理解し、それぞれの時期の注意点を理解する。】
8	成人期および高齢期の生理的特徴と栄養管理について【学習のポイント：学童期、思春期、成人期および高齢期の身体的な変化を理解し、それぞれの時期の注意点を理解する。】
9	栄養アセスメントの必要性と評価の方法について【学習のポイント：栄養状態を評価する意義と判定する方法を理解する。】
10	傷病者の栄養ケアについて①【学習のポイント：肥満、痩せ、糖尿病における栄養管理について学び、理解する。】
11	傷病者の栄養ケアについて②【学習のポイント：脂質異常症、高血圧症、貧血における栄養管理について学び、理解する。】
12	傷病者の栄養ケアについて③【学習のポイント：食物アレルギー、がんにおける栄養管理および栄養補給について学び、理解する。】
13	病態と適切な食事療法について【学習のポイント：運動時の栄養管理、ストレスによる食欲のメカニズムおよび免疫機能について理解する。】
14	特別用途食品と保健機能食品について【学習のポイント：特別用途食品の種類と保健機能食品の表示を理解し活用法を身につける。】
15	健康づくりとこれからの栄養について【学習のポイント：国民の健康づくりを目的とした健康・栄養政策の基本を学び、これからの栄養問題について考え、理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

人体の成り立ちと摂取する食物の成分について述べよ。

第2課題

エネルギー代謝の種類としくみについて述べよ。

第3課題

高齢期の生理的特徴と栄養管理について述べよ。

第4課題

栄養アセスメントの意義と評価について述べよ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

食物に含まれるさまざまな成分と、これを分解・合成により体の成分に変えていく人体の営みを理解することで、日本人の死因の半数以上が生活習慣病に関わっている根拠を理解する。テキスト第 1 - 2 章pp.18-54を含め多数の参考文献に目を通し、理解を深め論理的に記述する。まとめとして、レポートを通して学んだことを自分なりの視点を持って課題を考察する。

第 2 課題の留意点

ヒトは生命のエネルギーを獲得し、体内で消費しながら生命活動を営んでいるが、過不足が生じると健康を損なう。そこで、栄養学の基本である人体のエネルギー代謝のしくみを理解する。テキスト第 4 章pp.88-97を含め多数の参考文献に目を通し、論理的に記述する。まとめとして、レポートを通して、適切な食物の摂取方法など自分なりの視点を持って課題を考察する。

第 3 課題の留意点

高齢期は、加齢とともに発症しやすい病気が異なってくる。高齢期の生理的特徴と栄養管理の重要性を理解することで、適正に対応するために必要なことを考える。テキスト第 5 章pp.116-120を含め多数の参考文献に目を通し、理解を深め論理的に記述する。まとめとして、レポートを通して学んだことを自分なりの視点を持って課題を考察する。

第 4 課題の留意点

栄養アセスメントの種類と指標を調べて、各種類の特徴と評価方法を理解する。テキスト第 6 章pp.122-138を含め多数の参考文献に目を通し、理解を深め論理的に記述する。まとめとして、レポートを通して学んだことを自分なりの視点を持って課題を考察する。

レポートの評価基準

・レポートの基本的な構成（序論、本論、結論）に沿って記述している。
・レポートの課題を理解した上で、論理的に、わかりやすく展開されている。
・専門用語の意味などについて、正確に理解し、科学的根拠に基づいて記述している。
・引用、出典が明示され、引用した部分については、「 」でくくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年・引用ページ（引用の場合）を挙げて明示している。
・インターネットで入手した資料を引用・参照する場合は、作成者名、情報源、データベース名、入手先URL、入手日付を明示している。ただし、官公庁および学会の公式サイトに限り認める。
・論文については、著者名、“論文のタイトル”、雑誌名、出版年、巻号、ページの範囲を明示している。
・読み手を意識して丁寧に作成している。また、誤字・脱字がなく、適切な語彙を用いている。

以上の項目について概ね述べられていればC以上（合格）の評価とする。

※「まる写し」、「引き写し」、「コピペ」は盗作であり、犯罪である。レポートを作成する上で、もっとも許されない重大なルール違反である点をよく理解しておくこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・食品に含まれる栄養素の種類や特徴と身体での役割を理解することは、生命を維持するためには重要であることから、栄養に関する基本的知識の理解を深めておく。（テキストpp.31-35、pp.40-43、pp.48-51、p.71、pp.82-85、参考文献『日本人の食事摂取基準（2020年版）』、『ｅ-ヘルシーネット』など）
・消化器官および排泄機能の発達の基本的知識の理解を深めておく。（テキストpp.62-86、参考文献『ｅ-ヘルシーネット』など）
・妊婦の栄養状態が、胎児の発育だけでなく、産まれてくる子どもの生活習慣病の発症リスクに大きく影響する可能性があることから、生理的特徴と食生活の留意点などの理解を深めておく。（テキストpp.99-104、参考文献『妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針』など）
・発育・発達が著しい時期の食生活は、将来の健康状態に影響を及ぼすことから、ライフステージごとの生理的特徴と栄養管理について理解を深める。（テキストpp.104-113、参考文献『子どもの生活と現状』、『ライフステージ別の現状と取組』など）
・消費者が安心して、食品の選択ができるよう適切な情報提供を行うことや安全性を確保する目的で、さまざまな法律によって健康や栄養に関する表示制度がある。上手に食品を選択する力を身につけるためには、栄養成分表示の見方や機能性が表示されている食品について理解を深めることが重要である。（テキストpp.166-172、参考文献『食品表示について』など）

※現代の食生活の様々な問題と健康について、新しい情報にも関心を持ち、新知見による解答も歓迎する。
キーワード：栄養素の消化・吸収、栄養素の働き、妊娠期、発育期、食品表示

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確な説明と論理的に記述できているかを中心に評価する。
・解答用紙表面の 3 / 4 以上の記述があることを前提として評価する。
・その他設題に関連する記載があれば内容により考慮する。
・字は読みやすく、丁寧に書き、誤字・脱字がなく、適切な語彙を用いている。

以上の項目について概ね述べられていれば60点～100点（合格）の範囲で評価する。

参考文献

・五十嵐修 『精選栄養学』 実教出版
・小林修平 『健康づくりの栄養学』 建帛社
・鈴木和春 『ライフステージ栄養学』 光生館
・文部科学省 『子どもの生活と現状』 https://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/katei/08060902/002.pdf
・農林水産省 『ライフステージ別の現状と取組』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h30/h30_h/book/part1/chap1/b1_c1_1_03.html
・厚生労働省 『妊産婦のための食生活指針』 https://www.mhlw.go.jp/content/000776927.pdf
『妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針』 https://www.mhlw.go.jp/content/000776926.pdf
・厚生労働省 『日本人の食事摂取基準（2020年版）』 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_08415.html
・厚生労働省 『e-ヘルシーネット』 https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/food
・厚生労働省 『生活習慣病予防のための健康情報サイト』 https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/
・農林水産省 『食育の推進』 https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/index.html
・消費者庁 『食品表示について』 https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/
※官公庁のWebサイトのみ可。参考文献および引用文献の記載のない健康雑誌や企業等のWebサイトは不可。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10023	科目名[単位数/学習時間]	多文化社会［2単位／90時間］	科目担当	日比野　純一
テキスト	●吉富志津代 『多文化共生社会と外国人コミュニティの力　ゲットー化しない自助組織は存在するか?』 現代人文社				
ISBN	ASIN:B01DKR6VYI	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	Amazonn.co.jpでオンデマンド出版分を購入
実務経験のある教員による科目	特定非営利活動法人（在日外国人への多言語での情報提供事業、多文化共生のコミュニティづくり事業、多様な文化背景を持つ子ども達の育成支援事業など）				

科目の目的

多文化社会とは、多数者とは生活条件の異なる少数者への理解と配慮、少数文化に対する尊重がなされる社会を指し、本科目では、社会の周縁に位置づけられがちな人達（外国人、先住民族、女性、LGBTQ、貧困層、障害者など）の中で、特に外国人及び外国にルーツのある人達に焦点を当て、政治的・社会的・文化的な権利擁護、共存と相互理解について学ぶ。世界の多くの文化について学ぶ科目ではない。多文化共生のコミュニティづくり、多様な文化背景を持つ子ども達の育成支援、在日外国人等の生活相談、多文化共生のアドボカシーといった実務経験を活かして教授する。

到達目標

同質性の居心地の良さとその裏側にある異質な者を外国人、障害者、LGBTQ、ホームレス、被差別部落出身者、先住民族、イスラム教徒などとレッテルを貼り排除してしまう現実が社会には依然として存在する。そこには“異質な者”も自分と同じ一人の人間であり、地域社会における生活者である視点が抜けており、無知とメディアからのステレオ的な情報がそれを後押しする。多文化社会の根幹をなす人権について深く理解し、異文化間対話を促進する力を身につけることが到達目標である。

学習テーマ

1	市民権の拡大について【学習のポイント：国際的な人の移動の現実について理解する。<テキストpp. 1 - 6 >】
2	多文化共生について【学習のポイント：多文化共生という言葉の概念について理解する。<テキストpp. 6 -12>】
3	日本における外国人の現状について【学習のポイント：日本の外国人の受け入れと考え方を理解する。<テキストpp.17-31>】
4	地域社会での多文化共生に向けた活動について【学習のポイント：行政と民間の取り組みについて理解する。<テキストpp.31-52>】
5	ドイツの移民政策について【学習のポイント：移民政策の成果と課題を理解する。<テキストpp.53-63、pp.80-86>】
6	オーストラリアの移民政策について【学習のポイント：移民政策の成果と課題を理解する。<テキストpp.63-71、pp.80-86>】
7	カナダの移民政策について【学習のポイント：多文化政策の先駆性について理解する。<テキストpp.71-76、pp.80-86>】
8	群馬県大泉町の外国人受け入れの実態について【学習のポイント：共生の取り組みについて理解する。<テキストpp.76-86>】
9	社会統合について【学習のポイント：社会統合に向けての重要なポイントについて理解する。<テキストpp.80-86>】
10	兵庫県の多文化共生に向けての取り組みについて①【学習のポイント：行政とNGOの役割について理解する。<テキストpp.87-103>】
11	兵庫県の多文化共生に向けての取り組みについて②【学習のポイント：外国人組織の役割について理解する。<テキストpp.103-114>】
12	兵庫県の多文化共生に向けての取り組みについて③【学習のポイント：関西ブラジル人コミュニティを通して自助組織の必要性と課題について理解する。<テキストpp.114-129>】
13	多文化コミュニティセンターについて【学習のポイント：センターの目的と役割について理解する。<テキストpp.164-176>】
14	外国人労働者について【学習のポイント：日本で働く外国人の現状と課題について理解する。<テキストpp.115-137>】
15	公共政策としての多文化共生について【学習のポイント：公共問題を解決する政策と実践の両立について理解する。<テキストpp.164-176>】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

文化背景や生活条件が異なるなど多様な人々が暮らしている地域（職場、学校を含む）には、どのような課題があり、それを乗り越えて共生していくためには、どのような政策や取り組みが必要であるか、オーストラリアやカナダ、日本の先進事例を参考に記述すること。

第2課題

民族や国籍の違いによってコミュニティが分断されることが往々にして起こる。なぜそうした問題が起こるのか。そしてその問題を解決していくためには、「移民の自助組織」がどんな役割を果たし得るのか記述すること。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキストの第 2 、 3 、 4 、 5 章をよく読んで理解を深めておくこと。とくに第 2 章の多文化社会の先進国であるカナダやオーストラリアなどの取り組みと第 4 章の 2 「兵庫県のコミュニティビジネス事例」及び 3 「外国からの農村花嫁が拓いた地域社会」の具体的な事例とを比較しながら読み込むこと。

第 2 課題の留意点

テキストの第 2 章（全ページ）、第 3 章（とくにpp.87-116）、終章（とくにpp.164-172）をよく読んで、多文化社会の先進国であるドイツ、カナダやオーストラリアなどの取り組みと日本の取り組みを比較し、移民の自助組織についての理解を深めておくこと。さらに、移民を受け入れる側の社会（ホスト社会）の支援活動の事例（第 1 章pp.31-51）や多文化共生社会の中で展開されているコミュニティビジネスの事例（第 4 章pp.130-152）についても理解を深め、移民の自助組織との違いを考察すること。

レポートの評価基準

・文字数は1,800字以上2,000字以下とすること。
・テキストから学んだ内容の理解が十分にできているかについて評価する。
・課題に対して自分の考えを的確に記入できているかについて評価する。
・文献の引用が全体文字数の15%以上を超えるレポートは不合格とする。なお、文献の引用箇所は「 」でくくり、引用文献名等を必ず明示すること。
・漢字を適切に使い、誤字、脱字が無いこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・外国人支援団体と自助組織の役割ついての理解を深めておくこと。
・兵庫県の多文化共生の取り組みについてテキストから考察しておくこと。
・特にテキストの終章は十分に読み込み、理解を深めておくこと。
・テキスト第 2 章の移民政策の国際比較について理解を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

・出題内容を正しく理解し、テキスト学習により得た知識を基本に、論理的に記述できていること。
・設題の主旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明できているかどうかを中心に評価する。
・自らの経験や自説だけを記入しても評価しない。
・指定文字数の90%に達しない場合は評価しない。

参考文献

・吉富志津代 『同級生は外国人!?多文化共生を考えよう①②③』 汐文社
・落合知子 『外国人市民がもたらす異文化間リテラシー NPOと学校、子どもたちの育ちゆく現場から』 現代人文社
・萱野茂 『アイヌの碑』 朝日新聞出版
・田中宏 『在日外国人 法の壁、心の溝』 岩波書店
・毛受敏浩 鈴木江理子 『「多文化パワー」社会 多文化共生を超えて』 明石書店
・駒井洋 鈴木江理子 『東日本大震災と外国人移住者たち』 明石書店
・加藤直樹 『九月、東京の路上で 1923年関東大震災 ジェノサイドの残響』 ころから
・宗田勝也 『誰もが難民になりうる時代に―福島とつながる京都発コミュニティラジオの問いかけ』 現代企画室
・安田浩一 『ネットと愛国』 講談社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10025	科目名[単位数/学習時間]	情報と社会［2単位／90時間］	科目担当	浅田　瞳
テキスト	●駒谷昇一　山川修　『IT Text　一般教育シリーズ　情報とネットワーク社会』　オーム社				
ISBN	9784274211218	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	22021

科目の目的

コンピュータ技術やインターネットの発展に伴い、社会生活も大きく変化しつつある。情報社会の基盤となっている基本的な技術や、人と人とのコミュニケーション方法の変化について理解するとともに、現代の情報システムと企業活動や社会基盤における役割、性質について学ぶ。

到達目標

・コンピュータ技術がどのように発展したのかを記述することができる。
・SNS（Social Network Service）の種類について、その特徴や利用率等について総務省のデータ等を用いながら記述することができる。
・コンピュータ技術の進展によって、日常生活にどのような変化が起きたのか、具体例を用いながら述べることができる。

学習テーマ

1	身近な情報機器の変化【学習のポイント：ICT社会への移行を理解する。＜テキストpp. 2 - 7 ＞】
2	情報の取り扱いの変化【学習のポイント：情報プロシューマ、記憶から検索の流れを理解する。＜テキストpp. 8 -15＞】
3	情報社会の課題【学習のポイント：情報格差、個人情報流出を理解する。＜テキストpp.15-19＞】
4	コミュニケーションの変化【学習のポイント：社会の変化を理解する。＜テキストpp.19-25＞】
5	著作権【学習のポイント：著作権の内容を理解する。＜テキストpp.28-32＞】
6	クリエイティブ・コモンズ【学習のポイント：著作権の新しい流れを理解する。＜テキストpp.32-38＞】
7	ネットワーク上のトラブル【学習のポイント：ネット被害について理解する。＜テキストpp.38-47＞】
8	ネット上のマナー【学習のポイント：ネット上のマナーを理解する。＜テキストpp.47-55＞】
9	ネット上のコミュニケーション【学習のポイント：メディアの違いを理解する。＜テキストpp.62-69＞】
10	GUI【学習のポイント：出力、入力装置について理解する。＜テキストpp.82-95＞】
11	インターネットの歴史【学習のポイント：インターネットの歴史を理解する。＜テキストpp.101-108＞】
12	インターネットサービス【学習のポイント：メール、webサービスを理解する。＜テキストpp.108-117＞】
13	データベース【学習のポイント：データベースの概要を理解する。＜テキストpp.120-132＞】
14	情報システム①【学習のポイント：身近な情報システムを理解する。＜テキストpp.150-161＞】
15	情報システム②【学習のポイント：企業・学校の情報システムを理解する。＜テキストpp.161-170＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

インターネットが普及して社会はどのように変化したであろうか。テキスト部分を参考に説明しなさい。

第2課題

SNSによるトラブルが子どもから大人まで幅広い世代から報告されている。なぜなのか、その理由を説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

インターネットが普及しだしたのは2000年前後からといわれている。そこからの社会の変化についてさまざまな視点から説明すること。

第2課題の留意点

どの世代であってもSNS（Social Network Service）を利用するようになり、それらによるトラブルが数多く報告されるようになった。事例について具体例を説明すること。

レポートの評価基準

課題に対してテキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え・表現で、いかに的確に記述できているかについて評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

現代の社会では生活の様々な場面で情報通信機器やインターネット等の技術を利用したサービスに接している。テキストを熟読しながら、日頃の生活の場面を思い浮かべ、結びつけることにより理解が深まる。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを評価する。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10027	科目名[単位数/学習時間]	国際理解教育論［2単位／90時間］	科目担当	武田　龍樹
テキスト	●田中治彦　三宅隆史　湯本浩之　『SDGsと開発教育―持続可能な開発目標のための学び』　学文社				
ISBN	9784762026492	本体価格(円)(2022年1月現在)	3,000	生協テキストNo.	22022

科目の目的

本科目では、現在私たちが生きている時代の特徴と置かれている状況を知り、人類共通の課題をグローバルな視点から考察する。開発教育は、国際理解や開発援助、多文化共生についての学習にとってきわめて重要である。開発教育に関するテキストを読むことを通じて、一人の地球市民として他者と共に生きていくあり方を探究する。貧富の格差や環境問題、戦争と平和、男女格差、移民や難民といった地球規模の問題を、自らの生活を振り返りながらグローバルな視点をもって考える機会とする。

到達目標

人類共通の課題を知り、これから未来を共にどう生きていけばよいのかを、自分自身の考え方や感じ方、生活の仕方を振り返りながら考えること。地球規模の諸問題を考えるときに不可欠なグローバルな視点や、問題を克服するあり方を模索するために必要な基礎的な知識を、テキストを読み課題にまとめることで身につける。

学習テーマ

1	開発教育とは何か【学習のポイント：開発教育の定義や5つの教育目標を理解する（テキスト第1章pp. 2 - 8 ）。】
2	ローカルとグローバルの関係性【学習のポイント：テキスト第3章「1 地球的（グローバル）と地域（ローカル）の関係」（pp.38-41）を読んで、ローカルな諸問題はグローバルな構造と持つということ、すなわち地球規模の諸問題は私たちの暮らしに結びついているということを知る。】
3	“Think globally, act locally”という言葉を理解する【学習のポイント：テキスト第3章「2 地域の捉え方の変遷」（pp.41-44）を読んで、「構造的に理解するということ」が「対岸の火事的に理解するということ」とどのように異なるのかを把握する。英和辞書を用いて“Think globally, act locally”という言葉の意味を理解する。】
4	グローバル化が地域にもたらす影響【学習のポイント：テキストで取り上げている、タイにおけるエビとマングローブの事例（pp.30-32）や宮城県農村部への大型店の進出の事例（pp.47-48）を読み、それぞれの事例においてグローバリゼーションが私たちの生活にどのように結びついているのかを考える。】
5	自分の食で考える【学習のポイント：あなたが今日食べた食べ物の産地と、それがどこで作られたものなのかを書き出す。】
6	3つの教育アプローチ【学習のポイント：テキスト第2章（pp.18-29）を読んで、開発教育の方法や教材について知る。とくに、「5 開発教育の学びの文脈づくりと地域と世界がつながるカリキュラム」を読み、「相互依存アプローチ」と「参加型学習」、「PRAとアクションリサーチ」という三つの教育アプローチを知る。】
7	SDGs（Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標）とは何か【学習のポイント：SDGsの17の目標と5つの特徴を熟読する。とくに第一の特徴である「貧困の解消」と「環境の保全」をしっかりと把握し、SDGsが先進国にも関係するものであることを理解する（テキスト第4章pp.63-70）。】
8	環境の保全と経済的利益の追求の対立【学習のポイント：テキスト第6章の「2 開発教育の内容としての環境問題」（p.98）と「3 MDGsからSDGsの環境問題」（pp.98-101）を読み、経済的利益の追求が人や環境・社会を押しつぶすという状況を理解する。また、テキストの図6 - 2 （p.100）から、環境問題に向けられた、SDGsの10の目標を確認する。】
9	倫理的消費【学習のポイント：テキスト第6章の「5「エコ」から「エシカル」へ」（pp.103-105）を読み、人や環境・社会に配慮した消費行動（倫理的消費）および環境倫理の評価基準である「エシスコア」の5つのカテゴリーを知る。エシスコアに照らし合わせて、どのような消費行動をとるのが望ましいかを書き出してみる。】
10	貧困と格差について【学習のポイント：テキスト第8章の「1 貧困と格差の現実」（pp.136-142）と「2 貧困の多元性」（pp.143-146）を読み、貧困は単に「お金がない」という状態なのではなく、疎外や社会制度をめぐる問題でもあることを理解する。】
11	SDGsを通じた貧困と格差拡大の克服【学習のポイント：第8章の「4 貧困と格差拡大の克服に向けて」（pp.151-155）を読み、SDGsの目標10「格差是正」の重要性を理解する。貧困と格差拡大は、私たち自身の社会の問題であるとともに、発展途上国などの他の国々と構造的につながっていることを知る。】
12	紛争と平和について【学習のポイント：テキスト第10章の「2 「平和」の意味」（pp.183-185）と「3 平和構築へのアプローチ」（pp.185-190）を熟読し、「構造的暴力」と「積極的平和」という概念を理解する。】
13	移民・難民【学習のポイント：テキスト第14章の「1 難民問題は国際問題か国内問題か」（pp.255-256）と「4 日本にみる国際的な移動」（pp.260-270）を読み、移民や難民の人々が直面する問題が私たちの社会といかに結びついているのかを理解する。】
14	多文化共生社会の実現【学習のポイント：テキスト第14章の「5 日本における多文化共生社会の実現に向けて」（pp.270-271）を読み、難民問題や外国人労働者の背景にある問題が私たちの社会の「構造的暴力」（テキストpp.183-185）であることを知る。それとともに、様々な「外国人」に対する自分の価値観を見つめ直す。】
15	これからの世界と私たち【学習のポイント：テキスト終章「2 グローバル化社会と私たち」（pp.277-280）と「3「居場所の必要性」」（pp.280-283）を読んで、誰にとっても「居場所」のある社会を作るために私たちに何ができるのかを考える。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第 1 課題

開発教育（国際理解教育）の定義と 5 つの教育目標について説明しなさい（1,000字）。
また、SDGs（持続可能な開発目標）の主要な特徴である「貧困の解消」と「環境の保全」について、幾つかの具体的な目標を挙げながら説明しなさい（1,000字）。

第 2 課題

テキスト第 2 章で取り上げられている「エビとマングローブ－タイを事例に」（pp.30-32）を具体例として用いて、以下の項目を説明しなさい（2,000字）。

- グローバリゼーションとは何か。（タイのエビ養殖業が私たちの生活にどのように結びついているか）
- グローバリゼーションが生み出す問題はどのようなものか。（エビの大量消費は、日本の生活やタイの人々の暮らしをどのように変化させたか）
- 問題の克服に向けて、どのような方法がとられたか。（エビ養殖のためのマングローブの伐採と森林の減少に対して、タイと日本の双方でどのような見直しがおこなわれたか）
- その問題はSDGsとどのように関わっているか。（マングローブ林の伐採と森林の減少という問題は、SDGsのどの目標に関係しているか）

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト第 1 章と第 4 章を熟読して、要点をまとめること。

第 2 課題の留意点

テキスト第 3 章をよく読んで、グローバルとローカルの関係性を適切に理解すること。グローバルとローカルの関係性に留意しながら、テキスト第 2 章の「エビとマングローブ－タイを事例に」を読解すること。テキスト第 4 章のSDGsの内容と照らし合わせること。

レポートの評価基準

- テキストをしっかり読みこんで、正確に理解しているか。
- グローバルな視点から地球規模の問題や人類共通の課題について考えられているか。
- SDGsの目標内容が地球規模の問題の克服に向けられていることを把握しているか。
- 他者の言葉ではなく、自分自身の言葉を使って記述しているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- 問われている内容を正確に把握し、項目ごとに具体的に論述すること。
- 重要ポイントは次の通りである。①開発教育（国際理解教育）の内容、②SDGsの特徴、③SDGsの各目標、④世界各地の課題や問題を「構造的に理解するということ」の重要性、⑤人類共通の課題や地球規模の問題の持つ特徴や構造、⑥SDGsと、人類共通の課題や地球規模の問題の克服・解決との関係性。

科目修了試験の評価基準

- 設問の趣旨を理解し、要点を整理して論述しているか。
- 開発教育（国際理解教育）の視点や方法を理解しているか。
- SDGs（持続可能な開発目標）を理解しているか。
- 人類共通の課題や地球規模の問題の特徴や構造を理解しているか。
- 自分自身の暮らしを振り返りながら、自分の言葉で論じているか。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	10029	科目名[単位数/学習時間]	環境教育論［2単位／90時間］	科目担当	天野　雅夫
テキスト	●今井清一　今井良一　『環境教育論　現代社会と生活環境　増補改訂版』　鳥影社				
ISBN	9784862658104	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	22023

科目の目的

日本における環境問題は、はじめは地域的な公害として顕在化したが、近年では新たな問題として地球規模の環境問題が現われてきた。それらは、大気・土壌・海洋汚染、森林破壊、ダイオキシンの脅威、オゾン層の破壊、地球温暖化の問題など、多様化し深刻化しつつある。こうした環境問題を解決するためには、各人が人間と環境とのかかわりについて理解し、行動力を身につけることが必要である。そこで本科目では、実際の環境教育活動を紹介し、感じ、考え、行動し、持続可能な社会をつくるために必要な環境教育について考究する。

到達目標

環境教育とは、環境全体とそれに関連する問題に対する「①気づき」と感性を身につけ、自らが責任ある存在であり役割を負うことを「②知識」として理解し、環境に対する社会的価値基準と環境を気づかう気持ち、および環境の保護と改善に積極的に参加する「③態度」を養い、環境問題を解決する「④技能」を身につけ、環境対策や教育プログラムを生態学的、政治的、経済的、社会的、美的、教育的観点から「⑤評価」し、そして最後にこれらの活動に「⑥参加」し、適切な行動をとれるようにすることがその目標である（ベオグラード憲章）。従って、本科目では様々な環境問題を理解し、これらを解決するためには何が重要かを考える力を養い、これらの問題を身近な生活と関連づけて考え、それを行動に移すためにはどうすればよいかを、感じ、考え、自ら行動できるようになることが到達目標である。

学習テーマ

1	地球温暖化・気候変動について【学習のポイント：地球温暖化の原因とその対策について理解する。＜テキストpp.11-25＞】
2	自動車公害について【学習のポイント：自動車の問題を社会問題として理解し、その原因について知る。＜テキストpp.47-72＞】
3	PM2.5について【学習のポイント：PM2.5の原因とその対策について理解する。＜テキストpp.73-78＞】
4	異常気象について【学習のポイント：異常気象とはどのような現象かを知り、その原因について理解する。＜テキストpp.27-44＞】
5	水の消費について【学習のポイント：水の消費について学び、水をどのように保全し水不足を防ぐかを理解する。＜テキストpp.253-266＞】
6	水の汚染について【学習のポイント：水の汚染の問題について知り、水の適切な使い方について理解する。＜テキストpp.267-288＞】
7	放射線について【学習のポイント：放射線、放射能、半減期などの言葉を理解し環境や人間にどのような影響を与えるかを知る。＜テキストpp.83-112＞】
8	日本の食生活の変化について【学習のポイント：戦後、日本の食生活がどのように変化したかを知り、それが私たちの生活にどのように影響したかを理解する。＜テキストpp.117-127＞】
9	フードマイレージ・食品ロスについて【学習のポイント：フードマイレージとは何かを理解し、消費者としてどのように食品ロスを防ぐかを知る。＜テキストpp.127-137＞】
10	残留農薬、ポストハーベストについて【学習のポイント：農薬がどのように使用され、その効果と問題点について理解する。＜テキストpp.138-145＞】
11	輸入食品について【学習のポイント：輸入食品による環境問題や国内問題について理解する。＜テキストpp.145-149＞】
12	食品の汚染について【学習ポイント：食品汚染の問題点について理解する。＜テキストpp.149-156、pp.234-243＞】
13	食品表示について【学習のポイント：食品表示について理解し、消費者として食品をどのように選択するかを知る。＜テキストpp.161-192＞】
14	遺伝子組み換え食品について【学習のポイント：遺伝子組み換え食品とは何か、その問題点と環境や健康への影響を理解する。＜テキストpp.192-209＞】
15	食品添加物について【学習のポイント：食品添加物の種類と現状を理解し、その問題点を知る。＜テキストpp.211-249＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

地球温暖化の原因とその解決のための方法を記せ。

第2課題

食品添加物を1人1日当りどれぐらい摂取しているか、またその影響について記せ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト第 1 章「地球温暖化と気候の変動」（pp.11-26）、第 2 章「異常気象－災害の安全学」（pp.27-44）を参照のうえ、地球温暖化・気候変動によって日本ではどのようなことが起こると考えられているか、農業、災害、産業、健康への影響について理論的に記す必要がある。これらの問題を知識として理解したうえで、自らがどのように行動できるかを考察し記述すること。

理解を深めるためのキーワードは、「温室効果ガスとその排出源」、「生活水準との関わり」ということについて特に注目する必要がある。

レポートがより高く評価されるためには、温暖化に対して日本の対応だけでなく、国際的にどのような対応がとられてきたか、その経緯と現状について論理的に記述し、自分たちの生活においてそれを活かすためには、どのような工夫をすればよいかを記載すること。そのとき、具体的で分かりやすい文章にすることが重要である。

第 2 課題の留意点

テキスト第 7 章「食品添加物天国日本」（pp.211-251）を参照のうえ、食品添加物とはどのようなものか、どのような用途に使われているかを知り、またそれが私たちの生活とどのように関係しているか、成長期の子どもたちの健康に与える影響などについて考察すること。

理解を深めるためには、「食品表示」、「賞味期限」、「消費期限」などを具体的に理解し、また「食品添加物の毒性」、「食品添加物の使用基準」についても考慮し、「ADI」などの言葉についても注目する必要がある。

レポートがより高く評価されるためには、自分たちの食生活を改善するにはどのような工夫が必要かを記述すること。そのとき、具体的で分かりやすい文章にすることが大切である。

レポートの評価基準

評価基準としては、主として以下の点を考慮する。

- 誤字脱字には十分注意し、自分の考えを具体的に説明していること。
- テキストの内容を理解したうえで、テキストの註を参考にしてテキスト以外の情報を広く収集し、それを自らの知識として活かすことができているか。
- 自ら集めた情報を整理し、それをどのようにして自らの実践につなげるかを具体的に論述できているか。また、こうしたことをどのように次世代に伝えていくかについても考えているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを読み、特にコラム欄（四角で囲まれていて数字のついている部分）は熟読すること。また、テキストの章末にある註を参考にして、テキスト以外の文献・情報について調べてみることも重要である。これらの内容を理解したうえで、その他、現実に起こっている環境問題を解決するためにはどのようにするべきか、自らの考えを理論的、具体的に論述すること。これらを踏まえたうえで、①環境問題を自らの生活と関連づけて理解できているか、②それらを理論的・科学的な知識として理解しているか、③これらについてどのような態度をとるべきか考えているか、④それらを解決するための技能を身につけているか、⑤それらを評価する能力を身につけているか、⑥環境問題を解決するための行動に参加しているか、を留意する必要がある。

科目修了試験の評価基準

- テキストの内容を正確に理解できているか。
- 自ら集めた情報を整理し、それをどのようにして自らの実践につなげるかを具体的に論述できているか。また、こうしたことをどのように次世代に伝えていくかについても考えているか。

参考文献

- 日本環境教育学会 『環境教育』 教育出版
- 水山光春 『よくわかる環境教育　やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

児童教育学科専門教育科目群

科目コード	20001	科目名[単位数／学習時間]	教育原理［2単位／90時間］	科目担当	廣岡　義之
テキスト	●広岡義之 『ボルノー教育学研究　増補版　下巻』 風間書房				
ISBN	9784759922745	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,700	生協テキストNo.	22024

科目の目的

今日、教育と子どもをめぐる問題がクローズアップされている。教育の在りようはもとより社会の在り方が根本的に問われているといえる。このような社会的背景をもとに、本科目では、教育とはなにか、について、さまざまな観点からアプローチし、その原理的な理解を深めることを目的とする。そのことによって、教育に関する基本的な知識と知見を養う。

到達目標

とにかく、テキストを精読することが大切である。また、この章立てには順序性もあり、この順序で読むことが重要である。もう1つの目標として、テーマが教育なので、自分なりの問題意識の射程内で、読み、論述することが必要である。

学習テーマ

1	新たな庇護性の教育学的意義について①　安らぎ、忍耐等【テキスト第5章3節1～3を熟読すること。】
2	新たな庇護性の教育学的意義について②　希望、感謝等【テキスト第5章3節4～7を熟読すること。】
3	現代における「信頼」の教育的課題①　ボルノーの信頼概念等【テキスト第5章5節1～2を熟読すること。】
4	現代における「信頼」の教育的課題②　エマソンの信頼概念等【テキスト第5章5節3～4を熟読すること。】
5	希望の教育学【テキスト第5章6節を熟読すること。】
6	教育人間学が問う死への準備教育【テキスト第5章7節を熟読すること。】
7	家庭教育の人間学的考察【テキスト第6章1節を熟読すること。】
8	平和教育論【テキスト第6章3節を熟読すること。】
9	高齢者教育論【テキスト第6章4節を熟読すること。】
10	環境教育論【テキスト第6章5節を熟読すること。】
11	フレーベル教育思想　理論編①【テキスト補論1章はじめに～第1節1.2を熟読すること。】
12	フレーベル教育思想　理論編②【テキスト補論第1節3.4.5を熟読すること。】
13	フレーベル教育思想　実践編【テキスト補論第2章を熟読すること。】
14	西洋教育思想と教育の歴史①【テキスト補論第3章1～4節を熟読すること。】
15	西洋教育思想と教育の歴史②【テキスト補論第3章5～8節を熟読すること。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

家庭教育の人間学的考察について論じなさい。【テキスト第6章1節を熟読すること。】

第2課題

平和教育論について論じなさい。【テキスト第6章3節を熟読すること。】

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第6章1節をよく読み、そこに書かれている内容をふまえて、適切にまとめること。

第2課題の留意点

テキスト第6章3節をよく読み、そこに書かれている内容をふまえて、適切にまとめること。

レポートの評価基準

・テキストを精読の上で、註を付記しつつ、課題について論述している。
・自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
・他人に読ませることを意識して、丁寧に作成している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・それぞれ課題、その中の設問に着目して、テキストの精読を深めることを勧める。
・15回の学習テーマに即して、内容を理解し、まとめておくことが大切である。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容等をふまえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。

参考文献

・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年 3 月＞』 東洋館出版社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20002	科目名［単位数／学習時間］	教育心理学［2単位／90時間］	科目担当	小川内　哲生
テキスト	●多鹿秀継　上淵寿　堀田千絵　津田恭充『ライブラリ読んでわかる心理学5　読んでわかる教育心理学』サイエンス社				
ISBN	9784781914244	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	22025

科目の目的

・幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する諸理論を学ぶとともに、各発達時期の諸機能の発達についての具体的な内容を熟読する。
・幼児、児童及び生徒の学習に関する諸理論を学ぶとともに、子どもの発達を踏まえた学習支援の基礎概念に関係する章をしっかりと理解する。さらに保育現場、教育現場でそれを活かすという実践的な視点から教育を捉えていくことを目的とする。

到達目標

・幼児、児童及び生徒の心身の発達の特徴ならびに発達の過程を理解する。
・幼児、児童及び生徒の学習の特徴ならびに学習の過程を理解し、幼児、児童及び生徒の発達を踏まえた学習支援についての基礎的な考えを理解する。

学習テーマ

1	心理学における発達と学習の概念の理解【学習のポイント：テキスト第1章を理解する。】
2	発達の遺伝と環境の理解【学習のポイント：テキスト第2章の前半を理解する。】
3	発達段階の理解【学習のポイント：テキスト第2章の後半を理解する。】
4	学習の基礎の理解【学習のポイント：テキスト第3章の前半を理解する。】
5	学習を支える指導法の理解【学習のポイント：テキスト第3章の後半を理解する。】
6	言語の発達と教育の理解【学習のポイント：テキスト第4章を理解する。】
7	知性の発達と教育の理解【学習のポイント：テキスト第5章を理解する。】
8	パーソナリティの発達と適応の理解【学習のポイント：テキスト第6章を理解する。】
9	知識の獲得と活用の理解【学習のポイント：テキスト第7章の前半を理解する。】
10	長期記憶とメタ認知を理解する【学習のポイント：テキスト第7章の後半を理解する。】
11	認知の個人差と教育の理解【学習のポイント：テキスト第8章を理解する。】
12	学習の動機づけの理解【学習のポイント：テキスト第9章を理解する。】
13	自己調整学習の理解【学習のポイント：テキスト第10章を理解する。】
14	発達と学習の障害の理解【学習のポイント：テキスト第11章を理解する。】
15	測定と評価の理解【学習のポイント：テキスト第12章を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

ピアジェ（Piaget, J.）の認知発達段階における前操作期と具体的操作期の思考の特徴をそれぞれ簡潔にまとめなさい。

第2課題

児童の学習に対する動機づけを高めるための学習支援の在り方について、学習の動機づけの観点から簡潔にまとめなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

ピアジェの認知発達段階における前操作期と具体的操作期は、幼児期から児童期にかけての時期にあたる。幼児期と児童期の思考の基本的な特徴をテキスト第2章「発達の考え方を理解する」や他の文献も参考にして、具体的な研究例あるいは日常の具体例を引用することで説明すること。ピアジェに関する文献は多数あるので、必ず参考にしてほしい。

第2課題の留意点

テキストの第9章「学習の動機づけを理解する」並びに章末の参考文献などを参考にして、学習の動機づけを高める観点から、教師ができる学習支援をまとめる。

レポートの評価基準

合格（A～C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。
A：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を明確にする具体的な例を挿入し、自分の言葉で記述する。
B：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を自分の言葉で記述する。
C：テキストやいくつかの文献等を参考にして記述する。
D：レポートのすべての内容が1つのテキストの丸写しである。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験の答案を作成するに先立ち、日ごろからテキストをよく読んで内容の理解を深めておくこと。その際、テキストの内容が十分に理解できないときには、テキストに掲載されている引用文献や参考文献にも機会があれば目を通して確認しておくこと。あるいは、「質問票」で担当者に質問することもよい。特に第1章、第2章、第6章、第8章、第9章、第11章、第12章を重点的に学習しておくこと。

答案作成では、設題の趣旨を正確に把握し、わかりやすく論旨を記述することが必要である。

科目修了試験の評価基準

合格（A～C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。

A：設題に適切に解答している。
B：設題に内容の半数程度が適切に解答されている。
C：設題に内容の一部が適切に解答されている。
D：設題の解答に合致した内容が含まれない。

参考文献

第1課題、第2課題どちらの課題の参考文献も、テキスト各章末に詳しく掲載している。それらを参考にしてほしい。

その他、『幼稚園教育要領』（幼保連携型認定こども園教育・保育要領を含む）、『小学校学習指導要領』も参考にすること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20003	科目名［単位数／学習時間］	教育哲学［2単位／90時間］	科目担当	廣岡　義之
テキスト	●広岡義之　『臨床教育学への招待　実存的視点より』　あいり出版				
ISBN	9784865550788	本体価格（円）（2022年1月現在）	1,800	生協テキストNo.	22026

科目の目的

「教育哲学」は、教育現実から出発し、教育や人間に関する理論に基づいて教育諸問題の解決の仕方や方法を教示し、教育活動の本質的なあり方を究明することを課題としている。現代社会の激しい変化のなかで、人間や子どもを理解して受け止めることはきわめて重要な教師の資質能力でもある。こうした社会の激変のなかで起きている教育や人生の諸問題について、教育哲学的に根源的に問いながらその本質を解明し、解決の糸口を見出すことをねらいとする。

到達目標

・教育の現実に対する関心だけでなく、その理念に目を向け、普遍を追究する努力が大切である。
・テキストを熟読し、何が書かれているか具体例が思い浮かぶぐらいに深めることが重要である。
・テキストを読み込み、自分の生き方と重ね合わせて、テキストの著者が述べていることを熟考することが求められる。

学習テーマ

1	ホリスティック教育の基底（その1）【テキスト第1章を熟読すること。】
2	ホリスティック教育の基底（その2）【テキスト第2章を熟読すること。】
3	ホリスティック教育の基底（その3）【テキスト第3章を熟読すること。】
4	ボルノーの庇護性　【テキスト第4章を熟読すること。】
5	リルケの死生論の臨床教育学　【テキスト第6章を熟読すること。】
6	教師、星野富弘の生き方　【テキスト第7章を熟読すること。】
7	人間の平等性の道徳教育　【テキスト第8章を熟読すること。】
8	助言者の構図の道徳教育　【テキスト第9章を熟読すること。】
9	道徳的に温かい場の道徳教育　【テキスト第10章を熟読すること。】
10	フランクル思想の良心論　　【テキスト第11章を熟読すること。】
11	国際理解の道徳教育　【テキスト第12章を熟読すること。】
12	東井義雄の教育（その1）【テキスト第13章を熟読すること。】
13	東井義雄の教育（その2）【テキスト第14章を熟読すること。】
14	林竹二の教育　【テキスト第15章を熟読すること。】
15	シュタイナー学校の教育　【テキスト第17章を熟読すること。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

ホリスティック教育の基底（その3）について、テキスト第3章全体に即しつつ論じなさい。

第2課題

ボルノーの庇護性について、テキスト第4章全体に即しつつ論じなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第3章全体をよく読み、そこに書かれている内容をふまえて、適切にまとめること。

第2課題の留意点

テキスト第4章全体をよく読み、そこに書かれている内容をふまえて、適切にまとめること。

レポートの評価基準

・テキストを精読の上で、註をつけつつ、必要があれば参考文献等の情報を加味して課題について論述している。
・自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
・他人に読ませることを意識して、丁寧に作成している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストをよく読んで理解を深めておくこと。
・「学習テーマ」ごとに、内容をしっかりと把握し、まとめておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて説明できているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容等をふまえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。

参考文献

・広岡義之 『ボルノー教育学の研究』上・下巻 風間書房
・広岡義之 『フランクル人生論入門』 新教出版社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20008	科目名［単位数／学習時間］	国語［2単位／90時間］	科目担当	齋藤　隆彦
テキスト	●柴田義松　阿部昇　鶴田清司　『あたらしい国語科指導法　六訂版』　学文社				
ISBN	9784762030444	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,100	生協テキストNo.	22028
テキスト	●文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編＜平成29年7月＞』　東洋館出版社				
ISBN	9784491034621	本体価格（円）（2022年1月現在）	162	生協テキストNo.	22029
実務経験のある教員による科目	中学校教諭（教科「国語科」）				

科目の目的

「国語力」は、自ら考える活動を支える中核となる力であり、全ての教科に生き、すべての学びを支える基礎となる力であると言われる。平成29年に新しい学習指導要領が公示された。そこでは、変化する社会に対応する力を子どもたちに育成することが掲げられ、〔知識及び技能〕及び〔思考力，判断力，表現力等〕に構成し直し、より「思考力」という汎用性の高い能力の育成を目指しているようである。国語科でどのような力をどう付けていくのか、テキストや学習指導要領などを用いてその基礎的な理解をすることを本科目では目指す。実務経験（教材や教育方法の開発）を活かして教授する。

到達目標

本科目で取り上げる学習内容の主なものは次の通りである。これらについて自らの経験や授業の具体的なプランなどと結びつけて理解することを到達目標とする。

・国語科教育の目的と学習指導論
・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の内容と技術（書写を含む）
・話すこと・聞くことの内容と技術
・書くことの内容と技術
・読むことの内容と技術
・メディアリテラシー、読書指導（アニマシオン）など新しい国語科の授業実践

学習テーマ

1	国語科教育の目的について【学習のポイント：二つのテキストやその他を参考に、ことばの働きと国語科教育の目的を考察し理解する。】
2	国語科教育の内容の変遷と基礎･基本について【学習のポイント：「学習指導要領」の変遷から「目標」を相対化し、「基礎・基本」と「言語技術」の関係を考察し理解する。】
3	音声言語について【学習のポイント：話すこと・聞くことの教育の内容と留意点を考察し理解する。】
4	文学の授業について【学習のポイント：「教材内容」「教科内容」「教育内容」という概念を元に、文学の学習の目標と内容を考察し理解する。】
5	説明的文章の授業について【学習のポイント：説明的文章の学習の目標と内容を考察し理解する。】
6	「書くこと」（文章表現）の授業について【学習のポイント：作文の学習の目標と内容を考察し理解する。】
7	言葉の学習について【学習のポイント：語彙や漢字、言葉の由来などの学習の内容と方法を考察し理解する。】
8	書写について【学習のポイント：テキスト『学習指導要領解説』を中心に、書写の指導の内容と方法を考察し理解する。】
9	読書指導、古典について【学習のポイント：読書指導、古典の学習の意義と方法について考察し理解する。】
10	教材づくりと教材研究について【学習のポイント：「教材」と「教科内容」の区別､また､「教材解釈」と「教材分析」の区別を中心に、何をどう教えるのか、その構造を考察し理解する。】
11	学習指導論について【学習のポイント：「授業」の構造と方法・技術について、教師の「指導言」やふるまい、学習指導案も含めて考察し理解する。】
12	「言語活動」「主体的・対話的で深い学び」について【学習のポイント：国語科において「言語活動」はどのような目的でどのようになされるのか。国語科において「主体的・対話的で深い学び」とはどのような学びであるか、二つのテキストやその他を参考に考察し理解する】
13	新しい国語科の授業実践について【学習のポイント：アニマシオン、メディアリテラシー、ディベート、スピーチ、パブリックコミュニケーションゲームについて目的、方法、国語科との関連について考察し理解する。】
14	PISA「読解力」と「言語活動」について【学習のポイント：PISA「読解力」の内容と国語科教育との関係、「言語活動」の内容と「思考力・判断力・表現力」と国語科の関係を考察し理解する。】
15	国語科教育の力量形成【学習のポイント：国語科教師としての力量をどう作っていくか、考察し理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

21世紀を生きる力と国語科教育で育てる力の関連について、『学習指導要領』『あたらしい国語科指導法』（さらにその他の文献）の内容をもとにして論じなさい。

第2課題

「説明的文章」の学習の目的を明らかにし、その目的に応じた授業方法について論じなさい。その際、必要に応じて、教科書教材や自分で用意した短い文章を「教材」として例示し、説明に使いなさい。

各課題共通の留意点

本科目のレポート作成の際は文献からの知見はできるだけ「引用」にして、どの部分をどう読み取り、自分の考えや体験などとどうつないだかが分かるようにする（引用情報が全くない場合は不可とする）。また、テキストとして挙げたもの以外にも自分で調べ、論を充実されることを強く勧める（学びの対象が広くなる）。

第１課題の留意点

学習の積み重ねを確認することが主目的である。「学習テーマ」（１～15）に則って、文献の記述を理解し、解釈し、つなぎ合わせ、まとめて、この問いに答えること。「21世紀を生きる力」とは文献にどう書かれ、それらと国語科教育はどうつながるか。どのような方法でどのような力をつけることが望まれているか。「教育内容」「教科内容」「教材内容」などの概念も使って記述すること。「何のために国語科の授業をするのか」をこの課題を通して考えることで、学習内容の理解が深まる。

第２課題の留意点

国語科の教材として「説明的文章」を用いるのは、どのような力をつけるためなのか。そして、そのような力をつけるためには、どのような授業方法が必要なのか。従来の方法との対比などを用いながら、テキスト『学習指導要領』『あたらしい国語科教育法』、あるいはテキスト以外にも自分で調べ（学びの対象が広くなる）、論じなさい。また、必要に応じて、その方法の説明として、教科書教材や自分で用意した短い文章を「教材」として例示し、説明に使うこと。レポートの大きな目的は、あなた自身が「学習内容」を理解すること。例文など使って、「このような方法がある」と説明することはあなたのテキストなどの読みを確かなものにするはずである。

※「説明的な文章」の教材は、自身が使いやすいと思うものを選ぶこと。その内容は全部書き写す必要はない。要約等で、内容がレポートの読者にわかるようにすればよい。ただし、その教材の「題名」や掲載されている教科書名、出版社などの書誌情報は書くこと。

レポートの評価基準

＜構成について＞

レポートの作成にあたっては、次の構成にすること。（レポートの書き方も習熟する。）

1．序論　このレポートで何を明らかにするか、つまり、「問い」を明らかにする。
2．本論　「問い」にそって内容を展開する。問いを解明していく。
3．結論　本論によって解明された「問い」の「答え」を簡潔に明らかに示す。感想や展望といったことは、この「答え」の後にこれも簡潔に示す。

＜引用について＞

文献等の引用はとても大切である。適切に引用の仕方を学ぶこと。（本冊子の「はじめに」を参照。）

本課題では、「理解しているか」「理解するためにいろいろと見渡しているか」の確認に比重をおいている。よって、「あなたのオリジナルの知見」といったことは求めていない。ただし、どこかの文献の丸写しでは、「あなたが理解しているか」「理解しようとしていろいろと見渡したか」の確認ができない。自身で、読み込み調べ、「問い」をきちんと「答える」ために、引用を的確に使い、また、それらの知見を「どこから引用したか」正確に記すこと。また、本レポートでは、「参考文献」としてテキスト名を挙げるだけで、どこにどう生かされているのかわからない場合は、「文献を用いた考察」とは認めない。あくまで、「テキスト履修」の成果を見たいのであるから、考察に用いた箇所は「引用」として明示すること。

＜字数について＞

1,800字から2,000字とする。

＜文章について＞

他人に読ませることを意識して、「読みやすい」文章にすること。そのためには、下書きが大事である。論が通っているか、的確に「問い」に答えているかを確認し、また、文が長すぎないか、段落が内容によって区切られているか、なども意識すること。

＜【自筆の場合】文字について＞

他人に読ませることを意識して丁寧に清書していること。漢字を適切に使用し、誤字脱字がないこと。特に、将来国語を教えるための科目でもあるので、くせ字などにも注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・設題の意図を正しくとらえて、論を展開しているか。具体的に、明確に伝えようとしているか。
・２冊のテキスト及び参考文献をよく読んで理解を深めておくこと。特に「到達目標」としてあげた内容について、理解につとめること。また、自分が授業を構想して展開することを想定し、各学年の三領域一事項について、それぞれの指導事項、言語活動例を熟読し理解しておくこと

科目修了試験の評価基準

・設題の意図を正しくとらえて、論を展開しているか。（的確に「問い」に答えている。）
・具体的に、明確に伝えようとしているか。（的確に読者・採点者に分かりやすく伝えようとしている。）
・テキストやその他の文献の知見をもとにした考えが書かれている。（独りよがりや、その場の思いつきで書かれていない。）

教育現場に立ち、「国語」の授業ができる、その基礎の力を付けるのが本科目の目的である。その力が付いたかを科目修了試験では見たい。そのため、「学習テーマ」にそって、まずはテキストを元に、さらには他の文献の内容をもとに、自分なりに理解したことを求める。テキスト及び参考文献等をよく読んで理解を深めておくことが何より大事である。
「自分が授業をするとしたらどうか」という視点を持ち、「学習テーマ」の理解に努めているかも見る。

参考文献

・田近洵一　大熊徹　塚田泰彦　『小学校　国語科授業研究』　教育出版
・鶴田清司　河野順子　『論理的思考力・表現力を育てる言語活動のデザイン　小学校編』　明治図書出版
・浜本純逸　『国語科教育総論』　溪水社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20009	科目名[単位数／学習時間]	算数［2単位／90時間］	科目担当	井上　正人
テキスト	●赤井利行　『わかる算数科指導法　改訂版』　東洋館出版社				
ISBN	9784491035048	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,300	生協テキストNo.	22030
テキスト	●文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編＜平成29年7月＞』　日本文教出版				
ISBN	9784536590105	本体価格(円)(2022年1月現在)	224	生協テキストNo.	22031
実務経験のある教員による科目	公立学校教員				

科目の目的

学習指導要領に基づき、算数科が目標とすべきことや算数の各学年における指導内容を学ぶ。その際、子どもたちには前後の学年と関連を図りながら理解させることが重要である。そこで、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の5つの領域でとらえられた指導内容について、数学的な視野に立った意義や重視すべきこと（数学的な見方・考え方、知識、技能など）、学年間の関連を明らかにし、教材研究を進めるための基礎的な力を養う。実務経験を活かして教授する。

到達目標

小学校算数で学習する内容について、知識・技能に関わる内容だけでなく、どのような数学的な見方・考え方を育てるのか、といったことについてもテキストから読み取り、教材研究を深めることができる。

具体的には、

・算数科の目標…算数教育のキーワードである「数学的活動」「数学的な見方・考え方」について、具体的な事例を考えながら理解を深める。

・算数の5つの領域「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」についてテキストを読み、指導する学年、指導内容（数学的な見方・考え方、知識、技能）を明らかにするとともに、学年間でどのように関連しているのか、ということについても調べ、教材研究を深める。

学習テーマ

1	指導要領改訂の経緯やポイントについて調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第1章、及びテキスト『わかる算数科指導法　改訂版』第1章第1節・第2節§1】
2	「算数科の目標」について調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第2章第1節·第2節1、(pp.21-41)及びテキスト『わかる算数科指導法　改訂版』第1章第2節§2】
3	各領域の内容の外観、及び「数学的な見方・考え方」について調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第2章第2節2（pp.42-75)、及びテキスト『わかる算数科指導法　改訂版』第1章第3節】
4	第1学年の指導内容（前半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第3章第1節、第1学年の目標と内容A・B、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
5	第1学年の指導内容（後半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第3章第1節、第1学年の内容C・D・数学的活動、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
6	第2学年の指導内容（前半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第3章第2節、第2学年の目標と内容A・B、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
7	第2学年の指導内容（後半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第3章第2節、第2学年の内容C・D・数学的活動、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
8	第3学年の指導内容（前半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第3章第3節、第3学年の目標と内容A・B、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
9	第3学年の指導内容（後半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第3章第3節、第3学年の内容C・D・数学的活動、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
10	第4学年の指導内容（前半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第3章第4節、第4学年の目標と内容A・B、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
11	第4学年の指導内容（後半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第3章第4節、第4学年の内容C・D・数学的活動、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
12	第5学年の指導内容（前半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第3章第5節、第5学年の目標と内容A・B、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
13	第5学年の指導内容（後半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第3章第5節、第5学年の内容C・D・数学的活動、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
14	第6学年の指導内容（前半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第3章第6節、第6学年の目標と内容A・B、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】
15	第6学年の指導内容（後半）を調べる。【テキスト『学習指導要領解説　算数編』第3章第6節、第6学年の内容C・D・数学的活動、および『わかる算数科指導法　改訂版』の関連部分】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第 1 課題

テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編＜平成29年 7 月＞』p. 8 にある「算数・数学の学習過程のイメージ」の図についての解釈をまとめ、 4 年「小数のかけ算」の導入場面の学習過程を例にして、図に対応させながら具体的に述べよ。

第 2 課題

図形領域における「数学的な見方・考え方」とはどのようなものかを明らかにし、 2 年「三角形と四角形」、 3 年「三角形」、 4 年「四角形」それぞれの単元で身につける「数学的な見方・考え方」を考え、具体的に述べよ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

図に書かれている語句を適宜入れながら、 1 時間の学習過程を想定して考えること。テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編＜平成29年 7 月＞』pp.71-74に書かれている「数学的活動」の内容も参考にするとよい。

第 2 課題の留意点

各単元の指導内容だけの記述に終わらず、身につける「数学的な見方・考え方」に焦点化して述べること。必要に応じて図等も入れ、各単元についてそれぞれ 1 枚～ 2 枚程度にまとめること（自筆の場合は、方眼用紙＜A4用紙＞でも可）。

レポートの評価基準

テキストからの引用だけでまとめるのではなく、テキストの内容を自分なりに解釈し、具体例を入れて分かりやすい表現で的確に記述できているかについて評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを熟読し、各学年の指導内容におけるポイントを明らかにしておくこと。特に、用語や図についての説明、指導内容をどのような考えで理解させていくか、といったことを理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・試験は論述問題 4 問。 1 題25点とし、25点× 4 ＝100点とする。
・設題の趣旨を理解し、テキスト内容に沿った説明が正しく記述できているかどうかを中心に評価する。テキストで説明されているものから逸脱していたり、自説のみで述べられていたりする内容については、減点の対象となる。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20010	科目名[単位数／学習時間]	生活［2単位／90時間］	科目担当	山田　希代子
テキスト	●岡野聡子 『子どもの生活理解と環境づくり　改訂版　就学前教育領域「環境」と小学校教育「生活科」から考える』 ふくろう出版				
ISBN	9784861867484	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,000	生協テキストNo.	22032
テキスト	●文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　生活編＜平成29年７月＞』 東洋館出版社				
ISBN	9784491034645	本体価格(円)(2022年1月現在)	134	生協テキストNo.	22033
実務経験のある教員による科目	公立小学校教員・管理職、小学校教育研究会部長（生活・総合的な学習部）				

科目の目的

子どもと「生活」全般を理解していく。実務経験を活かして教授する。

・豊かな内容と意義をもつ「生活」という概念全体について理解し、現代の子どもの生活環境の課題等について把握しその改善策について考察する。
・子どもの成長や生活の充実をもたらす「遊び」の意義等について理解し、幼児期・児童期にふさわしい保育環境・教育環境のあり方を実践的に深め、小学校１・２年生「生活科」の基本理解を深める。
・幼児期・児童前期のそれぞれの学びを理解し、子どもにとって「生活科」の学びが保幼小のつながりを滑らかにするために大きな役割を果たすことを学ぶことにより実践上の力をつける。

到達目標

「生活」は、多様な意味を含む概念である。人間の日常的な活動や営みの具体的な姿から生命・生存といった生物としての人間の状態や活動に至るまで、広範な意味をもっている。現代の子どもの実態を把握しながら、幼児期・児童期にふさわしい生活を様々な視点から探究し、子どもの豊かな生活をいかに実現していくかについて考える。

学習テーマ

1	就学前教育と小学校教育とのかかわり【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』巻頭言・第１章第１節】
2	幼稚園・保育所と小学校の違い【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第１章第２節１・２・３】
3	幼稚園・保育所と小学校の連携【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第１章第２節４】
4	子ども理解のあり方と子どもの発達【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第２章第１節・第２節】
5	教師と子どもの関係と教師の役割【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第２章第２節４-２）・第３節】
6	自然環境とのかかわり、自然体験の意義と必要性【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第３章第１節・第２節】
7	就学前教育と小学校教育、「生活科」における自然観察とは【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第３章第３節】
8	物的環境､身近な素材とのかかわり【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第４章第１節･第２節･第３節】
9	社会環境とのかかわり【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第５章第１節・第２節・第３節】
10	保育・幼稚園教育と生活科との関連【テキスト『小学校学習指導要領解説　生活編』第５章第２節４幼児期の教育や中学年以降の学習と関わりを見通すこと関連部分　付録６「幼稚園教育要領」第１章総則第１・第２・第３-５】
11	生活科の果たす役割と育てたい力【テキスト『小学校学習指導要領解説　生活編』第２章第１節教科目標・第２節学年の目標　第４章（４）低学年教育の充実と生活科の位置付け・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連・小学校入学当初に大切にしたいこと・スタートカリキュラムの編成】
12	生活科の環境づくり【テキスト『小学校学習指導要領解説　生活編』第５章第２節２児童の生活圏である地域の環境を生かすこと　５学校内外の教育資源の活用を図ること】
13	生活科と自然環境とのかかわり【テキスト『小学校学習指導要領解説　生活編』第３章第２節生活科の内容（５）（６）（７）】
14	生活科と社会環境とのかかわり【テキスト『小学校学習指導要領解説　生活編』第３章第２節生活科の内容（１）（２）（３）（４）】
15	幼児教育と小学校教育の連携のあり方のまとめと確認【テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第１章第２節４・全般及びテキスト『小学校学習指導要領解説　生活編』関連部分振り返り】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第１課題

就学前教育と小学校教育の接続において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の提示が果たす役割について述べなさい。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は小学校でどのように発展するのかについて具体的な例をあげ説明しなさい。

第２課題

子どもにとって身近な物とかかわることはどのような意義があるのかについて述べなさい。また、身近な物を大切にする気持ちを育むために、保育士・教師としてどのように子どもにかかわっていけばよいのかを考えて論じなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』第 1 章　第 1 節・第 2 節を熟読し、就学前教育と小学校教育の接続について理解すること。そして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を示すことは、就学前教育や小学校教育に携わる保育士や教師にとってどのような意義があり、接続においてどのような役割を果たすのかについて明らかにする。そして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が小学校の各教科にどのように発展するのかについて考えるとよい。

第 2 課題の留意点

テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』の第 4 章に書かれていることをよく読み、子どもは身近な物にかかわることでどのようなことを学ぶのかを理解する。その上で、保育士・教師として、どのようにかかわれば、子どもが身近な物への興味を深め、身近なものを大切にする気持ちを育むことができるかについて述べるとよい。

レポートの評価基準

・課題の意図を把握し、子どもを取り巻く社会の変化に関心をもち、テキスト学習により得た基本的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れ、いかに的確に論述できているのかで評価する。
・テキストを精読理解したうえで、参考文献等の情報を加味して課題について論述していること。
・テキスト・参考文献・インターネット等から引用した場合は、「　」でくくり、著者名・書名・出版年・出版社名・ページ数・URL・閲覧日等を必ず明記すること。
・主語述語の関係などに留意して、適切に段落や章を設定し、誤字脱字なく、他者が読むことを意識して丁寧に作成すること。
・本学所定レポート用紙を使用する場合は、 5 枚は必ず記述すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト『子どもの生活理解と環境づくり』全体が出題範囲であるため、熟読して理解すること。
・子どもと「自然環境・社会環境等」とのかかわり・子どもにとって「遊び」の意義とそれが子どもの成長にもたらすもの、保幼小連携について深く理解しておくこと。
・常に子どもを取り巻く環境の急激な変化を注視し、それらが子どもの生活にどのような影響を与えるのかについて考えるようにすること。
・実践に生かすため、できるだけ具体的な子どもの姿と保育者・教師としてのかかわりを想像しながら読み込み、指導上の留意点についても確認しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を正しく理解し、キーワードや関連する事項をとらえて的確に説明できているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容に記載されている事項を踏まえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・筋道を立てて論理的に展開できていること。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上に記述があること。

参考文献

・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園育・保育要領＜原本＞（平成29年告示)』　チャイルド本社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20011	科目名[単位数/学習時間]	社会［2単位／90時間］	科目担当	未定（「親和通信」で連絡）
テキスト	●宮崎猛　吉田和義　『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』　教育出版				
ISBN	9784316804682	本体価格(円)（2022年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	22034
テキスト	●文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編＜平成29年3月＞』　日本文教出版				
ISBN	9784536590099	本体価格(円)（2022年1月現在）	142	生協テキストNo.	22035
実務経験のある教員による科目	公立小学校長				

科目の目的

この科目は、社会科の授業を担当する際に、直接かつ具体的に役立つことを第一としている。先ず、小学校における社会科教育の成立過程、目標構造や内容構成の特色、学習指導法、評価の視点と方法等について原則的なことを概観する。次に、児童の発達段階に応じた適切な学習指導方法、カリキュラム編成、単元構成、評価の工夫などを習得する。それらを基盤に、時代の要請や社会科の本質を踏まえ、変化する眼前の子ども達に柔軟に対応することができる指導力の育成を目指している。小学校での勤務経験を活かして教授する。

到達目標

先ず、社会科が戦後新設されるまでの経緯を含め、その時代の政治的・社会的状況を敏感に反映しながら変遷してきたことを理解しなければならない。次に、日本における社会科の成立、その後の学習指導要領の改訂に伴う社会科の変遷、民間教育研究団体の主張等を学ぶ。さらに、小学校社会科の内容構成、学習形態、教材・教具の工夫のあり方等について考察し説明出来るようにする。最後に、具体的な授業作りの理論と方法、指導案の作成、評価の方法等の学習を通して社会科授業のあり方を考察し実践力を身につけなければならない。

学習テーマ

1	社会科教育の歴史①【学習ポイント：日本における社会科の成立を理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp. 4 - 5 ＞】
2	社会科教育の歴史②【学習ポイント：日本における社会科教育の展開（第1次改訂～第8次改訂の内容）を理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp. 6 -14＞】
3	小学校社会科学習指導要領の特徴①【学習ポイント：学習指導要領改訂の基本的方向性を理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.16-17＞】
4	小学校社会科学習指導要領の特徴②【学習ポイント：社会科の目標を理解する。＜テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編』pp.17-28＞】
5	小学校社会科学習指導要領の特徴③【学習ポイント：改訂のポイント、教科目標、各学年の目標、内容と内容の取扱いを理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.18-24＞】
6	授業づくりの方法・技術と理論①【学習ポイント：授業づくりのプロセスと社会科の目標を理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.36-42＞】
7	授業づくりの方法・技術と理論②【学習ポイント：社会科の学習過程について、基本的なことを理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.43-45＞】
8	授業づくりの方法・技術と理論③【学習ポイント：学習形態、指導技術について理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.46-51＞】
9	各分野の学習指導の展開【学習ポイント：社会科学習指導の基盤について理解する。地理的内容や歴史的内容、公民的内容の学習指導のあり方を理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.52-65＞】
10	指導計画と学習指導案①【学習ポイント：年間指導計画について理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.66-69＞】
11	指導計画と学習指導案②【学習ポイント：学習指導案の作成について理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.70-79＞】
12	評価の理論と方法①【学習ポイント：評価の意義と種類を理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.80-81＞】
13	評価の理論と方法②【学習ポイント：学習指導要領と評価について理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.82-84＞】
14	評価の理論と方法③【学習ポイント：評価の方法について理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.85-90＞】
15	授業づくりの実際【学習ポイント：小学校の実践例から具体的な授業づくりについて理解する。＜テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』pp.92-115＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

今次の学習指導要領改訂で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進にどう取り組むのか論じなさい。

第 2 課題

評価の理論と方法について、次の 3 つの視点から論じなさい。
①行う時期により分類される 3 種類の評価について
②指導と評価の関係性について
③評価の方法について

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

はじめに、今回の学習指導要領改訂の基本方針を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が求められる背景やねらいについて論じること。そのうえで、社会科における授業改善にどう取り組むのか、具体的に説明すること。

- 主体的な学び、対話的な学び、深い学び、とはどういう学びなのかを理解した上で書くこと。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、どのような工夫を行うのか（学習展開、指導技術、学習形態、発問等）、具体的に述べること。
- 読み手を意識し、丁寧に作成すること。短い文章で区切り、理解しやすい内容を心掛けること。
- テキスト『社会科教育の創造　基礎・理論・実践　新訂版』第 1 部第 2 章・第 2 部第 1 章・第 3 部と『小学校学習指導要領』を熟読すること。

第 2 課題の留意点

- どの時期に、どのような評価が適切かを考え、具体的に説明すること。
- 何のために評価を行うのかが分かるような内容であること。
- 評価の方法について、できる限り具体例を交えて述べること。
- 学習指導要領で評価がどのように位置づけられているのかを理解しておくこと。
- テキスト『社会科の創造　基礎・理論・実践　新訂版』第 2 部第 4 章「評価の理論と方法」、第 3 部実践編（pp.80-115）を読んでおく。
- できあがったレポートは何度も読み返し、読み手を意識する。最後に誤字脱字の確認をすること。

レポートの評価基準

【第 1 課題】

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の必要性やそのねらいについて簡潔に説明できているか。
- 具体的な授業場面や児童の様子をイメージした授業デザインができているか。
- 課題で問われていることに対し、真正面から向き合った内容になっているか。課題から外れた内容の羅列は、減点対象とする。
- テキストを熟読し、自分のものにして論述しているか。
- 一文は短く、主語と述語の関係に留意した文章は、何が言いたいのかが判るように、また、読む人を意識し、丁寧に作成する。

【第 2 課題】

- 評価は「学習のゴールであると同時に、新たな学習のスタート」と位置付けられる。その理由を明確に答えられているか。
- 評価方法については、単に言葉を羅列するのではなく、どんな方法を使い、どんな能力を評価するのか筋道立てて説明できているか。
- 自分の言葉で書き進められているか。
- 文字数は、 2 ,000字以下とすること。
- 読む人を意識し、丁寧に作成すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- 文章全体が長過ぎると、何を言いたいのかが分かりにくくなる。（長い文章は、言いたいことが曖昧になりやすい。）小見出しや番号を付けるなどの工夫をし、出来るだけ短い文章にまとめる。
- テキストの内容の理解が中途半端では役に立たないので、テキストの隅々まで何度も声に出して読んで理解を進めておくこと。（音読すると理解しやすい。）
- キーワードになる言葉は、特に理解を深めておくこと。
- 適切な具体例を使って説明すると読み手に伝わりやすい。
- 社会科で使用される重要な用語を答案の中で使用できるよう、理解しておく。
- 自分なりの誤った解釈を防ぐため、設問は時間を掛けじっくり読む必要がある。

科目修了試験の評価基準

- 出題内容を正しく理解し、論理的に記述されていること。
- 設題の趣旨から逸脱し、自分の考えだけを展開しても評価しない。
- 主語、述語が明確に分かり、出来るだけ短い文章であること。
- 出来るだけ丁寧な文字で、読みやすいこと。
- 解答用紙表面の 2 / 3 以上に記述があること。
- 漢字を適切に使用すること。
- 誤字・脱字にも気を付けること。

参考文献

・北俊夫　加藤寿朗 『小学校　新学習指導要領の展開　社会編』 明治図書出版
・東京学芸大学社会科教育学研究室 『小学校社会科教師の専門性育成　第三版』 教育出版
・北俊夫 『平成29年改訂　小学校教育課程実践講座　社会』 ぎょうせい
・中西仁　小林隆『新しい教職教育講座　教科教育編 2　初等社会科教育』 ミネルヴァ書房
・寺本清 『教科指導法シリーズ　小学校指導法　社会　改訂第 2 版』 玉川大学出版部

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20013	科目名［単位数／学習時間］	家庭［2単位／90時間］	科目担当	山口　香織
テキスト	●大竹美登利　倉持清美　『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』　萌文書林				
ISBN	9784893473097	本体価格(円)（2022年1月現在）	1,800	生協テキストNo.	22037
テキスト	●文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編＜平成29年７月＞』　東洋館出版社				
ISBN	9784491034669	本体価格(円)（2022年1月現在）	95	生協テキストNo.	22038
実務経験のある教員による科目	公立高等学校教諭（家庭）				

科目の目的

家庭を中心とした人間の生活を総合的にとらえる家庭科教育の理論を学ぶ。具体的には、小学校家庭科の役割や教科の目標・内容をふまえ、小学校家庭科を指導するために必要な家族・家庭生活、衣食住の生活、消費生活・環境についての知識を理解する。また、家庭科の学びでは、知識だけではなく実践的・体験的な学習が重視されている。小学校家庭科の内容を実際にやってみることで、家庭科が実践教科であることを実感するとともに、技能の習得にも努めてほしい。さらに、これまでの自分の生活を見直し改善することによって、豊かな家庭生活を創造し実践しようとする態度を身につけたい。

到達目標

・平成29年告示の『小学校学習指導要領』で示された小学校家庭科の内容および改訂の要点について説明することができる。
・現在の子どもの家庭生活の問題点と結び付けて、小学校家庭科で取り上げたい題材を考えることができる。
・小学校家庭科を指導するために必要な知識及び技能を身に付けることができる。
・調理の基礎や調理実習指導での留意点について考えることができる。
・「食育」、「家族・家庭に関する教育」、「消費者教育」が重視されている理由について、現在の社会状況に照らして考えることができる。
・衣食住・消費と連携した環境学習について考えることができる。

学習テーマ

1	学習指導要領の改訂の経緯及び基本方針、小学校家庭科の改訂の趣旨及び要点
2	家庭科の目標と内容、指導計画の作成と内容の取扱い
3	家庭科の歴史と意義＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.10-23＞
4	家族・家庭生活①　家庭生活と家庭の仕事、生活時間＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.24-40＞
5	家族・家庭生活②　家族の現状と心理的機能＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.41-50＞
6	食生活①　食生活の課題と食事の役割、日常食の大切さ＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.51-64＞
7	食生活②　栄養を考えた食事と調理の実際＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.65-81＞
8	食生活③　調理実習（ゆでる・炒める）
9	衣生活①　衣服の着用と手入れ＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.82-102＞
10	衣生活②　布を用いた製作学習＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.103-122＞
11	衣生活③　布を用いた製作実習（手縫い教材：並縫い・返し縫い・かがり縫い・ボタン付け）
12	住生活①　住まいの働きと役割、室内環境とその調整＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.123-136＞
13	住生活②　住居の管理＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.137-144＞
14	消費生活・環境①　収入と支出、賢い消費者＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.145-157＞
15	消費生活･環境②　環境に配慮した消費や生活＜テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.158-163＞

レポートについて

ワープロソフト使用可

第１課題

「生活を豊かにするための布を用いた製作」の内容として、日常生活で使用する物を入れる袋（題材はトートバッグ）を製作し、（１）～（４）の内容を記述しなさい。また、最終のページに完成した教材の写真（裏・表）を貼付しなさい。
（１）学習の目標と育みたい力
（２）使用する布の特徴、取扱い方
（３）トートバッグの製作手順
（４）完成後、実際に２週間使用した感想

第 2 課題

家庭科のあゆみからみて、今を生きる子ども達には、どのような能力を育成するとよいか。また、教師に求められる力とはどのようなものか述べなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』pp.103-120の「3．布を用いた製作学習」とテキスト『小学校学習指導要領解説　家庭編』「衣生活」pp.53-57、「3　実習の指導」pp.81-83の内容を熟読し、学習内容と効果的な指導法について理解する。

その上で課題である日常生活で使用する物を入れる袋としてトートバッグの製作を行う。

（1）は、トートバッグの製作における学習目標と身につけたい力について述べる。

（2）は、使用する布の特徴や取扱い方について述べる。小学生にとって製作や取扱いが容易な布を選ぶこと。

（3）は、トートバッグという特性上ミシンを使用しての製作が望ましいが、ミシンが家庭にない場合は、手縫いでも可能である。縫いしろや目的に応じた縫い方など縫製に関する知識や技能を明記していることが評価のポイントである。製作手順（作り方）については、文章のみの記述でもよいが、図やイラスト、写真等を用いた方が分かりやすいので推奨したい。教材については、実際の小学校家庭科の教科書（例えば、参考文献『わたしたちの家庭科　小学校 5 ・ 6 年』pp.108-109）を参考にするとよい。インターネットや参考図書から引用する場合は、出典を明記すること。

（4）は、完成したトートバッグを実際に 2 週間使用し、「バッグを使ってみたら・・・」をテーマに、感想を述べる。その際、学習のねらいと関連づけた視点を含めること。

完成した作品は、形状や縫い目がわかるように拡大で撮影（表・裏）し、レポートに添付する。（プリント写真は、裏面に学籍番号と名前を記載し両面テープでしっかりと貼り付けること。）

第 2 課題の留意点

テキスト 2 冊の内容を十分に理解すること。育成したい能力については、①家庭科の歴史的変遷、②現代の子どもを取り巻く社会状況の変化、の 2 つを踏まえて社会的・教育的視点から述べること。教師に求められる力の考察については、自身のこれまでの経験や家庭生活を振り返り、家庭科の指導者として大切にしたい教師観を述べること。

レポートの評価基準

次の 5 点を評価基準とする。

- 2 冊のテキストを精読の上で、参考文献などの情報を吟味して課題に取り組み論述している。
- 「生活を豊かにするための布を用いた製作」の目標や内容、教材に求められる要件など、正しく理解していること。
- 製作学習の指導に必要な基本的な知識・技能を有しているか、また、指導上の留意点をおさえているかについて評価する。
- 論旨をつかみ、レポート形式に従って、自分の考えを的確かつ筋道を立ててまとめている。
- 原稿用紙 5 枚程度の文字数で、主語と述語の関係などに留意し、誤字脱字がなく、また適切な文章表現ができていることを評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』には、家庭科の内容について全般的な知識がまとめられているが、やや専門的な内容も含まれる。しっかりと読み込んで内容理解に努めること。わからない文章や言葉があれば、キーワードを手がかりに、辞書や教育関連の文献、インターネットなどで調べて理解を深める学習態度が必要である。また、答案は800字以上の文字数を必要とし、問いに対して理論と実践（経験や考え）の両側面から具体的に述べることが重要である。

科目修了試験の評価基準

テキスト学習により得た基礎的な知識を説明したうえで、小学校家庭科と関連づけて作成された答案であることを評価する。また、設題内容を正確に理解し、自分の経験や感想だけの記述に終わらずに論拠が示されているかどうかを評価する。

答案は、常識的な大きさの文字で書かれ、800字以上に及んでいることを前提として評価する。

参考文献

- 大竹美登利　鈴木真由子　綿引伴子　『小学校家庭科教育法』　建帛社
- 『わたしたちの家庭科　小学校 5 ・ 6 年』　開隆堂出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

この科目は、2つの分野（幼児体育・児童体育）について学習することができます。ただし、レポート課題作成・提出、科目修了試験受験の際は、いずれかの分野を選択することになります。自身が希望する分野について学習を進めてください。
なお、各分野の科目担当、テキスト、科目の内容等は以下のとおりです。

科目コード	20014	科目名［単位数／学習時間］	体育＜分野･幼児体育＞［1単位／45時間］	科目担当	矢野　真理
テキスト	●井上勝子　高原和子　『すこやかな子どもの心と体を育む　改訂　運動遊び』　建帛社				
ISBN	9784767951140	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	22039
実務経験のある教員による科目	親子体育・幼児体育講師（保育所、子育て支援センター、NPO等）				

科目の目的

本科目では、幼児期の身体的発達をふまえた上で、身体教育の意味や価値について学ぶ。加えて、それらを子どもに体感させるには、どのような働きかけや関わりがなされるべきかについて学習し、指導法を習得する。
実務経験を活かして教授する。

到達目標

・幼児期における発達の特性や、身体活動が幼児に与える影響について理解する。
・幼児の身体活動指導のための発展的知識を習得し、その指導法を身につける。
・子どもの発育・発達に応じた援助ができるようになる。

学習テーマ

1	子どもの心身の発育･発達について【テキスト第1章「乳幼児の発育･発達」､参考文献『幼児期運動指針ガイドブック』pp.12-16「3. 幼児期における発達の特性」参照】
2	子どもの運動遊びの重要性について【テキスト第2章「乳幼児の運動遊び」､参考文献『幼児期運動指針ガイドブック』pp.21-28「2. 幼児期における運動の意義」参照】
3	人とかかわる遊び、自然とかかわる遊びについて【テキスト第3章-1「人とかかわる遊び」2「自然とかかわる遊び」参照】
4	物とかかわる遊びについて①【テキスト第3章-3-（1）「小型遊具を使った遊び」参照】
5	物とかかわる遊びについて②【テキスト第3章-3-（2）「大型遊具を使った遊び」（3）「固定遊具を使った遊び」参照】
6	物とかかわる遊びについて③【テキスト第3章-3-（4）「素材遊び」参照】
7	運動遊びの指導計画について【テキスト第4章-2「運動遊びの指導計画」、3「評価」参照】
8	安全管理と安全教育について【テキスト第5章「乳幼児の安全教育」参照】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

子ども（幼児）の発育・発達と安全について、安全管理、安全教育、事故が起こった時の対応の各観点から述べなさい。

第1課題の留意点

レポートの作成において、テキスト第1章、第5章をよく読み、①子どもの発育・発達に応じた保育者の安全に対する配慮、②安全対策としての運動遊びの重要性を**理解したうえでまとめる**こと。
次のキーワードを**必ず**入れること。「遊び」

レポートの評価基準

次の3点をレポートの評価基準とする。
・**参照すべきテキスト第1章、第5章の内容を理解した上で**、課題について論述している。
・**「第1課題の留意点」で示したキーワードに基づいた記述**がなされている。
・引用、参考文献の記載が明確である。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト第1～5章、参考文献『幼児期運動指針ガイドブック』を精読し、理解を深めておくこと。科目修了試験では、テキスト第1～5章のいずれかの章を取り上げ、その内容が理解されているかについて問う。テキスト文中での専門的な用語の意味を曖昧にせず、理解が不十分な用語については、各自で調べた上で、各章の趣旨を十分掴んでおくこと。

科目修了試験の評価基準

テキスト第 1 ～ 5 章のいずれかの章を取り上げ、用語説明を含めた論述問題として出題する。
・テキストで用いられている用語について、答案の中で正しく説明できていること。
・出題元となっている章全体の趣旨を理解していると判断される文章表現となっていること。
以上の 2 観点から論述を総合的に判定する。テキストの内容をふまえず、自身の感想・意見・主張のみとなっている記述は不合格とする。

参考文献

・文部科学省　『幼児期運動指針』
・文部科学省　『幼児期運動指針ガイドブック』
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/undousisin/1319772.htm
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領
＜原本＞（平成29年告示）』　チャイルド本社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

この科目は、2つの分野（幼児体育・児童体育）について学習することができます。ただし、レポート課題作成・提出、科目修了試験受験の際は、いずれかの分野を選択することになります。自身が希望する分野について学習を進めてください。
なお、各分野の科目担当、テキスト、科目の内容等は以下のとおりです。

科目コード	20014	科目名［単位数／学習時間］	体育＜分野･児童体育＞［1単位／45時間］	科目担当	田中　聡
テキスト	●松田恵示　『「遊び」から考える体育の学習指導』　創文企画				
ISBN	9784864130844	本体価格(円)（2022年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	22040
実務経験のある教員による科目	教育委員会スポーツ体育課指導主事、公立小学校長				

科目の目的

生涯スポーツの一環であるこれからの小学校体育における学習指導を考える際の重要な点は、「運動の楽しさ・喜びを味わうこと」と「指導内容が確実に定着すること」が、表裏一体として実現することである。本科目では、以上のような体育授業を実践するための基本的な考え方をテキスト第Ⅰ部理論編の精読により理解すること、そして、体育授業における教材作りとその学習指導の在り方の具体について、テキスト第Ⅱ部展開編より学んでいくことを目的とする。

到達目標

・体育授業が子どもたちにとって主体的な活動になるための原理を理解する。
・体育授業での教材づくり、場づくりの考え方を理解する。
・体育授業での学習過程の考え方を理解する。
・体育授業での「グループ学習」の意味について理解する。

学習テーマ

1	体育になぜ「遊び」の視点が必要なのか【テキスト第Ⅰ部-1＜体育と「遊び」＞を理解する】
2	体育に対する“思い込み”による認識を疑う【テキスト第Ⅰ部-2＜「ものの見方」と体育の考え方＞を理解する】
3	「運動の特性」の概念について知る【テキスト第Ⅰ部-3＜「運動の特性」と学習観＞を理解する】
4	体育における運動教材づくりを考える【テキスト第Ⅰ部-4＜なぜ、子どもにやさしい教材を開発する必要があるのか＞を理解する】
5	子どもが主体的に活動する教材づくり・場づくりについて【テキスト第Ⅰ部-5＜教材づくり・場づくりを工夫しよう＞を理解する】
6	子どもが主体的に活動する学習過程について【テキスト第Ⅰ部-6＜「やってみる」「ひろげてみる」「ふかめる」という体育の学習過程＞を理解する】
7	体育授業と学級経営の関係について考える【テキスト第Ⅰ部-7＜アクティブ・ラーニングと集団づくり・学級経営＞を理解する】
8	体育授業におけるグループ学習について【テキスト第Ⅰ部-8＜グループ学習の現代的意味＞、9＜グループ学習の考え方・進め方＞を理解する】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子どもにやさしい運動教材の開発についての考え方をテキストにある「運動の世界」の概念から説明するとともに、そのための場づくり、教材づくり、さらに学習過程の考え方についてまとめなさい。

第1課題の留意点

レポート作成に関して、**次の3点から論述する**こととする。
①子どもにやさしい運動教材とは何か　②体育授業における場づくり・教材づくり　③学習過程（学習のみちすじ）の考え方
以上の各観点について、テキストの**第Ⅰ部の特に第Ⅰ部1～6の各章で述べられていることを理解した上でまとめる**こと。①②③の各観点について述べる際には、以下のキーワードを**必ず入れ**、その**キーワードの意味について説明した上で**論述していくこと。
①については、**「運動の世界」**（第Ⅰ部4参照）
②については、**「子どもに運動をあわせる」「できるかできないかの面白さ」**（第Ⅰ部5参照）
③については、**「やってみる」「ひろげる」「ふかめる」**（第Ⅰ部6参照）
※なお、①～③を論述するにあたっては第Ⅰ部1～3の理解も必要になることを補足する。

レポートの評価基準

次の3点をレポートの評価基準とする。
・本レポートに対して**参照すべきテキスト第Ⅰ部理論編の該当章の内容を理解した上で**、課題について論述している。
・「**第1課題の留意点**」で示した**①～③の各観点、キーワードに基づいた記述**がなされている。
・各**キーワードの概念が正しく理解**されている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験では、「学習テーマ」1～8のいずれかのテーマを取り上げ、対象となっているテキストの章を取り上げ、その内容が理解されているかについて問う。テキスト文中での専門的な用語の意味を曖昧にせず、理解が不十分な用語については、各自で調べた上で、各章の趣旨を十分掴んでおくこと。

科目修了試験の評価基準

「学習テーマ」1～8のいずれかを取り上げ、対象となっているテキストの章で述べられている主旨に関する論述問題を出題する。

・出題元となっている章全体の趣旨を理解していると判断される文章表現となっていること。

この観点から論述を総合的に判定する。テキストの内容の理解不足や、テキストの内容を踏まえない自身の感想・意見・主張のみとなっている記述は不合格とする。

参考文献

・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編＜平成29年7月＞』東洋館出版社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20017	科目名［単位数／学習時間］	児童心理学［2単位／90時間］	科目担当	吉田　絵美
テキスト	●櫻井茂男　濱口佳和　向井隆代　『子どものこころ　児童心理学入門　新版』　有斐閣				
ISBN	9784641220119	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,100	生協テキストNo.	22041
実務経験のある教員による科目	公立学校スクールカウンセラー　心理判定員				

科目の目的

児童心理学は、生得的要因と環境的要因という2つの要因を取り上げて研究を進めている。担当者も日々の相談援助活動のなかで実践しているが、この2つの要因が如何にして子どもの生理的・心理的発達に影響するかを理解することは必須である。この考え方をもとに、育児や教育において先生や親が陥りやすい失敗や困難を知り、それを克服するための知識と技能を提供するのが児童心理学の目的である。

到達目標

子どものとらえ方や子どもの時代の特徴等を理解し、まずは子どもに対するイメージを豊かにすること。次いで、身体と運動・ことば・知性・動機づけ・感情・パーソナリティ・人間関係・思いやり・性の問題等、子どもの心身の発達の基礎を学習し理解する。その上で、学校のみならず家庭でも起こりうる、子どもの心理臨床的問題やその対処法についても広く学び修めることを目標とする。

学習テーマ

1	子どもをどうとらえるのか【学習のポイント：児童期の発達特徴や発達の原理を学ぶ。】
2	現代に生きる子どもたち【学習のポイント：現代の子どもを取り巻く状況とその影響を考える。】
3	からだと運動の発達【学習のポイント：発達加速現象と運動能力の不整合やストレスを考える。】
4	ことばの発達【学習のポイント：書きことばと作文能力の発達を中心に学ぶ。】
5	知的能力の発達【学習のポイント：知能・思考・創造性・学力について考える。】
6	認知と思考の発達【学習のポイント：記憶した情報をもとに思考していく力の仕組みを学ぶ。】
7	動機づけの発達【学習のポイント：人はどのようにして“やる気”ないし“無気力”を得るか。】
8	自己概念とパーソナリティの発達【学習のポイント：“自分とは何か”の芽生えを考える。】
9	人間関係の発達【学習のポイント：親子関係（愛着）から展開する対人関係の広がりを学ぶ。】
10	社会性の発達【学習のポイント：向社会的行動の発達とそれを支える要因について学ぶ。】
11	性の発達【学習のポイント：性同一性と性役割の発達について考える。】
12	子どもの心理臨床【学習のポイント：子どもや保護者、そして周辺への援助について考える。】
13	不登校と非行といじめ【学習のポイント：子どもの不適応行動のメカニズム理解を深める。】
14	児童虐待とPTSD【学習のポイント：環境要因から子どもに与えられる重篤な傷を理解する。】
15	神経発達障害【学習のポイント：一人ひとりのもつ発達のかたよりを正しく理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子どもの思考の発達について詳述せよ。

第2課題

愛着の発達について詳述せよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキストを中心によく学習し、思考の発達を概観することが求められる。また、言語と思考の発達は密接に関係していることにも留意してまとめること。

第2課題の留意点

テキストを中心によく学習し、愛着の発達に関する知識と理解を十分得たうえでまとめること。また、不安定愛着をもつ子どもへの適切なサポートについても考察すること。

レポートの評価基準

課題に対し、テキスト学習から得た知識をふまえ、自分なりの考えや表現で如何に的確に記述できているかについて評価する。具体的には以下の4点を評価基準とする。

- テキストを精読し、可能であれば他の情報も加味しつつ論述している。
- 自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係など文章表現に留意してまとめている（文章表現の基礎の遵守）。
- 他者に読ませることを意識して、箇条書きに過度に頼らず意味の通る一連の文章を構成し、かつ丁寧に作成している。
- 本文は1,800字以上2,200字以下でまとめる。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを中心に学習を進め、子どもの発達に関する理解を深める。一般論ではなく、テキスト学習をすることで得た学術的見地からの記述を求める。特に、テキスト第 1 章「子どもをどうとらえるのか」、第 3 章「いつもビリはいやだ」、第 7 章「なんで『やる気』が出ないの」、第12章「どんな心理臨床があるのか」、第13章「学校に行けない」に紹介されている知識は必ず習得すること。また、設題の趣旨を理解し、適切な文章及び論理構成を以て論述すること。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかを中心に評価する。
・テキストの内容をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20018	科目名［単位数／学習時間］	幼児心理学［2単位／90時間］	科目担当	吉田　絵美
テキスト	●岡本夏木　『幼児期　子どもは世界をどうつかむか』　岩波書店				
ISBN	9784004309499	本体価格（円）（2022年1月現在）	820	生協テキストNo.	22042
実務経験のある教員による科目	公立学校スクールカウンセラー　心理判定員				

科目の目的

現代の子どもは、社会の情報化と能力主義を反映して「何でも一人で早くできること」をより求められるようになった。相談援助活動を行うなかで、定型外の発達や問題行動について考えるとき、まずは定型発達を理解することが必須であることを日々実感している。本科目では「しつけ」「あそび」「表現」「ことば」の4つを取り上げる。子どもが自分を取り巻く世界に踏み出すための発達的基礎は、幼児期にこそ培われることを理解し、その理論と実践を習得することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

これからの社会を生きていく子どもにとって、幼児期に何を育てておくことが必要か。その答えを「しつけ」「あそび」「表現」「ことば」の4つの観点から理解する。

①「しつけ」では、規範の教え込みとしてだけ見るのでなく、「自己実現」と「他者の関与」という生きる基本として、「しつけ」の意味を理解する。
②「あそび」では、現実社会への適応準備のみが強調されてはいるが、あそび本来の性質をどう取り戻すかに焦点を当てて学ぶ。
③「表現」では、今日、自己表現ができない子どもが増えているが、幼児期からの「表現」ということが人間にとって持つ意味を学ぶ。
④「ことば」では、現在の大人社会でも「ことば」の問題を抱えている。その原因の1つとして、幼児期における言語教育を検証する。

学習テーマ

1	「しつけ」再考【学習のポイント：しつけのもつ本来的な意味を問い直す意義を考える。】
2	「自己の実現」と「他者の関与」【学習のポイント：しつけのあり方を見直す必要性を理解する。】
3	愛する者と生きる【学習のポイント：しつけの基盤となる愛着関係の重要性を理解する。】
4	しつけと知的発達【学習のポイント：しつけの中で獲得する知的能力を学ぶ。】
5	遊びと発達【学習のポイント：遊びと諸機能発達の相互作用について考えを深める。】
6	遊びの身体性【学習のポイント：子どもが世界を掴む出発点としての遊びと身体性を理解する。】
7	象徴遊び【学習のポイント：象徴機能と言語の発達をもとに展開される遊びについて学ぶ。】
8	遊びの中のルール【学習のポイント：“遊びの倫理”の獲得とそれを遵守した遊びの重要性を学ぶ。】
9	遊びと文化【学習のポイント：幼児期における子どもの遊びと文化、大人の関与の影響性を考える。】
10	生きる証しとしての表現【学習のポイント：子どもの個性を育む表現と自己表現について学ぶ。】
11	表現の過程と表現されたもの【学習のポイント：表現されるまでの内的過程と表現後の自己変容。】
12	イメージと表現【学習のポイント：概念化と柔軟なイメージ及び表現性発揮の両立を考える。】
13	行動とことば【学習のポイント：ことばと行動の循環について理解を深める。】
14	自分に向けてのことば【学習のポイント：自己の発達と自分に向かうことばの影響を考える。】
15	出来事の意味づけ【学習のポイント：ことばの発達と物語化の重要性を学ぶ。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

幼児期における「象徴遊び」について論述しなさい。

第2課題

幼児期における「行動とことば」について論述しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキストⅡ章3節「なぜ『遊び』か －象徴遊び」を熟読してから論述しなさい。

第2課題の留意点

テキストⅣ章1節「なぜ『ことば』か －行動とことば」を熟読してから論述しなさい。

レポートの評価基準

課題に対し、テキスト学習から得た知識をふまえ、自分なりの考えや表現で如何に的確に記述できているかについて評価する。具体的には以下の 4 点を評価基準とする。

・テキストを精読し、可能であれば他の情報も加味しつつ論述している。
・自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係など文章表現に留意してまとめている（文章表現の基礎の遵守）。
・他者に読ませることを意識して、箇条書きに過度に頼らず意味の通る一連の文章を構成し、かつ丁寧に作成している。
・本文は1,800字以上2,200字以下でまとめる。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを中心に学習を進め、幼児の発達に関する理解を深める。一般論ではなく、テキストを学習することで得た学術的見地からの記述を求める。また、設題の趣旨を理解し、適切な文章及び論理構成を以て論述すること。また、幼児期における以下の発達を十分理解しておくこと。

テキストの「『しつけ』再考」（Ⅰ章 1 節）、「愛する者と生きる」（Ⅰ章 3 節）、「遊びと発達」（Ⅱ章 1 節）、「遊びの身体性」（Ⅱ章 2 節）、「生きる証しとしての表現」（Ⅲ章 1 節）、「出来事の意味づけ」（Ⅳ章 4 節）。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかを中心に評価する。
・テキストの内容をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のxiii）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20019	科目名［単位数／学習時間］	学習心理学［2単位／90時間］	科目担当	小川内　哲生
テキスト	●多鹿秀継　『学習心理学の最先端　学びのしくみを科学する』　あいり出版				
ISBN	9784901903042	本体価格（円）（2022年1月現在）	1,900	生協テキストNo.	22043

科目の目的

一昔前の学習心理学は、ネズミ（あるいは他の小動物）の行動の仕組みを明らかにし、その行動（学習）過程を包括的に説明する理論を打ちたてようとしていた。今日では、学習心理学のとらえ方が一変し、認知心理学を始めとする多様な視点から、様々な学習過程の特徴を理解するようになった。本科目では、古典的な学習心理学から学校における学習まで、学習心理学を幅広く学習するとともに、保育現場、教育現場で役立つ実践的な視点から学習を捉えていくことを目的とする。

到達目標

学習の定義として、（1）経験による比較的永続的な行動の変容（最も古い定義）、（2）経験による知識の獲得過程（やや古い定義）、（3）経験による知識の構成過程（最近の定義）、などが知られている。テキストは、学習の古典的な研究（動物の学習）、動機づけ、記憶、思考、学校学習、コンピュータ利用の学習などで構成されている。中には、比較的最近になって研究が進展した教育実践と結びついた学習の領域も含まれている。学習の理解を広めるものとして、様々な領域に関係する学習心理学を理解する。

学習テーマ

1	学習の概念について【学習のポイント：学習心理学における学習の概念を理解する。】
2	学習の理論について【学習のポイント：学習の基本的な理論を理解する。】
3	連合説による動物の学習【学習のポイント：動物の学習を説明する行動主義心理学を理解する。】
4	認知説による動物の学習【学習のポイント：動物の学習を説明する認知心理学を理解する。】
5	学習の方法について【学習のポイント：学習曲線と学習方法を理解する。】
6	学習の転移について【学習のポイント：学習の転移の概念と規定要因を理解する。】
7	学習と動機づけ【学習のポイント：動機づけの理論と特徴を理解する。】
8	記憶について【学習のポイント：記憶の研究を理解する。】
9	思考について【学習のポイント：思考の中で、問題解決と推理を理解する。】
10	読解について【学習のポイント：読み書きの心理学を理解する。】
11	数概念について【学習のポイント：数概念を理解する。】
12	熟達者の学習について【学習のポイント：熟達者と初学者の対比を通して、知識の獲得を理解する。】
13	授業の学習心理学について【学習のポイント：授業の諸理論を理解する。】
14	コンピュータと学習について【学習のポイント：学習におけるコンピュータ利用を理解する。】
15	学習障害について【学習のポイント：学習障害の概念を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

外発的動機づけ、内発的動機づけとは何かについてそれぞれ説明するとともに、学習への動機づけを育むために教師はどのように児童生徒と関われば良いか自分の考えをまとめなさい。

第2課題

プログラム学習、発見学習、有意味受容学習、バズ学習とは何かについてそれぞれ説明するとともに、児童生徒が意欲を持ち、一人ひとりが理解できるような授業を展開するために教師が工夫すべき点としてどのようなことが挙げられるか、自分の考えを簡潔にまとめなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第5章「動機づけと学習」pp.50-61や参考文献等を参考にしてまとめると良い。それを基にして教師の立場から子どもの学習への動機づけを育むにはどうすれば良いかについて、テキスト等の丸写しではなく必ず自分の言葉でまとめること。

第2課題の留意点

テキスト第12章「授業における学習理論」の2.授業における学習理論（学習指導法）pp.134-141を参考にしてまとめると良い。それを参考にして教師の立場からより良い授業を実践するために教師が工夫すべき点を自分の言葉でまとめること。

レポートの評価基準

合格（A ～ C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。
A：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を明確にする具体的な例を挿入し、自分の言葉で記述する。
B：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を自分の言葉で記述する。
C：テキストやいくつかの文献等を参考にして記述する。
D：レポートのすべての内容が 1 つのテキストの丸写しである。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験の答案を作成するに先立ち、日ごろからテキストをよく読んで内容の理解を深めておくこと。特に第 1 章、第 3 章、第 4 章、第 5 章、第 6 章、第 7 章、第 8 章、第14章を重点的に学習しておくこと。その際、テキストの内容が十分に理解できないときには、テキストに掲載されている引用文献や参考文献にも機会があれば目を通して確認しておくこと。あるいは、「質問票」で担当者に質問することもよい。
答案作成では、設題の趣旨を正確に把握し、わかりやすく論旨を記述することが必要である。

科目修了試験の評価基準

合格（A ～ C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。
A：設題に適切に解答している。
B：設題に内容の半数程度が適切に解答されている。
C：設題に内容の一部が適切に解答されている。
D：設題の解答に合致した内容が含まれない。

参考文献

第 1 課題の参考文献
・伊藤崇達　『やる気を育む心理学』　北樹出版
・中谷素之　『学ぶ意欲を育てる人間関係づくり－動機づけの教育心理学－』　金子書房
・上淵寿　大芦治　『新　動機づけ研究の最前線』　北大路書房
第 2 課題の参考文献
・伊藤康児　榎本博明　藤森進　『教育に生かす心理学』　北大路書房
・多鹿秀継　竹内謙彰　『発達・学習の心理学』　福村出版
・武田明典　『教師と学生が知っておくべき教育心理学』　北樹出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20020	科目名［単位数／学習時間］	健康心理学［2単位／90時間］	科目担当	古川　心
テキスト	●荒木紀幸　倉戸ツギオ『健康とストレス・マネジメント　学校生活と社会生活の充実に向けて』ナカニシヤ出版				
ISBN	9784888487320	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	22044
実務経験のある教員による科目	臨床心理士、公認心理師（保健所や教育機関における発達相談員、スクールカウンセラー、病院臨床、指定大学院附属相談室での臨床心理活動）				

科目の目的

本科目では人間の健康を取り巻く問題を総合的、実践的に取り扱う。まずウェルネスの立場から心の健康を扱い、セルフ・エスティーム（self-esteem）の育成の重要性を指摘する。また健康を阻害する要因であるストレスや不安のメカニズムと適応機制について考える。次いで学校における自尊感情の育成プログラムや子どもの攻撃性を低減する教育実践を示す。実務経験のなかで携わってきた、学校教育の中で子どものウェルネスを保ち、育てるためのストレス・マネジメント（開発的・予防的）教育の実際的な方法を教授する。そして企業や職場における健康教育の取り組みを知る。

到達目標

テキストでは、ウェルネス、ストレス・マネジメント、ラザルス（Lazarus）の認知的なストレス理論、学校内不安、自尊感情をキーコンセプトとして、幅広い年齢や場面に適用できる具体的な実践をできるだけ多く取り上げている。この場合、ストレス・マネジメントを実際に体験することが重要であるので、各自がリラクゼーションや自律訓練法、呼吸法を実践して、どんなものか、どのようにすればよいか、など確かめてほしい。テキストには、実際に教室で行った教育プログラムをいくつも具体的に紹介しているので、ストレス・マネジメント教育を進める参考にしてほしい。カウンセリングや応用行動分析療法、精神分析等についても参考書を通して学習してほしい。なお、参考文献については各章の引用文献一覧なども参考に、自ら探究してほしい。

学習テーマ

1	健康心理学について【学習のポイント：健康心理学とは何か、その特徴を把握する。テキスト第1章】
2	情動知能とストレス・マネジメントについて【学習のポイント：情動知能とはどのようなものかを把握する。そしてそれを高めるための実践研究にふれることを通して、情動知能を高める健康教育が、ストレス対処の基礎となる能力を高めることにつながることを理解する。テキスト第1章】
3	自律的でセルフ・エスティームに満ちた性格形成について【学習のポイント：子どもたちの心身の健康にとって、性格としてのセルフ·エスティームを適切に教育していくことが重要であることを、実践研究から学び取る。テキスト第2章】
4	自律的でセルフ・エスティームに満ちた性格形成のための総合的教育プログラムについて【学習のポイント：プログラム目標達成の中心となるさまざまな理論および技法について知る。テキスト第2章】
5	攻撃性適正化への総合的教育プログラムについて【学習のポイント：このプログラムの教育目標と期待効果について把握する。テキスト第3章】
6	攻撃性適正化教育プログラムの具体的方法について【学習のポイント：このプログラムの具体的方法と実践について、具体例を通して把握する。テキスト第3章】
7	子どものウェルネス（総合的健康）を守ることについて【学習のポイント：ウェルネスという概念を把握し、ストレス・マネジメントの必要性の観点を明確にする。テキスト第4章】
8	ストレス·マネジメント教育について【学習のポイント：開発的ストレス·マネジメント教育と予防的ストレス·マネジメント教育の違いを把握し、両方の実践研究を通して、それぞれの長所、問題点に目を向け、子どものウェルネスを守る、より実践的な教育について探索する。テキスト第4章】
9	ウエルライフについて【学習のポイント：小・中・高校生の学校生活充実検査（ウエルライフ）とは何のために作られた尺度であるかを把握する。テキスト第5章】
10	小・中・高校生活ウエルライフ（充実）検査について【学習のポイント：各々の検査の内容と検査実施から得られた知見を把握する。各年代によるこの検査の活用法の違いなどにも目を向ける。テキスト第5章】
11	生きる力、自尊感情とストレス・マネジメント教育との関連について【学習のポイント：「生きる力」を支える自尊感情を高める効果があるとされるストレス・マネジメント教育の実際にふれ、その効果を考察する。テキスト第6章】
12	授業の中で自尊感情を育てることについて【学習のポイント：学校生活の大半を占める教科授業のなかで、どのようなことに留意すれば自尊感情を育てることができるのか、実践研究を通して考察する。テキスト第6章】
13	職場におけるストレス・マネジメントの取り組みについて【学習のポイント：職場におけるメンタル・ヘルス・ケアの実態を把握し、一次予防が重視される背景をしっかりとおさえる。テキスト第7章】
14	職場におけるストレス・マネジメントの実際について【学習のポイント：テキストで取り上げている、職場の人間関係を改善させる方法として用いられることが多い、アクティブ・リスニングとアサーション・トレーニングについて理解を深める。テキスト第7章】
15	ストレスとストレス·マネジメントについて【学習のポイント：ストレスとは何かについて、あらためて認識し、誰にとっても日常的に避けがたいストレスとどのように付き合っていけばよいのかについて探る。テキスト第8章】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第 1 課題

自律的でセルフ・エスティーム（self-esteem）に満ちた性格の形成を目指す教育プログラムの実践について、具体的な内容を示し、その効果と課題について考察しなさい。

第 2 課題

子どもたちに求められる「生きる力」を育むために効果があると考えられ、取り組まれているストレス・マネジメント教育の実際について調べ、具体的な実践内容やその効果を示し、考察しなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

まず、心身の健康と性格の関連性について考察し、こうした教育プログラムの必要性を十分理解したうえで、実際の教育現場の実践活動に触れ、結果をまとめるだけでなく、その課題や今後の可能性についても自身の考えを述べて欲しい。

第 2 課題の留意点

まず、これからの子どもたちに求められる「生きる力」とはどのような能力であるかを考察し、それを高めるためのストレス・マネジメント教育の及ぼす効果について、具体的実践例を調べて得た自身の考えを述べてほしい。

レポートの評価基準

・課題についてテキストや他の文献や資料から学んだ内容をふまえて、自分なりの考え、意見、問題提起等を論述できているかについて評価する。
・次の 3 点を評価基準とする。
①テキストを精読の上、他の参考文献などにも広くあたり、課題に即した内容について論述している。
②引用文献の明示など、基本的なレポートの書き方を習熟した上で作成している。
③誤字脱字がない文章である。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを隅々までよく読んで理解を深めること。文章だけでなく、必要に応じて挿入されている図や表、グラフ、具体的な教材例なども、理解を助けるものとして、必ず目を通し活用してほしい。流し読みで対応できるような設題ではない。また、テキストの中で紹介されている健康心理学やストレス・マネジメントに関する、様々な概念や用語の指し示す意味をしっかりと理解しておくこと。その際、それぞれの概念や用語を提唱した研究者についても合わせて覚えてほしい。あくまでテキストの内容からの出題であるが、もしテキスト中の説明だけでは分かりにくい場合は、他の専門文献にもあたり、理解を深めることを勧める。

科目修了試験の評価基準

設題の内容を正しく理解し、正確に、論理的に記述できていること。とくにテキストで紹介されている概念や用語の定義については、正しくおさえてほしい。その点が正しく記述されていることが合格の最低ラインである。その上で、さらに自分の考えを取り入れて作成された答案には、内容に応じてより高い評価を加える。しかし、いかに自説の内容が優れていても、テキストの内容に沿った基礎的な理解に誤りがある場合は不合格とする。

参考文献

各自、参考としたい文献を自分自身で探すこと。様々な文献を探索することも重要な学びとなる。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のxviii）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20021	科目名［単位数／学習時間］	教育臨床心理学［4単位／180時間］	科目担当	金山　健一
テキスト	●杉原一昭　『発達臨床心理学の最前線』　教育出版				
ISBN	9784316339009	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,800	生協テキストNo.	22045

科目の目的

「教育臨床心理学」では、現代日本で学校が抱える臨床心理学的問題を取り上げる。学校の役割とは、家庭という個別の世界で育ってきた子どもたちを、学校という集団的な世界で教育し、社会生活の中で協力し合い、共同して生きることを教えることである。

しかし近年、さまざまな変化の中で、子どもたちがいじめ・不登校などの臨床心理的な問題を抱えている。「教育臨床心理学」を通して、学校現場での子どもたちの行動と心理の理解を深め、教師としての資質を高めることを目的とする。

到達目標

教師として実践的な指導力を習得するために、下記の6点を到達目標とする。

- 「子どもと家族」では、親教育の視点から育児ストレス等の親の発達の問題を学び、そして親の養育行動と子どもの発達との関係について学ぶ。
- 「子どもと学校」では、学校心理学の視点より、学校ストレスへの対応、思いやりを育てる教育実践、子どもの発達課題への援助方法を習得する。
- 「子どもと社会」では、教師の働きかけと学習意欲の内在化、対人場面での適応問題を学ぶ。
- 「子どもとメディア」では、メディアリテラシー、暴力、テレビの問題を学ぶ。
- 「子どもの問題行動」では、子どもの攻撃性と非行の問題について学ぶ。
- 「トランジッション教育」では、発達障害への対応と心のケアの方法を習得する。

学習テーマ

1	親教育と親の教育臨床【学習のポイント：親の発達の視点から理解する。】
2	親から伝えられる肯定・否定メッセージと自己存在価値【学習のポイント：親のメッセージを理解する。】
3	児童虐待に関する最近の傾向【学習のポイント：虐待の現状とケアを理解する。】
4	親の養育態度と新しい類型論【学習のポイント：類型論を理解する。】
5	学校のストレス【学習のポイント：学校ストレスの現状と対処法を理解する。】
6	学校心理学と発達心理学【学習のポイント：学校心理学の中での発達心理学の立場を理解する。】
7	道徳発達と幼児教育【学習のポイント：幼児期の道徳発達について理解する。】
8	子どもの自己決定の発達臨床心理学的意味【学習のポイント：子どもの自己決定について理解する。】
9	子どもと適応【学習のポイント：子どもの外的・内的適応について理解する。】
10	子どもとメディア【学習のポイント：子どものメディアリテラシーについて理解する。】
11	青少年の仲間志向性と問題行動【学習のポイント：仲間志向性と問題行動の関係について理解する。】
12	行為障害とその対応【学習のポイント：行為障害のリスク・診断・介入について理解する。】
13	ケアを必要とする人【学習のポイント：幼児から老人までの心のケアについて理解する。】
14	知的障害の評価と教育【学習のポイント：知的障害の機能・個人差・評価について理解する。】
15	注意欠陥多動性障害（ADHD）と自閉症【学習のポイント：ADHDと自閉症の対応を理解する。】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

「親の養育行動と子どもの不適応行動」について、理論と実践を踏まえて述べなさい。

第2課題

「思いやりの心を育む教育的実践」について、理論と実践を踏まえて述べなさい。

第3課題

「道徳発達と幼児教育」について、理論と実践を踏まえて述べなさい。

第4課題

「行為障害とその対応」について、理論と実践を踏まえて述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1部6章「親の養育行動と子どもの不適応行動」を理解し、理論と実践を踏まえ、自分の考えをまとめる。課題には小見出しに番号をつけて、最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記載する。

第 2 課題の留意点

テキスト第 2 部 2 章「思いやりの心を育む教育的実践」を理解し、理論と実践を踏まえ、自分の考えをまとめる。課題には小見出しに番号をつけて、最低 2 つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記載する。

第 3 課題の留意点

テキスト第 5 部 1 章「道徳発達と幼児教育」を理解し、理論と実践を踏まえ、自分の考えをまとめる。課題には小見出しに番号をつけて、最低 2 つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記載する。

第 4 課題の留意点

テキスト第 6 部 1 章「行為障害とその対応」を理解し、理論と実践を踏まえ、自分の考えをまとめる。課題には小見出しに番号をつけて、最低 2 つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記載する。

レポートの評価基準

課題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや課題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数（ 1 課題につき2,000字程度）の 9 割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの次の部分は熟読し、理論と実践をまとめる。答案には、小見出しに番号をつけて最低 2 つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

・親子関係と子どもの心（第 1 部　子どもと家族　5 章）
・学校心理学と発達心理学（第 2 部　子どもと学校　4 章）
・子どもと適応（第 3 部　子どもと社会　5 章）
・メディアリテラシーと子ども（第 4 部　子どもとメディア　1 章）
・子どもと攻撃行動（第 5 部　子どもの問題行動　1 章）
・学習障害（第 6 部　発達の障害　7 章）

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや設題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数の 9 割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

参考文献

・諸富祥彦　金山健一　佐々木掌子　『チャートでわかる　カウンセリング・テクニックで高める「教師力」 2 』
ぎょうせい

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20022	科目名［単位数／学習時間］	発達心理学［2単位／90時間］	科目担当	小川内　哲生
テキスト	●中澤潤　『発達心理学の最先端　認知と社会化の発達科学』　あいり出版				
ISBN	9784901903257	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	22046

科目の目的

発達心理学とは、時間的経過にともなって生じる精神（こころ）の変化の特徴を記述し、その背後にある法則性を明らかにする心理学の分野である。最近の発達心理学では、胎児、乳幼児、あるいは高齢者の発達的変化についての研究が精力的に行われ、目覚しい成果が報告されている。本科目では、発達の理論、認知の発達、パーソナリティの発達、あるいは社会性の発達の研究成果など、発達心理学の基本的な研究成果に加えて発達心理学の最新の成果の一端も学習するとともに、保育現場、教育現場で役立つ実践的な視点から人間の発達を捉えていくことを目的とする。

到達目標

発達心理学の研究では、最近になって、乳幼児の研究と高齢者の研究、並びにヒトの生涯にわたるこころの発達（生涯発達心理学）を視野に入れた研究が精力的になされつつある。テキストでは、これまでの発達心理学で得られた個々の具体的な研究成果や知見だけでなく、発達心理学の最新の成果の一部も学習する。テキストにあるピアジェらの発達理論は、現在でも生きている。発達心理学では、私たちの日常の発達現象と発達研究の具体的な成果とを関連させて理解することで、その背後にある発達理論の理解を深める。

学習テーマ

1	発達の概念について【学習のポイント：発達心理学における発達の概念を理解する。】
2	発達の研究法について【学習のポイント：発達研究の基本的な方法を理解する。】
3	認知発達の理論について【学習のポイント：認知発達の理論を理解する。】
4	精神発達の理論について【学習のポイント：精神発達の理論を理解する。】
5	胎児期の発達について【学習のポイント：胎児期の心身の発達を理解する。】
6	乳児期の認知の発達について【学習のポイント：乳児期の認知の発達を理解する。】
7	乳児期の社会化の発達について【学習のポイント：乳児期の社会化の発達を理解する。】
8	幼児期の認知の発達について【学習のポイント：幼児期の認知の発達を理解する。】
9	幼児期の自己と社会化について【学習のポイント：幼児期の自己と社会性の発達を理解する。】
10	児童期の認知の発達について【学習のポイント：児童期の認知の発達を理解する。】
11	児童期の自己と社会性の発達について【学習のポイント：児童期の自己と社会性の発達を理解する。】
12	青年期の認知について【学習のポイント：青年期の認知について理解する。】
13	青年期の自己と社会性について【学習のポイント：青年期の自己と社会性を理解する。】
14	成人期の発達について【学習のポイント：成人期の諸機能の発達を理解する。】
15	老年期の発達について【学習のポイント：老年期の諸機能の発達を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

幼児期の遊びと社会的発達との関連について説明するとともに、幼児期の子どもにとって遊びとはどのような意味を持つのか考察しなさい。

第2課題

発達障害とは何か説明しなさい。また発達障害の子どもへの支援を行うために教師や保育者はどのような点に留意して、発達障害の子どもやその保護者と関われば良いか自分の考えをまとめなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

幼児期における子どもの遊びと社会的発達についてテキスト第5章や他の文献を参考にして、具体的な研究例あるいは日常の具体例を引用することで説明すること。テキスト第4章にも子どもの遊びについて解説されているので、参考にすること。

第2課題の留意点

発達障害の定義と発達障害の子どもとその保護者への支援の在り方についてテキスト第7章や章末の参考図書を参考にして教師の立場から考察し、まとめると良い。

レポートの評価基準

合格（A ～ C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。
A：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を明確にする具体的な例を挿入し、自分の言葉で記述する。
B：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を自分の言葉で記述する。
C：テキストやいくつかの文献等を参考にして記述する。
D：レポートのすべての内容が 1 つのテキストの丸写しである。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験の答案を作成するに先立ち、日ごろからテキストをよく読んで理解を深めておくこと。特に第 1 章、第 3 章、第 4 章、第 5 章、第 7 章を重点的に学習しておくこと。その際、テキストの内容が十分に理解できないときには、テキストに掲載されている引用文献や参考文献にも機会があれば目を通して確認しておくこと。あるいは、「質問票」で担当者に質問することもよい。

答案作成では、設題の趣旨を正確に把握し、わかりやすく論旨を記述することが必要である。

科目修了試験の評価基準

合格（A ～ C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。
A：設題に適切に解答している。
B：設題に内容の半数程度が適切に解答されている。
C：設題に内容の一部が適切に解答されている。
D：設題の解答に合致した内容が含まれない。

参考文献

・浅野敬子　丸山真名美　『保育・教育実践のための心理学』　みらい
・浜崎隆司　田村隆宏　『やさしく学ぶ発達心理学』　ナカニシヤ出版
・武藤隆　中坪史典　西山修　『発達心理学』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20023	科目名［単位数／学習時間］	社会心理学［2単位／90時間］	科目担当	辻川　典文
テキスト	●辻川典文　阿部晋吾　神原歩　田端拓哉『ライブラリ読んでわかる心理学　10　読んでわかる社会心理学』サイエンス社				
ISBN	9784781914886	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	22047

科目の目的

人間は「社会的動物」であるといわれている。それは、人間が生きるためには社会や他者の存在が必要不可欠だからである。本科目では、社会心理学の特徴である「社会と個人の相互作用」の中でも、特に「自己認知と他者認知」、「他者に対する行動」、「集団と個人の行動の関係性」の問題を中心に、人間関係の維持・形成過程、集団が個人に及ぼす影響、およびその周辺領域について、社会心理学的観点から考察し、知識を深めていく。

到達目標

自分自身や他者に対する認識、そして対人行動や集団行動といった、社会心理学の中できわめて重要なテーマの知識習得に加え、学問上で得られた知見を現実の社会問題や自己の体験と結びつけて、よりよい社会のあり方や、個人にとって望ましいこれからの生き方について論考することを求める。そのためにも、テキストを通読して社会心理学の全体像をつかむことが必要である。

学習テーマ

1	社会心理学とは【学習のポイント：社会心理学とはどのような学問かについて理解する。】
2	社会の中の自己【学習のポイント：社会との関わり合いの中で、自分自身をどのように認識するか、その傾向を理解する。】
3	自尊感情と動機づけ【学習のポイント：自尊感情とは何か、自尊感情が行動に及ぼす影響について理解する。】
4	態度【学習のポイント：態度の認知的一貫性や説得について理解する。】
5	対人認知【学習のポイント：他者の印象がどのように形成されるかを理解する。】
6	社会的推論【学習のポイント：人の原因帰属や推論の特徴、歪みについて理解する。】
7	対人関係【学習のポイント：対人関係における心理について理解する。】
8	対人魅力・恋愛【学習のポイント：他者に魅力を感じるメカニズムについて理解する。】
9	援助と攻撃①【学習のポイント：援助行動やソーシャルサポートについて理解する。】
10	援助と攻撃②【学習のポイント：攻撃行動について、誘因やメカニズムを理解する。】
11	集団の中での人間関係①【学習のポイント：集団内の人々の行動が、自分自身の行動にどのような影響を及ぼしているかを理解する。】
12	集団の中での人間関係②【学習のポイント：集団内と集団間の人間関係の特徴について理解する。】
13	集団のパフォーマンス【学習のポイント：集団活動の落とし穴やリーダーシップについて理解する。】
14	家族の人間関係【学習のポイント：家族内の様々な人間関係や問題点を理解する。】
15	文化の影響、心の文化差【学習のポイント：人の心理や行動に対する文化の影響について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

人は他者を助けることもあれば傷つけることもある。本課題では、援助行動と攻撃行動の特徴について説明せよ。なお、説明の際には、理論や研究の説明に加えて、あなた自身の体験談や具体例もいれて説明すること。

第2課題

私たちは大きな目標を達成するために集団で活動することが多くある。しかし、単に人々が集まっただけでは良い成果を出せるとは限らない。本課題では、集団でのパフォーマンスの特徴と、リーダーシップについて説明せよ。なお、説明の際には、理論や研究の説明に加えて、あなた自身の体験談や具体例もいれて説明すること。

各課題の留意点

第1課題の留意点

援助行動については、「傍観者効果」や「援助行動の意思決定モデル」、「ソーシャルサポート」に関する内容をもとに説明すること。攻撃行動については「攻撃手掛かり説」「モデリング」「攻撃的な性格」「攻撃の一般モデル」といった内容をもとに説明すること。また、これらの内容を理解したうえで、日常生活との接点を考えながら論考すること。深く理解したい場合は、テキストだけでなくテキスト以外のものも参考にして欲しい。

第2課題の留意点

他者の存在は様々な形で個人の行動に影響する。集団内での個人の行動について「集団のパフォーマンス」や「集団意思決定」に関するさまざまな研究を踏まえて説明すること。そして、集団活動を成功に導くうえでどのような「リーダーシップ」が必要かを説明すること。また、これらの理論や先行研究を理解したうえで、日常生活との接点を考えながら論考すること。深く理解したい場合は、テキストだけでなくテキスト以外のものも参考にして欲しい。

レポートの評価基準

レポートの評価基準は次の 3 点である。 1 点目は、レポートの基本的な書き方ができているかどうかである。 2 点目は、課題であげた内容について、「社会心理学的な観点からの説明ができているかどうか」である。 3 点目は、「テキストで学んだ内容を自身の経験に置き換えて考察できているかどうか」である。単にテキストをまとめるだけでなく、自分の経験と照らし合わせながらレポートの作成にあたってほしい。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全体が出題範囲であるため、熟読して理解を深めておいてほしい。特に、「自尊感情を維持する仕組み」、「説得的コミュニケーション」、「印象形成する側（見る側）の要因」、「集団間の人間関係」、「家族関係を発達的にとらえる」、「文化の影響を考える時の注意点」に関連する内容については十分理解しておいてほしい。

科目修了試験の評価基準

評価基準は次の 2 点である。 1 点目は、テキストをどの程度熟読しているかを判断するため、「課題に関連する社会心理学の専門用語や先行研究をどの程度説明できているか」である。 2 点目は、専門用語や先行研究の理解度を判断するために、「専門用語や先行研究について、具体例を用いてどの程度説明できるか」である。

参考文献

・池上知子　遠藤由美　『グラフィック社会心理学　第 2 版　Graphic text book』　サイエンス社
・竹村和久　『公認心理師の基礎と実践　11　社会・集団・家族心理学』　遠見書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20024	科目名［単位数／学習時間］	青年心理学［2単位／90時間］	科目担当	山本　千恵
テキスト	●大野久　『シリーズ生涯発達心理学　4　エピソードでつかむ　青年心理学』　ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623057375	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	22048
実務経験のある教員による科目	カウンセラー（心療内科、中学校等）				

科目の目的

青年期というのは、子どもから大人へ移行する、その狭間にある大きな変化の時期である。「自分とは何者か」といった問いが芽生え、親子関係や友人関係にも大きな変化が見られるこの時期は、モラトリアムと呼ばれるように猶予期間ではあるものの、不安定で不適応を起こしやすい時期と言える。

そこで本科目では、この時期特有の心や体の変化を知り、起こりうる心理的危機についての知見を得ることで、「無事に青年期特有の危機を乗り越え、アイデンティティを確立し、大人として自立するとはどのようなことか」を考える機会として欲しい。実務経験を活かして教授する。

到達目標

エリクソンの漸成発達理論をベースに、「青年期の自我の発達」「青年期の恋愛の発達」「青年期の親子関係」「青年期の友人関係」といった4つのテーマ別に、アイデンティティ確立とは何か、真の自立とは何かについて考えて貰いたい。

学習テーマ

1	テキスト序章　青年期を理解する【エリクソンの漸成発達理論を理解する。】
2	テキスト序章　青年期の体と心の発達を理解する【体の発達の特徴と、ピアジェの心の発達理論を理解する。】
3	テキスト第Ⅰ章　アイデンティティとは何か【アイデンティティについて、その定義を理解する。】
4	テキスト第Ⅰ章　アイデンティティ達成とは何か【マーシャのアイデンティティ・ステイタスを理解する。】
5	テキスト第Ⅱ章　青年期以前の恋愛【青年期以前の「好き」になる傾向、特徴をおさえる。】
6	テキスト第Ⅱ章　青年期の恋愛【アイデンティティのための恋愛の特徴をおさえる。】
7	テキスト第Ⅱ章　青年期以降の恋愛【アイデンティティ達成後の恋愛の特徴をおさえる。】
8	テキスト第Ⅱ章　男女間における恋愛の違い【従来から言われている特徴を踏まえ、近年の傾向もおさえる。】
9	テキスト第Ⅲ章　親からの自立【自立とはどういうことか、その定義と近年の傾向を併せて理解する。】
10	テキスト第Ⅲ章　親子間の葛藤【親子の葛藤は自立にどの程度、必要か。新旧どちらの理論も習得する。】
11	テキスト第Ⅲ章　親子間の対話　【オルソンの円環モデルを元に、自立を促す対話とは何かを理解する。】
12	テキスト第Ⅲ章　親の発達課題【自立していく子どもを持つ、親が抱える危機をおさえる。】
13	テキスト第Ⅲ＆Ⅳ章　親子関係と友人関係【親子関係と友人関係の違いをおさえ、友人の特徴を理解する。】
14	テキスト第Ⅳ章　友人関係の発達的変化【発達的＆男女別に見た友人関係の変化と、近年の特徴をおさえる。】
15	テキスト第Ⅳ章　友人関係の形成と孤独感【孤独感が友人関係のあり方にどう変化をもたらすのか理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

アイデンティティとは何か、アイデンティティ達成とはどういった状態なのかを考察せよ。

第2課題

青年期以前と青年期以後で友人関係に変化はあるか、近年の傾向も加えて考察せよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

アイデンティティについてきちんと理解した上で、アイデンティティ・ステイタスについて述べること。

第2課題の留意点

発達的に見て、友人関係はどのように変化していくのか、一般的な傾向に加え、近年の特徴についても述べること。

レポートの評価基準

テキストの丸写しは不可。課題についての記述は、テキスト中に複数箇所で取り上げられている。それらを自分なりにまとめたレポートであること。なお、テキストだけでなく、参考文献やその他の手持ちの参考書なども盛り込み、より多角的に課題について述べられたレポートであれば、なお素晴らしい。（文献引用の際は、レポートの最後に著者名・書名・出版社名・ページ番号を明示すること。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを熟読し、課題で挙げられたトピックスだけでなく、テキスト全ての内容を把握しておくこと。細かな専門用語や人名を覚えることより、テキストで書かれている内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

科目修了試験の評価基準

設題について、的確な専門用語も交えて論述できていればなお良いが、細かな専門用語は多少あやふやでも、要点がきちんと押さえられていれば合格点となる。たとえ設題について述べられていても、終始自身の体験などからくる個人的感想のみの解答は不合格となる。

参考文献

・丸島令子　日比野英子　『臨床心理学を基本から学ぶ』　北大路書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20025	科目名［単位数／学習時間］	家族心理学［2単位／90時間］	科目担当	金山　健一
テキスト	●岡堂哲雄　『家族心理学入門　補訂版』　培風館				
ISBN	9784563056308	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	22049

科目の目的

「家族心理学」では、人間にとって家族とは何か、心身の健康に関わる家族システムとは何か、という課題に対する知見を学ぶ事を目的とする。

「家族心理学」は、心理学史上もっとも新しいフロンティアで、家族危機の時代とよばれる1980年代に誕生した心理学の一分野である。個人を家族や社会と切り離すことなく、所属する家族システムや社会システムの一員と見なす。そのシステム内の人と人との関係およびシステム間の関係を重視しつつ、家族への心理的援助を理解する。

到達目標

教師として実践的な指導力を習得するために、下記の5点を到達目標とする。

・家族心理学の課題と要点について、家族の心理構造、家族の心理過程、さまざまな家族関係の真理について学び、家族の問題を理解する。
・恋愛と配偶者の選択、父親母親としての役割と成長、家族内暴力など、家族の抱える心理臨床的問題について学び、具体的な対応方法を理解する。
・今日、深刻化している自殺、児童虐待等の現状を知り、対応方法を学ぶ。
・家族関係の心理査定を学び、家族へのアセスメント方法を習得する。
・家族関係の諸問題に対する、家族療法を用いた心理臨床的介入方法について理解する。

学習テーマ

1	家族心理学の課題と方法【学習のポイント：家族心理学を概観し課題を理解する。】
2	家族の心理構造【学習のポイント：家族の様々な境界、連合、パワーを理解する。】
3	家族の心理過程【学習のポイント：家族の視点、立場、心理過程を理解する。】
4	親子関係の心理【学習のポイント：出生時から成人期までの親子関係を理解する。】
5	きょうだい関係の心理【学習のポイント：ひとりっ子、出生順位、きょうだい関係を理解する。】
6	親子孫－多世代関係の心理【学習のポイント：戦前から現代までの家族の変化を理解する。】
7	父性・母性とペアレンティング【学習のポイント：父親・母親の役割・葛藤を理解する。】
8	児童虐待【学習のポイント：児童虐待の新たな動向を理解する。】
9	子どもの家庭内暴力と家族心理【学習のポイント：家庭内暴力への家族療法を理解する。】
10	子どもの自殺と家族心理【学習のポイント：児童・青年の自殺の心理を理解する。】
11	子どもの非行化と家族心理【学習のポイント：非行問題と家族の関係を理解する。】
12	子どもの神経症・人格障害と家族心理【学習のポイント：事例を通して、家族の課題を理解する。】
13	ミドル・エイジ夫婦の心理的危機【学習のポイント：家族のライフサイクルを理解する。】
14	家族療法への心理臨床的介入①【学習のポイント：家族療法のアプローチを理解する。】
15	家族療法への心理臨床的介入②【学習のポイント：短期療法の原理のアプローチを理解する。】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

「児童期の親子関係」について、理論と実践を踏まえて述べよ。

第2課題

「性格形成の把握のしかた」について、理論と実践を踏まえて述べよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第4章5節「児童期の親子関係」を熟読してから論述しなさい。課題には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

第2課題の留意点

テキスト第15章3節「性格形成の把握のしかた」を熟読してから論述しなさい。課題には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

レポートの評価基準

・課題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや課題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数（1課題につき2,000字程度）の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの次の部分は熟読し、理論と実践を踏まえる。答案には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

・家族内のコミュニケーションの過程（第2章2節　家族の心理過程）
・夫婦関係理解の形態的枠組み（第3章2節　夫婦関係の心理）
・出生順位と性格（第5章4節　きょうだい関係の心理）
・対人魅力の形成（第8章1節　恋愛と配偶者の選択）
・夫婦間暴力の多い関係の特徴（第11章3節　夫婦間暴力と家族心理）
・わが国における自殺の現状（第13章2節　子どもの自殺と家族心理）

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや設題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

参考文献

・インスー・キム・バーグ　『家族支援ハンドブック　ソリューション・フォーカスト・アプローチ』　金剛出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVIII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20026	科目名[単位数／学習時間]	教職論［2単位／90時間］	科目担当	小坂　明
テキスト	●佐久間裕之　『教職概論　改訂版』　玉川大学出版部				
ISBN	9784472405952	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	22050
実務経験のある教員による科目	公立小学校長				

科目の目的

「教職とは」について、教職の意義、教員の役割、職務内容、資質能力など、実際の教育事例に基づいて、その基礎的・基本的な理論を理解する。社会の急速な進歩や変化の中、教員へ求められる教員の資格、研修、学校経営など現状を教育関係法規や文部科学省の答申、メディアの資料を参考にしながら理解する。これを理解した上で、教職適性を絶えず確認しつつ、教職への意欲と責任感・使命感を高め、「求められる教員の資質能力」について考え、学び、将来は「魅力ある教員」としての基礎になるように、実践的指導力について習得する。

小学校での勤務経験を活かして教授する。

到達目標

・学校教育及び教職の社会的意義を学び、教職の魅力とその仕事を理解する。
・教員の職務内容や教育公務員としての服務上及び身分上の義務を理解する。
・社会情勢を知り、教育の動向を踏まえ、教員に求められる役割と資質能力を理解する。
・平成29年に公示された「小学校学習指導要領」及び「幼稚園教育要領」を理解する。
・学校が担う役割が拡大、多様化する中、専門職としての教員について理解する。

学習テーマ

1	教職の意義①　教職とは何か
2	教職の意義②　教員に求められるもの
3	教員の職務①　教員の身分
4	教員の職務②　教員の服務
5	教員養成　教員養成の歴史と現状
6	教員資格と教員の採用　教員免許状と教員採用試験
7	教員の資質能力　　求められる資質能力
8	教員の研修と評価　　意義と課題
9	専門職としての教職①　小学校学習指導要領
10	専門職としての教職②　幼稚園教育
11	専門職としての教職③　特別支援教育
12	専門職としての教職④　人権教育
13	専門職としての教職⑤　教科指導と教科外指導（ICTの活用を含む）
14	専門職としての教職⑥　生徒指導（道徳教育も含む）
15	教職をめぐる新たな諸課題

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

教員の服務とは何か。職務上の義務と身分上の義務についてもふれて説明せよ。

第2課題

「魅力ある教員」とはどんな教員か。教員の資質能力について考察し、論ぜよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

「公の性質」を持つ学校教員について、教員の服務は法令等でどのように規定されているか確認し、現状と課題について説明する。

第2課題の留意点

「いつの時代も教員に求められる資質能力」と「令和の日本型学校教育で求められる教師像」の2つの観点からとらえ、子どもや保護者が求める魅力ある教師像を自身の経験も踏まえて論じる。

レポートの評価基準

・常に「論文・レポートの書き方」を想起し、①序論、②本論、③結論が適切に構成されていること。
・題意を正しくとらえ、構成が明確で具体的かつ論理的に書かれていること。次に、事実・文献の引用なども適切であり、日本語としての表現、表記が的確でもあること。
・誤字脱字や原稿用紙の正しい使い方に気を付け、丁寧に書かれていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの構成（目的）を参考にして、とりわけ、①教職の意義、②教員の職務、③教員養成、④学習指導要領、⑤教員の資質・能力を中心にまとめておくこと。また、参考文献の『小学校学習指導要領解説　総則編』、『幼稚園教育要領解説』『生徒指導提要』なども熟読しておく必要がある。さらに、学習指導要領の各教科、教科外の解説書などやその他の教育関係法規、文部科学省等の教育関係の答申も参考にすることも大切である。

科目修了試験の評価基準

・レポートの評価基準に準じる。
・題意を正しくとらえ、構成が明確で具体的かつ論理的に書かれていること。次に、事実・文献の引用などが適切であり、日本語としての表現、表記も的確であること。さらに、テキストや学習指導要領などを熟読しているか、教育関係法規や答申等についても触れているかを中心に評価する。題意に正対せず、自分の得意領域にすり替える等、経験や体験を羅列して論述しているような答案は、高く評価しない。
・誤字脱字に気を付け、丁寧に書かれていること。
・設題の内容を正しく理解し、具体的かつ論理的に記述でき、解答用紙表面すべてと裏面の 1 / 2 以上にわたる記述があることを前提として評価する。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編＜平成29年 7 月＞』東洋館出版社
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説＜平成30年 3 月＞』開隆堂
・文部科学省　『生徒指導提要（平成22年 3 月）』　教育図書
・文部科学省　『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（平成27年12月21日）』　中央教育審議会答申
・文部科学省　『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（平成28年12月21日）』中央教育審議会答申
・文部科学省　『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和 3 年 1 月26日）』　中央教育審議会答申
・法務省　『人権教育・啓発に関する基本計画』　平成14年 3 月15日閣議決定（策定）平成23年 4 月 1 日閣議決定（変更）
・金子邦秀　『新しい教職基礎論』　サンライズ出版
・今津孝次郎　『教師が育つ条件』　岩波新書
・文部科学省　『教育の情報化に関する手引（令和元年12月）』
・文部科学省　『教育の情報化に関する手引-追補版-（令和 2 年 6 月）』
・文部科学省　『GIGAスクール構想の実現へ』（リーフレット）

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の㏍）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20027	科目名［単位数／学習時間］	幼児教育原理［2単位／90時間］	科目担当	高畑　芳美
テキスト	●西本望　『いまがわかる教育原理　シリーズ知のゆりかご』　みらい				
ISBN	9784860154509	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,100	生協テキストNo.	22051
実務経験のある教員による科目	公立幼稚園教諭				

科目の目的

「幼児教育原理」は、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基本的な知識を身につけ、保育を行う根本となる理念や意義、そして現在の保育事情についての認識を深めることを目的としている。幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園の保育者としての社会的役割やあり方について明らかにし、乳幼児を取り巻く現代の社会的状況と課題について理解を深める。実務経験を基に、具体的な保育に活用できる保育の原理を教授する。

到達目標

・「人間らしさ」の育成としての教育にとって重要なことは何かを理解する。
・教育と福祉の関係を考え、子ども・子育て支援制度について理解する。
・子どもの教育において、なぜ家庭や地域、社会との連携が必要なのかを理解する。
・現代の教育制度はどのような問題を抱えているかについて理解する。
・子ども観、教育観の変遷から、これからの時代に求められる新しい教育観について理解する。
・教育の基盤を支える法的枠組みから、「認定こども園」制度が目指す方向性を理解する。
・保幼小の接続・連携がカリキュラムにも求められる背景について理解する。

学習テーマ

1	保育・教育の意義【学習のポイント：「人間らしさ」の育成としての保育・教育を理解する。】
2	教育の目的とは【学習のポイント：教育の目的とは何かについて理解する。】
3	教育と児童福祉のつながり【学習のポイント：子どもの育ちを支える教育と福祉を理解する。】
4	人間形成と家庭・地域・社会【学習のポイント：社会全体で子どもを育てる互恵性を理解する。】
5	教育制度の基礎【学習のポイント：日本の教育制度について概観する。】
6	教育思想家の考え方【学習のポイント：子どもの教育を考える思想家について理解する。】
7	日本の教育思想と歴史【学習のポイント：日本の教育の歴史を理解する。】
8	近代教育成立の歴史【学習のポイント：歴史的背景を元に成立した近代公教育について理解する。】
9	子ども観と教育観の変遷【学習のポイント：子ども観、教育観について考察する。】
10	教育行政および学校経営の基礎【学習のポイント：教育の基盤を支える法的しくみを理解する。】
11	保育・教育実践の基礎理論【学習のポイント：教育課程の内容・方法、計画と評価について理解する。】
12	新しい時代の教育【学習のポイント：アクティブラーニングとICT活用について理解する。】
13	多様な教育実践【学習のポイント：世界の多様な幼児教育について理解する。】
14	生涯学習社会と教育【学習のポイント：現代の生涯学習の取り組みや課題について理解する。】
15	現代の教育課題【学習のポイント：多様性を受け入れる教育について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

教育と児童福祉のつながりについて、まとめ、考察しなさい。

第2課題

保育・幼児教育の内容で重視すべき内容をまとめ、考察しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第3章をよく読み、教育と児童福祉のつながりについてまとめた上で、どのような点に配慮して保育すべきか、自分なりの考えも加えてまとめなさい。

第2課題の留意点

テキスト第11章を中心に、小学校以降の教育課程・計画と比較し、保育・幼児教育の内容で重視するべき点をまとめ、自分の気づきや考えを述べなさい。

レポートの評価基準

・どちらの課題も、2,000字程度に収まるよう全体の構成を考え、推敲すること。
・課題の意味することを正しく理解し、単にテキストを写すのではなく、用語の意味を自分なりに咀嚼し、自分なりの表現で適切に記入できているかどうかを評価する。
・レポートのまとめ方は、書く内容を3章仕立て（①課題の捉え方、どういう風にレポートをまとめるかを書く、②本論、③まとめとして、課題に対しての考察）で整理すること。本論について、（1）～（3）と小見出しをつけてまとめ、考察では、自分の考えやテキストから学んだ重要な部分を整理する。
・文章は他人に伝えるために書いていることを意識し、必ず読み返してから提出すること。
・誤字脱字、文章の構成、参考文献の明示が適切かどうかも評価基準とする。
・引用部分については、「　」でくくり、1）2）などと上付き番号を付し、ワープロソフト使用の場合は文末（最終ページ）、自筆の場合はレポート用紙の下欄に、引用文献、引用ページを記入すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストを熟読し、章ごとに内容を整理しながら、理解を深めておくこと。
・7つの「到達目標」の内容は、自分でノートに箇条書きしてまとめておくこと。一般論や、自身の経験を述べるのではなく、テキストや参考文献から学習した内容を正しく記述できるように心掛けること。
・答案作成にあたっては、誤字脱字に注意し、分量は解答用紙表面の2/3以上あること。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや用語を正確に用い説明できているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容を踏まえずに、自分の経験やエピソードのみの記述は、解答用紙表面の2/3以上の記述があったとしても評価しない。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年3月＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20028	科目名［単位数／学習時間］	初等教育原理［2単位／90時間］	科目担当	小川　雄
テキスト	●広岡義之　『新しい教育原理　第2版』　ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623070053	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	22052

科目の目的

本科目の目的は、教育の思想と歴史、制度を学びながら、教育の理念と方法について知見を深めるところにある。このような学習をとおして、教育の本質に様々な視点から迫って、理想とする教師像を具体的に描き出してもらいたい。また、学習指導要領が改定され、「社会に開かれた教育課程」に注目が集まっている。この話題についても理解を深めていこう。

到達目標

・著名な教育思想家の着想や考え方を平易なことばで説明できるようになること。
・現代日本の教育課題を教育の成り立ちから把握できるようになること。
・子どもの学びと発達について理解を深めること。
・信頼関係、あるいは信頼の重要性を教育的な観点から説明できるようになること。
・テキストや参考文献についての学習から理想の教師像を描き出せるようになること。
・「社会に開かれた教育課程」について、家庭と地域社会との協働という観点から考察できるようになること。

学習テーマ

1	テキスト「第1章　教育の基本原理」を読む①：「自信の教育」と「他信の教育」についてまとめる。
2	テキスト「第1章　教育の基本原理」を読む②：ソクラテスの教育思想についてまとめる。
3	テキスト「第1章　教育の基本原理」を読む③：ボルノーとフランクルの教育思想についてまとめる。
4	テキスト「第2章　西洋の教育の制度と思想の歴史」を読む：ルソー、ペスタロッチ、フレーベル、デューイの教育思想についてまとめる。
5	テキスト「第3章　日本の教育の制度と思想の歴史」を読む：戦前と戦後で教育のねらいと教師像がどのように変化したのかをまとめる。
6	テキスト「第4章　発達と教育」を読む①：信頼が子どもの発達にどう関わっているのかをまとめる。
7	テキスト「第4章　発達と教育」を読む②：大人が子どもと信頼関係を築くにはどうすればよいのかをまとめる。
8	テキスト「第4章　発達と教育」を読む③：シュタイナーとモンテッソーリの教育思想についてまとめる。
9	テキスト「第5章　家庭・地域教育」を読む：家庭と地域がもつ教育的な意義について理解を深める。
10	テキスト「第6章　新学習指導要領の特徴」を読む：幼保と小学校それぞれの教育の目的を理解する。
11	テキスト「第7章　現代教育の課題」を読む①：「生きる力を育む」という教育理念が現れてきた背景を知り、「課題を見いだし解決する力」を養う授業について第1章の記述から考察する。
12	テキスト「第7章　現代教育の課題」を読む②：「教育の三つの場」について、それぞれの特徴と課題についてまとめる。
13	レポートを作成する①：『学習の手引き』を熟読する。
14	レポートを作成する②：第1課題に取り組む。
15	レポートを作成する③：第2課題に取り組む。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

まず、テキスト第4章の記述から、信頼関係が子どもの発達にどう影響しているのかをまとめる。その上で、第4章以外の箇所や他の文献も参照しながら、教師として子どもと信頼関係をどのように築いていくのかを論述せよ。すべて合わせて2,000字程度。

第2課題

まず、テキスト第5章と第7章の記述から、家庭・地域がもつ教育的意義をまとめる。その上で、学校が家庭・地域と協力を進めていくためにはどうすればよいか、その方法を具体的に提案しなさい。すべて合わせて2,000字程度。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・テキスト第1章、第2章、第7章の記述が参考になる。
・なぜ教育には信頼が欠かせないのかという問いを立て、その問いを究明する。
・テキストや参考文献の記述に即して論述を進めること。私見や体験談に終始しているレポートは採点の対象にならない。

第2課題の留意点

・「社会に開かれた教育課程」に関しては、参考文献に挙がっている『学習指導要領解説』を参照すること。また、参考文献の『教師のための教育学シリーズ6　教育課程論　第2版』第4章を熟読することもおすすめする。
・テキストや参考文献の記述に即して論述を進めること。私見や体験談に終始しているレポートは採点の対象にならない。

レポートの評価基準

・レポートは「序論」「本論」「結論」の三部構成で作成すること。レポートにそれぞれの見出しが現れていなければならない。この点を守れていないレポートは採点をしない。具体的には、以下のとおり。
＜書式＞　1．序論…課題の意図や背景、あるいは、ねらいを明らかにしながら、考察の手順を示す。
2．本論…「序論」の手順に従い、考察を進める。
3．結論…「本論」の内容を簡潔にまとめながら、自分が調べたことや発見したことにどのような意義があるのかを示す。
・指定された文字数を守ること。指定文字数の 9 割に達していないレポートは、採点の対象にならない。
・引用の作法を守ること。テキストであれ、他の文献であれ、引用した箇所は「　」でくくり、出典の情報を明示しなければならない。なお、引用の作法を守っていたとしても、その引用を自分がどのように理解したのかを示していないレポートは、採点の対象にならない。
・漢字の書き間違い（誤変換）や言葉の誤用は減点対象である。
・論理的に文章が組みたてられていること。「すなわち」、「しかし」、「だから」、「というのは」といった接続詞を駆使して、文章がどのように結びついているのかをはっきりさせる。この点がよく守られているレポートは、高く評価したい。
・テキストの記述をまとめたうえで、自分の言葉で批判的に考察したり、論拠を問い直したりして、テキストを深く読み込もうとしているレポートには、高い評価を与えたい。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全体から満遍なく出題する。
・「学習テーマ」に沿った出題をこころがけているので、「学習テーマ」一つひとつに丁寧に取り組んでもらいたい。

科目修了試験の評価基準

・指定文字数を守ること。たとえば、800字程度という指定では、その 9 割である720字に達していない答案は採点の対象にならない。
・漢字の書き間違いや言葉の誤用は減点対象である。漢字については、正しい書き順に留意すること。
・テキストの内容をふまえていること。個人的な意見の披瀝に終始している答案は、評価が低くなる。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領解説　総則編＜平成29年 7 月＞』　東洋館出版社
・山田雅彦　『教師のための教育学シリーズ 6　教育課程論　第 2 版』　学文社
・石村華代　軽部勝一郎　『教育の歴史と思想』　ミネルヴァ書房
・広岡義之　『教職をめざす人のための教育用語・法規　改訂新版』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXIII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20029	科目名［単位数／学習時間］	教育法規［2単位／90時間］	科目担当	洲脇　一郎
テキスト	●菱村幸彦　『改訂新版　はじめて学ぶ教育法規』　教育開発研究所				
ISBN	9784873804545	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,100	生協テキストNo.	22053
実務経験のある教員による科目	教育委員会教育行政（人事・教育施策等）担当				

科目の目的

教育法規の入門的、基礎的な学習をする。教育法規の分野には、①教育課程、教科書など学習に関すること、②児童生徒の指導に関すること、③学校の組織と運営、④教育公務員の服務と責任、などの分野がある。それらについて、基礎的・基本的な理解を深める。実務経験を活かして教授する。

到達目標

学習にあたっては、教育法規の基本的な法律用語を理解すること。つねに条文を読み法規の理解に努めること。法的な議論がある問題については、対立する意見の双方の論理をおさえること。

学習テーマ

1	学習指導要領の意義と法的性格を理解する。
2	教科書・教材とは何か。
3	児童生徒に対する懲戒とは何か。体罰とはどのような行為か。
4	いじめとは何か。いじめに関する加害者、学校側の責任。
5	校則の意義と限界を知る。
6	学校事故とその責任。
7	職員会議、校務分掌について知る。職員会議の法的な性格をおさえる。
8	信用失墜行為について具体例をもとにして理解する。
9	職務命令を理解し、職務命令に従わなかった場合、職務命令が違法な場合はどうか。
10	教育公務員の政治的行為の制限について、一般の地方公務員との違いとその理由を知る。
11	兼職、兼業が制限されている理由。教育公務員の特例について理解する。
12	教員の勤務時間について、その規律の特殊性を理解する。
13	教員の研修について教育公務員特例法により理解する。
14	服務上の義務違反に対する懲戒処分を理解する。（信用失墜行為、職務専念違反行為などと関連して）
15	全体のふりかえりとして教育法規の体系を理解する。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

次の（1）（2）について、それぞれ1,000字程度で述べなさい。

（1）教育公務員に関する服務上の義務は、一般公務員と服務上の義務とどのような差異があるか。差異がある理由も述べなさい。

（2）分限処分と懲戒処分はどう異なるのか。具体例をあげて述べなさい。

第2課題

児童生徒の懲戒と体罰の禁止について、教育法規はどのように定めているか、文部科学省の通知も含めて論じなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

（1）研修、政治的行為の制限、兼職及び他の事業等の従事などにおいて一般公務員と教員では法律の扱いに差がある。その差がどのような内容なのか、またその差はなぜなのかを考えること。

（2）分限処分と懲戒処分について、目的、要件、処分の種類などを論じること。処分の具体例を調べること。

第2課題の留意点

学校教育法や学校教育法施行規則で懲戒と体罰の禁止についてどのように定めているのか。また文部科学省の通知ではどのように述べられているかを記述すること。懲戒の意義、懲戒の種類、懲戒と体罰の区別、体罰が禁止されている理由などを記述すること。

レポートの評価基準

・課題の趣旨を把握できていること。
・レポートとして形式が整い、表現が適切であること。
・法規の内容が理解できており、論理的な記述ができていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

基礎的な用語を説明できるとともに、論理構成、表現について留意すること。

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨が把握できているか、表現は適切か、知識理解は十分か、論理的記述ができているか。

参考文献

・勝野正章 『教育小六法（最新版）』 学陽書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20030	科目名［単位数／学習時間］	教育制度［2単位／90時間］	科目担当	洲脇　一郎
テキスト	●河野和清　『現代教育の制度と行政　改訂版』　福村出版				
ISBN	9784571101793	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,300	生協テキストNo.	22054
実務経験のある教員による科目	教育委員会教育行政（人事・教育施策等）担当				

科目の目的

少子化の進展、読解力低下、学力格差、子どもの貧困、いじめや暴力行為等の問題行動、不登校、家庭や地域の教育力の低下、校種間の円滑な接続、主体的・対話的で深い学びと学習指導要領、教師の働き方改革など教育をめぐる課題は山積している。このような課題に教育行政や学校はどのような対応をしようとしているのか。教育制度の基本を理解するとともに、諸制度の課題を知る。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・公教育の概念と構成原理とその歴史的形成を理解している。
・教育基本法をはじめ教育制度を支える教育法規の基本を理解している。
・教育委員会など教育行政の仕組みを理解する。
・教育制度をめぐる課題について例をあげて論じることができる。
・保護者や地域住民等と学校の連携・協力の例を具体的に述べることができる。

学習テーマ

1	現代の学校教育や家庭教育の課題を理解する。
2	公教育の原理とは何かを歴史的変遷を含めて理解する。公教育の原理の具体化を考える。
3	わが国の学校制度の仕組みを理解する。
4	教育基本法を中心に教育法規の体系を知る。
5	国と地方の教育行政の役割を知り、身近な例で考える。
6	学校経営の組織的仕組みや学校運営協議会を理解する。
7	教育課程の意義やカリキュラム・マネジメントについて考える。
8	教職員の職務と服務について具体的に考える。
9	児童生徒の管理や問題行動について理解し、いじめ問題への対応等を知る。
10	幼稚園・保育所・認定こども園のそれぞれの仕組みを知り、子育て支援の課題を考える。
11	特別支援教育の制度的仕組みを理解し、インクルーシブ教育を考える。
12	教員の研修についての制度を知り、なぜ教員に研修が求められているかを考える。
13	教育財政とは何か。財政上の課題を考える。
14	学校安全や学校・保護者・地域の連携について、課題を含めて理解する。
15	まとめ～義務教育の機会均等と教育水準の維持向上のための諸制度を考える。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

教育課程や学習についての制度はどのようになっているかを論じなさい。

第2課題

義務教育の機会均等はどのように制度化されているのか、3つの制度をあげて論じなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

学習についての制度的な仕組みを述べる。学校教育法、学校教育法施行規則、学習指導要領で学習、教育課程についてどのような制度が構築されているかを説明する。

第2課題の留意点

教育行政の目的では、教育の機会均等の確保は大きな課題である。教育の機会均等を確保するための制度は、就学援助制度のように個人を対象とするもの、学習指導要領や義務教育費国庫負担金制度のように地域的なアンバランスを是正するもの、特別支援教育などがある。これらの制度の仕組みと課題を論じること。

レポートの評価基準

・課題の趣旨を理解できているか。
・レポートとして形式が整い、表現が適切であるか。
・教育制度が理解できており、論理的かつ具体的に記述できていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読みこむこと。制度の基本的な事項については記述できるようにしておくこと。それとともに文部科学省や教育委員会のホームページ等で現代的な教育行政の課題とそれに対する対策について理解すること。

科目修了試験の評価基準

制度の基本的事項を記述できているか、知識理解は十分か。表現力があり論理的に答案を構成できているか。

参考文献

・勝野正章 『教育小六法（最新版）』 学陽書房
・文部科学省 『文部科学白書（最新版）』 ※文部科学省のホームページでも公表されている。
・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編＜平成29年 7 月＞』 東洋館出版社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20031	科目名［単位数／学習時間］	教育社会学［2単位／90時間］	科目担当	間渕　泰尚
テキスト	●陣内靖彦　穂坂明徳　木村敬子　『教育と社会　子ども・学校・教師』　学文社				
ISBN	9784762022579	本体価格(円)（2022年1月現在）	1,800	生協テキストNo.	22055

科目の目的

教育とは社会から見れば一つの制度であり、社会から大きな影響を受けている。ここでいう社会とは地域社会、日本社会および国際的な環境の全てを含んでいる。そうした大きな広がりを持った「社会」の中での教育の在り方や課題を理解するためには、各自が持っている教育への思い込みを相対化する教育社会学的な視点が不可欠である。また学校と地域との連携や、学校安全への対応についても取り扱う。これらの課題について、テキストや指定参考資料だけでなく、必要な資料を収集しレポート課題を作成することで理解を深める。

到達目標

現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基礎的な知識を身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する基礎的知識を身につける。

学習テーマ

1	日本の家族と子どもの生活 ＜テキスト第1章＞
2	現代の子育てとその支援 ＜テキスト第2章＞
3	社会の変化と幼児教育 ＜テキスト第3章＞
4	日本の社会と学校①　戦前から戦後へ ＜テキスト第4章＞
5	日本の社会と学校②　戦後の教育改革 ＜テキスト第4章＞
6	カリキュラムと教科書 ＜テキスト第5章＞
7	学校生活の社会学①　学校と学級制度 ＜テキスト第6章＞
8	学校生活の社会学②　学校文化・隠れたカリキュラム ＜テキスト第6章＞
9	消費社会・情報社会と子ども文化①　消費社会と子ども ＜テキスト第7章＞
10	消費社会・情報社会と子ども文化②　子どもとネット社会 ＜テキスト第7章＞
11	日本の社会と教師①　教師のリーダーシップ ＜テキスト第8章＞
12	日本の社会と教師②　教員免許制度と教師の仕事 ＜テキスト第8章＞
13	世界、アジア、日本の教育改革 ＜テキスト第9章＞
14	地域と学校の連携 ＜参考文献：資料①　文部科学省（中教審第186号）＞
15	学校安全への対応 ＜参考文献：資料②　文部科学省（中教審第199号）＞

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

憲法の条文を踏まえた上で、「個別最適な学びと協働的な学び」を実現するためのカリキュラム改革について論じなさい。

第2課題

次の2つのテーマから1つを選んで論じなさい

1）今後、父親の育児参加を進めるために必要な制度について論じなさい。
2）学校における働き方改革について、教師の職業モデルと関連づけて論じなさい。

各課題の留意点

各課題の共通の留意点

単なるテキストの要約はレポートとは認めないので注意すること。かといって、自由課題ではない以上、全くテキストを参照しないレポートも合格とは認められない。レポートとはテキストの記述をベースに、自分が「考えた」ことを書くものである。他の文献やインターネット上の意見を参考にすることは大歓迎であるが、必ず参考文献としてその情報を明示すること。参考文献リストは指定文字数外とする。

第1課題の留意点

日本国憲法の条文は各自参照すること。その上で、テキスト第4章、第5章および第9章を参考にすること。学校と地域の関連にふれる場合は、参考文献の『資料①　文部科学省（中教審第186号）』もあわせて参照すること。「令和の日本型学校教育」に関する資料も探して参照すること。

第2課題の留意点

1）テキスト第1章から第3章までの内容を参考にすること。テキスト以外の資料も参照し、近年の動向にも触れること。
2）テキスト第6章から第8章までの内容を参考にすること。「学校における働き方改革」については各自資料を探すこと。参考文献の『資料②　文部科学省（中教審第199号）』を資料として加えてもよい。

レポートの評価基準

（1）テキストの内容を正しく理解しているか、（2）その上で独自の視点から記述されているか、（3）文章の構成、誤字、分量などが適切か、（4）正しく文献や資料を参照し、参考文献リストがついているか、の 4 点から評価を行う。「各課題の留意点」にも書いたが、課題のポイントを外しているもの、テキストの要約しか行っていないもの、テキストを全く参照していないもの、分量が著しく不足しているものは合格としないので注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

レポート作成時にテキストの内容をしっかりと理解しておくこと。それとともにテキストに出てくる術語を理解しておくこと。特に、日常的な使用方法と異なる使い方をする術語には注意すること。さらにレポート課題作成を通じて、「自分の経験を相対化する」という思考方法になれておいてほしい。重要なのは「自分の頭で考えること」である。

科目修了試験の評価基準

用語説明を20点× 2 問、記述問題を60点満点としてそれぞれ採点する。用語説明はテキストにあるような内容を把握しているかどうかを基準とする。語感から受ける感想をいくら書いても点数にはならない。記述問題は、設題の理解度を30点満点、内容および構成を20点満点、表記や分量を10点満点として採点する。

参考文献

・資料①　文部科学省（中教審第186号）『新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo 0 /toushin/1365761.htm
・資料②　文部科学省（中教審第199号）『第 2 次学校安全の推進に関する計画の策定について（答申）』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo 0 /toushin/1384125.htm

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20032	科目名［単位数／学習時間］	教育方法論［2単位／90時間］	科目担当	小川　雄
テキスト	●谷田貝公昭　林邦雄　成田國英『教職課程シリーズ6　教育方法論　改訂版』一藝社				
ISBN	9784863590984	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	22056

科目の目的

平成29年の学習指導要領改訂以来、「主体的・対話的で深い学び」が重要視されている。「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」をどう実現するか。学びの質の問い直しである。その中で、いま教師には、子どもたち自らが意欲的に学ぶ「わかる授業」を構想し実践していく力が求められている。本科目では、学校教育における教育理念や目的を現場で実践するための方法論や技術について学ぶことを目的とする。

到達目標

到達目標は、以下の3点である。
・学習指導要領の基本的な考え方・構成・内容を理解する。
・学習内容、教材研究、子ども理解、指導方法（学習形態）、教育評価についての理解を深める。
・基本的な理論とともに、具体的なイメージを伴う授業設計技術を高める。

学習テーマ

1	教育方法の歴史的概観について①【学習のポイント：19世紀までの教育方法について理解する。】
2	教育方法の歴史的概観について②【学習のポイント：現代における教育方法について理解する。】
3	教育方法の基本原理について【学習のポイント：系統学習と問題解決学習について理解する。】
4	現代の教授理論について①【学習のポイント：授業とは何か、授業の構造について理解する。】
5	現代の教授理論について②【学習のポイント：学力とは何か、学力観の諸相について理解する。】
6	教育課程について①【学習のポイント：教育課程の意味と編成・展開・評価について理解する。】
7	教育課程について②【学習のポイント：学習指導要領とは何か、背景・変遷について理解する。】
8	授業理論と授業の設計①【学習のポイント：授業の類型について理解する。】
9	授業理論と授業の設計②【学習のポイント：授業の設計、授業の設計の方法について理解する。】
10	教育情報機器の活用について①【学習のポイント：授業とメディアについて理解する。】
11	教育情報機器の活用について②【学習のポイント：コンピュータ等ICTの教育活用について理解する。】
12	放送教育の授業への活用について【学習のポイント：放送教育の役割と展開について理解する。】
13	教材教具について【学習のポイント：教材・教具とは何か、教科書の役割と扱いについて理解する。】
14	生徒指導と教科指導について【学習のポイント：生徒指導に関して、その原理と内容について理解する。】
15	教育方法と学校・学級経営について【学習のポイント：教育方法と学級経営の関連について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキストによれば、系統学習と問題解決学習それぞれの長所を取り入れて豊かな教育活動を展開していくことが望まれる。なぜ、そのような教育活動が望ましいのかをテキストに即して述べながら、教科を一つ取り上げ、二つの学習を両立させた授業を具体的に提案せよ。

第2課題

テキストは、様々な箇所で「教師と生徒、生徒相互の好ましい人間関係を育てること」の大切さを説いている。まず、テキストの記述に即してそれがなぜ大切であるのかをまとめよ。その上で、あなたは学校のなかでどのようにして「好ましい人間関係」を醸成するか。具体的に述べよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

まず、テキスト第2章を熟読し、系統学習と問題解決学習それぞれについて理解を深める。その上で、第3章等を参考にしながら、子どもにどのような学力をつけさせるべきかを考えてほしい。こうした考察を踏まえて、テキスト第5章や第6章、および、第8章の記述を参考にしながら、授業を具体的に構想する。テキスト以外の文献も積極的に活用すること。

第2課題の留意点

テキスト第2章と第9章、および、第10章の記述が参考になる。後半の課題では、生徒指導と各教科の指導と学級経営という三つの観点を意識しながら論述するとよい。また、道徳教育に関する考察も組み込むこと。

レポートの評価基準

・レポートの作成にあたっては、常に「論文･レポートの書き方」を想起し、つぎの形式でまとめること。【「レポート」に対する知識・理解】
　＜書式＞　1．序論…課題の意図や背景、あるいは、ねらいを明らかにしながら、考察の手順を示す。
　　2．本論…「序論」の手順に従い、考察を進める。
　　3．結論…「本論」の内容を簡潔にまとめながら、自分が調べたことや発見したことにどのような意義があるのかを示す。
・まず、題意を正しく捉えているか。課題の意図、背景、題意を明確にする。次に、題意を受けて論が適切に展開されているか。事実・文献の引用などは適切であるか。さらに、それに対して、自分の考え・意見など、考察が加えられているか。最後に、題意を受けて教師としての自分の姿勢・考えが明確に結論付けられているか。【課題に対する知識・理解・実践力】
・誤字や脱字に気を付け、丁寧に作成されているか。【教師としての姿勢・構え】
・指定した字数を守ること。指定文字数の 9 割に達していないレポートは採点しない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全体から満遍なく出題する。
・「学習のポイント」に沿った出題をこころがけているので、「学習テーマ」一つひとつに丁寧に取り組んでもらいたい。

科目修了試験の評価基準

・指定文字数を守ること。たとえば、800字程度という指定では、その 9 割である720字に達していない答案は採点の対象にならない。
・漢字の書き間違いや言葉の誤用は減点対象である。漢字については、正しい書き順に留意すること。
・テキストの内容をふまえていること。個人的な意見の披瀝に終始している答案は、評価が低くなる。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編＜平成29年 7 月＞』　東洋館出版社
・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科　道徳編＜平成29年 7 月＞』　廣済堂あかつき
・一般財団法人総合初等教育研究所　『小学校　新学習指導要領改訂の要点』　文溪堂
・多田俊文　『教師養成研究会　教職課程講座 5　教育の方法と技術』　学芸図書
・田中耕治　『よくわかる授業論　やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ』　ミネルヴァ書房
・日本教育方法学会　『現代教育方法事典』　図書文化社
・広岡義之　『教職をめざす人のための教育用語・法規　改訂新版』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20033	科目名[単位数／学習時間]	教育課程論（初等）[2単位／90時間]	科目担当	廣岡　義之
テキスト	●広岡義之　『最新教育課程論入門』　あいり出版				
ISBN	9784865550696	本体価格(円)(2022年1月現在)	1,800	生協テキストNo.	22057

科目の目的

元来、「教育課程」とはカリキュラム、すなわち、学校の教育内容の組織を指し示す。それは望ましい学習が展開されるように配慮して作成される学校の教育内容の組織のことである。そこで本科目では、教育課程とは何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態を持つか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小・中・高校の教育課程はどのような特徴をもつか等について、基本的な理解ができるようになることをめざす。

到達目標

・わが国の教育改革の歴史と教育課程の変遷について把握する。
・教育課程の意義と目的について理解する。
・教育課程及び学習指導要領編成の内容について理解を深める。
・現在の小学校・中学校・高等学校における教育課程の枠組みと内容を把握する。

学習テーマ

1	教育課程（カリキュラム）の意味と類型について【テキスト第1部第1章を熟読すること。】
2	改正教育基本法の内容および教育課程編成の教育目的と目標【テキスト第1部第2章を熟読すること。】
3	教育課程編成の意義および教育目的と目標【テキスト第1部第3章を熟読すること。】
4	戦後日本の教育課程の変遷①　戦後～昭和40年代【テキスト第1部第4章1～4節を熟読すること。】
5	戦後日本の教育課程の変遷②　ゆとり教育～現代【テキスト第1部第4章5～8節を熟読すること。】
6	教育課程全体から見渡した新学習指導要領の特徴①　基本的な考え方【テキスト第1部第5章1～2節を熟読すること。】
7	教育課程全体から見渡した新学習指導要領の特徴②　主体的・対話的で深い学び【テキスト第1部第5章3～4節を熟読すること。】
8	新学習指導要領の改訂点の個別的な特徴【テキスト第1部第6章を熟読すること。】
9	特別の教科　道徳の特徴①　変遷【テキスト第1部第7章1～3節を熟読すること。】
10	特別の教科　道徳の特徴②　キーワード【テキスト第1部第7章4～5節を熟読すること。】
11	小学校学習指導要領　前文および第1章【テキスト第2部第1章を熟読すること。】
12	小学校学習指導要領　道徳【テキスト第2部第2章を熟読すること。】
13	小学校学習指導要領　外国語活動【テキスト第2部第3章を熟読すること。】
14	小学校学習指導要領　総合的な学習の時間【テキスト第2部第4章を熟読すること。】
15	小学校学習指導要領　特別活動【テキスト第2部第5章を熟読すること。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

教育課程全体から見渡した新学習指導要領の特徴②について、基本的な考え方をよく読み、そこに書かれている内容に即しつつ論じなさい。【テキスト第1部第5章3～4節を熟読すること。】

第2課題

新学習指導要領の改訂点の個別的な特徴について、基本的な考え方をよく読み、そこに書かれている内容に即しつつ論じなさい。【テキスト第1部第6章を熟読すること。】

各課題の留意点

第1課題の留意点

教育課程全体から見渡した新学習指導要領の特徴②について（テキスト第1部第5章3～4節）をよく読み、そこに書かれている内容をふまえて、キーワードを核として適切にまとめること。

第2課題の留意点

新学習指導要領の改訂点の個別的な特徴について（テキスト第1部第6章）をよく読み、そこに書かれている内容をふまえて、キーワードを核として適切にまとめること。

レポートの評価基準

・テキストを精読の上で、註をしっかりと付記しつつ、課題について論述している。
・自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
・他人に読ませることを意識して、丁寧に作成している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全体をよく読んで理解を深めておくこと。
・15回の「学習テーマ」ごとに内容をまとめておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容等をふまえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。

参考文献

・広岡義之 『教職をめざす人のための教育用語・法規』 ミネルヴァ書房
・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年 3 月＞』 東洋館出版社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20034	科目名［単位数／学習時間］	幼児教育課程論［2単位／90時間］	科目担当	戸江　茂博
テキスト	●戸江茂博 『シリーズ：新しい時代の保育者養成　保育カリキュラムの基礎理論　教育課程・全体的な計画の学び』 あいり出版				
ISBN	9784865550542	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	22058
テキスト	●文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館				
ISBN	9784577814222	本体価格（円）（2022年1月現在）	149	生協テキストNo.	22059
テキスト	●厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館				
ISBN	9784577814239	本体価格（円）（2022年1月現在）	149	生協テキストNo.	22060
テキスト	●内閣府　文部科学省　厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館				
ISBN	9784577814246	本体価格（円）（2022年1月現在）	149	生協テキストNo.	22061

科目の目的

教育課程とはいわゆるカリキュラムのことである。カリキュラムとは、教育内容を一定の方法でまとめたものであり、子供の育つ道筋を想定した、さまざまな教育的配慮と援助の枠組みのことである。本科目は、幼稚園と保育所の教育・保育の計画、そして保育内容の考え方、すなわち0～6歳の乳幼児期の子供に寄り添うカリキュラムの考え方について学ぶことを目的とする。なお、一般に幼稚園のカリキュラムのことを「教育課程」、保育所及び認定こども園のカリキュラムのことを「全体的な計画」と呼ぶが、幼稚園と保育所等を含めて、共通に「保育カリキュラム」と呼ぶことにする。これを年間、期間、月、週日等に具体化した実践計画のことを「指導計画」（幼・保・こども園に共通）という。指導計画は保育カリキュラム（幼稚園の教育課程、保育所・認定こども園の全体的な計画）を具体化したものであり、保育のデザインということもできる。

到達目標

・教育課程や全体的な計画、すなわち保育カリキュラムの基本的な意義について理解する。
・教育課程や全体的な計画は、つねに乳幼児の成長発達に即して、すなわち乳幼児の育ちの特性を配慮して作成されるものであることを理解する。
・教育課程や全体的な計画の中心は、ねらいと内容によって構成される「保育の内容」であることを理解するとともに、乳幼児期の育ちや発達にふさわしい保育内容を構成する方法について学ぶ。
・教育課程や全体的な計画を具体的な実践計画としてデザインしたものを指導計画という。指導計画の在り方、立て方について学び理解する。

学習テーマ

1	授業全体の流れを理解する
2	幼児教育・保育の基本【学習のポイント：カリキュラム作成の基礎となる幼児教育・保育の特質について理解する。】
3	保育カリキュラムとは【学習のポイント：カリキュラムを立てること、教育・保育を計画することの意義について理解する。】
4	保育カリキュラムの歴史的変遷①【学習のポイント：カリキュラムはどのように変遷してきたか、明治・大正・昭和年代のカリキュラムの変遷について学ぶ。】
5	保育カリキュラムの歴史的変遷②【学習のポイント：カリキュラムはどのように変遷してきたか、平成年代のカリキュラムの変遷について学ぶ。カリキュラム・マネジメントやアクティブ・ラーニングについて学ぶ。】
6	幼稚園の教育課程の基礎【学習のポイント：幼稚園の教育課程の考え方について理解する。】
7	保育所・認定こども園の全体的な計画の基礎【学習のポイント：保育所や認定こども園の全体的な計画の考え方を理解する。】
8	教育課程・全体的な計画から指導計画へ【学習のポイント：教育課程・全体的な計画と指導計画の関係について理解する。】
9	0歳児の指導計画【学習のポイント：0歳児の育ちと指導計画の立て方について学ぶ。】
10	1、2歳児の指導計画【学習のポイント：1、2歳児の育ちと指導計画の立て方について学ぶ。】
11	3歳以上児の指導計画【学習のポイント：3、4、5歳児の育ちと指導計画の立て方について学ぶ。】
12	さまざまな指導計画【学習のポイント：一般的な指導計画以外のさまざまな指導計画の考え方と立て方について学ぶ。】
13	保育の記録【学習のポイント：保育の記録の大切さと指導計画との関係性について理解する。】
14	保育の評価【学習のポイント：保育の質を向上させるための評価のあり方について学ぶ。】
15	まとめ【学習のポイント：授業内容の総括。これからの保育カリキュラムのあり方について学ぶ。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第 1 課題

保育カリキュラムについて、次の①～③の問題に答えなさい。
①保育カリキュラムの基礎となる幼児教育・保育の基本について説明しなさい。
②保育カリキュラム（保育内容）の歴史的変遷において、「領域」の意義や意味付けはどのように変わってきたか。
③幼稚園の教育課程の基本的な考え方と教育課程編成上の留意すべき点について述べなさい。

第 2 課題

指導計画（の作成）について、次の①～③の問題に答えなさい。
①教育課程や全体的な計画と指導計画の関係について述べなさい。
②指導計画の考え方と指導計画作成の手順について述べなさい。
③ 2 歳児の発達特徴を踏まえ、 2 歳児の指導計画を作成する際の配慮点、留意点について述べなさい。

各課題の留意点

＜レポート作成にあたっての文章構成上の留意点＞

・序論、本論、結論という様式は不要。「はじめに」や「終わりに」も付する必要はない。主語・述語をつねに明記し、論理的に整合性のある文章づくりをすること。記述の様式については、第 1 課題で例示すると、 1 ．保育カリキュラムの基礎となる幼児教育・保育の基本、 2 ．保育カリキュラム（保育内容）の考え方における「領域」の意義や意味付けの変化について、 3 ．幼稚園の教育課程の基本的な考え方と教育課程編成上の留意すべき点について、などとすればよい。
・著書からの引用を行う場合、「……」（ 1 ）などとし、脚注又はレポート末尾に引用文献とページ数を明示する。

第 1 課題の留意点

第 1 課題の中には、 3 つの具体的な問題がある。 1 つ目は、保育カリキュラムの基礎となる幼児教育・保育の基本について明らかにすることである。これについては、テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』の 1 章の 1 ．が大いに参考となる。（ヒント!） 4 つのポイントを取り上げる必要がある。 2 つ目は、カリキュラムの中心的な位置を占めてきた「領域」について問うもの。1956年の幼稚園教育要領において、はじめて保育内容として領域が導入されるが、1989年の幼稚園教育要領において決定的な意義や意味付けの変改が行われる。そして、今や、「幼児期において育みたい 3 つの資質・能力の柱」や「幼児の終わりまでに育ってほしい（10の）姿」に乗っ取られようとしている、この変化の様子を描きなさい。テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』の 2 章の 2 ．及び 3 ．が参考となる。 3 つ目は、保育カリキュラム、とくに幼稚園の教育課程の編成の方法や手順について問うもの。テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』の 3 章の 1 ．を十分に理解すれば適切な解答がもたらされる。また、テキスト『幼稚園教育要領』の詳細な解説本が出版されており（参考文献『幼稚園教育要領解説』）、そのなかに、具体的な編成の手順の例が掲載されているので、それも参考にすること。

第 2 課題の留意点

具体的な保育カリキュラムである指導計画に関する問題である。 1 つ目は、教育課程や全体的な計画と指導計画の違いをよく理解して、教育課程等から指導計画におろしていく際の留意点について考える。テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』の 4 章の 1 ．が大いに参考になる。 2 つ目も、テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』の 4 章の 1 ．が大いに参考になる。 3 つ目は、具体的な、 2 歳児の指導計画を作成するときの問題である。これについては、 4 章の 2 ．を十分に読解すれば適切な解答ができる。テキストをしっかり読んで、できるだけ自分の文章に直しながら、レポートを作成することが重要である。

レポートの評価基準

・ 4 冊のテキストから学び取ったことを自分なりの表現でまとめることができている。
・文字数は、2,000字程度を原則とするが、記述の展開上必要があれば、3,000字程度までの記述を認める。
・主語・述語の関係に留意した文章となっていること、適切な段落を取ること、自筆の場合は丁寧な文字で記入していること。レポートや論文、小説などもそうだが、文章の書き出しは、 1 文字分送り、段落ごとも同じように書き出しは 1 文字分を送る。これをきちんと守って、適切な文章づくりをすること。 1 段落は、文章の意味のつながり等を踏まえ、 3 ～ 8 行程度が望ましい。（ 1 行40文字程度筆記している場合）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』を中心にテキストの全内容を熟読し、保育の計画である保育カリキュラムの意義や必要性、幼稚園の教育課程や保育所等の全体的な計画の具体的な作成の仕方や作成にあたっての要点を十分に理解しておくこと。【テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』 1 章、 2 章、 3 章。『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』のそれぞれ第 1 章】
・乳幼児期の保育の特徴（遊びによる保育や環境による保育）をしっかりとらえ、それが保育カリキュラムや指導計画にどのように反映しているかなどを考えるようにしておくこと。【テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』 1 章の 1 .、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』のそれぞれ第 1 章総則】
・幼稚園の 5 領域の保育内容、保育所の養護と教育（ 5 領域）の保育内容及び最新の保育内容の考え方（幼児期において育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）の概要を理解しておくこと。【テキストの『幼稚園教育要領』第 1 章、第 2 章、及び『保育所保育指針』第 2 章、及び『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』第 2 章】
・指導計画とは何か、指導計画は教育課程や全体的な計画とどう異なるのか、指導計画の立て方、また、歳児別の指導計画の立て方（具体的には、乳児の指導計画及び幼児の指導計画の立て方の特徴のようなものを理解するようにしておくこと。）また、小学校へ接続するカリキュラム、異年齢児の保育カリキュラムなど）なども学習しておくこと。【テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』 4 章、 5 章】
・保育カリキュラムに関連するカリキュラム関係の重要用語について説明できるようにしておくこと。（例えば、経験カリキュラム、隠れたカリキュラム、カリキュラム・マネジメント、アクティブ・ラーニング、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムなど）【テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』の 2 章、 4 章など】

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を十分に理解し、キーワードや関連する事項を把握し、丁寧に説明できていること。
・テキストで学んだことを踏まえずに、単に自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・筋道を立てて論理的に展開できていること。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上に記述があること。
・主語・述語の関係に留意した文章となっていること、適切な段落を取ること、丁寧な文字で記入していること。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20046	科目名[単位数/学習時間]	教科教育法・国語［2単位／90時間］	科目担当	森　成美
テキスト	●文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編＜平成29年7月＞』　東洋館出版社				
ISBN	9784491034621	本体価格(円)(2022年1月現在)	162	生協テキストNo.	22029
テキスト	●田近洵一　中村和弘　大熊徹　塚田泰彦　『小学校国語科授業研究　第五版』　教育出版				
ISBN	9784316804651	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,000	生協テキストNo.	22062
テキスト	●水戸部修治　吉田裕久　『小学校　新学習指導要領の展開　国語編＜平成29年版＞』　明治図書出版				
ISBN	9784183278159	本体価格(円)(2022年1月現在)	1,800	生協テキストNo.	22063
実務経験のある教員による科目	公立小学校校長・教頭・教諭				

科目の目的

『小学校学習指導要領　国語』に基づいた目標や内容を踏まえ、言語活動を通して指導事項を指導する授業構想の基本的枠組みを理解し、学習指導案を作成する。学習指導要領を踏まえ、学習指導案を書き、国語科指導を行える教員としての基礎・基本を養うことを目的とする。現場で必要な国語科指導力の基礎を養う。

到達目標

・小学校国語科の目標や内容を理解することができる。
・国語科の内容の構成、〔知識及び技能〕、〔思考力，判断力，表現力等〕について理解することができる。
・小学校国語科の学習評価について、学習目標・内容を整合させて行うことを理解することができる。
・教材を通して、単元、指導計画、指導事項、言語活動等について理解し、付けるべき資質・能力を具体的に捉え、国語科学習指導の概要を作成することができる。

学習テーマ

1	『小学校学習指導要領　国語』について【学習のポイント：目標及び内容の構成や指導事項について理解する。
2	言語活動と評価について【学習のポイント：目標や内容にふさわしい言語活動と学習評価を考察する。】
3	言語活動のある授業実践事例について【学習のポイント：教科書教材から言語活動について考察する。】
4	〔知識及び技能〕の内容について【学習のポイント：教材と学習指導要領を照合させて理解する。】
5	国語科学習指導案の作成について①【学習のポイント：3・4学年の「読むこと」の教材を選択する。】
6	3・4学年の「読むこと」の学習指導案について【学習のポイント：単元目標、評価規準を検討する。（情報機器及び教材の活用を含む）】
7	3・4学年の「読むこと」の学習指導案と授業について【学習のポイント：言語活動や発問や板書を検討する。】
8	3・4学年の「読むこと」の授業の想定について【学習のポイント：授業の想定に対する自己評価を行う。】
9	国語科学習指導案の作成について②【学習のポイント：5・6学年の「書くこと」の教材を選択する。】
10	5・6学年の「書くこと」の学習指導案について【学習のポイント：単元目標、評価規準を検討する。（情報機器及び教材の活用を含む）】
11	5・6学年の「書くこと」の授業の想定について【学習のポイント：授業想定と自己評価を行う。】
12	国語科学習指導案の作成について③【学習のポイント：1・2学年の「話すこと・聞くこと」の教材を選択する。】
13	1・2学年の「話すこと・聞くこと」の学習指導案について【学習のポイント：単元目標、評価規準を検討する。（情報機器及び教材の活用を含む）】
14	1・2学年の「話すこと・聞くこと」の授業の想定について【学習のポイント：授業の想定と自己評価を行う。】
15	書写指導について【学習のポイント：書写の指導について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

「B 書くこと」の指導を展開するとき、第5学年及び第6学年のあなたの考える授業の展開例を、テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編＜平成29年7月＞』「指導事項」と「言語活動例」をふまえ、教材を一つ取り上げて具体的に述べよ。

第2課題

「C 読むこと」の指導を展開するとき、第3学年及び第4学年のあなたの考える授業の展開例を、テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編＜平成29年7月＞』「指導事項」と「言語活動例」をふまえ、教材一つを取り上げて具体的に述べよ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

「書くことの言語活動の特性」をどのようにとらえるか。第 5 学年及び第 6 学年の「B 書くこと」の指導事項をどう理解したか。テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編＜平成29年 7 月＞』pp.139-145と他の 2 冊のテキストの「書くこと」の内容や実践について熟読し、理解したことをもとに、具体的に教材を挙げて記述する。学習指導案を想定して記述すること。

第 2 課題の留意点

「読むことの言語活動の特性」をどのようにとらえるか。第 3 学年及び第 4 学年の「C 読むこと」の指導事項をどう理解したか。テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編＜平成29年 7 月＞』pp.108-114と他の 2 冊のテキストの「読むこと」の内容や実践について熟読し、理解したことをもとに、具体的に教材を挙げて記述する。学習指導案を想定して記述すること。

レポートの評価基準

・レポートの作成にあたっては、常に「論文・レポートの書き方」を想起し、次の 3 構文にまとめること
1．はじめに　（400字程度）
「書くことの言語活動の特性」や「読むことの言語活動の特性」をどうとらえたか書く。
2．本論（1,200字程度）
「B 書くこと」「C 読むこと」の目標、指導事項、言語活動例を踏まえ、以下のように書く。
（1）単元名
（2）単元の目標
（3）単元全体の計画と 1 時間の展開例
3．結論（400字程度）
本論を振り返って、学びや課題について書く。

・題意を正しくとらえているか。次に、題意を受けて、論が適切に展開されているか。事実・文献の引用などは適切であるか。さらに、それに対して自分の考え・意見など、考察が加えられているか。最後に、題意を受けて教師としての姿勢・考えが明確に結論付けられているか。
・「 2 .」は上の形式に則って記述しているか。単元名の工夫（児童が何を行うのか分かるように書くこと・教材名を末尾に示すこと）・単元の目標の明確化・単元全体時間数・何時間目の展開例か等明記しているか。
・誤字脱字に気を付けて作成されているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編＜平成29年 7 月＞』のpp. 6 -40を読むことがベースになる。次に、pp.41-152を読み、授業の構想や展開することを想定し、各学年の指導事項と言語活動の関係を考える。また、テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編＜平成29年 7 月＞』の学年ごとの〔知識及び技能〕の内容と〔思考力,判断力,表現力等〕の内容を理解し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の分野で何が求められているか事前に深めることが大切である。そして、pp.153-169の配慮事項は指導計画作成や日々の授業で必要なことなので、理解し活用できるようにすること。
〔知識及び技能〕の内容や〔思考力,判断力,表現力等〕の内容の理解不足が散見される。テキスト『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編＜平成29年 7 月＞』を読んで、〔知識及び技能〕の内容と〔思考力,判断力,表現力等〕の内容を学年ごとにまとめておくこと。

科目修了試験の評価基準

・レポートの評価基準に準じる。
・設題の意図、背景、題意を明確にし、題意を正しくとらえているか。具体例を取り上げ、考察を加えながら論を適切に展開しているか。さらに、 3 冊のテキストを熟読しているか。 3 冊のテキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに自説を記述しても評価しない。
・誤字脱字に気を付け、丁寧に作成されているか。
・設題の内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面すべてと裏面の 1 / 3 以上にわたる記述があることを前提として評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20047	科目名[単位数／学習時間]	教科教育法・社会［2単位／90時間］	科目担当	斉藤　仁一朗
テキスト	●原田智仁　『社会科教育のルネサンス　実践知を求めて　第2版』　教育情報出版				
ISBN	9784909378309	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,270	生協テキストNo.	22064	生協へお申し込みください

科目の目的

本科目は、社会科教育の歴史や実践、理論などに触れることを通して、様々な授業作りの工夫や方法を知ると共に、自分にとっての「良い社会科授業」を構想していく力量の育成をめざす。具体的には次のことを学ぶ。

①小学校社会科教育の意義と目的
②社会科教育の歴史
③小学校社会科の内容と授業構成
④小学校社会科の評価
⑤小学校社会科学習指導案の作成

ただし、上の①～⑤のことを網羅的羅列的に学ぶのではなく、社会科授業の複数の論点について学ぶ中で、これらのことについての理解を深めることをめざす。

到達目標

社会科教育の目標や、社会科教育の教員が身に付けるべき資質・能力を理解し、学習指導要領に示された社会科教育の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深める。同時に、社会科教育に関する様々な授業理論、教育方法論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

前半部では、①社会科教育の目標 ②内容構成 ③学習方法 ④学習評価 ⑤教材研究の方法 ⑥子どもの実態に即した授業 ⑦情報機器の活用法などについて、教育史や学習指導要領の特徴、様々な授業実践から読み取る。後半部では、学習指導案作成や模擬授業の構想をイメージし検討する。加えて、最終的な授業観の変化を振り返る。

学習テーマ

1	社会科教育の目標について【社会科教育の意義と目的を理解する。】
2	戦前期までの社会科教育史【戦前までの社会科教育史の主な特徴を理解する。】
3	戦後以降の社会科教育史【戦後以降の社会科史教育史の主な特徴を理解する。】
4	社会科の学習方法について【学習指導要領に見られる様々な学習方法を理解する。】
5	社会科の多様な学習方法について【近年提案された様々な学習方法を事例検討する。】
6	社会科の学習評価について【社会科における様々な学習評価方法を比較検討する。】
7	教材研究分析【社会科の教材事例を、背景となる学問成果を踏まえて分析する。】
8	教材の開発・発表【前時の教材分析を踏まえて、独自の教材アイデアを提案する。】
9	子どもの実態に即した授業作り【子どもの実態に即した授業作りを事例分析する。】
10	情報機器の効果的な活用法【ICTなどの授業方法の特徴を理解する。】
11	学習指導案の授業計画【本時の展開を中心に、学習指導案の作成方法を理解する。】
12	学習指導案の単元計画の作成【単元計画や評価規準の意義と記入方法を理解する。】
13	模擬授業の構想イメージ【模擬授業の流れをイメージし、実践的視点を獲得する。】
14	模擬授業の構想検討【イメージした模擬授業構想を再検討し、改善策を提案する。】
15	振り返り【これまでを振り返り、自分の授業観の変化や今の想いをまとめる。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキストにおける「社会科におけるICTの活用」の説を読んだ上で、社会科の学習指導における「ICT活用事例」の特徴をあなたなりに整理して説明せよ。その上で、ICTを活用したあなたの授業アイデアを述べなさい。

第2課題

テキストにおける「社会科の教材研究の視点と方法」を読んだ上で、「よい教材」や「よい教材研究の方法」について説明せよ。その上で、テキストの事例とは異なるあなたの教材アイデアを述べ、それがなぜ「よい教材」と言えるのかについて、あなたの意見を述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

この課題は、テキストの第5章第3節「社会科におけるICTの活用」をもとにして構成している。そのため、まずはこの該当範囲を熟読することをお勧めする。

レポート前半は、テキストの内容や論点を整理することを求めている。その際に、提示されている授業事例の具体に踏み込んだ整理・論述を行うようにしてほしい。レポート後半は、あなたが独自に考える「ICTを活用したあなたの授業アイデア」を論じることを求めている。テキストに記載された事例を繰り返すのではなく、独自の範囲やテーマを想定しながら、授業の流れがわかるようなアイデアを論じること。授業の導入・展開・まとめの流れがわかるような、具体性を示せるように努めてほしい。

第 2 課題の留意点

この課題は、テキストの第 4 章第 3 節「社会科の教材研究の視点と方法」をもとにして構成している。そのため、まずはこの該当範囲を熟読することをお勧めする。

レポート前半は、テキストの内容や論点を整理することを求めている。その際に、提示されている内容や具体例を整理・論述を行うようにしてほしい。レポート後半は、テキストに記載された事例を繰り返すのではなく、独自の教材アイデアを提案してほしい。その際に、レポート前半の整理と関連付けながら、なぜその教材アイデアが良いと言えるのかについて、説得的な理由を示せるように努めてほしい。

レポートの評価基準

次の 6 点を評価基準とする。

- テキストを精読の上、課題について適切かつ的確に論述しているか。
- 自分の主張を求められている場面においては、テキストの理解を踏まえた上での主張となっているか。
- 自分の主張を説得力のある理由や根拠を基に述べられているか。
- 必要があれば、テキスト以外の文献などを参照しているか。
- 自らが十分に理解した内容や、自らの主張に関して、主語と述語の関係など、文章作成上の諸ルールに留意して、分かりやすい文章で論じることができているか。（テキストやその他の文献の引用や参照した場合には、そのページ数などを記載するように工夫すること。）
- 他人に読ませることを意識して、丁寧に作成しているか。特に、自筆（手書き）の場合は丁寧な文字（小学校教員に必須のスキルである）で記入しているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

＜科目修了試験の対策について＞

- テキストの「実践知としての社会科」・第 1 章・第 3 章・第 4 章・第 5 章の内容を熟読しておくこと。
- 上記の各章の各節で論じられている内容に関して、（1）その要点、（2）その内容に対する自分の考え、の 2 点を書けるように練習しておくこと。また、必要に応じて、各節の内容・論点を活用したオリジナルの授業アイデアを書けるようにしておくのが理想的である。

＜答案作成の留意点について＞

- テキストの内容に基づかず、自分の考えばかりを書いても評価しない。テキストの内容を踏まえた上で、独自の意見を論じること。
- ただ、テキストを丸暗記してほしいという訳ではない。テキストにおける重要なキーワードや概念、テーマについて、テキストでの大まかな趣旨の論述ができるように、準備しておくこと。
- 前提として、第三者が読みやすい文章・説明を心掛けてほしい。文章の改行、文章の小見出しを付けるなど、工夫をすべきである。

科目修了試験の評価基準

- 設題の趣旨をよく理解した上で、論じることができていること。
- テキストの内容を理解していることがわかるような表現や論述が見られること。その際には、テキストを踏まえていることを強調するような、表現や説明が書かれている必要がある。
- 1 つの章の要約のような説明だけでなく、テキストに書かれた複数の章やトピックについて言及できていることが望ましい。
- テキスト内容の正確な理解を踏まえた上で、独自の視点から自説を論じていること。
- テキストの内容を踏まえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
- 設題内容を正確に理解し論理的に記述できていること（第三者が読みにくい文章は低評価となる）。
- 誤字脱字などがないこと。
- 解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提に評価する。

参考文献

- 社会認識教育学会 『小学校社会科教育』 学術図書出版社
- 全国社会科教育学会 『新　社会科授業づくりハンドブック　小学校編』 明治図書出版
- 全国社会科教育学会 『優れた社会科授業の基盤研究　1　小学校の“優れた社会科授業”の条件』 明治図書出版
- 文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　社会編＜平成29年 7 月＞』 日本文教出版
- 文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編＜平成29年 7 月＞』 東洋館出版社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20048	科目名[単位数／学習時間]	教科教育法・算数［2単位／90時間］	科目担当	井上　正人
テキスト	●文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　算数編＜平成29年7月＞』　日本文教出版				
ISBN	9784536590105	本体価格(円)（2022年1月現在）	224	生協テキストNo.	22031
テキスト	●鈴木将史　『小学校算数科教育法』　建帛社				
ISBN	9784767921129	本体価格(円)（2022年1月現在）	2,300	生協テキストNo.	22065
実務経験のある教員による科目	公立学校教員				

科目の目的

小学校学習指導要領にある算数科の目標から、算数を学ぶ意義と授業づくりを進める上で大切にしたい指導のポイントを理解していく。さらに各学年の「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の各領域の指導内容に関わる単元の授業場面を想定して、その指導法について具体的に学び、授業研究を進めるための基礎的な力を養う。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・小学校学習指導要領にある算数科の目標及び各学年の「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の各領域の学習内容を把握するとともに、その内容を子どもたちが主体的に学ぶことができるよう、指導の工夫や指導のポイントを考えることができる。
・いろいろな単元の授業場面を想定して、問題解決学習に沿った指導の流れを考え、指導案の作成ができる。

学習テーマ

1	算数科の目標について、その変遷（どのような内容を重視してきたか）を調べる。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第1章、第2章第1節、テキスト『小学校算数科教育法』第2章】
2	「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の領域ごとに学年の系統を調べる。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第2章第2節、テキスト『小学校算数科教育法』第1章】
3	第1学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第1節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の1年に関連する内容】
4	第1学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第1節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】
5	第2学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第2節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の2年に関連する内容】
6	第2学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第2節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】
7	第3学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第3節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の3年に関連する内容】
8	第3学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第3節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】
9	第4学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第4節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の4年に関連する内容】
10	第4学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第4節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】
11	第5学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第5節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の5年に関連する内容】
12	第5学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第5節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】
13	第6学年の指導内容について、数学的意義（数学的活動や数学的な見方・考え方）を調べ、指導のポイントを明らかにする。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第6節、テキスト『小学校算数科教育法』第3章～第7章の6年に関連する内容】
14	第6学年の指導内容における評価を考え、学習指導案例を構想する（情報機器及び教材の活用を含む）。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第3章第6節、テキスト『小学校算数科教育法』第8章、第9章】
15	指導計画の作成と内容の取り扱いを読み、模擬授業を想定し、自己評価する。指導案を作成する上でのポイントをまとめる。【テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』第4章】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第 1 課題

算数科における問題解決学習とはどのような授業なのか、なぜこの学習が重要なのかをまとめ、第 5 学年「小数×小数の計算の仕方」の授業展開（ 1 時間分）を問題解決学習の流れに沿って具体的に説明せよ。

第 2 課題

第 2 学年の学習内容から授業場面を 1 つ選び、問題解決学習の流れに沿った 1 時間の授業展開を考え、学習指導案を作成せよ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト『小学校学習指導要領解説　算数編』の第 1 章及び第 2 章、第 4 章やテキスト『小学校算数科教育法』の第 8 章などを用いて調べ、問題解決学習についてよく理解した上でまとめること。

また、「小数×小数の計算の仕方」の授業展開では、問題解決学習についてまとめた内容と適切に対応しているように述べること（図等を用いても可）。

第 2 課題の留意点

指導の展開は、 2 冊のテキストをよく読んで理解し、第 1 課題で理解した問題解決学習の流れに沿った展開を考えること。

指導案の形式は、以下の形式に沿ってA4用紙 5 枚程度で作成し、ページ番号を付けること。自筆の場合は、A4サイズの白紙もしくは方眼紙を用いてまとめること（片面使用）。

算数科学習指導案

指導者　○　○　○　○

1．日時　○○○○年○○月○○日（○）（作成した日付）
2．学級　第○学年○組
3．単元　○○○○
4．単元目標（この単元全体で育てたい態度・能力を 3 つの観点から記述する。）
　①知識・技能
　②思考力・判断力・表現力
　③主体的に取り組む態度
5．指導にあたって（教材観・児童観・指導観）
　・教材観・・・・教材の内容、ねらい、前後の学年との関連など教材分析したことを詳しく述べる。
　・児童観・・・・この時期の児童の特性や本単元に関わる子どものつまずきを想定して述べる。
　・指導観・・・・自分で考えた指導の工夫について詳しく述べる。
6．指導計画（全○○時間）
　本時は、第何次の第何時かを明記する。
　第 1 次　○○・・・・2 時間（本時は 1 / 2 ）
　　第 1 時　○○・・・・
　　第 2 時　○○・・・・
　第 2 次　○○・・・・1 時間
　　第 1 時・・・・
　　・・・
7．本時の指導
　（1）本時の目標
　（2）本時の展開

学習活動と教師の主な発問	予想される子どもの反応	指導上の留意点・評価

※学習指導案を作成するにあたっては、学習課題（めあて）や児童の数学的活動、本時のまとめなど、 1 時間の授業イメージがつかめるよう、わかりやすく書くこと。

レポートの評価基準

次の 3 点を評価基準とする。

・テキストや参考文献からの引用だけでなく、テキストをもとに自分なりに理解したことや自分の考えも入れてまとめている。
・問題解決学習に沿った、子どもが意欲的・主体的に数学的活動に取り組む授業展開になっている。
・「課題の留意点」に従った指導案の形式で記述している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

特に、2 冊のテキスト内容を熟読し、その中で述べられている指導内容や指導方法、具体的な事例（数学的活動も含む）を理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・試験は論述問題 4 問。 1 題25点とし、25点× 4 ＝100点で採点する。
・テキストの内容（指導内容）が含まれていない、自分の考えだけの記述については減点の対象となる。

参考文献

・赤井利行 『わかる算数科指導法 改訂版』 東洋館出版社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20050	科目名［単位数／学習時間］	教科教育法・生活［2単位／90時間］	科目担当	山田　希代子
テキスト	●田村学　『小学校　新学習指導要領の展開　生活編　平成29年版』　明治図書出版				
ISBN	9784183282149	本体価格（円）（2022年1月現在）	1,800	生協テキストNo.	22066
実務経験のある教員による科目	公立小学校教員・管理職、小学校教育研究会部長（生活・総合的な学習部）				

科目の目的

生活科における教育目標、育成を目指す資質・能力、評価の仕方を理解し、学習指導要領に示された生活科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。学校現場での生活科学習活動に即した授業を進める。情報機器及び教材の効果的な活用を含め、授業づくり・単元づくりを通して、生活科指導の具体的な手立てを学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・学習指導要領に示された生活科の目標や内容・評価について理解する。
・基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。
・生活科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

学習テーマ

1	生活科の設立の趣旨と経緯 ＜テキストはじめに＞
2	生活科の目標と生活科の特質 ＜テキスト序章・第1章・第2章1＞
3	生活科の内容構成と学習指導の進め方（情報機器及び教材の活動を含む）＜テキスト第2章2・3・4・5・6・7・8・9・10、第3章11・12・13・14＞
4	主体的･対話的･深い学びの実現 ＜テキスト第3章4＞
5	指導計画作成上の留意点と評価の在り方 ＜テキスト第3章1・5・8・9・17・18・19＞
6	年間指導計画作成の留意点及び単元計画作成の配慮事項 ＜テキスト第3章2・3・10＞
7	学校･家庭･地域に関わる活動の授業プラン（情報機器及び教材の活用を含む）＜テキスト第4章1・2・6・7＞
8	身近な人々･社会･自然に関わる活動の授業プラン（情報機器及び教材の活用を含む。模擬授業の構想と振り返り）＜テキスト第4章3・4・8＞
9	自分自身の成長を振り返る活動の授業プラン（情報機器及び教材の活用を含む。模擬授業の構想と振り返り）＜テキスト第4章5･10＞
10	学校生活への適応とスタートカリキュラムについて ＜テキスト第3章7＞
11	生活科における生命教育と自然の不思議さや面白さを体験する授業プラン ＜テキスト第4章9＞
12	コミュニケーション能力の育成のための手立て ＜テキスト第3章15＞
13	社会性の育成のあり方 ＜テキスト第3章16＞
14	幼児教育との連携のあり方 ＜テキスト第3章6＞
15	生活科の目標や内容･基礎的な学習指導理論のまとめと各自の到達度の確認（情報機器及び教材の活用を含む）＜テキストこれまでの総括と自分の学びの振り返り＞

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

「学年の目標」の構成上の特色、また、2学年を見通した目標を設定した意味について説明しなさい。

第2課題

身近な物で動くおもちゃを作って遊ぶ活動を中心とした単元計画を作成しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

新しい学習指導要領が平成29年3月に告示された。学習指導要領改訂の趣旨を把握した上で、生活科の「学年の目標」の構成上の特色と内容を理解する。テキスト第2章　1（pp.24-29）を熟読すること。参考文献『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　生活編＜平成29年7月＞』第2章第2節（pp.17-22）を参考にすると理解が深まる。

第2課題の留意点

内容（6）身近な物で動くおもちゃを作って遊ぶ活動を中心内容として、他の内容と組み合わせた単元計画を作成すること。その際、科学的な思考力の芽を育てることをねらいの一つにあげること。

単元指導計画は、①単元名（学年）②単元について　③単元目標 ④単元の評価規準 ⑤指導計画（小単元名とその時数･小単元のねらい・子どもの主な学習活動・教師の支援・評価の観点と方法等）⑥本時の学習活動案、によって構成すること。その際、単元目標と評価規準、小単元のねらいと評価の観点の整合性に注意すること。

テキスト第2章 内容（6）（pp.40-41）を理解し、第2章（pp.56-59）を参考にすること。参考文献『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　生活編＜平成29年7月＞』第3章第2節（pp.41-43）、第5章第3節・第4節（pp.87-99）を参考にすると理解が深まる。

A4白紙用紙（片面使用）に必要に応じて罫線を引き、手書きする。枚数は全体で5枚とする。

レポートの評価基準

・課題の意図を把握し、テキスト学習により得た基本的なことを説明した上で、自分の考え・表現でまとめ、いかに的確に論述できているかで評価する。
・文字数は、1,800字～2,000字とする。ただし、第 2 課題については表作成が必要となるので、字数については制限しない。
・テキストを精読理解したうえで、参考文献等の情報を加味して課題について論述していること。
・テキスト・参考文献・実践例・インターネット等の情報を引用した場合は、「　」でくくり、著者名・書名・出版年・出版社名・実践校名・実践事例集名・ページ数・URL・閲覧日等を必ず明記すること。
・主語述語の関係などに留意して、適切に段落や章を設定し、誤字脱字なく、他者が読むことを意識して丁寧に作成すること。
・実践例等を参考にした場合は、出典を明記すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全般から出題する。
・教科目標・学年の目標・内容の構成上の特色や内容をよく理解し、それらをどのように育成するかについて学んでおくこと。
・生活科の学習指導の特質を十分に理解し、生活科の特徴的なキーワードを中心にまとめておくとよい。
・生活科が、低学年における教育課程全体の充実を図る上で、教科間の横のつながりと、幼児教育・中学年以降の教育の縦のつながりとの結節点であることを十分に理解すること。「合科的・関連的な指導」「保幼小接続」等についてまとめておくとよい。
・実践に生かすため、できるだけ具体的な子どもの学びの姿と教師としてのかかわりを想像しながら読み込み、指導上の留意点についても確認をしておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を正しく理解し、キーワードや関連する事項をとらえて的確に説明できているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容に記載されている事項を踏まえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・筋道を立てて論理的に展開できていること。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上に記述があること。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　生活編＜平成29年 7 月＞』東洋館出版社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20053	科目名［単位数／学習時間］	教科教育法・家庭［2単位／90時間］	科目担当	山口　香織
テキスト	●大竹美登利　鈴木真由子　綿引伴子　『小学校家庭科教育法』　建帛社				
ISBN	9784767921143	本体価格(円)（2022年1月現在）	2,300	生協テキストNo.	22069
テキスト	●文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　家庭編＜平成29年7月＞』　東洋館出版社				
ISBN	9784491034669	本体価格(円)（2022年1月現在）	95	生協テキストNo.	22038
実務経験のある教員による科目	公立高等学校教諭（家庭）				

科目の目的

家庭科教育の理念や特徴を踏まえ、現在社会における家庭科教育の果たす役割や意義、家庭科の歴史、教科の目標や内容、評価等について理解する。小学校家庭科の授業づくりの視点ならびに方法について学ぶ。また、家庭科の学習指導案の事例を通して、授業づくりならびに学習指導案の書き方、評価の仕方を学ぶ。

到達目標

・家庭科の理念や歴史的変遷を踏まえて、小学校家庭科の目標や内容、育成したい力について理解する。
・小学校家庭科の学びの特徴や評価のあり方について学ぶ。
・小学校家庭科の指導計画（学習指導案）を作成し、具体的な授業展開を提案することができる。
・小学生の生活課題を含んだ題材設定や指導の工夫について理解を深める。

学習テーマ

1	小学校家庭科教育の意義と目標【テキスト『小学校家庭科教育法』序章、第1章、『小学校学習指導要領』該当箇所】
2	小学校家庭科教育のあゆみ【テキスト『小学校家庭科教育法』第2章、『小学校学習指導要領』該当箇所】
3	小学校家庭科の学習内容と指導方法【テキスト『小学校家庭科教育法』第3章、『小学校学習指導要領』該当箇所】
4	家庭科の授業設計【テキスト『小学校家庭科教育法』第3章、第4章、『小学校学習指導要領』該当箇所】
5	家庭科の評価【テキスト『小学校家庭科教育法』第5章、『小学校学習指導要領』該当箇所】
6	小学校家庭科の授業づくりのポイント（情報機器及び教材の活用を含む）【テキスト『小学校家庭科教育法』第11章～第14章】
7	「家族と家庭生活」の学習内容と授業例（模擬授業の構想と振り返り）【テキスト『小学校家庭科教育法』序章、第6章、『小学校学習指導要領』該当箇所】
8	「家族と家庭生活」の授業設計（情報機器及び教材の活用を含む）【テキスト『小学校家庭科教育法』第6章、『小学校学習指導要領』該当箇所】
9	「衣食住の生活」の学習内容と授業例（模擬授業の構想と振り返り）【テキスト『小学校家庭科教育法』第7章】
10	「衣食住の生活」の授業設計（衣生活）（情報機器及び教材の活用を含む）【テキスト『小学校家庭科教育法』第8章】
11	「衣食住の生活」の授業設計（食生活）（情報機器及び教材の活用を含む）【テキスト『小学校家庭科教育法』第7章】
12	「衣食住の生活」の授業設計（住生活）（情報機器及び教材の活用を含む）【テキスト『小学校家庭科教育法』第9章】
13	「消費生活と環境」の学習内容と授業例（模擬授業の構想と振り返り）【テキスト『小学校家庭科教育法』第10章】
14	「消費生活と環境」の授業設計（情報機器及び教材の活用を含む）【テキスト『小学校家庭科教育法』第10章】
15	家庭科教育の展望【テキスト『小学校家庭科教育法』終章】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

家庭科教育の意義や家庭科のあゆみからみて、小学校家庭科で育成したい資質・能力について論述しなさい。

第2課題

テキストを熟読し、①家庭科における「主体的・対話的で深い学び」について概説する。②「主体的・対話的で深い学び」の授業として、テキスト『小学校家庭科教育法』第13章の授業実践例から一つ選び要約する。③ ①②を踏まえ、教師として実践したい「主体的・対話的で深い学び」を実現する家庭科の授業について具体的に述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・テキスト『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）　家庭編＜平成29年7月＞』とテキスト『小学校家庭科教育法』の内容（特に第1章と第2章、第3章）を熟読し、家庭科教育の意義、家庭科教育の歴史的変遷、小学校家庭科の目標や内容を理解すること。
・育成したい能力については、現在の社会状況や家庭生活の変化、それに伴う子どもの生活課題や発達課題を踏まえ、社会的・教育的視点から述べること。
・レポートでは、テキストの文言をそのまま書き写すのではなく、自分なりの言葉で簡潔にまとめること。

第 2 課題の留意点

・レポートは①②③のすべての設問に対応したものであること。
・「主体的・対話的で深い学び」とは何かを、テキストに沿って定義すること。
・「主体的・対話的で深い学び」が実現する授業の要件について、テキストを熟読して整理すること。
・テキストの文言をそのまま書き写すのではなく、自分なりの言葉で簡潔にまとめること。
・③については、テキストには多数の授業実践例が載っている。また、関連図書やインターネットから授業実践例を探し、独自の授業を考える際の参考にしてもよい。だたし、テキストの実践例をそのまま写したレポートは評価しない。
・テキストや文献を引用する場合は、「　」でくくり、誰の引用か文献名や引用ページを明示すること。

レポートの評価基準

次の 3 点を評価基準とする。
・ 2 冊のテキストの内容を充分理解した上で、文献やインターネットなどの情報を加味して課題について論述している。その際、引用・参考文献は正しく明示すること。
・ 2 冊のテキストから学んだ内容を踏まえたうえで、自分の考えを取り入れて論理的にまとめている。
・他人に読ませることを意識して、レポート形式に従い、誤字・脱字が無く、丁寧に作成している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・ 2 冊のテキストを十分に読み込んで基礎知識について理解を深めておくことが必要である。
・小学校家庭科の学習指導案が作成できること、教科の独自性について理解しておく必要がある。
・家庭科教育の理念や歴史的変遷を踏まえ、学習内容、学習方法、評価方法などしっかり確認しておくように。

科目修了試験の評価基準

・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること。答案作成では、指定文字数以上の記述があることを前提として評価する。
・設問の趣旨を理解し、キーワードや必要事項を的確に捉えて説明できているかどうかを中心に評価する。
・テキストによる学習ということを意識していることが重要である。自己の思い込みで作成された解答や自らの経験や自説を記入しても評価しない。

参考文献

・大竹美登利　倉持清美　『初等家庭科の研究　指導力につなげる専門性の育成』　萌文書林
・『わたしたちの家庭科　小学校 5 ・ 6 年』　開隆堂出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20065	科目名［単位数／学習時間］	教育相談（初等）［2単位／90時間］	科目担当	金山　健一
テキスト	●有村久春　『新訂版　学級教育相談入門』　金子書房				
ISBN	9784760823895	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	22071

科目の目的

教育相談は子どもの心の声を聞き取り、教師との信頼関係をつくるために必要不可欠である。よって本科目では、教育相談（カウンセリングに関わる基礎的な知識を含む）の理論及び方法を習得することを目的とする。

教師の教育活動は、子どもの心身の発達と学習に関わるものであり、子どもの人格形成に大きな影響を及ぼす。よって教師には、教科等に対する専門的知識や、子どもの心身のみならず、社会的な成長・発達に関する深い理解と、それらを基盤とした教育相談対応力・実践指導力を習得することが必要である。

到達目標

教師として実践的な指導力を習得するために、下記の6点を到達目標とする。

- ・「学校における教育相談」では、開発的、予防的、治療的対応と、子どもの自己形成の援助方法を理解する。
- ・「子どもと関わる基本原理」では、教師の自己開示、子どもの言葉の傾聴、子どもの感情の明確化、即時対応、子どもの内的動機を促す上手なほめ方等を学習する。
- ・「子どもの人間関係づくり」では、学級集団のまとまり、コミュニケーション能力の育成、指導観・授業観の転換について学ぶ。
- ・「教育相談の計画と活動の実際」では、計画立案の実際例、不登校児の家庭訪問の工夫、子どもの進路相談の仕方、指導報告書の作成、スクールカウンセラーとの連携について学ぶ。
- ・「学級崩壊・不登校・いじめの問題」では、事例研究、予防的対応・指導援助を学ぶ。
- ・「問題行動の考え方と対応の実際」では、早期発見の必要性、組織的対応の仕方、対応事例について学ぶ。

学習テーマ

1	子どもの自己育成の視点【学習のポイント：生きる力と学習指導要領を理解する。】
2	教育相談・カウンセリングの考え方【学習のポイント：教育相談・生徒指導について理解する。】
3	子どもの感情を明確化する【学習のポイント：言語化が苦手な子どもの対応方法を理解する。】
4	子どものメッセージに応じる【学習のポイント：タイミング・課題解決能力・動機づけを理解する。】
5	事実に即して叱る・ほめる【学習のポイント：叱り方・ほめ方の方法を理解する。】
6	学級の「まとまり」をつくる【学習のポイント：学級経営の方法を理解する。】
7	コミュニケーション能力を育成する【学習のポイント：グループエンカウンターを理解する。】
8	指導観・授業観の転換【学習のポイント：主体的な活動について理解する。】
9	教育相談の計画の作成【学習のポイント：日々の教育相談活動について理解する。】
10	教育相談活動の実際例【学習のポイント：教育相談の事例を通して、対応方法を理解する。】
11	「学級崩壊」の要因を考える【学習のポイント：学級崩壊の要因・対応・予防について理解する。】
12	「いじめ」を克服する【学習のポイント：いじめの発見・対応・予防について理解する。】
13	保護者との対応力を磨く【学習のポイント：保護者対応の基本について理解する。】
14	問題行動の考え方と対応の基本【学習のポイント：問題行動の早期発見・対応を理解する。】
15	怠学傾向の生徒への対応【学習のポイント：具体的事例を通して、対応方法を理解する。】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

「学級のまとまりをつくる」について、理論と実践について記述する。

第2課題

「問題行動の対応」について、理論と実践について記述する。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第3章第1節「学級のまとまりをつくる」を概観し、その理論を用いて自分が学級担任になった時の学級経営についても述べる。課題には小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。

第2課題の留意点

テキスト第6章第1節の「問題行動の考え方と対応の実際－考え方と対応の基本」を概観し、その理論を用いて自分が学級担任になった時の対応についても述べる。課題には小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。

レポートの評価基準

課題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや課題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数（1課題につき2,000字程度）の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの次の部分は熟読し、理論と実践をまとめる。答案には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

・21世紀を生きる子ども－教育相談・カウンセリングの考え方（第1章第3節）
・子どもとかかわる8つの基本原理－事実に即して叱る・ほめる（第2章第8節）
・子どもの人間関係づくり－＜かかわる力＞をはぐくむ（第3章第2節）
・教育相談の計画と活動の実際－家庭訪問の工夫（第4章第2節）
・学級担任が向き合う危機的な問題－保護者との対応力を磨く（第5章第4節）
・問題行動の考え方と対応の実際－継続する集団いじめ（第6章第2節）

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや設題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

参考文献

・伊東眞里　大島剛　金山健一　渡邉由己　『ライブラリ　読んでわかる心理学12　読んでわかる臨床心理学』サイエンス社
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞（平成29年告示）』 チャイルド本社
・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年3月＞』 東洋館出版社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20066	科目名［単位数／学習時間］	幼児理解［2単位／90時間］	科目担当	高畑　芳美
テキスト	●入江礼子　小原敏郎『子どもの理解と援助　子ども理解の理論及び方法 -ドキュメンテーション（記録）を活用した保育』萌文書林				
ISBN	9784893473189	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	22072
実務経験のある教員による科目	通級指導教室担当、スクールカウンセラー				

科目の目的

幼児期にふさわしい教育を行うためにまず必要なことは、一人一人の幼児に対する理解を深めることである。その基盤となる発達理論及び幼児教育の特質との関連を理解し、具体的な観察・記録・評価の実際を身につける。保育者として、子ども理解に基づいた保育・教育ができるようになることをめざす。実務経験を基に、子どもの理解に必要な最新の発達論と実際のインクルーシブ保育の内容を含む「幼児理解」を教授する。

到達目標

「子どもを理解する」ことの意味について考え、記録を生かした保育の質を高める方法や内容を考える。具体的には、次のとおり。

・保育の中で子どもの育ちを捉える視点について理解する。
・生活や遊びの中での幼児理解のポイントについて理解する。
・「仲間関係」の形成過程に焦点を当てた子ども同士の関係づくりについて考える。
・個と集団の関わりに対して、保育者が配慮することは何かを考える。
・子どもの葛藤やつまずきを捉える視点を理解する。
・保育の環境を構成する保育者の視点を理解する。
・環境が変化した時の子どもの様子を捉える視点を理解する。
・特別な配慮を必要とする子どもの理解に不可欠なインクルーシブという考え方が説明できる。
・保育実践の質を高めていく上でのドキュメンテーションの意義を理解する。
・保育ドキュメンテーションを活用した指導計画の作成・展開・評価・改善について説明できる。

学習テーマ

1	日常の家庭生活における子ども理解【学習のポイント：子どもと大人の関係に焦点を当てた子ども理解を考える。】
2	保育における「子ども理解」とは【学習のポイント：「養護」と「教育」を一体的に展開する保育の中で子どもを理解する。】
3	子どもの学びの連続性を踏まえた子ども理解【学習のポイント：学びの連続性を支える保育者の視点を理解する。】
4	指針や要領に見る子ども理解の基本【学習のポイント：保育所・幼稚園等における子ども理解のための保育の評価について理解する。】
5	子どもの生活と遊び【学習のポイント：生活や遊びにおける子どもの育ちについて理解する。】
6	保育者と子どもの発達【学習のポイント：保育における人との関わりについて考える。】
7	子ども同士の関わり方と関係づくり【学習のポイント：仲間関係の形成過程について考える。】
8	子どもが集団生活で得ること【学習のポイント：個と集団の関わりについて考える。】
9	子どもの葛藤とつまずき【学習のポイント：葛藤やつまずきを乗り越えて成長することを理解する。】
10	保育の環境構成【学習のポイント：保育における「環境」とは何かを理解する。】
11	子どもを取り巻く環境の変化や移行【学習のポイント：環境が変化した時の子どもの様子を捉える視点を理解する。】
12	子ども理解に基づく発達援助【学習のポイント：子どもの発達を援助する保育者の役割を考える。】
13	特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助【学習のポイント：インクルーシブという考え方について理解する。】
14	子どもを理解するための方法としてのドキュメンテーション【学習のポイント：保育においてドキュメンテーションを用いることの意義について理解する。】
15	保育を観察し記録するとは【学習のポイント：観察・記録において重要な視点について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子どもの育ちの連続性を捉えた保育とはどのようなものか、要点を整理して述べなさい。

第2課題

保育者が、保育ドキュメンテーションを活用することの意義についてまとめなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト第 1 章、第 2 章を熟読し、どのような視点で子どもの育ちを捉えればよいかをまとめた上で、そのための保育記録についての自身の考えを述べなさい。

第 2 課題の留意点

テキスト第 2 部「保育の記録編」を熟読し、保育者がドキュメンテーションをどのように活用し、子ども・保護者・地域とともに行う「評価・改善」のポイントを整理し、自分なりの保育をイメージして考える。

レポートの評価基準

幼児理解を深めるためには、ただテキストに書いてあることを拾い出すだけでなく、そこに書かれている内容を整理し、自分のノートにまとめ直すことが大切である。その際、自分が何をどのように理解し説明したいのか、どうしたいと考えたのかを他人に解かりやすく説明する力も必要である。書きたい内容を、見出しにした章を立てて整理すること。誤字脱字はもちろん、基本的な構文力も評価対象とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを漠然と読み、書かれた内容を理解したつもりでいると、設題に合う答案は作成できない。本科目の10の「到達目標」に沿って、自分なりに重要な部分をピックアップしてノートにまとめ、テキストから学んだ正しい用語を使って解答できるようにしておくことが大切である。

科目修了試験の評価基準

一般論や自身の経験談を述べるのではなく、テキストを熟読し、そこに書かれた専門用語の意味や重要なポイントを設題の指示通りに適切にまとめているかどうかを評価基準とする。また、解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述が必要。誤字脱字は減点の対象とする。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館

その他、テキストに挙げられた参考文献にも目を通してみること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20067	科目名［単位数／学習時間］	社会福祉論［2単位／90時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●倉石哲也　小崎恭弘　『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉　2　社会福祉』　ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623079278	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,200	生協テキストNo.	22073

科目の目的

本科目の目的は、子どもの福祉を最大限に保障する保育士として、近年の社会福祉に関する制度、施策、事業の動向を知り、子どもや保護者の権利擁護に対する考え方を確認するため、社会福祉に関する学びを深めることにある。

到達目標

本科目の学習到達目標は、つぎのとおりである。
・現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷および社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
・社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
・社会福祉における相談援助について理解する。
・社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
・社会福祉の動向と課題について理解する。

学習テーマ

1	社会福祉の理念と概念
2	社会福祉の歴史的変遷
3	子ども家庭支援と社会福祉
4	社会福祉の制度と法体系
5	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設
6	社会福祉の専門職
7	子ども家庭福祉を支える社会保障及び関連制度
8	相談援助の意義、機能、対象、過程
9	相談援助の方法と技術
10	利用者保護のしくみ①（情報提供と第三者評価）
11	利用者保護のしくみ②（利用者の権利擁護と苦情解決）
12	人口減少社会（少子高齢社会）への対応
13	在宅福祉・地域福祉の推進、共生社会の実現と障害者施策、ネットワーク
14	社会福祉の国際比較
15	これからの社会福祉の課題

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

社会福祉の理念・概念について、記述しなさい。学んだ内容が、これまでの自身の福祉についての捉え方とどう変わったか（違ったか）、考察に明記しなさい。

第2課題

社会福祉行政機関について整理し、子ども家庭福祉とどう関わっているか、考察に明記しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章を中心に学び、日本国憲法、幸福追求権をキイワードにとりあげ、記述すること。

第2課題の留意点

テキスト第3章を中心に学び、くらしを守る社会福祉の行政機関を把握し、子ども家庭福祉との関連で理解した内容を記述すること。社会保障審議会、児童相談所をキイワードにとりあげること。

レポートの評価基準

・レポート作成のルールに沿い、誤字脱字がないこと、適切な文字数量であること。極端に少ないレポートは評価できないことがある。
・課題の趣旨を理解した内容で、個人的な例示による記述は評価の対象とならない。
・テキストを抜き書きするのではなく、理解したことを自分の文章で書くこと。
・引用文献と参考文献を適切に明示すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストをよく読み、正しい知識を習得し、設題の内容を正確に理解すること。
・論理的な文章で記し、自分の意見を記す場合は、設題との関連での考察であることを示す。
・主観的な感想文を避け、客観的な内容を記述する必要がある。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があること。

科目修了試験の評価基準

・テキスト履修科目の出題のため、テキストで使用されている用語の正しい理解と記述であること。
・設題の内容を正しく理解して解答すること。
・設題と無関係で私的な文章が多い場合は、減点の対象となる場合もある。

参考文献

・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20070	科目名[単位数／学習時間]	乳児保育Ⅰ［1単位／45時間］	科目担当	大江　まゆ子
テキスト	●乳児保育研究会　『改訂5版　資料でわかる乳児の保育新時代』　ひとなる書房				
ISBN	9784894642539	本体価格(円)(2022年1月現在)	1,800	生協テキストNo.	22074

科目の目的

乳児保育の理論と実際を習得することを目的とし、乳児の育ちを支える保育士としての実践力を身に付けることを目指す。長時間、保育所及び乳児院等で過ごす子どもたちの豊かな成長、発達の保障に必要な知識と実際の保育における技術を学ぶ。

・乳児保育の意義について理解する。
・0歳・1歳・2歳の発達過程を理解し、生活や遊びにおける乳児の発達を保障する保育内容と方法を学び、保育者の援助や配慮を学ぶ。
・乳児保育における環境と保育のあり方を学ぶ。

到達目標

・乳児保育に携わる保育者としての確かな保育観と専門性を養い、愛情をもって適切に援助する実践力を身につける。
・0歳・1歳・2歳児の発達特性を理解し、個人差に配慮しつつ、一人ひとりの発達を保障するための生活や遊びの環境を考え、保育の内容や方法、乳児保育における計画の作成について理解する。
・乳児を取り巻く社会情勢の変化に伴い、子育ての状況も大きく変化している現状を理解する。
・多様化する保育ニーズに応えるため、乳児保育の意義や基本理念の理解を深め、課題を考察する。

学習テーマ

1	生涯発達からみた乳児期について【学習のポイント：乳児の可能性と応答的環境の重要性を理解する。＜テキストpp.10-31＞】
2	0歳前半の発達の特徴【学習のポイント：6ヶ月までの発達と生活リズムを理解する。＜テキストpp.13-16、pp.40-45、pp.47-49、pp.52-57＞】
3	0歳前半の発達を促す保育【学習のポイント:身体面、情緒面、言語面での発達を支える関わりに着目して学ぶ。＜テキストpp.13-16、pp.40-45、pp.47-49、pp.52-57＞】
4	0歳後半の発達の特徴【学習のポイント：7ヶ月～1歳までの発達と生活リズムを理解する。＜テキストpp.15-18、pp.46-49、pp.52-57＞】
5	0歳後半の発達を促す保育【学習のポイント:身体面、情緒面、言語面での発達を支える関わりに着目して学ぶ。＜テキストpp.15-18、pp.46-49、pp.52-57＞】
6	1歳児の発達の特徴と保育【学習のポイント：身体面、情緒面、言語面での発達と援助を理解する。＜テキストpp.18-22、pp.46-57＞】
7	2歳児の発達の特徴と保育【学習のポイント：身体面、情緒面、言語面での発達と援助を理解する。＜テキストpp.22-27、pp.50-57＞】
8	乳児の発達を見つめる保育者の視点と援助の基本的姿勢【学習ポイント：学びの主体者としての子ども観と保育観の構築。＜テキストpp.27-33、pp.40-42、pp.52-61、pp.126-137＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

保育士が愛情豊かに、応答的に乳児に関わることによって、乳児期の子どものどのような発達を支えるか述べなさい。また、0歳児、1歳児、2歳児の発達を踏まえ、どのように援助することが重要かについても述べなさい。

第1課題の留意点

テキストを熟読し、『保育所保育指針』やその他の参考文献を読み、保育所保育の特性、子どもの発達を十分に理解し、乳児保育の基本に立って考えることが重要である。テキストでは特に第1章を読み込み、エリクソンの述べる乳児期の発達課題、子どもが本来、備えているコミュニケーションへの志向性とその基礎的な能力を基底とした保育士の援助を理解し、発達に応じた関わりを整理することが重要である。

レポートの評価基準

・文字数は、1,800字以上～2,000字以下とする。
・課題の趣旨を理解し、テキストから学んだ内容を踏まえて、自分の考え・表現（言葉）で、いかに的確に論述できているかについて評価する。（自分の経験等を入れる場合は簡潔に。）
・次の3点を評価基準とする。
①テキストを精読理解の上で参考文献などの情報を加味して課題について論述していること。（テキスト、参考文献等を引用した場合は、「　」でくくり、著者名・書名・出版年・出版社名、ページ等を必ず明示すること。）
②自らが十分に理解した内容について、主語と述語の関係などに留意して、課題に対して的確にまとめていること。
③他者が読むことを意識して漢字を適切に使用し、誤字・脱字がなく丁寧に作成していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストや参考文献の熟読、理解が本科目に対する理解を深めることになる。また、乳児保育の学習は実践に活かされる必要があるため、できるだけ具体的な子どもの姿と保育者の関わりを想像しながらテキスト、文献等を読み込むことが重要である。その上で理解した内容を整理、咀嚼し、その理解に基づき、自分の言葉で答案を作成することが重要である。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて的確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、適切な大きさの文字で解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。
・テキスト学習により得た基礎的なことを説明した上で、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことだけを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・社会福祉法人あすみ福祉会 茶々保育園グループ　『見る・考える・創りだす　乳児保育　養成校と保育室をつなぐ理論と実践』　萌文書林

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20072	科目名［単位数／学習時間］	障害児保育論Ⅰ［1単位／45時間］	科目担当	細木　玉恵
テキスト	●鶴宏史　『障害児保育』　晃洋書房				
ISBN	9784771030367	本体価格（円）（2022年1月現在）	3,000	生協テキストNo.	22075
実務経験のある教員による科目	公的機関・研究機関での発達支援、相談援助				

科目の目的

保育所・幼稚園・子ども園など就学前施設には、特別な支援を必要とする数多くの子どもが在籍している。特に今日では、共生社会実現に向けて障害そのものに対する新しい概念が確立、定着されつつある時であり、保育者には豊富で正確な知識や情報が必要となってくる。本科目では、子どもたちの多様化するニーズに応え、個々の特性に応じた保育を行うために必要な基礎的知識や支援方法について理解することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・障害児保育制度の歴史的変遷と、障害児保育を支える理念について理解する。
・子どもの発達と、さまざまな障害の特性について理解する。
・個々の特性に配慮した支援や、環境設定について理解する。
・さまざまな違いをもった子どもたちがその違いを認め、共に育ちあうための保育者の役割を理解する。
・特別な配慮を必要とする子どもの保育に関する現状と今後の課題について理解する。

学習テーマ

1	障害児保育とは【学習のポイント：障害のとらえ方を理解する。障害児保育の理念を理解する。＜テキストpp. 1 -22＞】
2	障害の理解と援助①【学習のポイント：肢体不自由、視覚障害、聴覚障害について、それぞれの特性と支援のあり方を理解する。＜テキストpp.34-64＞】
3	障害の理解と援助②【学習のポイント：知的障害の特性と支援のあり方を理解する。＜テキストpp.65-77＞】
4	障害の理解と援助③【学習のポイント：発達障害（ASD･ADHD･LD）の特性と支援のあり方を理解する。＜テキストpp.78-99＞】
5	障害の理解と援助④【学習のポイント：重症心身障害、医療的ケア、および障害に併発しやすい疾患の特性と支援のあり方を理解する。＜テキストpp.100-115、関連内容pp.246-248＞】
6	障害児保育の実際①【学習のポイント：障害のある子どもに対する遊びの援助と環境構成について理解する。＜テキストpp.134-144、関連内容pp.154-166＞】
7	障害児保育の実際②【学習のポイント：障害のある子どもに対する生活援助と環境構成について理解する。＜テキストpp.145-153、関連内容pp.154-166＞】
8	これからの障害児保育【学習のポイント：障害児保育の歴史的変遷を理解し、現状と課題を考える。＜テキストpp.238-253、関連内容pp. 1 -22＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

障害児保育の歴史的変遷、および今求められている保育のあり方について述べなさい。

第1課題の留意点

・テキスト第Ⅰ部を熟読し、障害児保育の基本的な考えを理解したうえで記述すること。
・テキスト第Ⅲ部を熟読し、障害児保育はどのような状況や背景の中で制度化され展開してきたのか、その時々の課題は何かを明確にすること。
・障害児保育が、どのように「権利としての保育」として認識され展開してきたのかを明確にすること。
・インクルーシブ保育や合理的配慮について、適切な説明を加えること。
・参考文献『保育所保育指針＜平成29年告示＞』に明記されている障害のある子どもへの保育のあり方を理解したうえで記述すること。
・文献やインターネットの情報等を参照・引用する際は、出典を明記すること。

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容を踏まえ、自分の考えや表現で論述できている。
・体裁が整えられている。（テキストの文章をつなぎ合わせただけではなく、内容に沿った段落構成がなされている。接続詞や句読点が適切に使用されている。主語と述語等の関係に留意し記述されている。文体が統一されている。誤字や脱字がない等。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの小見出しごとに要約をまとめ、理解を深めておく。
・学習のポイントで指定したそれぞれの障害の定義・起因疾患・特性などについては、支援を考えるベースとなるため、的確に説明できるようにしておく。
・上記障害に応じた支援については、具体例を用いて説明できるようにしておく。
・遊びや生活援助、環境構成についても、具体的に説明できるようにしておく。
・自らの考えを具体的に記述できるよう、理解を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の主旨を正しく理解し、論理的に記述できている。
・テキストやその他の文献の知見をもとに論述されている。自らの体験談や自説を記述しても評価しない。
・障害児保育の基本理念を理解した上で、専門用語を正しく用いて論述されている。
・誤字・脱字がなく、適切な大きさの文字で、解答用紙表面 2 / 3 以上記述されている。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館
※その他、テキストに掲載されている参考文献にも興味を持ち、目を通してみること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20073	科目名［単位数／学習時間］	障害児保育論Ⅱ［2単位／90時間］	科目担当	細木　玉恵
テキスト	●鶴宏史　『障害児保育』　晃洋書房				
ISBN	9784771030367	本体価格(円)（2022年1月現在）	3,000	生協テキストNo.	22075
実務経験のある教員による科目	公的機関・研究機関での発達支援、相談援助				

科目の目的

障害のある子どもといってもまず「子ども」であることにかわりないということを念頭におき、保育に取り組む姿勢が大切である。ただし障害があるということは、人的環境や物理的環境の影響を受けやすく、特別な配慮を必要とすることは否めない事実である。本科目では、特別な支援を必要とする子どもの困難さを具体的にとらえ、支援のあり方を理解する。また、家庭や関係機関との連携について理解することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・子ども理解の基本となる「発達」をどのような視点からとらえるかについて理解する。
・特別な配慮を必要とする子どもが抱える困難について理解し、支援や代表的な援助技法について理解する。
・特別な配慮を必要とする子どもの家族の思いを理解し、支援のあり方を理解する。
・特別な配慮を必要とする子どもの保育に必要な連携や協働について理解する。
・障害児保育の現状と課題を理解する。

学習テーマ

1	障害児保育の基本【学習のポイント：障害児保育の理念、障害児保育の変遷、障害児保育の場と保育形態を理解する。＜テキストpp.1-22、pp.238-245＞
2	障害児保育の実際①【学習のポイント：子ども理解の基本となる「発達」をどのような視点からとらえるかについて理解する。肢体不自由児、視覚障害児、聴覚障害児、知的障害児、発達障害児等にどのような発達特性があるかについて考察する。＜テキストpp.24-33、pp.34-115、pp.134-136、pp.155-158＞】
3	障害児保育の実際②【学習のポイント：保育に不可欠な指導計画の作成と記録及び評価について理解する。テキストp.124 表1-4の記録を基に、テキストp.122表1-2を参考にした計画を立てる。＜テキストpp.118-125、p.122、p.124、pp.233-234＞】
4	障害児保育の実際③【学習のポイント：個別の支援計画について理解する。テキストp.73 第4節の事例を基に、テキストp.131表2-3を参考にして計画を立てる。事例に記述されていない内容は空欄でよい。＜テキストpp.126-133、pp.73-76＞】
5	障害児保育の実際④【学習のポイント：遊びの援助と環境構成について理解する。テキストに記載のある各障害特性について、具体的に考察する。＜テキストpp.134-144、pp.34-115＞】
6	障害児保育の実際⑤【学習のポイント：生活の援助と環境構成について理解する。テキストに記載のある各障害特性について、具体的に考察する。＜テキストpp.145-153、pp.34-115＞】
7	障害児保育の実際⑥【学習のポイント：子ども同士の関わりと育ち合いを理解する。テキストに記載のある各障害について、特性に応じた配慮を考察する。＜テキストpp.154-160、pp.34-115＞】
8	障害児保育の実際⑦【学習のポイント：職員間の協働について理解する。テキストpp.60-61事例1を基に、テキストp.163表6-1、p.164表6-2を参考にして、検討事項や目標や支援を考察する。＜テキストpp.161-166、pp.60-61＞】
9	障害児保育の体制作り①【学習のポイント：家庭との連携及び支援について理解する。＜テキストpp.167-181＞】
10	障害児保育の体制作り②【学習のポイント：関係機関との連携について理解する。＜テキストpp.183-197＞】
11	障害児保育及び子育て支援の基盤となる援助理論・技法①【学習のポイント：インリアル・アプローチについて理解する。テキストp.124 表1-4の記録を基に、この技法の保育場面での応用を考察する。＜テキストpp.200-210、p.124＞】
12	障害児保育及び子育て支援の基盤となる援助理論・技法②【学習のポイント：応用行動分析について理解する。テキストpp.96-98にある CちゃんとDちゃんの事例を基に、この技法の保育場面での応用を考察する。＜テキストpp.211-221、pp.96-98＞】
13	障害児保育及び子育て支援の基盤となる援助理論・技法③【学習のポイント：感覚統合、ソーシャルワークについて理解する。＜テキストpp.222-235＞】
14	障害児保育の現状と課題【学習のポイント：保健・医療、福祉・教育における現状と課題について理解する。＜テキストpp.246-253＞】
15	保育者の倫理と子どもの尊厳【学習のポイント：社会的関心を集めているテーマに焦点をあて、改めて「障害」について自分なりの見識を持つ。テキストに示された“考える”について考察する。＜テキストpp.255-264＞】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

特別な支援を必要とする子どもの保護者やきょうだい児への支援のあり方と、その家庭との連携の必要性について述べなさい。

第2課題

「肢体不自由児」「知的障害児」「発達障害児」、それぞれの障害特性に応じた遊びの援助と環境構成について述べなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

・テキスト第Ⅰ部を熟読し、障害児保育の基本的な考えを理解したうえで記述する。
・テキスト第Ⅳ部から、家族の不安や負担および障害のある子どもに対する思いを理解し、どのような支援が必要であるのかを明確にする。また家族を支援するための社会資源と、家族へのアプローチ方法について具体的に記述する。
・家族を支援することが子どもの支援につながることを明確にする。

第 2 課題の留意点

・テキスト第Ⅰ部を熟読し、障害児保育の基本的な考えを理解したうえで記述する。
・テキスト第Ⅱ部、第2章・第5～7章「肢体不自由児」「知的障害児」「発達障害児」の障害特性と援助方法をふまえ、それぞれの障害のある子どもが遊びに参加しづらい理由を明確にし、どのような保育者の援助が必要であるのかについて記述する。
・テキスト第Ⅲ部を基に、障害のある子ども一人ひとりが主体的に活動できるようにするためには、どのような支援や環境構成が求められているのかについて、障害特性に応じた内容を記述する。
・子どもの具体的な姿をイメージし、自分なりの考察を踏まえて記述すること。

レポートの評価基準

・課題の意図を正しく理解し、自分の考えや表現で論述できている。
・体裁が整えられている。（テキストの文章をつなぎ合わせただけではなく、内容に沿った段落構成がなされている。接続詞や句読点が適切に使用されている。主語と述語等の関係に留意し記述されている。文体が統一されている。誤字や脱字がない等。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの小見出しごとに要約をまとめ、理解を深めておく。
・障害種別ごとに、子どもの抱える困難とそれに応じた支援について整理しておく。テキスト学習で得た知識が実践で活かされるように、子どもの姿や保育者に求められている支援をより具体的に捉え、それを記述できるように理解を深めておく。

科目修了試験の評価基準

・設題の主旨を正しく理解し、論理的に記述できている。
・テキストやその他文献の知見をもとに論述されている。テキストの内容を踏まえず、自らの体験や自説を記述しても評価しない。
・障害児保育の基本理念を理解した上で、専門用語を正しく用いて論述されている。
・誤字・脱字がなく、適切な大きさの文字で、解答用紙表面 2 / 3 以上記述されている。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館
※その他、テキストに挙げられている参考文献にも興味を持ち、目を通してみること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20075	科目名[単位数/学習時間]	子どもと人権［2単位／90時間］	科目担当	古川　知子
テキスト	●新保真紀子 『小1プロブレムの予防とスタートカリキュラム　就学前教育と学校教育の学びをつなぐ』 明治図書出版				
ISBN	9784181002299	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,160	生協テキストNo.	22076
実務経験のある教員による科目	教育委員会（教育振興室高等学校課参事）				

科目の目的

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』、『小学校学習指導要領』の趣旨を踏まえ、子ども理解を深めることが大切である。本科目は、小学校1年生の学級がうまく機能しない「小1プロブレム」克服を課題とし、就学前教育と学校教育の連携で、子どもの育ちや学校・地域・家庭の抱える課題を読み解き、その解決の方略を考えることを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・子どもの自尊感情やコミュニケーション力等に課題がある現状を理解し、それらの育成のために学校・家庭がとるべき支援のありかたについて学ぶ。
・「小1プロブレム」とは何か。また、その複合的な要因について理解する。
・認定こども園・保育所・幼稚園と小学校との連携を進める「スタートカリキュラム」や「くぐらせ期メソッド」について、その意義と実践事例を学ぶ。

学習テーマ

1	保育所・幼稚園・認定こども園と小学校の接続・連携の意義
2	小1プロブレムの「発見」とその克服
3	段差とは何か
4	子ども・教職員・保護者の今～二つの小1プロブレム・アンケート調査から
5	「くぐらせ期」とスタートカリキュラム
6	遊ぶと学びをつなぐスタートカリキュラム
7	遊びと学びをつなぐスタートカリキュラム実践
8	人間関係づくりプログラムでつながるスタートカリキュラム実践
9	多文化共生教育でつながるスタートカリキュラム実践
10	特別支援教育でつながるスタートカリキュラム実践
11	食育でつながるスタートカリキュラム実践
12	厳しい課題のある子どもを中心に据えた集団づくり
13	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」
14	「小学校学習指導要領」
15	小1プロブレムの予防のためのスタートカリキュラム

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキストを熟読し、①「小1プロブレム」の概要を説明する。②「小1プロブレム」の解決策としてテキスト第2部のスタートカリキュラム事例から一つを選び要約する。③ ①②を踏まえ、段差を解消するために、教師として実践したい取組みを、あなたの体験を交え、具体的に述べなさい。

第2課題

テキストを熟読し、①子どもの人間関係づくりにおいて、自尊感情を育む必要性について概説する。②教師としてどのような視点を大切にし、どのような取組みが有効かについて、最新の国の動向を参考にしながら、テキストの趣旨を踏まえてまとめる。③あなたが実践したい取組みを具体的に述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・①②③すべての設問に対応したレポートにすること。
・「小1プロブレム」とは何か、スタートカリキュラムとは何かを、テキストに沿って定義すること。
・「小1プロブレム」の要因の一つである就学前教育と学校教育の「段差」について、テキストを熟読して、具体的に整理すること。
・最新の国の動向を理解し、その趣旨を踏まえたレポートになっていること。
・テキストをそのまま抜き書きするのではなく、自分の言葉で要約すること。また引用文は「　」でくくり、誰の引用か文献名や引用ページ等を明示すること。これらのルールを守らない場合は、減点とする。
・自分の考えや分析を必ずしっかりと展開すること。

第 2 課題の留意点

・①②③すべての設問に対応したレポートにすること。とくに自尊感情は、テキストをベースにまとめること。
・第 2 課題に例示されている子どもの現状については、最新の国の動向やデータを検索して実証的に解説を加えること。
・テキストをそのまま抜き書きするのではなく、自分の言葉で要約すること。また引用文は「　」でくくり、誰の引用か文献名や引用ページ等を明示すること。これらのルールを守らない場合は、減点とする。
・自分の考えや分析を必ず論述すること。

レポートの評価基準

・幼児期から学童期までの子どもの人権教育課題を、テキストの全編をよく読んで、理解しているか。
・テキストで重視する「小 1 プロブレムとその予防」や子どもの自尊感情を育む必要性など、子ども理解と支援の視点が理解されているレポートであるか。
・最新の国の動向を理解し、その趣旨を踏まえたレポートであるか。
・誤字脱字はもちろんのこと、段落の取り方、敬体と常体の文体が混同していないこと、「　」や『　』の使い方など、レポート作成上の基本的ルールが守られているか。
・引用文は「　」でくくり、誰の引用か文献名や引用ページ等を明示しているか。
・抜き書きした文章の寄せ集めや論文の剽窃がなく、自分の考えが述べられているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全編をよく読んで、今の子どもが抱える課題、「小 1 プロブレム」とその克服の手立て、スタートカリキュラム等についての理解を深めておくこと。
・自尊感情の育成や認定こども園・保育所・幼稚園と小学校との連携、さらにインクルーシブ教育、多文化共生教育など、現代的な教育課題を、テキストをよく読んで、まとめておくこと。
・学校・家庭・地域が協働した子育ての重要性などを整理しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・テキストを十分理解した上で、設題に的確に解答できていること。テキストの内容を踏まえずに、自説を展開するだけでは不十分である。
・解答用紙表面の 9 割程度（以上）を最低限使って、十分に論述していること。
・誤字脱字はもちろんのこと、段落の取り方、敬体と常体の文体が混同していないこと、「　」や『　』の使い方など、基本的ルールが守られていること。

参考文献

・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞（平成29年告示）』　チャイルド本社
・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年 3 月＞』　東洋館出版社
・新保真紀子　『子どもがつながる学級集団づくり入門　若いせんせいに送るラブレター』　明治図書出版
・新保真紀子　『「小 1 プロブレム」に挑戦する　子どもたちにラブレターを書こう』　明治図書出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20076	科目名［単位数／学習時間］	現代保育論［2単位／90時間］	科目担当	横田　郁子
テキスト	●長尾和英　伊澤貞治　『子どもの育ちと教育環境』　法律文化社				
ISBN	9784589030009	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	22077

科目の目的

子どもを取り巻く現代の社会環境は、社会経済情勢の影響を受け大きく変化している。それに伴い、子どもの育ちにも大きな影響を及ぼしている。本科目は、地域社会や家庭のありよう、環境について理解する。さらに、保育者としての資質の向上、確かな専門性を身に付けていくことを学ぶ。

到達目標

子どもを取り巻く環境には、家庭環境、社会環境、保育環境、子どもの生活環境などがあるが、子どもの育ちには環境としての保育者は重要な意味をもつ。保育者の資質、専門性、そして子どもにどのような援助ができるのかを考える。
テキスト全体を通読し、子どもの育ちと環境についてまとめる。

学習テーマ

1	教育環境の重要性について①【学習のポイント：教育環境と子どもの成長を理解する。】
2	教育環境の重要性について②【学習のポイント：教育環境の思想や要件を理解する。】
3	教育環境の重要性について③【学習のポイント：幼児期になぜ感動体験が大切なのかを理解する。】
4	遊び環境と子どもについて【学習のポイント：遊びの現状とともに、遊びの意味について理解する。】
5	家庭環境と子ども①【学習のポイント：家庭の意味や教育力、子どもにとって望ましい家庭を考える。】
6	家庭環境と子ども②【学習のポイント：子どもの育ちと家族関係について理解する。】
7	社会環境と子ども【学習のポイント：章全体を通して、社会環境の大切さについて理解する。】
8	保育環境と子ども①【学習のポイント：保育の場の意味について理解する。】
9	保育環境と子ども②【学習のポイント：保育環境の設定や保育教材の精選について理解する。】
10	学校環境と子ども【学習のポイント：教育の場としての学校について理解する。】
11	子どもの生活と環境【学習のポイント：生活環境や子どもと生活について理解する。】
12	教育環境としての教師・保育者①【学習のポイント：子どもの育ちを支える教師・保育者を理解する。】
13	教育環境としての教師・保育者②【学習のポイント：保育者の資質について理解する。】
14	教育環境としての教師・保育者③【学習のポイント：保育者の資質と研鑽について理解する。】
15	教育環境としての教師・保育者④【学習のポイント：教職の専門性について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子どもが育つ基盤としての社会環境や保育環境、家庭環境の重要性について論じなさい。

第2課題

子どもの育ちを支える、教育環境としての教師・保育者の資質と研鑽、専門性ついて考えるところを述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

参考文献『保育所保育指針＜平成29年告示＞』、『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』に「環境を通しての保育」を謳っている。子どもの育ちにおいて環境は重要な意味をもつ。テキストをよく読み、子どもが育つ基盤としての社会環境や保育環境、家庭環境の重要性について考察すること。
参考文献『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』のpp.28-32「環境を通して行う教育」、pp.41-44「計画的な環境の構成」、p.102「環境の構成」、pp.248-251「環境の構成の意味」を熟読すること。

第2課題の留意点

核家族・少子化・世代間の断絶など、豊かな人と人との交流が希薄化している現代、保育も多様化している。子どもの育ちを支える教師・保育者としての資質や研鑽、専門性について、テキストをふまえながら、自身の考えるところを論じること。
参考文献『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』のpp.45-49「教師の役割」、pp.116-118「教師の役割」を熟読すること。

レポートの評価基準

・課題に対してテキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え・表現で、いかに的確に作成できているかについて評価する。レポートを作成する際には、「序論・本論・結論」の構成を意識すること。また、見出しを付けて分かりやすくすること。
・次の 3 点を評価基準とする。
　・テキストを精読の上で参考文献などの情報を加味して課題について論述している。
　・自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
　・他人に読ませることを意識して丁寧に作成している。（誤字や脱字は減点とする。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読んで理解を深めておくこと。また、設題の趣旨を正確に把握し、論旨を展開することを心がけることが必要である。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20077	科目名［単位数／学習時間］	西洋教育史［2単位／90時間］	科目担当	小川　雄
テキスト	●石村華代　軽部勝一郎　『教育の歴史と思想』　ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623065844	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	22078

科目の目的

本科目では、西洋のさまざまな教育思想家の考え方に学びながら教育のこれからのあり様について熟考する。その過程をとおして、教育を多角的に捉えられる視座を獲得することが本科目の目的である。

到達目標

・西洋の主要な教育思想について、それぞれの鍵となる考えや基本となる考え方に親しむこと。
・教育思想家をばらばらに理解するのではなく、他の思想家との関連で捉えて、知識を有機的に繋げられるようになること。
・現代の教育問題について、教育思想の助けを借りながら一定の指針を示せるようになること。

学習テーマ

1	テキスト「1 ソクラテス：真理の探求者」を読む：「助産術」のねらいと「無知の知」の教育的意義を理解する。
2	テキスト「2 コメニウス：子どものために教科書を」を読む：「汎知学」の教育学的意義を掴む。
3	テキスト「3 ロック：紳士教育論と『教育に関する考察』」を読む：徳育に関するロックの考え方をまとめる。
4	テキスト「4 ルソー：消極教育と『エミール』」を読む：「12エレン・ケイ：個性的教育思想の先覚者」も併せて読み、「消極教育」の教育的な意義を理解する。
5	テキスト「5 カント：自律的で道徳的な人間を育てる」を読む：カントの道徳教育論を理解する。
6	テキスト「6 ペスタロッチ：貧民教育と直観教授法」を読む：「家庭的な雰囲気」の教育的な意義を掴む。
7	テキスト「7 ヘルバルト：教育学の体系化と教授方法の段階化」を読む：ヘルバルトの人間観を理解しながら彼の教育思想についてまとめる。
8	テキスト「8 フレーベル：幼稚園の創設者」を読む：「遊び」の教育的意義について理解を深める。
9	テキスト「9 デュルケーム：教育社会学の祖」を読む：デュルケームの道徳教育論について理解を深める。
10	テキスト「10ケルシェンシュタイナー：社会生活の基礎を学校で身につける」を読む：「労作」の教育的意義についてまとめる。
11	テキスト「11クルプスカヤ：教育と労働をつなぐ」を読む：「総合技術教育」という考えについてまとめる。
12	テキスト「13デューイ：プラグマティズムの教育」を読む：「16ブルーナー：学習に発見の喜びを」も併せて読み、知識についてのそれぞれの考え方をまとめる。
13	テキスト「14モンテッソーリ：「子どもの家」で生まれたメソッド」を読む：「教具」の教育的意義とモンテッソーリの発達観を理解する。
14	テキスト「15ボルノウ：信頼と希望の教育学」を読む：「出会い」の教育学的意義について理解を深める。
15	テキスト「17イリイチ：学校化された社会への批判者」を読む：イリイチの「脱学校論」の教育学的意義を理解する。

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

テキスト第1部「西洋教育思想史」に登場する思想家から三人選び、学びにおける主体性という観点からそれぞれの教育思想を2,000字程度でまとめなさい。

第2課題

テキスト第1部「西洋教育思想史」に登場する思想家から三人選び、教育における教師の役割という観点からそれぞれの教育思想を2,000字程度でまとめなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

教育を教師による一方的な教え込みとみなせば、たしかに、生徒の学びは受動的な知識の吸収でしかない。しかし、デューイの教育思想のような、学びを「仕事」による学びとして位置づける考え方に従えば、学びを積極的な営みとして理解できる。「子どもはどのようにして学び成長していくのか」という視点からテキストを読み解き、思想家を選定してほしい。

第2課題の留意点

教育観の違いに留意すること。たとえば、ルソーとフレーベルは、教育を「引き出す」営みとしてとらえている思想家である。その一方で、デュルケームは教育の「伝達」という役割を際立たせたと言える。こうした教育観の違いから教師の役割を考えてみよう。

レポートの評価基準

・三部構成でレポートを作成すること。この形式を守っていないレポートは採点の対象にならない。
＜書式＞　1．序論…課題の意図や背景、あるいは、ねらいを明らかにしながら、考察の手順を示す。
2．本論…「序論」の手順に従い、考察を進める。
3．結論…「本論」の内容を簡潔にまとめながら、自分が調べたことや発見したことにどのような意義があるのかを示す。
・指定文字数を守ること。指定文字数の 9 割となる1,800字に達していないレポートは、採点の対象にならない。
・引用の作法を守ること。テキストであれ、他の文献であれ、引用した箇所は「　」でくくり、出典の情報を明示しなければならない。なお、引用の作法をたとえ守っていたとしても、その引用を自分がどのように理解したのかを示していないレポートは、採点の対象にならない。
・漢字の書き間違い（誤変換）や言葉の誤用は減点対象である。ワープロソフトを使用する場合でも、漢字については、正しい書き順に留意すること。
・論理的に文章が組みたてられていること。「すなわち」、「しかし」、「だから」、「というのは」といった接続詞を駆使して、文章の前後関係をはっきりさせる。この点がよく守られているレポートは、高く評価したい。
・テキストの記述をまとめたうえで、自分の言葉で批判的に考察したり、論拠を問い直したりして、テキストを深く読み込もうとしているレポートには、高い評価を与えたい。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験では、「学習テーマ」に沿って17人の教育思想家のなかから 1 人ないし 2 人をとりあげて出題する。どの時代のどの思想家が出題されても対応できるように、テキストの第 1 部全体にわたって読み通しておくこと。「無知の知」、「汎知学」といった重要なキーワードをまとめることはもちろん、思想家相互の影響関係や日本の教育に与えた影響なども調べておくこと。

科目修了試験の評価基準

・指定文字数を守ること。たとえば、800字程度という指定では、その 9 割である720字に達していない答案は、採点の対象にならない。
・漢字の書き間違いや言葉の誤用は減点対象である。
・テキストの内容をふまえていること。独りよがりの論述に終始している答案は、評価が低くなる。

参考文献

・広岡義之　『新しい教育原理　第 2 版』　ミネルヴァ書房
・谷田貝公昭　林邦雄　成田國英　『教職課程シリーズ 6　教育方法論』　一藝社
・広岡義之　『教職をめざす人のための教育用語・法規　改訂新版』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅢ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20078	科目名［単位数／学習時間］	日本教育史［2単位／90時間］	科目担当	光川　康雄
テキスト	●沖田行司　『人物で見る日本の教育　第2版』　ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623074020	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,800	生協テキストNo.	22079

科目の目的

教育は、時代をうつしだす鏡であるといわれる。それぞれの時代ごとに向きあわなければならない課題があって、教育にはその解決が求められてきた。日本における教育の流れに沿って、江戸時代から第2次世界大戦後までの代表的な教育思想者や教育実践家たちの思想や活動を通じて、教育者たちの系譜と教育の展開をたどることを目的とする。

到達目標

日本における「学び」の萌芽から現代、そして今後の教育に必要な要素を学び、基礎的な知識を身につけられるように努める。第Ⅰ部では、①近世以前、②江戸の教育の時代背景を理解する。あわせて、儒学者たちの教育思想を把握に努める。第Ⅱ部では、①幕末の思想、②「国民」の創出、③義務教育の確立という連続性に注意する。新しい思想や学問・教育理念やその実践について確認する。第Ⅲ部では、①大正新教育運動、②戦時下の教育、③戦後教育の展開という大きな流れをつかむ。

学習テーマ

1	第Ⅰ部の時代的背景【テキストpp. 2 - 4 、江戸時代以前と江戸時代の教育の意義と目的を理解する。】
2	藤樹書院と中江藤樹の教育思想【テキストpp. 5 -12、代表的な儒学者の私塾教育について理解する。】
3	古義堂と伊藤仁斎の教育思想【テキストpp.13-20、京都の町人学者の私塾教育の特徴を理解する。】
4	「和俗童子訓」と貝原益軒の教育思想【テキストpp.21-28、養育論と近世の子育て論を理解する。】
5	鈴屋における国学の教授法と本居宣長【テキストpp.55-62、国学者本居宣長の私塾での教育を理解する。】
6	第Ⅱ部の時代的背景【テキストpp.64-68、江戸末期（幕末）と明治時代における教育の変遷と相違点を理解する。】
7	緒方洪庵の私塾における教育【テキストpp.69-77、緒方洪庵の蘭学塾・適塾における独特の教育法を理解する。】
8	吉田松陰の松下村塾における教育【テキストpp.78-86、松下村塾における吉田松陰の独特の教育法を理解する。】
9	慶應義塾と福沢諭吉の教育【テキストpp.87-96、福沢諭吉の慶應義塾における教育思想を理解する。】
10	同志社英学校と新島襄の教育【テキストpp.97-106、新島襄の同志社英学校におけるキリスト教主義の教育思想を理解する。】
11	近代公教育の進展と文相・森有礼の教育思想【テキストpp.113-120、最初の文部大臣である森有礼による近代公教育制度の進展について理解する。】
12	津田梅子の女子英学塾の教育【テキストpp.121-128、津田梅子の女子英学塾における女子教育の思想を理解する。】
13	元田永孚らに見える「教育勅語」に盛り込まれた思想【テキストpp.137-144、「教育勅語」における元田永孚らの教育思想を理解する。】
14	植物学者・牧野富太郎と民俗学者・柳田國男の教育実践【テキストpp.172-180、明治後期～昭和後期におけるさまざまな教育実践の例について理解する。】
15	第Ⅲ部の時代的背景【テキストpp.182-186、大正時代以降の教育史の流れを理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

近世では多くの日本人が学問を志した理由を述べよ、あわせて江戸時代の代表的な私塾の教育史上の特徴について説明しなさい。

第2課題

公教育制度の展開に際しての主な文教政策や法令・勅語と、福沢諭吉や新島襄らが創設した私学の果たした教育史的意義を説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

近世における武士は、それまでとは異なり為政者としての学問を身につける必要性があったことを理解したい。元禄時代以降の経済発展に伴い庶民階層の人々も「学び」の姿勢を持ち出したと考えられる。私塾や寺子屋の数の増加がそれをものがたっている。藤樹書院・古義堂での師弟関係や、適塾などでの勉学ぶりにも注目して考える。

第2課題の留意点

明治時代に入って、「文明開化」のスローガンのもと各地に小学校が創設される。森有礼文相の各種「学校令」や、元田永孚らのかかわった「教育勅語」がどのような臣民教育をめざしたかを理解したい。もう一方の教育面で、新島襄の「同志社英学校」・福沢諭吉の「慶應義塾」など私学が果たした独自性にも留意して、それぞれの教育理念の相違点に注意する。

レポートの評価基準

・テキストで学んだ内容を正確にふまえて、いかに要領よく記入できているかについて評価する。
・次の 2 点を評価基準とする。
①テキストを精読の上、課題について論述している。
②主語と述語の関係に留意して、丁寧に作成している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを何度も熟読する。特に、 3 つの「時代的概観」で大きな教育の流れを把握することが大切である。また、それぞれの人物が果たした日本教育史上での位置づけをよく考えておくように努めたい。

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を理解し、それに必要な事項をふまえて正確に説明できているかどうかを主に評価する。

参考文献

・光川康雄　中川吉晴　井上智義　『教育の原理　歴史・哲学・心理からのアプローチ』　樹村房
・沖田行司　『藩校・私塾の思想と教育』　日本武道館
・沖田行司　『日本国民をつくった教育　寺子屋からGHQの占領教育政策まで』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20079	科目名［単位数／学習時間］	社会福祉援助総論［2単位／90時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●吉田眞理　『生活事例からはじめる相談援助　第4版』　青踏社				
ISBN	9784902636277	本体価格（円）（2022年1月現在）	1,900	生協テキストNo.	22080
生協での購入をおすすめします					
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

近年、子育てをとりまく環境は大きく変化し、そこから育児不安、児童虐待など、さまざまな問題が表面化している。そのような中で保育者の役割は従来の児童の保育・養護中心から大きく変化し、保護者への支援、地域住民への子育て支援の必要性が求められている。

この役割を果たすためには社会福祉の援助技術である「相談援助」の活用が必要不可欠であることを学ぶ。実務経験を活かし相談援助の実践的内容を含めて教授する。

到達目標

保育者にとって必要とされる、相談援助（ソーシャルワーク）と保育、相談援助の方法、相談援助のために必要な記録や連携・協働等について理解する。

学習テーマ

1	相談援助の理論について学ぶ。
2	相談援助の意義・機能について学ぶ。
3	相談援助とソーシャルワークについて学ぶ。
4	保育とソーシャルワークについて学ぶ。
5	相談援助の対象について学ぶ。
6	相談援助の過程展開について学ぶ。
7	相談援助の技術・アプローチについて学ぶ。
8	相談援助の具体的な方法（計画、記録、評価）について学ぶ。
9	相談援助の具体的な方法（関係機関との協働、多様な職種との連携）について学ぶ。
10	社会資源の活用について学ぶ。
11	虐待の予防とソーシャルワークの活用について学ぶ。
12	障害児とソーシャルワークの活用について学ぶ。
13	施設利用の子どもへのソーシャルワークの活用について学ぶ。
14	障害のある家族と暮らす子どもと家庭へのソーシャルワーク活用について学ぶ。
15	人と環境の交互作用によるジェネラリストソーシャルワークについて学ぶ。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

相談援助の技術・アプローチについて、説明しなさい。最後に、考察として、習得できた内容が、どのように自身にとって役立つか、自身の仕事や活動に照らして記述しなさい。

第2課題

相談援助における多様な専門職との連携について、説明しなさい。考察として、習得できた内容が、どのように自身にとって役立つか、自身の仕事や活動に照らして記述しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章の3を中心に、第2章全体をよく読み、相談援助（ソーシャルワーク）における技術・アプローチについて、理解を深められるよう学ぶ。信頼関係、環境、アセスメントをキイワードとする。

第2課題の留意点

テキスト第3章をとおして、相談援助における具体的展開について学ぶ。とくに多様な専門職のキイワードとして、調理員・栄養士、嘱託医、看護師、療法士、小児科医、心理職を含めて記述する。

レポートの評価基準

・「各課題の留意点」に沿ったレポートの構成、文字の適切な表記、指定の文字数（2,000字程度）を標準とした文章量等から評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読んでレポート課題以外のテキストの箇所の内容についても理解を深めておくこと。また、設題の趣旨を正確に把握し、論旨を展開することを心掛けることが大切。

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨に合った内容、正確な文字表現、解答にふさわしい文章量（解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述が必要）で論述されているかで評価する。

参考文献

・公益財団法人児童育成協会 『基本保育シリーズ 5 相談援助』 中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20080	科目名[単位数／学習時間]	子育て相談･支援の理論と実際［2単位／90時間］	科目担当	佐藤　智恵
テキスト	●松井剛太　『新・子育て支援　子どもの姿を喜びに変えるために』　教育情報出版				
ISBN	9784909378347	本体価格(円)(2022年1月現在)	1,818	生協テキストNo.	22081
生協での購入をおすすめします					
実務経験のある教員による科目	保育士				

科目の目的

現在、少子化社会の中で子育てを行う保護者は、育児不安や子育てへの負担など多様な悩みを抱えている。このような問題に対し、保育所に求められている子育て支援の役割や意義を理解し、保護者の子育てに関する様々な悩みや不安に対して適切な相談や支援ができるように、事例を通して具体的な相談の実際について学びを深める。

到達目標

・現代社会における子育て上の多様な課題を理解し、保育所での子育て支援の必要性を理解する。
・子育て相談・支援を行うにあたってのポイントや必要とされる姿勢について学習し、子育て相談・支援に必要な知識や技術を習得する。

学習テーマ

1	保育所・幼稚園・こども園における子育て支援とは【学習のポイント：子育て支援における保育士の役割を理解し、保育所保育士指針に記載された子育て支援の内容を理解する。】
2	子育て支援の意義【学習のポイント：「児童の権利に関する条約」と家庭・就学前施設の役割について理解する。現代の家庭における課題について理解する。】
3	子育て支援の基本【学習のポイント：保育士の倫理綱領を理解した上で､エンパワーメントについて説明できる。家庭の多様性の背景について理解し、必要な配慮について学ぶ。】
4	子育て支援の技術【学習のポイント：保護者との信頼関係構築のために必要な技術を学び、コミュニケーション技法について理解する。】
5	保育士の日常と子育て支援【学習のポイント：保育所が行う日常的な子育て支援を理解する。】
6	園内での職員連携【学習のポイント：園内における職員連携のポイントを理解する。】
7	子どもの育ちを保護者に伝える方法とその効果【学習のポイント：子どもの育ちを保護者に伝える方法を理解し、保護者と共有するための多様な方法を知る。】
8	保護者参加の方法とその効果【学習のポイント：保護者の参加がどう支援に結びつくかを理解し、その際の保育士の役割を考えることができる。】
9	地域の社会資源の活用と連携【学習のポイント：地域の関係機関と連携し、保護者を支援することの意義を理解する。】
10	子ども虐待への対応と家庭への支援【学習のポイント：子どもの虐待を理解し、対応を学ぶ。】
11	障害のある子どもとその家庭への支援【学習のポイント：障害のある子どもを育てる家庭の現状を理解し、支援について考えることができる。】
12	貧困家庭への支援【学習のポイント：貧困の概念を理解し、支援のあり方を具体的に考えることができる。】
13	外国につながる子どもをもつ家庭への支援【学習のポイント：外国につながる子どもとその家庭の現状と課題を理解し、具体的な支援のあり方を考えることができる。】
14	地域の子育て家庭に向けた支援【学習のポイント：保育所等が、地域の子育てを担う支援拠点であることを理解する。】
15	子育て支援の今後に向けて【学習のポイント：今後の保育所等における子育て支援のあり方を考える。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

保育所において子育て支援を行う意義と子育て支援の技術についてまとめた上で、保育士が行うべき支援について考察せよ。

第2課題

現在の多様な子育て支援のニーズについて述べ、保育所で行う支援について考察せよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・自らの経験談ではなく、テキストによる学習を基に記述すること。主に1章～4章を熟読し、それぞれの章で学んだ支援に向かう際の考え方や具体的な技術についても記述すること。
・テキストの各章には実践事例について考えるページがあるので必ず取り組み、子育て支援についての理解を深めてから課題に取り組むこと。
・テキスト以外に内容に適した引用文献（書籍、研究論文、新聞など）を自分で探して、レポート内に最低1か所、引用すること。
・テキストから抽出した文章だけでまとめるのではなく、「保育士が行うべき支援」については必ず自分の考察を記述すること。

第 2 課題の留意点

・自らの経験談は不要である。多様な子育てニーズについては10章～14章を熟読し、ポイントを理解した上で課題をまとめること。保育所で行う支援については、 5 章～ 9 章を熟読し、園内連携や他機関との連携などを理解し、記述すること。
・テキストの各章には実践事例について考えるページがあるので必ず取り組み、子育て支援についての理解を深めてから課題に取り組むこと。
・テキスト以外に内容に適した引用文献（書籍、研究論文、新聞など）を自分で探して、レポート内に最低 1 か所、引用すること。
・テキストから抽出した文章だけでまとめるのではなく、「保育所で行うべき支援」については必ず自分の考察を記述すること。

レポートの評価基準

以下の 3 点を評価基準とする。
・テキストでの学習をふまえた上で、課題で求められた自分なりの考察が述べられている。
・誤字脱字が無く、主語と述語の関係などに留意し作成されている。
・テキスト以外で、内容に適した引用が行われている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・「学習テーマ」で挙げた点を中心に、テキストによる学習を進めること。
・現代の日本の子育てを取り巻く問題について理解を深め、保育相談支援の原則、保育者として求められる技術や姿勢を理解しておくこと。
・テキストには、事例も多く記載されているので丁寧に読み、支援の方法を把握しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・テキストの内容をふまえた上で、論述すること。自らの経験談や根拠のない自説を記入しても評価しない。
・誤字脱字や主語述語のねじれがあるなど、意味が取れない文章と判断したものについては減点対象とする。
・解答用紙表面の 1 / 2 以上の記述があること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20087	科目名［単位数／学習時間］	保育実習Ⅱ（保育所）［実習2単位］	科目担当	北野　富美子
テキスト	●公益財団法人児童育成協会　『新・基本保育シリーズ　20　保育実習』　中央法規出版				
ISBN	9784805858004	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	22084
実務経験のある教員による科目	公立保育士（主任・所長）、地域子育て支援センター長				

科目の目的

事前指導においては、子どもの理解と保育の意義を十分に深め、保育士としての資質を高める実習がなされるように、保育士としての心構え、実習に向けての準備と保育方法の研究を行う。実習終了後には、実習記録、実習指導案の提出が必要となる。

到達目標

・「保育実習ＩＡ」を踏まえ、より実践的に保育の理解と考察を深める。
・保育実習において実践的に学ぶために、保育のねらいと内容、カリキュラムについて、理解・考察を深める。
・乳児・幼児の発達を考慮した保育プログラムの立案ができる。

受講上の注意事項

＜実習前＞
・実習開始までに、『保育所保育指針』と『保育所保育指針解説』を熟読し、具体的な保育のイメージをしておく。
・保育とカリキュラムなどの保育専門雑誌やさまざまな実技関係の書籍を複数参考にし、子どもへの言葉かけとかかわり方や、手遊びや絵本の読み聞かせ、工作や制作・リズム遊びや運動遊びなど十分に準備しておく。
・テキストやその他の保育関連の専門書など、複数を参考にして、実習日誌の書き方を練習しておく。誤字脱字、漢字の間違いなどに留意すること。
・お礼状の書き方など、実習生ではあるが社会人としてふさわしい文章が書けるように準備しておく。

＜実習後＞
・実習のお礼状は、実習終了後1週間程度で実習園に届くよう配慮して、自筆で丁寧に書く。
・実習日誌、及び指導いただいたコメントのすべてを丁寧に読み直し、自身の実習の成果を振り返る。その上で、自身の将来の保護者像にも思いを馳せ、保育観について考察する。

評価基準

・実習に関する事前の準備（事務手続き等を含む）及び学習を滞りなく完了できた　30%
・実習期間中、実習生としての基本的な責務を果たすことができた　35%
・実習のねらいについて、保育現場で学び、理解・考察することができた　35%

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園・教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

実習日誌等返却時にコメント等を通知する。

科目コード	20091	科目名[単位数／学習時間]	特別支援教育基礎理論［1単位／45時間］	科目担当	武富　博文
テキスト	●安藤隆男　『特別支援教育基礎論』　放送大学教育振興会				
ISBN	9784595321757	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,600	生協テキストNo.	22086
実務経験のある教員による科目	公立特別支援学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事				

科目の目的

インクルーシブ教育システム下における特別支援教育の基礎的理解を目的とする。視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、発達障害を概括的に学び、インクルーシブ教育システムと関連付けて理解する。

到達目標

・インクルーシブ教育システムについて概要を理解する。
・視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、発達障害の概要を理解する。
・上記の障害に関する教育の内容・方法、今日的教育課題について概要を理解する。

学習テーマ

1	特別支援教育について【学習のポイント：制度と整備状況について概括的に理解する。】
2	特別支援教育の歴史について【学習のポイント：戦前と戦後の教育について理解する。】
3	インクルーシブ教育システムについて【学習のポイント：理念・内容等について理解する。】
4	特別支援学校の教育について【学習のポイント：特別支援学校の現状と課題について理解する。】
5	特別支援学級と通級による指導について【学習のポイント：両者の現状と教育課程について理解する。】
6	視覚障害教育と聴覚障害教育【学習のポイント：障害の定義とそれぞれの教育内容・方法を理解する。】
7	知的障害教育と肢体不自由教育【学習のポイント：障害の定義とそれぞれの教育内容・方法を理解する。】
8	病弱教育と発達障害教育【学習のポイント：障害の定義とそれぞれの教育内容・方法を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

我が国におけるインクルーシブ教育システムの構築状況をまとめるとともに、連続性のある多様な学びの場における特別支援教育の推進状況とその課題について論述しなさい。

第1課題の留意点

テキストの関連箇所をよく読んだ上でまとめること。インクルーシブ教育システムについて、その定義や構築することの意義及び連続性のある多様な学びの場に在籍する児童生徒の現状と教育的対応のポイントについて説明すること。その際、レポートの書き方に関する一般的なルールを守って作成すること。

レポートの評価基準

評価基準は以下の3点である。
・テキストの内容を理解して、我が国のインクルーシブ教育システム構築の状況とその特徴及び連続性のある多様な学びの場に在籍する障害のある児童生徒の現状と特別支援教育推進のための課題の要点が記述できている。
・専門用語等の理解、使用が正しくできている。
・レポート作成上のルールが守られ、正しく丁寧に作成している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「科目の目的」、「到達目標」に沿ってテキストの各章から出題する。テキストの小見出しごとに、自分なりの要約を作成しておくとよい。専門的なキーワードを的確に用いること。

科目修了試験の評価基準

・設題に関して、テキストの幅広い理解ができている。
・設題に沿った記述があること。自己の知識や経験内容の記述があっても設題から逸脱していれば得点にならない。
・適切なキーワードを使用し、内容が的確に説明されている。

参考文献

・文部科学省 『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年 4 月告示＞』 海文堂出版
・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』 開隆堂出版
・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』 開隆堂出版
・文部科学省 『特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』 開隆堂出版
・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年 3 月＞』 東洋館出版社
・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説』
・文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示)』 東山書房
・文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』
・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』 令和 3 年 6 月
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm
・中央教育審議会初等中等教育分科会 『共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告)』 平成24年 7 月23日

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の Ⅶ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20092	科目名[単位数／学習時間]	知的障害児の心理A［1単位／45時間］	科目担当	中尾　繁樹
テキスト	●梅谷忠勇　生川善雄　堅田明義　『特別支援児の心理学　新版　理解と支援』　北大路書房				
ISBN	9784762828928	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,500	生協テキストNo.	22087
実務経験のある教員による科目	公立小学校・特別支援学校教諭、教育委員会指導主事				

科目の目的

知的障害児の心理学的特性について基本知識を幅広く習得する。また、心理的アセスメントについて理解しながら、概要について学ぶ。本科目の学習により、知的障害児の心理特性や脳機能との関連を理解し、その課題について述べることができ、また、知的障害児に用いる心理的アセスメントの概要を説明できるようになることをめざす。実務経験を活かして教授する。

到達目標

知的障害を中心とした特別な配慮のいる子どもたちの心理特性及び脳機能との関連、発達とその実態把握について理解する。知的障害教育に携わるための基礎的知識を理解する。知的障害は、心理学的側面を含む概念であり、行動レベルで測定される知能を定義の一部としている。様々な心理学的アプローチによって得られた知見や人に関する心理モデルを知ることで知的障害の心理機能や脳機能に関する見方を学習する。

学習テーマ

1	特別支援児の概要と理解について【特別支援児の概要、障害の原因等の理解をする。】
2	特別支援児の心理特性について①【受容機能の障害について理解する。】
3	特別支援児の心理特性について②【処理機能の障害について理解する。】
4	特別支援児の心理特性について③【表出機能の障害について理解する。】
5	特別支援児の心理特性について④【病虚弱、重症心身障害について理解する。】
6	特別支援児の教育支援について【特別支援教育の概要と実際について理解する。】
7	特別支援児の心理とその支援に関するトピックス①【視知覚機能、知的発達等の支援を理解する。】
8	特別支援児の心理とその支援に関するトピックス②【言語の獲得や支援機器利用等を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

知的障害、自閉症、LDの心理特性をまとめるとともに、その支援方法について具体的に述べなさい。

第1課題の留意点

知的障害・自閉症等の各障害の具体的な症状については簡潔にまとめ、具体的な支援方法についてはテキストだけでなく他の文献・資料を参考にして、できるだけ具体的に記述することが望ましい。

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え・表現で、いかに的確に表記できているかについて評価する。
・課題に対する記述、論理的構成、レファレンス資料（着想を得たものや自分の考えを支持するための先行研究や文献、データ）、文章の体裁（①段落が適切に作られている。②句読点の付け方が適切である。③主部と述部の対応にねじれがない。④文体が統一されている。）、表現の推敲（①同じ言葉の繰り返しや多用がない。②誤字脱字がない。③仮名使い・送り仮名の誤りがない。④専門用語を正しく用いている。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

基本的用語についてよく学習しておくとともに、知的障害を中心とした各障害の特徴、心理特性、記憶特性等についても理解を深め、支援の在り方について調べておくことが必要である。また、様々な心理学的アプローチや心理検査の種類についてもテキストだけでなく、他の文献・資料を参考に調べておくことが望ましい。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて適切に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」、「到達目標」等をふまえ、自らの経験等も有効に活用しながら設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていることを前提として評価する。

参考文献

・橋本創一　『特別支援教育の基礎知識　障害児のアセスメントと支援、コーディネートのために』　明治図書出版
・下山晴彦　『実践　心理アセスメント』　日本評論社
その他、心理アセスメント、知能検査関連の文献

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20094	科目名[単位数／学習時間]	知的障害児の生理･病理［2単位／90時間］	科目担当	木原　健二
テキスト	●太田俊己　藤原義博　『新訂　知的障害教育総論』　放送大学教育振興会				
ISBN	9784595315350	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,400	生協テキストNo.	22089
テキスト	●宮尾益知　『発達障害の基礎知識』　河出書房新社				
ISBN	9784309248240	本体価格(円)(2022年1月現在)	1,600	生協テキストNo.	22090
実務経験のある教員による科目	理学療法士（病院・医療福祉センター等）				

科目の目的

知的障害児への教育を考える上で、知的障害の原因や病態の理解を深めることは重要である。本科目では知的障害児の生理・病理を具体的に学習し、病態の観点から特別支援教育に必要な知識と技術を習得する。また、発達障害児への教育に必要な、発達障害の原因や病態の理解を深める。実務経験を活かして教授する。

到達目標

2冊のテキストを通して、知的障害児の病態を生理・病理観点から学ぶと共に、教育に関する留意点について理解を深める。また、発達障害についても、その障害の特徴に応じた支援について理解する。

学習テーマ

1	知的障害の教育と特別支援教育 ＜テキスト『知的障害教育総論』pp. 9 -22＞
2	知的障害のある幼児児童生徒の理解と支援 ＜テキスト『知的障害教育総論』pp.23-33＞
3	自閉症等のある幼児児童生徒の理解と支援 ＜テキスト『知的障害教育総論』pp.34-47＞
4	知的障害教育の教育課程上の特徴と指導法 ＜テキスト『知的障害教育総論』pp.48-62＞
5	知的障害教育の指導法（生活単元学習、作業学習）＜テキスト『知的障害教育総論』pp.63-95＞
6	知的障害教育の指導法（日常生活の指導・遊びの指導、教科別の指導、自立活動の指導）＜テキスト『知的障害教育総論』pp.96-134＞
7	特別支援学級の学級経営と教育課程・指導法、日本と海外の知的障害教育 ＜テキスト『知的障害教育総論』pp.135-164＞
8	今日的な課題への対応（個別の指導計画と個別の教育支援計画、知的障害教育とキャリア教育）＜テキスト『知的障害教育総論』pp.165-205＞
9	今日的な課題への対応（行動上の問題の理解と支援、個のニーズに応じた授業づくり）＜テキスト『知的障害教育総論』pp.206-229＞
10	発達障害の最新の知見と取り組み ＜テキスト『発達障害の基礎知識』pp. 9 -33＞
11	ADHD、ASD、LDは認知の偏りと特性 ＜テキスト『発達障害の基礎知識』pp.35-62＞
12	発達の障害の診断を受けたら親はどうする？ ＜テキスト『発達障害の基礎知識』pp.63-86＞
13	男の子と女の子、乳幼児期から思春期までの発達障害 ＜テキスト『発達障害の基礎知識』pp.87-130＞
14	青年期から大人の発達障害 ＜テキスト『発達障害の基礎知識』pp.131-158＞
15	整備される法律や変化する社会、企業で新しく始まった発達障害者雇用の最前線＜テキスト『発達障害の基礎知識』pp.179-212＞

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

知的障害の定義と原因を述べ、知的障害児の特徴と、知的障害をもつ子どもに対する支援について述べなさい。

第2課題

発達障害の中の注意欠如・多動性障害（ADHD）及び自閉症スペクトラム障害（ASD）について、各々の障害の特徴を述べ、各々の障害をもつ子どもに対する支援方法について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

知的障害を医学的観点から論述し、知的障害をもつ子どもに対する教育における具体的な支援方法について考察する。

第2課題の留意点

注意欠如・多動性障害（ADHD）及び自閉症スペクトラム障害（ASD）の特徴を医学的観点から論述し、各々の障害をもつ子どもに対する自宅や学校等での具体的な支援方法について考察する。

レポートの評価基準

・テキストの内容を理解した上で、課題に対する自分自身の考察を論述できている。
・理解した内容について、主語と述語の関係などを留意して簡潔にまとめている。
・他人に読ませることを意識して、丁寧に作成している。
・誤字脱字がない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・400字程度の記述問題で行う。
・知的障害及び発達障害についての医学的事項の説明及び支援・教育の具体的な方法について、テキスト・参考文献等から得た知識を踏まえて自分自身の考察を述べること。
・自己学習においては、テキスト『新訂 知的障害教育総論』では、第1章「知的障害の教育と特別支援教育」から第9章「知的障害教育の指導法～その⑤ 自立活動の指導」（pp. 9 -134）、テキスト『発達障害の基礎知識』では第1章「ADHD、ASD、LDは認知の偏りと特性」から第3章「男の子と女の子、乳幼児期から思春期までの発達障害」（pp.35-130）について特に理解を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかを評価する。
・テキスト等から得た知識を踏まえた上で考察が述べられているか評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し、誤字脱字がなく論理的に記述できていることと、指定文字数の2/3以上の記述があることを前提として評価する。

参考文献

・土田玲子 『感覚統合Q&A―子どもの理解と援助のために 改訂第2版』 協同医書出版社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20095	科目名[単位数/学習時間]	肢体不自由児の心理·生理·病理A[1単位/45時間]	科目担当	松井　学洋
テキスト	●篠田達明　『肢体不自由児の医療・療育・教育　改訂3版』　金芳堂				
ISBN	9784765316286	本体価格(円)(2022年1月現在)	3,200	生協テキストNo.	22091
実務経験のある教員による科目	特別支援学校養護教諭・看護師、医療福祉センター看護師				

科目の目的

肢体不自由児への教育を考える上で、肢体不自由の原因や病態の理解を深めることは重要である。
本科目では肢体不自由の定義と原因を学ぶと共に、肢体不自由児の心理・生理・病理の特徴を理解し、その病態生理に応じた特別支援教育が実施できるための必要な知識と技術を学ぶ。また、現在、課題となっている学校内での医療的ケアについて概説を行う。実務経験を活かして教授する。

到達目標

テキストを通して、肢体不自由児の病態を心理・生理・病理的観点から理解する。また、障害特性に合わせた支援方法・教育方法を習得する。

学習テーマ

1	肢体不自由児の原因と脳性麻痺について ＜テキストpp. 1 -32＞
2	二分脊椎と筋ジストロフィーについて ＜テキストpp.33-53＞
3	ペルテス病と骨系統疾患について ＜テキストpp.55-73＞
4	手足の先天奇形と先天性多発性関節拘縮症について ＜テキストpp.75-90＞
5	ダウン症の整形外科的合併症と先天性股関節脱臼について ＜テキストpp.91-108＞
6	肢体不自由児へのリハビリテーションについて ＜テキストpp.109-149＞
7	肢体不自由児の看護と療育上の留意点について ＜テキストpp.151-171＞
8	肢体不自由児の学校教育について ＜テキストpp.173-254＞

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

肢体不自由が生じる原因を述べ、肢体不自由児に対するリハビリテーションと、特別支援教育の内容と方法についてまとめなさい。

第1課題の留意点

肢体不自由が生じる原因を病理的観点から論述し、リハビリテーションの特徴と教育内容、教育支援法について具体的に考察する。

レポートの評価基準

テキストから学んだ内容を踏まえて、課題に対する自分自身の考察が論述できているかを確認する。また、誤字脱字の有無、漢字の使用、他人が読むことを意識して丁寧に作成できているかも評価基準とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全ページが試験範囲であり、テキスト内容に準じた試験を行うため、テキストを熟読し、内容理解に努めること。また、教科書的知識のみでなく、自分の考えを具体的に記述できるようにすること。

科目修了試験の評価基準

テキストの内容を踏まえずに、自らの経験や自説を記述しても評価しない。設題内容を正確に理解し、テキスト学習によって得た知識を説明した上で、自身の考察を取り入れた答案が作成できているかを評価する。また、解答用紙表面の2/3以上の記述があることを前提に評価を行う。

参考文献

・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』
開隆堂出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVI）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20097	科目名[単位数／学習時間]	病弱児の心理･生理･病理A［1単位／45時間］	科目担当	松井　学洋
テキスト	●宮本信也　土橋圭子　『病弱・虚弱児の医療・療育・教育　改訂3版』　金芳堂				
ISBN	9784765316279	本体価格(円)(2022年1月現在)	3,200	生協テキストNo.	22092
実務経験のある教員による科目	特別支援学校養護教諭・看護師、医療福祉センター看護師				

科目の目的

健康の概念や病弱児の生理・病理の基礎知識ならびに心理面、社会面における影響を全人的にとらえて概説し、児童生徒・保護者への支援システムや社会的資源について学習する。病気を持ちながら学校生活を送る子どもたちの生理的側面や心理的側面を学び、病弱児が健やかに学校生活を送るための支援について考える。実務経験を活かして教授する。

到達目標

テキストを通して、病弱児の特徴を心理・生理・病理的観点から学ぶ。また、病気を持ちながらも学校に通う子ども達への教育上の支援について理解を深め、適切な関わりが行えるようにする。

学習テーマ

1	病弱児教育の対象となる疾患について①　悪性腫瘍、循環器疾患 ＜テキストpp. 1 -26＞
2	病弱児教育の対象となる疾患について②　腎疾患、呼吸器疾患 ＜テキストpp.37-50＞
3	病弱児教育の対象となる疾患について③　糖尿病、膠原病、神経疾患 ＜テキストpp.50-78＞
4	病弱児への医療とリハビリテーションについて ＜テキストpp.79-98＞
5	病弱児教育における心理的支援について ＜テキストpp.99-165＞
6	教育と医療との連携について ＜テキストpp.167-176＞
7	病弱児教育の目標と教育課程について ＜テキストpp.177-198＞
8	病弱児教育の実際について ＜テキストpp.198-264＞

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

病弱・身体虚弱児の定義とその対象となる疾患を2つ挙げ、その病態と学校生活での支援と留意点についてまとめなさい。

第1課題の留意点

病弱・身体虚弱児について、その定義と対象疾患を具体的に説明し、心理的・病理的観点から学校生活での支援方法と留意点を考察する。

レポートの評価基準

テキストから学んだ内容を踏まえて、課題に対する自分自身の考察が論述できているかを確認する。また、誤字脱字の有無、漢字の使用、他人が読むことを意識して丁寧に作成できているかも評価基準とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全ページが試験範囲であり、テキストの内容に準じた試験を行うため、テキストをよく読み、内容理解に努めること。また、教科書的知識のみでなく、自分の考えを明確にすること。

科目修了試験の評価基準

テキストの内容を踏まえずに、自らの経験や自説を記述しても評価しない。設題内容を正確に理解し、テキスト学習によって得た知識を説明した上で、自身の考察を取り入れた答案が作成できているかを評価する。また、解答用紙表面の2/3以上の記述があることを前提に評価を行う。

参考文献

・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年3月＞』
開隆堂出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の別冊）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20099	科目名[単位数／学習時間]	知的障害児教育論ⅠA[1単位／45時間]	科目担当	中尾　繁樹
テキスト	●ノートルダム清心女子大学　『知的障害児の教育　第2版』　大学教育出版				
ISBN	9784864291514	本体価格(円)(2022年1月現在)	1,800	生協テキストNo.	22093
実務経験のある教員による科目	公立小学校・特別支援学校教諭、教育委員会指導主事				

科目の目的

知的障害児の教育に関する基本的知識を幅広く習得することを目標とする。知的障害児の教育課程、指導の実際については通常の教育とは大きく違いを持つ。本科目では、知的障害児の教育の歴史、教育課程、個別の教育支援計画・指導計画等、特別支援学校（学級）で必要と思われる基本的知識を概括して学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

知的障害児（者）の正しい理解と認識を深めるとともに、知的障害教育の歴史や学習指導要領の変遷をたどりながら、主に知的障害教育の教育課程について学習する。知的障害を主とした特別支援学校及び特別支援学級での指導の実際を学習する中で、特別な教育内容、領域教科を合わせた指導（遊びの指導、生活単元学習、作業学習、日常生活の指導）の授業、自立活動、教科の授業等について理解する。さらに「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」について、その基本的考え方や策定方法も理解する。

学習テーマ

1	障害とは【学習のポイント：障害について理解する。】
2	知的障害児と発達障害児【学習のポイント：知的障害と発達障害の違いについて理解する。】
3	知的障害児の心理と行動傾向【学習のポイント：知的障害児の認知、記憶等の心理面や行動特性について理解する。】
4	障害児教育の歴史【学習のポイント：日本と海外の障害児教育の歴史について理解する。】
5	「法」に規定された障害児教育の目的と対象【学習のポイント:特別支援学校や学級の設置等について理解する。】
6	障害児教育の概括【学習のポイント：特別支援教育について理解する。】
7	特別支援学校学習指導要領の改訂と教育課程【学習のポイント：特別支援教育の教育課程について理解する。】
8	知的障害教育の実際【学習のポイント：自立活動等の具体的な指導について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

知的障害教育における教育課程の特徴と特例についてまとめ、「領域教科を合わせた指導」「自立活動」「各教科の指導」の中から一つ選択し、具体的な事例を挙げて説明しなさい。

第1課題の留意点

知的障害児の特別支援教育における教育課程に関しては、参考文献の教育要領・学習指導要領を参考に図式化しながら簡潔にまとめるのが望ましい。また、領域教科を合わせた指導、各教科、自立活動等の具体的事例をあげながら記述するのが望ましい。

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え・表現で、いかに的確に表記できているかについて評価する。
・課題に対する記述、論理的構成、レファレンス資料（着想を得たものや自分の考えを支持するための先行研究や文献、データ）、文章の体裁（①段落が適切に作られている。②句読点の付け方が適切である。③主部と述部の対応にねじれがない。④文体が統一されている。）、表現の推敲（①同じ言葉の繰り返しや多用がない。②誤字脱字がない。③仮名使い・送り仮名の誤りがない。④専門用語を正しく用いている。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

特別支援教育の教育課程の特徴や特例について、基本的な用語の理解とともに、参考文献の教育要領・学習指導要領を参考に理解を深めておくことが大切である。また、各教科、領域教科を合わせた指導、自立活動における具体的指導例や個別指導計画の意義等もテキストや他の文献を参考に調べておくことが望ましい。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて適切に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」、「到達目標」等をふまえ、自らの経験等も有効に活用しながら設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていることを前提として評価する。

参考文献

・文部科学省 『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領＜平成29年 4 月告示＞』 海文堂出版
・文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』 開隆堂出版
・中村忠雄 『はじめての特別支援教育 これだけは知っておきたい基礎知識』 明治図書出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20101	科目名[単位数／学習時間]	知的障害児教育論Ⅱ［2単位／90時間］	科目担当	武富　博文
テキスト	●太田俊己　佐藤慎二　『改訂新版　知的障害教育総論』　放送大学教育振興会				
ISBN	9784595321740	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,500	生協テキストNo.	22095
実務経験のある教員による科目	公立特別支援学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事				

科目の目的

知的障害特別支援学校での教育課程の特徴（教科別に指導を行う場合、道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動の時間を設けて指導を行う場合、各教科等を合わせて指導を行う場合）や個別の教育支援計画、個別の指導計画等の作成及び活用について学習し、理解を深める。また、知的障害特別支援学級における教育課程の編成と実施の工夫について概要を学び、理解を深める。実務経験を活かして教授する。

到達目標

知的障害は、知的発達の遅れと適応行動の困難を中核とする障害であり、知的障害教育特有の教育課程上の特徴や多様な指導方法がみられる。そのため、知的障害のある幼児児童生徒の学習上の特性について理解するとともに、教育課程上の特徴や指導方法、個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成及び活用等について、学校等の現場における実際の状況や工夫の在り方に関する理解を図る。また、本科目では、知的障害と関連の深い周辺の障害を有する幼児児童生徒の教育実践を取り上げ、指導や支援の在り方等について理解を深める。

学習テーマ

1	知的障害教育について【学習のポイント：知的障害教育の現況、知的障害の特徴等を理解する。】
2	知的障害の心理と教育実践【学習のポイント：知的障害の心理的特性と教育実践の要点を理解する。】
3	知的障害と周辺の障害【学習のポイント：関連する発達障害の定義や教育的支援の基本を理解する。】
4	知的障害教育の教育課程と指導法【学習のポイント：教育課程の特徴、指導の形態、指導法を理解する。】
5	生活単元学習について【学習のポイント：生活単元学習の規定と実践上の要点について理解する。】
6	作業学習について【学習のポイント：作業学習の意義と特色、実践上の要点について理解する。】
7	日常生活の指導・遊びの指導【学習のポイント：各指導についての規定と要点、実践の方法を理解する。】
8	教科別の指導について【学習のポイント：各教科の規定と展開するうえでの留意点を理解する。】
9	授業改善と知的障害教育【学習のポイント：知的障害教育における授業改善の方法を理解する。】
10	小学校知的障害特別支援学級の教育【学習のポイント：教育課程の編成・実施上の留意点を理解する。】
11	中学校知的障害特別支援学級の教育【学習のポイント：教育課程の編成・実施上の留意点を理解する。】
12	キャリア教育と知的障害教育【学習のポイント：知的障害教育におけるキャリア教育の意義を理解する。】
13	高等部教育とキャリア発達支援【学習のポイント：高等部教育におけるキャリア教育の意義を理解する。】
14	個別の諸計画と知的障害教育【学習のポイント：個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成・活用することの意義及び方法について理解する。】
15	インクルーシブ教育システムと知的障害教育【学習のポイント：インクルーシブ教育システムと特別支援教育及び知的障害教育との関係について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

知的障害特別支援学校の教育課程の特徴について、教育課程の編成方法や各種の指導法と関連付けてまとめなさい。

第2課題

知的障害教育における授業改善の在り方について、カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえながらまとめなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキストをよく読んだ上でまとめること。知的障害教育における教育課程の編成や指導法については、テキストとともに参考文献『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）』を併せて読み、その視点から具体的な対応の実際について述べるようにする。なお、レポートの書き方に関する一般的なルールを守って作成すること。

第2課題の留意点

テキストをよく読んだ上でまとめること。単にテキストを断片的につなぎあわせるのではなく、内容をよく理解し、論理的に構成すること。その際、参考文献『特別支援学校教育要領･学習指導要領解説　総則編（幼稚部･小学部･中学部）』、『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）』を参照しながらまとめることが望ましい。

レポートの評価基準

・テキストをよく読み、的確に要約し、まとめている。
・キーワードを用いてその意味を解説しながら具体的に論述し、参考文献の情報を加えて作成している。
・レポート作成上のルールが守られ、正しく丁寧に作成している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「科目の目的」、「到達目標」に沿ってテキストの各章から出題する。テキストの小見出しごとに、自分なりの要約を作成しておくとよい。専門的なキーワードを的確に用いること。また、「概要・定義・特徴・特性・意義・方法・内容・留意点・困難点」などの用語は、答案作成のポイントとなるため、箇条書きにしてまとめておくようにする。

科目修了試験の評価基準

・設題に沿った内容の記述があること。自己の知識や経験内容の記述があっても、設題から逸脱していれば得点にはならない。
・適切なキーワードを使用し、内容が的確に説明されている。
・解答の内容に、知的障害教育の実践につながるような具体性がある。

参考文献

・文部科学省　『特別支援学校教育要領･学習指導要領解説　総則編（幼稚部･小学部･中学部）＜平成30年 3 月＞』　開隆堂出版
・文部科学省　『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部･中学部）＜平成30年 3 月＞』　開隆堂出版
・文部科学省　『特別支援学校教育要領･学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部･小学部･中学部）＜平成30年 3 月＞』　開隆堂出版
・文部科学省　『特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領＜平成29年 4 月告示＞』　海文堂出版
・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課　『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』　令和 3 年 6 月
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20102	科目名［単位数／学習時間］	肢体不自由児教育論A［1単位／45時間］	科目担当	紅山　修
テキスト	●川間健之介　長沼俊夫　『肢体不自由児の教育　新訂』　放送大学教育振興会				
ISBN	9784595321719	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	22096
実務経験のある教員による科目	公立養護学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事				

科目の目的

肢体不自由児の教育の歴史と現状、肢体不自由児の障害の特性、特別支援学校等における教育の実際、教育課程編成や肢体不自由の障害特性に応じた指導法、学習指導等における支援のあり方、自立活動の指導などについて学習する。実務経験を活かして実践的な内容を教授する。

到達目標

肢体不自由児教育の歴史について、医療等との関係を含めて学習し、この教育の現状と課題を認識する。肢体不自由特別支援学校や肢体不自由特別支援学級等の教育の場について理解する。教育課程編成の基本的な事項について理解し、肢体不自由特別支援学校や肢体不自由特別支援学級における学習指導等における支援の在り方や肢体不自由児教育の今後の課題について学び、認識を深める。

学習テーマ

1	肢体不自由教育の歴史と現状について【学習のポイント：肢体不自由教育の歴史と現状について理解する。＜テキスト第2章＞】
2	肢体不自由教育の実際－特別支援学校を中心に－【学習のポイント：特別支援学校について理解する。＜テキスト第1章＞】
3	肢体不自由教育の実際－身体の動きの指導－【学習のポイント：自立活動における身体の動きの指導について理解する。＜テキスト第9章＞】
4	肢体不自由教育の実際－コミュニケーションの指導－【学習のポイント：コミュニケーションの指導について理解する。＜テキスト第10章＞】
5	肢体不自由教育の実際－各教科の指導－【学習のポイント：各教科の指導について理解する。＜テキスト第11章＞】
6	肢体不自由教育の実際－重複障害児の理解－【学習のポイント：重複障害児について理解する。＜テキスト第12章＞】
7	肢体不自由教育の実際－重複障害児の指導－【学習のポイント：重複障害児の指導について理解する。＜テキスト第13章＞】
8	肢体不自由教育の課題【学習のポイント：肢体不自由教育の今後の課題について理解する。＜テキスト第15章＞】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

肢体不自由児の教育について、その歴史と現状をテキストから簡潔にまとめ、今後の課題について、自分の考えも含めて述べなさい。

第1課題の留意点

肢体不自由児の教育について、テキスト第1章、第2章、第15章や参考文献をもとに自分の意見も含めて次の3点についてまとめること。

①肢体不自由児の教育の歴史について、医療等との関係を含めてまとめる（800字程度）
②特別支援学校、特別支援学級等の教育の場の現状についてまとめる（800字程度）
③肢体不自由児の教育の今後の課題について、自分の意見も含めてまとめる（400字程度）
（①②③、あわせて2,000字程度）

レポートの評価基準

・テキスト等から学んだ内容をもとに、課題についてまとめているか、自分の意見も的確に記入できているかについて評価する。
・評価基準は次の4点。
①課題についてテキストをよく読んだうえで参考文献等も加味し、自分の考えを含めて述べている。
②テキスト等から理解した内容について、主語と述語の関係等に留意してまとめている。
③文献の引用について適切に示し、自分の考えと引用部分とを明確に分けている。
④他人に読ませることを意識して丁寧な文字で記入している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全体を出題範囲としている。テキストをよく読んで、肢体不自由児の教育について、歴史と現状、教育の場、障害の特性、教育課程の編成、自立活動の指導や各教科の指導の実際等について、各章ごとにキーワードをまとめ、内容を理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、『学習の手引き』の「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説のみを記入しても評価しない。
・出題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。

参考文献

・文部科学省　『特別支援学校幼稚部教育要領　小学部･中学部学習指導要領＜平成29年 4 月告示＞』　海文堂出版
・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』　開隆堂出版
・文部科学省　『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』　開隆堂出版
・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』　開隆堂出版
・筑波大学附属桐が丘特別支援学校　『肢体不自由教育の理念と実践』　ジアース教育新社
・国立特別支援教育総合研究所　『特別支援教育の基礎・基本　2020』　ジアース教育新社
・文部科学省ホームページ⇒教育⇒特別支援教育⇒資料（データ、通知、答申、報告書等）⇒資料⇒教育支援資料⇒「教育支援資料」「第 3 編　障害の状態等に応じた教育的対応　4　肢体不自由」

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20104	科目名[単位数／学習時間]	病弱児教育論［2単位／90時間］	科目担当	紅山　修
テキスト	●日本育療学会　『標準「病弱児の教育」テキスト』　ジアース教育新社				
ISBN	9784863714939	本体価格(円)(2022年1月現在)	1,800	生協テキストNo.	22097
実務経験のある教員による科目	公立養護学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事				

科目の目的

病弱教育の意義や特別支援学校・特別支援学級での取り組みについて学習する。
病弱教育における教育課程の編成と各教科等の指導について、どのように取り組むのか、学習する。
実務経験を活かして実践的な内容を教授する。

到達目標

病弱教育について理解し、特別支援学校や特別支援学級における教育課程編成及び指導・支援方法などを知り、実践的な指導力の基礎を身につける。

学習テーマ

1	病弱･身体虚弱と学習上･生活上の困難【学習のポイント：病弱･身体虚弱について理解する。＜テキスト第1章＞】
2	病弱教育の変遷【学習のポイント：病弱教育の歴史について理解する。＜テキスト第2章＞】
3	病弱教育の制度【学習のポイント：病弱教育の制度について理解する。＜テキスト第3章＞】
4	学びの場と教育形態【学習のポイント：病弱教育の学びの場について理解する。＜テキスト第4章＞】
5	病弱児の心理【学習のポイント：病気の子どもの心理的な困難について理解する。＜テキスト第5章＞】
6	主な病気の概要と教育支援【学習のポイント：病弱教育の対象の子どもの主な病気について理解する。＜テキスト第6章＞】
7	教育課程の編成①【学習のポイント：病弱教育の教育課程編成について基本的な事項について理解する。＜テキスト第7章1～5＞】
8	教育課程の編成②【学習のポイント：病弱教育の教育課程編成について個別の指導計画等の作成について理解する。＜テキスト第7章6～10＞】
9	各教科の指導【学習のポイント：各教科の指導について理解する。＜テキスト第8章＞】
10	自立活動の指導【学習のポイント：自立活動について理解する。＜テキスト第9章＞】
11	病弱教育における情報化【学習のポイント：病弱教育における情報化の意義等について理解する。＜テキスト第10章＞】
12	キャリア教育【学習のポイント：キャリア教育について理解する。＜テキスト第11章＞】
13	医療的ケア【学習のポイント：医療的ケアについて理解する。＜テキスト第12章＞】
14	教育と医療・福祉等の連携【学習のポイント：病弱教育における関係機関等との連携について理解する。＜テキスト第13章＞】
15	病弱児への復学支援の実際【学習のポイント：病弱児が復学する際の支援の実際について理解する。＜テキスト第14章＞】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

病弱児が抱える可能性のある心理的・社会的な困難について、テキストから簡潔にまとめ、教員としてどのように対応することが求められるのか、自分の考えを含めて述べなさい。

第2課題

病弱教育の対象である子どもの病気等のうち、①小児がん：白血病　②アレルギー疾患　③精神性疾患　について、その概要をテキストから簡潔にまとめ、それに対応するための配慮事項について、自分の考えを含めて述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

病気の子どもは様々な心理的・社会的な困難を抱える可能性がある。テキスト第5章に示された5つの困難について簡潔にまとめ、自分が教員となった場合に、具体的にどのように病気の子どもに配慮して対応するのか、自分の考えを含めて述べること。

第2課題の留意点

テキスト第6章に病弱教育の対象の子どもの病気の概要と教育支援が示されている。これを参照し、①、②、③の病気の概要を簡潔にまとめ、それぞれの病気に対して配慮すべきことを、自分ならどのように対応するのかを含めて簡潔に述べること。

レポートの評価基準

・テキスト等から学んだ内容をもとに、課題についてまとめているか、自分の考えも的確に記入できているかについて評価する。
・評価基準は次の 4 点。
①課題についてテキストをよく読んだうえで参考文献等も加味し、自分の考えを含めて述べている。
②テキスト等から理解した内容について、主語と述語の関係等に留意してまとめている。
③文献の引用について適切に示し、自分の考えと引用部分とを明確に分けている。
④他人に読ませることを意識して丁寧な文字で記入している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全体を出題範囲としている。テキストをよく読んで、病弱教育について、概要、歴史と現状、制度と学びの場、病気の概要、教育課程の編成、各教科や自立活動の指導等の実際、関係機関等との連携等について、各章ごとにキーワードをまとめ、内容を理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、『学習の手引き』の「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに、自らの経験や自説のみを記入しても評価しない。
・出題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字がないこと。

参考文献

・文部科学省　『特別支援学校幼稚部教育要領　小学部･中学部学習指導要領＜平成29年 4 月告示＞』　海文堂出版
・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』　開隆堂出版
・文部科学省　『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』　開隆堂出版
・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年 3 月＞』　開隆堂出版
・文部科学省ホームページ⇒教育⇒特別支援教育⇒資料（データ、通知、答申、報告書等）⇒資料⇒教育支援資料⇒「教育支援資料」「第 3 篇　障害の状態等に応じた教育的対応　5　病弱」

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20106	科目名[単位数／学習時間]	聴覚障害児の心理･生理･病理[1単位／45時間]	科目担当	井坂　行男
テキスト	●中村公枝　城間将江　鈴木恵子　『標準言語聴覚障害学　聴覚障害学　第3版』　医学書院				
ISBN	9784260043502	本体価格(円)(2022年1月現在)	5,200	生協テキストNo.	22099
実務経験のある教員による科目	聴覚特別支援学校（聾学校）教員、言語聴覚士、学校心理士スーパーバイザー				

科目の目的

聴覚障害児に対する教育を実践する上で必要とされる、聴覚障害児者の心理・生理・病理に関する基礎知識を学習することを目的とする。

到達目標

・聴覚の仕組みと役割を理解する。
・聴覚障害の原因疾病を理解し、早期教育及び療育、幼児児童生徒に対する教育支援について理解する。
・聴覚障害児の発達過程全般を理解する。
・聴覚障害に起因して生じる可能性のある諸問題を理解する。
・聴覚補聴機器である、補聴器、人工内耳、補聴支援システムについて理解する。

学習テーマ

1	聴覚の役割とオージオグラム及び純音聴力検査について理解する。＜テキストpp. 2 - 6 、pp.35-44、pp.80-87＞
2	聴覚の構造について理解し、耳の構造を図示できるようにする。＜テキストpp.48-53＞
3	聴覚病理としての伝音難聴・感音難聴・混合性難聴について理解する。＜テキストpp.58-64＞
4	聴覚障害を起こす疾患について理解する。＜テキストpp.58-64＞
5	聴覚補聴機器（補聴器＜テキストpp.164-168＞）（人工内耳＜テキストpp.204-208＞）（補聴援助システム＜テキストpp.231-235＞）についてその種類と仕組みと役割について理解する。
6	聞こえの違いによっておこる問題点の違いを理解する。＜テキストpp. 9 -10＞
7	聴覚障害のライフステージにおける影響と発症時期の違いによる影響を理解する。＜テキストpp.10-14＞
8	聴覚障害児の教育の歴史を理解する。＜テキストpp.14-18＞

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

①音が伝わり聞こえるまでの過程の説明　②オージオグラムの説明と聞こえの違い（障害の程度）による影響についてそれぞれ300字程度にまとめた上で、小学校入学を迎える70dB中等度感音難聴の子供への問題点と配慮について述べなさい。

第1課題の留意点

テキストの内容に応じて、自分の考えも交えてまとめなさい。用語や内容が不明なところは、インターネットなど自分で資料を探して理解すること。

レポートの評価基準

以下の2点を評価基準とする。
・テキストでの学習をふまえた上で、正しく説明できている。以上をふまえて自らの考えが述べられている。
・理論的な内容と文章で構成されている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・聴覚障害に関する基礎的知識をしっかりとおさえておくこと。
・レポート課題の内容を十分理解するとともに、テキストを十分に熟読し、学習を行うこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の意味を理解し、聴覚障害に関する正確な知識を持って論述できていること。
・解答用紙表面の80%以上の記述があること。

参考文献

・中野善達　根本匡文　『改訂版　聴覚障害教育の基本と実際』　田研出版
・大沼直紀　立入哉　中瀬浩一　『教育オーディオロジーハンドブック』　ジアース教育新社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20108	科目名[単位数／学習時間]	聴覚障害児教育指導法[1単位／45時間]	科目担当	井坂　行男
テキスト	●中野善達　根本匡文　『改訂版　聴覚障害教育の基本と実際』　田研出版				
ISBN	9784860890186	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,500	生協テキストNo.	22100
実務経験のある教員による科目	聴覚特別支援学校（聾学校）教員、言語聴覚士、学校心理士スーパーバイザー				

科目の目的

聴覚障害の概要、乳幼児期から高等学校期までの学校及び聴覚特別支援学校にて、聴覚障害教育を行う上で必要な知識、指導方法、配慮点などについて学習する。

到達目標

・聴覚障害児・者に必要なコミュニケーション方法を理解する。
・聴覚特別支援学校における教育方法、指導上の工夫や配慮について理解する。
・通常学校における聴覚障害児・者への教育方法、指導上の工夫や配慮について理解する。

学習テーマ

1	聴覚障害児・者のコミュニケーション方法について理解する。＜テキストpp.27-42＞
2	聴覚障害児・者の一人ひとりの教育ニーズに対応することについて理解する。＜テキストpp.43-58＞
3	聴覚障害の早期発見・診断と両親援助について理解する。＜テキストpp.59-72＞
4	聴覚特別支援学校（幼稚部）における教育内容と方法について理解する。＜テキストpp.73-88＞
5	聴覚特別支援学校（小学部）における教育内容と方法について理解する。＜テキストpp.88-102＞
6	聴覚特別支援学校（中学・高等部）における教育内容と方法について理解する。＜テキストpp.103-129＞
7	通常の小・中・高等学校における聴覚障害児の教育と支援について理解する。＜テキストpp.131-159＞
8	聾重複障害を併せ有する子供の教育について理解する。＜テキストpp.177-188＞

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

「聴覚特別支援学校」の教育方法の特色と教育上特別に配慮する点（コミュニケーション方法・環境調整も含める）を具体的に取り上げて述べなさい。

第1課題の留意点

幼稚部から高等部まで幅広く学習する。テキストの「わが国における聴覚障害児教育の目的と制度」、「聴覚特別支援学校における教育の内容と方法」、「通常の小・中・高等学校における教育と支援」など基本的な事項をしっかりとおさえた上で、他の文献等にもあたり、課題に取り組むこと。
なお、具体例として机の配置、教室環境等の工夫にふれるとまとめやすい。

レポートの評価基準

以下の2点を評価基準とする。
・テキストでの学習をふまえた上で、正しく内容を説明して、自らの考えが述べられている。
・誤字脱字の有無や、主語と述語の関係などに留意し作成されている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストをよく読んで、全期にわたる聴覚障害児・者への教育方法の特徴と配慮事項を理解しておくこと。
・聴覚特別支援学校での聴覚障害児・者の自立活動についてテキストをよく読んでおくこと。
・特別支援学校だけでなく、通常の学校（難聴特別支援学級、通級指導教室、通常の学級）における聴覚障害児への教育支援についても理解を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の意味を理解し、聴覚障害児教育に関する正確な知識を持って論述できていること。
・解答用紙表面の80%程度の記述があること。

参考文献

・文部科学省　『聴覚障害教育の手引き』　ジアース教育新社
・中村公枝　城間将江　鈴木恵子　『標準言語聴覚障害学　聴覚障害学』　医学書院

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXIII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20109	科目名[単位数／学習時間]	発達障害児教育論A［1単位／45時間］	科目担当	中尾　繁樹
テキスト	●小野次朗　上野一彦　藤田継道『よくわかる発達障害　第2版　LD・ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群』ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623057368	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	22101
実務経験のある教員による科目	公立小学校・特別支援学校教諭、教育委員会指導主事				

科目の目的

本科目では、重複障害、言語障害、情緒障害、学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、自閉症等について学ぶ。特に、発達障害を中心に子どもの心と行動を理解するために、発達的観点と学際的観点を基本に置き、心理・生理・病理を解説し、教育的支援の実践的基礎を学ぶ。

LD、ADHD、高機能広汎性発達障害を中心とした発達障害や重度重複障害、言語障害、情緒障害の定義、認知・行動・心理等の特徴、生理・病理、支援方法、学校・地域関連機関のシステム等について基本的知識を習得する。実務経験を活かして教授する。

到達目標

学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム等を中心とした、発達障害のある子どもを理解するために、発達的観点と心理学的観点を基本に置き、心理・生理・病理を解説し、教育的支援の実践的基礎を学ぶ。また、具体的なアセスメントの方策や実践的な援助の仕方を学ぶことで、現場で役立つ理論と実践を身につける。また、特別支援教育の基本的な理念と内容について学ぶ。通常の学校や特別支援学校での支援の具体的な指導方策を学ぶ中で、特別支援教育の今日的課題を考察する。

学習テーマ

1	発達障害の理解と基本的事項【学習のポイント：脳機能と背景要因について理解する。】
2	特別支援教育の考え方【学習のポイント：特別支援教育とは何かを理解する。】
3	LD（学習障害）について【学習のポイント：LDの基本事項について理解する。】
4	ADHD（注意欠陥／多動性障害）について【学習のポイント：ADHDの基本事項について理解する。】
5	自閉症スペクトラムについて【学習のポイント：自閉症の基本事項と指導方法等について理解する。】
6	アセスメントについて【学習のポイント：心理検査等のアセスメントについて理解する。】
7	発達障害等の対応支援について【学習のポイント：具体的な指導支援方法について理解する。】
8	まとめ【学習のポイント：今までの振り返りをしてまとめる。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

発達障害について説明するとともに、発達障害に含まれる障害の一つを取り上げて、行動上の特性と具体的な支援方法について述べなさい。

第1課題の留意点

LD、ADHD、自閉症の定義については、『DMS－5（精神疾患の分類と診断の手引）』、『ICD－10』等を参考にしても構わない。各障害の具体的な行動特性や症状・支援方法については、テキストだけでなく他の文献・資料を参考にして、できるだけ具体的に記述することが望ましい。

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え・表現で、いかに的確に表記できているかについて評価する。
・課題に対する記述、論理的構成、レファレンス資料（着想を得たものや自分の考えを支持するための先行研究や文献、データ）、文章の体裁（①段落が適切に作られている。②句読点の付け方が適切である。③主部と述部の対応にねじれがない。④文体が統一されている。）、表現の推敲（①同じ言葉の繰り返しや多用がない。②誤字脱字がない。③仮名使い・送り仮名の誤りがない。④専門用語を正しく用いている。）。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

発達障害に関連する基本的用語（LD、ADHD、自閉症、ワーキングメモリー他）についてよく学習しておくとともに、LD、ADHD、自閉症の3つの障害の特徴等についても理解を深め、具体的な指導事例についても学習しておくことが必要である。テキストをよく読んでおくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて適切に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」、「到達目標」等をふまえ、自らの経験等も有効に活用しながら設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていることを前提として評価する。

参考文献

・中尾繁樹 『「特別」ではない特別支援教育 1　子どもの特性を知るアセスメントと指導・支援』 明治図書出版
・中尾繁樹 『はじめての学級担任 3　通常学級で使える「特別支援教育」ハンドブック』 明治図書出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20112	科目名［単位数／学習時間］	特別支援学校教育実習［実習２単位］	科目担当	銀屋　伸之
テキスト					
ISBN		本体価格（円）（2022年1月現在）		生協 テキストNo.	
実務経験のある教員による科目	公立養護学校・小学校教員、教育委員会特別支援教育担当指導主事				

科目の目的

特別支援学校教育実習は特別支援学校教諭の免許を取得するための必修科目である。実習校において、大学の管理と実習校の教員の指導の下、大学で学んできた特別支援教育の知識・理論ないし技能を実践的・総合的に修得することを目的とする。

到達目標

・教育者としての行動規範の修得。
・学校運営、教員の仕事の理解。
・児童生徒理解（障害理解を含む）と教材教具・対応方法の研究。
・学習指導案の作成方法と指導技術の修得。
・学級運営の理解と家庭との連携方法の理解。

受講上の注意事項

・事前に実習の予定、研究授業等について実習校と打ち合わせをしておく。
・自主的、積極的な態度で児童・生徒に働きかけ、担当教員から学ぶようにする。
・実習中の健康に留意し、遅刻や提出物の遅れ等がないようにする。

評価基準

・教育実習先の評価　50%
・記録等提出物　20%
・実習への取り組み　30%

参考文献

・文部科学省　『特別支援学校幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領＜平成29年４月告示＞』海文堂出版
・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年３月＞』開隆堂出版
・文部科学省　『特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編（小学部・中学部）＜平成30年３月＞』開隆堂出版
・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）＜平成30年３月＞』開隆堂出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

実習日誌等返却時にコメント等を通知する。

科目コード	20113	科目名[単位数／学習時間]	ボランティア論［1単位／45時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●社会福祉法人大阪ボランティア協会 『テキスト市民活動論 ボランティア・NPOの実践から学ぶ 第2版』 大阪ボランティア協会				
ISBN	9784873080703	本体価格(円)(2022年1月現在)	1,500	生協テキストNo.	22153
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

成熟社会といわれる今日、物の豊かさにあふれ、人々のつながりは希薄になりがちである。しかし、大きな災害を受けた地域では、多くの尊い命をなくしたが、人々の絆の大切さを実感した。そこで、人々が集まって作る社会はどうあるべきか、少子高齢化社会といわれる中で大切なものは何かを学習し、自分ができることは何かを考える。また、わが国だけではなく、環境問題や国際社会の課題に対してボランティアが求められるものは何かを学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・ボランティアとは何かを理解し、ボランティアが求められているものは何かを探る。
・少子高齢化の社会で、地域社会のあり方を考える。

学習テーマ

1	ボランティアとは①【学習のポイント：ボランティアの意味を理解する。＜テキスト第1章＞】
2	ボランティアとは②【学習のポイント：ボランティア活動の状況を把握する。＜テキスト第1章＞】
3	NPOについて【学習のポイント：NPOの活動について理解する。＜テキスト第2章＞】
4	市民活動について【学習のポイント：必然性、ソーシャルビジネスについて理解する。＜テキスト第3・4・5章＞】
5	CSRについて【学習のポイント：企業の社会的責任とその展開について理解する。＜テキスト第6章＞】
6	市民活動における中間組織について【学習のポイント：新しい公共、協働のあり方について理解する。＜テキスト第7章＞】
7	市民活動への関わり方【学習のポイント：社会貢献、多様な関わり方について理解する。＜テキスト第8章＞】
8	ボランティア活動を進めるために【学習のポイント：活動の実践について分野別に理解する。＜テキスト分野事例編＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

国際協力、多文化共生とボランティア活動、その方法、組織について説明しなさい。理解した内容について、考察のなかで、自身の日頃の考え、活動に照らして、どのように活かせるのか、記しなさい。

第1課題の留意点

現代社会のグローバル化のなかで、国際交流、多文化共生、国際協力が注目されている。これらに関連するボランティア活動にどのようなものがあるか、その方法についても学ぶ。考察のなかで、学びの成果が自身の日々の生活、活動のなかでどのように具体的に活かされるか、記しなさい。テキスト分野事例編を参考にすること。

レポートの評価基準

・上記の留意点に基づいた記述がなされているか。
・自身の考察において、内容の理解、活かし方について独自の記述がされているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

現代社会とボランティア活動の在り方について研究し、誰もがお互いを認め合いながら暮らすことのできる社会づくりをめざすためにどうすればよいのかを考える。

科目修了試験の評価基準

・上記の留意点に基づいた記述がなされているか。
・新たな視点に基づいた内容が書かれているか。

参考文献

指定はないが、新しいボランティア活動の動向、具体的な実践内容や成果について、日頃から意識して文献、記事等を読んでおくこと。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20114	科目名[単位数／学習時間]	時事問題からみる社会福祉［1単位／45時間］	科目担当	未定（「親和通信」で連絡）
テキスト	●宮口幸治 『ケーキの切れない非行少年たち』 新潮社				
ISBN	9784106108204	本体価格(円)（2022年1月現在）	720	生協テキストNo.	22155
実務経験のある教員による科目	人間関係相談室（企業）				

科目の目的

本科目は、複雑で多様化している社会福祉の問題を非行少年たちのテーマから掘り下げ、その支援について考えていくことを目的としている。そこでは、自身の日常の生活も振り返り、「福祉の問題は、他人事ではない」という理解のもと、時事問題を通して、問題を抱えている人たちに寄り添う社会福祉を理解する。そのうえで、ここでは、社会福祉の専門職としてのソーシャルワーカーの新たな支援を考える。

到達目標

現代における社会福祉とは何かをソーシャルワークから考える。具体的には、まずテキストの中に登場する非行少年たちの固有な生活とその問題を理解することから始める。またそこでは、非行問題だけでなく、そこに存在する障害問題、家庭問題、学校問題などが複雑に絡み合っているハイリスクな問題であることを理解する。次に、ソーシャルワークの視点から支援を考えていく。

学習テーマ

1	非行少年が書いた図 1 - 2 の図の歪みの原因を考える。【テキスト第 1 章「『反省以前』の子どもたち」を読んで考える。】
2	ケーキの切れない非行少年たちが抱える問題を考える。【テキスト第 2 章「『僕はやさしい人間です』と答える殺人少年」を読んで考える。】
3	非行少年に共通する 5 + 1 の特徴の一つを取り上げて論じる。【テキスト第 3 章「非行少年に共通する特徴」を読んで考える。】
4	非行少年の問題を通して、近年の教育現場の問題点を考える。【テキスト第 4 章「気づかれない子どもたち」を読んで考える。】
5	軽度知的障害の直面する問題について考える。【テキスト第 5 章「忘れられた人々」を読んで考える。】
6	褒める教育の是非を考える（賛成、反対の意見を示し、その根拠を示すこと）。【テキスト第 6 章「褒める教育だけでは問題は解決しない」を読んで考える。】
7	非行少年の自己への気づきと自己評価の向上を高めるための課題を考える。【テキスト第 7 章「ではどうすれば？ 1 日 5 分で日本を変える」を読んで考える。】
8	ソーシャルワークの視点から福祉問題を考えることの意味について論じる。【テキスト全章を読んだ後、考える。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第 1 課題

テキストを読んで、社会福祉に起きている具体的問題を捉え、その問題がなぜ起こるのか原因を考え、さらに解決策を検討する。

第 1 課題の留意点

現代における社会福祉の問題点、その原因、解決策について、日常生活の中で自らが体験したことなどをもとに述べること。

レポートの評価基準

・課題に対してテキストから学んだ内容を、自分の考え・表現でいかに的確に論述しているかを評価する。
・文章の構成、主語・述語が的確か、字句の誤りはないかなど、文章が正しく書けているかを評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストのどの部分もよく読んで理解を深めることが大切である。またそれぞれの単元ごとに「何が重要な問題か」を整理しておくとよい。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードなどを用い、的確に説明されているかを評価する。
・上記の説明の上に、自らの経験などからの考えを採り入れて解答を深めていることについては評価する。
・誤字脱字、文法上の誤りなどないかを評価する。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があるかを評価する。

参考文献

・中村雄二郎 『臨床の知とはなにか』 岩波書店
・岩波明 『発達障害』 文春新書

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20117	科目名[単位数／学習時間]	音楽［1単位／45時間］	科目担当	山本　裕之
テキスト	●池内友次郎　外崎幹二　『楽典　新訂』　音楽之友社				
ISBN	9784276100015	本体価格(円)(2022年1月現在)	1,100	生協テキストNo.	22103
実務経験のある教員による科目	公立高等学校専任音楽科教諭				

科目の目的

幼稚園・保育園・認定こども園での音楽表現や小学校での音楽教育において、指導者に求められる大切なことは、楽譜を正確に読み取り、音楽性豊かに表現することである。そのためには、楽典と記譜法を学び、移調の方法と和音記号（コードネーム）による簡易な伴奏付けも理解しなければならない。実務経験を十分に生かし、歌唱法やピアノ奏法等を教授する。

・音名、譜表、音符、休符、音程、拍子、リズム等、楽譜に関する基礎的な知識を学ぶ。（参考：テキスト『楽典　新訂』pp. 9 -50）
・音階と調について学び、移調の方法も理解する。（参考：「第 1 課題の留意点」）
・和音について学び、和声（和音の連結）も理解し、和音記号（コードネーム）による簡易なピアノ伴奏譜も作成する。（参考：「第 1 課題の留意点」Ⅰの和音（ドミソ）、Ⅳの和音（ドファラ）、Ⅴの和音（シレソ）、又はⅤ 7 の和音（シファソ））

到達目標

・読譜力や記譜力を身につけるために、音の高低や長さを表示する音符と、曲の流れに重要な拍子を理解する。
・調について理解するために、その調を構成している音階と調号の関係を理解する。また、移調については、臨時記号による変化音の扱いについても理解する。
・主要 3 和音（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）の基本形・転回形、及び属七の和音についての構成音を理解し、その和音の連結（和声）についても理解する。その和声に基づいて和音記号（コードネーム）による簡易な伴奏譜も作成することができる。

学習テーマ

1	移調について①【学習のポイント：調と音程について理解する。】
2	移調について②【学習のポイント：移調の方法を理解する。】
3	移調について③【学習のポイント：音符を正確に記譜する音楽理論を理解する。】
4	移調について④【学習のポイント：変化記号（臨時記号）について理解する。】
5	和音による伴奏付けについて①【学習のポイント：主要三和音について理解する。】
6	和音による伴奏付けについて②【学習のポイント：カデンツ（終止形）について理解する。】
7	和音による伴奏付けについて③【学習のポイント：キーボードでメロディーを弾きながら、メロディーに適切な和音を選択する。】
8	和音による伴奏付けについて④【学習のポイント：ヘ音記号で記譜される和音に、適切なリズムを考える。】

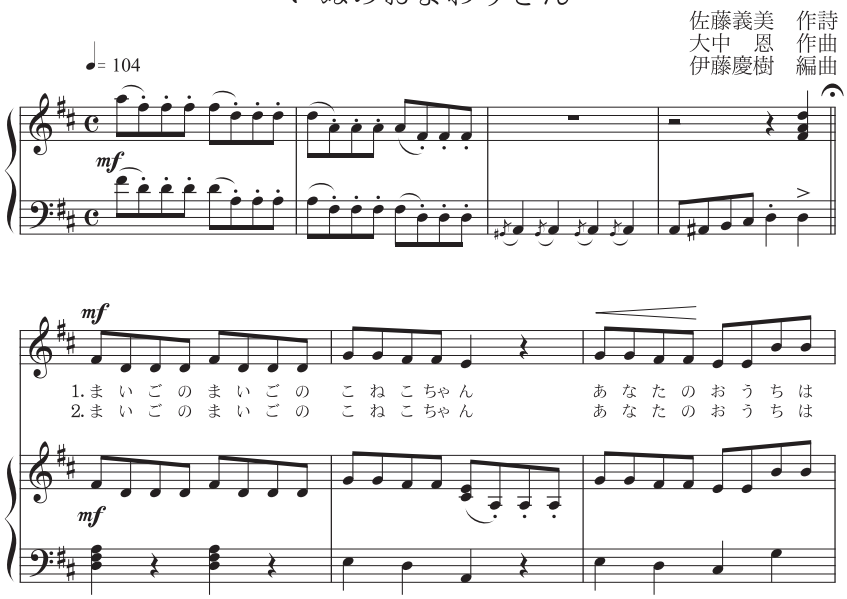
レポートについて

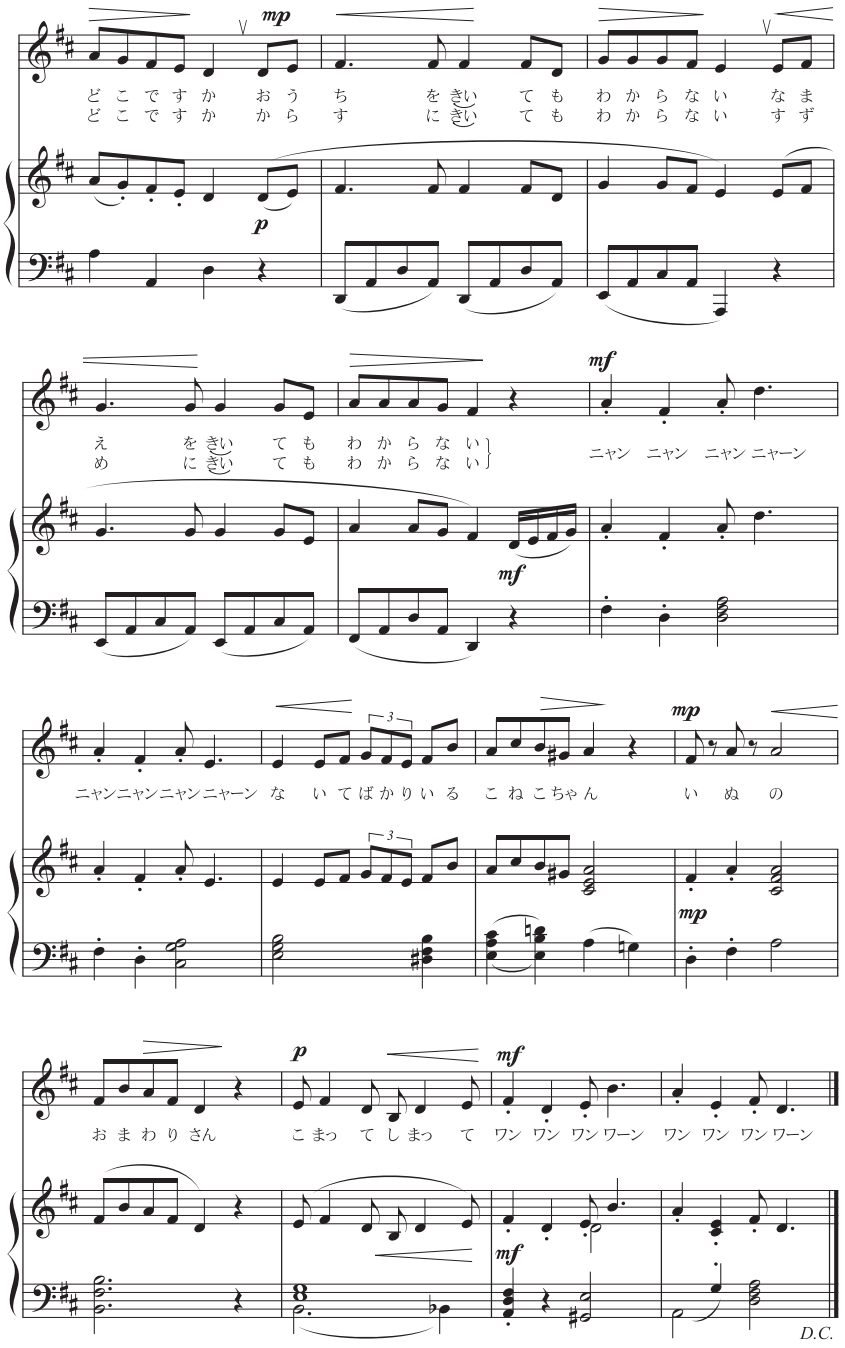
自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第 1 課題

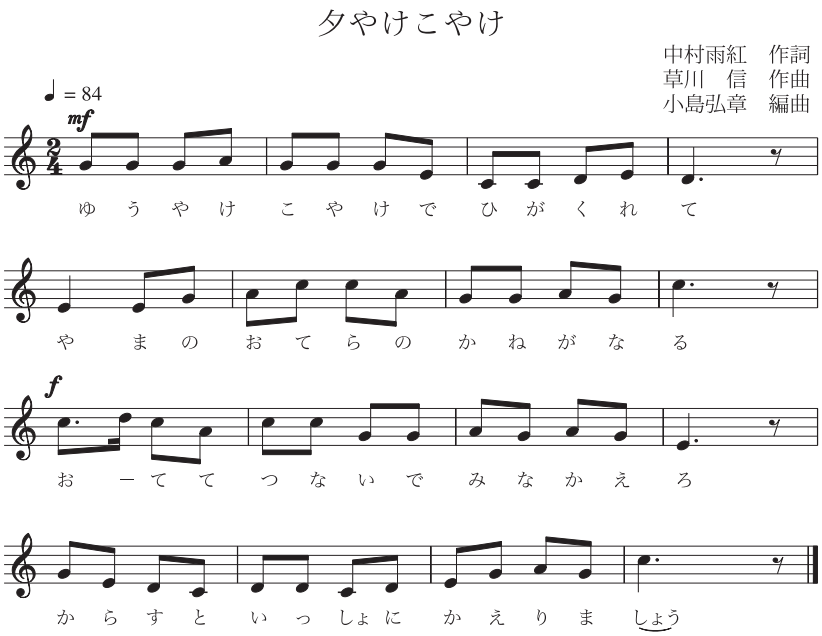
※①②ともに課題である。課題の作成にあたっては、巻末の『「音楽」「子どもと音楽表現」用　五線紙』を使用すること。（用紙が不足する場合は、コピーをして使用。）なお、提出の際は①と②をまとめて綴じて第 1 課題として提出する。

①次の曲をハ長調に移調しなさい。
○「いぬのおまわりさん」佐藤義美　作詩／大中恩　作曲／伊東慶樹　編曲



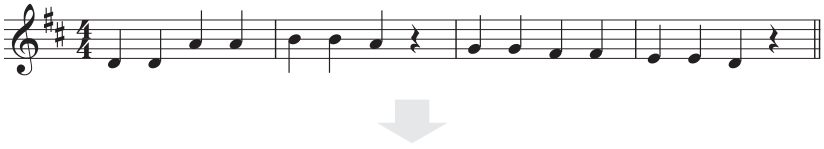

mp
どこですか おうち をきいても わからない なま
どこですか からす にきいても わからない すず
p
mf
え をきいても わからない
め にきいても わからない
ニャン ニャン ニャン ニャーン
mf
mp
ニャンニャンニャンニャーン な いてばかりいる こねこちゃん いぬ の
3
mp
p
mf
おまわりさん こまって しまって ワン ワン ワン ワーン ワン ワン ワン ワーン
mf
D.C.

②次の曲に和音による伴奏をつけ、和音記号か、またはコードネームも記入しなさい。
○「夕やけこやけ」中村雨紅　作詞／草川信　作曲

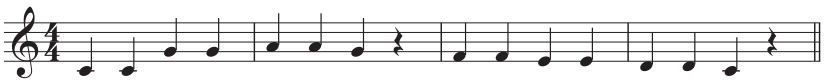


第１課題の留意点

○「移調」の手引き
・移調するには、音程・音階・調についてよく理解しておくことが大切である。また、記譜するには、楽譜に関する基礎的な知識も必要である。
・移調とは？
ある調の曲（原曲）を、そっくりそのまま他の調に移すことを移調といいます。教育や保育の現場でも、歌を歌うときに児童や幼児の声域を考慮して移調することがよくあります。将来、皆さんも教育や保育の現場で、子どもたちが歌い易いようにキー（調）を下げたり、上げたりする機会もあることでしょう。そのキー（調）を移し変えることを移調といいます。この課題を通して、移調のしくみをよく理解しておきましょう。
・移調の進め方
【例題】次の曲（二長調）を、ハ長調に移調しなさい。



※原曲の二長調をハ長調に移調するには、曲全体のそれぞれの音を長２度下げます。



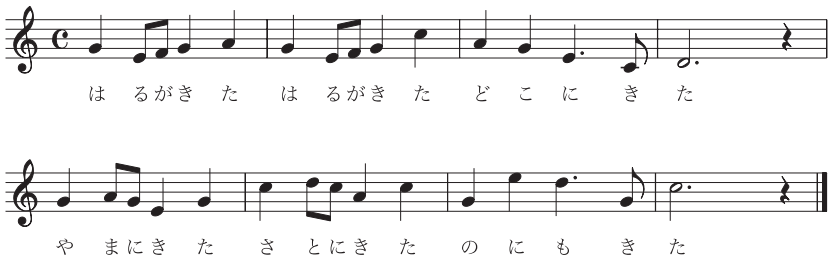
①原曲の調を理解する。　⇒　二長調
②移調する調の調号を理解する。　⇒　ハ長調
③新しい調号を記入する。（ただし、ハ長調は調号が何も付かないので何も記さない。）
④原曲と同じ拍子記号を記す。
⑤原曲のメロディーを全て長二度下げて記す。（当然、リズムは変えない。全く同じ。）
⑥この例題の場合は、原曲に臨時的に変化音（♯、♭、♮等）が付いていないので簡単であるが、もし変化音が付いている場合は、適切な臨時記号を用いて原曲の変化音の状態に合わせること。

○「和音による伴奏付け」の手引き

・和音による伴奏をつけるには、課題の旋律に合った和音を選び、その和音の正しい連結（和声）を考慮しながら伴奏付けを行うことが大切である。次の「和音による伴奏付け」の手引きを参考に課題に取り組むこと。

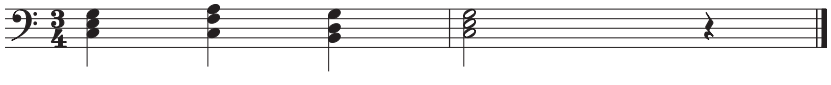
※旋律に和音による伴奏をつける課題では、まず旋律を記譜し、その下に伴奏を記譜し、大譜表として作成すること。和音記号か、またはコードネームも、忘れずに記入すること。

《春がきた》



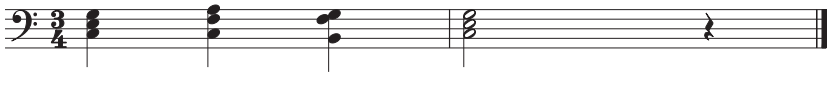
上記のメロディー譜「春がきた」に簡単な和音をつけてみましょう。

使う和音は主要三和音（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）ですが、カデンツとよばれる和音の形を利用すれば、とても簡単に伴奏をつけることができます。まずは、ハ長調のカデンツを確認してみましょう。左手で弾いてみてください。



※ⅣとⅤの和音の転回型を示す数字は省略しています。

あるいは

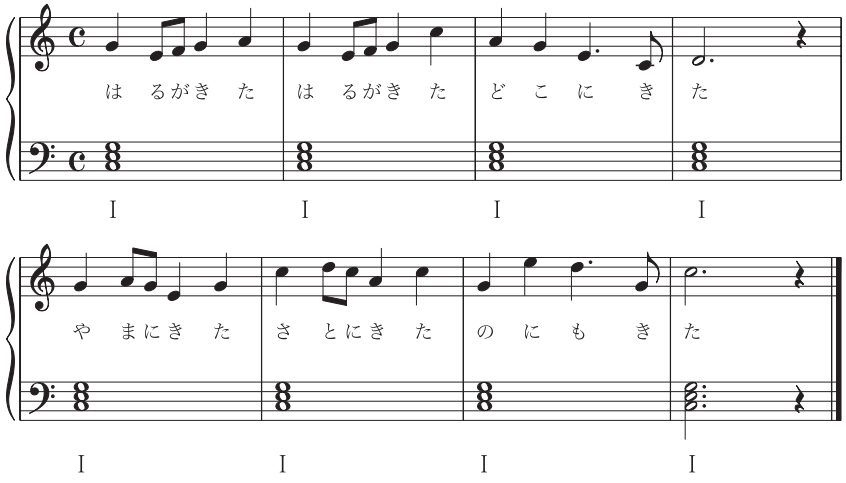


Ⅴの和音に関しては、Ⅴを使っても、あるいはⅤ7を使っても、どちらでもかまいません。

できれば、メロディーの音と重ならないほうがいい感じに仕上がるので、ハ長調の場合、仮にメロディーがファの音だったならⅤの和音を、メロディーがレの音だったならⅤ7の和音をと、使い分けられるようになればベストです。（Ⅴ7の和音はハ長調の場合、ソ・シ・レ・ファの四和音で構成されるため、三和音よりも少し響きが重たい感じになります。よって通常、上記の楽譜のように、レの音が省略されています。）

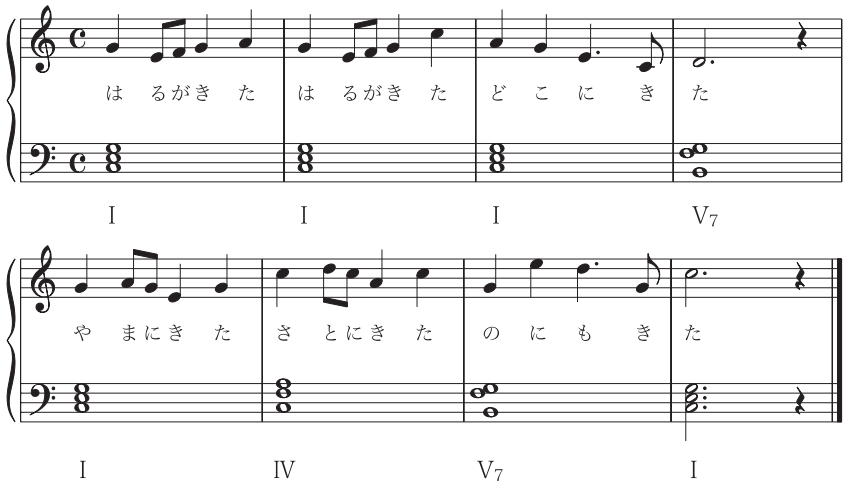
では、カデンツの和音を使って伴奏をつけてみましょう。何となく自然にⅠ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ7の和音が思い浮かぶ人はその才能に感謝！ですが、全くわからない人は、とりあえず、1小節に1つずつ和音を入れていきましょう。何の和音を入れるかですが、すべての調において何といっても一番重要な和音はⅠの和音なので、まず手はじめに全部の小節にⅠの和音を入れてみましょう。

譜例1



では実際に、ピアノで音を出してみましょう。
どうですか？ 4 小節目あたりちょっと変な感じがしませんか？
それでは試しに、Ⅰの和音の次に大事な和音であるV7（Ⅴ）の和音を、Ⅰの和音のかわりに 4 小節目に入れてみましょう。≪あるいは、 4 小節目のメロディーの音はレの音なので、レの音を構成音に持つ和音（V7、Ⅴ）を入れてみる、という考え方もOK。≫また、曲の終わりには、V7（Ⅴ）→Ⅰという和音の進行を使うと曲の終止感が高まるので、終わりから 2 小節目にV7の和音を入れてみてください。そしてさらに、まだ使っていないⅣの和音もどこかで使えれば音のパレットが広がるので、とりあえず 6 小節目に入れてみましょう。

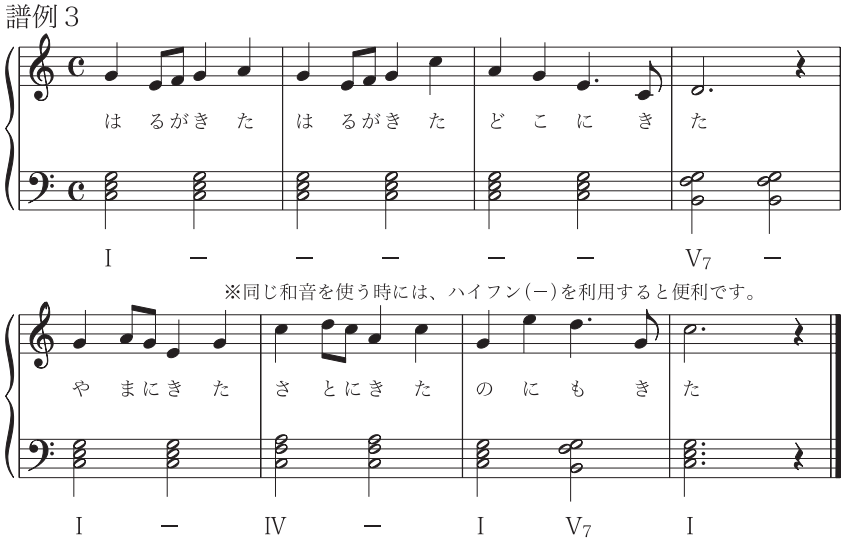
譜例 2



ピアノで弾いてみた感じはいかがですか？譜例 1 より譜例 2 の方が、より自然な感じに聞こえてきませんか？
6 小節目でⅣの和音を使ったのは、何となくではありません。 6 小節目のメロディーには、ド、レ、ラの音が使われていますが、 2 拍目のレの音は 8 分音符ということで音の長さも短く、あまり重要な音ではありません。よって、ドとラの音がこの小節を支配していることになります。
通例、**メロディーに使われている大事な音が和音の構成音の中に含まれていると自然な感じに仕上がる**ので、ここでは、Ⅳの和音が最適ということになるのです。

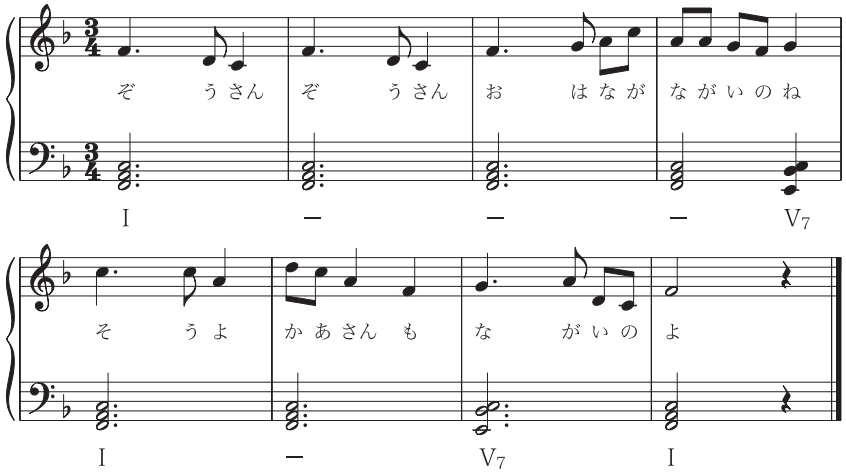
次に譜例 3 を弾いてみてください。

譜例 3



いかがですか？ 4 分の 4 拍子の場合、当然のことですが、 4 分の 2 拍子や 4 分の 3 拍子にくらべて 1 小節が長いため、和音のつけ方も 1 小節に 1 つよりは、 1 小節に 2 つぐらいでつけていくほうが、つけやすいと思います。
和音付けに慣れるために、 4 分の 3 拍子の曲もやってみましょう。

《ぞうさん》



象の持つ大きい重たいイメージを出すために、少し低い音を使って伴奏をつけてみました。
いかがでしょうか、少しは慣れてきましたか？

和音付けは、決して難しいものではありません。なぜなら、美術と同様、音楽には、「こんなことは絶対にしてはいけません」というような規則がないからです。よってすべてが、その人その人の感性によって導かれます。だからこわがらずに、色々チャレンジしてみてください。

とはいっても、全く自由に和音をつけるのも、なかなか難しいものです。これまでに説明したように、まずはⅠの和音を全部につけてみて、何かしっくりこない所に、ⅣあるいはⅤの和音をつけてみましょう。**大切なのは和音付けをすることによって、その曲の大まかな和音の使い方がわかる**ことと、複雑な伴奏がつけられている場合には、**それを非常にやさしい伴奏にかえることができる**ということです。ですから和音付けをする際は、なるべく 1 小節に 1 つか 2 つの和音でまとめられるように気をつけてください。複雑にしてしまっては、その意味がなくなってしまうのですから。

さらに、和音付けができるようになると、移調がとても簡単にできることに気がつくことでしょう。今までとても難しくてできないと思っていたことが、思いのほかスムーズにできるようになりますので、まずは和音付け、頑張ってやってみてください。

レポートの評価基準

・テキストや『学習の手引き』から学んだ内容をふまえて、いかに的確に楽譜として記譜できているかについて評価する。
・各々の課題において、次の 3 点を評価の基準とする。
①移調の課題
・課題曲の「いぬのおまわりさん」が、指定されたハ長調に正確に移調できている。特に変化音の対応もきちんとできている。
・移調楽譜として使用できるように、 1 番の歌詞もきちんと書けている。
・移調楽譜として使用できるように、拍子記号、スタッカート、アクセント、強弱記号、スラー等の音楽用語も、正確に書けている。
②和音による伴奏付けの課題
・**ピアノの右手部分（ト音記号）と、ピアノの左手部分（ヘ音記号）の 2 段による楽譜（大譜表）として記譜できている。**
・歌詞がきちんと書けている。
・**和音記号か、またはコードネームを正確に書けている。**

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

レポート課題と同じく、移調の問題と和音の伴奏付けの問題を出題する。時間配分を考慮しながら、音部記号・音符・休符等のリズムを正確に記譜すること。**特に、和音の伴奏付けの課題では、ピアノの右手部分（ト音記号）と、ピアノの左手部分（ヘ音記号）の 2 段による楽譜（大譜表）として記譜すること。さらに、小節内の音符の拍数にも注意を払い、和音記号かコードネームも忘れずに必ず記入すること。**

科目修了試験の評価基準

・基本的にはレポートの評価基準とまったく同じである。
・科目修了試験は、移調の問題 1 題（50点）と、和音の伴奏付けの問題 1 題（50点）の配点で、合計100点満点で採点評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20118	科目名[単位数／学習時間]	美術［1単位／45時間］	科目担当	須増　啓之
テキスト	●松岡宏明　『子供の世界　子供の造形』　三元社				
ISBN	9784883034208	本体価格(円)(2022年1月現在)	1,700	生協テキストNo.	22107

科目の目的

造形や図画工作においては、保育者や教育者にとって描いたり、つくったりする力も必要だが、子供の表現を見る力も大切となってくる。現在、絵を上手に描かせることを目的としたり、大人の価値観を子供に単に押し付けたりしている保育や授業も少ないとは言えない。そのため、保育者や教育者を目指す人にとって、大人と子供は異なるという意識を持つことや子供の造形への理解が重要となる。テキストを読むことで、大人と子供の違いや子供の造形の発達、見る力についての理解を深めることが本科目の目的である。

到達目標

・大人と子供の違いについて理解をしている。
・幼児、児童の造形の発達やその特質について説明できる。
・保育者や教育者にとっての見る力の重要性を理解している。
・造形活動に関心を持ち、造形指導への意欲を培う。

学習テーマ

1	キーワードから読み解く大人と子供の違いについて①【学習のポイント：「世界」「感覚」の側面から大人と子供の違いを理解する。＜テキストpp.12-29＞】
2	キーワードから読み解く大人と子供の違いについて②【学習のポイント：「概念」「体験」「目的」の側面から大人と子供の違いや未分化性を理解する。＜テキストpp.30-47＞】
3	キーワードから読み解く「子供」と「美術」の共通性について【学習のポイント：子供と美術の重なりや未分化性、造形／美術の役割について確認する。＜テキストpp.48-67＞】
4	子供の造形への「発達」の側面からのアプローチについて【学習のポイント：子供の造形を読み解きながら、「なぐり描き期」「命名期」「前図式期」「図式期」「前写実期」「写実期」などの絵の発達や立体造形の発達について理解する。＜テキストpp.69-90＞】
5	子供の造形への「特徴」の側面からのアプローチについて①【学習のポイント：「頭足人」「アニミズム」「基底線」「集中構図」といった子供の絵の特徴・特質について、絵とともに理解する。＜テキストpp.91-101＞】
6	子供の造形への「特徴」の側面からのアプローチについて②【学習のポイント：「レントゲン描法」「展開図描法」「積み上げ遠近法」「多視点構図」「正面構図」といった子供の絵の特徴・特質について、絵とともに理解する。＜テキストpp.102-111＞】
7	子供の造形への「美しさ」と「心理」の側面からのアプローチについて【学習のポイント：「形式美」や「内容美」についての確認や、子供の作品から状況や心理が伝わることについて知る。＜テキストpp.112-133＞】
8	見る力について【学習のポイント：保育者、教育者として子供の造形や芸術作品を見る力を身につける重要性について理解する。＜テキストpp.134-153＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

「大人vs子供」（テキストpp.13-47）にある5つの対比の中から2つの対比を選び、その内容について具体事例を挙げながらまとめなさい。その際、テキストを読んであなたの理解がどのように変化したのかを必ず記述すること。

第1課題の留意点

本課題ではテキストの第1章（pp.13-47）の内容を理解し、その内容について自分なりの言葉でまとめることを重視している。以下の点に留意して、レポートを作成すること。

・テキスト全体をよく読んで理解を深め、特に第1章のポイントを押さえて自分なりの言葉でまとめることが大切である。テキストの内容をそのまま短くしたり、羅列したりしただけのものは解答として認めない。
・選んだ対比について、すべての内容をまとめる必要はない。それぞれの対比の中で興味のある部分やキーワードなどを中心にまとめてもよい。
・必ず具体事例を挙げてまとめること。ただし、具体事例はテキストに載っている以外のものを使用すること。たとえば個人の体験や他の著書を調べたもの、自身で創作したものなど。
・必ずテキストを読む前と学習した後での理解の変化を自分の言葉で書くこと。

レポートの評価基準

以下の3点で総合的に評価する。
・内容について【テキストの内容の理解度、課題への解答の的確さ、独自の視点】
・形式について【レポートの構成、引用の仕方、参考文献の書き方、字数（2,000字程度）】
・表現について【文章の読みやすさ、段落のとり方、誤字・脱字、作成の際の丁寧さ】

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「学習テーマ」に沿って、テキストの内容を全体的に理解しておくことが大切である。特に「大人と子供の違い」や「子供と美術」の重なり、子供の造形への「発達」と「特徴」からのアプローチ、保育者や教育者にとって必要な「見る力」などについて理解を深めておくこと。また、解答は必ずテキストの内容を踏まえること。テキストの内容を踏まえていない解答は評価しない。

科目修了試験の評価基準

・説明問題 2 題50点（25点× 2 ＝50点）、記述問題 1 題50点の配点で採点する。
・説明問題はテキストの内容を正確に理解し、説明ができているかどうかで評価する。
・記述問題はテキストの内容を踏まえたうえで、記述されているかどうかで評価する。
・各設題について指定文字数を大幅に逸する場合や誤字脱字が多い場合は減点とする。

参考文献

・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉（平成29年告示）』　チャイルド本社
・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編＜平成29年 7 月＞』　日本文教出版
・大橋功　『美術教育概論（新訂版）』　日本文教出版
・東山明　東山直美　『子どもの絵は何を語るか　発達科学の視点から』　NHK出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20120	科目名[単位数/学習時間]	外国語活動教育論［2単位／90時間］	科目担当	多田　玲子
テキスト	●樋口忠彦　加賀田哲也　泉惠美子　衣笠知子　『新編　小学校英語教育法入門』　研究社				
ISBN	9784327410988	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,100	生協テキストNo.	22108

科目の目的

2020年から中学年では外国語活動、高学年においては教科外国語科が導入され、学級担任は小学校外国語教育における重要な役割を担っている。小学校外国語教育の理念や目的、小学生を指導するために必要な指導内容や具体的な指導方法、教材の使い方、評価などについて、小学校教員として必要な基本的知識や基本的技術を学び理解を深める。

到達目標

・小学校における外国語活動および教科外国語の導入の経緯や理念、その意義と目的を理解する。外国語活動・外国語でめざす 3 つの柱は、以降の指導案作成時の指導目標や評価にも深く関わっているので、しっかり理解すること。
・母語習得や第二言語習得の知見から、言語習得の特徴や、コミュニケーション育成のためのさまざまな指導法を理解する。
・カリキュラムや指導案作成、担任ならではの授業作りの視点を理解する。
・小学生に適した教材のあり方やその使い方について理解する。
・授業過程と授業づくりについて理解を深める。

学習テーマ

1	外国語教育の目的と目標【学習のポイント：2020年完全実施の学習指導要領における小学校外国語教育の教科化の経緯や目標、小・中・高の連携を理解する。】
2	関連分野から見る外国語教育の意義と方向性【学習のポイント：母語習得の 3 つのアプローチとはどのようなものか、また第二言語習得理論の 3 つの仮説とはどのようなものかを理解する。】
3	指導者の役割、資質、研修【学習ポイント：外国語教育における学級担任の役割および求められる資質と能力を理解する。】
4	教材の構成と内容【学習ポイント：教材の骨格を形成する代表的なシラバスの種類および学習指導要領に基づいたテキストの構成と内容を理解する。】
5	指導目標、領域別目標、年間指導計画の立て方と具体例【学習ポイント：指導目標や年間指導計画の立て方を理解する。】
6	言語材料と 4 技能の指導【学習ポイント：聞くこと、話すこと、および教科外国語に含まれる読むこと、書くことの指導について理解する。】
7	教材研究①　児童が英語に楽しく触れ、慣れ親しむ活動【学習ポイント:うた、チャンツ、ライム、クイズ、ゲーム、絵本などの教材活用の意義とその活用法について理解する。】
8	教材研究②　児童が創意工夫し、生き生きと英語を使う活動【学習ポイント：児童が生き生きと英語を使う活動はどのようなものであるか理解し、自分なりのオリジナル活動が考えられるようにする。】
9	指導方法【学習ポイント：外国語の授業で活用できる指導方法を理解する。】
10	外国語の授業で活用したい指導技術【学習ポイント：アクティブラーニングを含め担任が様々な指導形態の中で授業実践のために大切なことを理解する。】　教室英語　資料①
11	いろいろな教材、教具の活用法【学習ポイント:教材･教具の選定の視点およびその活用法や留意点を理解する。】
12	評価のありかた、進め方【学習ポイント：評価の観点と望ましい評価のあり方、および様々な評価方法を知り理解する。】
13	授業過程と学習指導案の作り方【学習ポイント：各授業過程の役割と活動を知り、学習指導案の具体例からその構成と書き方を理解する。】　教室英語　資料①
14	授業づくり－事前準備から振り返りまで【学習ポイント：授業前、授業中、授業後に行うべきことを理解する。】　教室英語　資料①
15	豊かな小学校外国語教育をめざして－外国語活動の成果と課題を踏まえて【学習ポイント：成果と今後の課題を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第 1 課題

小学校の外国語活動では、聞くこと、話すことを中心に語彙や表現に慣れ親しんだ後、高学年の外国語科では、読むこと、書くことを含めた 4 技能を指導することとなっている。

1．4 技能はどのように指導すればよいのか、指導のポイントと留意点、使用教材や具体的な活動についてまとめなさい。
2．次に、4 年生対象の“Do you like apples?”友だちの好き嫌いをたずねよう！の単元の 1 時間目の導入の指導手順を考えなさい。既習表現は、How many?　語彙は、動物、果物など。
コミュニケーション活動として Do you like ～? の表現を使う場面や必然性を備えた活動であること。

第 2 課題

授業づくりにおいて、「導入」は大変重要な役割をもつ。新しい表現や語彙に出会わせる方法としてSmall Talkがある。絵や写真などの視覚教材を用いて、内容的にまとまりのある話や会話（small talk）をきかせ、その意味や使いかたに気付かせ理解させる、Small Talkを作成しなさい。テキストp.176,182,189の例を参考に、T（教師）,Ss（児童全員）,S 1（児童）のシナリオ形式のやり取りで、かつ10文以上20文以下の英文であること。

・学年　5 年
・単元　“I have PE on Monday”　第 1 時
・導入する表現：I have 〜 on 〜 . I study 〜 on 〜 .
・導入する語彙：科目名
・ 4 年生で学習したI like/want/have 〜 · I can 〜 . その疑問文、曜日、What’s this?　It’s　〜 .などは使用してよい。
【注意】作成するSmall Talkでは、科目の言い方は未習でこれから学習する段階での導入会話である。児童が指導者の話している内容を推測しながら理解できるような支援や工夫を（　　）で記載すること。（例：〇〇を見せながら）

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト 6 章をよく読み、 4 技能の指導について、まずは理解すること。後者は特にインプット、アウトプットがどのように重要であるかも理解すること。次に、 7 章において、小学校で実際に使用されている活動の具体例を読み、中学年に適した活動を選びなさい。

記述の際に必ず気を付けてほしいのは、「引用」と「参考」の書き方である。テキストからそのまま文章を使う場合は、「引用」として引用文献および引用箇所のページの明示が必要、内容を自分なりにまとめて言い換えて書く場合は参考文献として明示が必要である。考察は、分析して自分の考えをまとめることである。

第 2 課題の留意点

テキスト12章 1 〜 2 節をよく読み、授業課程と学習指導案の作り方を理解すること。次に、13章の授業づくりを読み内容を理解したうえで、「導入」におけるSmall Talkの役割を把握すること。

テキストにあるSmall Talkの例を参考にして、指導者が聞かせる英文を作成する。一方的に指導者が話すというよりも、簡単な既習事項の英語を使って児童に質問を加えたり、話している内容の理解を支援するような視覚教材をどう使えば効果的かを考えて作成しなさい。その際、英文の正確性にも改めて留意してもらいたい。

レポートの評価基準

・テキストを精読の上、参考文献などの情報を加味して課題について論述している。
・自分が理解した内容について、論旨を理論的に展開している。
・参考文献の引用の記述方法について、ルールを守り、引用の分量にも注意すること。
・学習指導案作成は、児童の発達段階や興味関心を理解した上で、自分自身のオリジナルな工夫を含めて記述している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読んで以下について理解を深めておくこと。

・関連分野からみる外国語教育の意義と方向性、特に 2 節、 3 節＜テキスト 2 章pp.19-24＞
・指導者の役割と求められる資質と能力＜テキスト 3 章pp.28-35＞
・ 4 技能の指導、特に「聞くこと」「話すこと」「読むこと・書くこと」の指導の意義や指導上の留意点、教材、活動について＜テキスト 6 章pp.75-83＞
・教材研究①歌・チャンツ、クイズ、ゲームの指導法＜テキスト 7 章pp.85-97＞
・授業過程とその役割＜テキスト12章pp.165-170＞
・教室英語＜テキスト資料① pp.211-215＞

科目修了試験の評価基準

・児童に対する外国語教育の指導に対する基本的な理解ができているかどうかを中心に評価する。
・設題内容を正しく理解し、論旨を理論的に展開している。
・活動例などの具体的事例は、児童の発達段階などの理論的な理解をふまえて記述している。
・作成した英文の語彙や表現、文法の適切性、正確性。

参考文献

・樋口忠彦　大城賢　『小学校英語教育の展開　よりよい英語活動への提言』　研究社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20121	科目名[単位数／学習時間]	保育者論［2単位／90時間］	科目担当	横田　郁子
テキスト	●公益財団法人児童育成協会　『新・基本保育シリーズ7　保育者論』　中央法規出版				
ISBN	9784805857878	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,000	生協テキストNo.	22109

科目の目的

保育士の社会的役割は非常に大きい。本科目では、質の高い保育と子どもの育ちや保護者の子育てを支える保育者の専門性について学ぶ。そのためにも保育の質の向上を目指し、保育者の役割と専門性、保育職をめぐる組織、制度、環境について理解し、保育士に求められる基本的な資質や人間性を追及する。

到達目標

・保育者の役割と倫理について理解する。
・保育士の制度的な位置づけを理解する。
・保育士の専門性について考察し、理解する。
・保育者の連携・協働について理解する。
・保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。

学習テーマ

1	保育者の役割について【学習のポイント：子どもの心身の発達を促す保育と保育者の役割について学ぶ。】
2	保育者の倫理について【学習のポイント：保育者に必要な倫理を理解し保育に活かす。】
3	保育士の資格と責務について【学習のポイント：保育士の法的、制度的な位置づけを理解する。】
4	保育士の資質と能力について【学習のポイント：保育者自身の資質や能力への気づきとそれらを身につける。】
5	養護と教育の一体的展開について【学習のポイント：養護と教育が一体となった保育実践を学習する。】
6	家庭との連携と保護者支援について【学習のポイント：子育て支援の必要性を学ぶ。】
7	保育の実践と省察について【学習のポイント：省察的実践者の概念と保育士の専門性としての省察を学習する。】
8	保育の質の向上について【学習のポイント：保育の質の向上に関わる自己評価のあり方を学ぶ。】
9	保育における職員間の連携・協働について【学習のポイント：職員間の連携とドキュメンテーションの大切さを考える。】
10	専門機関との連携について【学習のポイント：連携の実際と保育や保護者支援への重要性を学ぶ。】
11	地域社会との協働について【学習のポイント：地域に開かれた子育て支援について学ぶ。】
12	関係機関との連携について【学習のポイント：家庭的保育の概要と実際、連携について学ぶ。】
13	資質向上に関する組織的取組について【学習のポイント：キャリアパスと同僚性の構築について学習する。】
14	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義について【学習のポイント：保育者の資質向上につながる研修体系について学ぶ。】
15	組織とリーダーシップについて【学習のポイント：リーダーシップの必要性について学ぶ。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

保育者の役割と倫理について述べなさい。

第2課題

保育者の資質と能力について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキストをよく読み、職業倫理に基づき保育者に求められる役割を理解する。

第2課題の留意点

テキストをよく読み、保育所保育指針等の視点を元に、保育者はどのようにして資質・能力を身につけていくのかを述べる。

レポートの評価基準

テキストでの学びを理解したうえで、具体的な事例も盛り込み、自分の考え方や意見がしっかりと述べられているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストをよく読んで理解を深めておくこと。
・設題の趣旨を正確に把握し、論旨を展開することを心がけること。
・テキスト学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れ作成すること。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「学習の手引き」の「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述し、解答用紙表面 2 / 3 以上に記述があることを前提として評価する。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の XVII ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20122	科目名[単位数/学習時間]	保育原理［2単位／90時間］	科目担当	戸江　茂博
テキスト	●戸江茂博　『新版保育原理　保育の本質を探し求めて』　あいり出版				
ISBN	9784865550641	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,000	生協テキストNo.	22110
テキスト	●厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館				
ISBN	9784577814239	本体価格(円)(2022年1月現在)	149	生協テキストNo.	22060

科目の目的

保育とは、乳幼児のいのちを守り、そのいのちを輝かせる営みである。具体的には、乳幼児期の子どもの生活支援を中心とした、養護と教育を一体化させた総合的な育ち支援の営みである。本科目では、保育所保育のあり方を全体的に学ぶこと、すなわち、保育の基本原理、保育の内容、保育の方法、保育の歴史などについて学び理解することを目的とする。

到達目標

・保育の意義や目的について理解する。
・保育の思想、歴史、制度について学ぶとともに、保育の現状と課題について理解する。
・『保育所保育指針』をよく理解し、とくに保育所の役割、保育の原理、保育所の社会的責任などについて学ぶ。
・子どもの発達過程を理解するとともに、保育の内容、保育の方法などについて学ぶ。

学習テーマ

1	全体の流れを理解する。
2	保育の意義について【学習のポイント：子ども、保育所、保護者にとっての保育の意義を理解する。】
3	保育の目的や目標について【学習のポイント：保育が目指すことについて理解を深める。】
4	保育の場について【学習のポイント：保育が行われる家庭、保育所等について理解する。】
5	保育所保育の基本的な在り方①【学習のポイント：保育所保育指針、保育所保育の基本原則について理解する。】
6	保育所保育の基本的な在り方②【学習のポイント：養護と教育が一体となった保育、発達過程に応じた保育、遊びを通して行う保育、環境を通して行う保育などについて基本的な理解をする。】
7	子ども中心の保育思想の展開について①【学習のポイント：コメニウス、ルソー、ペスタロッチの保育思想について学ぶ。】
8	子ども中心の保育思想の展開について②【学習のポイント：フレーベル、デューイ、エレン·ケイ、モンテッソーリの保育思想について学ぶ。】
9	わが国における保育の歴史①【学習のポイント：明治、大正、昭和戦前時代の保育の歴史について学ぶ。】
10	わが国における保育の歴史②【学習のポイント：昭和戦後、平成時代の保育の歴史について学ぶ。】
11	保育の制度について【学習のポイント：児童福祉としての保育の制度、学校教育としての保育の制度について学ぶ。】
12	保育の内容と方法①【学習のポイント：保育内容とは何かについて学ぶ。】
13	保育の内容と方法②【学習のポイント：保育の方法とは何かについて学ぶ。】
14	保育の現状と課題【学習のポイント：保育の現状とこれからの保育のあり方について学ぶ。】
15	まとめ【学習のポイント：総括を行い、保育所保育の基本について理解を深める。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

欧米近代、現代の保育思想の発展について、発展を導いた保育思想家を取り上げ、その保育思想を略述しなさい。（コメニウス、ルソー、フレーベル、エレン・ケイ、デューイ、モンテッソーリ）

第2課題

保育所保育の基本的なあり方として、養護と教育が一体となった保育、発達過程に応じた保育、遊びを通して行う保育、環境を通して行う保育などが考えられるが、このうち、遊びを通して行う保育及び環境を通して行う保育について詳述しなさい。

各課題の留意点

＜レポート作成にあたっての文章構成上の留意点＞

・序論、本論、結論という様式は不要。「はじめに」、「終わりに」も不要。第1課題を例にとると、レポート用紙には、1．コメニウスの保育思想、2．ルソーの保育思想、などとして論述すること。
・主語・述語を明確にし、論理的に筋道の通った文章にすること。また、適切に段落を取って、文章を読みやすくすること。文章の書き出しや段落の書き出しは、1文字送って書き始めること。
・著者からの引用を行う場合、「‥‥‥‥」（1）などとし、脚注又はレポートの末尾に引用文献とページ数を明示する。

第 1 課題の留意点

欧米の近代の保育思想及び現代の保育思想について、保育思想を導いた人物に焦点を当て、その保育思想を説明すること。テキスト『新版保育原理』の 3 章 1．と 2．を参照し、十分に理解して論述すること。

第 2 課題の留意点

保育所保育の基本的なあり方として、課題に挙げた 4 点についてよく学んでほしいが、課題は特にその中で、「遊びを通して行う保育」と「環境を通して行う保育」である。テキスト『新版保育原理』の 2 章の 3．と 4．が参考になる。今一つ不可欠な参考資料は、テキスト『保育所保育指針』である。とくに、第 1 章総則を読めば、遊びと環境が保育所保育においてどれほど重要であるかが見えてくる。

レポートの評価基準

・ 2 冊のテキストから学び取ったことを自分なりの表現でまとめることができていること。
・文字数は、2,000字程度とするが、論述に必要な場合は2,000字を超えてもかまわない。
・主語・述語の関係に留意した文章となっていること、適切な段落を取ること、自筆の場合は丁寧な文字で記入していること、が大切である。とくに、しばしば段落を取ることができていないレポートが散見されるので注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト『新版保育原理』全文及び『保育所保育指針』全文を繰り返し読んでおくこと。
・保育とは何かということが全体として理解できていること。【テキスト『新版保育原理』第 1 章、第 6 章】
・保育所保育の基本的なあり方について理解できていること。（レポートの第 2 課題に関わる）【テキスト『新版保育原理』第 1 章、第 2 章、及び『保育所保育指針』第 1 章】
・欧米における子ども中心の保育思想の発展の歴史について、人物及びその保育思想を理解しておくこと。（レポートの第 1 課題に関係する）【テキスト『新版保育原理』第 3 章】
・わが国の保育の歴史を総覧しておくこと。エポックメイキングな出来事（例えば、最初の幼稚園の設立、最初の保育所の設立、倉橋惣三の登場、戦後の保育の出発点、「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」の改訂の変遷など）については、要点が記述できるようにしておくこと。【テキスト『新版保育原理』第 4 章】
・『保育所保育指針』（2017年）において新たに提起された、幼児教育の目標や内容（「幼児期において育みたい資質・能力」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」など）を具体的によく理解しておくこと。【テキスト『新版保育原理』第 1 章、第 5 章など】
・保育所で重視されている保育の内容・方法、さらには保育形態について、具体的、実践的に理解しておくこと。【テキスト『新版保育原理』第 5 章及び『保育所保育指針』第 1 章、第 2 章、第 3 章】
・保育の制度について、少子化への対応、認定こども園の動向などを理解しておくこと。【テキスト『新版保育原理』第 6 章、第 7 章】
・保育士の業務となっている子育て支援の意義と役割について、実際的に理解しておくこと。【テキスト『新版保育原理』第 1 章、第 7 章、及び『保育所保育指針』第 4 章】

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を十分に理解し、キーワードや関連する事項を把握し、丁寧に説明できていること。
・テキスト『新版保育原理』で学んだことを中心に記述すること。単に自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・テキスト『保育所保育指針』がよく理解されていること。
・筋道を立てて論理的に展開できていること。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上に記述があること。

参考文献

・待井和江　『保育原理』　ミネルヴァ書房
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20130	科目名[単位数/学習時間]	子どもの保健Ⅰ［4単位／180時間］	科目担当	松井　学洋
テキスト	●服部右子　大森正英　『図解　子どもの保健Ⅰ　第2版』　みらい				
ISBN	9784860154066	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	22111
実務経験のある教員による科目	特別支援学校養護教諭・看護師、医療福祉センター看護師				

科目の目的

子どもの心身の健全な成長には、その健康の保持及び増進が必要である。本科目では、小児の発育・発達、形態機能、運動機能、精神機能、社会認知機能の発達を学習し、子どもの生活行動と関連させながら健康の保持・増進に必要な知識を学ぶ。また、子どもによく見られる疾患・事故の予防に必要な知識を学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

本科目の到達目標は次の通りである。
①子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。②子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。③子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。④子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。⑤保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。⑥施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制を理解する。

学習テーマ

1	子どもの保健の意義と目的について
2	子どもの発育・発達と保健について①（発育）
3	子どもの発育・発達と保健について②（生理機能）
4	子どもの発育・発達と保健について③（運動機能、精神機能）
5	子どもを取り巻く生活環境と心身の保健について
6	子どもの生活習慣と健康について①（食事、排泄）
7	子どもの生活習慣と健康について②（睡眠、清潔、更衣）
8	子どもの精神（こころ）の保健について
9	子どもの栄養について
10	子どもによくみられる症状とその対処法について
11	事故と安全指導及び応急処置について
12	子どもの病気・異常とその予防について①（先天性疾患、新生児の病気）
13	子どもの病気・異常とその予防について②（子どもの病気）
14	子どもの病気・異常とその予防について③（病気の予防）
15	母子保健行政について

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子どもの身体発育、生理機能、運動機能、精神機能の発達についてまとめなさい。

第2課題

感染症が成立する要素を述べると共に、感染源対策、感染経路対策、予防接種の3つの観点から保育現場での感染症予防策についてまとめなさい。

第3課題

子どもの事故の特徴をふまえた安全教育・安全管理及び応急処置についてまとめなさい。

第4課題

子どもの生活習慣の特徴と健康的な生活習慣形成にかかわる支援についてまとめなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

子どもの発育と発達の意味を理解した上で、身体発育及び、生理機能、運動機能、精神機能の発達を説明し、支援の視点も含めて考察する。

第2課題の留意点

感染症が発生する理由を説明した上で、感染源対策、感染経路対策、予防接種の3つの観点から保育現場での感染症予防策について考察する。

第 3 課題の留意点

子どもの事故が起こる背景とその特徴を説明し、保育現場での事故防止を目的とした安全教育と安全対策、事故発生時の応急処置について考察する。

第 4 課題の留意点

子どもの食事、排泄、睡眠、清潔、更衣などの基本的な生活習慣の特徴を説明し、健康的な生活習慣形成への支援のあり方を考察する。

レポートの評価基準

テキストから学んだ内容を踏まえて、課題に対する自分自身の考察が論述できているかを確認する。また、誤字脱字の有無、漢字の使用、他人が読むことを意識して丁寧に作成できているかも評価基準とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全ページが試験範囲であり、テキスト内容に準じた試験を行う。そのため、テキストをよく読み、内容理解に努めること。子どもの保健の範囲は広いため、子どもの発育・発達、感染症とその対策、様々な疾患、事故の予防と安全管理、子育て支援体制等、幅広く知識を身につけること。

科目修了試験の評価基準

テキストの内容を踏まえずに、自らの経験や自説を記述しても評価しない。設題内容を正確に理解し、テキスト学習によって得た知識を説明した上で、自身の考察を取り入れた答案が作成できているかを評価する。また、解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提に評価を行う。

参考文献

・遠藤郁夫　三宅捷太　『子どもの保健』　学建書院
・八木利津子　平松恵子　新沼正子　『子どもの保健』　青踏社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の Ⅶ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20132	科目名[単位数／学習時間]	子どもの食と栄養［1単位／45時間］	科目担当	廣田　有加里
テキスト	●太田百合子　堤ちはる　『子どもの食と栄養　保育現場で活かせる食の基本　第2版』　羊土社				
ISBN	9784758109116	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,400	生協テキストNo.	22112
実務経験のある教員による科目	管理栄養士（企業、福祉、医療分野での健康管理業務）				

科目の目的

乳幼児期の食と栄養は、豊かな人間性を育て、生きる力を育み、発達を支え、健康な身体をつくる基礎であることを理解する。栄養に関する基礎知識をもとに、乳児期、幼児期、学童期の各々の子どもの発育・発達、疾患等での対応食に関して理解し、健全な発育・発達を促すため必要な事柄を栄養・食生活面から学ぶ。また、食育の進め方や食育を推進するための取り組みについての知識を習得し、さらに家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食生活全般への働きかけや栄養教育等を学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・親の生活習慣に影響を受ける子どもの食生活の現状を把握し、認識することで課題を探りだすことができる。
・子どもの食と栄養の特性を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた適切な食生活について説明できる。
・乳児期では、離乳の意義と実践の方法について、具体的に指導ができるようになる。
・幼児期の生活習慣はその後にも影響を及ぼすことから、食生活上の問題を理解し、対策を講じることができる。
・学童期の学校給食の役割と現状について理解し、食育ができるようになる。
・食育の基本とその必要性や取り組みについて、地域社会・文化との関わりの中で理解し実践できる。
・特別な配慮を要する子どもへの適切な対応方法を案出し、実行に移すことができる。

学習テーマ

1	子どもの健康と食生活の意義／乳幼児栄養調査結果から読みとる子どもの食生活の現状と課題
2	栄養に関する基本的知識（五大栄養素）／食事摂取基準と献立作成・調理の基本
3	妊娠期と授乳期の特徴と食生活／乳児期の心身の特徴と食生活の関係
4	乳児期の栄養（乳汁栄養・離乳食期栄養）の意義とその実践
5	幼児期の心身の発達と食生活／幼児期の食機能の特徴／幼児期の間食の意義
6	学童期の心身の発達と食生活／学童期の食生活上の問題と対応
7	食育の基本と内容／子どもの心と体を育む食育／保育所における給食の進め方と保護者への支援
8	特別な配慮を要する子どもへの対応

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

離乳の意義と適切な進め方について述べよ。

第1課題の留意点

離乳食は乳汁以外から、からだに必要なエネルギーや栄養成分を摂れるようになるための大切な準備過程である。離乳食を進める発育の目安を理解し、摂食機能および消化器官の発達に伴う食品および栄養管理の注意点を理解する。テキスト第5章とその他の参考文献などを熟読し理解した上で、自分なりの視点を持って考察したことを課題の最後にまとめる。

レポートの評価基準

・レポートの基本的な構成（序論、本論、結論）に沿って記述している。
・レポートの課題を理解した上で、論理的に、わかりやすく展開されている。
・専門用語の意味などについて、正確に理解し、科学的根拠に基づいて記述している。
・引用・出典が明示され、引用した部分については、「　」でくくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年・引用ページ（引用の場合）を挙げて明示している。
・インターネットで入手した資料を引用・参照する場合は、作成者名、情報源、データベース名、入手先URL、入手日付を明示している。ただし、官公庁および学会の公式サイトに限り認める。
・論文については、著者名、“論文のタイトル”、雑誌名、出版年、巻号、ページの範囲を明示している。
・読み手を意識して丁寧に作成する。また、誤字・脱字がなく、適切な語彙を用いている。

以上の項目について概ね述べられていればC以上（合格）の評価とする。

※「まる写し」、「引き写し」、「コピペ」は盗作であり、犯罪である。レポートを作成する上で、もっとも許されない重大なルール違反である点をよく理解しておくこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・子どもの心身の成長発達と食べる機能の発達の過程を把握した上で、適切な食事を提供することは、将来の食嗜好に影響を及ぼすため重要である。保育者は、食の悩みが多い保護者への食支援を行うことを強く望まれていることから、基本となる栄養学の理論を習得しておくことが必要であるため、自分なりの視点を持って学習をしておく。（テキスト第 1 ～ 2 章pp.10-35）
・平成27年に実施した「乳幼児栄養調査」の結果では、授乳期の栄養方法で「母乳栄養」の割合が増加していることから、母乳育児を継続するための必要な支援を理解する。近年では、母親が母乳育児を継続したい場合は、家庭から持参した冷凍母乳を提供する取組をしている保育施設があることから、取り扱う方法と留意点を習得する。（テキスト第 5 章pp.62-75）
・幼児期の生理的特徴と食行動の問題について、保育所での対応や保育士の立場からの支援について学習をしておく。（テキスト第 6 章pp.76-89、参考文献『授乳・離乳の支援ガイド　2019年改定版』、『平成27年度乳幼児栄養調査結果』）
・学童期・思春期の栄養管理は、成人期以降の健康状態に影響することから、栄養上の問題と健康への対応について、理解をしておく。（テキスト第 7 章pp.90-103、参考文献『令和元年「国民健康・栄養調査」の結果』）
・子どもの食環境や社会環境の現状や課題を認識したうえで、家庭や施設での子どもの発育・発達に応じた食育の必要性と環境づくりについて理解しておく。（テキスト第 5 章pp.62-74、第 9 ～10章pp.117-141、参考文献『第 4 次食育推進基本計画』）
・離乳食からの食物アレルギーの予防と、食物アレルギーのある子どもに対して、施設における考慮すべき対応について理解をしておく。（テキスト第 3 章p.43、第12章pp.161-170、参考文献『平成27年度乳幼児栄養調査結果』）
・答案作成に当たっては、設題の「理解度」と「表現力」を評価するため、趣旨に沿った適確な記述を心掛ける。
キーワード：食物アレルギー、間食、食育、冷凍母乳、母乳栄養、食行動、摂食機能

科目修了試験の評価基準

・設題内容の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確な説明と論理的に記述できているかを中心に評価する。
・解答用紙表面の 3 / 4 以上に記述があることを前提として評価する。
・その他設題に関連する記載があれば内容により考慮する。
・字は読みやすく、丁寧に書き、誤字・脱字がなく、適切な語彙を用いている。
以上の項目について概ね述べられていれば60点～100点（合格）の範囲で評価する。

参考文献

・森脇千夏　『イラスト子どもの食と栄養』　東京教学社
・飯塚美和子　『子どもの食と栄養　食生活の基礎を築くために』　学建書院
・上田玲子　『子どもの食生活』　ななみ書房
・堤ちはる　土井正子　『子育て・子育ちを支援する　子どもの食と栄養』　萌文書林
・厚生労働省　『日本人の食事摂取基準（2020年版）』　https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/000586553.pdf
・厚生労働省　『授乳・離乳の支援ガイド2019年　改定版』　https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.html
・厚生労働省　『平成27年度乳幼児栄養調査結果』　http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html
・厚生労働省　『令和元年「国民健康・栄養調査」の結果』　https://www.mhlw.go.jp/content/000711005.pdf
・農林水産省　『健全な食生活の実現』　https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/nozomasiisyokuseikatu.html
・農林水産省　『食事バランスガイドと従来の分類法との関連性』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/zissen_navi/balance/guide.html
・農林水産省　『食育の推進』　https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/index.html
・農林水産省　『第 4 次食育推進基本計画』　https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/hyoji/210331_35.html
・農林水産省　『子どもの食育』　https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/kodomo_navi/featured/afp1.html
※官公庁のWebサイトのみ可。参考文献および引用文献の記載のない健康雑誌や企業等のWebサイトは不可。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20134	科目名[単位数／学習時間]	生徒･進路指導論(初等)[2単位／90時間]	科目担当	長谷川　重和
テキスト	●文部科学省　『生徒指導提要』　教育図書				
ISBN	9784877302740	本体価格(円)(2022年1月現在)	337	生協テキストNo.	22113
実務経験のある教員による科目	公立小学校教員、教育委員会指導主事				

科目の目的

生徒指導の意義や課題を確認した上で、学校における指導体制や課題を抱えた児童生徒の指導の在り方を理解する。また、進路指導として児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質･能力を培うことを目指す。学校は、いじめや不登校などの生徒指導上の問題をかかえている。生徒指導は、それらの未然防止対策や課題解決にあたるなど学校教育を進めるうえで重要な役割を果たすこととなる。教育委員会指導主事、管理職の実務経験を活かして不登校児童生徒への支援や生徒指導上の問題解決など実践的教育を行う。

到達目標

・各教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動など教育課程との関連において、生徒指導の意義や原理とその重要性を理解する。
・全ての児童生徒を対象とした学級･学年･学校における生徒指導の進め方や組織的な指導体制の重要性を理解する。
・個別の課題を抱える児童生徒への指導の在り方や教育相談の意義について理解する。
・進路指導、キャリア教育の視点に立って必要な知識や素養を身につける。
・自己実現を図り、自己を生かす「生き方」としての生徒指導・進路指導の在り方について学ぶ。

学習テーマ

1	生徒指導の意義と原理【学習のポイント：生徒指導の意義と課題を理解する。】
2	進路指導と生徒指導の関係について【学習のポイント：進路指導を生徒指導との関連で理解する。】
3	児童生徒の心理と児童生徒理解について【学習のポイント：児童期の心理と発達を理解する。】
4	生徒理解のさまざまな方法について【学習のポイント：生徒理解をふまえた方法を理解する。】
5	教育課程と生徒指導について①【学習のポイント：教科･道徳教育･総合的な学習における生徒指導を理解する。】
6	教育課程と生徒指導について②【学習のポイント：特別活動における生徒指導を理解する。】
7	進路相談と生徒指導の進め方①【学習のポイント：学校における教育相談の意義を理解する。】
8	進路相談と生徒指導の進め方②【学習のポイント：生徒指導における教育相談の進め方を理解する。】
9	個別の課題を抱える児童生徒への指導①【学習のポイント：不登校の問題性を理解する。】
10	個別の課題を抱える児童生徒への指導②【学習のポイント：いじめの問題性を理解する。】
11	個別の課題を抱える児童生徒への指導③【学習のポイント：少年非行・児童虐待を理解する。】
12	進路適性と進路選択について【学習のポイント：進路適性とは何か、職業観の形成を理解する。】
13	生徒指導における組織対応について【学習のポイント：学級担任・ホームルーム担任の指導を理解する。】
14	生徒指導における地域・家庭との連携について【学習のポイント：地域社会における児童生徒を理解する。】
15	キャリア形成活動と進路指導について【学習のポイント：キャリア教育の現状と課題を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

「生徒指導とは何か」その意義と課題、生徒指導の位置付けについて集団指導や個別指導の方法原理を踏まえながら述べなさい。次に、児童生徒の自己実現を図っていくための自己指導能力をどのように育成するか、問題行動を例に示しながら教員のかかわり方について述べなさい。

第2課題

生徒指導では、問題行動を未然防止したり早期発見したりして問題解決するために、組織で協力し、チームで対応しなければならない。チームによる支援は、どのような考え方や支援体制、支援プロセスで進めるのかを次の①～③の視点で述べなさい。①学級担任の指導場面　②学校と家庭との連携　③地域・関係機関との連携。

各課題の留意点

第1課題の留意点

「生徒指導とは何か」については、テキスト第1章「生徒指導の意義と原理」を参考にして、生徒指導の意義と課題、教育課程における位置付けなど、集団指導・個別指導の方法原理を踏まえて理解する。そして、自己指導能力を育てるには、生徒指導の前提となる発達観や指導観、児童期の心理と発達、場や機会の設定について理解することである。問題行動の例は、テキスト第6章「生徒指導の進め方」を参考にする。取り上げた問題行動について、“自己指導能力の育成”という視点から教員のかかわり方ついて述べること。

第 2 課題の留意点

生徒指導は、全教職員が協力し“チーム学校”として各人の責任を果たすことが大切である。テキスト第 4 章「学校における生徒指導体制」、第 6 章「生徒指導の進め方」を熟読し、生徒指導における校内組織と校外との協力体制を知り、教職員間の共通理解と共通実践を軸にした生徒指導体制づくりについて理解すること。学級担任の取組みは問題行動を未然防止するうえで重要である。テキスト第 8 章「学校と家庭・地域・関係機関との連携」を参考に、家庭・地域社会とどのような連携をしたり関係機関との連携を図ったりするのか具体的な事案をもとに理解することが肝要である。

レポートの評価基準

・テキストや参考文献から学んだ内容をふまえて、自分の考えや表現で的確に記述できているかについて評価する。
・次の 4 点を評価基準とする。
①テキストを精読の上、参考文献などの情報を加味して課題について論述している。
②自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
③他人に読ませることを意識して無駄な言葉を削り、丁寧に作成している。
④剽窃（誰かがつくった文章をコピーすること）しないで、引用上の注意や参考文献の記述など、レポートのルールにしたがっている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

試験では生徒指導の意味やその基本にある人間理解や、児童生徒が自分らしく生きるために必要な生徒指導の在り方について問うことになる。テキスト第 1 章「生徒指導の意義と原理」はその基本である。テキスト『生徒指導提要』に目を通すことにより、生徒理解のための基本や効果的な指導について理解しておくとよい。また、いじめや不登校などの未然防止に繋がるような教員のかかわりについては、実際の活動をイメージしながら整理しておく。それについては、テキスト第 6 章「生徒指導の進め方」が参考になる。そこでは、“チーム学校”の組織的対応を示したうえで、不登校など個別の課題についてその対応を述べており必読である。生徒指導は、家庭や地域社会、関係機関との連携が大切になる。それについては、第 8 章「学校と家庭・地域・関係機関との連携」を参考にする。教育相談については、第 5 章「教育相談」で学級担任が行う教育相談を学ぶことになる。生徒指導は、特定の先生や専門家だけが行うものではなく、全ての教師がかかわるという基本を大切にして答案作成に臨んでほしい。

科目修了試験の評価基準

・設題の意図を正しく理解し、テキスト学習により得た知識をふまえて論理的に記述できているかどうかで評価する。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があること。

参考文献

・加澤恒雄　広岡義之　『新しい生徒指導・進路指導　理論と実践』　ミネルヴァ書房
・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年 3 月＞』　東洋館出版社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20137	科目名[単位数/学習時間]	保育実習ＩＡ〔保育所〕[実習２単位]	科目担当	北野　富美子
テキスト	●公益財団法人児童育成協会　『新・基本保育シリーズ20　保育実習』　中央法規出版				
ISBN	9784805858004	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,400	生協テキストNo.	22084
実務経験のある教員による科目	公立保育士（主任・所長）、地域子育て支援センター長				

科目の目的

保育実習の目的は、子どもや保育者との直接的な関わりを観察し、体験することにより、これまで学んできた様々な知識や技能を基礎とし、これらを総合的にとらえ実践する中で、子ども理解を通して保育の理論と実践との関係について習熟することにある。

到達目標

・保育所の役割や機能について理解する。
・観察や子どもとの関わりを通して、子どもや保育への理解を深める。
・子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
・保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価について理解する。
・保育士の業務内容や職業倫理について理解する。
・保育士としての自己課題を明確化する。

受講上の注意事項

・実習の課題を明確にして臨むこと。
・保育者としての態度と責任を持って行うこと。
・実習中の提出物（日誌、指導案、その他）は期限を厳守すること。

評価基準

・実習に関する事前の準備（事務手続き等を含む）および学習を滞りなく完了できた　30%
・実習期間中、実習生としての基本的な責務を果たすことができた　35%
・実習のねらいについて、保育現場で学び、理解・考察することできた　35%

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

実習日誌等返却時にコメント等を通知する。

科目コード	20142	科目名[単位数/学習時間]	教育実習(初等)【幼稚園】[実習 4 単位]	科目担当	猪田　裕子
テキスト					
ISBN		本体価格(円)(2022年1月現在)		生協テキストNo.	
実務経験のある教員による科目	幼稚園教諭				

科目の目的

幼稚園教育における実践を通して、これまで学んできた知識や素養を総合的に習得する。さらには、その根底にある教育愛への自覚と深化を目指す。

到達目標

幼稚園教諭としての学びを、実践を通して総合的に習得するとともに、その責任感や使命感を養う。さらには、各自が目指す教師像をより明確にする。

評価基準

・教育実習先の評価　50%
・提出物　50%

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

実習日誌等返却時にコメント等を通知する。

科目コード	20142	科目名[単位数/学習時間]	教育実習(初等)【小学校】[実習 4 単位]	科目担当	齋藤　隆彦 森　成美
テキスト					
ISBN		本体価格(円)(2022年1月現在)		生協テキストNo.	
実務経験のある教員による科目	齋藤：中学校教諭（教科「国語科」）　森：公立小学校校長・教頭・教諭				

科目の目的

実習生として、教育現場で現職の先生方や子どもたちから多くを学び、大学で履修した教職及び教科等に関する知識・理解を総合的に習得するとともに新たな課題を見つけることを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

学校現場での経験を通して、教育の重要性を再認識し、教員としての使命感を高め、教育に専念していくことのできる教員として必須の能力・意欲・態度を培う。

評価基準

・教育実習先の評価　50%
・提出物　50%

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

実習日誌等返却時にコメント等を通知する。

科目コード	20144	科目名［単位数／学習時間］	保育実習ⅠB〔施設〕［実習2単位］	科目担当	藤原　伸夫
テキスト					
ISBN		本体価格（円）（2022年1月現在）		生協 テキストNo.	
実務経験のある教員による科目	地方公務員（福祉専門職）				

科目の目的

児童福祉施設（保育所以外）において、見学、観察、生活に参加する中で、入所している子どもや利用者の理解を深めるとともに、施設の機能とそこでの保育士の役割・責任・業務について学ぶ。

到達目標

・児童福祉施設（保育所以外）等の役割や機能を具体的に理解する。
・観察や子ども・利用者との関わりを通して子ども・利用者への理解を深める。
・子ども・利用者への療育・支援及び保護者への支援について総合的に理解する。
・療育・支援の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

受講上の注意事項

・体調を整え健康管理に努めること。
・実習目標を明確にして、積極的な姿勢で意欲をもって実習に臨むこと。
・服装・言動など良識に基づいて行動すること。
・実習先の施設の方針・理念をよく理解し尊重して、施設からの指導、助言を受け止め、謙虚な態度で臨むこと。
・報告・連絡・相談を心がけること。

評価基準

・実習評価（実習先と大学の評価による総合的評価）　70%
・実習記録　30%

参考文献

・喜多一憲　児玉俊郎　『保育士養成課程　五訂　福祉施設実習ハンドブック』　みらい

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

実習日誌等返却時にコメント等を通知する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20146	科目名［単位数／学習時間］	保育内容（健康）［1単位／45時間］	科目担当	植山　佐智子
テキスト	●勝木洋子　『保育者をめざすあなたへ　子どもと健康　第2版』　みらい				
ISBN	9784860154714	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,100	生協 テキストNo.	22114

科目の目的

乳幼児が生活や遊びの中で積極的に身近な環境と関わることの意義、その重要性、発達に及ぼす影響について理解を深め、環境に関わる力を育てる保育のあり方とその実践的内容について学ぶ。また幼稚園、保育所、こども園において実際に実践していく中での知識を習得し、保育者としての実践力を身に付ける。

到達目標

・子どもたちの発育発達、基本的生活習慣の形成、安全管理等について理解を深める。
・子どもの心身の育ちに着目し、どのような環境や援助・指導が適しているかを自ら進んで考える。
・乳幼児の体や子どもを取り巻く環境に関心を持ち、その問題点、改善の方策を自分なりに考える。

学習テーマ

1	テキスト第7章「食育と栄養」を読んで、食育基本法と保育所における食育計画と評価、幼稚園における食育の取組の効果を理解する。
2	テキスト第8章「子どもの運動遊び」を読んで理解し、子どもの身体活動の現状を知る。
3	テキスト第9章「運動遊びの実践」を読んで、群れ遊びの重要性や運動が苦手な子への支援について理解し、運動遊びの実践を学ぶ。
4	テキスト第9章「運動遊びの実践」を読んで､子どもにとっての運動の考え方と保育者の援助について理解する。
5	テキスト第10章「運動遊びの計画と評価」を読んで、指導案作成の考え方と、ねらいと内容、環境構成、保育者の援助を理解し、指導計画を実際に立ててみる。
6	テキスト第11章「運動と環境」を読んで、幼児期の健康にふさわしい人的環境、物的環境を理解する。
7	テキスト第12章「子どもの事故や病気、危機管理について」を読んで、事故の予防と対応、感染症の予防と対応を理解する。
8	テキスト第12章「子どもの事故や病気、危機管理について」を読んで、保育現場での減災防災を考える。

レポートについて

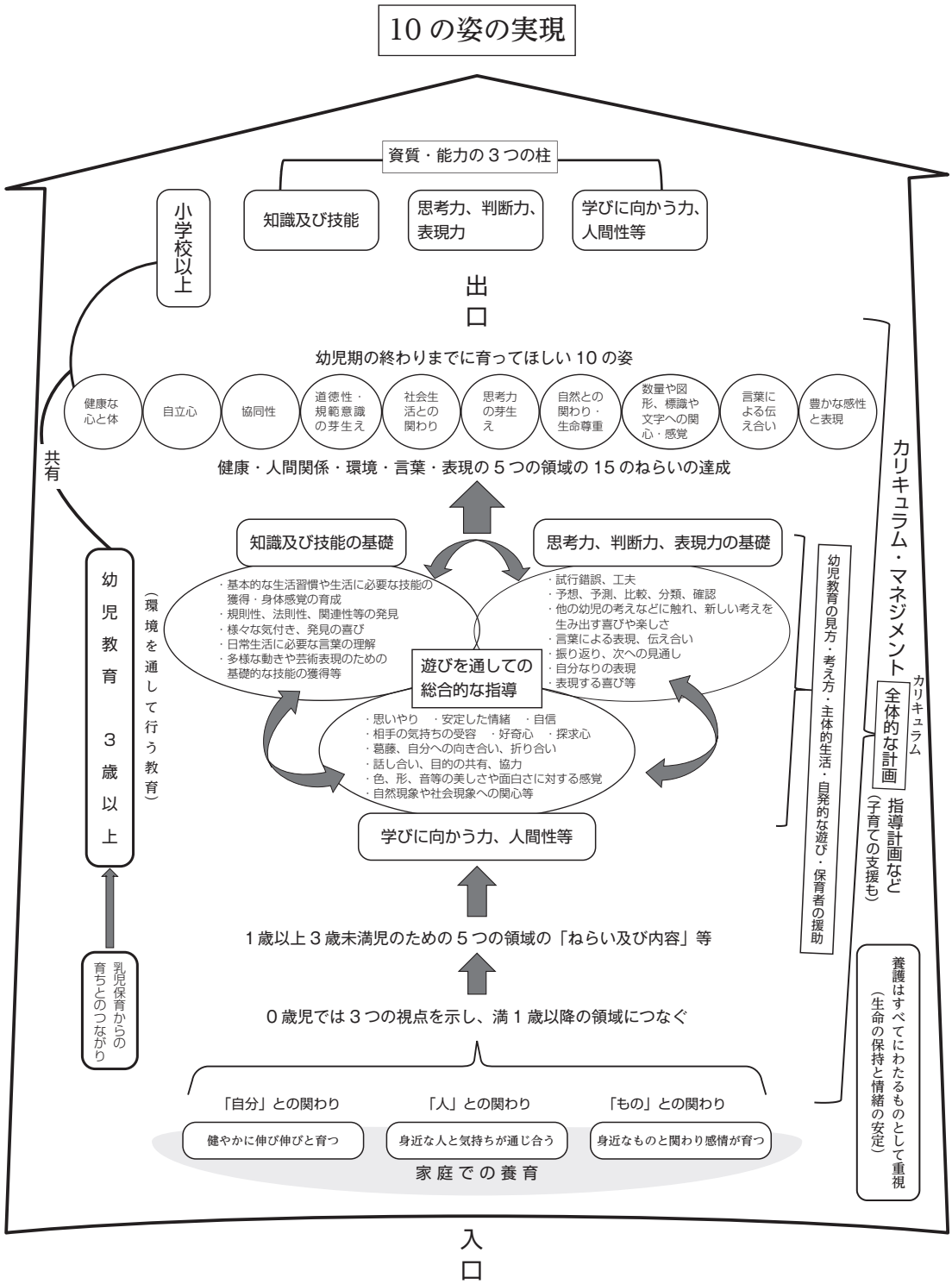
ワープロソフト使用可

第1課題

「幼児期の終了までに育ってほしい姿」について、「10の姿の実現」（「第1課題の留意点」の図）を参考に、その理解を十分にまとめ自分なりにどう捉えるか、実践者としてどう理解するかの観点で論述しなさい。

第１課題の留意点

・参考文献『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を熟読すること。
・「幼児期の終了までに育ってほしい姿」と「育ってほしい資質・能力」の関係性を十分に理解し、論じること。



（出典：無藤隆　『10の姿プラス５・実践解説書　よくわかる解説＆写真で見る実践事例』　ひかりのくに2018年p.127）

・小学校との連携を考慮することを踏まえて論じること。
・参考文献や資料を検索し、それらを用いて論を展開する。

レポートの評価基準

・課題に沿った調べ学習と、それらの情報を自身でまとめる力を求める。テキストをまとめるだけではなく、テキストを基に関連する参考文献･資料を活用し、まとめること。
・課題の趣旨を正確に把握し、論旨を展開することを心がけているか。
・参考文献や白書などの資料を用いて広汎な調べ学習をし、それらを用いて考察できているか。＜※参考文献や資料については、必ず明示する。＞
・保育の実践に立っていることを想定して、具体的論述ができることを期待している。
・正しい日本語記述で誤字・脱字はなく、2,000字の 9 割以上記述されているか。
・課題の趣旨に沿ったレポートで、論理的に無理なく全体の流れになっているか。
などを総合的に評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストや 3 法（参考文献『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』）を十分読みこなし、理解した上で事例なども加えて、論点をまとめること。

科目修了試験の評価基準

テキストを十分理解し、設題に沿った解答であるかを判定する。単に「健康」の領域だけではなく保育内容の領域にわたる深い考察がなされているかも注目する。

参考文献

・文部科学省　『幼児期運動指針』
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　『子供・若者白書』『少子化社会対策白書』『男女共同参画白書』など

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20147	科目名[単位数／学習時間]	保育内容（人間関係）[１単位／45時間]	科目担当	福井　逸子
テキスト	●田村美由紀　室井佑美　『〈領域〉人間関係ワークブック』　萌文書林				
ISBN	9784893472625	本体価格（円）（2022年1月現在）	1,800	生協テキストNo.	22115
実務経験のある教員による科目	幼稚園教諭（公立・私立）、保育士				

科目の目的

現代社会の多様な人間関係の中で育っていく子どもたちにとって、乳幼児期の人との関わりは重要である。本科目では、子どもの人間関係における発達過程と、子どもが園生活において主体的かつ意欲的に遊び、学ぶ過程を理解し、そのプロセスに即して、具体的な支援や指導を行える実践力を身につけることを目的とする。

到達目標

・「人間関係」とは何かについて理解・考察を深める。
・領域「人間関係」のねらいと内容について理解する。
・保育者の働きと役割について理解・考察を深める。
・子どもの社会性・人間関係の発達プロセスについて理解・考察を深める。
・領域「人間関係」を保育するにあたり、実践上の配慮について理解・考察を深める。
・豊かな人間関係を育む保育実践計画、指導案の作成について理解を深める。

学習テーマ

1	領域「人間関係」におけるねらいと内容についての理解（テキスト第１章～第２章）
2	身近な人から広がる人間関係 - 事例で学ぶ -（テキスト第３章）
3	仲間同士の関わりについて - 事例で学ぶ -（テキスト第５章）
4	遊びの中で育つ人間関係① - 事例で学ぶ -（テキスト第６章～第７章）
5	遊びの中で育つ人間関係② - 事例で学ぶ -（テキスト第８章～第９章）
6	人との関わりが難しい子どもへの支援（テキスト第10章）
7	保育指導計画の意義と作成について - ３歳未満児編 -（テキスト第11章）
8	保育指導計画の意義と作成について - ３歳以上児編 -（テキスト第12章～第14章）

レポートについて

ワープロソフト使用可

第１課題

日々の生活や遊びの中で、子ども達が「人との関わり」を育んでいくために、保育者はどのようなことに留意するべきかまとめなさい。（対象：○○歳児、場面：○○の場面において等、具体的な例を示しながら、記述する）

第１課題の留意点

テキストの関連箇所や記載されている事例を読み深めた上で、課題をまとめる。特に、（　）内に示したような具体例を先に提示し、考察した自身の意見をまとめる。尚、事例に関しては、必ずしもテキスト内から選出しなくても、自身の経験等から選出しても良い。

レポートの作成は、ワープロソフト使用、自筆のどちらでもかまわない。また、具体例をテキストの事例にあるように□で囲むなどして見やすい形で示すこと。

レポートの評価基準

・文字数は、1,800字～2,000字数以内とすること。
・課題の趣旨に沿っている。
・領域「人間関係」の保育内容との関連を意識しながら、作成されている。
・必要に応じて、保育の専門用語を用いて解説されている。
・専門用語を正しく理解して使用している。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスのないように留意すること。
・テキストからの引用箇所と自身の意見が分かるように記載すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全編を熟読し、保育現場で実践すべき保育・教育の基本や目標、また、『保育所保育指針』や『幼稚園教育要領』などの領域「人間関係」のねらいと内容を子どもの年齢別にしっかりと把握しておく。さらに、テキストの事例や他の保育の専門書を参考に、多くの実践例を学んでおく。
・答案作成にあたっては、まず、設題をよく読んで意図を読み取り、解答すべき観点を把握した上で論理的に簡潔に解答すること。自分が学習した保育の専門知識や専門用語を明示するとよい。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解して、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上に記述があることを前提として評価する。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字等が無いこと。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・無藤隆　古賀松香　『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは』北大路書房
・友定啓子　青木久子　『幼児教育知の探求　16　領域研究の現在＜人間関係＞』　萌文書林
・無藤隆　『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』　東洋館出版社
・『月刊　保育とカリキュラム（保育雑誌)』　ひかりのくに

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20148	科目名[単位数／学習時間]	保育内容（環境）［1単位／45時間］	科目担当	佐藤　智恵

テキスト	●無藤隆　福元真由美　『新訂　事例で学ぶ保育内容＜領域＞環境』　萌文書林					
ISBN	9784893472588	本体価格(円)（2022年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	22116	
テキスト	●内閣府　文部科学省　厚生労働省『幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞（平成29年告示）』チャイルド本社					
ISBN	9784805402580	本体価格(円)（2022年1月現在）	500	生協テキストNo.	22117	
実務経験のある教員による科目	保育士					

科目の目的

「幼稚園教育要領」に示された領域「環境」のねらい及び内容について、また他領域との関連についてテキストによって理解を深める。

到達目標

・「幼稚園教育要領」に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、幼稚園教育において育みたい資質能力について理解する。
・領域「環境」について他の領域と関連させて理解を深める。

学習テーマ

1	保育内容「環境」とはなにか【学習のポイント：保育内容「環境」を構成する全体像を理解する。】
2	「幼稚園教育要領」における「環境」【学習のポイント：「幼稚園教育要領」や「10の姿」などの中で領域「環境」がどのように示されているかを理解する。】
3	他領域と「環境」との関連【学習のポイント：「幼稚園教育要領」の保育内容の部分を熟読し、他領域との関連を理解する。】
4	自然事象や季節ごとに適した栽培活動・飼育活動【学習のポイント：具体的な事例エピソードから、保育内容とねらい、また様々な場面における配慮事項について理解する。】
5	様々な道具や遊具を用いた保育内容のあり方【学習のポイント：具体的な事例エピソードから保育者の配慮について理解する。】
6	文字や標識、数量や図形に関心をもつ【学習のポイント：保育実践の中で文字や数量がどのように扱われているかを理解する。】
7	日本や海外の文化、行事を保育にどう取り入れるか【学習のポイント：行事のあり方、また当日だけでなく行事の前後の過程についても理解する。】
8	地域社会との関わりの中での保育【学習のポイント：どのような活動によって幼児が地域社会との関わりを深めることができるのか、またその際の保育者の配慮事項について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

保育内容「環境」に関して、保育者として行う指導や配慮すべき点について述べよ。

第1課題の留意点

・まずはテキスト『新訂　事例で学ぶ保育内容＜領域＞環境』pp.10-31を熟読し、幼児教育で重視されていることについて理解を深めることが大切である。
・次にpp.190-204をよく読み、保育内容「環境」において大切にされている考え方を理解すること。
・レポートは、上記の2点に加え、4・5・6・7章についても熟読し、保育者として行う指導と配慮すべき点を引用しながら作成すること。自己の思い込みで作成されたレポートは評価の対象としない。
・テキストの文言をそのまま書き写すのではなく、保育実践の中で重要視されていることを探求することを心がけること。
・伝わりやすくするために具体的な例を提示することはよいが、冗長にならないように留意すること。
・テキストによる学習ということを意識して取り組むこと。自身の経験談は評価の対象としない。

レポートの評価基準

以下の2点を評価基準とする。
・誤字脱字が無く、主語と述語の関係などに留意し、丁寧な記述がなされている。
・テキストによって学習を行い、保育者に求められている指導や配慮を理解しているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・「学習テーマ」で挙げた点を中心に、テキストを熟読し保育内容への理解を深めておくこと。
・テキストでは、それぞれの事例における保育者のねらいや配慮事項がどのようなものであるかということに留意して学習をしておくこと。
・事例に関する設問においては、「自分がどうしたいか」ということではなく「今、求められている指導や配慮」や「考えられる複数の対応」を記述することが求められることもある。広い視野を持って学習を進めてほしい。

科目修了試験の評価基準

・テキストの内容をふまえた上で、論述すること。自らの経験談のみや根拠のない自説を記入しても評価しない。
・解答用紙表面の 1 / 2 以上の記述があること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の XVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20149	科目名[単位数／学習時間]	保育内容（言葉）［2単位／90時間］	科目担当	久米　裕紀子
テキスト	●小田豊　芦田宏　『新保育ライブラリ　保育の内容・方法を知る　保育内容　言葉』　北大路書房				
ISBN	9784762826313	本体価格(円)(2022年1月現在)	1,700	生協テキストNo.	22118
実務経験のある教員による科目	公立幼稚園園長				

科目の目的

領域「言葉」は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」ことを目指すものである。言葉の機能と、言葉の発達過程を理解し、保育における領域「言葉」のねらいと内容を理解する。幼児の発達に即した子どもの言葉や、話す力、聞く力を育むため、保育者としての知識と実践力を学ぶ。主体的・対話的な実践、具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を身に付ける。

到達目標

・言葉の獲得の意義、言葉の機能について理解する。（テキスト第1章1節）
・保育における領域「言葉」のねらいと内容を学ぶ。また小学校「国語科」との比較により、領域「言葉」の独自性と「国語科」への連続性について理解する。（テキスト第2章）
・言葉の発達過程を理解する（乳児期の言葉以前・以後の段階、幼児期の話し言葉、書き言葉）。（テキスト第3章）
・子どもの言葉の発達段階にあった保育者の態度、関わり、援助を身に付ける。（テキスト第3章、第4章、第6章1節）
・子どもの言葉や感性を豊かにする環境と保育を提案できるようになる。（テキスト第4章、第5章）

学習テーマ

1	言葉の獲得の意義、言葉の機能について【学習のポイント：言葉はどのように獲得されていくのか（テキスト第1章）】
2	領域「言葉」が目指すもの【学習のポイント：領域「言葉」の意図するところは何か（テキスト第2章1節）】
3	領域「言葉」と他の領域の関係【学習のポイント：保育・教育計画の立案と評価のための視点とは（テキスト第2章2節～3節）】
4	言葉の獲得①【学習のポイント：言葉の発達の道筋を捉える（テキスト第3章1節、 2節）】
5	言葉の獲得②【学習のポイント：文字への興味・関心を育てるには何が必要なのか（テキスト第3章3節）】
6	言葉を育てる環境①【学習のポイント：乳幼児の言葉を育てる環境（テキスト第4章1節）】
7	言葉を育てる環境②【学習のポイント：話し言葉を育てる環境（テキスト第4章2節）】
8	言葉を育てる環境③【学習のポイント：書き言葉への興味や関心を育てる環境（テキスト第4章3節）】
9	言葉を育てる児童文化財①【学習のポイント：お話・絵本・紙芝居など児童文化財（テキスト第5章1節）】
10	言葉を育てる児童文化財②【学習のポイント：仲間を育てる文化財。「ごっこあそび」・「劇あそび」で育つ力、保育者の役割。（テキスト第5章2節）】
11	言葉を育てる児童文化財③【学習のポイント：地域の暮らしと遊びの文化。あそびの質の重要性。（テキスト第5章3節）】（教材研究及び模擬保育の構想と省察）
12	言葉の育ちにかかわる諸問題①【学習のポイント：言葉の障害について（テキスト第6章1節）】
13	言葉の育ちにかかわる諸問題②【学習のポイント：多民族・多文化化について（テキスト第6章2節）】
14	言葉の育ちにかかわる諸問題③【学習のポイント：国際理解と外国語について（テキスト第6章3節）】
15	言葉を育てる保育者の役割と援助【学習のポイント：領域「言葉」を振り返り教師の援助を深める。】

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

領域「言葉」において、言葉の獲得の意義や発達に即した保育者の援助について考え、乳幼児の「言葉」の獲得に必要な保育者の態度（姿勢、こころもち）や環境構成について述べよ。

第2課題

領域「言葉」を他の領域とのかかわりと併せて考え、保育者が乳幼児の「ごっこ遊び」や、「劇遊び」を支えていく援助について述べよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章1節、 2節をよく読み、領域「言葉」のねらいと内容を理解する。そのうえで、 3節で小学校「国語科」との関係を学ぶ。「言葉」と「国語科」の連続性、関連性に触れながら、どこが違うのかをはっきりと示し、領域「言葉」の独自性について説明すること。

テキスト第2章の他、第3章、第4章、コラムを参照し、話し言葉を豊かにする保育について具体的に述べること。クラス（年齢）を設定し、保育者として言葉の感覚を磨くため「子どもの活動・姿」「環境」「保育者の配慮・関わり」の3点に言及する具体性のあるレポートとする。（参考文献『0歳～6歳　心の育ちと対話する保育の本』を参照。）

第 2 課題の留意点

この課題では、子どもが主体的にあそぶことによって、どのような時に、どのような「言葉」の力が培われるのかを考察する。保育者は、子どもが主体的な遊びを展開できるように援助していく。保育者の「ごっこ遊び」「劇遊び」の捉え方、遊びの展開について、子どものあそびこむ姿を具体的に捉え、分析していく。また、「言葉」の領域から他の領域へと関連していくことにも着目し、自分の保育観を見つめ、子どもの育ちを見通した援助の在り方を考察していくレポートとする。

レポートの評価基準

・基礎知識を正確に説明できているか、自分の考えを的確かつ具体的に記述できているかを評価する。
・誤字脱字がなく、丁寧な字、わかりやすい文章で書かれていること。
・剽窃、盗用は不合格とする。参考文献の使い方、引用のルールを守ること。
※文献の要約部分の末尾には（　）で筆者の名字、発行年を記し、本文の後に「参考文献」として出典（筆者名、文献の題名、発行年、出版社）を記すこと。引用部分は「　」でくくり、（1）（2）と番号で記し、本文の後に「引用文献」として番号ごとに出典（筆者名・文献の題名）と引用箇所のページ数を記すこと。
・複数の的確な引用、参考文献の明記は加点とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

言葉の機能（テキスト第 1 章 1 節）を理解し、領域「言葉」（テキスト第 2 章）と乳幼児期の発達特徴（テキスト第 3 章）について学習すること。その上で、保育環境の構成や、保育者の態度、実際の対応について学ぶ（テキスト第 4 章、第 5 章 1 節、第 6 章 1 節、コラム）。自分が実際に保育をすることを想定し、発達段階を踏まえて、具体的に保育者の態度や心構えを理解しておくこと。

設題には、知識を中心に問うものと、保育者の配慮や対応を問うものがある。いずれも、テキスト第 1 章～第 3 章の基礎知識を根拠として挙げ、具体的な配慮や環境設定を自分の考えとして述べるという形で答える。この点はレポートと同じである。

科目修了試験の評価基準

・テキストから得た基礎知識を基に、論旨の通った的確な記述ができていること。
・自分なりの考えを具体的に示せていること。
・誤字脱字がなく、わかりやすい文章が書けていること。
・解答用紙表面の 2 / 3 程度の記述があることが望ましい。

参考文献

・汐見稔幸　無藤隆　『＜平成30年施行＞保育所保育指針　幼稚園教育要領　幼保連携型認定こども園教育・保育要領　解説とポイント』　ミネルヴァ書房
・加藤繁美　『0 歳～ 6 歳　心の育ちと対話する保育の本』　学研教育出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20153	科目名[単位数/学習時間]	人権教育［2単位／90時間］	科目担当	古川　知子
テキスト	●新保真紀子 『子どもがつながる学級集団づくり入門　若いせんせいに送るラブレター』 明治図書出版				
ISBN	9784180126170	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,360	生協テキストNo.	22120
実務経験のある教員による科目	教育委員会（教育振興室高等学校課参事）				

科目の目的

同和教育をはじめとする様々な人権教育の課題について具体的実践事例をもとに考察する。ここで培われた子ども理解の視点をもとに、学校におけるいじめや不登校、インクルーシブ教育などの人権課題や学級集団づくりに取り組み、学級での教師の指導と支援はどうあるべきかについて、具体的に考える力を養う。現代の人権教育課題の現状を理解するために、テキストはもちろんのこと、参考文献・各種資料などを読み解き、活用する必要がある。

到達目標

人権教育は、幼児児童生徒が、自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることの意義を理解し、そのことを態度や行動で体現できるようになることが目標である。

・学校における人権教育の意義や様々な人権課題について理解する。
・幼児児童生徒の発達段階や実態に応じた指導計画を考えることができる。
・幼児児童生徒が望ましい態度や行動をとることができるよう、的確な指導方法について理解し、実践できる。

学習テーマ

1	人権教育と学級集団づくり
2	クラス開きと自分開き
3	教師の立ち位置
4	子どもがつながる生活班づくり
5	交換ノートと学級通信
6	家庭訪問と子ども理解
7	協同的学びのある授業づくり
8	学級のインクルージョン
9	不登校の子どもへの対応
10	自尊感情とレジリエンス
11	「小1プロブレム」の学級づくり
12	感情のワーク
13	怒りのコントロール
14	部落問題学習
15	生き方につながる人権学習

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

①いじめ課題について、文部科学省HPなど国の最新の動向やデータを踏まえ、現状と課題を概説し、②その課題解決に向けた学級集団づくりのために大切にするべき視点を、テキストを熟読した上で、テキストを基にまとめ、③あなたの体験を踏まえ、教師として実践したい取組みを具体的に述べなさい。

第2課題

①子どもの貧困問題について、「子どもの貧困対策に関する法律」や「子どもの貧困対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」「子供の貧困対策に関する大綱」など国の最新の動向を踏まえ、現状と課題を概説し、②その課題解決に向けた学級集団づくりのために大切にするべき視点を、テキストを熟読した上で、テキストを基にまとめ、③あなたの体験も踏まえ、教師として実践したい取組みを具体的に述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・①②③すべての設問に対応したレポートにすること。
・文献や資料の引用については、その出典先・引用ページやURLなどを明示すること。
・最新のデータを活用してまとめること。
・人権に根差した学級集団づくりに大切な視点を、テキストの趣旨を踏まえてまとめること。そのためには自尊感情の大切さにも触れておくこと。また、テキストをそのまま抜き書きするのではなく、要約すること。
・引用文は「　」でくくり、誰の引用か文献名や引用ページ等を明示すること。テキストであっても、引用部分はそのページを明示すること。文章の剽窃は大きく減点する。
・自分の考えや分析を必ず展開すること。

第 2 課題の留意点

・①②③すべての設問に対応したレポートにすること。
・最新の国の動向を踏まえ、さまざまな課題を抱える子どもたちが学級の中でともに学び合う学習集団づくりとはどのようなものかを、テキストを熟読して具体的にまとめること。
・人権に根差した学級集団づくりに大切な視点を、テキストの趣旨を踏まえてまとめること。
・文献や資料の引用については、その出典先・引用ページやURLなどを明示すること。テキストであっても、引用部分はそのページを明示すること。文章の剽窃は大きく減点する。
・自分の考えや分析を必ず展開すること。

レポートの評価基準

・テキスト全編をよく読んだ上で、子どもをめぐる人権課題を整理し、論述できていること。
・自身の体験を踏まえ、教師として実践したい取組みを具体的に述べていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全編をよく読んで、今の子どもが抱える人権課題やインクルーシブな学級集団づくりについての理解を深めておくこと。
・特に、自尊感情の育成、「しんどい子」を中心にした学級集団づくり、子ども理解の手立てなどを整理し、教師として大切な視点について理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・テキストを十分理解した上で、設題に的確に解答できていること。テキストの内容を踏まえずに、自説を展開するだけでは不十分である。
・解答用紙表面の 9 割程度（以上）を最低限使って、十分に論述していること。
・誤字脱字はもちろんのこと、段落の取り方、敬体と常体の文体が混同していないこと、「　」や『　』の使い方など、基本的ルールが守られていること。

参考文献

・文部科学省　『人権教育の指導方法等の在り方について［第三次とりまとめ］』（平成20年 3 月）
・新保真紀子　『「小 1 プロブレム」に挑戦する　子どもたちにラブレターを書こう』　明治図書出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20154	科目名[単位数／学習時間]	道徳教育の指導法(初等)[2単位／90時間]	科目担当	隈元　泰弘
テキスト	●佐野安仁　荒木紀幸　『第4版　道徳教育の視点』　晃洋書房				
ISBN	9784771030459	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,500	生協テキストNo.	22121

科目の目的

・「自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性」の具体的内実を理解する。
・道徳教育の意義とその要となる道徳科の目標と内容、教材研究法、学習指導案の作成法、等について理解し、「特別の教科　道徳」の時間に適切な授業ができるようになる。

到達目標

・上記の「自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性」について自分の生き方・日本社会の在り方との密接な繋がりにおいて理解し、自分の言葉で説明できる。
・上記の＜道徳教育の意義とその要となる道徳科の目標と内容、教材研究法、学習指導案の作成法、等＞の具体的内容を実践との関連において理解し、効果的な指導力を身に付ける。

学習テーマ

1	テキスト第1章「道徳と道徳教育」第1節「現代の道徳的状況」を学ぶ。現代社会の本質的特徴を道徳という視点から洞察する。
2	テキスト第1章「道徳と道徳教育」第2節「道徳とはなにか」を学ぶ。道徳の意義や原理を理解する。
3	テキスト第1章「道徳と道徳教育」第3節「現代道徳教育の課題」を学ぶ。現代の学校と社会における道徳教育の課題を理解する。
4	テキスト第2章「道徳性の発達と教育」第1節「デュルケムの道徳教育論」を学ぶ。道徳性の発達と教育について社会性という観点から考察する。
5	テキスト第2章「道徳性の発達と教育」第2節「ピアジェの道徳性発達理論」を学ぶ。道徳性の発達と教育について子どもと遊びという観点から考察する。
6	テキスト第2章「道徳性の発達と教育」第3節「コールバーグの道徳性発達理論」を学ぶ。道徳性の発達と教育について道徳的判断力という観点から考察する。
7	テキスト第2章「道徳性の発達と教育」第4節「ブルの道徳性発達理論」を学ぶ。道徳性の発達と教育について道徳的行為という観点から考察する。
8	テキスト第2章「道徳性の発達と教育」第5節「道徳教育の視点」を学ぶ。道徳性の発達と教育について家庭と学校の在り方という観点から総合的に考察する。
9	テキスト第3章「道徳教育の方法」第1節「道徳教育と道徳授業」を学ぶ。学校教育全体を通した道徳教育と道徳科の道徳教育について総合的に理解する。
10	テキスト第3章「道徳教育の方法」第2節「ジレンマ資料を用いた道徳の授業実践」を学ぶ。道徳科の指導と評価の方法を理解する。
11	テキスト第4章「我が国における道徳教育の展開」第1節「明治以降の『近代化』政策としての『修身』」を学ぶ。終戦までの道徳教育の歴史を理解する。
12	テキスト第4章「我が国における道徳教育の展開」第2節「戦後教育の理念と方法」を学ぶ。戦後の道徳教育の展開とその指導理念を理解する。
13	テキスト第4章「我が国における道徳教育の展開」第3節「『道徳』授業の現状と課題」を学ぶ。現代の道徳の授業の課題とその解決への試行について考察する。
14	テキスト第5章「学習指導要領『特別の教科　道徳』」第1節「『特別の教科　道徳』と学習指導要領」を学ぶ。道徳科の意義と役割を理解する。
15	テキスト第5章「学習指導要領『特別の教科　道徳』」第2節「小学校学習指導要領『特別の教科　道徳』」を学ぶ。道徳科の授業の基本方針、指導案の作成法、授業実践並びに評価について考察する。

レポートについて　自筆に限る　ワープロソフト使用不可

第1課題

テキスト第1章を読み、「現代の子どもの状況」「現代の道徳的状況」「道徳的原理」についてまとめ、第1, 3, 4章を参照しつつ「現代道徳教育の課題」について論述せよ（計2,000字程度）。

第2課題

テキスト第2章を読み、デュルケム、ピアジェ、コールバーグの各理論についてまとめ、各々の発達理論を念頭に「特別の教科　道徳」についてテキスト（特に第5章）を参照しつつ論述せよ（計2,000字程度）。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキストの第1章、第3章、第4章をまとめて読んでから課題に答えること。キーワード、キーセンテンスを引用しつつまとめるとよい。子どもをめぐる社会的な背景や学校の在り方が子どもに及ぼす精神的影響を念頭に置きつつ、さらに自分自身の社会的環境や自分が受けてきた道徳の授業についての自分なりの思いをいれながら論述することが望ましい。

第 2 課題の留意点

テキストの第 2 章、第 4 章（特に第 3 節）、第 5 章をまとめて読んでから、課題に答えること。第 2 章に関してはデュルケム、ピアジェ、コールバーグの各キーワード、キーセンテンスを活用して論述すること。「特別の教科　道徳」については、実際の道徳の授業をどのように行うかを念頭においてまとめることが望まれる。

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容を踏まえて、自ら考え、自らの言葉で、いかに適切に記述できているかについて評価する。
・評価基準は次の 4 点である。
①テキストを精読して、関連文献等を参照しつつ課題について適切に論述している。
②十分な内容的理解に基づき、一文一文において主語－述語の関連に留意しつつ、かつ全体の整合性にも配慮してまとめている。
③文献やHPなどはもちろん、テキストから引用する場合も、引用箇所であることが明確にわかるように「　」でくくり、注番号を打ち、出典（著者名、書名、出版社名、出版年、ページ数）を明記している。（テキストや参考資料の文章をまとめる場合は、参照注で当該箇所を明示してある。）
④文字の書き順や、とめる・はらう・はねるといった基本を押さえつつ、人に読ませることを意識して丁寧に清書している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの第 1 章、第 2 章、さらに第 3 章、第 4 章（特に第 3 節）、第 5 章についても理解を問うので、熟読しておくことが望まれる。各章ごとに、テキストを閉じて、当該の内容を自分の言葉で説明してみることを勧めたい。自分の言葉で他者にわかるように説明できるようになった時、本当に分かったと言える。本科目の試験は、まさにこのような意味で「本当に分かっているか」を問うものである。

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を正確に理解し、テキストの内容と重要概念の意味とを適切に把握して、できるだけ自分の言葉で論述できているかどうかを中心に評価する。テキストの内容を踏まえずに、自らの主観的な経験や考えを記入しても評価しない。設題内容にそって論理的に記述できていることと、少なくとも指定された文字数の 9 割以上の記述があることを前提として評価する。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年 3 月＞』　東洋館出版社
・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科　道徳編＜平成29年 7 月＞』　廣済堂あかつき
・荒木紀幸　『道徳教育はこうすればおもしろい　コールバーグ理論とその実践』　北大路書房
・佐野安仁　吉田謙二　『コールバーグ理論の基底』　世界思想社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20155	科目名[単位数／学習時間]	特別活動の指導法(初等)[2単位／90時間]	科目担当	長谷川　重和
テキスト	●山﨑英則　『新・特別活動の指導原理』　神戸親和女子大学出版				
ISBN	生協のみで販売	本体価格(円)(2022年1月現在)	1,800	生協テキストNo.	22122	生協へお申し込みください
実務経験のある教員による科目	公立小学校教員、教育委員会指導主事				

科目の目的

特別活動は、学校における様々な構成の集団活動を通して課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる活動である。本科目では、特別活動における意義や内容等を理解する。さらに、特別活動は不登校やいじめ等の問題行動の予防的な役割を果たしていることから、人間関係の形成や学級経営の大切さについて学ぶ。小学校教員の実務経験を十分に活かして学級経営などの実践的教育を行う。

到達目標

・学習指導要領における特別活動の意義、目標及び内容を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点を持ち特別活動の特質を踏まえた指導ができる。
・発達段階における指導の違い、各教科、道徳等との関連、地域や関係機関との連携、他校の教職員との連携など「チームとしての学校」の視点を持ち、組織的な対応や指導に必要な知識や素養を身につける。
・望ましい人間関係を築くことで不登校やいじめなどの問題に対し予防的な役割を果たす。
特別活動の重要性を認識するとともに、どのような指導原理や集団理論に依拠するのかを理解する。
『小学校学習指導要領解説　特別活動編』を参照することで、さらに学習を深める。

学習テーマ

1	特別活動の目標について【学習のポイント：特別活動の思い出をふまえ、意義と目的を理解する。】
2	学級活動について【学習のポイント：学級活動の内容はどのようなものか、特色をふまえ理解する。】
3	児童会活動と生徒会活動について【学習のポイント：児童会活動と生徒会活動の相違点を理解する。】
4	クラブ活動について【学習のポイント：クラブ活動の変遷をふまえ、その育成の在り方を理解する。】
5	学校行事について①【学習のポイント：学校行事の意義と各行事の特徴と相違点を理解する。】
6	学校行事について②【学習のポイント：学校行事の問題点と学校における工夫や実施計画を知る。】
7	教育諸問題に応える特別活動について【学習のポイント：特別活動の機能から諸問題を理解する。】
8	学級崩壊について【学習のポイント：学級崩壊とは何か、学級経営の在り方を理解する。】
9	いじめと不登校について【学習のポイント：特活の特質をふまえ集団と個別の対応を理解する。】
10	特別活動と教科指導について【学習のポイント：特別活動と教科指導との相違点を理解する。】
11	学級集団の理論について【学習のポイント：PMリーダーシップ論はどのようなものかを理解する。】
12	特別活動の歴史について【学習のポイント：特活の歴史と学習指導要領の変遷も併せて理解する。】
13	特別活動を生かした授業形態について【学習のポイント：コミュニケーション能力を理解する。】
14	教育的リーダーシップについて【学習のポイント：リーダーシップとは何か理解する。】
15	自分自身の評価について【学習のポイント：職務的な視点と人間的な視点を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

義務教育における学校行事から2つの活動を取り上げ、それらの目標やねらい、活動内容や特色、教育的意義などを自らの経験を踏まえてわかりやすく説明しなさい。そして、それぞれの学習過程において、特別活動における「主体的・対話的で深い学び」の実現をどのように図るかをあわせて述べなさい。

第2課題

一人一人の児童生徒が学級を居場所に感じ、楽しく活動できるようにするにはどのような学級づくりを展開するのか、特別活動の視点から考えを述べなさい。さらに、学級活動が自主的・対話的に展開すると、問題行動（いじめ・不登校など）に対し予防的な役割を果たすといわれている。その理由を特別活動の特質・機能や前述した学級づくりの展開を踏まえて説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

特別活動（学校行事）の教育的意義とその目標、各活動との関連についての出題である。特別活動の目標は、参考文献『小学校学習指導要領解説　特別活動編』第2章で示されている。テキストでは、第1章「特別活動の目標」を参照するが、各活動・学校行事の目標と内容については、第2章から第5章を参考にそれぞれの内容や特色、意義を整理する。また、特別活動における「主体的・対話的で深い学び」については、参考文献『小学校学習指導要領解説　特別活動編』第4章第1節に掲載されている。教育的な意義は、その第2章を参考に具体的な場面をイメージすると分かりやすい。このようにテキストだけでなく、特別活動の指針である参考文献『小学校学習指導要領解説　特別活動編』を併用してさらに深める学びにする。

第 2 課題の留意点

特別活動が充実した学級づくりは、子どもたちの活動が主体的・対話的で生き生きと展開し、結果として自発的、自治的な学級になると考えられている。しかも、問題行動の予防的役割を果たすのはなぜなのか。テキスト第 6 章「教育諸問題に応える特別活動」を読み、人間関係にかかわる子どもたちの今日的課題を理解し、望ましい集団の在り方を考える。また、第 9 章の「学級集団・学校集団の理論をたずねて」を読み、学級・学校づくりの現状と課題をふまえ、集団づくりの理論を参考に論述する。特別活動がいじめや不登校などの問題に対する予防的な役割を果たすことについて、特別活動の特質や集団の理論を意識して述べるとよい。テキストの引用だけでなく、参考文献『小学校学習指導要領解説　特別活動編』の第 4 章第 2 節「児童の自発的、自治的な活動の効果的な展開」も参照することが望ましい。

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容をふまえて、自分の考えをいかに的確に記述できているかについて評価する。
・次の 4 点を評価基準とする。
①テキストを精読のうえで参考文献などの情報を加味して課題について論述している。
②自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
③他人に読ませることを意識して無駄な言葉を削り、丁寧に作成している。
④剽窃（誰かがつくった文章をコピーすること）しないで、引用上の注意や参考文献の記述など、レポート作成のルールにしたがっている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

特別活動とは何か。それぞれの活動内容から、特徴的な課題についての出題である。まず、テキスト第 1 章や参考文献『小学校学習指導要領解説　特別活動編』に目を通し、特別活動全体の特質や教育的意義を理解することである。そして、テキスト第 2 章から第 5 章を参考に、個々の活動内容の目標や特色、課題をとらえておくことが基本となる。また、いじめや不登校などの未然防止に繋がるような望ましい集団づくりについては、テキスト第 6 章「教育諸問題に応える特別活動」を理解すること。学級経営の視点から、実際の活動をイメージし意見を述べたり、創意工夫した活動を提案したりすることも大切になる。教育課程における特別活動の位置付けや指導については、他の教育活動との関連を把握しておくこと。特別活動の教育的意義や必要性を理解している答案を期待している。

科目修了試験の評価基準

・設題の意図を正しく理解し、テキスト学習により得た知識をふまえて論理的に記述できているかどうかで評価する。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があること。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別活動編＜平成29年 7 月＞』東洋館出版社
・広岡義之　『新しい特別活動　理論と実践』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20156	科目名[単位数／学習時間]	保育内容（総論）［2単位／90時間］	科目担当	猪田　裕子
テキスト	●近藤幹生　『子どもと社会の未来を拓く－保育内容－総論　第3版』　青踏社				
ISBN	9784902636567	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,000	生協テキストNo.	22123
生協での購入をおすすめします					

科目の目的

乳幼児の生活を総合的な視点から捉え、遊びの中にある学びの姿を理解する。また、それに伴う環境構成や知識、技能を身に付ける。さらには、保育の根底にある教育愛への自覚や深化を目指す。

到達目標

・乳幼児期における教育（遊びの中から捉える学びに向かう力）の基本及び発達や学びの連続性を踏まえた遊びの姿を理解する。
・乳幼児の理解に基づいた保育内容の展開及びその評価の考え方を理解する。
・乳幼児の興味や関心、心身の発達等に応じた具体的な援助の在り方を理解する。

学習テーマ

1	保育所保育指針における保育の基本【学習のポイント：保育の基本及び保育内容を理解する。】
2	保育所・幼稚園・認定こども園の現状と課題【学習のポイント：具体的な事例を参考にそれぞれの現状と課題を考える。】
3	子どもの姿と保育内容【学習のポイント：「育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から捉える子どもの姿を考える。】
4	保育内容の歴史的変遷【学習のポイント：思想史を学ぶことで現在の保育を考察する。】
5	幼稚園･保育所制度の変遷【学習のポイント:日本における幼児教育制度の歩を振返り、現在の保育を考察する。】
6	教育課程･全体的な計画と指導計画について【学習ポイント:保育における計画に留意し、指導計画を立て、反省･評価を行うことの意味を考える。】
7	保育所で展開される生活と保育【学習のポイント：保育者の養護的なかかわりと、その中に見られる教育的なかかわりについて考える。】
8	保育所で展開される生活と遊び【学習のポイント：日々の生活において、子どもの主体性や主体的活動を重視した保育の展開について考察する。】
9	幼稚園で展開される保育内容【学習のポイント：環境を通して行う教育および保育の実際について考える。】
10	幼稚園で展開される生活と遊び【学習のポイント：教育としての視点から、遊びの中にある学びに気づく。】
11	幼保連携型認定こども園の一日【学習のポイント：教育及び保育の実際が、どのように展開されているのかを考える。】
12	多様な保育について【学習のポイント：外国籍幼児の保育、一時預かり保育、病児保育等、多様な保育の在り方を考える。】
13	園と家庭との信頼関係について【学習のポイント：園と家庭との連携において育まれる子どもの育ちを考察する。】
14	地域の子育て支援の取り組み【学習のポイント：具体的な事例を通して、子育て支援と保育内容について留意することを考える。】
15	保育所・幼稚園・小学校における連携・接続の課題【学習のポイント：家庭、地域、小学校等との連携及び接続の意義を考える。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子どもの遊びの姿を具体的に示し、そこにどのような学びがあるのかを考察し、保育者の役割を踏まえて述べなさい。

第2課題

保育所・幼稚園・認定こども園と小学校における連携と接続の視点について、その動向と課題について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

保育所・幼稚園・認定こども園の保育内容を理解したうえで、遊びの中にある学びを捉える視点の重要性と、それを援助する保育者の姿勢を、テキスト及び参考文献から論述すること。

第2課題の留意点

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を軸に、学びの連続性と一貫性を考える。それを踏まえ、保育所・幼稚園・認定こども園、小学校における連携及び接続についての動向と課題について、テキスト及び参考文献から論述すること。

レポートの評価基準

・テキストを精読の上で、その内容を整理し、参考文献などの情報を加味して自らの考えを論述している。
・課題の趣旨を正確に把握し、論旨を展開している。
・レポートの形式、文章表現、誤字脱字などに留意して記入している。
・参考文献を明記している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全体をよく読み、内容理解に努めること。また、必ず 3 冊の参考文献から理解を深め、設題の趣旨を正確に把握して、実態や経験を通して理解していることを含め論じること。

科目修了試験の評価基準

・設題内容を正しく理解し、論理的に記述できている。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述がある。
・誤字脱字なく記入している。
・テキスト学習によって得た知識に基づき論述している。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20157	科目名[単位数／学習時間]	子ども家庭支援の心理学［2単位／90時間］	科目担当	権藤　眞織
テキスト	●青木紀久代　『シリーズ知のゆりかご　子ども家庭支援の心理学』　みらい				
ISBN	9784860154820	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,100	生協テキストNo.	22124

科目の目的

・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。
・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。
・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
・子どもの精神保健とその課題について理解する。

到達目標

・発達に関する心理学的知見を理解し、説明できる。
・家族や家庭の機能を理解し、説明できる。
・子育て家庭の特徴と社会との関連について説明できる。
・子どもの精神保健について説明できる。

学習テーマ

1	子どもと家庭の支援とは何か
2	乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴
3	思春期から青年期の発達の特徴
4	成人期から高齢期の発達の特徴
5	家族システムと家族発達
6	親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達
7	子育て環境の社会状況的変化
8	ライフコースとワーク・ライフ・バランス
9	多様な子育て家庭への支援
10	特別な配慮を必要とする家庭への支援
11	子どもを取り巻く生活環境と心身の健康
12	子どもの心と健康
13	障害のある子どもの理解と対応
14	災害と子ども
15	子どもと家庭を支援するために

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

あなた自身の「自分史」を作成し、乳幼児期から青年期にわたる発達の特徴を併せてまとめ、人の成長発達について、解説しなさい。そして、あなた自身のこれまでの発達およびこれから生涯にわたっての発達についても振り返り、展望を述べよ。

第2課題

あなたのまわりの子育て経験のある人物についてインタビューをして、「親になること」「親として育っていくこと」について考察を深めよ。インタビュー対象者、月日、時間、内容を報告し、インタビュー結果をまとめる。併せて、家族・家庭の意義と機能について調べ、解説しなさい。

各課題の留意点

課題共通の留意点

第1課題、第2課題とも、必ずしも論述のみの形式で作成しなくてもよい。調べたことを表や図解でまとめたものを記載してもかまわない。なお、自筆で図表を作成する場合は、レポート用紙の裏面（白紙の面）を活用し、作表・図解する。論述部分はレポートの表面、図表は裏面（白紙面）を使用し、裏面（白紙面）に記載する場合、その用紙の原稿用紙面には何も記載しないこと。また、何を表した図表なのか、わかるように作成する。（図表のタイトル、キャプション、出典を入れる。図表の書き方については、さまざまなテキストや専門書、インターネットで検索。）【※すべてあわせて5枚程度までとする。】

第 1 課題の留意点

あなたのこれまでの人生を振り返り、自分史を作成する。乳児期、幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期などの人生の各時期のあなた自身の経験や成長・発達を概観してみよう。発達については、テキストの第 1 章から 4 章までを精読し、また、テキストだけでは不十分なので、他の文献にもあたって学びを深める。発達の各ステージにおいて、その世代ならではの特徴を理解し、人の発達のダイナミックな流れを掴み、どのような暮らし方や援助がより健やかで幸せな人生のサポートになるか考察してほしい。最後に、あなた自身のこれからの発達や変化を展望し、あなた自身の人生に対しても考察してみよう。これから先の人生については、あなたの周りの年上の様々な世代の方々と交流したり話を聴いたりして、この先どのような変化が起こりうるか予測しつつ、展望してみる。

（コロナ禍においては、感染対策を考えながら、リモートなどさまざまな手段を工夫して、人生の先輩の話を聴いてみて、これからのあなた自身の人生に思いを馳せてみる。）

第 2 課題の留意点

「親になる」とはどういうことか。「家族」「家庭」の支援を行うためには「親」の理解が不可欠と言える。あなたの身の回りの人間関係の中で、子育て経験のある人（あなたの親御さんでもごきょうだいや親せき、また友人や職場の仲間などあなたが課題のテーマについて語り合える人であればどなたでも可）にインタビューをしてみよう。インタビュー内容も各自で工夫して検討すること。「子育て」というプライベートな事柄に対してのインタビューなので、相手への配慮も十分に行うことも重要となる。「親としての成長」「子どもから見た親」など様々な角度から「親」について考察を深める。また、テキストも参考にして、「家族」「家庭」についても理解を深める。第 1 課題で考えたように、あなた自身の家族や家庭についても、省察をして、インタビューおよび、テキストや文献から学んだことを、自分の実生活において、どのように捉えなおしができるのか、私見を述べる。

レポートの評価基準

・課題の趣旨に沿い、専門用語の定義、解説がなされている。
・複数の文献、資料を引用している。（ 2 件から 3 、 4 件。最低、テキスト以外に 2 件。）
【※レポートの文末に、引用文献のリストをつけておくこと。テキスト以外の引用文献が、 2 件未満であれば不合格となる。】
・専門用語を正しく理解して、必要に応じて専門用語を用いて論述している。
・日常的な具体例を挙げながら、わかりやすく解説されている。
・課題に対しての私見が書かれている。
・理論的な論旨の組み立てができているかを重点的に考査し、評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

答案作成にあたっては、まず、設題をよく読んで意図を読み取り、解答すべき観点を把握した上で、心理学および保育の専門的な観点やキーワードを用いて論理的に簡潔に解答すること。専門用語を用いる場合は、定義と日常例を解説する。自分が学習した心理学および保育の専門知識や専門用語を明示するとよい。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨に沿って、論理的に根拠を述べながら論述されている。
・専門用語を正しく理解して、定義、解説がなされている。
・必要に応じて、日常的な具体例を挙げながら、わかりやすく解説されている。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・永田豊志　『すべての勉強は、「図」！でうまくいく　今までの10倍「記憶力」「思考力」が強くなる』　三笠書房
・『月刊 保育とカリキュラム（保育雑誌)』　ひかりのくに

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の Ⅻ ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20159	科目名[単位数／学習時間]	乳児保育論［2単位／90時間］	科目担当	大江　まゆ子
テキスト	●乳児保育研究会　『改訂5版　資料でわかる乳児の保育新時代』　ひとなる書房				
ISBN	9784894642539	本体価格(円)(2022年1月現在)	1,800	生協テキストNo.	22074

科目の目的

乳児保育の基本、保育の実際について学ぶ。保育制度及び乳児保育に関わる問題等についても学習し、乳児保育の課題を考える。

・乳児の基本的生活と遊びを豊かにする乳児保育の内容と方法について学ぶ。
・保育の計画の重要性と乳児保育の実際を学ぶ。
・乳児保育の歩みを概観し、保育制度の現状を理解し、現代の課題を明らかにする。
・保護者との連携、子育て支援における現状と課題を理解し、保育者の役割を考える。

到達目標

・乳児の育ちを保障するため、基本的生活と遊びを中心とした乳児保育の内容と方法について理解する。
・乳児保育における保育の計画の作成について、特に月齢差、個人差が著しい乳児期は個別に作成し、0歳・1歳・2歳児ともに年間を通して発達の過程を見通す重要性についての理解を深める。また、個々の子どもの姿や家庭状況をよく把握する重要性を理解する。
・乳児保育の歩みや現状、保育制度についても理解を深める。
・保護者支援の基本や信頼関係の構築について理解する。
・在園児の保護者支援とともに、地域の子育ての専門機関として、在宅の子育て支援も保育所の業務の一つであることを理解する。

学習テーマ

1	乳児の基本的生活を中心とした保育内容と方法【学習のポイント：乳児保育の養護の重要性と乳児期における基本的な生活の確立を目的とした援助を理解する。＜テキストpp.34-61＞】
2	乳児保育における健康及び安全管理【学習のポイント：月齢や発達による健康及び安全管理における保育士の配慮事項を理解する。＜テキストpp.40-61＞】
3	乳児保育の遊びを中心とした保育内容と方法【学習のポイント：乳児期の遊びのあり方、遊びを通した乳児の育ちについて理解する。＜テキストpp.62-87＞】
4	0歳児期の遊びと援助【学習のポイント：0歳児の月齢や発達による遊びの特徴と保育士の役割について理解する。＜テキストpp.62-63、pp.65-68、pp.69-71、pp.73-75＞】
5	1歳児期の遊びと援助【学習のポイント：1歳児の発達による遊びの特徴と保育士の役割について理解する。＜テキストpp.63-64、p.68、p.72、pp.74-76＞】
6	2歳児期の遊びと援助【学習のポイント：2～3歳児の発達による遊びの特徴と保育士の役割について理解する。＜テキストpp.64-65、p.69、pp.76-77＞】
7	乳児保育における遊びと環境【学習のポイント：発達に応じた遊び環境とはどのようなものか、またあそび文化について理解する。＜テキストpp.77-87＞】
8	保育の計画と記録【学習のポイント：現在の姿から育ちの見通しを持って保育を行う重要性を理解する、子どもの姿の記録と計画とのつながりを理解する。＜テキストpp.34-36、pp.88-107＞】
9	乳児保育と「3歳児神話」【学習のポイント：3歳児神話はどのようなものか、またボウルビー学説から学ぶべき点について理解する。＜テキストpp.108-111＞】
10	子どもの発達と乳児保育【学習のポイント：子どもの発達によい影響を与える保育条件とはどのようなものか、また様々な保育の質に関する議論について理解する。＜テキストpp.111-115＞】
11	親としての発達に関わる要因【学習のポイント：育児不安と親の就労環境、赤ちゃんの気質などの親としての発達に関わる要因について理解する。＜テキストpp.116-121＞】
12	親子の豊かな育ちに必要な保護者支援【学習のポイント：親子の絆を作る条件とはどのようなものか、また長時間保育や一時保育を利用する保護者に対する保育士としての支援を理解する。＜テキストpp.122-125＞】
13	乳児保育を行う保育士のあり方【学習のポイント：複数担任、担当制とはどのようなものかを理解する。＜テキストpp.126-137＞】
14	乳児保育のあゆみ【学習のポイント：乳児保育の歴史的変遷と乳児保育の一般化について。＜テキストpp.138-146＞】
15	乳児保育の現状と課題【学習のポイント：多様化するニーズに対応する乳児保育の様々な事業。＜テキストpp.146-174＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

基本的生活場面における乳児の主体性を引き出す養護と教育が一体となった保育士の援助とはどのようなものか。具体的な場面を想定して述べなさい。

第2課題

保護者支援は乳児保育において非常に重要な要素となる。保護者の就労と子育てを支援し、育児不安を軽減するために、乳児保育を行う保育士に求められる専門性とはどのようなものであるか、述べなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキストや参考文献の『保育所保育指針』、他の参考文献を参考に、保育所保育の特性、子どもの発達を十分に理解し、乳児保育の基本に立って考えることが重要である。テキストでは特に第 2 章を読み込み、子どもの生命の保持と情緒の安定を保障しつつも、月齢や発達に応じて基本的生活習慣が身に付けられるよう、子ども自身の意欲や自発性を引き出すような保育士の援助を理解し、具体的援助場面を想定してレポート作成することが重要である。

第 2 課題の留意点

テキストや参考文献の『保育所保育指針』、他の参考文献を読み、保育士の専門性を十分に理解し、保護者に対する支援の基本を理解しておくことが重要である。また、乳児保育の現状や課題についても理解が必要である。テキストでは特に第 5 章、参考文献の『保育所保育指針』では特に第 4 章を読み、子育て中の保護者に対して、保育士としてどのように支援することが重要であるかを理解し、整理したうえで述べることを求める。

レポートの評価基準

・文字数は、1,800字以上～2,000字以下とする。
・設題の趣旨を理解し、テキストから学んだ内容をしっかりとふまえて、自分の考え・表現（言葉）で、いかに的確に論述できているかについて評価する。（自分の経験等を入れる場合は簡潔に。）
・次の 3 点を評価基準とする。
①テキストを精読理解の上で参考文献などの情報を加味して課題について論述していること。（テキスト、参考文献等を引用した場合は、「　」でくくり、著者名・書名・出版年・出版社名、ページ等を必ず明示すること。）
②自らが十分に理解した内容について、主語と述語の関係などに留意して、課題に対して的確にまとめていること。
③他者が読むことを意識して漢字を適切に使用し、誤字・脱字がなく丁寧に作成していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストや参考文献の熟読、理解が本科目に対する理解を深めることになる。また、乳児保育の学習は実践に活かされる必要があるため、できるだけ具体的な子どもの姿と保育者の関わり、及び保護者の姿を想像しながらテキスト、文献等を読み込むことが重要である。その上で理解した内容を整理、咀嚼し、その理解に基づき、自分の言葉で答案を作成することが重要である。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて的確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、適切な大きさの文字で解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。
・テキスト学習により得た基礎的なことを説明した上で、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことだけを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・社会福祉法人あすみ福祉会茶々保育園グループ　『見る・考える・創りだす　乳児保育　養成校と保育室をつなぐ理論と実践』　萌文書林

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20160	科目名[単位数/学習時間]	社会的養護Ⅰ［2単位／90時間］	科目担当	藤原　伸夫
テキスト	●吉田眞理　『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』　萌文書林				
ISBN	9784893473240	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,000	生協テキストNo.	22125
テキスト	●内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>（平成29年告示）』　チャイルド本社				
ISBN	9784805402580	本体価格(円)(2022年1月現在)	500	生協テキストNo.	22117
実務経験のある教員による科目	地方公務員（福祉専門職）				

科目の目的

子どもを取り巻く社会的状況や子どもの育ちを踏まえて、社会的養護の意義と制度、現行の制度や実施体系を把握し、子どもの権利に基づいた社会的養護の基本原理について理解する。また現在、社会的養護が抱えている課題についても学習する。児童福祉法（平成28年6月3日公布）が改正され、児童の福祉を保障するための原理が明確になった。社会的養護が児童の人権擁護の砦であることを理解することが究極の目的である。元児童指導員などの実務経験を活かして教授する。

到達目標

・現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。
・社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
・社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。
・社会的養護の現状と課題について理解する。

学習テーマ

1	現代社会における社会的養護の意義と変遷【テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』第1講】
2	子どもの人権擁護と社会的養護【テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』第2講】
3	家庭の機能と社会的養護【テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』第3講】
4	社会的養護の基本原則Ⅰ　養育<日常生活支援>【テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』第4講】
5	社会的養護の基本原則Ⅱ　保護<自己実現に向けた支援>【テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』第5講】
6	社会的養護の基本原則Ⅲ　子どもであることへの回復<治療的支援>【テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』第6講】
7	社会的養護の基本原則Ⅳ　生活文化と生活力の習得<自立支援>【テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』第7講】
8	社会的養護の基本原則Ⅴ　生命倫理観の醸成<生と性の倫理>【テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』第8講】
9	社会的養護の制度と実施体系【テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』第9講】
10	施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ　乳児院と児童養護施設【テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』第10講】
11	施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ　障害児の入所施設【テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』第11講】
12	施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ　児童自立支援施設と児童心理治療施設【テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』第12講】
13	家庭養護の特徴・対象・形態　里親とファミリーホーム【テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』第13講】
14	社会的養護の現状と課題【テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』第14講】
15	社会的養護と地域福祉【テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』p.222以降】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

児童の権利に関する条約が、わが国の児童福祉にどのような影響を与えたか説明しなさい。

第2課題

施設養護における子どもへの日常生活の援助と自立支援について、施設保育士として心がけねばならないことはどのようなことか述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

2016年児童福祉法が改正され、児童の人権擁護を明確にした。テキスト及び改正・児童福祉法の条文の意味を十分に理解して課題に臨むことが大切である。テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』第2講を熟読し、テキストを引用するだけではなく、「児童の権利に関する条約」の意義と児童福祉法の関連性にふれて説明すること。

第 2 課題の留意点

特にテキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』第 7 講を熟読すること。保育士が施設において生活文化を伝える重要性とレジリアンス（回復力）等への注目、ケースワークの活用等、専門職としての視点から述べること。

レポートの評価基準

・「課題の留意点」に注意し、専門用語を正しく理解して使用していること。
・テキスト以外にも最新のデータを、報道や白書などから引用していること。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスが無いように留意すること。
・すべての課題に共通であるように、2,000字程度という枠を守ること。
・引用元の出典を明示すること。テキストであっても、引用箇所を明確に示すこと。
・文末に「参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。それらは、本文（2,000字程度）の文字数には含まれない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト『児童の福祉を支える　社会的養護Ⅰ』を熟読し、十分理解を深めておくことが大切である。特に、子どもの人権擁護と社会的養護（第 2 講）、社会的養護の基本原則である保護（第 5 講）、社会的養護の制度と実施体系（第 9 講）、施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ・Ⅲ（第10講・12講）、家庭養護の特徴・対象・形態（第13講）、社会的養護の現状と課題（第14講）等について理解を深めておくことが必要である。

科目修了試験の評価基準

・「児童の権利に関する条約」の意義、特に「子どもの最善の利益を護る」「意見表明権」が社会的養護の基盤にあることを理解することが重要である。
・現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解できているか。
・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解できているか。
・社会的養護の制度や実施体系、対象や形態、さらには関係する専門職等について理解できているか。
・社会的養護の現状と課題について理解できているか。
・文字数が極端に多い又は少ない場合は不合格となることがある。また、誤字脱字等も減点対象となる。

参考文献

・伊藤嘉余子　福田公教　『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉　5　社会的養護』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20162	科目名[単位数／学習時間]	社会的養護Ⅱ［1単位／45時間］	科目担当	波来谷　徹生
テキスト	●吉田眞理　髙橋一弘　村田紋子　『児童の福祉を支える ＜演習＞ 社会的養護Ⅱ』　萌文書林				
ISBN	9784893473257	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,000	生協テキストNo.	22126
実務経験のある教員による科目	児童養護施設施設長				

科目の目的

コロナ禍で、離職・解雇の記事は多く取り上げられている。子育て世帯、母子家庭等では就労できない為に子育て世帯が貧困で孤立し虐待が発生していると考えられる。

本科目では「子どもの最善の利益」とは何かを考え、児童養護施設を利用する家庭の状況と課題を例示し、施設が児童・親へどのような援助をしているのかを検証する。そして、国が里親委託を推進している理由と施設の小規模化により現場が抱える問題点を考え、援助する大人に求められる資質と社会的養護のあり方を考えていく。

到達目標

・「子どもの最善の利益」とは何かを子どもを真ん中にして考えていく。
・虐待を受けた子どもたち、貧困で食事·学業や進学の機会を奪われている子どもたちがいるという現実を知り、どういった社会的支援が有り、どういった支援がなされているかを学習する。そして、施設・小規模施設・里親養育の現状を比較して、それぞれのよい所・不都合な所を検証し、子どもの最善の利益を守るための「社会的支援」はどうあるべきか考える。

学習テーマ

1	「子どもの最善の利益」とは何かを考える。
2	保育士等の職務における倫理及び責務を理解する。
3	児童福祉の体系と児童養護施設の概要を学習する。
4	日常生活支援の内容と施設・里親での暮らしについて学習する。
5	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその傾向について学習する。
6	家庭調整する上での子どもへの援助方法と自立に向けての援助方法を学ぶ。
7	国が里親委託を推進する理由とその課題について検証する。
8	社会的養護の課題と展望について自分の考えをまとめる。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

「子どもの最善の利益」とは何かを、社会的養護の施設などで働く職員・里親が子育てでどういう支援をして、どのように自立に繋げているかを述べなさい。

第1課題の留意点

「子どもの最善の利益」とは何かを考えていく。虐待を受けた子どもたち、貧困で食事・学業や進学の機会を奪われている子どもたちの現状を認識し、社会的養護の施設等はどういった支援をしているか。そして、家庭と施設・小規模施設・里親のそれぞれの良い所、不都合な所を検証し、子どもの最善の利益を守られる「社会的支援」について考える。

レポートの評価基準

「子どもの最善の利益」とは何か、子どもにとって特にどういう支援が必要かを自分の考えを整理して記述する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト学習やスクーリング受講で得た知識と現在の社会情勢を見ながら、「子どもの最善の利益」を守るために何ができるかを自分自身の考えを記述する。
・社会的養護の施設で働く職員・里親はどういう支援をしているか、そして職員・里親に求められる資質を記述する。

科目修了試験の評価基準

「子どもの最善の利益」と「子どもにとって大切なこと」について、どの程度理解し自分自身の意見を記述しているか。

参考文献

・児童養護研究会　『養護施設と子どもたち』　朱鷺書房
・土井高徳　『神様からの贈り物　里親土井ホームの子どもたち』　福村出版
・小田兼三　石井勲　『養護内容の理論と実際』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20163	科目名［単位数／学習時間］	子ども家庭福祉Ⅰ［2単位／90時間］	科目担当	藤原　伸夫
テキスト	●倉石哲也　伊藤嘉余子　澁谷昌史『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉 1 子ども家庭福祉　第2版』ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623092932	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	22127
実務経験のある教員による科目	地方公務員（福祉専門職）				

科目の目的

現在、子どもは保護の対象としてだけでなく権利の主体として捉えられている。しかし、その権利が守られているとは言い難い状況も存在する。そのため、子どもとその家族だけでなくその環境をもしっかりと捉えることが必要である。さらに子どもやその家族にかかわる諸問題は、様々な事象が絡み合って生じていることをこの学習を通して理解してほしい。

本科目担当者の福祉専門職としての経験などを踏まえながら、子どもを中心として家族・地域・社会全体を見据えた支援の展開ができる視点や基礎的知識を習得することが目的である。

到達目標

・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
・子どもの人権擁護について理解する。
・子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
・子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

学習テーマ

1	なぜ子ども家庭福祉を学ぶのか＜テキスト レッスン1＞【学習のポイント：子どもの幸せを守る社会について理解する。】
2	子ども家庭福祉とは何か＜テキスト レッスン2＞【学習のポイント：子ども家庭福祉と基本的人権について理解する。】
3	現代社会と子ども家庭福祉ニーズ＜テキスト レッスン3＞【学習のポイント：少子化と子育てにかかる負担感について理解する。】
4	保育と子ども家庭福祉＜テキスト レッスン4＞【学習のポイント：子ども家庭福祉が求める保育士について理解する。】
5	子ども家庭福祉の歴史①＜テキスト レッスン5＞【学習のポイント：古代～大正の歴史について理解する。】
6	子ども家庭福祉の歴史②＜テキスト レッスン6＞【学習のポイント：昭和以降の歴史について理解する。】
7	子ども家庭福祉に関わる国の施策＜テキスト レッスン7＞【学習のポイント：児童福祉関連法の制定から現在に至るまでの改正点等を理解する。】
8	近年の子ども家庭福祉の課題＜テキスト レッスン8＞【学習のポイント：子ども・子育て支援新制度について理解する。】
9	子ども家庭福祉の制度と法体系＜テキスト レッスン9＞【学習のポイント：子ども家庭福祉を支える法律について理解する。】
10	子ども家庭福祉を実施する行政機関＜テキスト レッスン10＞【学習のポイント：子ども家庭福祉を支える行政機関の業務等について理解する。】
11	児童福祉施設等＜テキスト レッスン11＞【学習のポイント：社会的養護の施設、障害児施設等について理解する。】
12	子ども家庭福祉の費用＜テキスト レッスン12＞【学習のポイント：施設整備の費用や施設の運営費用、また利用者負担について理解する。】
13	子ども家庭福祉の専門職＜テキスト レッスン13＞【学習のポイント：子ども家庭福祉の関係機関と関係施設の専門職について理解する。】
14	子ども家庭福祉のネットワーク＜テキスト レッスン14＞【学習のポイント：子ども虐待の対応や障害のある子ども等への支援ネットワークについて理解する。】
15	子ども家庭福祉と権利擁護＜テキスト レッスン15＞【学習のポイント：子どもの権利擁護に関する取り組みについて理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

児童福祉は、近年子ども家庭福祉という捉え方に変わってきた。その理由を説明しなさい。

第2課題

子ども家庭福祉推進のため様々なネットワークがあるが、その目的と取り組みについて説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章を熟読すること。なお、テキスト第3章レッスン15の子どもの権利擁護も関連付けること。テキスト以外の文献も参考とすること。

第 2 課題の留意点

テキスト第 3 章、特にレッスン13・14を熟読すること。またレッスン 7 の児童福祉法の改正の経緯も参考にすること。テキスト以外の文献も参考に、要保護児童対策地域協議会、母子健康包括支援センター等のキーワードを理解してまとめること。

レポートの評価基準

・課題の趣旨・意図をよく理解して論述している。
・テキストの丸写しではなく、精読の上、自分なりに理解を深め要点が整理されている。
・自分の経験や意見を記述する必要はない。
・参考文献などで学習を深めることが必要である。ただし内容を引用または参考にした場合は必ずその引用先等を示しておく必要がある。
・文字数が極端に多い又は少ない場合は、不合格となることがある（2,000字程度を守ること）。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスが無いように留意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・設題の趣旨を正確に把握し論旨を展開することを心がける。
・設題に関係のないことを論述しても不合格となる。
・テキストの全範囲からの出題となるので、全章を熟読し単元ごとにポイントを理解しておくことが必要である。（レポート課題以外のところも各自でまとめ理解しておくこと。）
・子どもの権利保障について多面的に理解を深めておくことが大前提である。
・子ども家庭福祉における支援には多様な機関や専門職がかかわることから、それらの機能や役割及び関連についても理解しておくことが前提である。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を十分理解し、求められている問いに対して的確に解答ができているかどうかを評価する。したがって、経験や持論を展開しても評価しない。
・設題に関するキーワードがきちんと述べられていること。
・文字数が極端に多い・少ない場合は不合格となることがある。また、誤字脱字等も減点対象となる。

参考文献

・厚生労働省HP 『厚生労働白書（最新版）』
・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会
・遠藤和佳子 『はじめての子ども家庭福祉』 ミネルヴァ書房
・社会福祉法人大阪ボランティア協会 『福祉小六法（最新版）』 中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20164	科目名［単位数／学習時間］	子ども家庭支援論［2単位／90時間］	科目担当	北野　富美子
テキスト	●吉田眞理　『児童の福祉を支える　子ども家庭支援論』　萌文書林				
ISBN	9784893473233	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,000	生協 テキストNo.	22128
実務経験のある教員による科目	公立保育士（主任・所長）、地域子育て支援センター長				

科目の目的

現代の家族の社会的状況や家族生活についての認識を広げ、子どもにとってかけがえのない家庭を支援する保育士の役割について理解する。また、テキストの各所に示されている新聞報道や事例を基に、多様化する家庭像についての理解や具体的な援助のあり方を、各自で研究することにより、最終的には、家庭を支援する理論とその方法を身に付けていくことを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・現代社会における家庭の意義と役割について理解できる。
・子育て家庭を取り巻く社会状況について理解できる。
・保育士が行う家庭支援の意義や基本姿勢について理解できる。
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できる。

学習テーマ

1	家庭・家族とは何か　＜テキスト第1章-1＞
2	子ども家庭支援の目的　＜テキスト第1章-2＞
3	子育てを通じた親の発達　＜テキスト第2章-2～4＞
4	保育の専門性を活かした子ども家庭支援　＜テキスト第3章-1＞
5	子どもの育ちの喜びと共有　＜テキスト第3章-2＞
6	保護者・地域が有する子育て力向上のための支援　＜テキスト第3章-3＞
7	保育士に求められる基本的態度　＜テキスト第3章-4＞
8	家庭及び地域に応じた支援　＜テキスト第3章-5、6＞
9	子育て家庭に対する社会資源　＜テキスト第4章-1＞
10	子育て支援施策の流れ　＜テキスト第4章-2＞
11	子育て支援施策　＜テキスト第4章-3～4＞
12	子ども家庭支援の対象・内容子育て支援施策　＜テキスト第5章-1＞
13	保育所等を利用する子どもの家庭支援　＜テキスト第5章-2＞
14	要保護児童等とその家庭に対する施策　＜テキスト第5章-4＞
15	子ども家庭支援に関する現状と課題　＜テキスト第5章-5＞

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子どもの育ちの喜びを共有することは、保護者にとってどのような意味を持つのかまとめなさい。

第2課題

子育て家庭を支えるためにどのような取り組み、法律・制度があるのか。また、市町村・都道府県・国はどのような役割を担っているのかまとめなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第3・4章を精読した上で、必要箇所を取り上げながらまとめる。また、参考文献等を検索し読み深めた上で、文中に用いることも可能である。

第2課題の留意点

テキスト第3章、参考文献『保育所保育指針』を精読し、教育・保育施設等の特性を活かし、関係機関と連携していくのかについてまとめること。また参考文献『保育所保育指針』の関連箇所について調べながら、盛り込んでいくことも重要である。

レポートの評価基準

・テキスト出版後の最新のデータを報道などから引用していること。
・考察やまとめの箇所は、「個人的な感想」であってはならない。例えば、先行文献や先行調査から示された知見を用いて、自分自身の意見と比較して述べると良い。
・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。
・引用箇所を明確に示し、文末（自筆の場合は欄外の枠）に「注記」を付すこと。テキストからであっても、引用元の出典を明示していないレポートは不可とする。
・文末に「参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。
・日本語の文法に適う文章であること。
・理論的な論旨の組み立てができているかを重点的に考査し、評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・現代社会における家庭の意義と役割について理解できているか。
・子育て家庭を取り巻く社会状況について理解できているか。
・保育士が行う家庭支援の意義や基本姿勢について理解できているか。
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できているか。

科目修了試験の評価基準

・テキストの内容が理解できていること。
・設題内容について、的確にまとめられていること。

参考文献

・石動瑞代　中西遍彦　隣谷正範　『保育と子ども家庭支援論』　みらい
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
※子育てに関する新聞記事や雑誌等にも注意を向けておくことが大切である。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20165	科目名[単位数／学習時間]	子どもの保健［2単位／90時間］	科目担当	松井　学洋
テキスト	●服部右子　大森正英　『図解　子どもの保健Ⅰ　第2版』　みらい				
ISBN	9784860154066	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	22111
実務経験のある教員による科目	特別支援学校養護教諭・看護師、医療福祉センター看護師				

科目の目的

子どもの心身の健全な成長には、その健康の保持及び増進が必要である。本科目では、小児の発育・発達、形態機能、運動機能、精神機能、社会認知機能の発達を学習し、子どもの生活行動と関連させながら健康の保持・増進に必要な知識を学ぶ。また、子どもによく見られる疾患・事故の予防に必要な知識を学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

本科目の到達目標は次の通りである。
①子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。②子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。③子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。④子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。⑤保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。⑥施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制を理解する。

学習テーマ

1	子どもの保健の意義と目的について
2	子どもの発育・発達と保健について①（発育）
3	子どもの発育・発達と保健について②（生理機能）
4	子どもの発育・発達と保健について③（運動機能、精神機能）
5	子どもを取り巻く生活環境と心身の保健について
6	子どもの生活習慣と健康について①（食事、排泄）
7	子どもの生活習慣と健康について②（睡眠、清潔、更衣）
8	子どもの精神（こころ）の保健について
9	子どもの栄養について
10	子どもによくみられる症状とその対処法について
11	事故と安全指導及び応急処置について
12	子どもの病気・異常とその予防について①（先天性疾患、新生児の病気）
13	子どもの病気・異常とその予防について②（子どもの病気）
14	子どもの病気・異常とその予防について③（病気の予防）
15	母子保健行政について

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子どもの身体発育、生理機能、運動機能、精神機能の発達についてまとめなさい。

第2課題

子どもの生活習慣の特徴と健康的な生活習慣形成にかかわる支援についてまとめなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

子どもの発育と発達の意味を理解した上で、身体発育及び、生理機能、運動機能、精神機能の発達を説明し、支援の視点も含めて考察する。

第2課題の留意点

子どもの食事、排泄、睡眠、清潔、更衣などの基本的な生活習慣の特徴を説明し、健康的な生活習慣形成への支援のあり方を考察する。

レポートの評価基準

テキストから学んだ内容を踏まえて、課題に対する自分自身の考察が論述できているかを確認する。また、誤字脱字の有無、漢字の使用、他人が読むことを意識して丁寧に作成できているかも評価基準とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全ページが試験範囲であり、テキスト内容に準じた試験を行う。そのため、テキストをよく読み、内容理解に努めること。子どもの保健の範囲は広いため、子どもの発育・発達、感染症とその対策、様々な疾患、事故の予防と安全管理、子育て支援体制等、幅広く知識を身につけること。

科目修了試験の評価基準

テキストの内容を踏まえずに、自らの経験や自説を記述しても評価しない。設題内容を正確に理解し、テキスト学習によって得た知識を説明した上で、自身の考察を取り入れた答案が作成できているかを評価する。また、解答用紙表面の2/3以上の記述があることを前提に評価を行う。

参考文献

・遠藤郁夫　三宅捷太　『子どもの保健』　学建書院
・八木利津子　平松恵子　新沼正子　『子どもの保健』　青踏社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20168	科目名[単位数／学習時間]	子ども家庭福祉Ⅱ［2単位／90時間］	科目担当	藤原　伸夫
テキスト	●倉石哲也　伊藤嘉余子　澁谷昌史『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉1子ども家庭福祉　第2版』ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623092932	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,400	生協テキストNo.	22127
実務経験のある教員による科目	地方公務員（福祉専門職）				

科目の目的

「子ども家庭福祉Ⅰ」の学びをふまえて、より具体的な援助活動について理解を深める。子ども家庭福祉領域の行政や民間など関係機関の専門職に期待される役割や機能及びその連携のあり方、多様な状況の中にある子どもやその家族を支える相談援助活動について習得することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・子ども家庭福祉で活躍する専門職の機能や役割について理解する。
・子ども家庭福祉における施策及びサービス等を理解する。
・子ども家庭福祉における多様な援助方法の実際を理解する。

学習テーマ

1	少子化と子育て支援サービス＜テキスト レッスン16＞【学習のポイント：少子化の現状と地域子育て支援サービスについて理解する。】
2	多様な保育ニーズへの対応＜テキスト レッスン17＞【学習のポイント：子ども・子育て支援新制度について理解する。】
3	母子保健サービス＜テキスト レッスン18＞【学習のポイント：母子保健施策について理解する。】
4	障害のある子どもへの支援＜テキスト レッスン19＞【学習のポイント：障害のある子どもへの福祉施策について理解する。】
5	健全育成＜テキスト レッスン20＞【学習のポイント：児童厚生施設等について理解する。】
6	子ども虐待対策＜テキスト レッスン21＞【学習のポイント：子ども虐待の現状と防止の対策について理解する。】
7	DVへの対応＜テキスト レッスン22＞【学習のポイント：DVの現状とその対応について理解する。】
8	社会的養護＜テキスト レッスン23＞【学習のポイント：施設養護と家庭養護について理解する。】
9	ひとり親家庭福祉サービス＜テキスト レッスン24＞【学習のポイント：ひとり親家庭への支援施策について理解する。】
10	少年非行への対応＜テキスト レッスン25＞【学習のポイント：児童福祉法と少年法に基づく対応について理解する。】
11	貧困家庭の子どもとその家族への対応＜テキスト レッスン26＞【学習のポイント：子どもの貧困に関する対策等について理解する。】
12	外国籍の子どもとその家族への対応＜テキスト レッスン27＞【学習のポイント：保育所等における外国籍の子どもとその家族への支援について理解する。】
13	子ども家庭福祉の展望（諸外国の動向）＜テキスト レッスン28＞【学習のポイント：諸外国の動向について理解する。】
14	現代社会における子ども家庭福祉の課題＜テキスト レッスン29＞【学習のポイント：子ども家庭福祉の今後の課題について理解する。】
15	これからの「子ども家庭福祉」の展望＜テキスト レッスン30＞【学習のポイント：子ども家庭福祉の今後の動向について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子ども・子育て支援新制度の成立の背景と制度の概要について述べなさい。

第2課題

子ども家庭福祉における近年の社会的養護の現状と今後の動向について説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第4章レッスン16・17を熟読すること。少子化社会を背景に成立した子ども・子育て支援新制度の支援事業は、多種多様で複雑である。テキスト以外の文献も参考にして、分かりやすくまとめること。

第2課題の留意点

テキスト第4章レッスン23を中心に、被虐待児童の保護の視点からレッスン21の子ども虐待対策にも関連付けて現状と課題について整理し、その支援への取り組みについてまとめること。なお、テキスト以外の文献も参考にすること。

レポートの評価基準

・課題の趣旨・意図をよく理解して論述している。
・テキストの丸写しではなく、精読の上、自分なりに理解を深め要点が整理されている。
・参考文献などで学習を深めることが必要である。ただし内容を引用または参考にした場合は必ずその引用先等を示しておく必要がある。
・文字数が極端に多い又は少ない場合は、不合格となることがある（2,000字程度を守ること）。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスが無いように留意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・設題の趣旨を正確に把握し論旨を展開することを心がける。
・設題に関係のないことを論述しても不合格となる。
・テキストの全範囲からの出題となるので、全章を熟読し単元ごとにポイントを整理して理解しておくことが必要である。（レポート課題以外のところも各自でまとめ理解しておくこと。）
・子どもの権利保障について多面的に理解を深めておくことが大前提である。
・子ども家庭福祉における支援には多様な機関や専門職がかかわることから、それらの機能や役割及び関連についても理解しておくことが前提である。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を十分理解し、求められている問いに対して的確に解答ができているかどうかを評価する。したがって、経験や持論を展開しても評価しない。
・設題に関するキーワードがきちんと述べられていること。
・文字数が極端に多い・少ない場合は不合格となることがある。また、誤字脱字等も減点対象となる。

参考文献

・厚生労働省HP 『厚生労働白書（最新版）』
・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会
・遠藤和佳子 『はじめての子ども家庭福祉』 ミネルヴァ書房
・社会福祉法人大阪ボランティア協会 『福祉小六法（最新版）』 中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20170	科目名[単位数／学習時間]	外国語（英語）［2単位／90時間］	科目担当	眞﨑　克彦
テキスト	●樋口忠彦　泉惠美子　加賀田哲也　『小学校英語内容論入門』　研究社				
ISBN	9784327410995	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,100	生協テキストNo.	22132
実務経験のある教員による科目	公立小学校教諭、国公立小学校管理職、教育委員会指導主事				

科目の目的

以下の点について実務経験のある担当者から指導を受けながら学修する。

・小学校における外国語活動・外国語の授業を行う上で必要な英語運用能力向上のため、フォニックスの知識、教室英語、基礎的な文法力、絵本、歌等の活用方法を身に付ける。
・「聞く」、「話す（やりとり・発表）」、「読む」、「書く」の4技能・5領域を総合的に活用し、第二言語習得論の知識を身につけることで、理論に裏付けられた実践力を高める。

到達目標

・授業実践に必要な英語力＜①聞くこと、②話すこと、③読むこと、④書くこと＞を習得する。
・英語に関する背景的な知識＜①英語に関する基本的な知識、②第二言語習得に関する基本的な知識、③児童文学（絵本、歌）、④異文化理解＞を習得する。

学習テーマ

1	小学校外国語活動、外国語科の役割と方向（序章）
2	指導者の英語運用力向上と児童の運用力育成1：聞くこと、話すこと（1章1節）
3	指導者の英語運用力向上と児童の運用力育成2：読むこと、書くこと（1章2節）
4	指導者の英語運用力向上と児童の運用力育成3：技能統合的な活動（1章3節）
5	授業実践に必要な基礎知識1：第二言語習得理論学習の意義、年齢と第二言語習得（2章1節）
6	授業実践に必要な基礎知識2：第二言語習得研究の知見（2章1節）
7	授業実践に必要な基礎知識3：コミュニケーション能力とその指導（2章2節）
8	授業実践に必要な基礎知識4：音声の指導（2章3節）
9	授業実践に必要な基礎知識5：語彙の指導（2章4節）
10	授業実践に必要な基礎知識6：音声と文字の関係の指導―フォニックスの基礎（2章5節）
11	授業実践に必要な基礎知識7：文字、単語、文の書き方の指導（2章6節）
12	授業実践に必要な基礎知識8：文、文構造、文法の指導（2章7節）
13	授業実践に必要な基礎知識9：ライム、うた、絵本、児童用物語（2章8節）
14	授業実践に必要な基礎知識10：国際理解と国際交流（2章9節）
15	教材研究と教材開発の工夫（終章）

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキスト序章、1章（1節～3節）、終章を読み、1つの章か1つの節（1章の場合）を選んでその概要とそれに対する自分の意見をまとめよ。

第2課題

テキスト2章（1節～9節）を読み、1つ選んでその節の概要とそれに対する自分の意見をまとめよ。

各課題共通の留意点

キーワードが何かを考察し、それをレポートに含めて書く。課題とともに、キーワードを明示してから、本文を書き始める。（キーワードは、節にもよるが、3～5程度選ぶ。）

《例》

課題：指導者の英語運用力向上と児童の運用力育成1：聞くこと、話すこと（1章1節）
キーワード：○○○○○、△△△△△、□□□□□
本文・・・・

このように記述することで、読み手は書き手がどのような概念に焦点を当てて考察しているかが分かるので書き手の理解を把握しやすい。また、キーワードを指標に判断できるので、評価のブレが少なくなる。

キーワードは、その節の内容を説明するものであるので、数が多い場合もあるが、すべて上げる必要はなく、自分のレポートの主張に合わせて取捨選択するとよい。キーワードの数が多いときは、内容をまとめきれていないと判断される場合がある。

引用箇所と自分の意見の区別がハッキリ分かるように明記する。著者の言葉を自分の意見としてまとめることはできない。

レポートの評価基準

・テキストの内容が十分に理解されており、それをコンパクトにまとめられているか。
・適切なキーワードを提示してから書き始めているか。
・引用と自分の意見が適切に処理されているか。
例えば、多田（2019）によると、△△は□□と述べている。そのことについて、私は○○の点で賛成であるが、××の点では反対である。その理由は・・・である。（反対意見にも引用があることが望ましい。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの序章、1章（1～3節）、2章（1～9節）、終章の中から選択された内容について、テキストの内容を十分に踏まえて解答する。
・上記の内容について、自分の意見も簡単に交えながら論文形式で解答する。
・試験準備に当たっては、各章、各節の「キーワード」を考えながらテキストを読み進めてほしい。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を正しく理解し、テキストの内容が述べられているか。
・自分の意見を客観的資料に基づいて述べられているか。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年3月＞』　東洋館出版社
・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　外国語活動編・外国語編＜平成29年7月＞』　開隆堂出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20171	科目名[単位数／学習時間]	教科教育法･外国語(英語)［1単位／45時間］	科目担当	眞﨑　克彦
テキスト	●樋口忠彦　加賀田哲也　泉惠美子　衣笠知子　『新編　小学校英語教育法入門』　研究社				
ISBN	9784327410988	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,100	生協テキストNo.	22108
実務経験のある教員による科目	公立小学校教諭、国公立小学校管理職、教育委員会指導主事				

科目の目的

テキストの理論的な内容の章を講読することによって、以下の2点について実務経験のある担当者から指導を受けながら学修する。

・外国語教育に携わる者が知っておく必要のある基礎知識、理論を身につける。
・各章末にある学習課題に取り組むことにより、教授方法の理解を深め、実践的な指導力を身につける。

到達目標

小学校外国語教育の変遷及び今後の方向性に対する目標と内容について理解する。第二言語習得についての知識と実践的指導技術を身につける。実践で使える英語力育成のため、「聞く」「話す（やりとり・発表）」の分野に加えて、「読む」「書く」の技能の向上を目指す。さらに、教材研究やALTとのティームティーチング等の方法についても理解を深める。

学習テーマ

1	外国語教育の目的と目標　学習指導要領における外国語活動、外国語の理念（テキスト第1章）
2	関連分野からみる外国語教育の意義と方向性　母語習得と第二言語習得（テキスト第2章）
3	指導者の役割、資質と研修　よりよい指導者をめざして 日本と諸外国の現状（テキスト第3章）
4	教材の構成と内容　教材の役割と使用法、教材・テキスト作成の基本方針（テキスト第4章）
5	指導目標、領域別目標、年間指導計画の立て方と具体例（テキスト第5章）
6	言語教材と4技能の指導　聞くこと、話すこと（やりとり・発表）、読むこと、書くこと（テキスト第6章）
7	指導方法と指導技術　さまざまな指導法と児童にあった望ましい指導法（テキスト第9章）
8	豊かな小学校外国語教育をめざして　外国語活動の成果と課題を踏まえて（テキスト第14章）

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキストの第1章～第4章までで1つ、第5、6、9、14章の中から1つ、合計2章を選ぶ。それぞれの章末の学習課題の中からレポート課題としてふさわしいものを1つ選び、テキストの内容に基づいてレポートを作成する。（第1章1．第4章 1．等、空所記入、表の完成の課題は除く。）

第1課題の留意点

・1章1問につき1,000字程度記入し、合計2,000字程度とする。
・レポートには、以下の3点を明示する。
①第何章の学習課題を選んだか。
②学習課題の文言（そのままタイトルとして写し書きする。）
③キーワードは何か。（キーワードが何かを考察し、それをレポートに含めて書く。）学習課題とともに、キーワードを明示してから、本文を書き始める。（キーワードは、節にもよるが、3～5程度選ぶ。）本文中のキーワードには、下線を引いておく。
《例》第2章　関連分野からみる外国語教育の意義と方向性
学習課題：1．第二言語習得でインプットとアウトプットが重要である理由をまとめてみよう。
キーワード：○○○○、△△△△、□□□□、◎◎◎◎、・・・・
本文・・・・○○○○は、

レポートの評価基準

・テキストの基本的内容をしっかりと理解しているか。
・各課題について資料や文献に基づいて自分の意見を述べているか。
・留意点を理解し、筋道の通ったレポートになっているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・これまでの成果と課題を踏まえ、小学校で英語活動及び英語を教える際に取り組むべき内容について、自分の意見も含めて具体的に論文形式で述べる。
・科目修了試験内容は、テキストの第1章～第6章、第9章及び第14章、合計8章の中の章末の学習課題を中心に出題するので、それぞれの課題をしっかりと学習しておくこと。
・各章の重要語句（キーワード）を把握し、それらについて論理を展開すること。

科目修了試験の評価基準

・テキストの内容が十分理解できているかどうか。
・小学校英語教育に対するこれまでの成果と課題を理解し、今後の指導に活かせる内容となっているか。
・上記の内容を踏まえて、自分の意見も述べられているかどうか。

参考文献

・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編＜平成29年７月＞』 開隆堂出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20172	科目名[単位数／学習時間]	総合的な学習の時間の指導法(初等)[2単位／90時間]	科目担当	山田　希代子
テキスト	●田村学　『小学校新学習指導要領の展開　総合的な学習編　平成29年版』　明治図書出版				
ISBN	9784183289124	本体価格(円)(2022年1月現在)	1,800	生協テキストNo.	22133
実務経験のある教員による科目	公立小学校教員・管理職、小学校教育研究会部長（生活・総合的な学習部）				

科目の目的

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。総合的な学習の時間の学習の進め方のポイントを学び、授業設計やその際の効果的な情報機器・教材の活用を取り入れ実践的な指導力を形成する。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解する。
・総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付ける。
・総合的な学習の時間の指導と評価の考え方および実践上の留意点を理解する。

学習テーマ

1	総合的な学習の時間の改訂の趣旨及び要点 <テキスト初めに・序章>
2	総合的な学習の目標の構成と趣旨 <テキスト第1章>
3	各学校において定める目標及び内容 <テキスト第2章1・2・6・7・8>
4	指導計画作成上の配慮事項と内容の取扱いの配慮事項 <テキスト第3章10・11>
5	指導計画の要素と全体計画と年間指導計画 <テキスト第3章1>
6	各学校が定める目標の設定 <テキスト第2章1・3・4・5>
7	各学校が定める内容とは <テキスト第2章2・6・7・8>
8	探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力とは <テキスト第2章9>
9	年間指導計画の基本的な考え方及びその作成 <テキスト第3章2>
10	単元計画の考え方とその作成と学年に応じた実践事例 <テキスト第3章3・4>
11	総合的な学習の過程を実現する学習指導 <テキスト第3章5・6・7>
12	総合的な学習の評価のあり方と授業設計 <テキスト第3章12・13・14・15・第4章>
13	総合的な学習の時間を充実させるための体制作りのあり方 <テキスト第3章8>
14	総合的な学習の時間の環境整備について（学習空間・教室・図書館・情報等）<テキスト第3章9>
15	外部との連携の必要性とその留意点について <テキスト第4章8-2④・教師としての心構え>

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

総合的な学習の時間における「考えるための技法」とは何か、また、「考えるための技法を活用する」とはどのようなことなのかについて説明しなさい。

第2課題

自分が暮らしている地域の課題や特色に対応する探究課題を設定し、探究課題の解決を通して育成する資質・能力を明らかにしたうえで、具体的な単元計画を作成しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

今回の改訂で示された「考えるための技法」とその活用について、テキスト第3章5（pp.56-59）を熟読し理解する。テキスト第4章　総合的な学習の時間の新授業プラン4・6における授業場面での活用や、参考文献『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間編＜平成29年7月＞』第4章第2節（2）（pp.48-51）、第5章第3節4（pp.82-86）を参考にするとよい。

第2課題の留意点

ここでいう自分が暮らしている地域の課題や特色に対応する課題とは、町づくり、伝統文化、地域経済、防災など各地域や各学校に固有の横断的・総合的な諸課題のことである。持続可能な地域社会の実現をなしていくことを期待される子どもたちにどのような資質・能力が必要とされるのかを考え、どのようにして力をつけていくのかを押さえること。

単元計画は、①単元名（学年）②時数 ③単元目標（育成を目指す資質・能力）④教材について ⑤評価規準 ⑥単元の展開によって構成すること。⑥単元の展開は、探究的な学びの過程・小単元名・小単元のねらい・児童の主な学習活動・教師の支援・評価の観点と方法等が分かるようA4白紙用紙（片面使用）に必要な罫線を引き手書きによる作成とする。実践例を参考にしたり、ネット等で諸データを引用したりした場合は、必ず出典を明記すること。枚数は全体で5枚とする。

授業のポイントやプランの具体例については、テキスト第4章の新学習プランを参考にするとよい。

レポートの評価基準

・課題の意図を把握し、テキスト学習で得た基本的なことを説明したうえで、自分の考え・表現でまとめ、いかに的確に論述できているのかで評価する。
・文字数は、1,800字～2,000字とする。ただし、第 2 課題については、表作成が必要となるので、字数については制限しない。
・テキストを精読理解したうえで、参考文献等の情報を加味して課題について論述していること。
・テキスト・参考文献・実践例・インターネットの情報を引用した場合は、「　」でくくり、著者名・書名・出版年・出版社名・実践校名・実践事例集名・ページ数・URL・閲覧日等を必ず明記すること。
・主語述語の関係などに留意して、適切に段落や章を設定し、誤字脱字なく、他者が読むことを意識して丁寧に作成すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの内容を熟読し、目標、内容、各学校において定める目標及び内容、目標を実現するにふさわしい探究課題、評価等について深く理解しておくこと。第 1 目標に示されている文言の詳しい内容については、参考文献『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間編＜平成29年 7 月＞』第 2 章第 1 節・第 2 節（pp. 8 -17）を読んでおくと理解が深まる。
・総合的な学習の時間の学びの特質にかかわるキーワードとなる事柄についてまとめておくとよい。
・総合的な学習の時間の特質を十分に理解し、年間指導計画や単元計画の作成等についても理解を深めておくこと。
・実践に生かすため、できるだけ具体的な子どもの学びの姿と教師としてのかかわりを想像しながら読み込み、指導上の留意点についても確認をしておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を正しく理解し、キーワードや関連する事項をとらえて的確に説明できているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容に記載されている事項を踏まえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・筋道を立てて論理的に展開できていること。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上に記述があること。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総合的な学習の時間編＜平成29年 7 月＞』 東洋館出版社
・総合的な学習の時間の実践集（各自で調べる）

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20173	科目名［単位数／学習時間］	子どもと健康［1単位／45時間］	科目担当	植山　佐智子
テキスト	●勝木洋子　『保育者をめざすあなたへ　子どもと健康　第2版』　みらい				
ISBN	9784860154714	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,100	生協テキストNo.	22114

科目の目的

乳幼児が生活や遊びの中で積極的に身近な環境と関わることの意義、その重要性、発達に及ぼす影響について理解を深める。また、常に社会の変化に敏感な視点を持ち、子どもの実態と理解を深める。また世界的な歴史の流れを理解し、広い視野で子どもの健康についての知識を得る。

到達目標

・子どもの健康と保育の意義について理解する。
・『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を理解する。
・乳幼児期の心と体の発達的特徴、基本的生活習慣の形成を理解する。
・子どもの心身の発達について理解する。
・生涯を健康に送るための基礎として健康環境を考える。

学習テーマ

1	テキスト第1章「健康に生きる」を読んで、健康に関する世界と日本の流れと健康の歴史を知る。日本の健康の流れを理解する。
2	テキスト第4章「保育における領域〈健康〉①」を読んで、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を理解する。
3	テキスト第5章「保育における領域〈健康〉②」を読んで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保幼小の連携について」を理解する。
4	テキスト第2章「発育と発達」を読んで、子どもの身体的発達、姿勢･運動系の発達、神経系の発達を理解する。
5	テキスト第3章「子どもを取り巻く環境の現状と健康課題」を読んで、子どもの生活の現状を理解する。
6	テキスト第3章「子どもを取り巻く環境の現状と健康課題」を読んで、健康課題とその対策を理解し、幼児期の健康にふさわしい環境（人的・物的・自然）をまとめる。
7	テキスト第6章「子どもの健康と生活習慣」を読んで、基本的生活習慣の自立の重要性を理解する。
8	テキスト第6章「子どもの健康と生活習慣」を読んで、基本的生活習慣の自立における環境構成の重要性を理解する。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子どもが健康で安全に集団生活が過ごせるように、それぞれの発育・発達をとらえることが重要である。健やかに伸び伸びと育つための健康環境を家庭と園の連携も踏まえて考察しなさい。

第1課題の留意点

・さまざまなデータや参考文献などを調べ学習をしてまとめる。
・保育者として保育するという観点に立ち、レポートをまとめる。
・参考文献や資料を検索し、それらを用いて論を展開する。

レポートの評価基準

・課題に沿った調べ学習と、それらの情報を自身でまとめる力を求める。テキストをまとめるだけではなく、テキストを基に関連する参考文献･資料を活用し、まとめること。
・参考文献や白書などの資料を用いて広汎な調べ学習をし、それらを用いて考察できているか。＜※参考文献や資料については、必ず明示する＞
・事例の記述など社会の変化やオリジナリティのあるレポート内容であるか。
・正しい日本語記述で誤字・脱字はなく、2,000字の9割以上記述されているか。
・課題の趣旨に沿ったレポートで、論理的に無理なく全体の流れになっているか。
　などを総合的に評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを十分読みこなし、理解した上で事例なども加えて、論点をまとめること。

科目修了試験の評価基準

テキストを十分理解し、設題に沿った解答であるかを判定する。単に「健康」の領域だけではなく保育内容の領域にわたる深い考察がなされているかも注目する。

参考文献

・文部科学省　『幼児期運動指針』
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　『子供・若者白書』『少子化社会対策白書』『男女共同参画白書』など

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20174	科目名［単位数／学習時間］	子どもと人間関係［1単位／45時間］	科目担当	福井　逸子
テキスト	●田宮縁　『体験する・調べる・考える　領域「人間関係」　第2版』　萌文書林				
ISBN	9784893472922	本体価格(円)（2022年1月現在）	1,900	生協テキストNo.	22134
実務経験のある教員による科目	幼稚園教諭（公立・私立）、保育士				

科目の目的

本科目では、領域「人間関係」の基盤となる、乳幼児の「人と関わる力の育ち」に関する専門的事項についての知識を身に付けることを目的とする。なお、本科目で使用するテキストは、学習者自身が体験している（体験してきた）ことを子どもの体験に置き換えて、考察を深めることが可能である。全編を通して、絵本や小説、エッセイが引用されているため、これらを参考引用文献として読み進めることを推奨する。実務経験を活かして教授する。

到達目標

乳幼児期の人間関係の発達について、保育現場における関係発達論の視点から理解する。
- 乳時期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。
- 幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、説明できる。
- 自立心の育ち、協同性の育ちについて、発達の姿を合わせて説明できる
- 道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿を合わせて説明できる。
- 家族や地域との関りの育ちについて、発達の姿を合わせて説明できる。

学習テーマ

1	何故、「人と関わる力」が必要なのかを理解する。（lecture 1 ～ 2 ）
2	領域「人間関係」のねらい、内容等について理解する。（lecture 3 ～ 4 ）
3	0 、1 、2 歳児の人間関係の特徴について理解する。（lecture 4 ～ 5 ）
4	3 、4 歳児の人関係の特徴について理解する。（lecture 6 ～ 7 ）
5	5 歳児の人間関係の特徴について理解する。（lecture 8 ）
6	個と集団の関わりについて理解する。（lecture 8 ～ 9 ）
7	保育現場における人間関係（保護者間、保育者同士）について理解する。（lecture 10～11）
8	保育者と子どもとの人間関係について理解する。（lecture 12）

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

何故、乳幼児期に「人と関わる力」を育成することが重要なのか。その意義とそれに関わる保育者（大人）の役割について述べなさい。

第1課題の留意点

テキストの全編を充分に読み深めた上で、レポート課題をまとめる。テキスト内に示されている参考文献を取り入れて、まとめても良い。レポートの作成は、ワープロソフト使用、自筆、どちらでもかまわない。また、表や図解を作成してもよい。自筆で表や図解を作成する場合は、レポート用紙の裏面（白紙の面）を使用する。なお、裏面（白紙面）に記載する場合は、その用紙の裏面となる原稿用紙面には何も記載しなしこと。【※すべてあわせて 5 枚程度とする。】

レポートの評価基準

- 文字数は、1,800字～2,000字数以内とすること。
- 課題の趣旨に沿っている。
- 領域「人間関係」の保育内容との関連を意識しながら、作成されている。
- 必要に応じて、保育の専門用語を用いて解説されている。
- 専門用語を正しく理解して使用し、具体例なども挙げながら、わかりやすく説明されている。
- 漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスのないように留意すること。
- テキストからの引用箇所と自身の意見が分かるように記載すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

- 「到達目標」に示されている文言やキーワードについて、理解できている（理解できていた）かを、確認した上で科目修了試験に臨む方が良い。
- テキスト内に複数個所記載されている、文言やキーワードについては、日頃の学習段階で、要約しておくと良い。
- テキスト中にある人物名については書籍やネットを用いて詳しく調べておく方が良い。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解して、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上に記述があることを前提として評価する。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字等が無いこと。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・無藤隆　古賀松香　『社会情動的スキルを育む「保育内容 人間関係」：乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは』　北大路書房
・無藤隆　『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』　東洋館出版社
・『月刊　保育とカリキュラム（保育雑誌)』　ひかりのくに

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20175	科目名［単位数／学習時間］	子どもと環境［1単位／45時間］	科目担当	佐藤　智恵
テキスト	●田宮縁　『体験する・調べる・考える　領域「環境」 第2版』 萌文書林				
ISBN	9784893472915	本体価格(円)（2022年1月現在）	2,000	生協 テキストNo.	22135
実務経験のある教員による科目	保育士				

科目の目的

領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、子どもと環境との関わりについての専門的知識を身につけることをめざす。領域「環境」の以下の項目（季節感、自然との関わり、生命の営み、身の回りの身近な情報、数量･図形）に関する幼児の関わり、捉え方、理解の仕方について、テキストで学びを深める。

到達目標

領域「環境」の指導に関連する、幼児を取り巻く環境や、子どもと環境との関わりについての専門的知識や技能を身につけ、感性を養う。
①幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する。
②幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。
③幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達を理解する。

学習テーマ

1	自然とふれあい感動することを理解する。
2	季節感を味わうことを理解する。
3	自然を取り入れて遊ぶことを理解する。
4	生命の営みにふれる①　栽培活動（アサガオ、チューリップ、ミニトマト、ハツカダイコン）
5	生命の営みにふれる②　飼育活動（オタマジャクシ、ダンゴムシ）
6	身近な情報や施設を生かし、生活を豊かにすることを理解する。
7	地域社会との関わりを理解する。
8	数量・図形に親しむ姿を理解する。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキストの「自然」「物事の法則性」「季節感」「身の回りのもの」「科学あそび」「数量・図形」「標識や文字」の中から2つ選択し、3歳児の発達に適した活動を1つずつ考えて簡潔に記述せよ。活動するために必要な知識について調べたことも明記すること。

第1課題の留意点

・この課題は、それぞれの活動を実施する際に保育者として必要な知識を問うものである（例えば、「サツマイモの植え付けの時期は5月上旬である」など）。活動に関係すること、必要な情報をテキストや書籍などで調べ、正しい知識を用いて3歳児クラスの活動を考えること。
・活動内容をどう実施するかを明確に記述すること。（例えば、「サツマイモを植える」という活動ならば、どの時期に実施するかを分かるように明記することが必要である。）
・テキストに掲載されている内容を転記するのではなく、テキストをもとに自分で考えた活動を記述すること。テキストに掲載されている事例をそのまま転記したものは評価しない。期間は、「ある1日の活動」でも、「長期的な活動」でも可とする。
・3歳児の発達をしっかりと押さえ、3歳児クラスで実施可能なものを調べて課題に取り組むこと。参考にした書籍やホームページがある場合は、書籍情報やURLを引用すること。
・選択しなかった項目についてもテキストを熟読し、内容を理解しておくこと。

レポートの評価基準

以下の4点を評価基準とする。
・誤字脱字がなく、主語と述語の関係などに留意し、丁寧な記述がなされているか。
・領域「環境」の活動について、調べた正確な内容が記述されているか。
・活動内容をどのように実施するかが明確に記述されているか。
・子どもの発達に即したものとなっているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・試験では具体的な知識を問うので、テキストに掲載されている活動内容や、その活動を展開するために保育者として必要な知識に関する部分を熟読し、理解しておくこと。
・テキストに掲載されている具体的な事例や内容の確認だけでなく、保育内容のアイデアを自ら考えておくこと。

科目修了試験の評価基準

・保育を行う上で必要となる領域「環境」に関する知識が備わっていること。
・誤字脱字がなく、主述が正しく記述されており、内容が伝わる文章であること。
・解答用紙表面の 1 / 2 以上の記述があること。

参考文献

・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞（平成29年告示)』　チャイルド本社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20176	科目名［単位数／学習時間］	子どもと言葉［1単位／45時間］	科目担当	高橋　一夫
テキスト	●高橋一夫　『ことばを育む・保育に活かす　言語表現　第2版』　みらい				
ISBN	9784860154219	本体価格（円）（2022年1月現在）	1,500	生協 テキストNo.	22136

科目の目的

「言葉」の側面から子ども達の育ちを支えることができる専門性を身に付ける。

到達目標

・保育・幼児教育における「言葉」の重要性を理解することができる。
・児童文化財の意義を理解し、保育現場で活用できる知識と技能を獲得する。
・保育者として「言葉」の楽しさ・美しさに気付くことができる。

学習テーマ

1	指針・要領における子どもと言葉について【学習のポイント：指針などにおける子どもと言葉についての記述を確認する。（テキストpp. 5 -14）】
2	子ども達の育ちを支えるための保育者の言葉に関するスキルについて【学習のポイント：保育者に求められる言葉に関わるスキルを理解する。（テキストpp.15-28）】
3	絵本について【学習のポイント：絵本を論理的に分析する。（テキストpp.29-36）】
4	紙芝居について【学習のポイント：紙芝居の基礎について理解する。（テキストpp.37-45）】
5	素話について【学習のポイント：素話の基礎について理解する。（テキストpp.46-54）】
6	児童文学（明治･大正期まで）について【学習のポイント：明治･大正期までの児童文学について理解する。（テキストpp.55-66）】
7	児童文学（昭和期から現在まで）について【学習のポイント：昭和期から現在までの児童文学について理解する。（テキストpp.67-72）】
8	詩人の表現と子どもの詩について【学習のポイント：詩の持つ力について理解する。（テキストpp.73-84）】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の領域「言葉」に関わる箇所（ねらい及び内容）を確認し、どのような点が重視されているのかを「乳児期の園児」「満 1 歳以上 3 歳未満の園児」「満 3 歳以上の園児」の 3 つに分けて説明しなさい。そのうえで、子ども達を言葉の側面から支えることができる保育活動を具体的に考え提案しなさい。

第1課題の留意点

・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』だけでなく、『保育所保育指針』や『幼稚園教育要領』における領域「言葉」に関わる箇所も熟読し、どのような点が重視されているのかを理解すること。
・提案する保育活動については、その内容を具体的に考えること。ただし、対象を「乳児期の園児」「満 1 歳以上 3 歳未満の園児」「満 3 歳以上の園児」のいずれかひとつに絞ってもよい。
・自身の経験を活かした記述は構わないが、テキストの内容を意識することが重要である。

レポートの評価基準

・課題内容を正しく理解し、論理的に文章を構成することができている。
・誤字脱字に注意し、文章表現に関する基本的事項を守ることができている。
・テキスト学習によって得た知識に基づき論述することができている。
・領域「言葉」について理解することができている。
・保育者に求められている指導や配慮について理解することができている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・「学習テーマ」における学習のポイントを押さえたテキストの理解ができていること。
・『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』における「言葉」に関わる箇所について、十分な理解ができていること。
・自身の考えについて、必要十分な根拠が示されていること。

科目修了試験の評価基準

・設題内容を正しく理解し、論理的に文章を構成することができている。
・誤字脱字に注意し、文章表現に関する基本的事項を守ることができている。
・テキスト学習によって得た知識に基づき論述することができている。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述がある。

参考文献

・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館
・文部科学省 『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館
・内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』 フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の幼Ⅱ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20177	科目名［単位数／学習時間］	子どもと音楽表現［1単位／45時間］	科目担当	山本　裕之
テキスト	●池内友次郎　外崎幹二　『楽典　新訂』　音楽之友社				
ISBN	9784276100015	本体価格（円）（2022年1月現在）	1,100	生協 テキストNo.	22103
実務経験のある教員による科目	公立高等学校専任音楽科教諭				

科目の目的

幼稚園・保育園・認定こども園での音楽表現において、指導者に求められる大切なことは、楽譜を正確に読みとり、音楽性豊かに表現することである。そのためには、楽典と記譜法を学び、移調の方法と和音記号（コードネーム）による簡易な伴奏付けも理解しなければならない。実務経験を十分に生かし、歌唱法やピアノ奏法等を教授する。

・音名、譜表、音符、休符、音程、拍子、リズム等、楽譜に関する基礎的な知識を学ぶ。
（参考：テキスト『楽典　新訂』pp. 9 -50）
・音階と調について学び、移調の方法も理解する。（参考：「第 1 課題の留意点」）
・和音について学び、和声（和音の連結）も理解し、和音記号（コードネーム）による簡易なピアノ伴奏譜も作成する。
（参考：「第 1 課題の留意点」 Ⅰの和音（ドミソ）、Ⅳの和音（ドファラ）、Ⅴの和音（シレソ）、又はⅤ 7 の和音（シファソ））

到達目標

・読譜力や記譜力を身につけるために、音の高低や長さを表示する音符と、曲の流れに重要な拍子を理解する。
・調について理解するために、その調を構成している音階と調号の関係を理解する。また、移調については、臨時記号による変化音の扱いについても理解する。
・主要 3 和音（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）の基本形・転回形、及び属七の和音についての構成音を理解し、その和音の連結（和声）についても理解する。その和声に基づいて和音記号（コードネーム）による簡易な伴奏譜も作成することができる。

学習テーマ

1	移調について①【学習のポイント：調と音程について理解する。】
2	移調について②【学習のポイント：移調の方法を理解する。】
3	移調について③【学習のポイント：音符を正確に記譜する音楽理論を理解する。】
4	移調について④【学習のポイント：変化記号（臨時記号）について理解する。】
5	和音による伴奏付けについて①【学習のポイント：主要三和音について理解する。】
6	和音による伴奏付けについて②【学習のポイント：カデンツ（終止形）について理解する。】
7	和音による伴奏付けについて③【学習のポイント：キーボードでメロディーを弾きながら、メロディーに適切な和音を選択する。】
8	和音による伴奏付けについて④【学習のポイント：ヘ音記号で記譜される和音に、適切なリズムを考える。】

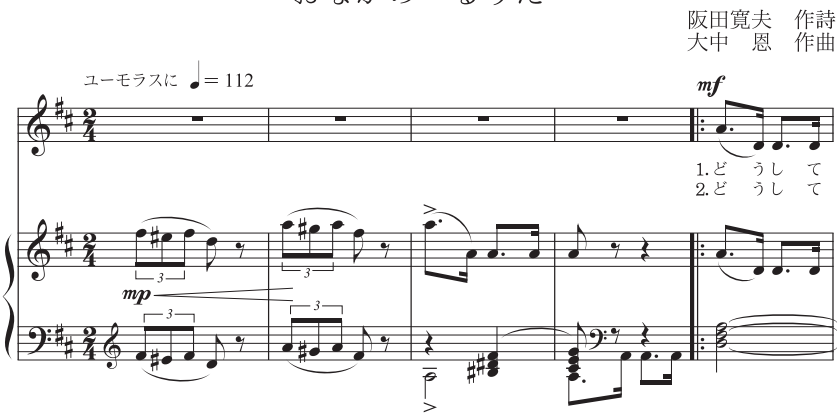
レポートについて

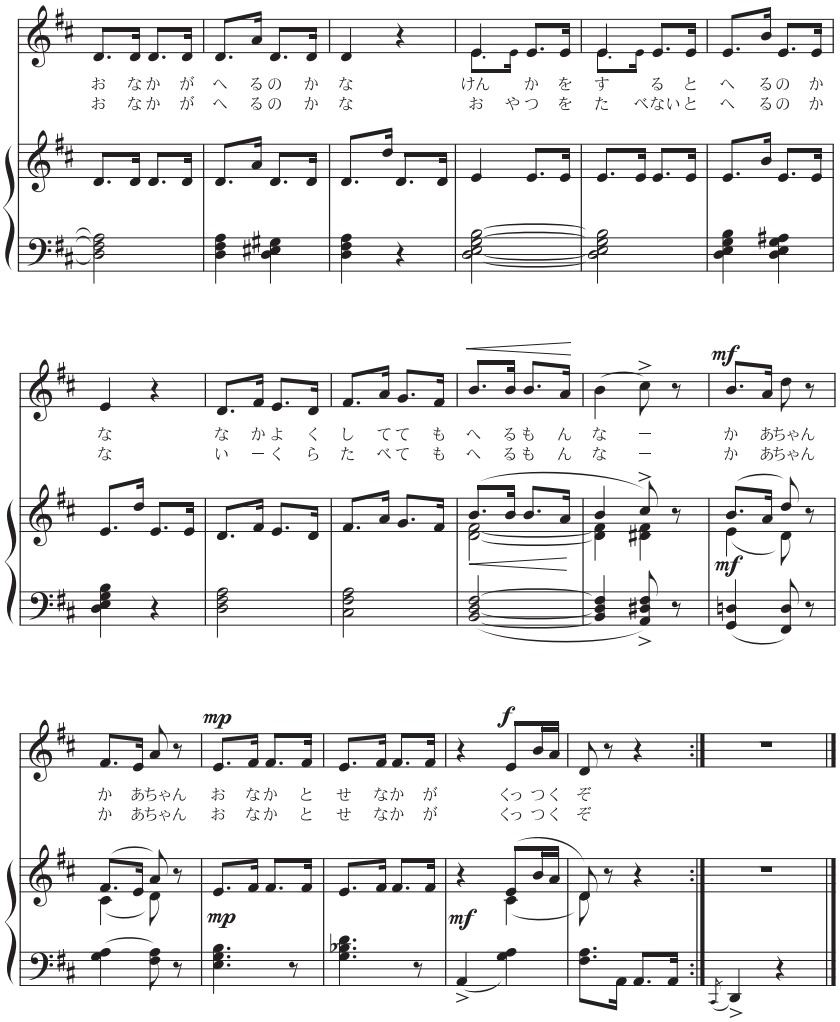
自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第 1 課題

※①②ともに課題である。課題の作成にあたっては、巻末の『「音楽」「子どもと音楽表現」用　五線紙』を使用すること。（用紙が不足する場合は、コピーをして使用。）なお、提出の際は①と②をまとめて綴じて第 1 課題として提出する。

①次の曲を<u>ハ長調</u>に移調しなさい。
○「おなかのへるうた」阪田寛夫　作詩／大中恩　作曲

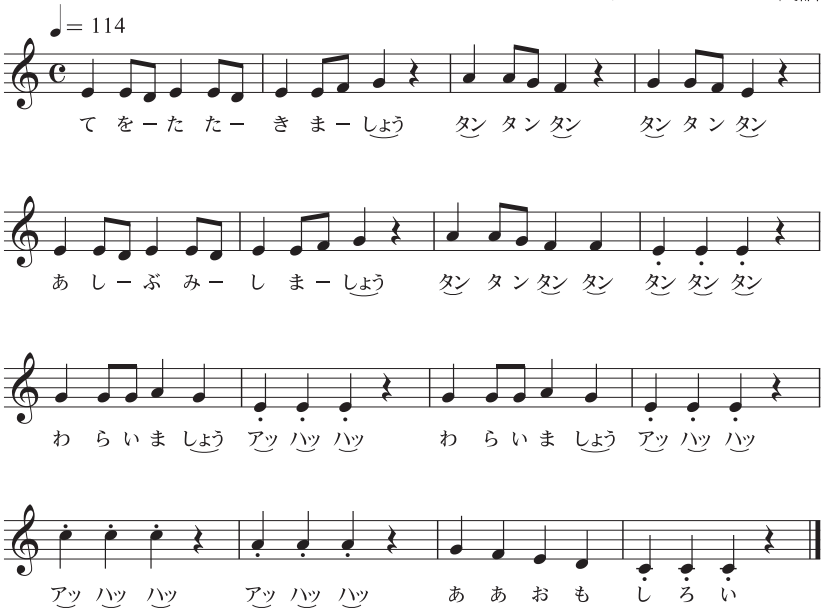




②次の曲に和音による伴奏をつけ、和音記号か、またはコードネームも記入しなさい。
○「手をたたきましょう」小林純一　訳詞／チェコスロバキア民謡

手をたたきましょう

小林純一　訳詞
チェコスロバキア民謡



第１課題の留意点

○「移調」の手引き

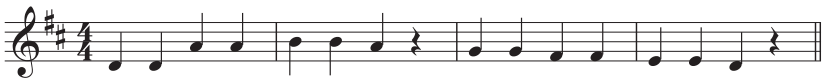
・移調するには、音程・音階・調についてよく理解しておくことが大切である。また、記譜するには、楽譜に関する基礎的な知識も必要である。

・移調とは？

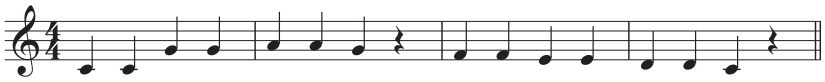
ある調の曲（原曲）を、そっくりそのまま他の調に移すことを移調といいます。教育や保育の現場でも、歌を歌うときに児童や幼児の声域を考慮して移調することがよくあります。将来、皆さんも教育や保育の現場で、子どもたちが歌い易いようにキー（調）を下げたり、上げたりする機会もあることでしょう。そのキー（調）を移し変えることを移調といいます。この課題を通して、移調のしくみをよく理解しておきましょう。

・移調の進め方

【例題】次の曲（二長調）を、ハ長調に移調しなさい。



※原曲の二長調をハ長調に移調するには、曲全体のそれぞれの音を長２度下げます。



①原曲の調を理解する。　⇒　二長調

②移調する調の調号を理解する。　⇒　ハ長調

③新しい調号を記入する。（ただし、ハ長調は調号が何も付かないので何も記さない。）

④原曲と同じ拍子記号を記す。

⑤原曲のメロディーを全て長二度下げて記す。（当然、リズムは変えない。全く同じ。）

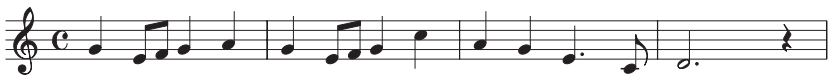
⑥この例題の場合は、原曲に臨時的に変化音（♯、♭、♮等）が付いていないので簡単であるが、もし変化音が付いている場合は、適切な臨時記号を用いて原曲の変化音の状態に合わせること。

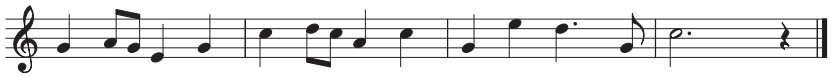
○「和音による伴奏付け」の手引き

・和音による伴奏をつけるには、課題の旋律に合った和音を選び、その和音の正しい連結（和声）を考慮しながら伴奏付けを行うことが大切である。次の「和音による伴奏付け」の手引きを参考に課題に取り組むこと。

※旋律に和音による伴奏をつける課題では、まず旋律を記譜し、その下に伴奏を記譜し、大譜表として作成すること。和音記号か、またはコードネームも、忘れずに記入すること。

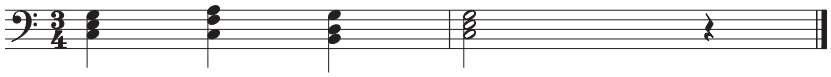
《春がきた》





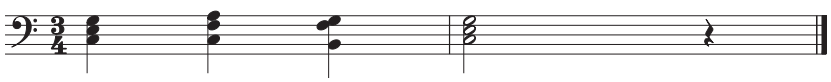
上記のメロディー譜「春がきた」に簡単な和音をつけてみましょう。

使う和音は主要三和音（Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ）ですが、カデンツとよばれる和音の形を利用すれば、とても簡単に伴奏をつけることができます。まずは、ハ長調のカデンツを確認してみましょう。左手で弾いてみてください。



※ⅣとⅤの和音の転回型を示す数字は省略しています。

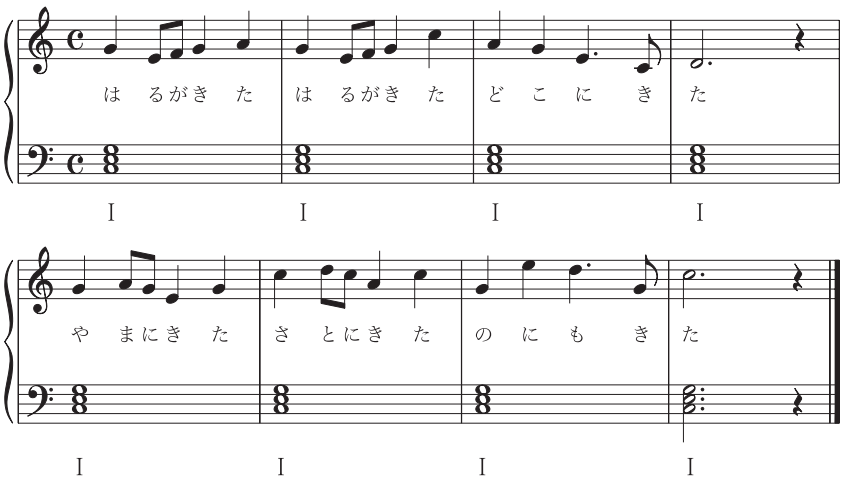
あるいは



Vの和音に関しては、Vを使っても、あるいはV7を使っても、どちらでもかまいません。
できれば、メロディーの音と重ならないほうがいい感じに仕上がるので、ハ長調の場合、仮にメロディーがファの音だったならVの和音を、メロディーがレの音だったならV7の和音をと、使い分けられるようになればベストです。（V7の和音はハ長調の場合、ソ・シ・レ・ファの四和音で構成されるため、三和音よりも少し響きが重たい感じになります。よって通常、上記の楽譜のように、レの音が省略されています。）

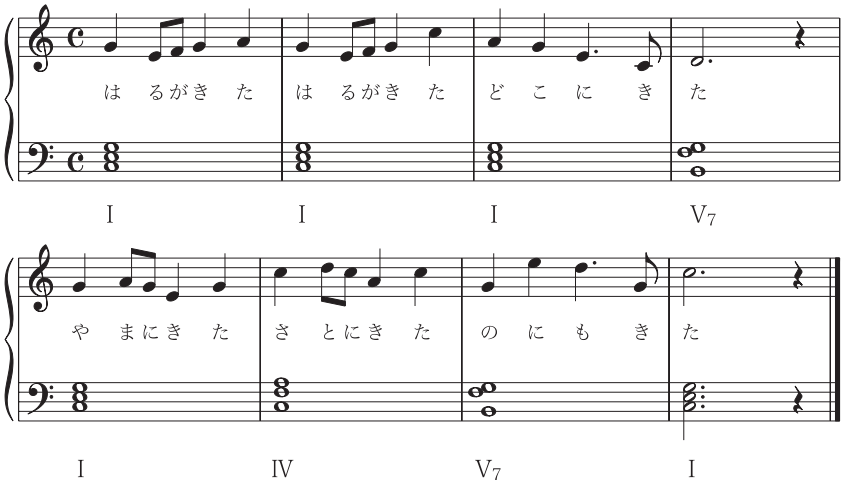
では、カデンツの和音を使って伴奏をつけてみましょう。何となく自然にⅠ・Ⅳ・Ⅴ・V7の和音が思い浮かぶ人はその才能に感謝！ですが、全くわからない人は、とりあえず、1小節に1つずつ和音を入れていきましょう。何の和音を入れるかですが、すべての調において何といっても一番重要な和音はⅠの和音なので、まず手はじめに全部の小節にⅠの和音を入れてみましょう。

譜例1



では実際に、ピアノで音を出してみましょう。
どうですか？ 4小節目あたりちょっと変な感じがしませんか？
それでは試しに、Ⅰの和音の次に大事な和音であるV7（Ⅴ）の和音を、Ⅰの和音のかわりに4小節目に入れてみましょう。≪あるいは、4小節目のメロディーの音はレの音なので、レの音を構成音に持つ和音（V7、Ⅴ）を入れてみる、という考え方もOK。≫また、曲の終わりには、V7（Ⅴ）→Ⅰという和音の進行を使うと曲の終止感が高まるので、終わりから2小節目にV7の和音を入れてみてください。そしてさらに、まだ使っていないⅣの和音もどこかで使えれば音のパレットが広がるので、とりあえず6小節目に入れてみましょう。

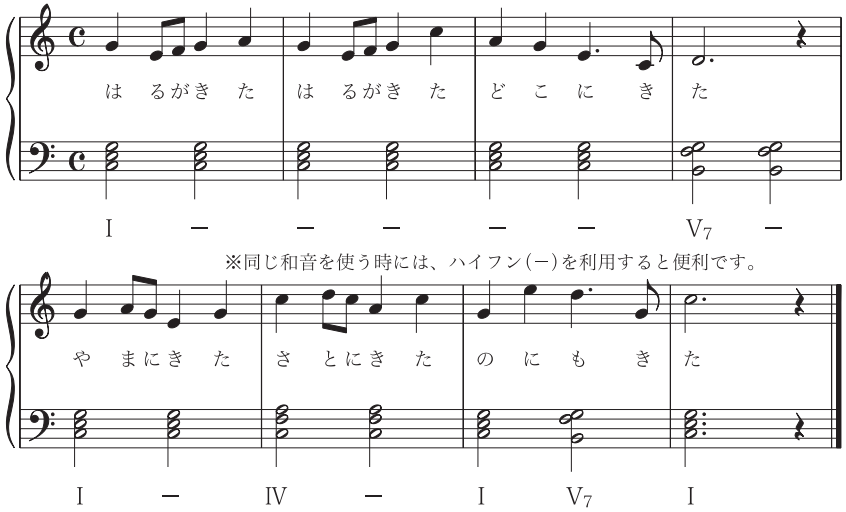
譜例2



ピアノで弾いてみた感じはいかがですか？譜例1より譜例2の方が、より自然な感じに聞こえてきませんか？
6小節目でⅣの和音を使ったのは、何となくではありません。6小節目のメロディーには、ド、レ、ラの音が使われていますが、2拍目のレの音は8分音符ということで音の長さも短く、あまり重要な音ではありません。よって、ドとラの音がこの小節を支配していることになります。
通例、**メロディーに使われている大事な音が和音の構成音の中に含まれていると自然な感じに仕上がる**ので、ここでは、Ⅳの和音が最適ということになるのです。

次に譜例 3 を弾いてみてください。

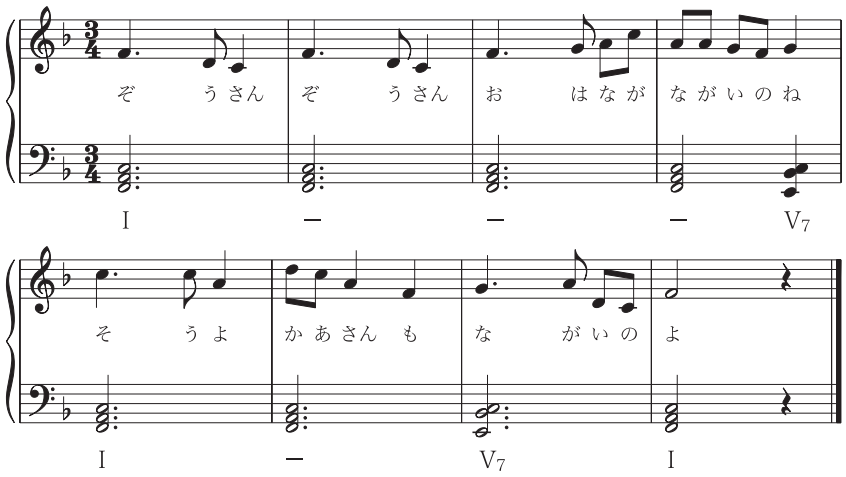
譜例 3



いかがですか？ 4 分の 4 拍子の場合、当然のことですが、 4 分の 2 拍子や 4 分の 3 拍子にくらべて 1 小節が長いため、和音のつけ方も 1 小節に 1 つよりは、 1 小節に 2 つぐらいでつけていくほうが、つけやすいと思います。

和音付けに慣れるために、 4 分の 3 拍子の曲もやってみましょう。

《ぞうさん》



象の持つ大きい重たいイメージを出すために、少し低い音を使って伴奏をつけてみました。

いかがでしょうか、少しは慣れてきましたか？

和音付けは、決して難しいものではありません。なぜなら、美術と同様、音楽には、「こんなことは絶対にしてはいけません」というような規則がないからです。よってすべてが、その人その人の感性によって導かれます。だからこわがらずに、色々チャレンジしてみてください。

とはいっても、全く自由に和音をつけるのも、なかなか難しいものです。これまでに説明したように、まずは I の和音を全部につけてみて、何かしっくりこない所に、Ⅳあるいは V の和音をつけてみましょう。**大切なのは和音付けをすることによって、その曲の大まかな和音の使い方がわかる**ことと、複雑な伴奏がつけられている場合には、**それを非常にやさしい伴奏にかえることができる**ということです。ですから和音付けをする際は、なるべく 1 小節に 1 つか 2 つの和音でまとめられるように気をつけてください。複雑にしてしまっては、その意味がなくなってしまうのですから。

さらに、和音付けができるようになると、移調がとても簡単にできることに気がつくことでしょう。今までとても難しくてできないと思っていたことが、思いのほかスムーズにできるようになりますので、まずは和音付け、頑張ってやってみてください。

レポートの評価基準

・テキストや『学習の手引き』から学んだ内容をふまえて、いかに的確に楽譜として記譜できているかについて評価する。
・各々の課題において、次の 3 点を評価の基準とする。
①移調の課題
・課題曲の「おなかのへるうた」が、指定されたハ長調に正確に移調できている。特に変化音の対応もきちんとできている。
・移調楽譜として使用できるように、 1 番の歌詞もきちんと書けている。
・移調楽譜として使用できるように、拍子記号、アクセント、強弱記号、スラー等の音楽用語も、正確に書けている。

②和音による伴奏付けの課題
・ピアノの右手部分（ト音記号）と、ピアノの左手部分（ヘ音記号）の **2** 段による楽譜（大譜表）として記譜できている。
・歌詞がきちんと書けている。
・和音記号か、またはコードネームを正確に書けている。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

レポート課題と同じく、移調の問題と和音の伴奏付けの問題を出題する。時間配分を考慮しながら、音部記号・音符・休符等のリズムを正確に記譜すること。**特に、和音の伴奏付けの課題では、ピアノの右手部分（ト音記号）と、ピアノの左手部分（ヘ音記号）の 2 段による楽譜（大譜表）として記譜すること。さらに、小節内の音符の拍数にも注意を払い、和音記号かコードネームも忘れずに必ず記入すること。**

科目修了試験の評価基準

・基本的にはレポートの評価基準とまったく同じである。
・科目修了試験は、移調の問題 1 題（50点）と、和音の伴奏付けの問題 1 題（50点）の配点で、合計100点満点で採点評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20178	科目名［単位数／学習時間］	子どもと造形表現［1単位／45時間］	科目担当	須増　啓之
テキスト	●樋口一成　『幼児造形の基礎　乳幼児の造形表現と造形教材』　萌文書林				
ISBN	9784893473110	本体価格(円)（2022年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	22137

科目の目的

乳・幼児期における多様な造形表現活動を支援するための知識や技術を習得する。具体的には造形教育の方法や幼児の表現の姿や発達、幼児造形教育などについて理解することで、実践において展開する力を身につける。また、多くの材料や技法の基礎知識について理解を深めることで、表現を楽しむ力や実践する力を身につけるとともに豊かな感性を養う。

特にテキスト履修科目「子どもと造形表現」では、幼児造形表現における意義や内容などの理論的な知識を深めることと、実践例から造形教育の方法についてイメージできるようになることが目的となる。

到達目標

・領域「表現」（造形表現）の意義、ねらいや内容、展開方法について理解している。
・様々な素材や材料、道具に触れ、その特性を生かし、乳・幼児期における多様な表現活動及び展開についての基礎的な知識や技術、発想や構想の能力を身につけている。
・造形活動へのイメージを広げて、造形指導への意欲を培う。

学習テーマ

1	乳･幼児期の造形表現への理解について【学習のポイント：幼児の造形教育のねらいや幼児の育ち、領域「表現」について理解する。＜テキスト第1章pp. 9 -18＞】
2	乳・幼児期の造形表現の方法について【学習のポイント：素材との出会わせ方、生活や自然環境の活用、行事における造形、保育者の役割などについて理解する。＜テキスト第2章pp.19-29＞】
3	子供の主体を生かす保育について【学習のポイント：表現を生み出す過程や保育の展開について具体事例を基に理解する。＜テキスト第2章pp.30-48＞】
4	表現の未分化性と造形教育について【学習のポイント：表現を支える五感の重要性、身体表現や音楽表現との関わりについて理解する。＜テキスト第5章pp.210-217＞】
5	子供の造形表現の発達について【学習のポイント：描画や立体における表現の発達や意味について理解する。＜テキスト第5章pp.218-231＞】
6	幼児造形教育の歴史と広がりについて【学習のポイント：幼児造形教育の歴史や海外の造形教育の動向、広がりなどについて学び、これからの保育について考える。＜テキスト第2章pp.233-264＞】
7	造形表現で使用される材料や用具について【学習のポイント：材料や用具の基礎･基本や活用について確認する。＜テキスト第3章pp.49-98＞】
8	造形表現の実践について【学習のポイント：造形表現の実践例からねらいや環境、展開、表現の面白さについて確認し、実践についてのイメージを広げる。＜テキスト第4章pp.99-206＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキストの第1章と第2章を読み、あなたが保育者として何を大切にして造形表現を行いたいのかについて、テキストの内容を踏まえながらまとめなさい。その際、あなたの理解がどのように変化したのかを必ず記述すること。

第1課題の留意点

本課題ではテキストの第1章「幼児造形とは」と第2章「幼児の造形教育の方法」で書かれている内容を理解し、その内容から自分なりの言葉でまとめることを重視している。以下の点に留意して、レポートを作成すること。

・テキスト全体をよく読んで理解を深め、特に指定された範囲から自分なりの言葉でまとめることが大切である。テキストの内容をそのまま短くしたり、羅列したりしただけのものは解答として認めない。
・指定された範囲のすべての内容でレポートをまとめる必要はない。重要視したい部分などを中心にまとめること。
・必ず具体事例を挙げてまとめること。ただし、具体事例はテキストとなるべく同じものを使用しないように心がけること。
・必ずテキストを読む前と学習した後での理解の変化を自分の言葉で書くこと。

レポートの評価基準

以下の3点で総合的に評価する。
・内容について【テキストの内容の理解度、課題への解答の的確さ、独自の視点】
・形式について【レポートの構成、引用の仕方、参考文献の書き方、字数（2,000字程度)】
・表現について【文章の読みやすさ、段落のとり方、誤字・脱字、作成の際の丁寧さ】

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「学習テーマ」に沿って、テキストの内容を全体的に理解し、それぞれのテーマに関連付けられるようにしておくことが大切である。設題は 2 題あり、造形教育における内容理解と実践例及び題材について問う。前者では「幼児の造形教育のねらい」、「子どもの主体を生かす保育」、「素材との出会い」、「子供の造形表現の発達」、「海外の幼児造形の動向」などについて理解を深めておくこと。後者ではテキストの「造形表現の実践例」をよく読んで、各実践のねらいや流れ、留意点などについてイメージができるようにしておくこと。また、解答は必ずテキストの内容を踏まえて記述することが重要となる。

科目修了試験の評価基準

・記述問題 2 題を課し、各50点の配点で採点する。
・記述問題 1 は造形教育について理解し、設題に対してテキストの内容を踏まえて適切に答えているかどうかで評価する。
・記述問題 2 はテキストの内容を踏まえたうえで実践例や題材例を設定し、ねらいや流れなどについて的確に答えることができているがどうかで評価する。
・各設題について指定文字数を大幅に逸する場合や誤字脱字が多い場合は減点とする。

参考文献

・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞（平成29年告示）』　チャイルド本社
・槇英子　『保育をひらく造形表現　第 2 版』　萌文書林
・松岡宏明　『子供の世界　子供の造形』　三元社
・大橋功　『美術教育概論　新訂版』　日本文教出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の幼Ⅱ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	20179	科目名［単位数／学習時間］	子どもと身体表現［1単位／45時間］	科目担当	畑野　裕子
テキスト	●文部科学省　『幼児期運動指針ガイドブック』　サンライフ企画				
ISBN	9784904011478	本体価格（円）（2022年1月現在）	1,300	生協テキストNo.	22138
文部科学省HPよりダウンロード可能					

科目の目的

幼稚園・保育園・幼保連携型認定こども園における身体表現に関して、幼児期におけるその基礎となる身体活動（運動遊び）と身体表現の意義とねらい、発育・発達をふまえた役割などを学ぶ。さらに、幼児の身体表現の実践を想定して、身体表現の基礎的な技能の習得や指導方法を学ぶことを目的とする。

到達目標

・幼児の身体活動（運動遊び）・身体表現の姿や、その発達を理解する。
・身体表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の身体表現を支えるための感性を豊かにする。

学習テーマ

1	幼児期における身体活動（運動遊び）の課題と身体活動の意義を理解する
2	幼児期における身体活動の配慮事項と保育者・保護者に向けた提案を理解する
3	いろいろな遊びの中で十分に身体活動を行うことを理解する
4	自発的に身体を動かして遊ぶことを理解する
5	安全に楽しく遊べる環境をつくることを理解する
6	保護者と連携し、共に育てることを理解する
7	保護者に向けた提案を理解する
8	多様な身体活動が含まれる遊びを理解する

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

幼児の身体活動（運動遊び）における近年の課題をふまえて幼児の身体活動（運動遊び）について論述し、さらに、幼児の身体活動（運動遊び）の展開についても具体的な例を示すこと。

第1課題の留意点

身体活動（運動遊び）の展開については、対象年齢を設定して具体的に論述するとともに、簡単なイラスト等（白い紙に描いて剥がれないようにレポート用紙に貼付）や説明文により、わかりやすく記述すること。なお、『学習の手引き』のレポートの構成の説明をよく読むこと。文献や資料、HP等を調べ、引用する場合は、必ず引用であることが分かるように該当箇所を「　」でくくり、文献番号を1/4上付きで記すこと。本文の最後に、文献の項目を設け、文献番号と対応するように、その出典を明記すること。
例：（本文中）「・・・・・」1）
文献　（レポート用紙の最後に）
1）著者名、『書名』、出版社名、出版年、ページ

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容をふまえた上で、課題に対して、自分で積極的に関連文献などを調べ、その他の情報を加味し課題の留意点をしっかり読み、それら留意点が満たされていること。
・引用や参考の記載を明確にすること。
・自分の考えや表現で的確に述べていること。
・レポートとして、段落や、主語と述語の関係、誤字脱字などを留意してまとめ、丁寧な文字で記入していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読んで理解を深めておくこと。また、設題の趣旨を正確に把握し、論旨を展開することを心がけることが重要である。

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を理解した上で、テキストの内容等をふまえて、キーワードや事項をとらえて、論理的に記述できていること、文章の作成では、レポート課題で学習したことを生かしていること。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年3月＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年3月＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20181	科目名[単位数／学習時間]	教育方法･ＩＣＴ活用論(初等)[２単位／90時間]	科目担当	未定（「親和通信」で連絡）
テキスト	●堀田龍也　佐藤和紀　『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』　三省堂				
ISBN	9784385362649	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,000	生協テキストNo.	22139
テキスト	●文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示)』 ●文部科学省　『小学校学習指導要領解説（平成29年告示)』				
ISBN		本体価格(円)(2022年1月現在)		生協テキストNo.	http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm 文部科学省HPからダウンロード可
テキスト	●文部科学省　『教育の情報化に関する手引-追補版-（令和２年６月)』(インターネットのみで閲覧)				
ISBN		本体価格(円)(2022年1月現在)		生協テキストNo.	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
テキスト	●文部科学省　『小学校プログラミング教育に関する研修教材』(インターネットのみで閲覧)				
ISBN		本体価格(円)(2022年1月現在)		生協テキストNo.	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416408.htm
テキスト	●文部科学省　『遠隔教育の推進に向けた施策方針』(インターネットのみで閲覧)				
ISBN		本体価格(円)(2022年1月現在)		生協テキストNo.	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/_icsFiles/afieldfile/2018/09/14/1409323_1_1.pdf
テキスト	●文部科学省　『遠隔教育システム活用ガイドブック　第３版』(インターネットのみで閲覧)				
ISBN		本体価格(円)(2022年1月現在)		生協テキストNo.	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00932.html
テキスト	●文部科学省　『教育データの利活用に係る論点整理（中間まとめ)』(インターネットのみで閲覧)				
ISBN		本体価格(円)(2022年1月現在)		生協テキストNo.	https://www.mext.go.jp/content/20210331-mxt_syoto01-000013887_1.pdf
テキスト	●文部科学省　『「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」(令和３年５月版) ハンドブック』(インターネットのみで閲覧)				
ISBN		本体価格(円)(2022年1月現在)		生協テキストNo.	https://www.mext.go.jp/content/20210630-mxt_jogai02-000011648_052.pdf

科目の目的

様々な教育の方法や指導技術についての知識を広げつつ、知識基盤社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力やその育成の方法についての理解を深める。あわせて、現代の学校にとって重要なテーマである教育の情報化について学び、児童・生徒の情報活用能力の育成や情報通信技術（ICT）を活用した効果的な授業についての知識を広げ、理解を深める。

到達目標

・21世紀の情報社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力についての理解を得る。
・教育方法に関する様々な理論や実践についての知識を広げ、理解を得る。
・教育の情報化について理解し、情報通信技術（ICT）を活用した効果的な授業や子どもたちの情報活用能力の育成についての理解を得る。

学習テーマ

1	学習指導要領と授業【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第１章、テキスト『学習指導要領解説総則編』pp. 1 -11、参考文献『３つのキーワードで新学習指導要領案を見る!』】
2	教育方法の原理と学習評価【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第２章】
3	授業中の教師の意思決定【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第３章】
4	授業における発問と指示【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第４章】
5	教科書活用の技術【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第５章】
6	教材活用の技術【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第６章】
7	教育の情報化の意義と概要、ICT環境整備【学習のポイント：テキスト『教育の情報化に関する手引』第１章、第４章第２節、第７章】
8	教師によるICT活用【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第７章、テキスト『教育の情報化に関する手引』第４章】
9	情報活用能力の育成（思考スキルの育成）【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第９章、第13章、テキスト『教育の情報化に関する手引』第３章】
10	児童生徒によるICT活用と特別支援教育に関するICT活用の意義【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第10章、テキスト『教育の情報化に関する手引』第１章第４節、第４章第４節、参考文献『読みや書きに困難さがある児童生徒に対するアセスメント・指導・支援パッケージ』】
11	情報活用能力の育成【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第11章、テキスト『意外と知らない"情報活用能力"』、テキスト『教育の情報化に関する手引』第２章第１節～第３節】
12	情報モラル教育【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第12章、テキスト『教育の情報化に関する手引』第２章第４節】

13	遠隔教育の意義と方法【学習のポイント：テキスト『教育の情報化に関する手引』第 7 章第 3 節、テキスト『遠隔教育システム活用ガイドブック』第 1 章、参考文献『意外と知らない"遠隔教育"』、『遠隔教育について』、『学びを止めない!これからの遠隔・オンライン教育 普段使いで質の高い学び・業務の効率化へ』、『遠隔導入ガイドブック』】
14	校務の情報化【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第14章】
15	学校の情報管理と情報セキュリティ【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第15章、テキスト『教育の情報化に関する手引』第 7 章第 5 節、テキスト『教育データの利活用に係る論点整理（中間まとめ）』pp. 2 - 7 、テキスト『教育情報セキュリティポリシーに関するガイドラインハンドブック』第 1 章-第 3 章、参考文献『教育の質の向上に向けた効果的なデータ連携・活用のポイントと学校改善事例集』、『教育の質の向上に向けたデータ連携・活用ガイドブック』、『新時代の学びを支える先端文部科学省 技術活用推進方策、学校における先端技術活用ガイドブック』、『教育データ利活用ロードマップの検討状況について』】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第 1 課題

『平成29年告示の学習指導要領』について改訂の経緯を含めた基本方針及びその要点について説明せよ。

第 2 課題

テキスト『遠隔教育の推進に向けた施策方針』、『教育の情報化に関する手引』および『遠隔教育システム活用ガイドブック』で示された遠隔教育について説明せよ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

学習指導要領の概要を理解するため、テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』pp.12-14および参考文献『 3 つのキーワードで新学習指導要領案を見る!』を一読すること。そのうえで、テキスト『小学校学習指導要領解説　総則編』の第 1 章総説を読んでまとめる。レポート作成する際には、「レポートの評価基準」を参考にするとよい。

第 2 課題の留意点

まず、参考文献『意外と知らない"遠隔教育"』および『遠隔教育ついて』を読み（視聴を含む）、概要を理解する。そのうえで、テキスト『遠隔教育の推進に向けた施策方針』pp. 2 -12、テキスト『教育の情報化に関する手引』第 7 章第 3 節およびテキスト『遠隔教育システム活用ガイドブック第 3 版』を用いてまとめるとよい。下記の「レポートの評価基準」を参考にまとめるとまとめやすい。

「レポートの評価基準」に対応している箇所は次のとおり。

①テキスト『遠隔教育の推進に向けた施策方針』pp. 2 - 3 、テキスト『教育の情報化に関する手引』第 7 章第 3 節の 1 およびテキスト『遠隔教育システム活用ガイドブック第 3 版』巻頭 2 - 3

②テキスト『遠隔教育の推進に向けた施策方針』pp. 8 -12、テキスト『教育の情報化に関する手引』第 7 章第 3 節の 2 、テキスト『遠隔教育システム活用ガイドブック第 3 版』pp. 4 - 7 と巻頭 3 の表

③テキスト『教育の情報化に関する手引』第 7 章第 3 節の 3 、テキスト『遠隔教育システム活用ガイドブック第 3 版』pp. 8 - 9

④テキスト『教育の情報化に関する手引』第 7 章第 3 節の 4 、テキスト『遠隔教育システム活用ガイドブック第 3 版』p.21

⑤テキスト『教育の情報化に関する手引』第 7 章第 3 節の 5

レポートの評価基準

第 1 課題：次の①から③がすべて含まれていること。

①育成を目指す資質・能力の三つの柱についての説明が過不足なくまとめられている。

②授業改善の推進についての説明が過不足なくまとめられている。

③各学校におけるカリキュラム・マネジメントについての説明が過不足なくまとめられている。

第 2 課題：次の①から⑤がすべて含まれていること。

①遠隔教育が推進された背景や遠隔教育の価値について述べられている。

②遠隔教育の類型、接続形態についての説明がある。

③遠隔教育に必要な環境についての説明がある。

④遠隔教育における著作権について説明がある。

⑤特別支援教育における遠隔教育の意義について述べられている。

分量は2,000字程度にまとめればよいが、これより多くなってもよい。段落わけがきちんとできていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』p.99の第 6 章「 6 ）デジタル教科書」をよく読み、文部科学省（2011）『教育の情報化ビジョン』で定義されている「デジタル教科書」について何も見ないで説明できるようにしておく。また、テキスト『教育の情報化に関する手引』の第 7 章第 2 節をよく読み、児童生徒の情報活用能力の育成を図るために重要なこと、活用による効果について何も見ないで説明できるようにしておく。さらに、テキスト『教育の情報化に関する手引』pp.221-222の第 7 章第 2 節 2 -（ 2 ）で紹介されている主な学習方法等の例および具体的な活用例を全て述べられるようにしておく。
・テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』の第 2 章「 2 - 4 学習評価の考え方」を丁寧に読んでおくこと。評価とは何のためのものか、市川（2011）による評価の位置づけと役割、絶対評価・相対評価・個人内評価、評価のバイアスについて、何も見ずに説明できるようにしておく。
・テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』の第12章をよく読む。特にpp.189-190の石原（2011）が定義した「物語教材」および新田ほか（2018）が示した情報モラル教育の物語教材の類型について何も見ずに説明できるようにしておく。
・テキスト『小学校プログラミング教育に関する研修教材』の、「小学校プログラミング教育の概要 1 」を読み（映像教材を視聴してもよい）、小学校のプログラミング教育を導入する理由、小学校プログラミング教育のねらい、育みたい資質・能力（概要 1 、pp. 5 - 7 、pp. 9 -12）について何も見ないで説明できるようにしておく。また、「Scratch 正多角形をプログラムを使ってかく」や「Viscuitたまごが割れたら・・・」のテキスト（映像教材）を視聴しながら実際にプログラミングを体験してみると、これらの理解につながるであろう。
・テキスト『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）総則編』pp.50-51で説明されている情報活用能力について何も見ずに説明できるようにしておく。また、テキスト『教育の情報化に関する手引』の第 2 章第 2 節をよく読み、情報活用能力を構成する資質・能力の三つの柱（p.23の囲みの中）および表 2 - 5 情報活用能力育成のための想定される学習内容（p.24）について何も見ずに説明できるようにしておく。
・テキスト『「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」ハンドブック』第 3 章をよく読み、教育情報セキュリティ対策の基本（「何を」、「何から」、「どのように」守るのか）について、何も見ずに具体的に説明できるようにしておく。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードを捉えて正確に説明できているかどうかを評価する。テキストの内容、『学習の手引き』に記載されている事項を踏まえずに自説だけを述べても評価されないので注意。
・専門用語の誤字脱字・誤りが無いこと （例：○形成的評価　×形式的評価　など）
・自分の考えを述べるように問題文に明示されていない場合は、自分の考えを述べる必要はない。

参考文献

・狩野さやか 『 3 つのキーワードで新学習指導要領案を見る！～「学びの質」に大きくシフトして必要になるものは？（2017）』
https://ict-toolbox.com/report/2017/03/1493/
・文部科学省 『教育ICT活用実践事例』 http://eduict.javea.or.jp/jireishu.html
・文部科学省 『発達障害のある子供たちのためのICT活用ハンドブック』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408030.htm
・文部科学省 『情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～指導の手引き』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1368445.htm
・内田洋行教育総合研究所 『意外と知らない"情報活用能力"（2018）』（第 1 回～第 3 回）
https://www.manabinoba.com/edu_watch/017812.html
https://www.manabinoba.com/edu_watch/017814.html
https://www.manabinoba.com/edu_watch/017815.html
・NHK for School 『しまった！～情報活用スキルアップ～とは？』
https://www.nhk.or.jp/sougou/shimatta/（アクセスすると動画・音声がいきなり流れるので注意）
・内田洋行教育総合研究所 『意外と知らない"遠隔教育"』 https://www.manabinoba.com/edu_watch/019982.html
・内田洋行教育総合研究所 『遠隔教育研究成果レポート「遠隔教育について」』 https://ueric.uchida.co.jp/enkaku/
・文部科学省 『学びを止めない！これからの遠隔・オンライン教育普段使いで質の高い学び・業務の効率化へ』
https://www.mext.go.jp/content/20210226-mxt_jogai02-000010043_003.pdf
・文部科学省 『遠隔導入ガイドブック第 3 版』 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1364592.htm
・文部科学省 『教育の質の向上に向けた効果的なデータ連携・活用のポイントと学校改善事例集』
https://www.mext.go.jp/content/1387543_02.pdf
・文部科学省 『教育の質の向上に向けたデータ連携・活用ガイドブック』
https://www.mext.go.jp/content/20200626-mxt_jogai02-100003155_004.pdf
・文部科学省 『新時代の学びを支える先端技術活用推進方策』
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_ _icsFiles/afieldfile/2019/06/24/1418387_02.pdf
・文部科学省 『学校における先端技術活用ガイドブック』
https://www.mext.go.jp/content/20210623-mxt_syoto01-100013299_001.pdf
・デジタル庁 『教育データ利活用ロードマップの検討状況について』
https://cio.go.jp/sites/default/files/uploads/documents/digital/20211025_news_digitalagency_ideabox_01.pdf

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

福祉臨床学科専門教育科目群

科目コード	30000	科目名［単位数／学習時間］	社会福祉概論［4単位／180時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新　社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座　4　社会福祉の原理と政策』中央法規出版				
ISBN	9784805882344	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,900	生協テキストNo.	22141
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

本科目の目的は、社会福祉の原理、歴史、思想・哲学、社会問題と社会構造、福祉政策の基本視点、ニーズと資源、福祉政策の構成要素と過程、福祉政策動向と課題、関連施策、福祉サービスの供給と利用過程、国際比較について学ぶことにある。

到達目標

本科目の学習における到達目標は、つぎのとおりである。
①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。②社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。③社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。④福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。⑤福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。⑥福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。⑦福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。

学習テーマ

1	社会福祉の原理、その意味と展開
2	社会福祉の歴史
3	社会福祉の思想・哲学
4	社会福祉の理論、対象、ニーズ
5	社会問題と社会構造
6	社会政策の基本的視点
7	福祉政策におけるニーズと資源
8	福祉政策の構成要素と過程
9	福祉政策の動向と課題
10	福祉政策と関連施策（保健医療政策、教育政策）
11	福祉政策と関連施策（住宅政策、労働政策、災害政策）
12	福祉サービスの供給と利用の過程
13	福祉政策の国際比較（比較の視点、アメリカ、ドイツ、スウェーデン、イギリス、フランス）
14	福祉政策の国際比較（東アジア）、福祉政策の新しい潮流、国際比較の新しい課題
15	社会福祉の展望

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

日本の社会福祉の歴史的展開について、説明しなさい。

第2課題

社会福祉の論点について、説明しなさい。

第3課題

福祉サービスの供給と利用の過程について、説明しなさい。

第4課題

福祉政策に関連する保健医療政策について、説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章を中心に学び、萌芽期、生成期、発展期、成熟前期、成熟後期、転換期をキイワードに、順に整理し、福祉の歴史を学ぶ意義について考察しなさい。

第2課題の留意点

テキスト第2章を中心に学び、論点の形式的把握、公私関係、多元的供給、普遍主義、選別主義をキイワードに整理し、社会状況の変容と照らして考察しなさい。

第 3 課題の留意点

テキスト第 9 章を中心に学び、供給部門、供給過程、福祉利用過程をキイワードに整理し、利用者の利用権を守る権利擁護の必要について考察しなさい。

第 4 課題の留意点

テキスト第 8 章を中心に学び、福祉政策に関連する保健医療政策について、変遷とパラダイムシフトをキイワードに整理し、ソーシャルワークが重要視される状況を理解・整理し、さらに考察しなさい。

レポートの評価基準

・テキスト、他の文献にも触れ、適切な内容、引用の明示、文字数量による記述がなされていること。
・単にテキストを抜き書きするのではなく、社会状況を踏まえ内容を理解していること、考察していること。
・個人的な事例等による説明では評価にはならないので、注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストは、全体をよく読んでおくこと。また、答案作成の際は設題の趣旨を正確に理解し、論理的に、適切な記述をすること。

科目修了試験の評価基準

・テキストを全体に丁寧に読み、理解して解答すること。
・歴史・社会状況との関連で理解し、解答すること。
・適切な文字数量を記述し、解答すること。あまりに少ない文字数量は減点となる。

参考文献

・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会
・厚生労働省HP 『厚生労働白書（最新版）』

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30001	科目名［単位数／学習時間］	社会保障論［4単位／180時間］	科目担当	未定（「親和通信」で連絡）
テキスト	●芝田英昭　鶴田禎人　村田隆史　『新版　基礎から学ぶ社会保障』　自治体研究社				
ISBN	9784880376912	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	22142

科目の目的

本科目の目的は、今日の貧困をめぐる実態と社会保障の果たす役割を学ぶことである。社会保障は、資本主義が構造的に生み出す貧困問題に対して、国家が国民に生活保障することを求められ、生成してきた。そのため、市場とは異なる基本原理で運用されている。具体的には、医療保険制度、年金保険制度、介護保険制度、労働保険制度、社会福祉制度などがある。社会保障は個別の制度を理解しながら、国民生活と社会経済を視野に入れて捉える必要がある。

到達目標

・私たちの生活と社会保障制度の関連について、説明することができる。
・社会保障制度を支える基本理念について、理解することができる。
・現在の社会保障制度をめぐる論点について、説明することができる（そのためにも日々のニュースや新聞をチェックする必要がある）。
・社会保障制度をめぐる論点について、根拠を示しながら自分の意見を述べることができる。

学習テーマ

1	社会保障とは何か【テキスト第1章】
2	社会保障のあゆみ【テキスト第2章】
3	社会保障の制度体系【テキスト第3章】
4	公的年金制度【テキスト第4章】
5	医療保険制度と「国民皆保険」【テキスト第5章】
6	介護保険制度【テキスト第6章】
7	労働保険制度【テキスト第7章】
8	障害者福祉【テキスト第8章】
9	子ども家庭福祉【テキスト第9章】
10	生活保護と生活困窮者支援制度【テキスト第10章】
11	アメリカとドイツの社会保障【テキスト第11章と第12章】
12	韓国とスウェーデンの社会保障【テキスト第13章と第14章】
13	人口減少と社会保障【テキスト第15章】
14	社会保障と福祉労働【テキスト第16章】
15	社会保障と財政【テキスト第17章】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

現代の日本社会において、社会保障制度が存在する意義について説明しなさい。

第2課題

日本の社会保険の中からいずれかの制度を取り上げて、その制度の現状と課題について説明しなさい。

第3課題

日本の社会福祉の中からいずれかの制度を取り上げて、その制度の現状と課題について説明しなさい。

第4課題

日本の社会保障をめぐる論点の中から具体的な事例を取り上げて、その論点についてあなたの意見を述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

社会保障制度は国によって発展過程や形態が異なっている。とはいえ、各国に存在することは事実であり、私たちが生活をしていく上で大きな役割を果たしている。存在意義を理解することは重要である。テキスト第1章～第3章を参考にレポート作成すること。また、各章の最後に【学習課題】が用意されているが、その【学習課題】に答える形でレポートを作成しても良い。その場合はどの【学習課題】を参考にしたのかを明記すること。

第2課題の留意点

日本の社会保障制度体系において、社会保険の果たす役割は大きい。社会保険の現状と課題について理解することは重要である。テキスト第4章～第7章を参考にレポート作成すること。また、各章の最後に【学習課題】が用意されているが、その【学習課題】に答える形でレポートを作成しても良い。その場合はどの【学習課題】を参考にしたのかを明記すること。

第 3 課題の留意点

社会福祉とは多様な意味があるが、私たちの生活を具体的に支えるシステムでもある。社会福祉の現状と課題について理解することは重要である。テキスト第 8 章～第10章を参考にレポート作成すること。また、各章の最後に【学習課題】が用意されているが、その【学習課題】に答える形でレポートを作成しても良い。その場合はどの【学習課題】を参考にしたのかを明記すること。

第 4 課題の留意点

社会構造が大きく変化していく中で、社会保障制度のあり方も常に変化している。しかし、長い時間をかけて生成され、定着してきたが故に改革をしていくことも難しく、それが現在の生活を支えきれない原因にもなっている。社会保障制度をめぐる論点を理解することは重要である。テキスト第15章～第17章を参考にレポート作成すること。また、各章の最後に【学習課題】が用意されているが、その【学習課題】に答える形でレポートを作成しても良い。その場合はどの【学習課題】を参考にしたのかを明記すること。

レポートの評価基準

・テキストを丁寧に読み込み、客観的な事実をもとに論述できていること。
・テキストに掲載されていない最新の情勢を調べて、記述できているとなお望ましい。
・自らの意見を述べることは良いが、その場合は根拠を示した上で論理的に記述できていなければならない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・レポート課題で取り組んだ部分以外のテキスト内容もよく復習しておくこと。
・社会保障の各制度の現状と課題について理解しておくこと。
・日本の社会保障制度のみならず、テキストで取り上げた各国の社会保障制度についても理解しておくこと。その際、日本の社会保障制度と比較する視点を持つこと。

科目修了試験の評価基準

・設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
・テキスト内容により得た基礎的な知識を活用しつつ、自らの意見を述べることはプラスの評価となる。ただし、レポートの評価基準にも記載しているが、根拠を示して論理的に記述できていることが重要である。
・試験に臨む際には、テキストの内容とレポート課題を復習しておくこと。

参考文献

・横山壽一 『社会保障の再構築』 新日本出版社
・社会保障政策研究会 『高齢期社会保障改革を読み解く』 自治体研究社
・医療・福祉問題研究会 『医療・福祉と人権－地域からの発信』 旬報社
・厚生労働省HP 『厚生労働白書（最新版）』
・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30002	科目名[単位数/学習時間]	児童福祉論［4単位／180時間］	科目担当	藤原　伸夫
テキスト	●伊藤嘉余子　澁谷昌史　『MINERVAはじめて学ぶ子どもの福祉1　子ども家庭福祉　第2版』　ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623092932	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,400	生協テキストNo.	22127
実務経験のある教員による科目	地方公務員（福祉専門職）				

科目の目的

現在、子どもは保護の対象としてだけでなく権利の主体として捉えられている。しかし、その権利が守られているとは言い難い状況も存在する。そのため、子どもとその家族だけでなくその環境をもしっかりと捉えることが必要である。さらに子どもやその家族にかかわる諸問題は、様々な事象が絡み合って生じていることをこの学習を通して理解してほしい。

本科目担当者の福祉専門職としての経験などを踏まえながら、子どもを中心として家族・地域・社会全体を見据えた支援の展開ができる視点や基礎的知識および援助方法等を習得することが目的である。

到達目標

・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
・子どもの人権擁護について理解する。
・子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
・子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。

学習テーマ

1	なぜ子ども家庭福祉を学ぶのか及び子ども家庭福祉とは何か＜テキスト レッスン1・2＞【学習のポイント：子ども家庭福祉と基本的人権について理解する。】
2	現代社会と子ども家庭福祉ニーズ及び保育と子ども家庭福祉＜テキスト レッスン3・4＞【学習のポイント：少子化と子育てにかかる負担感及び子ども家庭福祉が求める保育士について理解する。】
3	子ども家庭福祉の歴史（1）及び（2）＜テキスト レッスン5・6＞【学習のポイント：古代～大正の歴史及び昭和以降の歴史について理解する。】
4	子ども家庭福祉に関わる国の施策及び近年の子ども家庭福祉の課題＜テキスト レッスン7・8＞【学習のポイント：児童福祉関連法の制定から現在に至るまでの改正点及び子ども・子育て支援新制度について理解する。】
5	子ども家庭福祉の制度と法体系及び子ども家庭福祉を実施する行政機関＜テキスト レッスン9・10＞【学習のポイント：子ども家庭福祉を支える法律と行政機関の業務等について理解する。】
6	児童福祉施設等及び子ども家庭福祉の費用＜テキスト レッスン11・12＞【学習のポイント：社会的養護の施設、障害児施設等及び施設整備の費用・施設の運営費用・利用者負担について理解する。】
7	子ども家庭福祉の専門職及び子ども家庭福祉のネットワーク＜テキスト レッスン13・14＞【学習のポイント：子ども家庭福祉の関係機関と関係施設の専門職及び子ども虐待の対応や障害のある子ども等への支援ネットワークについて理解する。】
8	子ども家庭福祉と権利擁護及び少子化と子育て支援サービス＜テキスト レッスン15・16＞【学習のポイント：子どもの権利擁護に関する取り組み及び少子化の現状と地域子育て支援サービスについて理解する。】
9	多様な保育ニーズへの対応及び母子保健サービス＜テキスト レッスン17・18＞【学習のポイント：子ども・子育て支援新制度及び母子保健施策について理解する。】
10	障害のある子どもへの支援及び健全育成＜テキスト レッスン19・20＞【学習のポイント：障害のある子どもへの福祉施策及び児童厚生施設等について理解する。】
11	子ども虐待対策及びＤＶへの対応＜テキスト レッスン21・22＞【学習のポイント：子ども虐待の現状と防止の対策及びＤＶの現状とその対応について理解する。】
12	社会的養護及びひとり親家庭福祉サービス＜テキスト レッスン23・24＞【学習のポイント：施設養護と家庭養護及びひとり親家庭への支援施策について理解する。】
13	少年非行への対応及び貧困家庭の子どもとその家族への対応＜テキスト レッスン25・26＞【学習のポイント：児童福祉法と少年法に基づく対応及び子どもの貧困に関する対策等について理解する。】
14	外国籍の子どもとその家族への対応及び子ども家庭福祉の展望（諸外国の動向）＜テキスト レッスン27・28＞【学習のポイント：保育所等における外国籍の子どもとその家族への支援及び諸外国の動向について理解する。】
15	現代社会における子ども家庭福祉の課題及びこれからの「子ども家庭福祉」の展望＜テキスト レッスン29・30＞【学習のポイント：子ども家庭福祉の今後の課題及び動向について理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

児童福祉は、近年子ども家庭福祉という捉え方に変わってきた。その理由を説明しなさい。

第2課題

子ども家庭福祉推進のため様々なネットワークがあるが、その目的と取り組みについて説明しなさい。

第3課題

子ども・子育て支援新制度の成立の背景と制度の概要について述べなさい。

第 4 課題

子ども家庭福祉における近年の社会的養護の現状と今後の動向について説明しなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト第 1 章を熟読すること。なお、テキスト第 3 章レッスン15の子どもの権利擁護も関連付けること。テキスト以外の文献も参考とすること。

第 2 課題の留意点

テキスト第 3 章、特にレッスン13・14を熟読すること。またレッスン 7 の児童福祉法の改正の経緯も参考にすること。テキスト以外の文献も参考に、要保護児童対策地域協議会、母子健康包括支援センター等のキーワードを理解してまとめること。

第 3 課題の留意点

テキスト第 4 章レッスン16・17を熟読すること。少子化社会を背景に成立した子ども・子育て支援新制度の支援事業は、多種多様で複雑である。テキスト以外の文献も参考にして、分かりやすくまとめること。

第 4 課題の留意点

テキスト第 4 章レッスン23を中心に、被虐待児童の保護の視点からレッスン21の子ども虐待対策にも関連付けて現状と課題について整理し、その支援への取り組みについてまとめること。なお、テキスト以外の文献も参考にすること。

レポートの評価基準

・課題の趣旨・意図をよく理解して論述している。
・テキストの丸写しではなく、精読の上、自分なりに理解を深め要点が整理されている。
・自分の経験や意見を記述する必要はない。
・参考文献などで学習を深めることが必要である。ただし、内容を引用または参考にした場合は、必ずその引用先等を示しておく必要がある。
・文字数が極端に多い・少ない場合は、不合格となることがある（2,000字程度を守ること）。
・作成の際の丁寧さ、誤字・脱字についても、減点対象となる。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・設題の趣旨を正確に把握し論旨を展開することを心がける。
・設題に関係のないことを論述しても不合格となる。
・テキストの全範囲からの出題となるので、全章を熟読し単元ごとにポイントを理解しておくことが必要である。（レポート課題以外のところも各自でまとめ理解しておくこと。）
・子どもの権利保障について多面的に理解を深めておくことが大前提である。
・子ども家庭福祉における支援には多様な機関や専門職がかかわることから、それらの機能や役割及び関連についても理解しておくことが前提である。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を十分理解し、求められている問いに対して的確に解答ができているかどうかを評価する。したがって、経験や持論を展開しても評価しない。
・設題に関するキーワードがきちんと述べられていること。
・文字数が極端に多い・少ない場合は不合格となることがある。また、誤字・脱字等も減点対象となる。

参考文献

・厚生労働省HP 『厚生労働白書（最新版）』
・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会
・遠藤和佳子 『はじめての子ども家庭福祉』 ミネルヴァ書房
・社会福祉法人大阪ボランティア協会 『福祉小六法（最新版）』 中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXⅢ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30003	科目名［単位数／学習時間］	障害者福祉論［4単位／180時間］	科目担当	藤原　伸夫
テキスト	●相澤譲治　橋本好市　津田耕一『障害者福祉論　障害者ソーシャルワークと障害者総合支援法』みらい				
ISBN	9784860155445	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	22143
実務経験のある教員による科目	地方公務員（福祉専門職）				

科目の目的

社会福祉の領域では制度の改変が続いている。障害者福祉の分野においても近年の動向として、障害者権利条約の批准、障害者虐待防止法、障害者差別解消法の整備をはじめ、障害者自立支援法から障害者総合支援法への移行等がある。障害者福祉の基本理念や法体系を捉えつつ、本科目担当者が障害者支援に携わった経験などを踏まえて障害者の権利擁護、生活支援、自立支援などについて学ぶ機会とする。

到達目標

・障害者福祉の理念と障害の概念を理解する。
・障害者の生活と実態を理解する。
・障害者福祉のサービス体系を理解する。
・障害者の生活保障（雇用・就労）を理解する。
・障害者福祉を支える専門職と多職種連携を理解する。

学習テーマ

1	「障害者福祉の視点」について【学習の基本姿勢を学ぶ。】＜テキスト第1章＞
2	「障害者福祉の歴史」について【わが国と諸外国を対比して学ぶ。】＜テキスト第2章＞
3	「障害者福祉の基本理念」について【特に現代における基本理念を学ぶ。】＜テキスト第3章＞
4	「障害の概念、そのとらえ方」について【特に国際生活機能分類を学ぶ。】＜テキスト第4章＞
5	「障害者福祉実践における今日的視点」について【ストレングス、エンパワメントについて理解する。】＜テキスト第5章＞
6	「障害者の生活とニーズ」について【特に障害者の生活の実態を理解する。】＜テキスト第6章＞
7	「障害者福祉の法体系と実施機関」について【特に法の目的と関わる実施機関を理解する。】＜テキスト第7章＞
8	「障害者福祉のサービス体系」について【特にサービス給付の仕組みを理解する。】＜テキスト第8章＞
9	「障害者の社会参加」について【特に社会参加を拒む要因と克服への課題を理解する。】＜テキスト第9章＞
10	「権利擁護」について【特に権利擁護にかかわるシステムを理解する。】＜テキスト第10章＞
11	「障害者の生活保障」について【特に雇用・就労について学ぶ。】＜テキスト第11章＞
12	「障害者福祉を支える人々」について【専門職だけでなくその他の支援者についても理解する。】＜テキスト第12章＞
13	「障害者ケアマネジメント」について【特に障害者マネジメントの必要性、理念、展開過程について理解する。】＜テキスト第13章＞
14	「障害者ソーシャルワークの実際①」について【身体障害者の事例を学ぶ。】＜テキスト第14章＞
15	「障害者ソーシャルワークの実際②」について【知的障害者の事例を学ぶ。】＜テキスト第14章＞

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

現代における障害者福祉の基本理念についてどのようなものがあるか説明しなさい。

第2課題

障害者福祉にかかわる実施機関はどのようなものがあるか整理して説明しなさい。

第3課題

わが国における権利擁護にかかわる法や制度について整理して説明しなさい。

第4課題

障害者ケアマネジメントにあたり留意すべきことはどのようなことか述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第3章では障害者福祉の基本理念を4つの柱としてあげている。テキストの丸写しではなく熟読して分かりやすくまとめること。また、テキスト以外の文献も参考にすること。

第2課題の留意点

テキスト第7章に実施機関が紹介されている。テキストの丸写しではなく、分かりやすい説明に努めること。また、テキスト以外の文献も参考にすること。

第 3 課題の留意点

テキスト第10章を熟読すること。特に権利擁護のシステムと今後の課題を参考にすること。テキストの丸写しではなく、分かりやすい説明に努めること。また、テキスト以外の文献も参考にすること。

第 4 課題の留意点

テキスト第13章を熟読すること。特に、ケアマネジメントの必要性、理念、展開過程を理解したうえで整理して述べること。テキストの丸写しではなく、分かりやすい説明に努めること。また、テキスト以外の文献も参考にすること。

レポートの評価基準

・課題の趣旨、専門用語の意味を正しく理解して、自分なりの視点で課題を考察し、分かりやすく論述していること。
・テキスト以外にも最新のデータを、報道や白書などから引用していること。
・文章の主語・述語に留意して、誤字・脱字・変換ミスが無いこと。
・すべての課題に共通であるように、2,000字程度という枠を守ること。
・引用元の出典を明示すること。テキストであっても、引用箇所を明確に示すこと。
・文末に「参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。それらは、本文（2,000字程度）の文字数には含まれない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「到達目標」をふまえ、テキストの該当する各章を熟読し、ポイントを整理して理解しておくこと。特に、わが国の障害者福祉制度は近年、支援費制度から障害者自立支援法、そして障害者総合支援法と変遷している。変遷の経緯や、テキストに出てくる障害者福祉関連諸法の内容について整理して理解しておくこと。答案作成にあたっては常に、障害者の権利に関する条約・障害者基本法の理念等、障害者の権利擁護、本人中心の支援の視点を忘れないこと。

科目修了試験の評価基準

試験は論述問題 1 題で評価する。
・設題の内容を正しく理解し、論理的でわかりやすく、正確に説明ができていること。
・解答用紙表面の概ね 2 / 3 以上の記述があること。
・テキスト学習で学んだことを基礎に、専門用語を取り入れた答案を合格点とするが、「科目の目的」や「到達目標」をふまえずに自説のみに終始しても評価はしない。

参考文献

・竹端寛　山下幸子　尾﨑剛志　圓山里子　『新・基礎からの社会福祉　4　障害者福祉　第 3 版』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する

科目コード	30004	科目名［単位数／学習時間］	老人福祉論［4単位／180時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●日本ソーシャルワーク教育学校連盟　『最新　社会福祉士養成講座　2　高齢者福祉』　中央法規出版				
ISBN	9784805882450	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	22144
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

高齢者の福祉問題は、少子・高齢社会といわれる現代社会において、すべての人が避けて通ることができない関心事である。「老い」がもたらす生活上の問題をとらえ、現状に対して、対応できる法制度、サービスについて学んでいく。

具体的には、高齢者の心身状況の特性を知り、社会的な存在価値を高齢者自身が実感できるようなQOLの維持・向上を獲得した生活の実現化を考えていく。高齢者福祉の理念にもとづき、歴史、制度・政策の概要を学び、サービス、実践の場と方法、利用者側の参加・意思表示、民間組織の役割などについて幅広く理解する。

テキストを熟読・理解し、制度の変更等社会動向について厚生労働省の資料等を把握し、他の文献にも触れ、レポートの構成を考え、学びを進める。実務経験を活かし、実践的・支援的視点から教授する。

到達目標

具体的には、次の内容を習得する。

①高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活と、これを取り巻く社会環境について理解する。②高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。③高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。④高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。

上記の知識を最新の統計や制度を取り込んで理解する。

学習テーマ

1	高齢者の定義と特性、少子社会の到来について理解する。
2	高齢者の生活実態について理解する。
3	高齢者を取り巻く社会環境について理解する。
4	高齢者福祉の歴史、高齢者福祉の理念について理解する。
5	介護保険制度の概要、地域支援事業について理解する。
6	介護保険サービスの体系について理解する。
7	高齢者保健福祉の法体系、老人福祉法について理解する。
8	高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法について理解する。
9	バリアフリー法、高齢者住まい法について理解する。
10	高齢者雇用安定法、育児・介護休業法、市町村独自の高齢者支援について理解する。
11	高齢者と家族等の支援に関わる関係機関と役割（行政、指定サービス事業者、国保連、他）について理解する。
12	高齢者と家族等を支援する専門職等の役割（公私の専門職）について理解する。
13	高齢者と家族等を支援するソーシャルワーカーの役割（支援過程、レパートリー）について理解する。
14	認知症、終末期ケアにおけるソーシャルワーク、チームアプローチについて理解する。
15	高齢者と家族等に対する支援の方法の実際、地域包括ケアシステムとの関連について理解する。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

高齢者の定義と特性について、説明しなさい。考察のなかに、習得した内容が自身の仕事や活動等に照らし、どのように反映され活かされるか、記述しなさい。

第2課題

高齢者福祉の理念について、説明しなさい。考察のなかに、習得した内容が自身の仕事や活動等に照らし、どのように反映され活かされるか、記述しなさい。

第3課題

介護保険サービスの体系について、説明しなさい。考察のなかに、習得した内容が自身の仕事や活動等に照らし、どのように反映され活かされるか、記述しなさい。

第4課題

高齢者虐待防止法について、説明しなさい。考察のなかに、習得した内容が自身の仕事や活動等に照らし、どのように反映され活かされるか、記述しなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト第 1 章を中心に、高齢期の社会的・身体的・精神的総合的理解について理解できるよう学ぶ。

第 2 課題の留意点

テキスト第 3 章を中心に、国連原則、老人福祉法、高齢社会対策基本法、介護保険法の理念、諸概念を整理し、理解できるよう学ぶ。

第 3 課題の留意点

テキスト第 4 章を中心に、各種サービス、住宅改修、居宅介護支援、施設サービスについて学ぶ。

第 4 課題の留意点

テキスト第 5 章 4 節を中心に、法律の概要、未然防止について学ぶ。

レポートの評価基準

「各課題の留意点」に沿ったレポート構成、適切な文字表現、課題の論述に十分な文章量、参考文献の記載等から評価する。インターネットのみの情報の貼り付けや自己の体験等でレポートを作成しないこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全範囲をよく読んで理解を深めておくこと。また、テキスト以外の新たな報道や改正点等を踏まえた文献にも目をとおして理解を深め、レポート以外のテキストの学習箇所も理解しておくこと。設題の趣旨を正確に把握し、解答できるよう心がけることが必要。

科目修了試験の評価基準

・設題に対する適切な内容の解答、論述に十分な文章量、適切な文字表現等から評価する。
・設題に関連する経験や意見は書かないこと。
・設題を解く力を評価する。キーワードがない周辺事情を論じても適切な解答としては評価しない。
・テキストよりも古い情報は、評価しない。

参考文献

・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会
・厚生労働省HP 『厚生労働白書（最新版）』
注意：参考文献以外の文献にもあたり、最新の高齢者福祉・介護の動向を押さえてほしい。本領域は頻繁に法制度が変わるので、指定の文献以外のものや、インターネットではWAMNET等は参考程度にすること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30006	科目名［単位数／学習時間］	地域福祉論［2単位／90時間］	科目担当	手島　洋
テキスト	●社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座9　地域福祉の理論と方法　第3版』 中央法規出版				
ISBN	9784805851050	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	22145
実務経験のある教員による科目	社会福祉協議会（地域福祉部長）				

科目の目的

日本の地域福祉は、社会福祉政策において、高度経済成長末期から在宅福祉サービスの発展や福祉施策の市町村への分権化を経て、市町村地域福祉計画の策定が位置づけられるようになった。しかし、経済低成長下の日本の多くの福祉ニーズに対応するため、住民福祉活動の支えあいをインフォーマルな社会資源として政策が期待するなど、“住民主体の地域福祉”をめぐっては多くの課題があるのが現状である。これらの背景に注意しつつ、本科目では、地域福祉の概念と歴史を確認したうえで、様々な地域福祉の制度や活動について地域福祉実践の具体的な特徴と課題について学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

地域福祉の特徴と固有性について、他の対象別社会福祉分野との相違点を意識して理解を深めてほしい。また、地域福祉の対象者であり主体者でもある福祉当事者も含めた“地域住民”と地域住民のかかえる生活課題の解決を支援する“専門性”の関係性やネットワークの課題についても検討してほしい。

主な学習項目の柱は次のとおり。

・地域福祉の理念・歴史・主体・現状（テキスト第1章～第3章、第12章・第13章参照）
・地域福祉の推進組織と住民参加（テキスト第4章・第6章参照）
・コミュニティソーシャルワーク（テキスト第5章・第11章・第12章参照）
・ソーシャルサポートネットワーク（テキスト第7章参照）
・地域福祉のニーズと社会資源（テキスト第8章・第9章参照）
・地域トータルケアシステム（テキスト第10章参照）

学習テーマ

1	地域福祉の理念【学習のポイント：地域福祉を理解する基盤となる理念を理解する。】
2	地域福祉の歴史【学習のポイント：地域福祉の理論と実践を形成してきた歴史を理解する。】
3	地域福祉の主体【学習のポイント：地域福祉における主体の意味と主体形成について理解する。】
4	地域福祉に関わる法制度【学習のポイント：地域福祉を推進する法律や制度について理解する。】
5	地域福祉の推進組織①【学習のポイント：社会福祉協議会について理解する。】
6	地域福祉の推進組織②【学習のポイント：地域包括支援センターなどの組織について理解する。】
7	地域福祉と住民参加【学習のポイント：地域福祉推進の上での住民の役割について理解する。】
8	コミュニティソーシャルワーク①【学習のポイント：コミュニティソーシャルワークの概念を理解する。】
9	コミュニティソーシャルワーク②【学習のポイント：コミュニティソーシャルワークの方法を理解する。】
10	ソーシャルサポートネットワーク【学習のポイント：地域における支援の組織化を理解する。】
11	地域福祉のニーズ把握【学習のポイント：地域のニーズの概要と把握について理解する。】
12	地域の社会資源とその開発【学習のポイント：地域の社会資源の把握と開発の方法を理解する。】
13	地域トータルケアシステム【学習のポイント：地域の総合的な支援のシステム化を理解する。】
14	災害と地域福祉【学習のポイント：災害時の地域福祉の方法論の展開について理解する。】
15	まとめ【学習のポイント：これまでの内容の振り返りを行う。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

地域福祉を推進するための福祉教育の概要と課題について述べなさい。

第2課題

コミュニティソーシャルワークの概要と課題について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

地域福祉を推進する主体者である地域住民が地域の課題を理解し、地域福祉を展開することの重要性を気づき学ぶ営みである福祉教育の全体像を理解することを目的としたレポートである。テキスト第3章を中心に考えるのだが、住民が地域福祉活動に参加する意義（テキスト第6章参照）や行政との協働のあり方（テキスト第1章第2節参照）についても検討し、できれば小中高等学校や住民を対象とした実際の福祉教育の内容をふまえて検討してみることが望ましい。

第 2 課題の留意点

地域福祉を推進するソーシャルワークの方法であり地域に根ざした社会福祉実践を展開する専門的な技術であるコミュニティソーシャルワークの全体像を理解することを目的としたレポート課題である。テキスト第 5 章第 1 節の内容を中心に考えるのだが、コミュニティソーシャルワークの方法（テキスト第 5 章第 3 節参照）やコミュニティソーシャルワーカーの役割（テキスト第 5 章第 5 節参照）についても言及しつつ、できれば市町村社会福祉協議会や地域包括支援センターでのコミュニティソーシャルワーカーの役割を実際に検討してみることが望ましい。

レポートの評価基準

それぞれの課題について、テキストの記述をふまえて要点を簡潔にまとめて、さらに自分自身の考えをテキストのまとめとは区別して的確に述べられているかについて評価する。

具体的には、①テキストの記述をふまえたうえで、参考文献やその他の地域福祉に関する参考資料等で調べた内容を加味して課題について論述している。②課題の内容について社会の実際の課題状況をふまえて論述している。③誤字脱字がないことも含めて適切な文章を作成する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストから幅広く出題するが、主としてテキストの記述内容を中心とした記述がされていることが基本的理解の判断の基準となる。そのうえで、主な論点については、参考文献やその他の地域福祉に関する参考資料等を検討した質の高い答案作成を期待する。なお、これまでの試験では、設問と全く関係のない解答がしばしば見受けられた。このような場合は、必ず不合格となるので注意すること。

科目修了試験の評価基準

設問の趣旨を理解し、テキストの内容をふまえて適切に解答ができているかを中心に評価する。そのうえで、参考文献やその他の地域福祉に関する参考資料等から得た知識により解答を深めた場合には、上記の評価に加点する。また、設問と関係のない解答内容は、評価の対象としないので注意すること。

参考文献

・岩間伸之　原田正樹　『地域福祉援助をつかむ』　有斐閣
・牧里毎治　杉岡直人　森本佳樹　『ビギナーズ地域福祉』　有斐閣

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のxvii）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30008	科目名［単位数／学習時間］	公的扶助論［2単位／90時間］	科目担当	未定（「親和通信」で連絡）
テキスト	●一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新　社会福祉士養成講座　4　貧困に対する支援』中央法規出版				
ISBN	9784805882474	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	22146

科目の目的

本科目の目的は、今日の貧困をめぐる実態を把握し、「最後のセーフティネット」としての公的扶助制度の役割について理解することである。公的扶助制度は、他の社会保障・社会福祉制度、労働政策との兼ね合いによって役割が変化していくので、社会保障論、社会福祉学概論の知識も必要となってくる。また、数多く存在するニュースや新聞報道を貧困という視点から捉えることができるようになってほしい。

到達目標

・私たちの生活と公的扶助制度の関連について、説明することができる。
・公的扶助制度の発展過程と制度を支える基本理念について、理解することができる。
・生活保護制度をめぐる論点について、説明することができる（そのためにも日々のニュースや新聞をチェックする必要がある）。
・低所得者に対する法制度をめぐる論点について、説明することができる
・生活保護制度や低所得者に対する法制度をめぐる論点について、根拠を示しながら自分の意見を述べることができる。

学習テーマ

1	公的扶助の概念【テキスト第1章】
2	貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境①【テキスト第2章の第1節】
3	貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境②【テキスト第2章の第2節と第3節】
4	貧困の歴史①【テキスト第3章の第1節と第2節】
5	貧困の歴史②【テキスト第3章の第3節】
6	生活保護制度①【テキスト第4章の第1節】
7	生活保護制度②【テキスト第4章の第2節】
8	生活困窮者自立支援制度【テキスト第5章の第1節】
9	生活福祉資金貸付制度【テキスト第5章の第2節】
10	低所得者対策【テキスト第5章の第3節】
11	ホームレス対策【テキスト第5章の第4節】
12	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割①【テキスト第6章の第1節と第2節】
13	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割②【テキスト第6章の第3節と第4節】
14	貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割③【テキスト第6章の第5節と第6節】
15	貧困に対する支援の実際【テキスト第7章】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

現代の日本社会において、公的扶助制度が存在する意義について説明しなさい。

第2課題

生活保護制度もしくは低所得者に対する法制度のいずれかを取り上げて、その制度の現状と課題について説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

公的扶助制度は国によって発展過程や形態が異なっている。とはいえ、各国に存在することは事実であり、私たちが生活をしていく上で大きな役割を果たしている。存在意義を理解することは重要である。テキスト第1章～第3章を参考にレポート作成すること。

第2課題の留意点

現存する制度の現状と課題についてレポート作成するため、何を「現状」と「課題」と捉えるのかをまずは考えて欲しい。「何のための制度でどうあるべきか」を第1課題で考えれば、第2課題も取り組みやすいと考えられる。テキスト第4章～第6章を参考にレポート作成すること。テキストは必ずしも制度の評価を積極的には行っていないため、他の文献を参考に踏み込んだ分析を行ってもよい。

レポートの評価基準

・テキストを丁寧に読み込み、客観的な事実をもとに論述できていること。
・テキストに掲載されていない最新の情勢を調べて、記述できているとなお望ましい。
・自らの意見を述べることは良いが、その場合は根拠を示した上で論理的に記述できていなければならない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・レポート課題で取り組んだ部分以外のテキスト内容もよく復習しておくこと。
・各制度の現状と課題について理解しておくこと。
・各制度が存在するための前提となる公的扶助の基本原理と発展過程について理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題内容を正しく理解し、論理的に記述できていること。
・テキスト内容により得た基礎的な知識を活用しつつ、自らの意見を述べることはプラスの評価となる。ただし、レポートの評価基準にも記載しているが、根拠を示して論理的に記述できていることが重要である。
・試験に臨む際には、テキストの内容とレポート課題を復習しておくこと。

参考文献

・岩永理恵 『生活保護は最低生活をどう構想したか－保護基準と実施要領の歴史分析－』 ミネルヴァ書房
・村田隆史 『生活保護法成立過程の研究』 自治体研究社
・岩田正美 『リーディングス 日本の社会福祉 第2巻 貧困と社会福祉』 日本図書センター

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30011	科目名[単位数/学習時間]	福祉レクリエーション論［2単位／90時間］	科目担当	宮辻　和貴
テキスト	●日本レクリエーション協会 『福祉レクリエーションシリーズⅠ　福祉レクリエーション総論』 中央法規出版				
ISBN	9784805819012	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	22147

科目の目的

福祉レクリエーションの基本的な考え方と福祉レクリエーションを支える理論について学習する。社会福祉の歴史のなかで「遊び」や「レクリエーション」がどのような位置づけにあるのかを知り、社会福祉（サービス）の新しい方向と、これからレクリエーションがどのような役割を果たさなくてはならないのかを整理する。

その上で「生活のレクリエーション化」と「レクリエーションの生活化」の両面から考え、福祉レクリエーションの内容とそれが展開される「場」について理解を深める。

到達目標

福祉レクリエーションが如何なる意味か、レクリエーション概念の発生と展開されてきた「場」を追い、社会福祉（サービス）とレクリエーションがどのように関わってきたのかを検討しつつ、福祉レクリエーションの考え方を理解する。そこで、福祉レクリエーションの歴史を理解することにより、現在の法体系と行政施策のなかでレクリエーションの位置づけについて学ぶことができる。

また、福祉レクリエーションが展開する場は、医療・保健・社会福祉・生涯学習サービスと4つの分野に分類されているが、それぞれの特徴やどのような課題を抱えているのかについて学習する。

学習テーマ

1	福祉レクリエーションについて【福祉レクリエーションの定義を理解する。】
2	福祉レクリエーションの考え方について【福祉レクリエーションの目的や意義を理解する。】
3	戦後の社会福祉分野におけるレクリエーションの歩みについて【社会福祉の歴史を理解する。】
4	福祉レクリエーションに関わる法体系と行政施策について【社会福祉の法律を理解する。】
5	福祉レクリエーションと生活の質について【日常生活からレクリエーションを理解する。】
6	福祉レクリエーションの内容について【各領域の福祉レクリエーションを理解する。】
7	福祉レクリエーションの展開分野の概観について【各分野の福祉レクリエーションを理解する。】
8	福祉レクリエーション援助について①【福祉レクリエーション援助の定義を理解する。】
9	福祉レクリエーション援助について②【福祉レクリエーション援助の役割と影響を理解する。】
10	福祉レクリエーション援助について③【福祉レクリエーション援助の特質を理解する。】
11	福祉レクリエーション援助の全体像について【福祉レクリエーション援助のプロセスを理解する。】
12	福祉レクリエーション援助者の基本的スタンスについて①【主体者と援助者の役割を理解する。】
13	福祉レクリエーション援助者の基本的スタンスについて②【媒介者の役割を理解する。】
14	福祉レクリエーション援助者の活動領域について【援助者の活動領域での役割を理解する。】
15	レクリエーション援助者の資質と能力について【援助者の資質と能力を理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

福祉レクリエーションの主体者と援助者について整理したうえで、それぞれに求められる資質と能力についてあなたの考えを述べなさい。

第2課題

知的障害者福祉法とレクリエーション施策に関する内容を整理したうえで、今後の在り方についてあなたの考え（自身が改善する必要があると考える内容などを提案すること）を述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

福祉レクリエーションは社会福祉における援助サービスの一環であることから、利用者の生活の質（QOL）や日常生活動作（ADL）を高めるために重要な役割を果たしている。そのため福祉レクリエーション援助者の基本的なスタンスを把握するとともに、主体者に援助を提供するレクリエーション援助者の資質と能力について整理（自身の考えを含む）すること。

テキストの第3部「福祉レクリエーションの援助」（pp.113-144）を参照しながら理解を深めること。

第2課題の留意点

福祉レクリエーション全般に関係する法制度の中で示されている知的障害者福祉法とレクリエーション施策について、どのような内容をベースとしているのかを整理するとともに、今後の在り方を考えるうえで自身が改善する必要がある内容などを提案すること。

テキストの第1部「福祉レクリエーションの考え方」（pp. 3 -58）、第4部「資料編」（pp.171-191）を参照しながら理解を深めること。

レポートの評価基準

「科目の目的」、「到達目標」に対する意義や意味を理解したうえで、テキストから学んだ内容をレポート課題に反映できるように心掛ける。その中で「課題の留意点」に注意しながら、自身の考えや表現などが含まれているかどうかについても評価する。

以下の評価基準とする。

・レポートの基本的形式が整えられている（段落の使い方、引用の仕方、文献情報の有無、誤字脱字など）。
・レポートが読み手に伝わるように作成されている（ストーリー展開がなされているかなど）。
・レポート課題に対する論述がなされている（自身の考えや表現など）。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストで扱われているテーマから出題する。テキストをよく読み、理解を深めておくことが必要である。そのため、テキストで述べられているポイントとキーワード（頻繁に強調され用いられている言葉、表現など）を用いながら、設題に対してまとめることが重要である。また、自身の考えを述べる場合は、テキストにある記述との関連性を正確に把握したうえで、理論立てて記述すること。

テキストの第 1 部から第 3 部まで（pp. 3 -144）の内容を必ず熟読し、それぞれの部や章で示されているポイントとキーワード（頻繁に強調され用いられている言葉、表現など）についても確認しておくことが望ましい。

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨をよく読み取り、ポイントやキーワード（頻繁に強調され用いられている言葉、表現など）となる事項や自身の考えが含まれたうえで、設題に対する内容が正確に反映されてまとめられているのかどうかを中心に評価する。

そのため、単純に言葉を羅列したり、同じ内容を繰り返し説明するなど、設題内容を正しく理解していない場合や論理的な記述ができていない場合は評価しない。また、解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述がない場合も同様である。

なお、テキスト内容において得られた基礎的な知識を活用して、設題に対して自身の考えが含まれた内容になるほど満点に近い評価となる。

参考文献

・日本レクリエーション協会 『福祉レクリエーションシリーズⅡ 福祉レクリエーション援助の方法』 中央法規出版
・日本レクリエーション協会 『福祉レクリエーションシリーズⅢ 福祉レクリエーション援助の実際』 中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30012	科目名[単位数/学習時間]	福祉コミュニケーション論[2単位/90時間]	科目担当	未定（「親和通信」で連絡）
テキスト	●鈴木雅人 『「相談力」入門 対人援助職のためのコミュニケーションスキル36』 中央法規出版				
ISBN	9784805837993	本体価格(円)（2022年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	22148

科目の目的

対人援助に携わる者にとって、福祉サービスの利用者とのコミュニケーションには、一般的なコミュニケーションの基礎理論をふまえたうえで、気配りや目配りをしながら、それぞれが置かれている状況を十分理解し、柔軟に対応することが求められる。また、利用者主体の支援には、支援者は利用者の想いを理解し、最大限尊重しながらその想いを引き出すことが求められる。本科目では対人援助職としての利用者とのコミュニケーションの中でも「相談」に焦点を当てて、相談力を高めるために必要な内容を理解することを目的とする。

到達目標

・対人援助職として相談の構造を理解する。
・対人援助職として自己覚知について理解する。
・対人援助における利用者理解に関する基本姿勢、技法などについて理解する。

学習テーマ

1	福祉専門職について理解する。＜テキストpp. 2 -12＞
2	相談力の全体像を理解する。＜テキストpp.13-32＞
3	相談と日常会話の違い、利用者中心、相談の組み立てについて理解する。＜テキストpp.33-45＞
4	利用者理解のための利用者の話の要素の把握、相談援助職としての観察力、自己覚知について理解する。＜テキストpp.46-59＞
5	ニーズとウォンツについて理解する。＜テキストpp.60-65＞
6	相談場面における相談援助職の意図的な取り組みと傾聴について理解する。＜テキストpp.66-90＞
7	相談援助職としての安心感と、共感について理解する。＜テキストpp.91-107＞
8	相談援助職の信頼性と専門性について理解する。＜テキストpp.108-116＞
9	相談場面におけるアプローチについて理解する。＜テキストpp.117-122＞
10	利用者の自己肯定感とモチベーションアップのために必要な関わりについて理解する。＜テキストpp.123-130＞
11	利用者の変化について理解する。＜テキストpp.131-144＞
12	相談援助職としてのプレゼンテーションの技術、利用者の変化の察知、利用者の気付きをもたらす技術について理解する。＜テキストpp.145-163＞
13	利用者が行動し、想像するための相談援助職としての関わり、相談後のフォローについて理解する。＜テキストpp.164-177＞
14	相談援助職としてのゴール思考、感情表現、感情コントロール、客観視について理解する。＜テキストpp.178-207＞
15	相談援助職としての記録などについて理解する。＜テキストpp.209-221＞

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキスト「第2章 『相談力』の全体像をつかむ」を参考に、相談の三つのステップについて説明しなさい。

第2課題

ニーズとウォンツを説明するとともに、それらを用いながら「相談者に変化をもたらす相談力」についてまとめなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・テキスト「第2章 『相談力』の全体像をつかむ」を熟読して理解する。
・相談の三つのステップについて、2,000字程度の説明文としてまとめる。
・テキストも含め必ず引用・参考文献を使用し、使用した文献について適切に記載する。

第2課題の留意点

・テキスト「第3章 4.心を動かす相談力（Step 3 相談者に変化をもたらす）」を熟読して理解する。
・ニーズとウォンツを要約し説明するとともに、それらの用語を使用しながら、「相談者に変化をもたらす相談力」について2,000字程度でまとめる。
・テキストも含め必ず引用・参考文献を使用し、使用した文献について適切に記載する。

レポートの評価基準

・レポート作成の基本に則った文章構成であり、誤字脱字がないこと。
・文章の内容が正しくとも、課題の趣旨に合致した内容でなければ評価できない。
・課題の内容を正しく理解して、レポート作成に取り組んでいる。
・テキストの転記ではなく、参考文献や関係資料を活用してレポート作成に取り組んでいる。
・引用文献、参考文献を適切に明示している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの熟読により正しい知識を習得し、設題の内容を正確に理解すること。特に、「福祉専門職として相談を学ぶ意味」や「相談と日常会話の違い」、相談スキルを高める「自己覚知」、「プレゼンテーションの技術」、「ゴール思考」、「記録」については学習し理解を深めておくこと。
・論理的な文章で記されており、自分の意見を記す場合は、テキストの内容との関連性を明確に示す。
・自分の意見だけでは主観的な感想文になることが多いため、客観的な視点が必要である。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があること。

科目修了試験の評価基準

・テキストに基づいた出題であるため、テキストで使用されている用語の正しい理解と記述であること。
・設題の内容を正しく理解して解答し、自分の意見を述べる場合は、テキストとの関連性を明確に示す。
・解答した文章の内容が正しくとも、設題の趣旨に合致した内容でなければ評価できない。
・設題とは無関係で私的な文章が記されていると、減点の対象となる場合がある。
・設題内容を正しく理解し、論理的でわかりやすく、正確に説明ができており、誤字脱字、文章の主語・述語のねじれ等、文章作成の基本に則っていない場合は減点対象となる。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のxiii）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	30013	科目名[単位数／学習時間]	社会福祉援助技術論Ⅰ［2単位／90時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●日本ソーシャルワーク教育学校連盟 『最新　社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座11　ソーシャルワークの基盤と専門職』 中央法規出版				
ISBN	9784805882412	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,900	生協テキストNo.	22149
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

本テキスト履修科目は、スクーリング履修科目の「社会福祉援助技術論Ⅰ」と合わせて4単位となる。
本科目は、ソーシャルワークの基礎的な学びをとおして、ソーシャルワークの役割と使命、そのために必要な知識と技術、価値の習得を目的とする。
なお、テキストの相談援助は、ソーシャルワークと同義である。

到達目標

本科目は、以下の内容を到達目標とする。
①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。
②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。
③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。
④社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。
⑤ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。
⑥ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。
⑦総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。

学習テーマ

1	ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士とは（法律的位置づけ、専門性）
2	ソーシャルワークにおけるコンピテンシー
3	ソーシャルワークの概念（ソーシャルワークの定義、構成要素）
4	ソーシャルワークの原理、理念
5	ソーシャルワークの形成過程（欧米）
6	ソーシャルワークの形成過程（日本）
7	ソーシャルワークの形成過程（統合化）
8	ソーシャルワークの倫理
9	ソーシャルワークの倫理的ジレンマ
10	ソーシャルワークの専門職の概念、範囲、職域
11	ソーシャルワーク実践が展開される組織、機関、団体と専門職
12	諸外国のソーシャルワークの動向
13	ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク
14	総合的かつ包括的な支援とジェネラリストの視点
15	総合的かつ包括的な支援における多職種連携、チームアプローチ

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

ソーシャルワークの理念について説明しなさい。

第2課題

社会福祉士の職域と役割について説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第3章2節を中心に学び、ソーシャルワークの使命を、権利、ノーマライゼーション、インクルージョンをキイワードに整理し、記述すること。考察の最後に、使命達成のために継続的に必要になる取り組みの姿勢について記述すること。

第2課題の留意点

テキスト第6章2節を中心に学び、社会事情に対応してどのように拡大してきているか、高齢者、障害者、生活困窮者、保健医療、学校、司法をキイワードに記述すること。考察の最後に、自身に身近に考えられる領域をあげて記述をすること。

レポートの評価基準

・レポート作成の基本に則った文章構成であり、誤字脱字がないこと。適切な文字数量が書かれていること。あまりに少ない文字数量は、評価できないことがある。
・課題の内容を正しく理解して、レポート作成に取り組んでいる。
・テキストの抜き書きではなく、参考文献や関係資料を活用し、自分の文章でレポート作成に取り組んでいる。
・引用文献、参考文献を適切に明示している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの全範囲をよく読み、知識の習得と捉え方の変容を把握し、設題の内容を正確に理解すること。
・論理的な文章で記し、自分の考え等は、考察等必要な箇所でのみ記述すること。
・主観的な内容、個別の事例をとおしての設題への解答に替えることはしないこと。

科目修了試験の評価基準

・テキスト全体をよく読んだうえでの用語、内容についての正しい理解と記述が必要である。
・設題の内容を正しく理解し、適切に解答すること。自分の意見で解答に替える表現は評価できない。
・誤字・脱字は、減点の対象となる場合もある。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があること。

参考文献

・社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座 7 相談援助の理論と方法Ⅰ』 中央法規出版
・社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座 8 相談援助の理論と方法Ⅱ』 中央法規出版
・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30014	科目名[単位数／学習時間]	社会福祉援助技術論Ⅱ［4単位／180時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●社会福祉士養成講座編集委員会　『新・社会福祉士養成講座7　相談援助の理論と方法Ⅰ　第3版』　中央法規出版				
ISBN	9784805851036	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,600	生協テキストNo.	22150
テキスト	●社会福祉士養成講座編集委員会　『新・社会福祉士養成講座8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第3版』　中央法規出版				
ISBN	9784805851043	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,600	生協テキストNo.	22151
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

本科目は、ソーシャルワークの実践理論およびアプローチについてその系譜と内容、また事例等を活用して各理論、各アプローチについて学ぶ。展開過程、ケースカンファレンス、スーパービジョン、記録、情報管理、事例研究・分析の方法についても学ぶ。

なお、相談援助はソーシャルワークと表記しているので、テキストの「相談援助」にあたる。

到達目標

本科目は、以下の内容を到達目標とする。

①人と環境との交互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。
②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。
③ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。
④コミュニティワークの概念とその展開について理解する。
⑤ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。
⑥社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。
⑦支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。
⑧社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。
⑨個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。

学習テーマ

1	ソーシャルワーク（相談援助）とは（構成要素、構造、機能）
2	システム理論によるソーシャルワーク論
3	ソーシャルワークにおける援助関係
4	ソーシャルワークの展開過程
5	ソーシャルワークの技術（アウトリーチ、契約、アセスメント）
6	ソーシャルワークの技術（介入、モニタリング、評価、面接、記録、交渉）
7	ソーシャルワークにおける対象の理解
8	ケースマネジメントとソーシャルワーク
9	グループを活用したソーシャルワーク
10	コーディネーションとネットワーキング
11	ソーシャルワークにおける社会資源の活用、調整、開発
12	ソーシャルワークの実践モデル
13	ソーシャルワークのアプローチ
14	スーパービジョンとコンサルテーション
15	ソーシャルワークにおける情報保護、ICT活用

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

ソーシャルワークにおけるアウトリーチについて、説明しなさい。

第2課題

ソーシャルワークにおける面接の技術について、説明しなさい。

第3課題

ソーシャルワークの実践モデルについて、歴史的展開の経緯を含め、説明しなさい。

第4課題

ソーシャルワークにおける個人情報の保護について、説明しなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

テキスト『新・社会福祉士養成講座 7　相談援助の理論と方法Ⅰ　第 3 版』の第 7 章を中心に読み、ソーシャルワークにおけるアウトリーチに関し、必要性、対象、留意点をキイワードに使用し、記述すること。アウトリーチによる効果について、考察に記述すること。

第 2 課題の留意点

テキスト『新・社会福祉士養成講座 7　相談援助の理論と方法Ⅰ　第 3 版』の第12章を中心に読み、面接の目的、展開、コミュニケーション、形態をキイワードに使用し、記述すること。考察の最後に面接技術が活かされる場について具体例をあげ、記述すること。

第 3 課題の留意点

テキスト『新・社会福祉士養成講座 8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第 3 版』の第 6 章を中心に読み、各モデルが台頭する社会事情を踏まえた歴史的展開を整理すること。キイワードとして、1910年代、1980年代を使用し記述すること。考察の最後に、クライエントの主体性の点からモデルの展開について記述すること。

第 4 課題の留意点

テキスト『新・社会福祉士養成講座 8　相談援助の理論と方法Ⅱ　第 3 版』の第11章を中心に読み、プライバシー、OECD 8 原則をキイワードとして使用し、記述すること。考察の最後に、ソーシャルワークにおける情報入手の必要と情報保護との関係についても記述すること。

レポートの評価基準

・レポート作成の基本に則った文章構成であり、誤字脱字がないこと。適切な文字数量が必要である。極端に少ない場合には、評価できないことがある。
・課題の内容を正しく理解して、記述していること。
・テキストの抜き書きでなく、引用文献、参考文献を適切に明示し、文章構成していること。
・考察が書かれていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの全範囲を習得し、正しい知識をもとに、設題の内容を正確に理解すること。
・論理的な文章で書くこと。主観的な意見、感想によって、設題の解答に替えることはできない。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があること。

科目修了試験の評価基準

・専門用語等の正しい理解と記述が必要である。
・設題の内容を正しく理解して解答すること。
・適切な文字数を記述すること。
・設題と無関係な私的文章等は、減点となる場合がある。

参考文献

・厚生労働統計協会　『国民の福祉と介護の動向（最新版）』　厚生労働統計協会

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30015	科目名［単位数／学習時間］	介護概論［2単位／90時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●菊池信子　『福祉実践をサポートする　介護概論　第2版』　教育情報出版				
ISBN	9784938795924	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,381	生協テキストNo.	22152
生協へお申し込みください					
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

高齢者や障害者のなかで介護を要する人の特性とそれに影響される日常生活の状況を理解し、自らの人生・生活の問題として、介護問題を捉えられるようにする。また、介護の概念・対象を把握し、介護職や福祉職（ソーシャルワーカー）等介護に関わる専門職として必要な対人支援の価値・知識・方法（介護過程、介護保険の運用等）について学んでいく。さらに、要介護状態への個別の対応の留意点、具体的な身辺介護の方法について学ぶ。介護支援に有効な福祉用具、住宅改修など生活環境の改善についても学ぶ。

また介護を支える家族、地域の環境とネットワーク、他の専門職との連携・チームワーク、権利擁護等についても実務経験を活かして教授する。

到達目標

具体的には、次の内容を学んでいく。

社会福祉士（ソーシャルワーカー）に必要とされる介護の理解（ケアワークとの関係から）、介護問題の背景、介護問題の現状、家族介護の問題、介護に関する制度・政策の経緯、介護保険法、介護報酬、介護の理念・倫理・目的、介護に携わる専門職の職種、資格、業務内容、今後の方向性、要介護者へのアプローチの方法（展開過程、連携、ケアマネジメント等）、臨床的介護（身辺介護）の技法、要介護者への対応技法（コミュニケーション、レクリエーション等）、福祉用具、住環境整備、地域環境とネットワークづくり、権利擁護、虐待防止、状態別対応の留意点（寝たきり、認知症、終末期、困難ケース）、事例研究、支援計画の立て方。

学習テーマ

1	人権を基盤とした介護理解について学ぶ。
2	要介護で生活するということについて学ぶ。
3	介護問題の歴史的変遷について学ぶ。
4	介護に関する制度的変遷について学ぶ。
5	介護に関連する現行制度について学ぶ。
6	介護保険法の最新情報について学ぶ。
7	介護保険の改正点、今後の方向性について学ぶ。
8	介護に関連する諸制度について学ぶ。
9	介護保険の認定、給付の手順、介護報酬について学ぶ。
10	介護保険サービス内容について学ぶ。
11	介護保険のサービスの担い手について学ぶ。
12	介護の実践過程、介護予防対策、地域支援について学ぶ。
13	介護の具体的技法について学ぶ。
14	配慮が必要な要介護者、家族への支援について学ぶ。
15	専門職、今後の介護動向について学ぶ。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

具体的な介護支援における身辺介護の留意点について説明しなさい。学んで理解した内容について、考察のなかで、自身の仕事や活動に照らして、どのように活かせるか具体的に記しなさい。

第2課題

介護支援におけるリスクマネジメントについて、説明しなさい。学んで理解した内容について、考察のなかで、自身の仕事や活動に照らして、どのように活かせるか具体的に記しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第9章を中心に、福祉・介護職が認識すべき留意点、めざす方向性について学ぶ。社会福祉士、介護福祉士、医行為をキーワードに挙げ、専門職としての責務を視野に入れて考える。

第2課題の留意点

テキスト第11章を中心に、介護支援におけるリスクマネジメントについて、ヒヤリハット、ハインリッヒの法則をキーワードに、体制、アセスメント、対応のポイント、留意点について学ぶ。

レポートの評価基準

「各課題の留意点」を理解し、テキストや参考文献をとおしての学習内容の理解の状況、文章量、適切な文字表現等から総合的に評価する。個人的な体験や事例で文章量を確保しないこと。また、新たな動向についても理解し記述に含めることが望ましい。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読んで、習得してほしい趣旨を理解すること。介護を取り巻く新たな動向に常に注意を払い、最新情報を入手しておくこと。介護政策の最新情報はテキスト以外の文献も必要である。厚生労働省の報告、WAMNETなどのメディアの情報にアンテナを張っておくこと。

設題の趣旨を正確に把握し、趣旨に沿った解答の論旨を展開することが必要。

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨に沿った論旨が展開された解答か、文章量（解答用紙表面の 2 / 3 以上の記載）、適切な文字表現、最新情報か、等を評価する。

参考文献

・社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座13 高齢者に対する支援と介護保険制度』 中央法規出版
・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会
・厚生労働省 『厚生労働白書』 日経印刷
・内閣府 『高齢社会白書』

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	30027	科目名［単位数／学習時間］	障害児保育論Ⅰ［1単位／45時間］	科目担当	細木　玉恵
テキスト	●鶴宏史　『障害児保育』　晃洋書房				
ISBN	9784771030367	本体価格（円）（2022年1月現在）	3,000	生協テキストNo.	22075
実務経験のある教員による科目	公的機関・研究機関での発達支援、相談援助				

科目の目的

保育所・幼稚園・子ども園など就学前施設には、特別な支援を必要とする数多くの子どもが在籍している。特に今日では、共生社会実現に向けて障害そのものに対する新しい概念が確立、定着されつつある時であり、保育者には豊富で正確な知識や情報が必要となってくる。本科目では、子どもたちの多様化するニーズに応え、個々の特性に応じた保育を行うために必要な基礎的知識や支援方法について理解することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・障害児保育制度の歴史的変遷と、障害児保育を支える理念について理解する。
・子どもの発達と、さまざまな障害の特性について理解する。
・個々の特性に配慮した支援や、環境設定について理解する。
・さまざまな違いをもった子どもたちがその違いを認め、共に育ちあうための保育者の役割を理解する。
・特別な配慮を必要とする子どもの保育に関する現状と今後の課題について理解する。

学習テーマ

1	障害児保育とは【学習のポイント：障害のとらえ方を理解する。障害児保育の理念を理解する。＜テキストpp. 1 -22＞】
2	障害の理解と援助①【学習のポイント：肢体不自由、視覚障害、聴覚障害について、それぞれの特性と支援のあり方を理解する。＜テキストpp.34-64＞】
3	障害の理解と援助②【学習のポイント：知的障害の特性と支援のあり方を理解する。＜テキストpp.65-77＞】
4	障害の理解と援助③【学習のポイント：発達障害（ASD･ADHD･LD）の特性と支援のあり方を理解する。＜テキストpp.78-99＞】
5	障害の理解と援助④【学習のポイント：重症心身障害、医療的ケア、および障害に併発しやすい疾患の特性と支援のあり方を理解する。＜テキストpp.100-115、関連内容pp.246-248＞】
6	障害児保育の実際①【学習のポイント：障害のある子どもに対する遊びの援助と環境構成について理解する。＜テキストpp.134-144、関連内容pp.154-166＞】
7	障害児保育の実際②【学習のポイント：障害のある子どもに対する生活援助と環境構成について理解する。＜テキストpp.145-153、関連内容pp.154-166＞】
8	これからの障害児保育【学習のポイント：障害児保育の歴史的変遷を理解し、現状と課題を考える。＜テキストpp.238-253、関連内容pp. 1 -22＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

障害児保育の歴史的変遷、および今求められている保育のあり方について述べなさい。

第1課題の留意点

・テキスト第Ⅰ部を熟読し、障害児保育の基本的な考えを理解したうえで記述すること。
・テキスト第Ⅲ部を熟読し、障害児保育はどのような状況や背景の中で制度化され展開してきたのか、その時々の課題は何かを明確にすること。
・障害児保育が、どのように「権利としての保育」として認識され展開してきたのかを明確にすること。
・インクルーシブ保育や合理的配慮について、適切な説明を加えること。
・参考文献『保育所保育指針＜平成29年告示＞』に明記されている障害のある子どもへの保育のあり方を理解したうえで記述すること。
・文献やインターネットの情報等を参照・引用する際は、出典を明記すること。

レポートの評価基準

・テキストから学んだ内容を踏まえ、自分の考えや表現で論述できている。
・体裁が整えられている。（テキストの文章をつなぎ合わせただけではなく、内容に沿った段落構成がなされている。接続詞や句読点が適切に使用されている。主語と述語等の関係に留意し記述されている。文体が統一されている。誤字や脱字がない等。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの小見出しごとに要約をまとめ、理解を深めておく。
・学習のポイントで指定したそれぞれの障害の定義・起因疾患・特性などについては、支援を考えるベースとなるため、的確に説明できるようにしておく。
・上記障害に応じた支援については、具体例を用いて説明できるようにしておく。
・遊びや生活援助、環境構成についても、具体的に説明できるようにしておく。
・自らの考えを具体的に記述できるよう、理解を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の主旨を正しく理解し、論理的に記述できている。
・テキストやその他の文献の知見をもとに論述されている。自らの体験談や自説を記述しても評価しない。
・障害児保育の基本理念を理解した上で、専門用語を正しく用いて論述されている。
・誤字・脱字がなく、適切な大きさの文字で、解答用紙表面 2 / 3 以上記述されている。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館
※その他、テキストに掲載されている参考文献にも興味を持ち、目を通してみること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30028	科目名[単位数/学習時間]	障害児保育論Ⅱ［2単位／90時間］	科目担当	細木　玉恵
テキスト	●鶴宏史　『障害児保育』　晃洋書房				
ISBN	9784771030367	本体価格(円)(2022年1月現在)	3,000	生協テキストNo.	22075
実務経験のある教員による科目	公的機関・研究機関での発達支援、相談援助				

科目の目的

障害のある子どもといってもまず「子ども」であることにかわりないということを念頭におき、保育に取り組む姿勢が大切である。ただし障害があるということは、人的環境や物理的環境の影響を受けやすく、特別な配慮を必要とすることは否めない事実である。本科目では、特別な支援を必要とする子どもの困難さを具体的にとらえ、支援のあり方を理解する。また、家庭や関係機関との連携について理解することを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・子ども理解の基本となる「発達」をどのような視点からとらえるかについて理解する。
・特別な配慮を必要とする子どもが抱える困難について理解し、支援や代表的な援助技法について理解する。
・特別な配慮を必要とする子どもの家族の思いを理解し、支援のあり方を理解する。
・特別な配慮を必要とする子どもの保育に必要な連携や協働について理解する。
・障害児保育の現状と課題を理解する。

学習テーマ

1	障害児保育の基本【学習のポイント：障害児保育の理念、障害児保育の変遷、障害児保育の場と保育形態を理解する。＜テキストpp.1-22、pp.238-245＞
2	障害児保育の実際①【学習のポイント：子ども理解の基本となる「発達」をどのような視点からとらえるかについて理解する。肢体不自由児、視覚障害児、聴覚障害児、知的障害児、発達障害児等にどのような発達特性があるかについて考察する。＜テキストpp.24-33、pp.34-115、pp.134-136、pp.155-158＞】
3	障害児保育の実際②【学習のポイント：保育に不可欠な指導計画の作成と記録及び評価について理解する。テキストp.124 表1-4の記録を基に、テキストp.122表1-2を参考にした計画を立てる。＜テキストpp.118-125、p.122、p.124、pp.233-234＞】
4	障害児保育の実際③【学習のポイント：個別の支援計画について理解する。テキストp.73 第4節の事例を基に、テキストp.131表2-3を参考にして計画を立てる。事例に記述されていない内容は空欄でよい。＜テキストpp.126-133、pp.73-76＞】
5	障害児保育の実際④【学習のポイント：遊びの援助と環境構成について理解する。テキストに記載のある各障害特性について、具体的に考察する。＜テキストpp.134-144、pp.34-115＞】
6	障害児保育の実際⑤【学習のポイント：生活の援助と環境構成について理解する。テキストに記載のある各障害特性について、具体的に考察する。＜テキストpp.145-153、pp.34-115＞】
7	障害児保育の実際⑥【学習のポイント：子ども同士の関わりと育ち合いを理解する。テキストに記載のある各障害について、特性に応じた配慮を考察する。＜テキストpp.154-160、pp.34-115＞】
8	障害児保育の実際⑦【学習のポイント：職員間の協働について理解する。テキストpp.60-61事例1を基に、テキストp.163表6-1、p.164表6-2を参考にして、検討事項や目標や支援を考察する。＜テキストpp.161-166、pp.60-61＞】
9	障害児保育の体制作り①【学習のポイント：家庭との連携及び支援について理解する。＜テキストpp.167-181＞】
10	障害児保育の体制作り②【学習のポイント：関係機関との連携について理解する。＜テキストpp.183-197＞】
11	障害児保育及び子育て支援の基盤となる援助理論・技法①【学習のポイント：インリアル・アプローチについて理解する。テキストp.124 表1-4の記録を基に、この技法の保育場面での応用を考察する。＜テキストpp.200-210、p.124＞】
12	障害児保育及び子育て支援の基盤となる援助理論・技法②【学習のポイント：応用行動分析について理解する。テキストpp.96-98にある CちゃんとDちゃんの事例を基に、この技法の保育場面での応用を考察する。＜テキストpp.211-221、pp.96-98＞】
13	障害児保育及び子育て支援の基盤となる援助理論・技法③【学習のポイント：感覚統合、ソーシャルワークについて理解する。＜テキストpp.222-235＞】
14	障害児保育の現状と課題【学習のポイント：保健・医療、福祉・教育における現状と課題について理解する。＜テキストpp.246-253＞】
15	保育者の倫理と子どもの尊厳【学習のポイント：社会的関心を集めているテーマに焦点をあて、改めて「障害」について自分なりの見識を持つ。テキストに示された“考える”について考察する。＜テキストpp.255-264＞】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

特別な支援を必要とする子どもの保護者やきょうだい児への支援のあり方と、その家庭との連携の必要性について述べなさい。

第2課題

「肢体不自由児」「知的障害児」「発達障害児」、それぞれの障害特性に応じた遊びの援助と環境構成について述べなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

・テキスト第Ⅰ部を熟読し、障害児保育の基本的な考えを理解したうえで記述する。
・テキスト第Ⅳ部から、家族の不安や負担および障害のある子どもに対する思いを理解し、どのような支援が必要であるのかを明確にする。また家族を支援するための社会資源と、家族へのアプローチ方法について具体的に記述する。
・家族を支援することが子どもの支援につながることを明確にする。

第 2 課題の留意点

・テキスト第Ⅰ部を熟読し、障害児保育の基本的な考えを理解したうえで記述する。
・テキスト第Ⅱ部、第2章・第5～7章「肢体不自由児」「知的障害児」「発達障害児」の障害特性と援助方法をふまえ、それぞれの障害のある子どもが遊びに参加しづらい理由を明確にし、どのような保育者の援助が必要であるのかについて記述する。
・テキスト第Ⅲ部を基に、障害のある子ども一人ひとりが主体的に活動できるようにするためには、どのような支援や環境構成が求められているのかについて、障害特性に応じた内容を記述する。
・子どもの具体的な姿をイメージし、自分なりの考察を踏まえて記述すること。

レポートの評価基準

・課題の意図を正しく理解し、自分の考えや表現で論述できている。
・体裁が整えられている。（テキストの文章をつなぎ合わせただけではなく、内容に沿った段落構成がなされている。接続詞や句読点が適切に使用されている。主語と述語等の関係に留意し記述されている。文体が統一されている。誤字や脱字がない等。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの小見出しごとに要約をまとめ、理解を深めておく。
・障害種別ごとに、子どもの抱える困難とそれに応じた支援について整理しておく。テキスト学習で得た知識が実践で活かされるように、子どもの姿や保育者に求められている支援をより具体的に捉え、それを記述できるように理解を深めておく。

科目修了試験の評価基準

・設題の主旨を正しく理解し、論理的に記述できている。
・テキストやその他文献の知見をもとに論述されている。テキストの内容を踏まえず、自らの体験や自説を記述しても評価しない。
・障害児保育の基本理念を理解した上で、専門用語を正しく用いて論述されている。
・誤字・脱字がなく、適切な大きさの文字で、解答用紙表面 2 / 3 以上記述されている。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年3月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』フレーベル館
※その他、テキストに挙げられている参考文献にも興味を持ち、目を通してみること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	30029	科目名［単位数／学習時間］	ボランティア論［1単位／45時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●社会福祉法人大阪ボランティア協会 『テキスト市民活動論 ボランティア・NPOの実践から学ぶ 第2版』 大阪ボランティア協会				
ISBN	9784873080703	本体価格（円）（2022年1月現在）	1,500	生協 テキストNo.	22153
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

成熟社会といわれる今日、物の豊かさにあふれ、人々のつながりは希薄になりがちである。しかし、大きな災害を受けた地域では、多くの尊い命をなくしたが、人々の絆の大切さを実感した。そこで、人々が集まって作る社会はどうあるべきか、少子高齢化社会といわれる中で大切なものは何かを学習し、自分ができることは何かを考える。また、わが国だけではなく、環境問題や国際社会の課題に対してボランティアが求められるものは何かを学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・ボランティアとは何かを理解し、ボランティアが求められているものは何かを探る。
・少子高齢化の社会で、地域社会のあり方を考える。

学習テーマ

1	ボランティアとは①【学習のポイント：ボランティアの意味を理解する。＜テキスト第1章＞】
2	ボランティアとは②【学習のポイント：ボランティア活動の状況を把握する。＜テキスト第1章＞】
3	NPOについて【学習のポイント：NPOの活動について理解する。＜テキスト第2章＞】
4	市民活動について【学習のポイント：必然性、ソーシャルビジネスについて理解する。＜テキスト第3・4・5章＞】
5	CSRについて【学習のポイント：企業の社会的責任とその展開について理解する。＜テキスト第6章＞】
6	市民活動における中間組織について【学習のポイント：新しい公共、協働のあり方について理解する。＜テキスト第7章＞】
7	市民活動への関わり方【学習のポイント：社会貢献、多様な関わり方について理解する。＜テキスト第8章＞】
8	ボランティア活動を進めるために【学習のポイント：活動の実践について分野別に理解する。＜テキスト分野事例編＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

国際協力、多文化共生とボランティア活動、その方法、組織について説明しなさい。理解した内容について、考察のなかで、自身の日頃の考え、活動に照らして、どのように活かせるのか、記しなさい。

第1課題の留意点

現代社会のグローバル化のなかで、国際交流、多文化共生、国際協力が注目されている。これらに関連するボランティア活動にどのようなものがあるか、その方法についても学ぶ。考察のなかで、学びの成果が自身の日々の生活、活動のなかでどのように具体的に活かされるか、記しなさい。テキスト分野事例編を参考にすること。

レポートの評価基準

・上記の留意点に基づいた記述がなされているか。
・自身の考察において、内容の理解、活かし方について独自の記述がされているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

現代社会とボランティア活動の在り方について研究し、誰もがお互いを認め合いながら暮らすことのできる社会づくりをめざすためにどうすればよいのかを考える。

科目修了試験の評価基準

・上記の留意点に基づいた記述がなされているか。
・新たな視点に基づいた内容が書かれているか。

参考文献

指定はないが、新しいボランティア活動の動向、具体的な実践内容や成果について、日頃から意識して文献、記事等を読んでおくこと。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30030	科目名[単位数／学習時間]	福祉と人権［2単位／90時間］	科目担当	手島　洋
テキスト	●木原活信　『社会福祉と人権』　ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623071081	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,400	生協テキストNo.	22154
実務経験のある教員による科目	社会福祉協議会（地域福祉部長）				

科目の目的

私たちの人権は、長い歴史と実践の積み重ねにより創りあげられ、これらの多くは日本国憲法をはじめとした法律や制度に位置付けられてきた。特に私たちのすべてが人として尊ばれること（基本的人権の尊重）や人間らしい生活を保障されること（生存権の保障）は、社会福祉が大きな役割を担っている。しかし、このような実践が社会福祉援助の場面で日常化し意識的に行われているかどうかは、なお多くの課題を有している。本科目では、人を援助する社会福祉の役割がどのように人権と関わり護っていくことができるのか、社会福祉援助の実践での具体的な制度や実情に照らして、その意味と課題を学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

社会福祉にとっての人権の持つ意味を人権の歴史や福祉思想と関わらせて理解したうえで、貧困・児童・障害・高齢者・女性やマイノリティなどの具体的な人権の現状と課題について検討を深めてほしい。また、これらの人権の現状と課題にソーシャルワーク実践がどのような役割を担えるのかについても検討してほしい。

主な学習の柱は次のとおり。

・人権の意味と社会福祉との関わり（テキスト序章・第1章～第4章）
・様々な人権の現状と課題（テキスト第5章～第9章）
・人権擁護を行うソーシャルワークの役割（テキスト第10章～第12章）

学習テーマ

1	人権とは何か【学習のポイント：人権の概念や歴史について理解する。】
2	人権と福祉思想①【学習のポイント：社会福祉援助と人権の関わりについて理解する。】
3	人権と福祉思想②【学習のポイント：基本的人権の尊重と社会福祉について理解する。】
4	人権を反映した福祉理念①【学習のポイント：ノーマライゼーションの理念を理解する。】
5	人権を反映した福祉理念②【学習のポイント：バリアフリーについて理解する。】
6	人権を反映した福祉理念③【学習のポイント：ソーシャルインクルージョンについて理解する。】
7	様々な人権の現状と課題①【学習のポイント：貧困と人権について理解する。】
8	様々な人権の現状と課題②【学習のポイント：児童と人権について理解する。】
9	様々な人権の現状と課題③【学習のポイント：障害と人権について理解する。】
10	様々な人権の現状と課題④【学習のポイント：高齢者と人権について理解する。】
11	様々な人権の現状と課題⑤【学習のポイント：女性、マイノリティと人権について理解する。】
12	人権とソーシャルワーク①【学習のポイント：生存権保障とソーシャルワークについて理解する。】
13	人権とソーシャルワーク②【学習のポイント：多様性の保障とソーシャルワークについて理解する。】
14	人権とソーシャルワーク③【学習のポイント：自己決定支援とソーシャルワークについて理解する。】
15	まとめ【学習のポイント：これまでの学びを振り返る。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

社会福祉が関わる様々な人権課題からひとつを選び、その現状と課題を述べなさい。

第2課題

人権擁護に対するソーシャルワークの果たすべき役割について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

社会福祉援助の幅広い対象である貧困、児童、障害、高齢者、女性やマイノリティなどの人権課題の現状と課題について理解することを目的としたレポート課題である。5つの課題の要点は、それぞれテキストの第5～9章において記述されているので、その内容を中心に現状と課題を検討しまとめることが必須となる。そのうえで、人権の歴史（テキスト第3章）や社会福祉の理念（テキスト第4章）の内容に関わらせて検討し、かつ実際に私たちの生活の周りで見聞きする具体的なことにも関わらせて検討することが望ましい。

第2課題の留意点

社会福祉援助は人々の基本的人権を尊重した援助を行うことが求められるが、その理念と専門的援助の関わりについて理解することを目的としたレポート課題である。テキスト第10～12章の内容を中心に考えるのだが、その際に社会福祉の理念（テキスト第4章）や様々な対象者への人権擁護（テキスト第5～9章）の内容とも関わらせて検討することが望ましい。

レポートの評価基準

それぞれの課題について、テキストの記述をふまえて要点を簡潔にまとめて、さらに自身の考えをテキストのまとめとは区別して的確に述べられているかについて評価する。

具体的には、①テキストの記述をふまえたうえで参考文献やその他の社会福祉と権利に関する参考資料等で調べた内容を加味して課題について論述している。②課題の内容について社会の実際の課題状況をふまえて論述している。③誤字脱字がないことも含めて適切な文章を作成する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストから幅広く出題するが、主としてテキストの記述内容を中心とした記述がされていることが基本的理解の判断の基準とする。そのうえで、主な論点については、参考文献やその他の社会福祉と権利に関する参考資料等を検討した質の高い答案作成を期待する。なお、これまでの試験では、設問と全く関係のない解答がしばしば見受けられた。このような場合は、必ず不合格となるので注意すること。

科目修了試験の評価基準

設問の趣旨を理解し、テキストの内容をふまえて適切に解答ができているかを中心に評価する。そのうえで、参考文献やその他の社会福祉と権利に関する参考資料等から得た知識により解答を深めた場合には、上記の評価に加点する。また、設問と関係のない解答内容は、評価の対象としないので注意すること。

参考文献

・山本克司 『福祉に携わる人のための人権読本』 法律文化社
・古川孝順 『現代社会福祉の争点（下）社会福祉の利用と権利』 中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30031	科目名[単位数／学習時間]	時事問題からみる社会福祉[1単位／45時間]	科目担当	未定（「親和通信」で連絡）
テキスト	●宮口幸治 『ケーキの切れない非行少年たち』 新潮社				
ISBN	9784106108204	本体価格(円)（2022年1月現在）	720	生協 テキストNo.	22155
実務経験のある教員による科目	人間関係相談室（企業）				

科目の目的

本科目は、複雑で多様化している社会福祉の問題を非行少年たちのテーマから掘り下げ、その支援について考えていくことを目的としている。そこでは、自身の日常の生活も振り返り、「福祉の問題は、他人事ではない」という理解のもと、時事問題を通して、問題を抱えている人たちに寄り添う社会福祉を理解する。そのうえで、ここでは、社会福祉の専門職としてのソーシャルワーカーの新たな支援を考える。

到達目標

現代における社会福祉とは何かをソーシャルワークから考える。具体的には、まずテキストの中に登場する非行少年たちの固有な生活とその問題を理解することから始める。またそこでは、非行問題だけでなく、そこに存在する障害問題、家庭問題、学校問題などが複雑に絡み合っているハイリスクな問題であることを理解する。次に、ソーシャルワークの視点から支援を考えていく。

学習テーマ

1	非行少年が書いた図 1 - 2 の図の歪みの原因を考える。【テキスト第 1 章「『反省以前』の子どもたち」を読んで考える。】
2	ケーキの切れない非行少年たちが抱える問題を考える。【テキスト第 2 章「『僕はやさしい人間です』と答える殺人少年」を読んで考える。】
3	非行少年に共通する 5 + 1 の特徴の一つを取り上げて論じる。【テキスト第 3 章「非行少年に共通する特徴」を読んで考える。】
4	非行少年の問題を通して、近年の教育現場の問題点を考える。【テキスト第 4 章「気づかれない子どもたち」を読んで考える。】
5	軽度知的障害の直面する問題について考える。【テキスト第 5 章「忘れられた人々」を読んで考える。】
6	褒める教育の是非を考える（賛成、反対の意見を示し、その根拠を示すこと）。【テキスト第 6 章「褒める教育だけでは問題は解決しない」を読んで考える。】
7	非行少年の自己への気づきと自己評価の向上を高めるための課題を考える。【テキスト第 7 章「ではどうすれば？ 1 日 5 分で日本を変える」を読んで考える。】
8	ソーシャルワークの視点から福祉問題を考えることの意味について論じる。【テキスト全章を読んだ後、考える。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第 1 課題

テキストを読んで、社会福祉に起きている具体的問題を捉え、その問題がなぜ起こるのか原因を考え、さらに解決策を検討する。

第 1 課題の留意点

現代における社会福祉の問題点、その原因、解決策について、日常生活の中で自らが体験したことなどをもとに述べること。

レポートの評価基準

・課題に対してテキストから学んだ内容を、自分の考え・表現でいかに的確に論述しているかを評価する。
・文章の構成、主語・述語が的確か、字句の誤りはないかなど、文章が正しく書けているかを評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストのどの部分もよく読んで理解を深めることが大切である。またそれぞれの単元ごとに「何が重要な問題か」を整理しておくとよい。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードなどを用い、的確に説明されているかを評価する。
・上記の説明の上に、自らの経験などからの考えを採り入れて解答を深めていることについては評価する。
・誤字脱字、文法上の誤りなどないかを評価する。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があるかを評価する。

参考文献

・中村雄二郎 『臨床の知とはなにか』 岩波書店
・岩波明 『発達障害』 文春新書

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30032	科目名［単位数／学習時間］	子育てと社会［2単位／90時間］	科目担当	森　眞理
テキスト	●松村和子　『子ども家庭支援論』　建帛社				
ISBN	9784767950952	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	22157
実務経験のある教員による科目	幼稚園教諭・園長（日米）、米国ニューヨーク補習授業校教諭				

科目の目的

グローバリゼーションをはじめ多様化する現代社会において、子どもを取り巻く環境はますます複雑化し混沌化している。子どもの生活・育ちに携わる保育者は、子育て・家庭支援の施策理解と同時に子ども一人ひとりの文化・生活背景を理解し、最善の利益を保障することが求められている。

本科目では、受講生が子ども理解を始点に、子育て支援の理念と施策を理解し、さらに保育施設と保育者の役割について考察することから、子育て支援の実践力を育むことを目的とする。日米の幼児教育・保育施設における教諭・保育者経験等の実務経験を活かして、子どもの育ちと子育て支援のあり方を多角的な視座より教授する。

到達目標

子ども観をはじめ、子どもの生活と子育てのあり方は、歴史や社会文化の価値観が大きく影響する。本科目では、子育てとその支援について、子ども・家庭・保育の場・地域・社会・世界の変遷と現場を概観し理解を深め（知識）、さらに子どもの生活と成長に携わる当事者として（姿勢）、自らの実践のあり方（技能）を考え展望することを目標とする。

本科目テキストを丁寧に読み解き、子育ての最少単位である家庭・家族の意味と意義、保育者の役割、子どもの発達、子育て家庭をめぐる課題と支援制度、子育て支援のあり方等について学び、子どもの権利を保障することを根底した家庭支援・子育て支援のアイディアと実践を考え、問題提起し解決のあり方を導き出す。

学習テーマ

1	子ども家庭支援の意義と役割①【学習のポイント：「家庭」「家族」の意味、意義、その機能を理解する。〈テキスト第1章〉】
2	子ども家庭支援の意義と役割②【学習のポイント：子ども・大人、親理解と現代の課題を理解する。〈テキスト第2章〉】
3	子ども家庭支援の意義と役割③【学習のポイント：保育所と保育士の役割を理解し、求められている役割を展望する。〈テキスト第3章〉】
4	保育所と保育者による家庭支援①【学習のポイント：保育士と保護者の関係性の構築について理解し、当事者意識を高める。〈テキスト第4章〉】
5	保育所と保育者による家庭支援②【学習のポイント：保育士の専門性について理解を深める〈テキスト第5章〉】
6	保育所と保育者による家庭支援③【学習のポイント：保護者との相互理解と信頼関係の重要性と形成について、コミュニケーションとカウンセリングマインドの基本原則に学ぶ。〈テキスト第6章〉】
7	保育所と保育者による家庭支援④【学習のポイント：家庭の多様性を理解し、テキストの事例から当事者意識を持ち、関わり・対応のあり方を考える。〈テキスト第7章〉】
8	保育所と保育者による家庭支援⑤【学習のポイント：子ども・家庭支援の機関について、保育所・幼稚園・認定こども園及び地域を含めて、その特性と役割を理解する。〈テキスト第8章〉】
9	子育て家庭に対する支援体制①【学習のポイント：社会資源の理解を深め、今後の課題についても考える。〈テキスト第9章〉】
10	子育て家庭に対する支援体制②【学習のポイント：子育て支援施策の歴史を理解し､自分の貢献について考える。〈テキスト第10章〉】
11	多様な支援展開と関係諸機関との連携①【学習のポイント：切れ目のない支援の重要性と保育・幼児教育施設の働きを理解する。〈テキスト第11章〉】
12	多様な支援展開と関係諸機関との連携②【学習のポイント：保育所等利用家庭への支援とこれからを展望する。〈テキスト第12章〉】
13	多様な支援展開と関係諸機関との連携③【学習のポイント：地域の子育て支援の意義を理解しつつ、自分の地域の子育て支援の実践について知り、その意義と課題を考える。〈テキスト第13章〉】
14	多様な支援展開と関係諸機関との連携④【学習のポイント：要保護児童、要支援児童を始め、多様なニーズの子どもと家庭への理解を深め、課題と支援について考える。〈テキスト第14章〉】
15	多様な支援展開と関係諸機関との連携⑤【学習のポイント：子育て支援の現状と課題を理解し、自分の地域・社会貢献を考える。〈テキスト第15章〉】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

子育て家庭に関わる諸問題について、新聞等の記事（出来るだけこの半年間）を取り上げ、その内容を要約し、家庭支援・子育て支援における保育施設の働きの可能性と課題について論じなさい。

第2課題

要保護児童、及び要支援児童とその家庭に対する支援について、子どもの性質と家庭状況に焦点をあてつつ、自分の見解（自分の支援についてのアイディア）を具体的に述べなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

社会・地域生活環境の変容により、保育現場では多様な子育て支援が求められている。家庭支援・子育て支援について、子育て家庭に関する新聞等をよく読み、保育所と保育士と職員の働きを踏まえて、自分が考える保育施設における家庭支援・子育て支援の可能性と、そこに生じる課題を論じる。レポートの構成に留意して取り組むこと。

第 2 課題の留意点

現代社会において、要保護児童、及び要支援児童が増えている。そうした保護・支援を要する子どもへの理解と支援について、子どもの性質と家庭との関係性を考慮した上で支援のあり方について自らが取り組みたい（取り組んでいる）ことを論じなさい。（テキストの第14章を中心にテキスト全般との関係性を考えてみること。）

レポートの評価基準

・課題に対してテキストから学んだ内容をふまえて、自分の考え･表現で、いかに的確・具体性をもって記しているかについて評価する。レポートを書く際には、「序論・本論・結論」の構成を意識すること。また、見出し・小見出しを付けて分かりやすくすること。
・次の 5 点を評価基準とする。
①テキストを精読の上、テキストにある参考文献等の情報を加味して課題について論述している。
②課題を理解し、留意点についても考慮して記す中で、自分の考えを加味してまとめている。
③読者を意識し、丁寧に作成している。（主語述語の関係性の不一致、誤字脱字は減点となる。）
④レポートの書き方（形式）が本学規定に沿っていること。
⑤「である調」「ですます調」が混在していないこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読み理解を深めること。加えて、設題の趣旨を把握し、論旨を展開することを心がけることが必要である。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」と「到達目標」の記載事項を踏まえた上で、自らの経験や自説を展開することが求められる。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。また、誤字脱字や文法の誤りは減点となる。
・テキスト学習により得た基礎的なことを説明したうえで、自分の考えを取り入れて作成された答案を高く評価し合格に繋がる。基礎的な説明のみでは、半分程度の得点評価となり、自論（問題提起を含む）を記述することで高い評価に近づく。
・自筆の判読が難しい際（例：鉛筆の文字が薄い・誤字脱字）は、不可となることを心得ておくこと。

参考文献

・厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
・厚生労働省 『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』フレーベル館
・倉橋惣三 『育ての心』 フレーベル館
・近藤幹生 『保育の自由』 岩波新書
・近藤幹生 幸田雅治 小林美希 『保育の質を考える 安心して子どもを預けられる保育所の実現に向けて』 明石書店

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30033	科目名[単位数／学習時間]	子どもと人権［2単位／90時間］	科目担当	古川　知子
テキスト	●新保真紀子 『小1プロブレムの予防とスタートカリキュラム　就学前教育と学校教育の学びをつなぐ』 明治図書出版				
ISBN	9784181002299	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,160	生協テキストNo.	22076
実務経験のある教員による科目	教育委員会（教育振興室高等学校課参事）				

科目の目的

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』、『小学校学習指導要領』の趣旨を踏まえ、子ども理解を深めることが大切である。本科目は、小学校1年生の学級がうまく機能しない「小1プロブレム」克服を課題とし、就学前教育と学校教育の連携で、子どもの育ちや学校・地域・家庭の抱える課題を読み解き、その解決の方略を考えることを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・子どもの自尊感情やコミュニケーション力等に課題がある現状を理解し、それらの育成のために学校・家庭がとるべき支援のありかたについて学ぶ。
・「小1プロブレム」とは何か。また、その複合的な要因について理解する。
・認定こども園・保育所・幼稚園と小学校との連携を進める「スタートカリキュラム」や「くぐらせ期メソッド」について、その意義と実践事例を学ぶ。

学習テーマ

1	保育所・幼稚園・認定こども園と小学校の接続・連携の意義
2	小1プロブレムの「発見」とその克服
3	段差とは何か
4	子ども・教職員・保護者の今～二つの小1プロブレム・アンケート調査から
5	「くぐらせ期」とスタートカリキュラム
6	遊ぶと学びをつなぐスタートカリキュラム
7	遊びと学びをつなぐスタートカリキュラム実践
8	人間関係づくりプログラムでつながるスタートカリキュラム実践
9	多文化共生教育でつながるスタートカリキュラム実践
10	特別支援教育でつながるスタートカリキュラム実践
11	食育でつながるスタートカリキュラム実践
12	厳しい課題のある子どもを中心に据えた集団づくり
13	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」
14	「小学校学習指導要領」
15	小1プロブレムの予防のためのスタートカリキュラム

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキストを熟読し、①「小1プロブレム」の概要を説明する。②「小1プロブレム」の解決策としてテキスト第2部のスタートカリキュラム事例から一つを選び要約する。③ ①②を踏まえ、段差を解消するために、教師として実践したい取組みを、あなたの体験を交え、具体的に述べなさい。

第2課題

テキストを熟読し、①子どもの人間関係づくりにおいて、自尊感情を育む必要性について概説する。②教師としてどのような視点を大切にし、どのような取組みが有効かについて、最新の国の動向を参考にしながら、テキストの趣旨を踏まえてまとめる。③あなたが実践したい取組みを具体的に述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・①②③すべての設問に対応したレポートにすること。
・「小1プロブレム」とは何か、スタートカリキュラムとは何かを、テキストに沿って定義すること。
・「小1プロブレム」の要因の一つである就学前教育と学校教育の「段差」について、テキストを熟読して、具体的に整理すること。
・最新の国の動向を理解し、その趣旨を踏まえたレポートになっていること。
・テキストをそのまま抜き書きするのではなく、自分の言葉で要約すること。また引用文は「　」でくくり、誰の引用か文献名や引用ページ等を明示すること。これらのルールを守らない場合は、減点とする。
・自分の考えや分析を必ずしっかりと展開すること。

第 2 課題の留意点

・①②③すべての設問に対応したレポートにすること。とくに自尊感情は、テキストをベースにまとめること。
・第 2 課題に例示されている子どもの現状については、最新の国の動向やデータを検索して実証的に解説を加えること。
・テキストをそのまま抜き書きするのではなく、自分の言葉で要約すること。また引用文は「　」でくくり、誰の引用か文献名や引用ページ等を明示すること。これらのルールを守らない場合は、減点とする。
・自分の考えや分析を必ず論述すること。

レポートの評価基準

・幼児期から学童期までの子どもの人権教育課題を、テキストの全編をよく読んで、理解しているか。
・テキストで重視する「小 1 プロブレムとその予防」や子どもの自尊感情を育む必要性など、子ども理解と支援の視点が理解されているレポートであるか。
・最新の国の動向を理解し、その趣旨を踏まえたレポートであるか。
・誤字脱字はもちろんのこと、段落の取り方、敬体と常体の文体が混同していないこと、「　」や『　』の使い方など、レポート作成上の基本的ルールが守られているか。
・引用文は「　」でくくり、誰の引用か文献名や引用ページ等を明示しているか。
・抜き書きした文章の寄せ集めや論文の剽窃がなく、自分の考えが述べられているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト全編をよく読んで、今の子どもが抱える課題、「小 1 プロブレム」とその克服の手立て、スタートカリキュラム等についての理解を深めておくこと。
・自尊感情の育成や認定こども園・保育所・幼稚園と小学校との連携、さらにインクルーシブ教育、多文化共生教育など、現代的な教育課題を、テキストをよく読んで、まとめておくこと。
・学校・家庭・地域が協働した子育ての重要性などを整理しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・テキストを十分理解した上で、設題に的確に解答できていること。テキストの内容を踏まえずに、自説を展開するだけでは不十分である。
・解答用紙表面の 9 割程度（以上）を最低限使って、十分に論述していること。
・誤字脱字はもちろんのこと、段落の取り方、敬体と常体の文体が混同していないこと、「　」や『　』の使い方など、基本的ルールが守られていること。

参考文献

・内閣府　文部科学省　厚生労働省 『幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜原本＞（平成29年告示）』 チャイルド本社
・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）＜平成29年 3 月＞』 東洋館出版社
・新保真紀子 『子どもがつながる学級集団づくり入門　若いせんせいに送るラブレター』 明治図書出版
・新保真紀子 『「小 1 プロブレム」に挑戦する　子どもたちにラブレターを書こう』 明治図書出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30034	科目名［単位数／学習時間］	発達心理学［2単位／90時間］	科目担当	小川内　哲生
テキスト	●中澤潤　『発達心理学の最先端　認知と社会化の発達科学』　あいり出版				
ISBN	9784901903257	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	22046

科目の目的

発達心理学とは、時間的経過にともなって生じる精神（こころ）の変化の特徴を記述し、その背後にある法則性を明らかにする心理学の分野である。最近の発達心理学では、胎児、乳幼児、あるいは高齢者の発達的変化についての研究が精力的に行われ、目覚しい成果が報告されている。本科目では、発達の理論、認知の発達、パーソナリティの発達、あるいは社会性の発達の研究成果など、発達心理学の基本的な研究成果に加えて発達心理学の最新の成果の一端も学習するとともに、保育現場、教育現場で役立つ実践的な視点から人間の発達を捉えていくことを目的とする。

到達目標

発達心理学の研究では、最近になって、乳幼児の研究と高齢者の研究、並びにヒトの生涯にわたるこころの発達（生涯発達心理学）を視野に入れた研究が精力的になされつつある。テキストでは、これまでの発達心理学で得られた個々の具体的な研究成果や知見だけでなく、発達心理学の最新の成果の一部も学習する。テキストにあるピアジェらの発達理論は、現在でも生きている。発達心理学では、私たちの日常の発達現象と発達研究の具体的な成果とを関連させて理解することで、その背後にある発達理論の理解を深める。

学習テーマ

1	発達の概念について【学習のポイント：発達心理学における発達の概念を理解する。】
2	発達の研究法について【学習のポイント：発達研究の基本的な方法を理解する。】
3	認知発達の理論について【学習のポイント：認知発達の理論を理解する。】
4	精神発達の理論について【学習のポイント：精神発達の理論を理解する。】
5	胎児期の発達について【学習のポイント：胎児期の心身の発達を理解する。】
6	乳児期の認知の発達について【学習のポイント：乳児期の認知の発達を理解する。】
7	乳児期の社会化の発達について【学習のポイント：乳児期の社会化の発達を理解する。】
8	幼児期の認知の発達について【学習のポイント：幼児期の認知の発達を理解する。】
9	幼児期の自己と社会化について【学習のポイント：幼児期の自己と社会性の発達を理解する。】
10	児童期の認知の発達について【学習のポイント：児童期の認知の発達を理解する。】
11	児童期の自己と社会性の発達について【学習のポイント：児童期の自己と社会性の発達を理解する。】
12	青年期の認知について【学習のポイント：青年期の認知について理解する。】
13	青年期の自己と社会性について【学習のポイント：青年期の自己と社会性を理解する。】
14	成人期の発達について【学習のポイント：成人期の諸機能の発達を理解する。】
15	老年期の発達について【学習のポイント：老年期の諸機能の発達を理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

幼児期の遊びと社会的発達との関連について説明するとともに、幼児期の子どもにとって遊びとはどのような意味を持つのか考察しなさい。

第2課題

発達障害とは何か説明しなさい。また発達障害の子どもへの支援を行うために教師や保育者はどのような点に留意して、発達障害の子どもやその保護者と関われば良いか自分の考えをまとめなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

幼児期における子どもの遊びと社会的発達についてテキスト第5章や他の文献を参考にして、具体的な研究例あるいは日常の具体例を引用することで説明すること。テキスト第4章にも子どもの遊びについて解説されているので、参考にすること。

第2課題の留意点

発達障害の定義と発達障害の子どもとその保護者への支援の在り方についてテキスト第7章や章末の参考図書を参考にして教師の立場から考察し、まとめると良い。

レポートの評価基準

合格（A ～ C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。
A：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を明確にする具体的な例を挿入し、自分の言葉で記述する。
B：それぞれの基本的な概念（内容）・特徴を自分の言葉で記述する。
C：テキストやいくつかの文献等を参考にして記述する。
D：レポートのすべての内容が 1 つのテキストの丸写しである。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

科目修了試験の答案を作成するに先立ち、日ごろからテキストをよく読んで理解を深めておくこと。特に第 1 章、第 3 章、第 4 章、第 5 章、第 7 章を重点的に学習しておくこと。その際、テキストの内容が十分に理解できないときには、テキストに掲載されている引用文献や参考文献にも機会があれば目を通して確認しておくこと。あるいは、「質問票」で担当者に質問することもよい。

答案作成では、設題の趣旨を正確に把握し、わかりやすく論旨を記述することが必要である。

科目修了試験の評価基準

合格（A ～ C）と不合格（D）の基準は次のとおりとする。
A：設題に適切に解答している。
B：設題に内容の半数程度が適切に解答されている。
C：設題に内容の一部が適切に解答されている。
D：設題の解答に合致した内容が含まれない。

参考文献

・浅野敬子　丸山真名美　『保育・教育実践のための心理学』　みらい
・浜崎隆司　田村隆宏　『やさしく学ぶ発達心理学』　ナカニシヤ出版
・武藤隆　中坪史典　西山修　『発達心理学』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のxiii）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30035	科目名［単位数／学習時間］	社会心理学［2単位／90時間］	科目担当	辻川　典文
テキスト	●辻川典文　阿部晋吾　神原歩　田端拓哉『ライブラリ読んでわかる心理学　10　読んでわかる社会心理学』サイエンス社				
ISBN	9784781914886	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	22047

科目の目的

人間は「社会的動物」であるといわれている。それは、人間が生きるためには社会や他者の存在が必要不可欠だからである。本科目では、社会心理学の特徴である「社会と個人の相互作用」の中でも、特に「自己認知と他者認知」、「他者に対する行動」、「集団と個人の行動の関係性」の問題を中心に、人間関係の維持・形成過程、集団が個人に及ぼす影響、およびその周辺領域について、社会心理学的観点から考察し、知識を深めていく。

到達目標

自分自身や他者に対する認識、そして対人行動や集団行動といった、社会心理学の中できわめて重要なテーマの知識習得に加え、学問上で得られた知見を現実の社会問題や自己の体験と結びつけて、よりよい社会のあり方や、個人にとって望ましいこれからの生き方について論考することを求める。そのためにも、テキストを通読して社会心理学の全体像をつかむことが必要である。

学習テーマ

1	社会心理学とは【学習のポイント：社会心理学とはどのような学問かについて理解する。】
2	社会の中の自己【学習のポイント：社会との関わり合いの中で、自分自身をどのように認識するか、その傾向を理解する。】
3	自尊感情と動機づけ【学習のポイント：自尊感情とは何か、自尊感情が行動に及ぼす影響について理解する。】
4	態度【学習のポイント：態度の認知的一貫性や説得について理解する。】
5	対人認知【学習のポイント：他者の印象がどのように形成されるかを理解する。】
6	社会的推論【学習のポイント：人の原因帰属や推論の特徴、歪みについて理解する。】
7	対人関係【学習のポイント：対人関係における心理について理解する。】
8	対人魅力・恋愛【学習のポイント：他者に魅力を感じるメカニズムについて理解する。】
9	援助と攻撃①【学習のポイント：援助行動やソーシャルサポートについて理解する。】
10	援助と攻撃②【学習のポイント：攻撃行動について、誘因やメカニズムを理解する。】
11	集団の中での人間関係①【学習のポイント：集団内の人々の行動が、自分自身の行動にどのような影響を及ぼしているかを理解する。】
12	集団の中での人間関係②【学習のポイント：集団内と集団間の人間関係の特徴について理解する。】
13	集団のパフォーマンス【学習のポイント：集団活動の落とし穴やリーダーシップについて理解する。】
14	家族の人間関係【学習のポイント：家族内の様々な人間関係や問題点を理解する。】
15	文化の影響、心の文化差【学習のポイント：人の心理や行動に対する文化の影響について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

人は他者を助けることもあれば傷つけることもある。本課題では、援助行動と攻撃行動の特徴について説明せよ。なお、説明の際には、理論や研究の説明に加えて、あなた自身の体験談や具体例もいれて説明すること。

第2課題

私たちは大きな目標を達成するために集団で活動することが多くある。しかし、単に人々が集まっただけでは良い成果を出せるとは限らない。本課題では、集団でのパフォーマンスの特徴と、リーダーシップについて説明せよ。なお、説明の際には、理論や研究の説明に加えて、あなた自身の体験談や具体例もいれて説明すること。

各課題の留意点

第1課題の留意点

援助行動については、「傍観者効果」や「援助行動の意思決定モデル」、「ソーシャルサポート」に関する内容をもとに説明すること。攻撃行動については「攻撃手掛かり説」「モデリング」「攻撃的な性格」「攻撃の一般モデル」といった内容をもとに説明すること。また、これらの内容を理解したうえで、日常生活との接点を考えながら論考すること。深く理解したい場合は、テキストだけでなくテキスト以外のものも参考にして欲しい。

第2課題の留意点

他者の存在は様々な形で個人の行動に影響する。集団内での個人の行動について「集団のパフォーマンス」や「集団意思決定」に関するさまざまな研究を踏まえて説明すること。そして、集団活動を成功に導くうえでどのような「リーダーシップ」が必要かを説明すること。また、これらの理論や先行研究を理解したうえで、日常生活との接点を考えながら論考すること。深く理解したい場合は、テキストだけでなくテキスト以外のものも参考にして欲しい。

レポートの評価基準

レポートの評価基準は次の 3 点である。 1 点目は、レポートの基本的な書き方ができているかどうかである。 2 点目は、課題であげた内容について、「社会心理学的な観点からの説明ができているかどうか」である。 3 点目は、「テキストで学んだ内容を自身の経験に置き換えて考察できているかどうか」である。単にテキストをまとめるだけでなく、自分の経験と照らし合わせながらレポートの作成にあたってほしい。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全体が出題範囲であるため、熟読して理解を深めておいてほしい。特に、「自尊感情を維持する仕組み」、「説得的コミュニケーション」、「印象形成する側（見る側）の要因」、「集団間の人間関係」、「家族関係を発達的にとらえる」、「文化の影響を考える時の注意点」に関連する内容については十分理解しておいてほしい。

科目修了試験の評価基準

評価基準は次の 2 点である。 1 点目は、テキストをどの程度熟読しているかを判断するため、「課題に関連する社会心理学の専門用語や先行研究をどの程度説明できているか」である。 2 点目は、専門用語や先行研究の理解度を判断するために、「専門用語や先行研究について、具体例を用いてどの程度説明できるか」である。

参考文献

・池上知子　遠藤由美　『グラフィック社会心理学　第 2 版　Graphic text book』　サイエンス社
・竹村和久　『公認心理師の基礎と実践　11　社会・集団・家族心理学』　遠見書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30036	科目名［単位数／学習時間］	家族心理学［2単位／90時間］	科目担当	金山　健一
テキスト	●岡堂哲雄　『家族心理学入門　補訂版』　培風館				
ISBN	9784563056308	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	22049

科目の目的

「家族心理学」では、人間にとって家族とは何か、心身の健康に関わる家族システムとは何か、という課題に対する知見を学ぶ事を目的とする。

「家族心理学」は、心理学史上もっとも新しいフロンティアで、家族危機の時代とよばれる1980年代に誕生した心理学の一分野である。個人を家族や社会と切り離すことなく、所属する家族システムや社会システムの一員と見なす。そのシステム内の人と人との関係およびシステム間の関係を重視しつつ、家族への心理的援助を理解する。

到達目標

教師として実践的な指導力を習得するために、下記の5点を到達目標とする。

・家族心理学の課題と要点について、家族の心理構造、家族の心理過程、さまざまな家族関係の真理について学び、家族の問題を理解する。
・恋愛と配偶者の選択、父親母親としての役割と成長、家族内暴力など、家族の抱える心理臨床的問題について学び、具体的な対応方法を理解する。
・今日、深刻化している自殺、児童虐待等の現状を知り、対応方法を学ぶ。
・家族関係の心理査定を学び、家族へのアセスメント方法を習得する。
・家族関係の諸問題に対する、家族療法を用いた心理臨床的介入方法について理解する。

学習テーマ

1	家族心理学の課題と方法【学習のポイント：家族心理学を概観し課題を理解する。】
2	家族の心理構造【学習のポイント：家族の様々な境界、連合、パワーを理解する。】
3	家族の心理過程【学習のポイント：家族の視点、立場、心理過程を理解する。】
4	親子関係の心理【学習のポイント：出生時から成人期までの親子関係を理解する。】
5	きょうだい関係の心理【学習のポイント：ひとりっ子、出生順位、きょうだい関係を理解する。】
6	親子孫－多世代関係の心理【学習のポイント：戦前から現代までの家族の変化を理解する。】
7	父性・母性とペアレンティング【学習のポイント：父親・母親の役割・葛藤を理解する。】
8	児童虐待【学習のポイント：児童虐待の新たな動向を理解する。】
9	子どもの家庭内暴力と家族心理【学習のポイント：家庭内暴力への家族療法を理解する。】
10	子どもの自殺と家族心理【学習のポイント：児童・青年の自殺の心理を理解する。】
11	子どもの非行化と家族心理【学習のポイント：非行問題と家族の関係を理解する。】
12	子どもの神経症・人格障害と家族心理【学習のポイント：事例を通して、家族の課題を理解する。】
13	ミドル・エイジ夫婦の心理的危機【学習のポイント：家族のライフサイクルを理解する。】
14	家族療法への心理臨床的介入①【学習のポイント：家族療法のアプローチを理解する。】
15	家族療法への心理臨床的介入②【学習のポイント：短期療法の原理のアプローチを理解する。】

レポートについて　自筆に限る　ワープロソフト使用不可

第1課題

「児童期の親子関係」について、理論と実践を踏まえて述べよ。

第2課題

「性格形成の把握のしかた」について、理論と実践を踏まえて述べよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第4章5節「児童期の親子関係」を熟読してから論述しなさい。課題には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

第2課題の留意点

テキスト第15章3節「性格形成の把握のしかた」を熟読してから論述しなさい。課題には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

レポートの評価基準

・課題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや課題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数（1課題につき2,000字程度）の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの次の部分は熟読し、理論と実践を踏まえる。答案には、小見出しに番号をつけて最低2つ入れる。小見出しを見れば、内容がよく理解できるようにする。さらに自分が教師になった場合、どのように対応するかを記述する。

・家族内のコミュニケーションの過程（第2章2節　家族の心理過程）
・夫婦関係理解の形態的枠組み（第3章2節　夫婦関係の心理）
・出生順位と性格（第5章4節　きょうだい関係の心理）
・対人魅力の形成（第8章1節　恋愛と配偶者の選択）
・夫婦間暴力の多い関係の特徴（第11章3節　夫婦間暴力と家族心理）
・わが国における自殺の現状（第13章2節　子どもの自殺と家族心理）

科目修了試験の評価基準

設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を正確に理解しており、記述が論理的であるかどうかを評価する。また、テキストや設題内容を正しく理解していない場合や、指定文字数の9割に満たない場合、自説のみの場合は評価しない。

参考文献

・インスー・キム・バーグ　『家族支援ハンドブック　ソリューション・フォーカスト・アプローチ』　金剛出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVIII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30037	科目名［単位数／学習時間］	青年心理学［2単位／90時間］	科目担当	山本　千恵
テキスト	●大野久　『シリーズ生涯発達心理学　4　エピソードでつかむ　青年心理学』　ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623057375	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	22048
実務経験のある教員による科目	カウンセラー（心療内科、中学校等）				

科目の目的

青年期というのは、子どもから大人へ移行する、その狭間にある大きな変化の時期である。「自分とは何者か」といった問いが芽生え、親子関係や友人関係にも大きな変化が見られるこの時期は、モラトリアムと呼ばれるように猶予期間ではあるものの、不安定で不適応を起こしやすい時期と言える。

そこで本科目では、この時期特有の心や体の変化を知り、起こりうる心理的危機についての知見を得ることで、「無事に青年期特有の危機を乗り越え、アイデンティティを確立し、大人として自立するとはどのようなことか」を考える機会として欲しい。実務経験を活かして教授する。

到達目標

エリクソンの漸成発達理論をベースに、「青年期の自我の発達」「青年期の恋愛の発達」「青年期の親子関係」「青年期の友人関係」といった4つのテーマ別に、アイデンティティ確立とは何か、真の自立とは何かについて考えて貰いたい。

学習テーマ

1	テキスト序章　青年期を理解する【エリクソンの漸成発達理論を理解する。】
2	テキスト序章　青年期の体と心の発達を理解する【体の発達の特徴と、ピアジェの心の発達理論を理解する。】
3	テキスト第Ⅰ章　アイデンティティとは何か【アイデンティティについて、その定義を理解する。】
4	テキスト第Ⅰ章　アイデンティティ達成とは何か【マーシャのアイデンティティ・ステイタスを理解する。】
5	テキスト第Ⅱ章　青年期以前の恋愛【青年期以前の「好き」になる傾向、特徴をおさえる。】
6	テキスト第Ⅱ章　青年期の恋愛【アイデンティティのための恋愛の特徴をおさえる。】
7	テキスト第Ⅱ章　青年期以降の恋愛【アイデンティティ達成後の恋愛の特徴をおさえる。】
8	テキスト第Ⅱ章　男女間における恋愛の違い【従来から言われている特徴を踏まえ、近年の傾向もおさえる。】
9	テキスト第Ⅲ章　親からの自立【自立とはどういうことか、その定義と近年の傾向を併せて理解する。】
10	テキスト第Ⅲ章　親子間の葛藤【親子の葛藤は自立にどの程度、必要か。新旧どちらの理論も習得する。】
11	テキスト第Ⅲ章　親子間の対話　【オルソンの円環モデルを元に、自立を促す対話とは何かを理解する。】
12	テキスト第Ⅲ章　親の発達課題【自立していく子どもを持つ、親が抱える危機をおさえる。】
13	テキスト第Ⅲ＆Ⅳ章　親子関係と友人関係【親子関係と友人関係の違いをおさえ、友人の特徴を理解する。】
14	テキスト第Ⅳ章　友人関係の発達的変化【発達的＆男女別に見た友人関係の変化と、近年の特徴をおさえる。】
15	テキスト第Ⅳ章　友人関係の形成と孤独感【孤独感が友人関係のあり方にどう変化をもたらすのか理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

アイデンティティとは何か、アイデンティティ達成とはどういった状態なのかを考察せよ。

第2課題

青年期以前と青年期以後で友人関係に変化はあるか、近年の傾向も加えて考察せよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

アイデンティティについてきちんと理解した上で、アイデンティティ・ステイタスについて述べること。

第2課題の留意点

発達的に見て、友人関係はどのように変化していくのか、一般的な傾向に加え、近年の特徴についても述べること。

レポートの評価基準

テキストの丸写しは不可。課題についての記述は、テキスト中に複数箇所で取り上げられている。それらを自分なりにまとめたレポートであること。なお、テキストだけでなく、参考文献やその他の手持ちの参考書なども盛り込み、より多角的に課題について述べられたレポートであれば、なお素晴らしい。（文献引用の際は、レポートの最後に著者名・書名・出版社名・ページ番号を明示すること。）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを熟読し、課題で挙げられたトピックスだけでなく、テキスト全ての内容を把握しておくこと。細かな専門用語や人名を覚えることより、テキストで書かれている内容を自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

科目修了試験の評価基準

設題について、的確な専門用語も交えて論述できていればなお良いが、細かな専門用語は多少あやふやでも、要点がきちんと押さえられていれば合格点となる。たとえ設題について述べられていても、終始自身の体験などからくる個人的感想のみの解答は不合格となる。

参考文献

・丸島令子　日比野英子　『臨床心理学を基本から学ぶ』　北大路書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30038	科目名［単位数／学習時間］	家族援助論［2単位／90時間］	科目担当	北野　富美子
テキスト	●吉田眞理　『児童の福祉を支える　子ども家庭支援論』　萌文書林				
ISBN	9784893473233	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	22128
実務経験のある教員による科目	公立保育士（主任・所長）、地域子育て支援センター長				

科目の目的

現代の家族の社会的状況や家族生活についての認識を広げ、子どもにとってかけがえのない家庭を支援する保育士の役割について理解する。また、テキストの各所に示されている新聞報道や事例を基に、多様化する家庭像についての理解や具体的な援助のあり方を、各自で研究することにより、最終的には、家庭を支援する理論とその方法を身に付けていくことを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・現代社会における家庭の意義と役割について理解できる。
・子育て家庭を取り巻く社会状況について理解できる。
・保育士が行う家庭支援の意義や基本姿勢について理解できる。
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できる。

学習テーマ

1	家庭・家族とは何か　＜テキスト第1章-1＞
2	子ども家庭支援の目的　＜テキスト第1章-2＞
3	子育てを通じた親の発達　＜テキスト第2章-2～4＞
4	保育の専門性を活かした子ども家庭支援　＜テキスト第3章-1＞
5	子どもの育ちの喜びと共有　＜テキスト第3章-2＞
6	保護者・地域が有する子育て力向上のための支援　＜テキスト第3章-3＞
7	保育士に求められる基本的態度　＜テキスト第3章-4＞
8	家庭及び地域に応じた支援　＜テキスト第3章-5、6＞
9	子育て家庭に対する社会資源　＜テキスト第4章-1＞
10	子育て支援施策の流れ　＜テキスト第4章-2＞
11	子育て支援施策　＜テキスト第4章-3～4＞
12	子ども家庭支援の対象・内容子育て支援施策　＜テキスト第5章-1＞
13	保育所等を利用する子どもの家庭支援　＜テキスト第5章-2＞
14	要保護児童等とその家庭に対する施策　＜テキスト第5章-4＞
15	子ども家庭支援に関する現状と課題　＜テキスト第5章-5＞

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子どもの育ちの喜びを共有することは、保護者にとってどのような意味を持つのかまとめなさい。

第2課題

子育て家庭を支えるためにどのような取り組み、法律・制度があるのか。また、市町村・都道府県・国はどのような役割を担っているのかまとめなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第3・4章を精読した上で、必要箇所を取り上げながらまとめる。また、参考文献等を検索し読み深めた上で、文中に用いることも可能である。

第2課題の留意点

テキスト第3章、参考文献『保育所保育指針』を精読し、教育・保育施設等の特性を活かし、関係機関と連携していくのかについてまとめること。また参考文献『保育所保育指針』の関連箇所について調べながら、盛り込んでいくことも重要である。

レポートの評価基準

・テキスト出版後の最新のデータを報道などから引用していること。
・考察やまとめの箇所は、「個人的な感想」であってはならない。例えば、先行文献や先行調査から示された知見を用いて、自分自身の意見と比較して述べると良い。
・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。
・引用箇所を明確に示し、文末（自筆の場合は欄外の枠）に「注記」を付すこと。テキストからであっても、引用元の出典を明示していないレポートは不可とする。
・文末に「参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。
・日本語の文法に適う文章であること。
・理論的な論旨の組み立てができているかを重点的に考査し、評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・現代社会における家庭の意義と役割について理解できているか。
・子育て家庭を取り巻く社会状況について理解できているか。
・保育士が行う家庭支援の意義や基本姿勢について理解できているか。
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できているか。

科目修了試験の評価基準

・テキストの内容が理解できていること。
・設題内容について、的確にまとめられていること。

参考文献

・石動瑞代　中西遍彦　隣谷正範　『保育と子ども家庭支援論』　みらい
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
※子育てに関する新聞記事や雑誌等にも注意を向けておくことが大切である。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

この科目は、テキスト・スクーリング履修科目＜併用科目＞です。
テキスト履修分の合格とスクーリング履修分の合格により単位修得となります。

科目コード	30043	科目名［単位数／学習時間］	人体の構造と機能及び疾病［1単位／45時間］	科目担当	木原　健二
テキスト	●社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座1　人体の構造と機能及び疾病　第3版』 中央法規出版				
ISBN	9784805851005	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,200	生協テキストNo.	22159
実務経験のある教員による科目	理学療法士（病院・医療福祉センター等）				

科目の目的

人体の構造や機能について基本的な学習をしながら、社会福祉士が医療関係者と協働で業務が可能になるような知識を習得できるように、医学的な事項を総括的に学ぶ。疾病・障害の概要及び公衆衛生分野については、社会福祉士として働く上で、現場で役立つと考えられる事項を中心に学ぶ。またリハビリテーションの概要について学ぶとともに国際生活機能分類（ICF）について具体的事例で理解を深め、ケアの現場で活用できる力をつける。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・身体構造と機能及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達・老化や日常生活との関係を踏まえて理解する。
・リハビリテーションの概要について理解する。
・国際生活機能分類（ICF）の概要及び基本的考え方について理解する。

学習テーマ

1	人の成長・発達と老化【学習のポイント：特に胎児期・乳幼児期の発達と老化について理解する。】
2	身体構造と心身の機能【学習のポイント：身体の生理的機能について図も参照して理解する。】
3	疾病の概要①【学習のポイント：テキスト第2章の知識と関連させて疾病の概要を理解する。】
4	疾病の概要②【学習のポイント：テキスト第2章の知識と関連させて疾病の概要を理解する。】
5	障害の概要①【学習のポイント：テキスト第2・3章の知識と関連させて障害の概要を理解する。】
6	障害の概要②【学習のポイント：テキスト第2・3章の知識と関連させて障害の概要を理解する。】
7	リハビリテーションの概要【学習のポイント：リハビリテーションの段階と各専門職の役割を理解する。】
8	ICFの概要、健康のとらえ方【学習のポイント：ICFの概要・目的、日本の健康施策を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

ICFの概要及びICFを使用する目的について説明せよ。また認知症を有する高齢者を例として、具体的な障害像（年齢・性別・運動機能・認知機能・家屋環境・家族構成・生活環境等）を設定し、支援におけるICFの具体的な活用事例について述べよ。

第1課題の留意点

・テキスト第4章「障害の概要」（pp.156-161）、第5章「リハビリテーションの概要」（pp.174-182）、第6章「国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要」（pp.194-203）等を参照して作成すること。
・国際障害分類（ICIDH）とICFの違い、ICFを使用する目的について記述すること。ICFを使用する目的については参考文献等から得た知見も踏まえて、特に重要と考えられるものについて重点を置いて説明すること。
・具体的な活用事例では、「心身機能と構造」の制限、「活動」の制限、「参加」の制約及び背景因子を記載し、それらを踏まえてICFの考え方をどのように支援に活用するかについて記述すること。

レポートの評価基準

・テキストを精読の上で、参考文献・参考Webページ等の情報を加味して課題について論述している。
・自らが充分に理解した内容について、主語と述語の関係などを留意してまとめている。
・他人に読ませることを意識して、丁寧に作成している。
・誤字脱字がない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・1問300字程度の記述問題（4問中2問を選択する）で行う。
・「疾病」や「障害」について事項を説明した上で、社会福祉士の視点でどう対応し、どのように支援するかについて記述する。「疾病」や「障害」の知識を踏まえた上で、個人の生活を支援することの視点をもって解答すること。参考文献等から得た知識も活用して論旨を展開することを心がける。
・自己学習においては、特に高齢者の身体機能（テキストpp.14-24、p.29）、疾病の概要（テキストpp.54-121を中心に）、障害の概要（テキストpp.141-172を中心に）、リハビリテーションの概要（テキストpp.174-189を中心に）、ICFの概要（pp.194-203）等について理解を深めておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに、自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し、誤字脱字がなく論理的に記述できていることと、指定文字数の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。
・論述問題 1 問につき50点の配点で採点する。

参考文献

・宮原伸二 『ホームヘルパーと介護者のための医療サイン』 創元社
・上田敏 『ICFの理解と活用 人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか』 きょうされん
・山口和克 『病気の地図帳』 講談社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30044	科目名[単位数／学習時間]	福祉行財政と福祉計画［2単位／90時間］	科目担当	權　順浩
テキスト	●社会福祉士養成講座編集委員会　『新・社会福祉士養成講座10　福祉行財政と福祉計画　第5版』　中央法規出版				
ISBN	9784805854303	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	22160

科目の目的

社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について学ぶ。

到達目標

・福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割）について理解する。
・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。

学習テーマ

1	テキスト第1章第1節、第2節【学習のポイント：福祉の法制度の変遷を理解する。】
2	テキスト第1章第3節【学習のポイント：福祉計画の概略を理解する。】
3	テキスト第2章第1節、第2節【学習のポイント：国と地方自治体の関係を理解する。】
4	テキスト第2章第3節､第4節【学習のポイント：福祉行政の組織と福祉サービスの利用方式の概略を理解する。】
5	テキスト第3章第1節、第2節【学習のポイント：社会保障給付費と一般会計予算を理解する。】
6	テキスト第3章第3節、第4節、第5節【学習のポイント：地方自治体の財政と民間社会福祉事業の財源と福祉サービス費用負担を理解する。】
7	テキスト第4章第1節、第2節、第3節、第4節【学習のポイント：第三者評価、苦情解決制度、福祉行政の専門機関を理解する。】
8	テキスト第4章第5節、第6節【学習のポイント：地域の相談システムと専門職を理解する。】
9	テキスト第5章【学習のポイント：社会福祉士が「福祉計画」にかかわる目的や意義を理解する。】
10	テキスト第6章【学習のポイント：福祉計画の過程を理解する。】
11	テキスト第7章第1節、第2節【学習のポイント：老人福祉計画・介護保険事業計画を理解する。】
12	テキスト第7章第3節【学習のポイント：障害者計画を理解する。】
13	テキスト第7章第3節【学習のポイント：障害福祉計画を理解する。】
14	テキスト第7章第4節【学習のポイント：次世代育成支援行動計画を理解する。】
15	テキスト第7章第5節【学習のポイント：地域福祉計画を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

福祉行政の専門機関について述べなさい。

第2課題

福祉計画について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・テキスト第4章をよく読み、とくに福祉事務所や児童相談所など福祉行政の専門機関の設置基準、役割、配置職員などについてまとめること。
・レポート文字数は、2,000字程度（自筆の場合は、本学所定レポート用紙5枚程度）である。1割程度の過不足範囲（1,800字（4枚半）以上2,200字（5枚半）以下）でまとめること。
・テキストも引用・参考文献として必ず明示すること。

第2課題の留意点

・テキスト第5章と第6章をよく読み、福祉計画の目的と意義、類型、ニーズ、住民参加などについてまとめること。
・レポート文字数は、2,000字程度（自筆の場合は、本学所定レポート用紙5枚程度）である。1割程度の過不足範囲（1,800字（4枚半）以上2,200字（5枚半）以下）でまとめること。
・テキストも引用・参考文献として必ず明示すること。

レポートの評価基準

・テキストに基づいていない内容が大半あるいは終始したものは合格水準に達していないと判断する。
・「各課題の留意点」に示している範囲の文字数（規定分量）で記述されていることを前提として評価するので、大幅な過不足は合格水準に達していないと判断する。規定分量の範囲でない場合減点とする。
・誤字脱字、文章の主語・述語のねじれ、原稿用紙の使い方に則っていない（例えば段落の最初は一字下げるなど）、引用・参考文献（テキストを含む）を明示していない場合は減点対象。なお、引用・参考文献は本文の文字数には含まれないので留意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・必ず「学習テーマ」の内容を十分理解したうえで、テキストの内容に基づいて書くこと。
・自分の考え、経験、自説等を記入しても評価しないので、書かないこと。
・設題と関係のない内容をいくら書いても評価しないので、書かないこと。
・何かを説明する際、それに関わる内容もすべて述べること。
・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明すること。
・福祉行政における国と地方自治体の役割や福祉行政の専門機関、各福祉計画の目的、根拠法、計画の期間、内容などをよく学習しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨とそれに関わるテキストの内容を十分理解したうえで、正確かつ適切に説明ができているかどうか。
・福祉行財政と福祉計画に関わる専門用語が適切かつ正確に書かれているかどうか。
・テキストの内容と一致しているかどうかを中心に評価する。
・内容は、箇条書きではなく、文章として論理的に記述されているかどうか。

参考文献

・総務省 『地方財政白書』 ※総務省ホームページでも閲覧可能
・財務省ホームページ 『予算・決算（国のお金の使い道）』

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30045	科目名[単位数/学習時間]	福祉サービスの組織と経営[2単位/90時間]	科目担当	權　順浩
テキスト	●社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座11　福祉サービスの組織と経営　第5版』 中央法規出版				
ISBN	9784805854310	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	22161

科目の目的

本科目は、近年、社会福祉法人をはじめ、多様化している福祉サービスの供給組織を理解するとともに、福祉サービスの管理運営に関わる基礎理論と方法について理解を深めることが目的である。

到達目標

・福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。
・福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。
・福祉サービスの経営と管理運営について理解する。

学習テーマ

1	福祉サービスにおける組織と経営【学習のポイント：福祉サービスと経営管理との関係を理解する。】
2	法人とは何か【学習のポイント：社団法人と財団法人の相違と共通点を理解する。】
3	社会福祉法人【学習のポイント：社会福祉法人の仕組みと特徴を理解する。】
4	特定非営利法人、医療法人等【学習のポイント：各々法人の特徴と社会福祉法人との相違と共通点を理解する。】
5	事業計画と戦略【学習のポイント：経営戦略理論と事業計画作成のプロセスを理解する。】
6	組織と管理運営【学習のポイント：組織原則・形態、PDCAサイクル、ISO9001を理解する。】
7	集団の力学とリーダーシップ【学習のポイント：集団とリーダーシップの関係及び関連理論を理解する。】
8	サービスマネジメント【学習のポイント：福祉サービスの特徴と価値を理解する。】
9	サービスの質の評価【学習のポイント：第三者評価について理解する。】
10	苦情対応とリスクマネジメント【学習のポイント：リスクの発生構造とマネジメントを理解する。】
11	人事管理【学習のポイント：動機づけ理論と人事管理を理解する。】
12	労務管理と人材育成【学習のポイント：労働関係法令と職場研修を理解する。】
13	財務管理【学習のポイント：社会福祉法人の資金の流れと財務管理の特徴を理解する。】
14	会計管理【学習のポイント：会計基準省令と貸借対照表を理解する。】
15	情報管理と戦略的広報【学習のポイント：情報管理について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

社会福祉法人と特定非営利活動法人の特徴と違いについて述べなさい。

第2課題

リーダーシップの基礎理論について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・本課題は、社会福祉サービスの提供主体として大きな役割を果たしている社会福祉法人と特定非営利活動法人の歴史的背景と設立の手続き、仕組み（事業内容、理事・理事会・評議員・評議員会・監事の役割）、事業内容等を理解してもらうためである。
・テキスト第2章第2節と第6章の内容を十分吟味し、理解を深めたうえで、レポートを作成すること。
・レポートの評価基準に沿って作成すること。
・参考・引用文献を必ず明確に示すこと。

第2課題の留意点

・ソーシャルワーカーは、要支援者への福祉サービス提供だけでなく、社会福祉組織において福祉現場のリーダーとして、あるいは経営・運営者としての役割を果たさないといけない場合がある。本課題は、その基礎理論であるリーダーシップについて理解してもらうためである。
・テキスト第6章を十分吟味し、リーダーシップ理論の系譜や各々理論の特徴を深めたうえで、レポートを作成すること。
・レポートの評価基準に従って作成すること。
・参考・引用文献を必ず明確に示すこと。

レポートの評価基準

1. 不合格となる場合は以下のとおり。
①テキストと下記参考文献以外の文献を参考にして作成したレポートは、内容を問わず、不合格になる。
②自らの経験、自説に基づいて作成したレポートは、不合格になる。
③指定文字数（2,000字程度）に足りない場合（9割以下）は、不合格になる。
④例示文が全体の1/5を超えると、不合格になる可能性があるので、できる限り概念を説明する際には、例を取り上げないようにすること。
2. 評価項目と割合
①テキストをきちんと読み、課題の意図を理解したうえで、留意点で示した内容が正確かつ適切に説明されているか　70%
②序論－本論－結論（はじめに－本文－おわりに）の3段階構成、あるいは起承転結の4段階構成で作成しているか　5％
③参考文献はもちろん、引用した場合、注を付けて引用箇所を明示しているか　5％
④誤字脱字はないか　5％
⑤文体は一致しているか　5％
⑥書き出し、段落が適切につけられているか　5％
⑦主語と述語、接続語、句読点、修飾語等が適切に使われているか　5％

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・必ず「学習テーマ」の内容を十分理解したうえで、テキストの内容に沿って書くこと。
・自分の考え、経験、自説等を記入しても評価しないので、書かないこと。
・設題と関係のない内容をいくら書いても評価しないので、書かないこと。
・何かを説明する際、それに関わる内容もすべて述べること。
・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明すること。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨とそれに関わるテキストの内容を十分理解したうえで、正確かつ適切に説明ができているかどうか。
・福祉サービスの組織と経営に関わる専門用語が適切かつ正確に書かれているかどうか。
・テキストの内容と一致しているかどうかを中心に評価する。
・内容は、箇条書きではなく、文章として論理的に記述されているかどうか。

参考文献

・金井壽宏　『リーダーシップ入門』　日本経済新聞出版社
・浦野正男　『社会福祉施設経営管理論』　社会福祉法人全国社会福祉協議会
その他、テキスト各章末の文献を参照のこと。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30046	科目名［単位数／学習時間］	社会調査の基礎［2単位／90時間］	科目担当	權　順浩
テキスト	●宮本和彦　梶原隆之　山村豊　福祉臨床シリーズ編集委員会 『社会福祉士シリーズ5　社会調査の基礎　第4版』 弘文堂				
ISBN	9784335611933	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	22162

科目の目的

本科目は、社会調査の意義と方法を学習することで、社会福祉の専門職として生活問題や社会現象等を客観的、科学的にとらえる能力を身につけることが目的である。そのため、社会福祉実践において調査・研究の意義と必要性を理解することが重要である。そのうえで、社会調査の方法や倫理、対象や内容に合わせた様々な調査·研究方法、標本の抽出方法、量的・質問研究方法について基礎的な知識を理解していく。

到達目標

・社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。
・統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。
・量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。

学習テーマ

1	社会調査の目的と種類【学習のポイント：社会調査の目的と種類（横断・縦断調査等）を理解する。】
2	社会調査のプロセス【学習のポイント：社会調査の全体的な流れと用語（概念・仮説）を理解する。】
3	社会調査の倫理【学習のポイント：社会調査における倫理的配慮・統計法を理解する。】
4	量的調査の特徴と質問紙法の手順【学習のポイント：量的調査の特徴と手順を理解する。】
5	尺度、信頼性と妥当性【学習のポイント：尺度の種類、信頼性と妥当性の検証方法を理解する。】
6	研究デザイン【学習のポイント：さまざまな研究デザインの相違を理解する。】
7	調査対象の選定方法【学習のポイント：全数調査と標本調査、標本抽出法の相違を理解する。】
8	調査票作成と留意点【学習のポイント：調査票の構成要素と質問形式、留意点を理解する。】
9	ワーディング【学習のポイント：ワーディングの留意点を理解する。】
10	資料の配布と回収【学習のポイント：多様な資料の配布・回収方法の相違を理解する。】
11	データ整理【学習のポイント：データ整理時、留意点と度数分析を理解する。】
12	2変数のデータ分析【学習のポイント：クロス集計と相関関係を理解する。】
13	観察法【学習のポイント：参与・非参与観察法の相違とアクション・リサーチの特徴を理解する。】
14	面接法【学習のポイント：面接法の種類とデータ整理の留意点を理解する。】
15	ITを活用した調査設計と方法【学習のポイント：情報管理について理解する。】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

量的調査における対象選定方法について述べなさい。

第2課題

質的調査の特徴と分析方法について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・課題の趣旨は、量的調査における調査対象選定方法と留意点について理解を深めることである。そのため、次のようなことを留意しつつ、課題作成に取り組むことが重要である。
・テキスト第2章の内容を吟味したうえで、指定した参考文献を参考にしてレポートを作成すること。
・量的調査の目的、全数調査と標本調査の特徴、それぞれ調査の違い、調査する際の留意点、標本抽出法の種類と方法等の内容を必ず入れて作成すること。
・レポート作成の際、レポート評価基準を参考にしつつ作成すること。
・参考・引用文献を必ず明確に示すこと。

第2課題の留意点

・課題の趣旨は、質的調査の特徴と分析の際の留意点に対する理解を深めることである。そのため、次のようなことに留意しつつ、課題作成に取り組むことが重要である。
・テキスト第3章の内容を吟味したうえで、指定した参考文献を参考にしつつ作成すること。
・質的調査の目的、質的調査の特徴、質的調査データの分析方法と分析の際の留意点などをまとめつつ、作成すること。
・レポート作成の際、レポート評価基準を参考にしつつ作成すること。
・参考・引用文献を必ず明確に示すこと。

レポートの評価基準

1．不合格となる場合は以下のとおり。
①テキストと下記参考文献以外の文献を参考にして作成したレポートは、内容を問わず、不合格になる。
②自らの経験、自説に基づいて作成したレポートは、不合格になる。
③指定文字数（2,000字程度）に足りない場合（9割以下）は、不合格になる。
④例示文が全体の1/5を超えると、不合格になる可能性があるので、できる限り概念を説明する際には、例を取り上げないようにすること。

2．評価項目と割合
①テキストをきちんと読み、課題の意図を理解したうえで、留意点で示した内容が正確かつ適切に説明されているか　70%
②序論－本論－結論（はじめに－本文－おわりに）の3段階構成、あるいは起承転結の4段階構成で作成しているか　5％
③参考文献はもちろん、引用した場合、注を付けて引用箇所を明示しているか　5％
④誤字脱字はないか　5％
⑤文体は一致しているか　5％
⑥書き出し、段落が適切につけられているか　5％
⑦主語と述語、接続語、句読点、修飾語等が適切に使われているか　5％

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストを参考にして、設題に応じてその内容が正確に書かれているかどうか。
・自分の考え、経験、自説等を記入しても評価しないので、書かないこと。
・設題と関係のない内容をいくら書いても評価しないので、書かないこと。
・何かを説明する際、それに関わる内容もすべて述べること。
・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明すること。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨とそれに関わるテキストの内容を十分理解したうえで、正確かつ適切に説明ができているかどうか。
・社会調査に関わる専門用語が適切かつ正確に書かれているかどうか。
・テキストの内容と一致しているかどうかを中心に評価する。
・内容は、箇条書きではなく、文章として論理的に記述されているかどうか。

参考文献

・立石宏昭　『社会福祉調査のすすめ　実践のための方法論』　ミネルヴァ書房
・潮谷有二　杉澤秀博　武田丈　『MINERVA社会福祉士養成テキストブック5　社会調査の基礎』　ミネルヴァ書房
・近藤公彦　『ケース・スタディの方法』　千倉書房
・S・B・メリアム　『質的調査法入門－教育における調査法とケース・スタディ』　ミネルヴァ書房
・平山尚　武田丈　呉栽喜　藤井美和　李政元　『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』　ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30047	科目名[単位数/学習時間]	保健医療サービス［2単位／90時間］	科目担当	未定（「親和通信」で連絡）
テキスト	●児島美都子　成清美治　竹中麻由美　『保健医療と福祉』　学文社				
ISBN	9784762029776	本体価格(円)（2022年1月現在）	2,700	生協テキストNo.	22163

科目の目的

本科目では、①相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解すること、②保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解することを目的とする。

到達目標

・保健医療サービス（医療分野の中での福祉活動）の概要やその特徴等を理解する。
・保健・医療・福祉サービスが必要な対象者の生活課題を理解し、解決方法が提案できる。
・医療ソーシャルワーカーなど保健医療サービスにおける各専門職の役割や存在意義から、多機関連携・地域住民との協働・社会資源の開発などの重要性を認識できる。

学習テーマ

1	保健医療の動向【学習のポイント：保健医療、疾病構造の変化、在宅医療、保健医療における福祉的課題について理解する。＜テキスト第1章＞】
2	保健医療の歴史的展開【学習のポイント：保健医療の歴史について学ぶ。＜テキスト第2章＞】
3	医療保険制度の概要①【学習のポイント：国民医療費の高騰、国民医療費に関する政策動向、医療費の国際比較について、理解する。＜テキスト第3章1・2・3＞】
4	医療保険制度の概要②【学習のポイント：医療保険制度、後期高齢者医療制度、公費負担医療制度について、理解する。＜テキスト第3章4・5・6＞】
5	保健医療対策の概要【学習のポイント：保健所の役割、医療計画、疾病、救急医療等、薬剤耐性対策、健康日本21と健康増進法等を理解する。＜テキスト第4章＞】
6	医療提供施設の概要【学習のポイント：医療法等による我が国の医療提供体制を理解する。＜テキスト第5章＞】
7	診療報酬制度①【学習のポイント：診療報酬とは何か等診療報酬の基本を理解する。＜テキスト第6章1・2・3＞】
8	診療報酬制度②【学習のポイント：診療報酬から見える医療提供体制等の状況を理解する。＜テキスト第6章4・5・6＞】
9	保健医療における専門職の役割と連携・協働【学習のポイント：保健医療にかかわる各種の専門職の役割を理解し、連携・協働の重要性を理解する。＜テキスト第7章＞】
10	保健医療領域における支援の実際【学習のポイント：医療ソーシャルワーカーの業務の方法や留意点、実際の支援を理解する。＜テキスト第8章＞】
11	地域包括ケアシステムと在宅医療【学習のポイント：地域包括ケアシステムとは何かを理解し、これからの在宅医療の在り方を理解する。＜テキスト第9章＞】
12	保健医療に係る倫理【学習のポイント：自己決定・意思決定、医療倫理について学び、医療に係わる倫理の課題を理解する。＜テキスト第10章＞】
13	病気・障害を抱える人びとや家族に対する相談・援助活動【学習のポイント：疾病・障害のある人と家族の状況等を理解し、実際の支援について学ぶ。＜テキスト第11章＞】
14	精神障害を抱えた人びとや家族に対する相談・援助活動【学習のポイント：精神保健の歴史、精神保健福祉の現状と課題、相談援助と精神保健福祉士について理解する。＜テキスト第12章＞】
15	高齢者福祉の問題を抱えた人びとに対する相談・援助活動【学習のポイント：高齢社会における高齢者福祉の問題を理解し、支援の実際を学ぶ。＜テキスト第13章＞】

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

保健医療サービスとはどのようなものかを具体的な例をあげて説明しなさい。

第2課題

地域包括ケアシステムにおける多職種連携について、その概要と課題について具体的な事例をあげて説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

日本における疾病構造や人口高齢化などの状況変化をもとに、保健医療サービスとは何かをテキスト等を参考にして具体的にまとめる。（テキスト第1・4・7・8・11・12・13章、参考文献『厚生労働白書』、参考文献『国民の福祉と介護の動向』、新聞記事などを参照。）

第2課題の留意点

なぜ多職種連携が必要か等について、参考文献『厚生労働白書』やテキストを参考にして、記述する。（テキスト第7・9章、参考文献『国民の福祉と介護の動向』、新聞記事などを参照。）

レポートの評価基準

・テキストだけではなく、様々な文献を参考にして適切に記述がなされていること。
・単に法律の条文や事実関係を羅列するのではなく、歴史や新たな状況なども含めて丁寧に論述していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを精読して、理解を深めること。そして、設題の趣旨を正確に把握するように努めること。

科目修了試験の評価基準

・テキストだけではなく、様々な文献も読んでいることが表われるような解答であること。
・単に法律の条文や事実関係を羅列するのではなく、歴史や新たな状況なども含めて丁寧に論述していること。

参考文献

・厚生労働省HP 『厚生労働白書（最新版）』
・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のxiii）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30048	科目名［単位数／学習時間］	相談援助演習Ⅰ［2単位／90時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●一般社団法人日本社会福祉士養成校協会　『社会福祉士　相談援助演習　第2版』　中央法規出版				
ISBN	9784805851234	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	22164
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

本科目では、①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的なソーシャルワークの事例を体系的にとりあげ、さらに、②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心に学習する。また、これらを通して、ソーシャルワークの基礎である自己覚知、基本的コミュニケーション技術、基本的な面接技術について習得できるように、ソーシャルワークの理論的理解をする。実務経験を取り入れ教授する。なお、ソーシャルワークと相談援助は同義である。

到達目標

ソーシャルワークに関する基礎を学ぶことを通して、社会福祉専門職として必要な基本姿勢と基本的技術を理解し、習得する。相談援助実習を行う前に学習を開始し、十分な学習をしておくため、ソーシャルワークに係る知識と技術について「相談援助演習Ⅱ」（スクーリング履修科目）と合わせて以下の課題に取り組む。

学習テーマ

1	ソーシャルワークの目的、意義、内容について理解する。
2	ソーシャルワークの倫理について理解する。
3	自己理解、他者理解について理解する。
4	クライエント理解のための面接について理解する。
5	人と環境について理解する。
6	価値と倫理について理解する。
7	ソーシャルワークにおける関係性について理解する。
8	ソーシャルワークの展開過程について理解する。
9	ソーシャルワークにおけるコミュニケーション技術について理解する。
10	ケースカンファレンスについて理解する。
11	地域を基盤としたソーシャルワークについて理解する。
12	実践モデル、アプローチについて理解する。
13	社会問題を基盤とした相談援助について理解する。
14	対象別にみたソーシャルワークについて理解する。
15	ジェネラリストソーシャルワークの到達点について理解する。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

ソーシャルワークにおける面接技術について、説明しなさい。考察のなかで、学んで理解した内容について、自身の日頃の活動、対人的関わりのなかでどのように活かされるか、具体的に記しなさい。

第2課題

ソーシャルワークにおける価値基準と、倫理、理念について、説明しなさい。考察のなかで、学んで理解した内容について、自身の日頃の活動、対人的関わりのなかでどのように活かされるか、具体的に記しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第2章を中心に、面接の特性、基盤、応答技法等について説明しなさい。学んで理解したことを整理し、自身の日頃の活動、対人的関わりのなかでどのように活かされるか、具体的に記しなさい。

第2課題の留意点

テキスト第1章を中心に、価値、倫理、行動規範、倫理的ジレンマをキイワードに取りあげ、ソーシャルワークの専門職性について、説明しなさい。学んで理解したことを整理し、自身の日頃の活動、対人的関わりのなかでどのように活かされるか、具体的に記しなさい。

レポートの評価基準

「課題の留意点」に沿って学習し、関連科目の「社会福祉援助技術論Ⅰ」「社会福祉援助技術論Ⅱ」の文献等も併せて参考にし、課題の趣旨に沿った内容、文章量、適切な文字表現から評価する。個人的な事例は書かないこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの内容を理解し、社会福祉士が行うソーシャルワーク（相談援助・援助技術論）に関する関連科目のテキストや文献もよく読んで、理解を深めておくこと。レポート課題以外のテキストの範囲も学んで臨むこと。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨に沿った内容の解答をすること。文章量、文字表現の適切さも含めて評価する。
・個人的体験や事例等で文章量を確保したり、趣旨から離れた観点からの意見は評価に値しないので、気をつけること。

参考文献

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座13 ソーシャルワーク演習［共通科目］』 中央法規出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30050	科目名［単位数／学習時間］	相談援助実習［実習４単位］	科目担当	未定（「親和通信」で連絡）
テキスト	●相澤譲治　九十九綾子　『相談援助実習　養成校と実習先との連携のために』　電気書院				
ISBN	9784485304006	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,000	生協 テキストNo.	22165

科目の目的

・現場での実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。
・社会福祉士として求められる資質や能力、倫理の向上と、自己に求められる課題の把握と改善等を目指しながら、相談援助の専門職として総合的に対応できる能力を習得する。
・関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

到達目標

・利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションを基盤としながら、円滑な人間関係を形成する。
・利用者への理解を深める取り組みの中で、その「生きづらさ」やニーズを把握し、支援計画を作成する。
・利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への支援（エンパワメント含む）と権利擁護の実際を理解する。
・社会福祉士としての職業倫理と、施設・事業者・機関・団体等の職員の役割と責任、さらには組織の一員としての役割と責任を理解する。
・実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等として位置づけられていることへの理解と、これをふまえた地域社会への具体的な働きかけやネットワーキング等の実際を理解する。

授業計画・方法

＜実習内容＞
180時間以上かつ23日間以上の実習が必要であり、実習前学年に実施する「相談援助実習ガイダンス」（出席必須）で時期・施設などについて詳しく説明する。
実習期間中は、実習指導者の指導を受けながら実習の目的を達成する。また、実習担当教員から週１回（本学が指定する平日）の実習中指導（帰校日指導）を受ける。

受講上の注意事項

・実習施設に係る法・制度、現状と課題、地域特性などをまとめて、事前学習により理解を深めておく。
・社会福祉士の役割と機能、個別支援計画のプロセス、利用者の動向、社会福祉法人の仕組みなどについて学習しておく。
・体調管理に留意し、真摯に本実習に取り組む。

評価基準

・実習生の実習目的への取り組み　50%
・実習指導者からの実習評価　30%
・実習総括レポート、日誌などの提出物　20%

参考文献

・髙橋昌子　『社会人学生の本音　私たちの社会福祉士　相談援助実習』　電気書院

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

実習日誌等返却時にコメント等を通知する。

科目コード	30051	科目名［単位数／学習時間］	相談援助実習指導Ⅰ［１単位／45時間］	科目担当	未定（「親和通信」で連絡）

科目の目的

「相談援助実習」の意義を理解し、社会福祉士として求められる資質や能力、倫理の向上と、自己に求められる課題の把握と改善等を目指しながら、相談援助の専門職として総合的に対応できる能力を習得する。

到達目標

実習分野（法・制度、利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な内容をテキスト履修により理解する。併せて、実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技能、倫理などに関して理解する。

＜注意＞「相談援助実習指導Ⅰ」のテキスト、学習テーマ、レポート課題、課題の留意点、レポートの評価基準、科目修了試験「答案」作成の留意点、及び科目修了試験の評価基準については、『親和通信』でお知らせします。
※「相談援助実習指導Ⅰ」のレポート提出は、実習受講資格判定で受講許可となった後の指定期間になります。詳しくは、「相談援助実習ガイダンス」（出席必須。日程等は『親和通信』で連絡。）でお知らせします。

科目コード	30054	科目名[単位数/学習時間]	権利擁護と成年後見制度［2単位／90時間］	科目担当	福島　健太
テキスト	●社会福祉士養成講座編集委員会 『新・社会福祉士養成講座19　権利擁護と成年後見制度　第4版』 中央法規出版				
ISBN	9784805839362	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	22167
実務経験のある教員による科目	弁護士				

科目の目的

権利擁護の意義を理解し、成年後見制度を中心に権利擁護における対応のあり方を学ぶ。権利擁護とは何か、から学び、後見・保佐・補助の違いとその理由を理解し、さらに後見人等に求められる義務についても理解することが重要である。また、どのような場合に後見制度を利用すべきかについても、具体的事案を基に理解すべきである。そして、任意後見制度についても法定後見と比較しながら理解すべきである。そして、後見制度の課題についても学習すると良い。

到達目標

権利擁護がなぜ求められているのか、その上で成年後見制度がどのような役割を果たすのかを理解し、適切な場面で成年後見制度の利用につなげられるよう、関係機関の役割等も理解することが目標である。そのためには、権利擁護の意義、成年後見制度の全般的な理解がまずは必要になる。さらに、権利擁護に関わる関係機関や成年後見制度以外の他の制度も理解し、どの制度を選択すべきなのかを理解することが重要である。以上について、国家試験の過去の出題傾向を意識し、過去問も併せて解きながら必要な知識を得る。

学習テーマ

1	権利擁護について【学習のポイント：権利擁護とは何か、を学ぶ。】
2	憲法の理解【学習のポイント：関連する範囲で憲法を学ぶ。】
3	行政法の理解【学習のポイント：関連する範囲で行政法を学ぶ。】
4	民法の理解①【学習のポイント：関連範囲で民法（不法行為中心）を学ぶ。】
5	民法の理解②【学習のポイント：関連範囲で民法（家族法中心）を学ぶ。】
6	後見制度の概要と法定後見【学習のポイント：制度の概要と法定後見制度の具体的な内容について学ぶ。】
7	申立及び選任後の手続【学習のポイント：具体的な制度の利用の仕方について学ぶ。】
8	近年の動向と関連機関について【学習のポイント：関連機関等について学ぶ。】
9	関連する他の制度について【学習のポイント：日常生活自立支援事業など関連制度を学ぶ。】
10	任意後見制度について【学習のポイント：任意後見制度について法定後見と比較して学ぶ。】
11	後見制度のおさらい【学習のポイント：後見制度全般を再度確認する。】
12	虐待防止法について【学習のポイント：関連する範囲で虐待防止法について学ぶ。】
13	債務整理や消費者被害その他関連する法的な問題【学習のポイント：関連分野について学ぶ。】
14	これまでの学習のおさらい【学習のポイント：学んできた内容を整理し再確認する。】
15	修了試験と全体のまとめ【学習のポイント：現時点での理解度を確認し今後の学習ポイントを把握する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

後見制度のうち、法定後見制度と任意後見制度の違いについて説明せよ。

第2課題

法定後見制度における、後見・保佐・補助の類型について、それぞれの違いを説明せよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

法定後見制度と任意後見制度で、どのような違いがあるのか、記載すること。

第2課題の留意点

法定後見における各類型において、どのような違いがあるか、具体的に記載すること。

レポートの評価基準

まずは、それぞれ問われている言葉や制度の説明が適切にできているかどうか、分かり易く的確に記入されているか、が判断基準となる。

課題に答えていない場合や、説明として明らかに不十分な場合は、評価を低くせざるを得ない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

成年後見制度については、法定後見及び任意後見の該当部分について十分読み込み、後見・保佐・補助の各類型について、申立手続から選任後の権限の違いなどについて理解する必要がある。また、後見人等の義務についても理解しておくこと。さらに、後見制度と関連する他の制度についてもテキストの該当部分をよく読んでおくこと。そして、後見制度の現状や課題についても理解が必要である。

また、憲法や行政法については概要を理解できるよう、社会福祉士国家試験過去問で出題されている部分を中心にテキストを広く目を通しておくこと。

科目修了試験の評価基準

6 割程度理解できていると評価できれば合格とする。

参考文献

・全国権利擁護支援ネットワーク 『権利擁護支援と法人後見』 ミネルヴァ書房

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30057	科目名[単位数/学習時間]	社会福祉学特殊講義A(福祉と女性)[2単位/90時間]	科目担当	久保木　亮子
テキスト	●森田明美　『よくわかる女性と福祉　やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ』　ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623059560	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,600	生協テキストNo.	22169
実務経験のある教員による科目	公立保育園長、公立保育園・幼稚園兼務園長、子育て支援センター長				

科目の目的

現代女性の子ども期、子育て期、壮年期、高齢期のライフステージに焦点を当て、女性が働きながら子どもを育てる困難さなど女性の権利や様々な権利の課題について考えながら、社会福祉の観点からどのような考え方ができるかを考えていく。また、女性の社会的地位、女性の人生設計、女性と労働、子育てなどについて世界各国の女性との状況から比較を行いながら検討していく。実務経験を活かして教授する。

到達目標

テキスト全体を通読し、
・女性の生き方、真の自立について学びを深める。
・世界の国の女性政策と女性の意識について学ぶ。
・女性の社会保障の向上に向けての雇用環境や政策等について考える。
などについて、学びを深める。

学習テーマ

1	福祉とは【学習のポイント：福祉とは何かについて考察する。】
2	女性の生き方について学ぶ①【学習のポイント：乳幼児期～学童期について】
3	女性の生き方について学ぶ②【学習のポイント：学童期～青年期について】
4	女性の生き方について学ぶ③【学習のポイント：青年期～壮年期について】
5	女性の生き方について学ぶ④【学習のポイント：壮年期～高齢期について】
6	仕事と子育ての両立について学ぶ①【学習のポイント：子育て支援制度について考える。】
7	仕事と子育ての両立について学ぶ②【学習のポイント：両立可能な社会を目指す体制について考える。】
8	少子高齢化社会について学ぶ【学習のポイント：動向と対策について学習する。】
9	女性の貧困について考える【学習のポイント：現状、解決について考える。】
10	女性のライフステージについて学ぶ①【学習のポイント：自立への道筋について考える。】
11	女性のライフステージについて学ぶ②【学習のポイント：年代、期別に考える。】
12	日本の社会福祉について学ぶ【学習のポイント：歴史、問題点、課題を探る。】
13	世界の女性政策について学ぶ【学習のポイント：先進諸国の現状を知る。】
14	女性政策の在り方を考察する【学習のポイント：世界と比較しながら課題解決を探る。】
15	以上の学びの振り返り

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

女性が遭遇するライフステージの問題と自立について述べなさい。

第2課題

仕事と子育てが可能な社会になるための多様な支援について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

女性のライフステージは多様化してきた。女性が自立して生きていくために様々な問題に遭遇している。その課題とは何かを検討する。

第2課題の留意点

女性の生き方について諸外国の女性政策と比較、検討していきながら、日本における子育てと仕事の両立支援のあり方について述べる。

レポートの評価基準

学びを理解したうえで、子育てと仕事の両立が可能となる社会の実現、女性が真の自立を目指すための政策と課題について述べられているか。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストをよく読んで理解を深め、テキスト学習より得た基礎的なことを説明した上で、自分の考えを取り入れて作成すること。
・設題の趣旨を正確に把握し、論旨を展開することを心がけること。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて正確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項を踏まえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、解答用紙表面 2 / 3 以上に記述があることを前提として評価する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の XVII ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30058	科目名[単位数／学習時間]	社会福祉学特殊講義Ｂ（福祉と歴史）[２単位／90時間]	科目担当	權　順浩
テキスト	●山縣文治　岡田忠克 『よくわかる社会福祉　第11版　やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ』 ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623076765	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	22170

科目の目的

社会福祉の発展にはその歴史を学ぶことが必要である。社会福祉の現状を取り巻く問題をより深く理解しようとするとき、社会福祉発達史やその社会的背景に関しての知識を学ぶことが重要となる。
併せて、日本の社会福祉及び欧米の社会福祉の歴史的展開をふまえながらソーシャルワークの歴史的展開も学ぶ。

到達目標

・社会福祉の基礎概念を理解する。
・社会福祉を取り巻く状況について理解する。
・社会福祉の歴史（日本・イギリス・アメリカ）について理解する。
・社会福祉基礎構造改革について理解する。
・社会福祉専門職について理解する。

学習テーマ

1	社会福祉の基礎概念としてのノーマライゼーションについて理解する。
2	社会福祉を取り巻く状況としての現代家庭の動向と変化及び貧困について理解する。
3	社会福祉の歴史と展開としての戦前・戦後及び欧米の社会福祉の動向について理解する。
4	社会福祉の仕組みと運営としての社会福祉の財政とサービスの利用と提供について理解する。
5	社会福祉の機関と施設について理解する。
6	社会福祉の援助の方法について理解する。
7	社会保障（公的年金・医療保険制度）・公的扶助（生活保護の実施体制等）について理解する。
8	子ども家庭福祉制度と児童虐待について理解する。
9	高齢者福祉と介護保険制度及び地域包括ケアシステムについて理解する。
10	障害者福祉と障害者総合支援法及び障害者雇用対策の現状と課題について理解する。
11	障害者の権利保障とアドボカシー（権利擁護）について理解する。
12	地域福祉とコミュニティケア及び成年後見人制度について理解する。
13	地域の組織化と福祉の組織化及びソーシャル・サポート・ネットワークについて理解する。
14	これからの福祉の課題としての苦情解決と福祉オンブズパーソンについて理解する。
15	福祉を支える人たちとしての社会福祉専門職の現状と課題について理解する。

レポートについて

ワープロソフト使用可

第１課題

日本とイギリスの社会福祉の歴史についてまとめなさい。

第２課題

ソーシャルワークの体系と歴史的展開についてまとめなさい。

各課題の留意点

第１課題の留意点

・テキストⅢ 1 - 4 を熟読してまとめること。
・レポート文字数は、2,000字程度（自筆の場合は、本学所定レポート用紙 5 枚程度）である。 1 割程度の過不足範囲（1,800字（ 4 枚半）以上2,200字（ 5 枚半）以下）でまとめること。
・テキストも引用・参考文献として必ず明示すること。

第２課題の留意点

・テキストⅠ 5 － 6 、Ⅵを熟読してまとめること。
・レポート文字数は、2,000字程度（自筆の場合は、本学所定レポート用紙 5 枚程度）である。 1 割程度の過不足範囲（1,800字（ 4 枚半）以上2,200字（ 5 枚半）以下）でまとめること。
・テキストも引用・参考文献として必ず明示すること。

レポートの評価基準

・テキストに基づいていない内容が大半あるいは終始したものは合格水準に達していないと判断する。
・「各課題の留意点」に示している範囲の文字数（規定分量）で記述されていることを前提として評価するので、大幅な過不足は合格水準に達していないと判断する。規定分量の範囲でない場合減点とする。
・誤字脱字、文章の主語・述語のねじれ、原稿用紙の使い方に則っていない（例えば段落の最初は一字下げるなど）、引用・参考文献（テキストを含む）を明示していない場合は減点対象。なお、引用・参考文献は本文の文字数には含まれないので留意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

「到達目標」をふまえ、テキストの該当する各章を熟読し、ポイントを整理して理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・設題内容を正しく理解し、論理的でわかりやすく、正確に説明ができていること。
・テキストに基づいていない内容のみでは合格水準に達していないと判断する。
・「科目の目的」や「到達目標」をふまえずに自説を記入しても評価しない。
・誤字脱字、文章の主語・述語のねじれ、原稿用紙の使い方に則っていない場合は減点対象。

参考文献

・右田紀久恵　高澤武司　古川孝順 『社会福祉の歴史　政策と運動の展開』 有斐閣

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30060	科目名[単位数／学習時間]	社会福祉学特殊講義D（福祉と国際社会）[2単位／90時間]	科目担当	權　順浩
テキスト	●仲村優一　慎燮重　萩原康生　『グローバリゼーションと国際社会福祉』　中央法規出版				
ISBN	9784805822135	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	22171

科目の目的

本科目は、国際社会福祉の観点から国際社会が抱えているさまざまな課題、もしくは国内の外国人問題を深く理解し、その支援活動を学習することが目的である。そのため、国際社会福祉の理論や理念、価値、歴史などを学習し、国際社会へ大きな影響を及ぼしているグローバリゼーションを社会的、経済的、文化的、政治的など、多様な側面からとらえ、その問題と課題を理解する。そして、それらの問題に対する支援活動を学習する。さらに、日本国内の問題として在日外国人が抱えている課題、その背景や支援活動、制度的取り組みについて学習する。

到達目標

・グローバリゼーションによる肯定的・否定的影響を多角的な側面から理解を深めること。
・国際社会が抱えている問題と課題を深く理解するため、必要な専門的知識と国際社会福祉の理念を身につけること。
・在日外国人が抱えている課題とその支援活動を理解するための国際的観点を身につけること。

学習テーマ

1	グローバリゼーション時代における国際福祉の意義【学習のポイント：多様な側面からグローバリゼーションの意義を理解する。】
2	国家福祉の現状と展望①【学習のポイント：国際福祉の諸理論を理解する。】
3	国家福祉の現状と展望②【学習のポイント：福祉国家の類型、発展理論、福祉社会との相違を理解する。】
4	国際社会福祉の理念と歴史【学習のポイント：国際福祉の目標・理念・歴史を理解する。】
5	国際社会福祉の現状と展望【学習のポイント：先進国と発展途上国の社会福祉の違い、国際社会福祉活動を理解する。】
6	国際社会福祉の課題【学習のポイント：アマルティアセンの自由の本質的役割から国際社会福祉の課題、任務・要件を理解する。】
7	アジアの貧困と貧困の再生産【学習のポイント：アジアの貧困と環境問題、貧困の再生産を理解する。】
8	貧困と女性・子ども問題【学習のポイント：女性・子どもにおける貧困問題が及ぼす影響を理解する。】
9	国際福祉システム【学習のポイント：国際福祉のさまざまなシステムと機能を理解する。】
10	永住外国人の福祉問題【学習のポイント：日本に滞在する外国人の生活問題を理解する。】
11	国際社会福祉における日本の役割【学習のポイント：国際社会福祉における日本の活動と役割を理解する。】
12	国際社会福祉の背景と国際協力【学習のポイント：国際社会福祉の背景と国際協力の成果・課題を理解する。】
13	地球社会共生のための国際協力【学習のポイント：国際協力の仕組みと活動を理解する。】
14	社会開発の歴史と枠組み【学習のポイント：社会開発の歴史と国際動向を理解する。】
15	社会開発と開発型福祉【学習のポイント：CBRの意義、開発型福祉と従来型福祉の相違を理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

国際社会福祉の意義と展望について述べなさい。

第2課題

国際社会福祉における日本の役割について述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・レポートの評価基準を参考にして、レポートを作成すること。
・テキスト第2章の内容を吟味し、まとめること。
・国際社会福祉の定義や目標、理念、歴史、現状などの内容がバランスよく国際社会福祉の意義と展望を書くことが重要である。
・参考文献、引用文献を明確に示すこと。

第2課題の留意点

・レポートの評価基準を参考にして、レポートを作成すること。
・日本は、国際社会福祉の発展にどのように貢献しているのか、その現状と課題、そして、今後の方向性等について、テキスト第5章の内容を吟味し、まとめること。
・参考文献、引用文献を明確に示すこと。

レポートの評価基準

1．不合格となる場合は以下のとおり。
①テキストと下記参考文献以外の文献を参考にして作成したレポートは、内容を問わず、不合格になる。
②自らの経験、自説に基づいて作成したレポートは、不合格になる。
③指定文字数（2,000字程度）に足りない場合（9割以下）は、不合格になる。
④例示文が全体の1/5を超えると、不合格になる可能性があるので、できる限り概念を説明する際には、例を取り上げないようにすること。

2．評価項目と割合
①テキストをきちんと読み、課題の意図を理解したうえで、留意点で示した内容が正確かつ適切に説明されているか　70%
②序論－本論－結論（はじめに－本文－おわりに）の3段階構成、あるいは起承転結の4段階構成で作成しているか　5％
③参考文献はもちろん、引用した場合、注を付けて引用箇所を明示しているか　5％
④誤字脱字はないか　5％
⑤文体は一致しているか　5％
⑥書き出し、段落が適切につけられているか　5％
⑦主語と述語、接続語、句読点、修飾語等が適切に使われているか　5％

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・必ずテキストを参考にして、専門用語を正確に理解し、書くこと。
・自分の考え、経験、自説等を記入しても評価しないので、書かないこと。
・設題と関係のない内容をいくら書いても評価しないので、書かないこと。
・何かを説明する際、それに関わる内容もすべて述べること。
・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明すること。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨とそれに関わるテキストの内容を十分理解したうえで、正確かつ適切に説明ができているかどうか。
・関連専門用語が適切かつ正確に書かれているかどうか。
・テキストの内容と一致しているかどうかを中心に評価する。
・内容は、箇条書きではなく、文章として論理的に記述されているかどうか。

参考文献

・川村匡由　『国際社会福祉論』　ミネルヴァ書房
・田中宏　『在日外国人　法の壁、心の溝』　岩波書店
・安田浩一　『ルポ　差別と貧困の外国人労働者』　光文社
・高賛侑　『ルポ　在日外国人』　集英社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30066	科目名[単位数/学習時間]	医療福祉論［2単位／90時間］	科目担当	未定（「親和通信」で連絡）
テキスト	●小西加保留　田中千枝子『よくわかる医療福祉　保健医療ソーシャルワーク　やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ』ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623055746	本体価格(円)（2022年1月現在）	2,500	生協テキストNo.	22172

科目の目的

本科目では、医療福祉の概念や医療領域におけるソーシャルワークの役割等について学ぶことにより、疾病や障がいを抱える当事者や家族に対する支援の重要性について理解する。

到達目標

本科目は、医療領域におけるソーシャルワーク支援の重要性について学ぶものである。テキストに基づいて、具体的な学習内容をあげると以下のとおりとなる。

①医療福祉の概念・概要を理解する、②医療福祉を取り巻く環境を理解する、③医療ソーシャルワーカーの歴史を理解する、④患者と家族を理解する、⑤医療現場におけるソーシャルワークの倫理を理解する、⑥病院の機能と組織における業務展開を理解する、⑦医療福祉と連携・チームワークを理解する、⑧医療ソーシャルワークの視点と援助過程を理解する。

学習テーマ

1	医療福祉の基礎概念【学習のポイント：社会福祉、ソーシャルワーク、医療福祉の概念について整理し、理解をする。＜テキスト第1章＞】
2	医療福祉を取り巻く背景【学習のポイント：医学と医療の変遷、医療制度（日本、諸外国）、医療政策について具体的に理解する。＜テキスト第2章＞】
3	医療ソーシャルワーカーの歴史【学習のポイント：アメリカ、イギリス、日本における医療ソーシャルワーカーの歴史を具体的に理解する。＜テキスト第3章＞】
4	患者と家族の理解【学習のポイント：医療ソーシャルワーカーの支援の対象である患者とその家族について、心理や支援とは、関わり等を理解する。＜テキスト第4章＞】
5	医療現場におけるソーシャルワークの倫理【学習のポイント：ソーシャルワークの倫理について、総論、小児医療、神経難病、終末期医療等の具体的な例から理解する。＜テキスト第5章＞】
6	病院の機能と組織における業務展開【学習のポイント：医療機関の種別を法令等から具体的に理解する。＜テキスト第6章＞】
7	医療福祉と連携・チームワーク【学習のポイント：今後ますます重要になる多職種連携やチーム医療について理解する。＜テキスト第7章＞】
8	医療ソーシャルワークの視点と援助①　総論、医療保障、HIV患者【学習のポイント：具体的な援助過程等の総論と医療保障、HIV感染症から理解する。＜テキスト第8章1・2・3＞】
9	医療ソーシャルワークの視点と援助②　女性、がん医療、リハビリテーション【学習のポイント：具体的な援助過程について、女性、がん医療、リハビリテーションから理解する。＜テキスト第8章4・5・6＞】
10	医療ソーシャルワークの視点と援助③　認知症、高齢者、小児【学習のポイント：具体的な援助過程を認知症、高齢者、小児について、理解する。＜テキスト第8章7・8・9＞】
11	医療福祉に関わる医療保障制度①　医療法、保健医療従事者【学習のポイント：医療保障制度について、病院等の医療機関や医療供給体制を規定している医療法と医療に関わる医療従事者について理解する。＜テキスト第9章1・2＞】
12	医療福祉に関わる医療保障制度②　医療保険制度と診療報酬制度【学習のポイント：我が国の医療保険制度と診療報酬制度について理解する。＜テキスト第9章3＞】
13	医療福祉に関わる医療保障制度③　社会保険及び社会福祉各法と医療福祉【学習のポイント：社会保険と社会福祉の法律を理解し、医療福祉との関連を学ぶ。＜テキスト第9章4＞】
14	医療福祉の今後の課題①医療の変遷と医療福祉の今後、直接的支援とその対応、組織と地域における課題、マクロな課題とその対応【学習のポイント：医療福祉の今後の課題を具体的に理解する。＜テキスト第10章1・2・3・4＞】
15	医療福祉の今後の課題②医療ソーシャルワーカーとしてのアドボカシー、医療ソーシャルワーカー業務指針【学習のポイント：医療ソーシャルワーカーのアドボカシーを理解する。資料にある医療ソーシャルワーカー業務指針からどのような業務を行うかを理解する。＜テキスト第10章4、資料＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

医療ソーシャルワーカーの役割と課題について、具体的に述べなさい。

第2課題

医療ソーシャルワーカーの具体的業務について、教科書等の具体的な例を入れて述べなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

例えば、参考文献『困ってるひと』を読んで、患者としての立場だけではなく、その人が社会の中で置かれている環境についても理解し、役割と課題について考える。（テキスト第 4 章、参考文献『国民の福祉と介護の動向』、新聞記事などを参照。）

第 2 課題の留意点

地域包括ケアや地域共生社会等の状況を新聞記事や雑誌を参考として、患者や家族がおかれている状況を考えたうえで、保健・医療・福祉の連携による医療ソーシャルワーカーの具体的業務について考える。（テキスト第 7 章、参考文献『厚生労働白書』、参考文献『国民の福祉と介護の動向』、新聞記事などを参照。）

レポートの評価基準

・テキストだけではなく、様々な文献を参考にして適切に記述がなされていること。
・単に法律の条文や事実関係を羅列するのではなく、歴史や新たな状況などについても丁寧に論述していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを精読して、理解を深めること。そして、設題の趣旨を正確に把握するように努めること。

科目修了試験の評価基準

・テキストだけではなく、様々な文献も読んでいることが表われるような解答であること。
・単に法律の条文や事実関係を羅列するのではなく、歴史や新たな状況なども含めて丁寧に論述していること。

参考文献

・日本医療社会事業協会 『保健医療ソーシャルワーク原論』 相川書房
・大谷昭 『医療ソーシャルワーク実践50例 典型的実践事例で学ぶ医療福祉』 川島書店
・大野更紗 『困ってるひと』 ポプラ社
・厚生労働統計協会 『国民の福祉と介護の動向（最新版）』 厚生労働統計協会
・厚生労働省HP 『厚生労働白書（最新版）』

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30067	科目名［単位数／学習時間］	海外の福祉［1単位／45時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●川村匡由　『国際社会福祉論』　ミネルヴァ書房				
ISBN	9784623039470	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,600	生協テキストNo.	22173
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

諸外国における社会福祉の歴史的展開や現在までの動向を把握しつつ、社会福祉の理念や仕組み、関連する施設や専門職、さらには各制度成立に至るまでの文化的背景および人権思想などについても広く学ぶ。また、日本の社会福祉との相違点にも留意し、比較検討することを通して、国際社会の一員としての視点を養う。実務経験を活かして教授する。

到達目標

諸外国における社会福祉の歴史的展開を、時代思潮や多様なニーズとともに時系列に沿って理解し、それぞれの国の福祉の特徴を政策的観点から把握する。そのうえで独自の意見や考えを持ち、それを他者に対していかに日本の福祉にいかせるかを意識しつつ、自分なりの根拠に基づいた論理的な文章作りを心がける。

学習テーマ

1	スウェーデンの社会福祉の特徴【学習のポイント：社会サービス法、保健医療について理解する。】
2	スウェーデンのエーデル改革について【学習のポイント：地方分権化、制度の統合について理解する。】
3	イギリス社会福祉の歴史【学習のポイント：救貧法、新救貧法など、政策展開を理解する。】
4	イギリス多元主義（民営化）、コミュニティケア等の動向について【学習のポイント：小さな政府における社会サービスの供給について理解する。】
5	イギリス福祉政策について【学習のポイント：福祉から就労への動向を理解する。】
6	アメリカ民主主義（デモクラシー）をとおしての社会福祉について【学習のポイント：歴史的経緯をとおして理解する。】
7	1990年代以降のアメリカ社会福祉について【学習ポイント：ワークフェア、医療制度の背景、目的を併せて理解する。】
8	アメリカのデモクラシーの到達点と限界について【学習ポイント：「機会の平等」を基軸とするアメリカデモクラシーの限界について理解し、今後のアメリカ社会福祉の展望と課題について考察する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

スウェーデン、アメリカ、イギリスから一つの国を選び、その国の社会福祉の特徴について説明しなさい。考察の最後に、理解した内容が、どのように自身の日頃の考えや活動に役立つか、記しなさい。

第1課題の留意点

各国ごとに社会福祉の定義、あり方には違いがみられる。いずれの国においても、生活を支える社会福祉は重要であり、具体的な国情の特徴を踏まえて学び理解すること。

レポートの評価基準

・テキストで関心を持った内容について、紹介や要約ができているか。
・自身が関心を持った内容について、その理由が述べられているか。
・主張したい部分がはっきりとしているか。
・結論部分がまとめや提案といった形で明瞭に締めくくられているか。
・誤字脱字がないように見直しがなされているか。
以上を中心に評価の対象とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストをよく読み、アメリカ、イギリスの社会福祉について、歴史的変遷、社会保障や貧困対策、家族政策、コミュニティケアをはじめとする地域福祉政策や制度の特徴を理解し、要点をまとめておくこと。
設題に対する自身の主張を明瞭かつ論理的に展開すること。
テキストの内容を丸暗記するのではなく、自らの関心と絡めて熟慮し、理解したうえで臨むこと。

科目修了試験の評価基準

・テキストで関心を持った内容について、紹介や要約ができているか。
・自身が関心を持った内容について、その理由が述べられているか。
・主張したい部分がはっきりとしているか。
・結論部分がまとめや提案といった形で明瞭に締めくくられているか。
・誤字脱字がないように見直しがなされているか。
・オリジナルな文章になっているか。
以上を中心に評価の対象とする。

参考文献

・松村祥子 『欧米の社会福祉の歴史と展望』 放送大学教育振興会
・小竹洋之 『迷走する超大国アメリカ（日経プレミアシリーズ）』 日本経済新聞出版

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30068	科目名[単位数／学習時間]	生涯スポーツ学習論［2単位／90時間］	科目担当	中瀬古　哲
テキスト	●日下裕弘　加納弘二『生涯スポーツの理論と実際　豊かなスポーツライフを実現するために　改訂版』大修館書店				
ISBN	9784469266986	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,300	生協テキストNo.	22174

科目の目的

今日、スポーツは、生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠な、全ての人々の権利であると考えられている。スポーツ抜きに福祉の充実を語ることはできない。我が国においても、その権利を保障する、「生涯スポーツ学習社会」構築に向けて模索が展開されている。本科目は、「生涯スポーツ」の理念並びにそれを実現するための諸課題について、ライフステージをふまえて考察することを目的とする。

到達目標

・「生涯スポーツ」概念が、人間本来の姿・生活・生き方を問いつつ、現代社会における人間疎外の状況に警鐘を鳴らし、その克服を視野に入れた、総合的・福祉的なものであることを理解する。
・我が国の、「生涯スポーツ学習社会」の現状と課題について、「子ども」「青年」「成人」「高齢者」の4つのライフステージ毎に理解を深める。
・ライフステージ毎の「生涯スポーツ」の考察を通して、「福祉サービス」「コミュニティ」「地域社会」の意味を問い直し、そこでの課題を把握する。

学習テーマ

1	生涯スポーツの概念について【学習のポイント：ライフステージの考え方とライフステージ毎の課題を理解する。＜テキストpp. 2 -15＞】
2	我が国のスポーツ振興施策について【学習のポイント：我が国のスポーツ振興施策に関わる取り組みについての理解を深める。＜テキストpp.16-28＞】
3	子どもにとってのスポーツの意味について【学習のポイント：遊びについての理論について理解するとともに遊びの観点からスポーツの意味を掘り下げる。＜テキストpp.30-55＞】
4	子どもの自然遊び・外遊びについて【学習のポイント：実際の遊びについての理解を深める。＜テキストpp.55-66＞】
5	子どもに遊びを保障する手立てについて【学習のポイント：「3つの間」と「3つの場」を保障することの意義と手立てについて理解する。＜テキストpp.67-100＞】
6	青年期の発達課題とスポーツの関係について【学習ポイント：若者にとってのスポーツの現状と課題について理解する。＜テキストpp.102-108＞】
7	スポーツ概念について【学習のポイント：スポーツの本質規定に関わる諸理論を理解する。＜テキストpp.109-123＞】
8	青年期のスポーツについて【学習のポイント：球技スポーツの歴史とアスリートの事例を通して、青年期のスポーツの実際と指導の課題について理解する。＜テキストpp.120-150＞】
9	レジャー概念について【学習のポイント：人間の生活におけるレジャーの意義を理解する。＜テキストpp.156-159＞】
10	コミュニティ概念について【学習のポイント：コミュニティという観点から地域づくりの課題を理解する。＜テキストpp.159-164＞】
11	総合型地域スポーツクラブについて①【学習のポイント：地域スポーツの新しい形としての総合型地域スポーツクラブの特徴と課題について理解する。＜テキストpp.152-155並びにpp.164-171＞】
12	総合型地域スポーツクラブについて②【学習のポイント：実践事例を通して総合型地域スポーツクラブの特徴と課題について理解を深める。＜テキストpp.177-184＞】
13	成人期のレジャースポーツについて【学習のポイント：諸外国の先進事例を通してレジャースポーツの実際について理解する。＜テキストpp.172-176＞】
14	地域スポーツの現状と課題【学習のポイント：スポーツプロモーションという観点から新しいスポーツ価値の創造について理解する。＜テキストpp.185-193＞】
15	高齢者のスポーツについて【学習のポイント：QOLとスポーツの関係とそれをふまえたスポーツの在り様について理解する。＜テキストpp.196-246＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

「子ども」「青年」「成人」「高齢者」、それぞれのステージの発達課題と生涯スポーツ実践のあり方について整理し、そこでの実践的課題を指摘するとともに、課題解決に向けての自身の見解を述べなさい。

第2課題

我が国の「生涯スポーツ」振興政策の特徴を整理し、そこでの実践的課題を指摘するとともに、課題解決に向けての自身の見解を述べなさい。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

ステージごとの発達課題と実践のあり方の整理においては、テキストに出てくるキーワードを正確に理解しそれをふまえて論述する。実践的課題・解決策の指摘・提起においては、自身の体験や関連する時事問題等もふまえて、主体的・具体的に述べる。その他の文献や資料を参考にした場合は、必ずその出典を明示すること。

第 2 課題の留意点

整理においては、我が国のスポーツ振興政策の流れ、背景にある理念や実践、取り組みを阻害する要因、についてテキストをふまえて述べる。実践的課題・解決策の指摘・提起においては、自身の体験や関連する時事問題等もふまえて、主体的・具体的に述べる。その他の文献・情報を参考にした場合は、必ずその出典を明示すること。

レポートの評価基準

テキストから学んだ内容を、十分咀嚼し、自身の考えをわかりやすく述べているかどうかを重視し評価する。次の 4 点を評価基準とする。

・テキストにおける重要なキーワードを適切に使用している。
・自身の体験、時事問題等、テキスト以外の情報・資料を、加味して論述している。
・テキストや他の参考文献をふまえつつ、自身の主張・見解が明記されている。
・論理展開に一貫性があり、丁寧な表現でわかりやすい。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストで扱われたテーマから出題する。解答に当たっては、テキスト内のキーワードを用いて、現状の問題点や実践変革の展望・見通し・課題について、論述する。キーワードの羅列・解説、或いは、自身の経験や主張の列挙ではなく、両者の往還の過程を論理的に記述する。

科目修了試験の評価基準

テキストから学んだ内容を、十分咀嚼し、自身の考えをわかりやすく述べているかどうかを重視し評価する。次の 4 点を評価基準とする。

・テキストにおける重要なキーワードを適切に使用している。
・自身の体験、時事問題等、テキスト以外の情報・資料を、加味して論述している。
・テキストや他の参考文献をふまえつつ、自身の主張・見解が明記されている。
・論理展開に一貫性があり、丁寧な表現でわかりやすい。

参考文献

・日本レクリエーション協会HP 『ライフステージに応じたスポーツ活動推進のための調査研究』
https://recreation.or.jp/activities/survey/lifeatage/
・文部科学省HP 『スポーツ基本法』 https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kihonhou/index.htm
・文部科学省HP 『スポーツ立国戦略』 https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/rikkoku/1297182.htm
・文部科学省HP 『総合型地域スポーツクラブ』
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/club/index.htm
・井上俊　亀山佳明 『スポーツ文化を学ぶ人のために』 世界思想社
・西尾達雄 『生涯スポーツの時代　スポーツの現代的認識と国民スポーツの課題』 時潮社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30069	科目名[単位数/学習時間]	子どもの食と栄養［2単位／90時間］	科目担当	廣田　有加里
テキスト	●太田百合子　堤ちはる　『子どもの食と栄養　保育現場で活かせる食の基本　第2版』　羊土社				
ISBN	9784758109116	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,400	生協テキストNo.	22112
実務経験のある教員による科目	管理栄養士（企業、福祉、医療分野での健康管理業務）				

科目の目的

乳幼児期の食と栄養は、豊かな人間性を育て、生きる力を育み、発達を支え、健康な身体をつくる基礎であることを理解する。栄養に関する基礎知識をもとに、乳児期、幼児期、学童期の各々の子どもの発育・発達、疾患等での対応食に関して理解し、健全な発育・発達を促すため必要な事柄を栄養・食生活面から学ぶ。また、食育の進め方や食育を推進するための取り組みについての知識を習得し、さらに家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食生活全般への働きかけや栄養教育等を学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・親の生活習慣に影響を受ける子どもの食生活の現状を把握し、認識することで課題を探りだすことができる。
・子どもの食と栄養の特性を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた適切な食生活について説明できる。
・乳児期では、離乳の意義と実践の方法について、具体的に指導ができるようになる。
・幼児期の生活習慣はその後にも影響を及ぼすことから食生活上の問題を理解し、対策を講じることができる。
・学童期の学校給食の役割と現状について理解し、食育ができるようになる。
・食育の基本とその必要性や取り組みについて、地域社会・文化との関わりの中で理解し実践できる。
・特別な配慮を要する子どもへの適切な対応方法を案出し、実行に移すことができる。

学習テーマ

1	子どもの健康と食生活の意義【学習のポイント：子どもの健全育成のための食生活について理解する。】
2	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能①【学習のポイント：糖質、脂質、たんぱく質の特徴と働きについて理解する。】
3	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能②【学習のポイント：ミネラル、ビタミンの特徴と働き、エネルギー代謝について理解する。】
4	栄養に関する制度【学習のポイント：日本人の食事摂取基準（2020年版）の策定の目的とその活用方法と献立作成・調理の基本を理解する。】
5	妊娠期と授乳期の特徴と食生活【学習のポイント：妊娠前からの食生活の重要性と妊娠期・授乳期の栄養素の過不足および嗜好品の問題について理解する。】
6	乳児期の心身の特徴と食生活の関係【学習のポイント：乳児期の食べる機能と乳汁栄養の方法について理解する。】
7	離乳の意義とその実践【学習のポイント：離乳の必要性を理解し、発達に応じた進め方を理解する。】
8	幼児期の心身の発達と食生活【学習のポイント：幼児期特有の食行動を理解し、この時期に獲得した咀嚼の習慣はその後にも影響を及ぼすことを理解する。】
9	学童期・思春期の心身の発達と食生活【学習のポイント：学童期・思春期の心身の特徴と発達および食生活上の問題への対応について理解する。】
10	成人期・高齢期の健康上の課題と対策【学習のポイント：成人期および高齢期の生活習慣病とその対策について理解する。】
11	食育における養護と教育の一体性、食育の内容と計画及び評価【学習のポイント：保育所保育における養護と教育が一体となって実践する食育について理解する。】
12	食育のための環境、地域の関係機関や職員間の連携、食生活指導及び食を通した保護者への支援【学習のポイント：子どもが食に関する豊かな体験ができるように幅広い関係者と積極的に連携をもつ必要性を理解する。】
13	家庭および児童福祉施設における食事と栄養【学習のポイント：生活環境別に食生活の実態と問題点を理解する。】
14	体調不良、疾患の子どもおよび障害のある子どもへの対応【学習のポイント：子どもに多い疾病の特徴および障害の種類、特徴に対応した食生活について理解する。】
15	食物アレルギーのある子どもの食と栄養【学習のポイント：食物アレルギーのある子どもへの対応と保護者への対応と食事提供の配慮について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

妊娠期および授乳期の栄養と食生活の留意点について述べよ。

第2課題

保育における食育の意義と基本的な考え方について述べよ。

各課題の留意点

第 1 課題の留意点

妊娠期の栄養は、胎児の生涯を決定づける非常に重要なものである。受胎前後から妊娠中の栄養の摂り方によっては、将来の生活習慣病発症との関連性が報告されている。保育者は、出生後の子どもとかかわることになるが、乳児が健やかに成長するためには、妊娠期（胎児期）および授乳期の適切な栄養が不可欠であると認識する必要があることを理解する。テキスト第 4 ～ 5 章、他の参考文献から理解を深め論理的に記述する。レポートのまとめとして、学んだことを自分なりの視点を持って課題を考察する。

第 2 課題の留意点

保育の基本となる目標と内容を実際に保育の場で具体化するには、2018年に改訂された「保育所保育指針」および2021年から2025年度までの 5 年間を対象とする第 4 次食育推進基本計画が定められている。食育を進めるためには、子どもを取り巻く環境や、発達状況、食をめぐる実態を把握し、課題を明らかにすることが重要である。成長期の子どもに対する食育は、生涯にわたり食を営む力を育むことができるよう、連続性をもった取組みの必要性を理解する。テキスト第 9 ～10章、他の参考文献から理解を深め論理的に記述する。レポートのまとめとして、学んだことを自分なりの視点を持って課題を考察する。

レポートの評価基準

・レポートの基本的な構成（序論、本論、結論）に沿って記述している。
・レポートの課題を理解した上で、論理的に、わかりやすく展開されている。
・専門用語の意味などについて、正確に理解し、科学的根拠に基づいて記述している。
・引用・出典が明示され、引用した部分については、「 」でくくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年・引用ページ（引用の場合）を挙げて明示している。
・インターネットで入手した資料を引用・参照する場合は、作成者名、情報源、データベース名、入手先URL、入手日付を明示している。ただし、官公庁および学会の公式サイトに限り認める。
・論文については、著者名、“論文のタイトル”、雑誌名、出版年、巻号、ページの範囲を明示している。
・読み手を意識して丁寧に作成する。また、誤字・脱字がなく、適切な語彙を用いている。
以上の項目について概ね述べられていればC以上（合格）の評価とする。
※「まる写し」、「引き写し」、「コピペ」は盗作であり、犯罪である。レポートを作成する上で、もっとも許されない重大なルール違反である点をよく理解しておくこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・栄養素の生理作用、栄養素の消化・吸収・代謝に関する基本的知識について理解を深めておく。（テキスト第 2 章 pp.22-35）
・日本人の食事摂取基準および食事バランスガイドを活用した栄養バランスを考えた食事の摂り方について理解をしておく。（テキスト第 3 章pp.36-47、参考文献『日本人の食事摂取基準（2020年版）』、『食事バランスガイドと従来の分類法との関連性』）
・幼児期から思春期までの食生活の実態と栄養問題について理解し、対策を考える。（テキスト第 6 ～ 7 章pp.76-105、参考文献『平成27年度乳幼児栄養調査結果』、『食育ガイド』）
・次世代へ命をつなぐ成人期における健康上の課題である生活習慣病を理解し、その具体的な対策について理解しておく。（テキスト第 8 章pp.106-116）
・児童福祉施設での食事の提供は、施設の種類によりそれぞれ特性をもつが、入所児童が発育期にあり、また家庭に代わる場として長時間施設で過ごすことから、多職種の連携が重要であることを理解しておく。（テキスト第 9 ～10章 pp.117-143）
・障がいのある子どもの特徴と考慮すべき食生活の留意点と対応について理解を深めておく。（テキスト第11章pp.144-160）
・答案作成に当たっては、設題の「理解度」と「表現力」を評価するため、趣旨に沿った適確な記述を心掛ける。
キーワード：栄養素、児童福祉施設、食事摂取基準、献立作成、偏食、食育、特別な配慮

科目修了試験の評価基準

・設題内容の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確な説明と論理的に記述できているかを中心に評価する。
・解答用紙表面の 3 / 4 以上に記述があることを前提として評価する。
・その他設題に関連する記載があれば内容により考慮する。
・字は読みやすく、丁寧に書き、誤字・脱字がなく、適切な語彙を用いている。
以上の項目について概ね述べられていれば60点～100点（合格）の範囲で評価する。

参考文献

・森脇千夏 『イラスト子どもの食と栄養』 東京教学社
・飯塚美和子 『子どもの食と栄養 食生活の基礎を築くために』 学建書院
・上田玲子 『子どもの食生活』 ななみ書房
・堤ちはる 土井正子 『子育て・子育ちを支援する 子どもの食と栄養』 萌文書林
・厚生労働省 『日本人の食事摂取基準（2020年版）』https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/000586553.pdf
・厚生労働省 『授乳・離乳の支援ガイド2019年 改定版』https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.html
・厚生労働省 『平成27年度乳幼児栄養調査結果』http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html
・厚生労働省 『令和元年「国民健康・栄養調査」の結果』https://www.mhlw.go.jp/content/000711005.pdf
・農林水産省 『健全な食生活の実現』https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/nozomasiisyokuseikatu.html
・農林水産省 『食事バランスガイドと従来の分類法との関連性』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/zissen_navi/balance/guide.html
・農林水産省 『食育ガイド』 https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/guide/pdf/00_jp_guide.pdf
・農林水産省 『第 4 次食育推進基本計画』 https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/hyoji/210331_35.html
・農林水産省 『ライフステージ別の現状と取組』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/wpaper/h30/h30_h/book/part1/chap1/b1_c1_1_03.html
※官公庁のWebサイトのみ可。参考文献および引用文献の記載のない健康雑誌や企業等のWebサイトは不可。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30070	科目名[単位数/学習時間]	子どもの保健［2単位／90時間］	科目担当	松井　学洋
テキスト	●服部右子　大森正英　『図解　子どもの保健Ⅰ　第2版』　みらい				
ISBN	9784860154066	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,200	生協テキストNo.	22111
実務経験のある教員による科目	特別支援学校養護教諭・看護師、医療福祉センター看護師				

科目の目的

子どもの心身の健全な成長には、その健康の保持及び増進が必要である。本科目では、小児の発育・発達、形態機能、運動機能、精神機能、社会認知機能の発達を学習し、子どもの生活行動と関連させながら健康の保持・増進に必要な知識を学ぶ。また、子どもによく見られる疾患・事故の予防に必要な知識を学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

本科目の到達目標は次の通りである。
①子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。②子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。③子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。④子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。⑤保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。⑥施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制を理解する。

学習テーマ

1	子どもの保健の意義と目的について
2	子どもの発育・発達と保健について①（発育）
3	子どもの発育・発達と保健について②（生理機能）
4	子どもの発育・発達と保健について③（運動機能、精神機能）
5	子どもを取り巻く生活環境と心身の保健について
6	子どもの生活習慣と健康について①（食事、排泄）
7	子どもの生活習慣と健康について②（睡眠、清潔、更衣）
8	子どもの精神（こころ）の保健について
9	子どもの栄養について
10	子どもによくみられる症状とその対処法について
11	事故と安全指導及び応急処置について
12	子どもの病気・異常とその予防について①（先天性疾患、新生児の病気）
13	子どもの病気・異常とその予防について②（子どもの病気）
14	子どもの病気・異常とその予防について③（病気の予防）
15	母子保健行政について

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子どもの身体発育、生理機能、運動機能、精神機能の発達についてまとめなさい。

第2課題

子どもの生活習慣の特徴と健康的な生活習慣形成にかかわる支援についてまとめなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

子どもの発育と発達の意味を理解した上で、身体発育及び、生理機能、運動機能、精神機能の発達を説明し、支援の視点も含めて考察する。

第2課題の留意点

子どもの食事、排泄、睡眠、清潔、更衣などの基本的な生活習慣の特徴を説明し、健康的な生活習慣形成への支援のあり方を考察する。

レポートの評価基準

テキストから学んだ内容を踏まえて、課題に対する自分自身の考察が論述できているかを確認する。また、誤字脱字の有無、漢字の使用、他人が読むことを意識して丁寧に作成できているかも評価基準とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全ページが試験範囲であり、テキスト内容に準じた試験を行う。そのため、テキストをよく読み、内容理解に努めること。子どもの保健の範囲は広いため、子どもの発育・発達、感染症とその対策、様々な疾患、事故の予防と安全管理、子育て支援体制等、幅広く知識を身につけること。

科目修了試験の評価基準

テキストの内容を踏まえずに、自らの経験や自説を記述しても評価しない。設題内容を正確に理解し、テキスト学習によって得た知識を説明した上で、自身の考察を取り入れた答案が作成できているかを評価する。また、解答用紙表面の2/3以上の記述があることを前提に評価を行う。

参考文献

・遠藤郁夫　三宅捷太　『子どもの保健』　学建書院
・八木利津子　平松恵子　新沼正子　『子どもの保健』　青踏社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30072	科目名［単位数／学習時間］	養護児童援助論［2単位／90時間］	科目担当	菊池　信子
テキスト	●吉田眞理　『児童の福祉を支える＜演習＞社会的養護Ⅱ』　萌文書林				
ISBN	9784893473257	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	22126
実務経験のある教員による科目	家事調停委員				

科目の目的

様々な事情で保護者のない児童や、保護者に監護させることが適当でない子どもがいる。こうした子どもには公的責任で社会的な連携のもとで養育し、保護するとともに、養育に大きな困難を抱える家庭への社会的な支援を行うことが必要である。それは、「子どもの最善の利益のために」と「社会全体で子どもを育む」ことを理念としているからである。要保護児童に対する支援を歴史的展開の中で捉え、法制度を理解することが重要である。また、児童福祉施設等における援助や権利擁護の問題等を学び、併せて、養育・自立支援のためのあり方や社会的養護の援助技術等についても学んでいく。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・社会的養護における支援者の資質と倫理とは何かについて理解する。
・子どもと家庭をとりまく現状と権利擁護の問題について理解する。
・社会的養護の法制度と自立支援施策について理解する。
・社会的養護の基本的な養育と自立支援のあり方及び方法について理解する。
・演習としての事例検討の理解と自立支援計画を作成することができるようになる。

学習テーマ

1	社会的養護における子ども理解と支援の基本・「児童の権利に関する条約」＜テキスト第1章＞
2	社会的養護における保育士等の専門性 ＜テキスト第1章＞
3	社会的養護における支援者としての資質と倫理 ＜テキスト第1章＞
4	子どもの権利擁護と児童自立支援計画の作成 ＜テキスト第1章＞
5	子どもの権利擁護、子どもの養育・事例検討 ＜テキスト第1章＞
6	社会的養護の実際・児童養護の体系と児童福祉施設の概要 ＜テキスト第2章＞
7	施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際＜テキスト第2章＞
8	保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践 ＜テキスト第3章＞
9	社会的養護における保育士の業務 ＜テキスト第3章＞
10	親子関係の調整 ＜テキスト第3章＞
11	地域連携と家庭支援＜テキスト第4章＞
12	施設の小規模化・地域分散化 ＜テキスト第4章＞
13	グループホームにおける個別ケア・事例検討 ＜テキスト第4章＞
14	地域住民と施設の関係 ＜テキスト第4章＞
15	地域と入所児童のかかわり・事例検討＜テキスト第4章＞

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

社会的養護における保育士等の専門性について、記述しなさい。

第2課題

施設入所児に対するリービングケアに関し、定義、方法について記述しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章Ⅱを中心に、施設保育士として必要とされる、資質と倫理、バーンアウトや共依存の予防、人間性の醸成、ノーマライゼーションについて整理し、記述しなさい。考察の最後に、自身の日頃の活動（仕事・活動・生活場面）に照らして、どのように活かされるか記述する。

第2課題の留意点

テキスト第3章Ⅲを中心に、自立支援、自立生活技術（ソーシャルスキル）をキイワードに、基本的な考え方、方法について学びを整理し、記述しなさい。また、その内容について、考察の最後に自身の日頃の活動（仕事・活動・生活場面）に照らして、どのように活かされるか記述する。

レポートの評価基準

・テキスト以外にも最新のデータを報道や白書などから引用していること。
・まとめ（結論）は、「個人的な感想」であってはならない。
・すべての課題に共通であるように、２,000字程度という枠を守ること。
・引用箇所を明確に示すこと。テキストであっても、引用元の出典を明示していないレポートは不可とする。
・文末に「参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。それらは、本文（２,000字程度）の文字数には含まれない。
・日本語の文法に適う文章であること。
・「課題の留意点」に注意し、理論的な論旨の組み立てができているかを重点的に考査して評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを熟読し、十分理解を深めておくことが大切である。改正された「児童福祉法」の理念について理解できているか確認が必要である。また、社会的養護の各施設の概要、社会的養護に携わる各専門職の概要、里親を含めた家庭養護の概要、子どもおよび家族が抱える問題、施設における子どもの権利擁護について理解を深めておくことが必要である。

科目修了試験の評価基準

・「児童の権利に関する条約」の意義、特に「子どもの最善の利益を護る」「意見表明権」が社会的養護の基盤にあることを理解することが重要である。
・「児童の権利に関する条約」と、改正された「児童福祉法」の理念について理解する。
・社会的養護と児童福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。
・社会的養護の制度や実施体系、施設養護および家庭養護の体系について理解する。
・児童自立支援計画作成におけるアセスメントの重要性について理解する。
・社会的養護に関わる地域の資源、住民との連携について理解する。
・施設の職員による児童へのケアは、エンパワーメントアプローチによる実践が行われる。エンパワーメントおよびアドボカシーについて理解する。

以上の点について、テキストの学習を十分にしておくことが大切である。

参考文献

・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領　幼稚園教育要領　保育所保育指針＜原本＞（平成29年告示）』　チャイルド本社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	30077	科目名[単位数/学習時間]	社会福祉学特殊講義C(福祉とボランティア)[2単位/90時間]	科目担当	未定(「親和通信」で連絡)
テキスト	●内海成治　中村安秀　『新ボランティア学のすすめ　支援する/されるフィールドで何を学ぶか』　昭和堂				
ISBN	9784812214183	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,400	生協テキストNo.	22176

科目の目的

現代社会でのボランティアに焦点をあて、社会福祉の視点を広めるために学習を進める。そして、幅広くボランティアへの正しい知識や価値観を習得し、受講者自らのボランティア観を構築するとともに、相談援助や地域作りに活用できるきっかけとすることを目指す。

到達目標

テキストを中心に、ボランティアについて正しい知識や価値観を習得する。そのために、社会情勢に常に関心をもつ姿勢、自分自身のボランティア観を問い直し、育む姿勢を涵養する。さらに、受講生自身が経験したボランティア活動をさらに発展させるため、振り返りの機会をもちながら、今後の課題について考察する。

ボランティア活動の経験がない場合には、今後の取り組み等に活かすことができるよう、ボランティア活動を身近にとらえ、実践していくことができるような意識の涵養を目指す。

学習テーマ

1	ボランティアとは何か【ボランティアの条件を把握し、ボランティア全般について理解を深める。】
2	ボランティアの制度と政策【公私協同、民間非営利活動、特定非営利活動をキーワードに学習する。】
3	ボランティアからとらえる現代社会【ボランティアに対する社会学的研究の概要を把握する。】
4	ボランティアと教育【サービスラーニングの理解、学校教育とボランティア活動の関係性の把握。】
5	大学生とボランティア【大学生とボランティアとの特性を考察する。】
6	外国人とボランティア【わが国のボランティアと外国人とのつながりについて事例を通して学ぶ。】
7	障がい者とボランティア【障がい者とボランティアの関係性を理解し、考察する。】
8	平和運動とボランティア【ボランティア活動を歴史から学び、具体的活動から理解を深める。】
9	開発援助とボランティア【自立支援を理解し、自立支援を目指すボランティアについて考察する。】
10	途上国とボランティア【保健医療の視点から事例を通してボランティアの果たす役割を理解する。】
11	人道支援とボランティア【人道支援の意味を理解し、人道危機への支援を考察する。】
12	災害ボランティアの新たな課題【災害ボランティアの必要性と意義ならびに課題について考察する。】
13	ボランティアの相互扶助論【国境を越えたボランタリーな支援について理解する。】
14	ボランティア学はどう変わるのか【共存社会を目指し、自然災害や国際NPO等の理解を深める。】
15	まとめ【さまざまな視点から学びを深めたボランティアに対し、受講生自身が今後の課題を見出す。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

テキスト第1章「ボランティアとは何か」を参考にして、ボランティアに対するあなたのこれまでの考えに対する変化について、何がどう変化したのかを客観的に記しなさい。

第2課題

新型コロナウイルス感染拡大に伴う現代社会において、印象的であったボランティア活動について、概要と本課題に選んだ理由を述べなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

テキスト第1章を熟読し、「ボランティアとは何か」を検討した後、これまでのボランティアに対するあなたの意見の変化について客観的な文章を作成する。

第2課題の留意点

本課題に選んだボランティア活動に関する資料を提示し、テキストを参考にしながら、課題に選んだ理由をわかりやすく文章化する。

レポートの評価基準

・レポート作成の基本に則った文章構成であり、誤字脱字がないこと。
・文章の内容が正確であるだけでなく、課題の趣旨に合致したものであること。
・課題の内容を正しく理解して、レポート作成に取り組んでいること。
・テキストの転記ではなく、参考文献や関係資料を活用してレポート作成に取り組んでいること。
・引用文献、参考文献を適切に明示していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキストの熟読により正しい知識を習得し、設題の内容を正解に理解すること。
・論理的な文章で記されており、自分の意見を記す場合は、テキストの内容との関連性を明確に示すこと。
・自分自身の考えだけでは感想文になってしまうことが多いため、客観的視点に基づいた記述を徹底すること。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があること。

科目修了試験の評価基準

・テキストからの出題であるため、テキストで使用されている用語の正しい理解と記述であること。
・設題の内容を正しく理解して解答し、自分の意見を述べる場合には、テキストとの関連性が明確に示されていること。
・解答した文章の内容が正確であるだけでなく、課題の趣旨に合致したものであること。
・設題とは無関係の私的な文章が記されている解答は、減点の対象となる場合がある。

参考文献

常に現代社会の状況に関心を持つよう、新聞、文献、インターネット等を資料として推奨する。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

＜対象：科目等履修生＞

認定こども園法改正に伴う
幼稚園教諭免許状および保育士資格取得の
特例制度にかかる科目

認定こども園法改正に伴う特例制度により、幼稚園教諭免許状および保育士資格の取得を希望する科目等履修生を対象とした科目です。

正科生・課程正科生は該当しませんので、注意してください。

科目コード	20026	科目名［単位数／学習時間］	教職論［2単位／90時間］	科目担当	小坂　明
テキスト	●佐久間裕之　『教職概論　改訂版』　玉川大学出版部				
ISBN	9784472405952	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,200	生協テキストNo.	22050
実務経験のある教員による科目	公立小学校長				

科目の目的

「教職とは」について、教職の意義、教員の役割、職務内容、資質能力など、実際の教育事例に基づいて、その基礎的・基本的な理論を理解する。社会の急速な進歩や変化の中、教員へ求められる教員の資格、研修、学校経営など現状を教育関係法規や文部科学省の答申、メディアの資料を参考にしながら理解する。これを理解した上で、教職適性を絶えず確認しつつ、教職への意欲と責任感・使命感を高め、「求められる教員の資質能力」について考え、学び、将来は「魅力ある教員」としての基礎になるように、実践的指導力について習得する。

小学校での勤務経験を活かして教授する。

到達目標

・学校教育及び教職の社会的意義を学び、教職の魅力とその仕事を理解する。
・教員の職務内容や教育公務員としての服務上及び身分上の義務を理解する。
・社会情勢を知り、教育の動向を踏まえ、教員に求められる役割と資質能力を理解する。
・平成29年に公示された「小学校学習指導要領」及び「幼稚園教育要領」を理解する。
・学校が担う役割が拡大、多様化する中、専門職としての教員について理解する。

学習テーマ

1	教職の意義①　教職とは何か
2	教職の意義②　教員に求められるもの
3	教員の職務①　教員の身分
4	教員の職務②　教員の服務
5	教員養成　教員養成の歴史と現状
6	教員資格と教員の採用　教員免許状と教員採用試験
7	教員の資質能力　　求められる資質能力
8	教員の研修と評価　　意義と課題
9	専門職としての教職①　小学校学習指導要領
10	専門職としての教職②　幼稚園教育
11	専門職としての教職③　特別支援教育
12	専門職としての教職④　人権教育
13	専門職としての教職⑤　教科指導と教科外指導（ICTの活用を含む）
14	専門職としての教職⑥　生徒指導（道徳教育も含む）
15	教職をめぐる新たな諸課題

レポートについて

自筆に限る
ワープロソフト使用不可

第1課題

教員の服務とは何か。職務上の義務と身分上の義務についてもふれて説明せよ。

第2課題

「魅力ある教員」とはどんな教員か。教員の資質能力について考察し、論ぜよ。

各課題の留意点

第1課題の留意点

「公の性質」を持つ学校教員について、教員の服務は法令等でどのように規定されているか確認し、現状と課題について説明する。

第2課題の留意点

「いつの時代も教員に求められる資質能力」と「令和の日本型学校教育で求められる教師像」の2つの観点からとらえ、子どもや保護者が求める魅力ある教師像を自身の経験も踏まえて論じる。

レポートの評価基準

・常に「論文・レポートの書き方」を想起し、①序論、②本論、③結論が適切に構成されていること。
・題意を正しくとらえ、構成が明確で具体的かつ論理的に書かれていること。次に、事実・文献の引用なども適切であり、日本語としての表現、表記が的確でもあること。
・誤字脱字や原稿用紙の正しい使い方に気を付け、丁寧に書かれていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストの構成（目的）を参考にして、とりわけ、①教職の意義、②教員の職務、③教員養成、④学習指導要領、⑤教員の資質・能力を中心にまとめておくこと。また、参考文献の『小学校学習指導要領解説　総則編』、『幼稚園教育要領解説』『生徒指導提要』なども熟読しておく必要がある。さらに、学習指導要領の各教科、教科外の解説書などやその他の教育関係法規、文部科学省等の教育関係の答申も参考にすることも大切である。

科目修了試験の評価基準

・レポートの評価基準に準じる。
・題意を正しくとらえ、構成が明確で具体的かつ論理的に書かれていること。次に、事実・文献の引用などが適切であり、日本語としての表現、表記も的確であること。さらに、テキストや学習指導要領などを熟読しているか、教育関係法規や答申等についても触れているかを中心に評価する。題意に正対せず、自分の得意領域にすり替える等、経験や体験を羅列して論述しているような答案は、高く評価しない。
・誤字脱字に気を付け、丁寧に書かれていること。
・設題の内容を正しく理解し、具体的かつ論理的に記述でき、解答用紙表面すべてと裏面の 1 / 2 以上にわたる記述があることを前提として評価する。

参考文献

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　総則編＜平成29年 7 月＞』東洋館出版社
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・文部科学省　『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説＜平成30年 3 月＞』開隆堂
・文部科学省　『生徒指導提要（平成22年 3 月）』　教育図書
・文部科学省　『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（平成27年12月21日）』　中央教育審議会答申
・文部科学省　『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（平成28年12月21日）』中央教育審議会答申
・文部科学省　『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和 3 年 1 月26日）』　中央教育審議会答申
・法務省　『人権教育・啓発に関する基本計画』　平成14年 3 月15日閣議決定（策定）平成23年 4 月 1 日閣議決定（変更）
・金子邦秀　『新しい教職基礎論』　サンライズ出版
・今津孝次郎　『教師が育つ条件』　岩波新書
・文部科学省　『教育の情報化に関する手引（令和元年12月）』
・文部科学省　『教育の情報化に関する手引-追補版-（令和 2 年 6 月）』
・文部科学省　『GIGAスクール構想の実現へ』（リーフレット）

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20031	科目名［単位数／学習時間］	教育社会学［2単位／90時間］	科目担当	間渕　泰尚
テキスト	●陣内靖彦　穂坂明徳　木村敬子　『教育と社会　子ども・学校・教師』　学文社				
ISBN	9784762022579	本体価格（円）（2022年1月現在）	1,800	生協テキストNo.	22055

科目の目的

教育とは社会から見れば一つの制度であり、社会から大きな影響を受けている。ここでいう社会とは地域社会、日本社会および国際的な環境の全てを含んでいる。そうした大きな広がりを持った「社会」の中での教育の在り方や課題を理解するためには、各自が持っている教育への思い込みを相対化する教育社会学的な視点が不可欠である。また学校と地域との連携や、学校安全への対応についても取り扱う。これらの課題について、テキストや指定参考資料だけでなく、必要な資料を収集しレポート課題を作成することで理解を深める。

到達目標

現代の学校教育に関する社会的・制度的事項について基礎的な知識を身に付け、それらに関連する課題を理解するとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する基礎的知識を身につける。

学習テーマ

1	日本の家族と子どもの生活 ＜テキスト第1章＞
2	現代の子育てとその支援 ＜テキスト第2章＞
3	社会の変化と幼児教育 ＜テキスト第3章＞
4	日本の社会と学校①　戦前から戦後へ ＜テキスト第4章＞
5	日本の社会と学校②　戦後の教育改革 ＜テキスト第4章＞
6	カリキュラムと教科書 ＜テキスト第5章＞
7	学校生活の社会学①　学校と学級制度 ＜テキスト第6章＞
8	学校生活の社会学②　学校文化・隠れたカリキュラム ＜テキスト第6章＞
9	消費社会・情報社会と子ども文化①　消費社会と子ども ＜テキスト第7章＞
10	消費社会・情報社会と子ども文化②　子どもとネット社会 ＜テキスト第7章＞
11	日本の社会と教師①　教師のリーダーシップ ＜テキスト第8章＞
12	日本の社会と教師②　教員免許制度と教師の仕事 ＜テキスト第8章＞
13	世界、アジア、日本の教育改革 ＜テキスト第9章＞
14	地域と学校の連携 ＜参考文献：資料①　文部科学省（中教審第186号）＞
15	学校安全への対応 ＜参考文献：資料②　文部科学省（中教審第199号）＞

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

憲法の条文を踏まえた上で、「個別最適な学びと協働的な学び」を実現するためのカリキュラム改革について論じなさい。

第2課題

次の2つのテーマから1つを選んで論じなさい

1）今後、父親の育児参加を進めるために必要な制度について論じなさい。
2）学校における働き方改革について、教師の職業モデルと関連づけて論じなさい。

各課題の留意点

各課題の共通の留意点

単なるテキストの要約はレポートとは認めないので注意すること。かといって、自由課題ではない以上、全くテキストを参照しないレポートも合格とは認められない。レポートとはテキストの記述をベースに、自分が「考えた」ことを書くものである。他の文献やインターネット上の意見を参考にすることは大歓迎であるが、必ず参考文献としてその情報を明示すること。参考文献リストは指定文字数外とする。

第1課題の留意点

日本国憲法の条文は各自参照すること。その上で、テキスト第4章、第5章および第9章を参考にすること。学校と地域の関連にふれる場合は、参考文献の『資料①　文部科学省（中教審第186号）』もあわせて参照すること。「令和の日本型学校教育」に関する資料も探して参照すること。

第2課題の留意点

1）テキスト第1章から第3章までの内容を参考にすること。テキスト以外の資料も参照し、近年の動向にも触れること。
2）テキスト第6章から第8章までの内容を参考にすること。「学校における働き方改革」については各自資料を探すこと。参考文献の『資料②　文部科学省（中教審第199号）』を資料として加えてもよい。

レポートの評価基準

（1）テキストの内容を正しく理解しているか、（2）その上で独自の視点から記述されているか、（3）文章の構成、誤字、分量などが適切か、（4）正しく文献や資料を参照し、参考文献リストがついているか、の 4 点から評価を行う。「各課題の留意点」にも書いたが、課題のポイントを外しているもの、テキストの要約しか行っていないもの、テキストを全く参照していないもの、分量が著しく不足しているものは合格としないので注意すること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

レポート作成時にテキストの内容をしっかりと理解しておくこと。それとともにテキストに出てくる術語を理解しておくこと。特に、日常的な使用方法と異なる使い方をする術語には注意すること。さらにレポート課題作成を通じて、「自分の経験を相対化する」という思考方法になれておいてほしい。重要なのは「自分の頭で考えること」である。

科目修了試験の評価基準

用語説明を20点× 2 問、記述問題を60点満点としてそれぞれ採点する。用語説明はテキストにあるような内容を把握しているかどうかを基準とする。語感から受ける感想をいくら書いても点数にはならない。記述問題は、設題の理解度を30点満点、内容および構成を20点満点、表記や分量を10点満点として採点する。

参考文献

・資料①　文部科学省（中教審第186号）『新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について（答申）』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo 0 /toushin/1365761.htm
・資料②　文部科学省（中教審第199号）『第 2 次学校安全の推進に関する計画の策定について（答申）』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo 0 /toushin/1384125.htm

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20905	科目名［単位数／学習時間］	幼児教育課程特論［1単位／45時間］	科目担当	戸江　茂博

テキスト	●戸江茂博 『シリーズ：新しい時代の保育者養成　保育カリキュラムの基礎理論　教育課程・全体的な計画の学び』 あいり出版					
ISBN	9784865550542	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	22058	
テキスト	●文部科学省 『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館					
ISBN	9784577814222	本体価格（円）（2022年1月現在）	149	生協テキストNo.	22059	
テキスト	●厚生労働省 『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館					
ISBN	9784577814239	本体価格（円）（2022年1月現在）	149	生協テキストNo.	22060	
テキスト	●内閣府　文部科学省　厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』 フレーベル館					
ISBN	9784577814246	本体価格（円）（2022年1月現在）	149	生協テキストNo.	22061	

科目の目的

教育課程とはいわゆるカリキュラムのことである。カリキュラムとは、教育内容を一定の方法でまとめたものであり、子供の育つ道筋を想定した、さまざまな教育的配慮と援助の枠組みのことである。本科目は、幼稚園と保育所の教育・保育の計画、そして保育内容の考え方、すなわち0～6歳の乳幼児期の子供に寄り添うカリキュラムの考え方について学ぶことを目的とする。なお、一般に幼稚園のカリキュラムのことを「教育課程」、保育所及び認定こども園のカリキュラムのことを「全体的な計画」と呼ぶが、幼稚園と保育所等を含めて、共通に「保育カリキュラム」と呼ぶことにする。これを年間、期間、月、週日等に具体化した実践計画のことを「指導計画」（幼・保・こども園に共通）という。指導計画は保育カリキュラム（幼稚園の教育課程、保育所・認定こども園の全体的な計画）を具体化したものであり、保育のデザインということもできる。

到達目標

・教育課程や全体的な計画、すなわち保育カリキュラムの基本的な意義について理解する。
・教育課程や全体的な計画は、つねに乳幼児の成長発達に即して、すなわち乳幼児の育ちの特性を配慮して作成されるものであることを理解する。
・教育課程や全体的な計画の中心は、ねらいと内容によって構成される「保育の内容」であることを理解するとともに、乳幼児期の育ちや発達にふさわしい保育内容を構成する方法について学ぶ。
・教育課程や全体的な計画を具体的な実践計画としてデザインしたものを指導計画という。指導計画の在り方、立て方について学び理解する。

学習テーマ

1	授業全体の流れを理解する
2	幼児教育·保育の基本【学習のポイント：カリキュラム作成の基礎となる幼児教育·保育の特質について理解する。】
3	保育カリキュラムとは【学習のポイント：カリキュラムを立てること、教育・保育を計画することの意義について理解する。】
4	保育カリキュラムの歴史的変遷①【学習のポイント：カリキュラムはどのように変遷してきたか、明治・大正・昭和年代のカリキュラムの変遷について学ぶ。】
5	保育カリキュラムの歴史的変遷②【学習のポイント：カリキュラムはどのように変遷してきたか、平成年代のカリキュラムの変遷について学ぶ。カリキュラム・マネジメントやアクティブ・ラーニングについて学ぶ。】
6	幼稚園の教育課程の基礎【学習のポイント：幼稚園の教育課程の考え方について理解する。】
7	保育所・認定こども園の全体的な計画の基礎【学習のポイント：保育所や認定こども園の全体的な計画の考え方を理解する。】
8	教育課程・全体的な計画から指導計画へ【学習のポイント：教育課程・全体的な計画と指導計画の関係について理解する。】
9	0歳児の指導計画【学習のポイント：0歳児の育ちと指導計画の立て方について学ぶ。】
10	1、2歳児の指導計画【学習のポイント：1、2歳児の育ちと指導計画の立て方について学ぶ。】
11	3歳以上児の指導計画【学習のポイント：3、4、5歳児の育ちと指導計画の立て方について学ぶ。】
12	さまざまな指導計画【学習のポイント：一般的な指導計画以外のさまざまな指導計画の考え方と立て方について学ぶ。】
13	保育の記録【学習のポイント：保育の記録の大切さと指導計画との関係性について理解する。】
14	保育の評価【学習のポイント：保育の質を向上させるための評価のあり方について学ぶ。】
15	まとめ【学習のポイント：授業内容の総括。これからの保育カリキュラムのあり方について学ぶ。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

保育カリキュラムについて、次の①～③の問題に答えなさい。
①保育カリキュラムの基礎となる幼児教育・保育の基本について説明しなさい。
②保育カリキュラム（保育内容）の歴史的変遷において、「領域」の意義や意味付けはどのように変わってきたか。
③幼稚園の教育課程の基本的な考え方と教育課程編成上の留意すべき点について述べなさい。

第１課題の留意点

＜レポート作成にあたっての文章構成上の留意点＞

・序論、本論、結論という様式は不要。「はじめに」や「終わりに」も付する必要はない。主語・述語をつねに明記し、論理的に整合性のある文章づくりをすること。記述の様式について例示すると、１．保育カリキュラムの基礎となる幼児教育・保育の基本、２．保育カリキュラム（保育内容）の考え方における「領域」の意義や意味付けの変化について、３．幼稚園の教育課程の基本的な考え方と教育課程編成上の留意すべき点について、などとすればよい。
・著書からの引用を行う場合、「……」（１）などとし、脚注又はレポート末尾に引用文献とページ数を明示する。

第１課題の中には、３つの具体的な問題がある。１つ目は、保育カリキュラムの基礎となる幼児教育・保育の基本について明らかにすることである。これについては、テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』の１章の１．が大いに参考となる。（ヒント!）４つのポイントを取り上げる必要がある。２つ目は、カリキュラムの中心的な位置を占めてきた「領域」について問うもの。1956年の幼稚園教育要領において、はじめて保育内容として領域が導入されるが、1989年の幼稚園教育要領において決定的な意義や意味付けの変改が行われる。そして、今や、「幼児期において育みたい３つの資質・能力の柱」や「幼児の終わりまでに育ってほしい（10の）姿」に乗っ取られようとしている、この変化の様子を描きなさい。テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』の２章の２．及び３．が参考となる。３つ目は、保育カリキュラム、とくに幼稚園の教育課程の編成の方法や手順について問うもの。テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』の３章の１．を十分に理解すれば適切な解答がもたらされる。また、テキスト『幼稚園教育要領』の詳細な解説本が出版されており（参考文献『幼稚園教育要領解説』）、そのなかに、具体的な編成の手順の例が掲載されているので、それも参考にすること。

レポートの評価基準

・４冊のテキストから学び取ったことを自分なりの表現でまとめることができている。
・文字数は、2,000字程度を原則とするが、記述の展開上必要があれば、3,000字程度までの記述を認める。
・主語・述語の関係に留意した文章となっていること、適切な段落を取ること、自筆の場合は丁寧な文字で記入していること。レポートや論文、小説などもそうだが、文章の書き出しは、１文字分送り、段落ごとも同じように書き出しは１文字分を送る。これをきちんと守って、適切な文章づくりをすること。１段落は、文章の意味のつながり等を踏まえ、３～８行程度が望ましい。（１行40文字程度筆記している場合）

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』を中心にテキストの全内容を熟読し、保育の計画である保育カリキュラムの意義や必要性、幼稚園の教育課程や保育所等の全体的な計画の具体的な作成の仕方や作成にあたっての要点を十分に理解しておくこと。【テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』１章、２章、３章。『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』のそれぞれ第１章】
・乳幼児期の保育の特徴（遊びによる保育や環境による保育）をしっかりとらえ、それが保育カリキュラムや指導計画にどのように反映しているかなどを考えるようにしておくこと。【テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』１章の１.、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』のそれぞれ第１章総則】
・幼稚園の５領域の保育内容、保育所の養護と教育（５領域）の保育内容及び最新の保育内容の考え方（幼児期において育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）の概要を理解しておくこと。【テキストの『幼稚園教育要領』第１章、第２章、及び『保育所保育指針』第２章、及び『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』第２章】
・指導計画とは何か、指導計画は教育課程や全体的な計画とどう異なるのか、指導計画の立て方、また、歳児別の指導計画の立て方（具体的には、乳児の指導計画及び幼児の指導計画の立て方の特徴のようなものを理解するようにしておくこと。）また、小学校へ接続するカリキュラム、異年齢児の保育カリキュラムなど）なども学習しておくこと。【テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』４章、５章】
・保育カリキュラムに関連するカリキュラム関係の重要用語について説明できるようにしておくこと。（例えば、経験カリキュラム、隠れたカリキュラム、カリキュラム・マネジメント、アクティブ・ラーニング、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムなど）【テキスト『保育カリキュラムの基礎理論』の２章、４章など】

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を十分に理解し、キーワードや関連する事項を把握し、丁寧に説明できていること。
・テキストで学んだことを踏まえずに、単に自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・筋道を立てて論理的に展開できていること。
・解答用紙表面の２/３以上に記述があること。
・主語・述語の関係に留意した文章となっていること、適切な段落を取ること、丁寧な文字で記入していること。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年３月＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20906	科目名［単位数／学習時間］	保育内容の研究･特別総論［1単位／45時間］	科目担当	猪田　裕子
テキスト	●近藤幹生　『子どもと社会の未来を拓く－保育内容－総論　第3版』　青踏社				
ISBN	9784902636567	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	22123
生協での購入をおすすめします					

科目の目的

乳幼児の生活を総合的な視点から捉え、遊びの中にある学びの姿を理解する。また、それに伴う環境構成や知識、技能を身に付ける。さらには、保育の根底にある教育愛への自覚や深化を目指す。

到達目標

・乳幼児期における教育（遊びの中から捉える学びに向かう力）の基本及び発達や学びの連続性を踏まえた遊びの姿を理解する。
・乳幼児の理解に基づいた保育内容の展開及びその評価の考え方を理解する。
・乳幼児の興味や関心、心身の発達等に応じた具体的な援助の在り方を理解する。

学習テーマ

1	保育所保育指針における保育の基本【学習のポイント：保育の基本及び保育内容を理解する。】
2	保育所・幼稚園・認定こども園の現状と課題【学習のポイント：具体的な事例を参考にそれぞれの現状と課題を考える。】
3	子どもの姿と保育内容【学習のポイント：「育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から捉える子どもの姿を考える。】
4	保育内容の歴史的変遷【学習のポイント：思想史を学ぶことで現在の保育を考察する。】
5	幼稚園･保育所制度の変遷【学習のポイント:日本における幼児教育制度の歩を振返り、現在の保育を考察する。】
6	教育課程･全体的な計画と指導計画について【学習ポイント:保育における計画に留意し、指導計画を立て、反省･評価を行うことの意味を考える。】
7	保育所で展開される生活と保育【学習のポイント：保育者の養護的なかかわりと、その中に見られる教育的なかかわりについて考える。】
8	保育所で展開される生活と遊び【学習のポイント：日々の生活において、子どもの主体性や主体的活動を重視した保育の展開について考察する。】
9	幼稚園で展開される保育内容【学習のポイント：環境を通して行う教育および保育の実際について考える。】
10	幼稚園で展開される生活と遊び【学習のポイント：教育としての視点から、遊びの中にある学びに気づく。】
11	幼保連携型認定こども園の一日【学習のポイント：教育及び保育の実際が、どのように展開されているのかを考える。】
12	多様な保育について【学習のポイント：外国籍幼児の保育、一時預かり保育、病児保育等、多様な保育の在り方を考える。】
13	園と家庭との信頼関係について【学習のポイント：園と家庭との連携において育まれる子どもの育ちを考察する。】
14	地域の子育て支援の取り組み【学習のポイント：具体的な事例を通して、子育て支援と保育内容について留意することを考える。】
15	保育所・幼稚園・小学校における連携・接続の課題【学習のポイント：家庭、地域、小学校等との連携及び接続の意義を考える。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子どもの遊びの姿を具体的に示し、そこにどのような学びがあるのかを考察し、保育者の役割を踏まえて述べなさい。

第1課題の留意点

保育所・幼稚園・認定こども園の保育内容を理解したうえで、遊びの中にある学びを捉える視点の重要性と、それを援助する保育者の姿勢を、テキスト及び参考文献から論述すること。

レポートの評価基準

・テキストを精読の上で、その内容を整理し、参考文献などの情報を加味して自らの考えを論述している。
・課題の趣旨を正確に把握し、論旨を展開している。
・レポートの形式、文章表現、誤字脱字などに留意して記入している。
・参考文献を明記している。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全体をよく読み、内容理解に努めること。また、必ず3冊の参考文献から理解を深め、設題の趣旨を正確に把握して、実態や経験を通して理解していることを含め論じること。

科目修了試験の評価基準

・設題内容を正しく理解し、論理的に記述できている。
・解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述がある。
・誤字脱字なく記入している。
・テキスト学習によって得た知識に基づき論述している。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20907	科目名［単位数／学習時間］	教育方法･技術特論(初等)［1単位／45時間］	科目担当	未定（「親和通信」で連絡）
テキスト	●堀田龍也　佐藤和紀　『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』　三省堂				
ISBN	9784385362649	本体価格(円)（2022年1月現在）	2,000	生協テキストNo.	22139
テキスト	●文部科学省　『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 ●文部科学省　『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）』				
ISBN		本体価格(円)（2022年1月現在）		生協テキストNo.	http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm 文部科学省HPからダウンロード可
テキスト	●文部科学省　『教育の情報化に関する手引-追補版-（令和２年６月）』（インターネットのみで閲覧）				
ISBN		本体価格(円)（2022年1月現在）		生協テキストNo.	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
テキスト	●文部科学省　『小学校プログラミング教育に関する研修教材』（インターネットのみで閲覧）				
ISBN		本体価格(円)（2022年1月現在）		生協テキストNo.	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1416408.htm
テキスト	●文部科学省　『遠隔教育の推進に向けた施策方針』（インターネットのみで閲覧）				
ISBN		本体価格(円)（2022年1月現在）		生協テキストNo.	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/__icsFiles/afieldfile/2018/09/14/1409323_1_1.pdf
テキスト	●文部科学省　『遠隔教育システム活用ガイドブック　第３版』（インターネットのみで閲覧）				
ISBN		本体価格(円)（2022年1月現在）		生協テキストNo.	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00932.html
テキスト	●文部科学省　『教育データの利活用に係る論点整理（中間まとめ）』（インターネットのみで閲覧）				
ISBN		本体価格(円)（2022年1月現在）		生協テキストNo.	https://www.mext.go.jp/content/20210331-mxt_syoto01-000013887_1.pdf
テキスト	●文部科学省　『「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」（令和３年５月版）ハンドブック』（インターネットのみで閲覧）				
ISBN		本体価格(円)（2022年1月現在）		生協テキストNo.	https://www.mext.go.jp/content/20210630-mxt_jogai02-000011648_052.pdf

科目の目的

様々な教育の方法や指導技術についての知識を広げつつ、知識基盤社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力やその育成の方法についての理解を深める。あわせて、現代の学校にとって重要なテーマである教育の情報化について学び、児童・生徒の情報活用能力の育成や情報通信技術（ICT）を活用した効果的な授業についての知識を広げ、理解を深める。

到達目標

・21世紀の情報社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力についての理解を得る。
・教育方法に関する様々な理論や実践についての知識を広げ、理解を得る。
・教育の情報化について理解し、情報通信技術（ICT）を活用した効果的な授業や子どもたちの情報活用能力の育成についての理解を得る。

学習テーマ

1	学習指導要領と授業【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第１章､テキスト『学習指導要領解説総則編』pp. 1 -11､参考文献『３つのキーワードで新学習指導要領案を見る!』】
2	教育方法の原理と学習評価【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第２章】
3	授業中の教師の意思決定【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第３章】
4	授業における発問と指示【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第４章】
5	教科書活用の技術【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第５章】
6	教材活用の技術【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第６章】
7	教育の情報化の意義と概要、ICT環境整備【学習のポイント：テキスト『教育の情報化に関する手引』第１章、第４章第２節、第７章】
8	教師によるICT活用【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第７章、テキスト『教育の情報化に関する手引』第４章】
9	情報活用能力の育成（思考スキルの育成）【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第９章、第13章、テキスト『教育の情報化に関する手引』第３章】
10	児童生徒によるICT活用と特別支援教育に関するICT活用の意義【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第10章、テキスト『教育の情報化に関する手引』第１章第４節、第４章第４節、参考文献『読みや書きに困難さがある児童生徒に対するアセスメント・指導・支援パッケージ』】
11	情報活用能力の育成【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第11章、テキスト『意外と知らない"情報活用能力"』、テキスト『教育の情報化に関する手引』第２章第１節～第３節】
12	情報モラル教育【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第12章、テキスト『教育の情報化に関する手引』第２章第４節】

13	遠隔教育の意義と方法【学習のポイント：テキスト『教育の情報化に関する手引』第 7 章第 3 節、テキスト『遠隔教育システム活用ガイドブック』第 1 章、参考文献『意外と知らない"遠隔教育"』、『遠隔教育について』、『学びを止めない!これからの遠隔・オンライン教育 普段使いで質の高い学び・業務の効率化へ』、『遠隔導入ガイドブック』】
14	校務の情報化【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第14章】
15	学校の情報管理と情報セキュリティ【学習のポイント：テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』第15章、テキスト『教育の情報化に関する手引』第 7 章第 5 節、テキスト『教育データの利活用に係る論点整理（中間まとめ）』pp. 2 - 7 、テキスト『教育情報セキュリティポリシーに関するガイドラインハンドブック』第 1 章-第 3 章、参考文献『教育の質の向上に向けた効果的なデータ連携・活用のポイントと学校改善事例集』、『教育の質の向上に向けたデータ連携・活用ガイドブック』、『新時代の学びを支える先端文部科学省 技術活用推進方策、学校における先端技術活用ガイドブック』、『教育データ利活用ロードマップの検討状況について』】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第 1 課題

『平成29年告示の学習指導要領』について改訂の経緯を含めた基本方針及びその要点について説明せよ。

第 1 課題の留意点

学習指導要領の概要を理解するため、テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』pp.12-14および参考文献『 3 つのキーワードで新学習指導要領案を見る!』を一読すること。そのうえで、テキスト『小学校学習指導要領解説　総則編』の第 1 章総説を読んでまとめる。レポート作成する際には、「レポートの評価基準」を参考にするとよい。

レポートの評価基準

次の①から③がすべて含まれていること。
①育成を目指す資質・能力の三つの柱についての説明が過不足なくまとめられている。
②授業改善の推進についての説明が過不足なくまとめられている。
③各学校におけるカリキュラム・マネジメントについての説明が過不足なくまとめられている。

分量は2,000字程度にまとめればよいが、これより多くなってもよい。段落わけがきちんとできていること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』p.99の第 6 章「 6 ）デジタル教科書」をよく読み、文部科学省（2011）『教育の情報化ビジョン』で定義されている「デジタル教科書」について何も見ないで説明できるようにしておく。また、テキスト『教育の情報化に関する手引』の第 7 章第 2 節をよく読み、児童生徒の情報活用能力の育成を図るために重要なこと、活用による効果について何も見ないで説明できるようにしておく。さらに、テキスト『教育の情報化に関する手引』pp.221-222の第 7 章第 2 節 2 -（ 2 ）で紹介されている主な学習方法等の例および具体的な活用例を全て述べられるようにしておく。
・テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』の第 2 章「 2 - 4 学習評価の考え方」を丁寧に読んでおくこと。評価とは何のためのものか、市川（2011）による評価の位置づけと役割、絶対評価・相対評価・個人内評価、評価のバイアスについて、何も見ずに説明できるようにしておく。
・テキスト『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』の第12章をよく読む。特にpp.189-190の石原（2011）が定義した「物語教材」および新田ほか（2018）が示した情報モラル教育の物語教材の類型について何も見ずに説明できるようにしておく。
・テキスト『小学校プログラミング教育に関する研修教材』の、「小学校プログラミング教育の概要 1 」を読み（映像教材を視聴してもよい）、小学校のプログラミング教育を導入する理由、小学校プログラミング教育のねらい、育みたい資質・能力（概要 1 、pp. 5 - 7 、pp. 9 -12）について何も見ないで説明できるようにしておく。また、「Scratch 正多角形をプログラムを使ってかく」や「Viscuitたまごが割れたら・・・」のテキスト（映像教材）を視聴しながら実際にプログラミングを体験してみると、これらの理解につながるであろう。
・テキスト『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）総則編』pp.50-51で説明されている情報活用能力について何も見ずに説明できるようにしておく。また、テキスト『教育の情報化に関する手引』の第 2 章第 2 節をよく読み、情報活用能力を構成する資質・能力の三つの柱（p.23の囲みの中）および表 2 - 5 情報活用能力育成のための想定される学習内容（p.24）について何も見ずに説明できるようにしておく。
・テキスト『「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」ハンドブック』第 3 章をよく読み、教育情報セキュリティ対策の基本（「何を」、「何から」、「どのように」守るのか）について、何も見ずに具体的に説明できるようにしておく。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードを捉えて正確に説明できているかどうかを評価する。テキストの内容、『学習の手引き』に記載されている事項を踏まえずに自説だけを述べても評価されないので注意。
・専門用語の誤字脱字・誤りが無いこと （例：○形成的評価　×形式的評価　など）
・自分の考えを述べるように問題文に明示されていない場合は、自分の考えを述べる必要はない。

参考文献

・狩野さやか 『3つのキーワードで新学習指導要領案を見る！～「学びの質」に大きくシフトして必要になるものは？（2017）』
https://ict-toolbox.com/report/2017/03/1493/
・文部科学省 『教育ICT活用実践事例』 http://eduict.javea.or.jp/jireishu.html
・文部科学省 『発達障害のある子供たちのためのICT活用ハンドブック』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/1408030.htm
・文部科学省 『情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～指導の手引き』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1368445.htm
・内田洋行教育総合研究所 『意外と知らない"情報活用能力"（2018）』（第1回～第3回）
https://www.manabinoba.com/edu_watch/017812.html
https://www.manabinoba.com/edu_watch/017814.html
https://www.manabinoba.com/edu_watch/017815.html
・NHK for School 『しまった！～情報活用スキルアップ～とは？』
https://www.nhk.or.jp/sougou/shimatta/（アクセスすると動画・音声がいきなり流れるので注意）
・内田洋行教育総合研究所 『意外と知らない"遠隔教育"』 https://www.manabinoba.com/edu_watch/019982.html
・内田洋行教育総合研究所 『遠隔教育研究成果レポート「遠隔教育について」』 https://ueric.uchida.co.jp/enkaku/
・文部科学省 『学びを止めない！これからの遠隔・オンライン教育普段使いで質の高い学び・業務の効率化へ』
https://www.mext.go.jp/content/20210226-mxt_jogai02-000010043_003.pdf
・文部科学省 『遠隔導入ガイドブック第3版』 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1364592.htm
・文部科学省 『教育の質の向上に向けた効果的なデータ連携・活用のポイントと学校改善事例集』
https://www.mext.go.jp/content/1387543_02.pdf
・文部科学省 『教育の質の向上に向けたデータ連携・活用ガイドブック』
https://www.mext.go.jp/content/20200626-mxt_jogai02-100003155_004.pdf
・文部科学省 『新時代の学びを支える先端技術活用推進方策』
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/other/detail/_ _icsFiles/afieldfile/2019/06/24/1418387_02.pdf
・文部科学省 『学校における先端技術活用ガイドブック』
https://www.mext.go.jp/content/20210623-mxt_syoto01-100013299_001.pdf
・デジタル庁 『教育データ利活用ロードマップの検討状況について』
https://cio.go.jp/sites/default/files/uploads/documents/digital/20211025_news_digitalagency_ideabox_01.pdf

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20908	科目名［単位数／学習時間］	幼児理解特論［1単位／45時間］	科目担当	高畑　芳美
テキスト	●入江礼子　小原敏郎『子どもの理解と援助　子ども理解の理論及び方法 -ドキュメンテーション（記録）を活用した保育』 萌文書林				
ISBN	9784893473189	本体価格（円）（2022年1月現在）	2,000	生協 テキストNo.	22072
実務経験のある教員による科目	通級指導教室担当、スクールカウンセラー				

科目の目的

幼児期にふさわしい教育を行うためにまず必要なことは、一人一人の幼児に対する理解を深めることである。その基盤となる発達理論及び幼児教育の特質との関連を理解し、具体的な観察・記録・評価の実際を身につける。保育者として、子ども理解に基づいた保育・教育ができるようになることをめざす。実務経験を基に、子どもの理解に必要な最新の発達論と実際のインクルーシブ保育の内容を含む「幼児理解」を教授する。

到達目標

「子どもを理解する」ことの意味について考え、記録を生かした保育の質を高める方法や内容を考える。具体的には、次のとおり。

・保育の中で子どもの育ちを捉える視点について理解する。
・生活や遊びの中での幼児理解のポイントについて理解する。
・「仲間関係」の形成過程に焦点を当てた子ども同士の関係づくりについて考える。
・個と集団の関わりに対して、保育者が配慮することは何かを考える。
・子どもの葛藤やつまずきを捉える視点を理解する。
・保育の環境を構成する保育者の視点を理解する。
・環境が変化した時の子どもの様子を捉える視点を理解する。
・特別な配慮を必要とする子どもの理解に不可欠なインクルーシブという考え方が説明できる。
・保育実践の質を高めていく上でのドキュメンテーションの意義を理解する。
・保育ドキュメンテーションを活用した指導計画の作成・展開・評価・改善について説明できる。

学習テーマ

1	日常の家庭生活における子ども理解【学習のポイント：子どもと大人の関係に焦点を当てた子ども理解を考える。】
2	保育における「子ども理解」とは【学習のポイント：「養護」と「教育」を一体的に展開する保育の中で子どもを理解する。】
3	子どもの学びの連続性を踏まえた子ども理解【学習のポイント：学びの連続性を支える保育者の視点を理解する。】
4	指針や要領に見る子ども理解の基本【学習のポイント：保育所・幼稚園等における子ども理解のための保育の評価について理解する。】
5	子どもの生活と遊び【学習のポイント：生活や遊びにおける子どもの育ちについて理解する。】
6	保育者と子どもの発達【学習のポイント：保育における人との関わりについて考える。】
7	子ども同士の関わり方と関係づくり【学習のポイント：仲間関係の形成過程について考える。】
8	子どもが集団生活で得ること【学習のポイント：個と集団の関わりについて考える。】
9	子どもの葛藤とつまずき【学習のポイント：葛藤やつまずきを乗り越えて成長することを理解する。】
10	保育の環境構成【学習のポイント：保育における「環境」とは何かを理解する。】
11	子どもを取り巻く環境の変化や移行【学習のポイント：環境が変化した時の子どもの様子を捉える視点を理解する。】
12	子ども理解に基づく発達援助【学習のポイント：子どもの発達を援助する保育者の役割を考える。】
13	特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助【学習のポイント：インクルーシブという考え方について理解する。】
14	子どもを理解するための方法としてのドキュメンテーション【学習のポイント：保育においてドキュメンテーションを用いることの意義について理解する。】
15	保育を観察し記録するとは【学習のポイント：観察・記録において重要な視点について理解する。】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

子どもの育ちの連続性を捉えた保育とはどのようなものか、要点を整理して述べなさい。

第1課題の留意点

テキスト第1章、第2章を熟読し、どのような視点で子どもの育ちを捉えればよいかをまとめた上で、そのための保育記録についての自身の考えを述べなさい。

レポートの評価基準

幼児理解を深めるためには、ただテキストに書いてあることを拾い出すだけでなく、そこに書かれている内容を整理し、自分のノートにまとめ直すことが大切である。その際、自分が何をどのように理解し説明したいのか、どうしたいと考えたのかを他人に解かりやすく説明する力も必要である。書きたい内容を、見出しにした章を立てて整理すること。誤字脱字はもちろん、基本的な構文力も評価対象とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストを漠然と読み、書かれた内容を理解したつもりでいると、設題に合う答案は作成できない。本科目の10の「到達目標」に沿って、自分なりに重要な部分をピックアップしてノートにまとめ、テキストから学んだ正しい用語を使って解答できるようにしておくことが大切である。

科目修了試験の評価基準

一般論や自身の経験談を述べるのではなく、テキストを熟読し、そこに書かれた専門用語の意味や重要なポイントを設題の指示通りに適切にまとめているかどうかを評価基準とする。また、解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述が必要。誤字脱字は減点の対象とする。

参考文献

・文部科学省　『幼稚園教育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・文部科学省　『幼稚園教育要領解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜平成30年 3 月＞』フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・厚生労働省　『保育所保育指針解説＜平成30年 3 月＞』　フレーベル館
その他、テキストに挙げられた参考文献にも目を通してみること。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のXVII）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20901	科目名［単位数／学習時間］	福祉と養護［2単位／90時間］	科目担当	藤原　伸夫
テキスト	●「福祉と養護」編集委員会　『福祉と養護　第3版』　みらい				
ISBN	9784860155094	本体価格（円）（2022年1月現在）	1,700	生協テキストNo.	22140
テキスト	●内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>（平成29年告示）』　チャイルド本社				
ISBN	9784805402580	本体価格（円）（2022年1月現在）	500	生協テキストNo.	22117
実務経験のある教員による科目	地方公務員（福祉専門職）				

科目の目的

本科目は、保育士試験免除（特例制度）に必要な履修科目「社会福祉」「子ども家庭福祉」「社会的養護」の3科目の内容を含んだ科目である。「子ども家庭福祉」を軸に、そのベースとなる「社会福祉」および家庭養育が困難な児童を対象とする「社会的養護」について学習する。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・現代社会における社会福祉、子ども家庭福祉及び社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
・社会福祉と子ども家庭福祉の役割について理解する。
・社会福祉、子ども家庭福祉及び社会的養護の制度と実施体系について理解する。
・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。
・施設養護の実際について理解する。

学習テーマ

1	現代社会における社会福祉·子ども家庭福祉および社会的養護の意義①（社会福祉の理念と概念）<テキスト『福祉と養護』第1章>
2	現代社会における社会福祉・子ども家庭福祉および社会的養護の意義②（現代社会と子ども家庭福祉、社会的養護の理念と基本原理）<テキスト『福祉と養護』第1章>
3	社会福祉・子ども家庭福祉の歴史的変遷①（イギリスとアメリカにおける社会福祉の歴史）<テキスト『福祉と養護』第2章>
4	社会福祉・子ども家庭福祉の歴史的変遷②（日本における社会福祉・子ども家庭福祉の歴史）<テキスト『福祉と養護』第2章>
5	社会福祉と子ども家庭福祉の役割①（社会福祉分野としての子ども家庭福祉、子ども家庭福祉分野としての子育て家庭支援・社会的養護）<テキスト『福祉と養護』第3章>
6	社会福祉と子ども家庭福祉の役割②（子どもの権利と権利擁護）<テキスト『福祉と養護』第3章>
7	社会福祉と子ども家庭福祉の法体系と実施体制①（社会福祉の法体系と財政、子ども家庭福祉の法体系と財政）<テキスト『福祉と養護』第4章>
8	社会福祉と子ども家庭福祉の法体系と実施体制②（社会福祉・子ども家庭福祉の行政機関、福祉の民間専門機関と団体）<テキスト『福祉と養護』第4章>
9	社会福祉と子ども家庭福祉の施設と専門職①（社会福祉と子ども家庭福祉の施設）<テキスト『福祉と養護』第5章>
10	社会福祉と子ども家庭福祉の施設と専門職②（社会福祉と子ども家庭福祉の専門職）<テキスト『福祉と養護』第5章>
11	社会的養護の実施体制と仕組み（社会的養護の体系、社会的養護の実施体制、措置制度と利用契約制度）<テキスト『福祉と養護』第6章>
12	子ども家庭福祉の現状と課題①（母子保健、子どもの健全育成、子ども虐待、ドメスティックバイオレンス）<テキスト『福祉と養護』第7章>
13	子ども家庭福祉の現状と課題②（社会的養護、障害のある子どもへの対応、少年非行、子どもの貧困対策、外国籍の子どもへの支援）<テキスト『福祉と養護』第7章>
14	施設養護の実際①（施設養護の基本原理、施設養護の展開過程、施設養護のインケアの実際）<テキスト『福祉と養護』第8章>
15	施設養護の実際②（児童養護系施設、障害児系施設、治療・行動系施設）<テキスト『福祉と養護』第8章>

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

児童の権利に関する条約批准後のわが国における子どもの権利擁護の取り組みについて述べなさい。

第2課題

社会的養護の2体系である、施設養護と家庭養護について説明しなさい。

各課題の留意点

第1課題の留意点

・まず、児童の権利に関する条約とはどのようなものか説明すること。
・テキスト『福祉と養護』第3章を精読すること。しかし、テキストの引用だけではないこと。

第 2 課題の留意点

・まず、社会的養護とはどのようなことをいうのか説明すること。
・テキスト『福祉と養護』第 6 章を精読すること。しかし、テキストの引用だけではないこと。
・措置機関である児童相談所の機能と役割についても触れること。

レポートの評価基準

・「課題の留意点」に注意し、専門用語を正しく理解して使用していること。
・テキスト以外にも最新のデータを、報道や白書などから引用していること。
・漢字を適切に使用し、誤字・脱字・変換ミスが無いように留意すること。
・すべての課題に共通であるように、2,000字程度という枠を守ること。
・引用元の出典を明示すること。テキストであっても、引用箇所を明確に示すこと。
・文末に「参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。それらは、本文（2,000字程度）の文字数には含まれない。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・現代社会福祉の背景について理解する。
・子ども家庭福祉に関する機関および施設の概要について理解しておくこと。
・子ども家庭福祉の実施体制と仕組みについて理解する。
・在宅児童を対象とする子ども家庭福祉サービス・活動の概要について理解しておくこと。
・子ども家庭福祉サービスを支える専門職の概要について理解しておくこと。
・戦後の日本における子ども家庭福祉の歴史的展開について理解しておくこと。
・分からないことを曖昧にせず、「児童福祉法」の条文を参照して理解しておくこと。

科目修了試験の評価基準

・社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護の共通基盤である「福祉」というとらえ方が理解できているか。
・子ども家庭福祉および社会的養護の制度や実施体系等について理解しているか。
・子ども家庭福祉および社会的養護の歴史、現状および課題について理解しているか。
・文字数が極端に多い又は少ない場合は不合格となることがある。また、誤字脱字等も減点対象となる。

参考文献

・和田光一　岩川幸治　『シリーズ社会福祉のすすめ 2　最新　現代社会福祉と子ども家庭福祉』　学文社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の 幼 ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20903	科目名[単位数／学習時間]	子どもの保健特論［1単位／45時間］	科目担当	松井　学洋
テキスト	●服部右子　大森正英　『図解　子どもの保健Ⅰ　第2版』　みらい				
ISBN	9784860154066	本体価格(円)（2022年1月現在）	2,200	生協テキストNo.	22111
実務経験のある教員による科目	特別支援学校養護教諭・看護師、医療福祉センター看護師				

科目の目的

子どもの心身の健全な成長には、その健康の保持及び増進が必要である。本科目では、小児の発育・発達、形態機能、運動機能、精神機能、社会認知機能の発達を学習し、子どもの生活行動と関連させながら健康の保持・増進に必要な知識を学ぶ。また、子どもによく見られる疾患・事故の予防に必要な知識を学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

本科目の到達目標は次の通りである。
①子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。②子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。③子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。④子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。⑤保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。⑥施設等における子どもの心身の健康及び安全の実施体制を理解する。

学習テーマ

1	子どもの保健の意義と目的について
2	子どもの発育・発達と保健について①（発育）
3	子どもの発育・発達と保健について②（生理機能）
4	子どもの発育・発達と保健について③（運動機能、精神機能）
5	子どもを取り巻く生活環境と心身の保健について
6	子どもの生活習慣と健康について①（食事、排泄）
7	子どもの生活習慣と健康について②（睡眠、清潔、更衣）
8	子どもの精神（こころ）の保健について
9	子どもの栄養について
10	子どもによくみられる症状とその対処法について
11	事故と安全指導及び応急処置について
12	子どもの病気・異常とその予防について①（先天性疾患、新生児の病気）
13	子どもの病気・異常とその予防について②（子どもの病気）
14	子どもの病気・異常とその予防について③（病気の予防）
15	母子保健行政について

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

感染症が成立する要素を述べると共に、感染源対策、感染経路対策、予防接種の3つの観点から保育現場での感染症予防策についてまとめなさい。

第1課題の留意点

感染症が発生する理由を説明した上で、感染源対策、感染経路対策、予防接種の3つの観点から保育現場での感染症予防策について考察する。

レポートの評価基準

テキストから学んだ内容を踏まえて、課題に対する自分自身の考察が論述できているかを確認する。また、誤字脱字の有無、漢字の使用、他人が読むことを意識して丁寧に作成できているかも評価基準とする。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキスト全ページが試験範囲であり、テキスト内容に準じた試験を行う。そのため、テキストをよく読み、内容理解に努めること。子どもの保健の範囲は広いため、子どもの発育・発達、感染症とその対策、様々な疾患、事故の予防と安全管理、子育て支援体制等、幅広く知識を身につけること。

科目修了試験の評価基準

テキストの内容を踏まえずに、自らの経験や自説を記述しても評価しない。設題内容を正確に理解し、テキスト学習によって得た知識を説明した上で、自身の考察を取り入れた答案が作成できているかを評価する。また、解答用紙表面の2/3以上の記述があることを前提に評価を行う。

参考文献

・遠藤郁夫　三宅捷太　『子どもの保健』　学建書院
・八木利津子　平松恵子　新沼正子　『子どもの保健』　青踏社

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅦ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20904	科目名[単位数／学習時間]	子どもの食と栄養特論［1単位／45時間］	科目担当	廣田　有加里
テキスト	●太田百合子　堤ちはる　『子どもの食と栄養　保育現場で活かせる食の基本　第2版』　羊土社				
ISBN	9784758109116	本体価格(円)（2022年1月現在）	2,400	生協テキストNo.	22112
実務経験のある教員による科目	管理栄養士（企業、福祉、医療分野での健康管理業務）				

科目の目的

乳幼児期の食と栄養は、豊かな人間性を育て、生きる力を育み、発達を支え、健康な身体をつくる基礎であることを理解する。栄養に関する基礎知識をもとに、乳児期、幼児期、学童期の各々の子どもの発育・発達、疾患等での対応食に関して理解し、健全な発育・発達を促すため必要な事柄を栄養・食生活面から学ぶ。また、食育の進め方や食育を推進するための取り組みについての知識を習得し、さらに家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題、特別な配慮を要する子どもの食生活全般への働きかけや栄養教育等を学ぶ。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・親の生活習慣に影響を受ける子どもの食生活の現状を把握し、認識することで課題を探りだすことができる。
・子どもの食と栄養の特性を理解し、子どもの発育・発達段階に応じた適切な食生活について説明できる。
・乳児期では、離乳の意義と実践の方法について、具体的に指導ができるようになる。
・幼児期の生活習慣はその後にも影響を及ぼすことから、食生活上の問題を理解し、対策を講じることができる。
・学童期の学校給食の役割と現状について理解し、食育ができるようになる。
・食育の基本とその必要性や取り組みについて、地域社会・文化との関わりの中で理解し実践できる。
・特別な配慮を要する子どもへの適切な対応方法を案出し、実行に移すことができる。

学習テーマ

1	子どもの健康と食生活の意義／乳幼児栄養調査結果から読みとる子どもの食生活の現状と課題
2	栄養に関する基本的知識（五大栄養素）／食事摂取基準と献立作成・調理の基本
3	妊娠期と授乳期の特徴と食生活／乳児期の心身の特徴と食生活の関係
4	乳児期の栄養（乳汁栄養・離乳食期栄養）の意義とその実践
5	幼児期の心身の発達と食生活／幼児期の食機能の特徴／幼児期の間食の意義
6	学童期の心身の発達と食生活／学童期の食生活上の問題と対応
7	食育の基本と内容／子どもの心と体を育む食育／保育所における給食の進め方と保護者への支援
8	特別な配慮を要する子どもへの対応

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

離乳の意義と適切な進め方について述べよ。

第1課題の留意点

離乳食は乳汁以外から、からだに必要なエネルギーや栄養成分を摂れるようになるための大切な準備過程である。離乳食を進める発育の目安を理解し、摂食機能および消化器官の発達に伴う食品および栄養管理の注意点を理解する。テキスト第5章とその他の参考文献などを熟読し理解した上で、自分なりの視点を持って考察したことを課題の最後にまとめる。

レポートの評価基準

・レポートの基本的な構成（序論、本論、結論）に沿って記述している。
・レポートの課題を理解した上で、論理的に、わかりやすく展開されている。
・専門用語の意味などについて、正確に理解し、科学的根拠に基づいて記述している。
・引用・出典が明示され、引用した部分については、「　」でくくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年・引用ページ（引用の場合）を挙げて明示している。
・インターネットで入手した資料を引用・参照する場合は、作成者名、情報源、データベース名、入手先URL、入手日付を明示している。ただし、官公庁および学会の公式サイトに限り認める。
・論文については、著者名、“論文のタイトル”、雑誌名、出版年、巻号、ページの範囲を明示している。
・読み手を意識して丁寧に作成する。また、誤字・脱字がなく、適切な語彙を用いている。

以上の項目について概ね述べられていればC以上（合格）の評価とする。

※「まる写し」、「引き写し」、「コピペ」は盗作であり、犯罪である。レポートを作成する上で、もっとも許されない重大なルール違反である点をよく理解しておくこと。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・子どもの心身の成長発達と食べる機能の発達の過程を把握した上で、適切な食事を提供することは、将来の食嗜好に影響を及ぼすため重要である。保育者は、食の悩みが多い保護者への食支援を行うことを強く望まれていることから、基本となる栄養学の理論を習得しておくことが必要であるため、自分なりの視点を持って学習をしておく。（テキスト第 1 ～ 2 章pp.10-35）
・平成27年に実施した「乳幼児栄養調査」の結果では、授乳期の栄養方法で「母乳栄養」の割合が増加していることから、母乳育児を継続するための必要な支援を理解する。近年では、母親が母乳育児を継続したい場合は、家庭から持参した冷凍母乳を提供する取組をしている保育施設があることから、取り扱う方法と留意点を習得する。（テキスト第 5 章pp.62-75）
・幼児期の生理的特徴と食行動の問題について、保育所での対応や保育士の立場からの支援について学習をしておく。（テキスト第 6 章pp.76-89、参考文献『授乳・離乳の支援ガイド　2019年改定版』、『平成27年度乳幼児栄養調査結果』）
・学童期・思春期の栄養管理は、成人期以降の健康状態に影響することから、栄養上の問題と健康への対応について、理解をしておく。（テキスト第 7 章pp.90-103、参考文献『令和元年「国民健康・栄養調査」の結果』）
・子どもの食環境や社会環境の現状や課題を認識したうえで、家庭や施設での子どもの発育・発達に応じた食育の必要性と環境づくりについて理解しておく。（テキスト第 5 章pp.62-74、第 9 ～10章pp.117-141、参考文献『第 4 次食育推進基本計画』）
・離乳食からの食物アレルギーの予防と、食物アレルギーのある子どもに対して、施設における考慮すべき対応について理解をしておく。（テキスト第 3 章p.43、第12章pp.161-170、参考文献『平成27年度乳幼児栄養調査結果』）
・答案作成に当たっては、設題の「理解度」と「表現力」を評価するため、趣旨に沿った適確な記述を心掛ける。
キーワード：食物アレルギー、間食、食育、冷凍母乳、母乳栄養、食行動、摂食機能

科目修了試験の評価基準

・設題内容の趣旨を理解し、キーワードや事項をとらえて正確な説明と論理的に記述できているかを中心に評価する。
・解答用紙表面の 3 / 4 以上に記述があることを前提として評価する。
・その他設題に関連する記載があれば内容により考慮する。
・字は読みやすく、丁寧に書き、誤字・脱字がなく、適切な語彙を用いている。
以上の項目について概ね述べられていれば60点～100点（合格）の範囲で評価する。

参考文献

・森脇千夏　『イラスト子どもの食と栄養』　東京教学社
・飯塚美和子　『子どもの食と栄養　食生活の基礎を築くために』　学建書院
・上田玲子　『子どもの食生活』　ななみ書房
・堤ちはる　土井正子　『子育て・子育ちを支援する　子どもの食と栄養』　萌文書林
・厚生労働省　『日本人の食事摂取基準（2020年版）』　https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/000586553.pdf
・厚生労働省　『授乳・離乳の支援ガイド2019年　改定版』　https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_04250.html
・厚生労働省　『平成27年度乳幼児栄養調査結果』　http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000134208.html
・厚生労働省　『令和元年「国民健康・栄養調査」の結果』　https://www.mhlw.go.jp/content/000711005.pdf
・農林水産省　『健全な食生活の実現』　https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/nozomasiisyokuseikatu.html
・農林水産省　『食事バランスガイドと従来の分類法との関連性』
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/zissen_navi/balance/guide.html
・農林水産省　『食育の推進』　https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/index.html
・農林水産省　『第 4 次食育推進基本計画』　https://www.maff.go.jp/j/press/syouan/hyoji/210331_35.html
・農林水産省　『子どもの食育』　https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/kodomo_navi/featured/afp1.html
※官公庁のWebサイトのみ可。参考文献および引用文献の記載のない健康雑誌や企業等のWebサイトは不可。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」の）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20909	科目名[単位数／学習時間]	子ども家庭支援特論［1単位／45時間］	科目担当	北野　富美子
テキスト	●吉田眞理　『児童の福祉を支える　子ども家庭支援論』　萌文書林				
ISBN	9784893473233	本体価格(円)(2022年1月現在)	2,000	生協テキストNo.	22128
実務経験のある教員による科目	公立保育士（主任・所長）、地域子育て支援センター長				

科目の目的

現代の家族の社会的状況や家族生活についての認識を広げ、子どもにとってかけがえのない家庭を支援する保育士の役割について理解する。また、テキストの各所に示されている新聞報道や事例を基に、多様化する家庭像についての理解や具体的な援助のあり方を、各自で研究することにより、最終的には、家庭を支援する理論とその方法を身に付けていくことを目的とする。実務経験を活かして教授する。

到達目標

・現代社会における家庭の意義と役割について理解できる。
・子育て家庭を取り巻く社会状況について理解できる。
・保育士が行う家庭支援の意義や基本姿勢について理解できる。
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できる。

学習テーマ

1	家庭・家族とは何か　＜テキスト第1章-1＞
2	子ども家庭支援の目的　＜テキスト第1章-2＞
3	子育てを通じた親の発達　＜テキスト第2章-2～4＞
4	保育の専門性を活かした子ども家庭支援　＜テキスト第3章-1＞
5	子どもの育ちの喜びと共有　＜テキスト第3章-2＞
6	保護者・地域が有する子育て力向上のための支援　＜テキスト第3章-3＞
7	保育士に求められる基本的態度　＜テキスト第3章-4＞
8	家庭及び地域に応じた支援　＜テキスト第3章-5、6＞
9	子育て家庭に対する社会資源　＜テキスト第4章-1＞
10	子育て支援施策の流れ　＜テキスト第4章-2＞
11	子育て支援施策　＜テキスト第4章-3～4＞
12	子ども家庭支援の対象・内容子育て支援施策　＜テキスト第5章-1＞
13	保育所等を利用する子どもの家庭支援　＜テキスト第5章-2＞
14	要保護児童等とその家庭に対する施策　＜テキスト第5章-4＞
15	子ども家庭支援に関する現状と課題　＜テキスト第5章-5＞

レポートについて　ワープロソフト使用可

第1課題

子どもの育ちの喜びを共有することは、保護者にとってどのような意味を持つのかまとめなさい。

第1課題の留意点

テキスト第3・4章を精読した上で、必要箇所を取り上げながらまとめる。また、参考文献等を検索し読み深めた上で、文中に用いることも可能である。

レポートの評価基準

・テキスト出版後の最新のデータを報道などから引用していること。
・考察やまとめの箇所は、「個人的な感想」であってはならない。例えば、先行文献や先行調査から示された知見を用いて、自分自身の意見と比較して述べると良い。
・すべての課題に共通であるように、本文2,000字程度という枠を守ること。
・引用箇所を明確に示し、文末（自筆の場合は欄外の枠）に「注記」を付すこと。テキストからであっても、引用元の出典を明示していないレポートは不可とする。
・文末に「参考文献」をまとめて書くこと。テキストも必ず入れる。
・日本語の文法に適う文章であること。
・理論的な論旨の組み立てができているかを重点的に考査し、評価する。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

・現代社会における家庭の意義と役割について理解できているか。
・子育て家庭を取り巻く社会状況について理解できているか。
・保育士が行う家庭支援の意義や基本姿勢について理解できているか。
・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解できているか。

科目修了試験の評価基準

・テキストの内容が理解できていること。
・設題内容について、的確にまとめられていること。

参考文献

・石動瑞代　中西遍彦　隣谷正範　『保育と子ども家庭支援論』 みらい
・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』 フレーベル館
※子育てに関する新聞記事や雑誌等にも注意を向けておくことが大切である。

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅫ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

科目コード	20914	科目名[単位数／学習時間]	乳児保育特論［1単位／45時間］	科目担当	大江　まゆ子
テキスト	●乳児保育研究会　『改訂5版　資料でわかる乳児の保育新時代』　ひとなる書房				
ISBN	9784894642539	本体価格(円)(2022年1月現在)	1,800	生協テキストNo.	22074

科目の目的

乳児保育の基本、保育の実際について学ぶ。保育制度及び乳児保育に関わる問題等についても学習し、乳児保育の課題を考える。

・乳児の基本的生活と遊びを豊かにする乳児保育の内容と方法について学ぶ。
・保育の計画の重要性と乳児保育の実際を学ぶ。
・乳児保育の歩みを概観し、保育制度の現状を理解し、現代の課題を明らかにする。
・保護者との連携、子育て支援における現状と課題を理解し、保育者の役割を考える。

到達目標

・乳児の育ちを保障するため、基本的生活と遊びを中心とした乳児保育の内容と方法について理解する。
・乳児保育における保育の計画の作成について、特に月齢差、個人差が著しい乳児期は個別に作成し、0歳・1歳・2歳児ともに年間を通して発達の過程を見通す重要性についての理解を深める。また、個々の子どもの姿や家庭状況をよく把握する重要性を理解する。
・乳児保育の歩みや現状、保育制度についても理解を深める。
・保護者支援の基本や信頼関係の構築について理解する。
・在園児の保護者支援とともに、地域の子育ての専門機関として、在宅の子育て支援も保育所の業務の一つであることを理解する。

学習テーマ

1	乳児の基本的生活を中心とした保育内容と方法【学習のポイント：乳児保育の養護の重要性と乳児期における基本的な生活の確立を目的とした援助を理解する。＜テキストpp.34-61＞】
2	乳児保育における健康及び安全管理【学習のポイント：月齢や発達による健康及び安全管理における保育士の配慮事項を理解する。＜テキストpp.40-61＞】
3	乳児保育の遊びを中心とした保育内容と方法【学習のポイント：乳児期の遊びのあり方、遊びを通した乳児の育ちについて理解する。＜テキストpp.62-87＞】
4	0歳児期の遊びと援助【学習のポイント：0歳児の月齢や発達による遊びの特徴と保育士の役割について理解する。＜テキストpp.62-63、pp.65-68、pp.69-71、pp.73-75＞】
5	1歳児期の遊びと援助【学習のポイント：1歳児の発達による遊びの特徴と保育士の役割について理解する。＜テキストpp.63-64、p.68、p.72、pp.74-76＞】
6	2歳児期の遊びと援助【学習のポイント：2～3歳児の発達による遊びの特徴と保育士の役割について理解する。＜テキストpp.64-65、p.69、pp.76-77＞】
7	乳児保育における遊びと環境【学習のポイント：発達に応じた遊び環境とはどのようなものか、またあそび文化について理解する。＜テキストpp.77-87＞】
8	保育の計画と記録【学習のポイント：現在の姿から育ちの見通しを持って保育を行う重要性を理解する、子どもの姿の記録と計画とのつながりを理解する。＜テキストpp.34-36、pp.88-107＞】
9	乳児保育と「3歳児神話」【学習のポイント：3歳児神話はどのようなものか、またボウルビー学説から学ぶべき点について理解する。＜テキストpp.108-111＞】
10	子どもの発達と乳児保育【学習のポイント：子どもの発達によい影響を与える保育条件とはどのようなものか、また様々な保育の質に関する議論について理解する。＜テキストpp.111-115＞】
11	親としての発達に関わる要因【学習のポイント：育児不安と親の就労環境、赤ちゃんの気質などの親としての発達に関わる要因について理解する。＜テキストpp.116-121＞】
12	親子の豊かな育ちに必要な保護者支援【学習のポイント：親子の絆を作る条件とはどのようなものか、また長時間保育や一時保育を利用する保護者に対する保育士としての支援を理解する。＜テキストpp.122-125＞】
13	乳児保育を行う保育士のあり方【学習のポイント：複数担任、担当制とはどのようなものかを理解する。＜テキストpp.126-137＞】
14	乳児保育のあゆみ【学習のポイント：乳児保育の歴史的変遷と乳児保育の一般化について。＜テキストpp.138-146＞】
15	乳児保育の現状と課題【学習のポイント：多様化するニーズに対応する乳児保育の様々な事業。＜テキストpp.146-174＞】

レポートについて

ワープロソフト使用可

第1課題

基本的生活場面における乳児の主体性を引き出す養護と教育が一体となった保育士の援助とはどのようなものか。具体的な場面を想定して述べなさい。

第１課題の留意点

テキストや参考文献の『保育所保育指針』、他の参考文献を参考に、保育所保育の特性、子どもの発達を十分に理解し、乳児保育の基本に立って考えることが重要である。テキストでは特に第 2 章を読み込み、子どもの生命の保持と情緒の安定を保障しつつも、月齢や発達に応じて基本的生活習慣が身に付けられるよう、子ども自身の意欲や自発性を引き出すような保育士の援助を理解し、具体的援助場面を想定してレポート作成することが重要である。

レポートの評価基準

・文字数は、1,800字以上～2,000字以下とする。
・設題の趣旨を理解し、テキストから学んだ内容をしっかりとふまえて、自分の考え・表現（言葉）で、いかに的確に論述できているかについて評価する。（自分の経験等を入れる場合は簡潔に。）
・次の 3 点を評価基準とする。
①テキストを精読理解の上で参考文献などの情報を加味して課題について論述していること。（テキスト、参考文献等を引用した場合は、「　」でくくり、著者名・書名・出版年・出版社名、ページ等を必ず明示すること。）
②自らが十分に理解した内容について、主語と述語の関係などに留意して、課題に対して的確にまとめていること。
③他者が読むことを意識して漢字を適切に使用し、誤字・脱字がなく丁寧に作成していること。

科目修了試験について

科目修了試験「答案」作成の留意点

テキストや参考文献の熟読、理解が本科目に対する理解を深めることになる。また、乳児保育の学習は実践に活かされる必要があるため、できるだけ具体的な子どもの姿と保育者の関わり、及び保護者の姿を想像しながらテキスト、文献等を読み込むことが重要である。その上で理解した内容を整理、咀嚼し、その理解に基づき、自分の言葉で答案を作成することが重要である。

科目修了試験の評価基準

・設題の趣旨を理解し、キーワードや事項を捉えて的確に説明ができているかどうかを中心に評価する。
・テキストの内容、「科目の目的」や「到達目標」に記載されている事項をふまえずに自らの経験や自説を記入しても評価しない。
・設題内容を正しく理解し論理的に記述できていること、適切な大きさの文字で解答用紙表面の 2 / 3 以上の記述があることを前提として評価する。
・テキスト学習により得た基礎的なことを説明した上で、自分の考えを取り入れて作成された答案を合格とする。基礎的なことだけを説明しただけでは得点は半分程度、自分の考えを取り入れることで満点に近づく。

参考文献

・厚生労働省　『保育所保育指針＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・内閣府　文部科学省　厚生労働省　『幼保連携型認定こども園教育・保育要領＜平成29年告示＞』　フレーベル館
・社会福祉法人あすみ福祉会茶々保育園グループ　『見る・考える・創りだす　乳児保育　養成校と保育室をつなぐ理論と実践』　萌文書林

ディプロマポリシーに基づく「修得できる力」との関連

所属学科の「カリキュラムマップ」（本冊子「はじめに」のⅩⅧ）を参照すること。

課題に対するフィードバック

提出レポートにコメント等を記入のうえ返却する。

キリトリ線

※この用紙が不足する場合は、コピーをして使用してください。

キリトリ線

※この用紙が不足する場合は、コピーをして使用してください。

キリトリ線

※この用紙が不足する場合は、コピーをして使用してください。



送信方向

※この用紙は、コピーしてご使用ください。
※FAX番号を間違えないよう注意してください。

FAX番号
神戸親和女子大学生協　通信テキスト係
078-595-0565
〒651-1111　神戸市北区鈴蘭台北町7-13-1
TEL 078-595-0303

『通信教育部』専用 テキスト購入FAX（郵送）申込書

お届け方法（いずれかに○をつける）

・下記住所に郵送　　・神戸親和女子大学内生協店舗での受取り

★組合員の方は組合員番号をご記入ください。ご記入のない場合は組合員割引になりませんので、ご了承ください。

学籍番号		学　科	
郵便番号	〒　　—	組合員番号	
ご住所	ふりがな		
お名前	ふりがな	電話番号（携帯番号）	— —
e-mail		FAX番号	— —

※単価・金額は本体価格にて計算のこと

テキストNo.	書　名	数　量	単　価	金　額

★太枠の中の必須事項をお書き込みください。
★ご注文が2枚以上にわたる場合は送付枚数をご記入の上まとめてお送りください。

お申込金額	
合　計	

ご自宅等に送付希望の方には、後日請求書をお送りいたしますので、指定の口座にお振込みください。入金が確認でき次第、商品を送付いたします。

★ご請求時には合計金額に対して消費税が加算されます。

送付枚数	枚

※生協出資金をお振込みの方で組合員証がお手元に届いていない方は、お振込み日をご記入ください。

月　　日　振込済み

神戸親和女子大学
KOBE SHINWA WOMEN'S UNIVERSITY

通信教育部事務室
〒651-1194 神戸市北区鈴蘭台北町7-13-1
TEL 078-591-8796 FAX 078-591-8797
URL https://www.kobe-shinwa.ac.jp/correspondence/